群書類從

第八輯

東京

續群書類從完成會

群書類從第八輯目次

裝束部

文筆部一

群書類從第八輯目次終

群書類從卷第百十二

撿挍保己一集

裝束部一

滿佐須計裝束抄

三巻

狩衣色々事 絹布　　奴袴色々事

女房装束事

もやひさしのてうどたつる事。

まづしんでんのひさしにみすをかけまはす。はれのかたをうはがへにす。

次にもやのみすをかく。もやはしんでんによりて四けんもしは五けんにてもあるなり。七けん四めんのしんでんならば。もや五けんにみすをかけて。うちにかべしろを引まはすべし。もやのみすをあげんことは。れいのき丁をもやにたてゝ。そのてのうへにつかせてあぐることもあり。それ無下にさがりたらば。そのてのうへにこぶしをにぎりあてゝ。ふたこぶしばかりすかしてあぐべし。みすのこのつきやうは常のごとし。かべしろはそのみすのたかさにつきて四方をあげまはすべし。かべしろのおもてはみすのかたにあてゝかくべし。こはしのいたをいれて。まづ南より一方づつあげて。よつのすみをばとぢあはせてみすのやうにまきあげて。うちとのひもをもてあげたるしたに一むすびしてのちとりあはせて。すそよりかみざまに七八寸ばかりにおりかさねて。その一むすびのしたにすそをしたうらにしてさしはさむべし。ひもごとにこの定なり。かべしろのおもては。れいのき丁のやうにて。うらはしろくやうして。ひもはおもてはすはうなから。こきうちなからをあはせてあり。うらのひもはみなしろきなり。ひろさ三寸ばかりにかさねて。おもてのひもかべしろにおなじ。

もやひさしにひろむしろをしきみてて。ひ

さしのなげしのうへにやまとむしろをはしらにきりまはして。なげしにむしろのみみをはしらにひとしくあてゝ。釘してうちつく。はしらのもとごとにはしらよせのとにちんしををく。ひらなるまくらのやうなるものなり。かみにてまくらのやうにつゝみたり。ひさしにわたりてかうらいのたゝみを間ごとに二帖づつしく。なかにおしあはせておくはしのきはをすかして。おなじとほりにしくべし。なかをあけてしくこともあり。たゞしはしかくしのまには。うげん二帖をおくのはしらにそへてにしひんがしにしきてうへにりうびんを二枚しきて。その上にしとねをしく。それもとづべし。りうびんはいろ〳〵にまだらなるむしろにあをぢのにしきのへりのひろさ三寸ばかりなるを四方にさしまはして。こきうちうらをつけたり。ひろさながさたゝみにおなじ。しとねながさひろさよほう三尺ばかりにて赤地のにしきのへりのひろさ四五寸ばかりなるを四方にさしまはして。なかにからあやもしはかたおりものなどをへりのうちざまにつけて。そのなかにたてざまにぬひめあり。わたを中にいれたり。うちうらなり。そのおもてのぬひめをりうびんのなかすみにあてゝしくべし。

そのたゝみのにしのかしらに二階をたつ。おもてににしきをおしたり。うらにまはしてくみをしたり。上のこしのおくに火とり白がねのこはしかゐはちあり。はしにゆするつきををくだいあり。にしきのおもてをしたり。ゆするつきふたあり。みなかねなり。したのこしのおくにだこのはこのふたを置てだこをすへたり。ふたのなかににし

きのおりたてあり。だこはしろがねにて。□□のはんのなかちゐさくくぼみたるやうにつくりたるものなり。あうのけてをくべし。ならべてはしのかたにうちみだりのはこをゝく。ふたおほひながらをくべし。にしきのおりたてあり。ものいらず。あけてふたを身にかさねてをく人もあるべし。

その二かゐのみなみにむしろのうへにからくしげたつ。四かくなるもののふたのうへにちゐさきかゞみのはこのやうなる物あり。あし四ある臺にすゑたり。それにならべてみなみにかゞみのはこ。やつはながたなるがおほきなるをゝく。かゞみ(鏡)。まもり(護)。ひれ(領布)。あせたなごひ(汗手布)。いれたり。だいあり。そのていからくしげにおなじ。かゞみをとりいだしてかくれば。はこはふたしてもとの所にをくべし。

そのみなみに鏡臺をはりてたつ。そのていとうだいのつちゐなくてからかさのかみのやうなり。かみにかゞみかくるところあり。しもははりてくさびをさすなり。たてゝのちまづひれをかく。そのていあをき物にぬひものしたり。かぶりのゑんびのやうなるがふたつあるをなかをつがひたるほそき所のにしきなる所をかく。よこさまなるきよりまへにひきだすべし。そのうへにあせたなごひをかく。そのていからあやの三尺ばかりにてあるなるが。なかにぬひめあり。そのぬひめをながさまになかおりにして。なからのほどをとりほそめて。ひれのうへにまへざまに又ひきかくべし。そのうへにまもりをかく。そのていつねの人のまもりのひとつあるが。にしきをたゝみてををつけたり。それをうへにうちかけてそのうへにかゞみをかく。このまもりのこゝろは。かゞ

みをのけはらせんれうなり。かゞみもとひらぐみの緒をつけたり。このひれ。たなごひをかけてまへにさがりたる所をひだりを右にちがへて。そのうへにまもりをかくることあるべし。このきやうだいのかゞみをこの定にかけて。からくしげかゞみのはこをみなみへをしやりて。二かひのきはにたつるぎあるべし。うちかうしなどのさはらんこゝろばせなり。もし又ところせばくて。かがみをかけてたてずは。かゞみをばかゞみのはこにいれて。物具どもをいれて。きやうだいをはづして。二かひのしたにおくべし。その二かひのうしろにやまと絵の四尺の屏風をもやのはしらのきはよりはしざまにきやうだいなどのうしろまでたつべし。ひさしのませばくてひだふかくば。たゝみておくのはしらのきはに二三枚もたゝめ。は

しにみちあるやうにたつべし。から繪のもたつることあれども。つねはやまと繪なり。この屏風たつる所についたてさうじをたつる事あり。おもてきぬにしきのへりををしたり。たかまつのせんさうをかく。東三條にありしは。さが野にかりせし少將をぞかゝれたりし。これをたつることまれの事なり。りうびんしきたるたゝみのひんがしみなみずみに三尺のくろぬりのてのき丁のおもてつねのかうけちなるをうしとらざまにすぢかへてたつべし。そのたゝみの南のいたにおほきなるすゞりのはこををく。かけごなし。すゞりふでつねのごとし。にしのかたによせておくべし。そのひんがしにまき絵のけうそくをたゝみのへりにそへて。にしひんがしざまにをくべし。このすゞりのはこはをかむをりはあけてかならずみるべ

し。もしすゞりもぞさかさまになるのゆへなり。もし女御まいりむことりの所あらはしなどあらば。このけうそくをたゝみのうへにとりあげて。三尺のき丁にそへてすぢかへてをきて。そのけうそくのうへに二かゐのうへなる火とりをとりて。たき物をいれてをくべし。すゞりのはこはけうそくのあとへひんがしへをしやりてをくべし。これむこの君のみちのれうなり。

おなじきまのもやに御帳あり。きさきの宮などのにははまゆかあり。たかさ二尺ばかり。よつにしてさしあはせてをく。黑ぬりかなものをうちたり。そのうへにさしみてたるうげん二帖を北南にしく。みなみをまくらとするなり。このたゝみをつちしきといふ。そのうへに四のすみ〴〵につちゐをすえて。はしらをたてまはしてかもゐををきてのち。ぬりごのあかりさうじをまごとにおほふ。たくみれうをかならずめすべし。御丁あたらしくばよき日をもちてたつべし。ふるきはくるしからず。はしらはうしとらのすみよりたつるなり。そののちかたびらをかくべし。かたびらのていかべしろにおなじ。八帖がうち四帖は五の。四帖は四のあるなり。五のあるをすみにかくる人あれどもそれはわろし。四のあるをすみ〴〵にかけて。五のあるを四方のくちにかくべし。つぎにもかうをひく。もかうはかたびらのやうにて。おもてばかりあるをながさまにうらあはせになかおりにして。わなをしもにて。うしとらのすみよりはじめてかみにひきまはすべし。ひだをすみのはしらのもとごとにむかひざまにとるぎあり。又うへにおほひたる五ののかたびらのはしにあてゝ。

むかひざまにかたひだにとるぎあり。この定にとるにはすみのひだはあるまじ。又すみにとらばこのひだあるまじ。いづれにてもありなん。さてのちつねのき丁を三本とりよせて。この御帳のみなみひんがしにしのくちにはまゆかのうへにたてゝ。そのき丁のいたゞきにたかさをあてゝ。三方のくちの五ののかたびらをあぐべし。そのあぐるやうは。かべしろあぐるにおなじ。うちとのひもしてむすぶやうかべしろにおなじ。よつのすみ〴〵のかたびらはたれたり。又うしろのなかの五ののもすみのやうにたれたるなり。この三方のき丁をもひきおろすべし。この木丁をよせき丁とはいふなり。きさきならぬにははまゆかなし。そのつちしきのうへに。つちゐのうちのりに。なかにうげん一帖なかすみにしく。みなみまくら。そのうへにからあやのおもて。にしきのへりさしまはしてわたいれたるが。うちうらつけたるをしきてとぢつけたり。これをうはむしろといふなり。そのまくらの左右に八もじにしたんぢのてのこき丁をたつ。まくらき丁といふなり。かたびらふたへおりものなり。それにそへてぢんのまくらふたつをくべし。

さてのち御ふすまをく。たてまつるべきやうにうらをしたにおきて。くびのかたをうへざまにあとのかたへひきかへしてをくべし。御ふすまはくれなゐのうちたるにてくびなし。ながさ八尺。又八のか五のの物なり。くびのかたにはくれなゐのねりいとをふとらかによりて二筋ならべてよこさまに三はりさしをぬふなり。それをくびとしるべし。おもてこあをひのあや。うらひと

へもんなり。
御帳のまくらのなかのはしらの左右にかみより一尺よをさげて ひぢがねをうちて。みつのをふたつ。ひとつゞつを左右にかけたり。ぢんいろの木にてつくりて しろがねのこをくみまぜたり。ほそきさきのかたにかなものをうちて まろをつけてふさあり。あげまきにむすびたるかしらをひぢがねにかくべし。御あとのなかのはしらの左右に又ひぢがねをうちて おほきなるかゞみを左右にかけたり。其ていきやうだいのかがみなり。物のぐかくるやう又おなじことなり。もし御まくらに御たちをかば。つかにしにてはをみなみにむけて。おびとりのまへうしろを引のべてをくべし。おとこは右をしたにてぬればつかはにしになるなり。
その御帳のにしのまに。うげん二帖を北南に。ひんがしのはしらのうちのりにしきて。そのうへにとう京のしとね一枚をしくべし。しとねのていしきやう。ひさしの定にぬひめをたゝみ。二枚がなかにあてゝしくべし。へりのていはにしきにおなじ。これはあかきもんある兩めんのへりなり。おもてかたおり物。うらうちうらなり。
そのたゝみ二枚がきたのかしらに。にしひんがしざまにてうのはしらにあてゝ。五尺の屛風二帖をなかをひきかさねて一けんがうちにたつ。そのまへたゝみのかしらにちゐさきづしひところひをたてたり。そのひんがしのづしのうゑのこしにかうごのはこ二がう。したのこしにくすりのはこ二がうをおく。このはこ四がうはみなおなじさまにいりずみなるはこなり。たゞしいれものをみるべし。かうごのはこにはしろが

ねにてみのつぼのおほきなるつぼを二がうによつづついれてたき物をいるゝれうなり。このたき物。ばい花。かよう。じじう。くろぼうをいるべきなり。たゞしこのつぼのなかにきらゝのつぼひとつあるべし。このつぼのうへにしろきはりさしのやうにすゞしの物にてぬひてうはさししまはしたるあり。いれかたびらとなづく。くすりのはこ二がうおりたておなじ事なり。一がうにこの定のつぼみつ。かねのさらのおほきなるひとつ。くすりをするてつかひひとつあり。一がうにはかり。ふるひ。はし。かゐあり。つねのぎんきのやうにつるのむかひたるはしのだいにはしかゐをするてをきたり。ふるひはかねのふちにすゞしものをはる。このはしかゐ入たるはこを帳のかたにつるをにしひんがしにしてをくべし。これにもいれかたびら同じ事なり。にしのづしのかみのこしにさうしのはこ二がうおりたてあり。さうしあり。二がうながらきりずみのはこなり。しものこしにくしのはこ二がう皆まろずみなり。かけごにすゞりをしすゑたり。したにくしものゝぐをいれたり。おりたていれかたびらおなじ。

づしをたつべきやう。帳のきはをすかして。もやのはしらのほどをすかして。この二帖しきたるたゝみのしきあはせのなかに。づしふたつがなかをあてゝたてゝ。そのうへのてばこもづしのやうにおしあはせて。ふたつがなかをづしのちやうきにあてゝをくべし。このづしと丁とのあはひをひめぎみのみちとすべければ。たゝみをも丁のきはへをしよせて。しかても〔マヽ〕やの柱のきはにしきて。帳のきはをすかすべし。そのたゝみ

のうへにひさしにたてたるやうなる三尺のき丁をたつ。帳ともやのはしらのあはひふたぐやうにたゝみのたつみのすみにうらをおくにむかへてたつべし。たゞし疊のひつじさるのすみにたつる人あり。このづしのうしろの屛風一帖をたつる事もあり。また五帖をたてまはして。にしのまをもいれてにしのさうじにそへて。もやぎはのみすのもとまでたてまはしたることもあるべし。つねならず帳のひんがしのまにひんがしにそへて。いか二つをきたみなみにたてて。そのうしろに五尺の屛風を三帖たつべし。まへにたゝみ二枚をしくべし。つねはいかひとつをたてゝ。屛風も一帖たてゝ。たゝみも一枚しくつねの事なり。御さうぞくをかくることあらば。まづ御はかまをいかのしものこしにみなみにむけて右をうへにた

たみて。こしひきのべてかくべし。かみのこしに御ぞにうはぎうちぎぬこうちぎ一つをかさねて。れいのきぬたゝむやうにせおりにして右をうへにてうちかくべし。かくるほど御そで三寸ばかりをみせてかけよ。いたく見ゑぬればわろし。もし御からぎぬあらばそれをもたゝみて御ぞのうへにかくべし。御もあらばふたへにをしおりて御はかまにならべてかくべし。もしこの御いかほかにたつことあらば。いかさまにもきたに御まくらをもむけ。又たゝみやうをもむけてかくる事あるべからず。いかさまにもびんぎによるべし。

又このしつらひ。御帳よりにしのぎ一定ならず。御所にしはれならばにしにかくすべし。もしひんがしはれならばもやひさしのてうど御帳のひんがしにあるべし。いかさ

まにもはれ(晴)につきてたつべし。たゞしきさきだち(后立)の日はにしはれなればにしのまに大さうじ(床子)をたてらるれば。もやのてうどは御帳のひんがしにわたしてたつるなり。たつるやうおなじことなり。

てばこ(手筥)のをきやう(置)。にしのづしのはにし(西)にありつるやうににしにあり。ひんがしのは東にあるべしといふ人あるべし。たゞひんがしにてもにしにありつるやうに帳につけてをくよき事なり。きさきだちの日は。ひさしのてうど(調度)。もの(物)ゝぐ(具)。たゝみ(帖)。づし。屏風。すずり(硯)。けうそく(脇息)。き丁にいたるまでとりのくべし。屏風ばかりをたてらるゝことあり。大宮のたび(度)の例にて。けんすんもん(建春門)の院のたびは。花山院の大臣殿(忠雅)のさたにて屏風ばかりをひんがしにわたしてたつ。御丁のまへにしゝ(獅子)。こまいぬ(狛犬)。ごいし(御倚子)をたつるれうなり。

このひんがしにわたしてたつる屏風は表をにし(西)にむくべし。

大さうじ(床子)は御帳のにしのまのもやのはしらのきは(際)にたつるなり。そのてい。うへはすのこ(簀子)にてながさ三尺ばかりあしのたかさ二尺ばかりなるをふたつさしあはせてするゑて。うへにかうらいをたゞはんでう(半帖)のやうにうちうら(打裏)をつけてしきて。そのうへにすが(菅)ゑんざ(円座)をしきたり。そのたつみ(東南)のすみに。うしとらにすぢかへて三尺のき丁をたつ。わらうだ(円座)のまへにさうかゐ(草鞋)をゝく。もやのみすのあげたるしたにつねのき丁をまごと(毎間)にたてわたす。ひさしのき丁つねのごとし。たゞしきさきだち(后立)の日ははしかくし(階隠)のにしのわきのまにき丁二本をならべてたつべし。つねのぎ一本なり。この日はそのま(其間)よりものをまいらするやくあるあひだ。一帖はも

たぐればうちの見ゆべきゆへに。二本をたてゝふたつがなかより物をとりいるゝれうなり。おほいかにまはりてひろむしろをきりしく。御丁のうしとらのすみにあたりてもやのおくにくみれのふちにくりがたをうちてとうろをかくべし。女御まいり。むことり。わたましなどにこのとうろのあぶらにしそくをともしつけてところあらはし。もしはよき日までけたで。よき日にえ殿おほゐなどにたぶなり。わたましおなじことなり。もしひんがしはれにて。ひんがしにもやのてうどをたてらるとも。とうろはたゞもとのやうに御丁のうしとらにあるべし。
ひさしのゝきのとうろのつなひるはかへすべし。すそのわなをかみへひきかへしてむすびめよりかみにはさむべきなり。
このもやひさしの物のぐにぐして。こしのはこといふものあり。そのていうるはしきかぶりのはこのおほきさにて四かくなり。まきゑあり。かぶりのはこにとりたがふべしといへども。かぶりのはこにはかぶりをすふべきだいあり。このはこはむことりにをくべし。此はこにふくさのものをぬひあはせたるをいれてをくべきなり。もしひめ君の御れうか。をく所は丁のうしろもしはちかきあたりのぬりごめのうちなり。このことつねに人しらず。
おほかたみすをかくることは。もやはおほひみすつねの事なり。はれならむかたうはがへにかくべし。ひさしもおほひみすならんところははれうはがへにしてかくべし。おほひみすといふははしらのうへにひとへりをひきちがへてすんぽうをとるなり。ながさはなげしのしたよりしものなげしのは

なくぎのかくるゝ程にとるなり。あぐることは。もやは女房のことあらんにはさげてあぐべし。き丁のてのうへまたすこしすかして。そのうへにふたこぶしをすかしてあぐといふ。行幸たいきやうなどのみさうぞくにはたかくあぐべし。もやもひさしもあぐるには。こはしといひていたをうすくけづりていれてまきたるがよきなり。おほかたみさうぞくのよきといふは。みすよくあげて。もかうよくひきしき。むしろよくのして。ちりひろひ。もやにたつる十二帖の屏風よくのしてたてなどするをよしとはいふなり。屏風は春夏秋冬をまづひろげてみをきてはるはいかさまにもひんがしにたつるなり。もやひさしのてうどは御所のはれにつけども屏風をたつることは春をひむがしにたつべきなり。屏風をのすといふはいたくひだをすへてたつるなり。さてつぎめごとにいとにてとぢあはせたるなり。もやのなんどのうへにも。又うるはしきもやぎはにも。みすをかけておろして。そのうへに屏風をたつるには。はしごとにくりかたをうちて。やりなはなどのやうなるつなをみすのうへにひきわたして。それに屏風をとぢつくる。うるはしき事なれども。このごろはところせしとてたゞみすばかりにとぢつけたるなり。みすはなんどにかくるもみなみをおもてにかくるなり。

たいきやうのこと。

もやひさしのたいきやう。りんじきやく。まつりのつかひのいでたちのところ。大將あるじ。これらはことおほけれども。みさうぞくの行事のべちにぞむずることなし。をのをのさしづを見るべし。ざのしきやうはか

うらいのたゝみのやう〳〵くはしくかきつけたり。たゝみのうへにりうびんをしきそんざのざにはしとねをしく。大納言已下はゐんざなり。ゐんざといふはしとねのやうなるもののまろにてへりばかりのかはりたるなり。大納言はむらさきのいろのかうらいのもんしたるへり。中納言はうるはしきかうらいのへり。宰相のはきなるかうらいのやうしたるをさして。おもてはしとねのやうにあやをして。うらにはこきうちうらをつけたり。これをゐんざといふなり。ひさしのみすをあげ。ひろむしろをしき。さしむしろをしきてちんしをおき。ゐんにむしろをしく事つねのごとし。もやぎはのみすをおろして其うへに屛風をたつることつねのごとし。ひんがしみなみのはしよりたつべし。これはにしはれのぎなり。ひんがしはれならばひんがしのひさしを弁少納言のざにはなるべきなり。屛風そのおりはこの少納言のざのしもより春はたつべきなり。しんでんのみなみにしのひさしをしつらふに。みなみのひさしのむしろはしきとほしてはしくべからず。にしのひさしのひろむしろをみなみのなげしのきはまでとほしてしくべし。みなみのむしろはにしのひさしともやとのはしらのきはにしかしめて。にしのひさしのむしろのいきあひをばにしのをしたがへにしく。にしのざの弁少納言のざにて。きたみなみに両めんのたゝみ三帖をしきて。そのたゝみのみなみのはしはにしのつまきりのつまごのきはのほうだてよりはいま二尺ばかりすぐして。つまどのなからよりすこしひきいりてしきて。りうびんのおもてのゐんざを一枚しきて。

大弁のざとするなり。このゆへににしのむしろをみなみへとほしてしくなり。みすをあぐることはもかうのしもにひとへりをみせてあぐ。されどもこの大弁のざのうしろのつまどのみすはかまへてたかくあげたるがよきなり。もかうのうちにもまきいるべし。

つくゑをたてゝきやうをばすふるなり。其つくゑのしたにすごもといひてみすのやうにあみて。しろきすゞしのきぬのうらつけて。まはりにしろきへりさしたるが。つくゑのひろさなるをつくえごとのしたにしくなり。外記史のざにはみすをかけず。ゑんにひろむしろもしかず。なげしのうへにさしむしろちんしはあり。あをべりのたゝみをしく。みどりべりといふ。つくえあり。すごもなし。もや三方にみすをかけておろしたるうへにせんしやうとてまんのやうにて。きぬにたかきまつをほんたいにてしきのきどもをかきたり。のゝ一□あるが。ひろきへりのむらさきいろなるさしまはしたるをみすのうへにひくなり。これらしきのゑをかきたれば春をひんがしにはじめてひくべし。もやのみすのもかうのしものきはにおしあてゝひくべし。もとひもをまんのやうにつけてつなをぐしたれどもつなしてはひくべからず。つなのをはみすとせんしやうとのなかにをしかへして。へりのなかにこはしのいたをいれて。もかうのしものきはにをしあてゝ。はしらにとぢつけたるがよきなり。たけみじかくてしものすかむなかへり。みすふたつかいきあるをばはなつきに人のするなり。そのぎわろし。ひとへりをひきかさねてひくべし。たゞしまはひろくて

せんしやうはせばくはちがへることかなはじ。はなつきにもすべし。そんざ(尊者)のやすみ所とて。外記史のざ(座)のそばなどびんぎの所一けんにみすかけまはして。かうらいのたゝみ一帖をしきて。大臣のそんざのおりはおほ(大)つぼ(壺)をおき。大納言のにはいたにあなをゑるなり。

もや(母屋)のたいきやう(大饗)のみそうぞくおなじことなり。たゞしひさしもや(母屋)のみすをあげまはして。おくのなんどのうへにみすをかけまはして。そのうへに屛風をたつることつねのごとし。さてもやひさしにひろむしろをしきみてゝ。もや四けんもしは五けんにざ(座)をしきびやうぶをたつ。そのてい(躰)ひさし(庇)おなじことなり。さしづ(指図)を見るべきなり。弁少納言なをにしのひさしなり。もやぎはのみすのこ(鈎)のを(緒)とほ(通)すやう(様)こそかはれ。つねはかみ(上)のこはしにつけてうち(内)にひきさげてこそはあれども。これはこはしにつけてやがてこはしのきは(際)よりと(外)へもかう(帽額)のしたにひきいだして。もかうのしたよりひきさげて。もかうのしものきはよりまたみすのなかをうちへひきとほしてあぐることのあるなり。こ(鈎)ながらとほすなり。是をみすをぬふとはいふなり。

びんぎ(便宜)の所をろく(祿)のところとして。はしらにくり(栗)がた(形)をうちて。あしつを(葦津緒)のつなをひきまはして。やう(様)〳〵のろくをかくるなり。ろくにはとり(鳥)のこ(子)がさね(重)のほそなが(細長)。おほうちぎ(大褂)。あかぶすま(赤衾)などいふものあり。とりのこがさねといふはおもてはしろくてなか(中)へ(倍)はうすこうばいにてうらは黄なるきぬなり。ほそながといふはれいのきぬのおほ(大)くび(領)なき也。おほうちぎ一兩(領)といふはひと

へなくてたゞふたつかさねたるをいふなり。あかぶすまといふはたうさのこきすはういろなるきぬをいふなり。ろくのしなじなしだいにみえたり。たゞしそむざのろくはこれにかけぐせず。もやにたてたる屛風のうちにびんぎのかたにあるじの座もやのみすのうちにまうけて。おし□す人のそんざにおりあふにはいゐにとりてさもあるものにくつをとらす。又のぼりてのちわがざにしかむれうにすがゐんざをまうけてすのこにしくことあり。そのわらうだもさもあるものにとらす。くつとりわらうだとりとてあるなり。くつはゐかひの上ろうとるべし。ないらんのいゐにもやのたいきやうをすきのたい饗となづけてせらるゝ事あり。みさうぞくのていつねのもやのにおなじ事なり。そむざ以下の上達部にちいさき大ばんをすえてがうしのやう〳〵なるにてきやうをすふるなり。だいばんのていそんざもおなじ。たゞしよこざの大納言已下はむかひざなり。大ばんはふたつをなかをすかさずをしあはせてきやうをすふるなり。そのゑ盤のをしあはせたるなかにわたりてふちのうへにくだものをすふるをなかずみ物といふなり。その大ばんのばちあしのしたにわたりてくにのきぬをゆたんにしたるをつけて大ばんごとのあしのしたにしきまはしたり。うしとらのすみよりはじめてしくなり。このゆたんのすみをばすびつのすみのやうにすぢかへてさばぐちにをるなり。それはかうけのいゐにする事なり。人のする事なれどもおりやうならひたるにあしからず。か□のう□かきる□つくしければ。かんだちめ殿上びと□とることとな

り。□そんざのうしかひむねときやうようあり。うしぶねとてぬのにてむまぶねのやうにしてをくなり。たちつくりのあくといふことあり。えんちかく三げんのあくをうちて。さうじのしりかくるほどなるをたてたり。それはしりをかけてこいをきりて御さかなにまいらするなり。そのあくはざのかみのかたにうちてまんをあげてはう丁をそんざ御覽ずるなり。はう丁しは五ゐ六ゐをきらはず。いゑのものをめさる。

りんじきやくのこと。

りんじきやくのみさうぞくべちのことなし。たいのみなみおもてにかうらいを二行にしきてむしろをしかず。きやうはたかつきにてすふるなり。たかつきのすへやう。一人のまへに三本なり。それをむかふざまにすふれば六本がさしあひてすへらるゝなり。これはかりぞあること也。さしづしだいをみるべし。

まつりのつかひのいでたち。

まつりのつかひのいでたち。たいのみなみおもてひろむしろをしきさしむしろをしかず。もやにみすをかけて屏風をたつることつねのごとし。ひさしにみすをかけず。舞人のざにはたゝみをしかず。ひろむしろのうへにいづもむしろをしく。そのいづもむしろのうへにすがゑんざをしきてまひ人のざとするなり。かんだちめのざはかうらいのたゞみのうへにりうびんしきて。そのうへにとう京のしとねをしく。からにしきの一枚はぐしたり。三人のれうばかりをまうくるなり。かんだちめ三こんのれうなり。陪從のざはみぎのとり物にかたをみなみにたてゝきたにたつる事あり。つねはきたなり。

大將あるじの事。

大將あるじのみさうぞくのやうはしんでんにてひさしのたいきやうのおなじことなり。それにふのもの丶ぜうさくはんのびんぎのらうのうへに兩めんべりのた丶みをしく。しやうさう以下のざにはべちにふたへばにしきて下らうをうしろざにすふるなり。大ばんのくろぬりなるをたつ。みどりのへりのた丶みをしく。にしはれのいゐならばしんでんのみなみにしのすみにあたりて。いぬゐたつみざまにすこしすづかへてあくをうちてしくべきなり。こむのあくなり。このざのくはんぱいにはゑふをへたるくら人五ゐよかるべしとて。いづもの大將殿のにはなりゆきとまさすけとをめされき。かやうのことはなちてはぞむずべきことなし。さしづしだいをみるべし。所やくをせんに

はてながをせば尺をさしてまづよれ。こと人をしきにものをすへてもちてきたらばをしきをもたせながら物ばかりをせう／＼とりすゑよ。かならずみなすふる事にあらず。われ又やくをしてをしきをもちてよらんに。てながをしきながらとらばかならずをしめ。てながとははいぜんをいふなり。火をともす事は三人のやくなり。とうだいにあぶらつきすへてもつことさらにすべからず。まづうちしき次にとうだいあぶらとよるべし。さしあぶらによらんには。ともしてもちてもととうだいにあるにすへかへて。もとのをとりてかへれ。いれくはへなどすることなかれ。うるはしくはかねのあぶらつきなり。かねのはさみとてさいしのやうなるものをかきあげきにはぐしたるなり。たいきやうのをんざとはことはて丶お

ほゆかにおりゐて。かうぶつとてつちたかつきををしきにしたるさかなくだものをまいらせ。又いもがゆなどまいらせて。さいばらあなたうとなどうたひ。ことびはなどあれば。もとゑんにしきたる一世の源氏のざのたゝみをとりのくるは二人のやくなり。一人とる事なかれ。とりのけてのち人數にまかせてすがゑんざはしく。ろくの所に。こと。びは。ふえのはこに［　］をくなり。［　］［　］うへのやくをしによるみちをみなみのは［　］げんをつかふなり。弁少納言のざのやくには少納言のざのしもよりよるべし。これらはつねのことぞんせぬはわろし。

五せち所のこと。

五せち所はびんぎの所によるべし。うちまかせては四けんもやひさしあるべきなり。そのうちにびんぎのもやひとつぼを帳のまとしつらひて四方にみすをかけてそのうちにかべしろをひきまはしてあぐべし。もやぎはのみすもあげて二けん三げんありともき丁をたてわたせ。この丁の三方には五尺にても四尺にてもからゑやまとゑなりともたてまはして。そのうちにうげん三帖をしく。はしまくらにしくべし。そのまへのひさしにうげん二帖をしきてそのうへにりうびんをしく。そのうへにしとねをしく。三尺のき丁をたつ。ひだりみぎびんぎによるべし。四尺の屛風をたてゝものゝぐをく事つねのごとし。ひさしのてうどのていなり。すゞりのはこけうそくきやうだいなどはあるべからず。所もせばし。たとひありともにかゐのしたなどにをくべし。二かゐのうへの火とりはゆするつきにをきかへてはしにをきたるもあしからず。よごとにのぼるものなれ

ばびんぎよきれうなり。ひさしにはまごとにき丁をたつべし。かうらいむらさき所にしたがひてしくべし。さしむしろちんしををく。ゑんにむしろをしく。さしむしろある所にゑんにむしろしかぬことはだいきやうの外記史のざにはしかず。まいりのつぎのあしたにうちでをはこぶ。又かうらいを一帖帳のまのゑんにしきてそのうへにとう京のしとね一枚をしきたり。そのひだりにいだし火をけををく。ふりうこゝろにあり。たゞしこの火おけ右なりとも御所につきてをくべしといふ人あり。その火おけのまへに。すへなうさうかいをやないばこのふたにをきて。ゑりぐしまきぐしかんざしをぐして。五せち所ごとにをきまつるなり。ひめ君のれうなり。ひめ君ののぼるともには。火とりにしきのへりのしとね三尺のき丁とを

ぐしてのぼるを殿上人をのく〵これをもつ。よごとの事なり。まいりする五せちのわらはしもづかひ女房いゑよりさうぞきてまいるなり。ひめ君は五せち所にてかみあげのさうぞかすこと也。さうぞくはよごとにかはる。しきもくあり。女房はくるまよりおりて五せち所へいりはてつればやがてちがひてかん所のかたよりいづるなり。ひめ君のぼりておりぬれば。わらはしもづかひもさうぞくをぬぎをきてきがへをきていでぬ。おほかたは五せちのあいだはひめ君い下さぶらふべきことなり。わらはしもづかひのさいしひめ君のかづらかむざしさしぐしとりぐして。うちみだりのはこのふたにいれて。一かゐにおくべし。わらはしもづかひのさうぞく。こゝろえたるごぜしてよくたゝみて。おびをもちてゆひてをくべし。わら

はのうへのはかまかさねながらたゝむべし。ぬぎいづることなかれ。ものいみ(物居)は一ど(度)にきりて(切)。かみをたゝみてなかにいれて。へしてよごとに(夜毎)四すぢづつとりていでてつくべし。物いみはそくゐ(續飯)をつけてきりてつくるをいみじきことにすれども。なかによせてふたところばかりまいりごとにそくゐをつけて。けうら(清)にきりてつけたるあしからず。まいりをせぬ五せち所にわらはしもづかひたゞのさうぞくをきてまいりて。五せち所にてきるなり。それにはしもづかひのも(裳)つぼとることあるべからず。うちいではまいりのつぎのつとめて。ながびつ(長櫃)にいれてあかぎぬ(赤衣)の仕丁かき(昇)てまいりたるを三げんならばいだし火をけの左右のまにすべし。やのびんぎ(屋便宜)によるべきなり。まのかずおほかるには三げんをいだしてなをしもわら

はのさうぞくをもいだすなり。たゞしうちいで四ぐ(具)にはすぐべからず。四ぐありていだすべきところなをあらばわらはのさうぞくをいだすべし。うちでの(打出)しやう(仕様)つねのごとし。五せち所のうちでにはうはぎなし。うちぎぬのうへにからぎぬにてあるなり。はかま又いだすべからず。近代人まねといだす人のあるみぐるし。わらはのさうぞくをいだす事は。くるまよりいだすやうにまづはかまを三尺ばかりひきいだして。そのうへにかざみ(汗衫)のしりまへとをひきいだして。あこめのそでにかざみかさねておくなり。そでなどのいだすほど所によりなげしによるべし。かざみのしりまへはながらかに二三尺もひきいだすべし。そでは右をいださば猶はたそで(端袖)ではかへすべし。あこめのつますこしなどいだすべきなり。一けんに二ぐ

をいだす。むかひざまなり。ひさしのみすにこをつけてひめ君ののぼる時びんぎの所をあぐべし。とうろ(燈楼)は帳の左右のまののき(軒)につる(釣)べし。そば(傍)にもつるべきところあらばいくつもつるべきなり。大だいり(内裏)五せちどころ。ざうねいでん(常寧殿)のみなみ(南)のにし(西)。きた(北)のにし。両所のわらはこそ帳だい(臺)のこゝろみ(試)のよなか(中)のつまどよりのぼることにてあれ。それもなをしもゑんよりのぼせて。みなみのめだう(馬道)のつまどよりのぼる。つねのぎなり。

御覧せぬ所のわらは(童)しもづかひは。わらは御覧の日はまいらず。かくるゝ(隠)なり。御覧ずるところもそのよはひめ君のぼらず。やすみの日といふなり。御らんずるところ〴〵のわらはしもづかひばかりまいるなり。さうぞくかざみ(汗衫)のおもて(表)うへのはかま(袴)のおもており(織)物なり。かさねのはかまうちぎぬあ(袙)こめのおもてあやなり。あこめのかずこゝろにあるべし。つねはふたへひとへなり。かざみをもあまたをめらかし。かさねのはかまををめらかし。かさねうちぎぬかざみのうらはかまのすそにでい(泥)してゑ(繪)をかきだむ(淡)ことつねのことなり。かざみのおもてのふたへおり物こそめどを(目遠)きことなれども。中納言時たゞ(忠)の五せちいだしたりし御覧にけんすんもん(建春門)院よりありしこそ。もえぎのかざみにむらさきの糸もてりんだう(龍膽)おりたりしか。□ひらぎぬ(平絹)のかざみうへのはかまうちぎぬまたつねのことなり。これもいくへもかさねだみゑもかき□るところなり。ずらう(受領)のなどはひらぎぬ(平絹)にてあるべきなり。御覧のしもづかひ(下仕)のも(裳)をつぼ(壺)とる(取)事ひがことなり。まいりのよはやくを

すればつぼとるなり。やくもせでたゞせいりやうでんのつぼにおるといふばかりにて。つぼとることあるべからず。ものこしをもろかぎにはゆひながら。ひだりのをわきのかたへかくして。みぎのかたのかざばかりをさげてゆはるゝ人々あり。それをしるべからず。いろ〳〵のことなり。たゞもろかぎにゆひて。さがりをとりあはせて。ひらをかくるゝやうにうへざまにかへすべし。じじうでんとせいりやうでんのあはゐのながはしはうしとらにすぢかへたるが。わらはのまいらむをりつかれたらん殿上人かざみのしりをくちのかたを御所よりかつはおもてを見かつはわらはのかみをみせんためなり。しさいをしらずひがせらるゝいまやうの人々のくせか。しもづかひにつかむくら人もこゝろありて仁壽殿のはしをもおろすべきなり。つちにゐんにもよくしてすふべし。

うちで火をけしとね。ひめ君おりなばよるはひきいれてあしたごとにいだすべし。御覽の日のわらはのさうぞくを女院宮ばらなどよりたう日五せち所へおくらるゝことあらばつかひに女房のさうぞくをたぶべきなり。もからぎぬこきはりばかまこれを女房のさうぞくといふなり。つゝみにいれずとりかさねてたぶなり。かさねやうならふべし。

五せち所にかむだちめたちいられればくしはやなゐばこにいれてまいらすべし。

一の所の五せち所にかんだちめ殿上人まいりてたちかはらけありてうたうたひなどせらるゝ事あり。いみじきことなり。

まいりのよきたのぢんにてずいじんつかふ

人は。わがにても又さらある人は院殿などにも申うけて。随身にたちあかしせさせらるゝ人あり。

まいりにはひめ君のくるま女房のわらはびらうなり。しもづかひのくるまあじろなり。つぎのところにはひめ君のせんくつぎの五ゐなり。そくたい。女房已下のせんくゑうなり。一の所はくら人五ゐ六位もあり。これも女房以下のゑうそくたい。ひめ君ののぼるすみとりはいづれのもくら人五ゐのするなり。そくたい四人なり。たゞ五せち所へむかふ人はよきほどなるいくわんにてむかふべきなり。ごぜといふ物はさぶらひのつかさある五位ゑうなどをいふなり。いくわんする程のものなり。

ひめ君のさうぞく。

うしの日。あかいろのおり物のからぎぬ。ぢずりのも。すはうのあこめひとかさね。あをきひとへもしはこきひとへ。こきはかま。あかいろのあふぎ。七尺のかつらから物。

とらの日。あをいろのからぎぬ。むらさきすそごのも。でいゑ。すはうのあやのうちぎひとかさね。こきうちぎぬ。こきはかま。あをいろのあふぎ。めぞめのくんたい。ひれおり物。むらさきのいと。これにあたらしくまうくべし。するゐ。ひたひ。かみあげまうく。かんざし。さいし。四すぢあるを本所にまうく。からぐし。したぐし。ゑりぐしこぐし。しかい。これらはくら人がたにまうく。

たつの日。あをずりのからぎぬ。あこめ。こきはかま。めぞめのも。おなじきくんたい。ひれ。あかひも。ひらてかいをしたれ。

心は。これはおり物。あをずりの扇あたらしくまうく。

わらはのさうぞく。まいりのよはいかさまにもつゝじのかざみ。おもてあや。うへのはかま。おもてたゞきぬしろくはりてやうしてこきうちうらをつく。あこめすはうふたつ。あをきひとへ。こきうちぎぬ。こきはりばかまなり。まづはりばかまをうへのはかまにかさね。こしをきむずる人の右にむすばんずる定におもひあてて。うゐのはかまにつらぬきてすそよりひきいだす。やがてこしもうへのはかまの右のかたよりすそへひきいだしたり。かくてかさねのはかまとはいふなり。それをとりてわらはのはかまをぬがせてきす。うへのはかまかさねながらきすれば。まづはりばかまのこしをゆふ。すそよりいでたるをかみへひきあげずして。たかのもとをししたるほどにむすぶやうにむすべば。くりいだしなどせねどもこれをひするなり。さてうへのはかまは右をうはがへしにしてこしをひきまはして。ひだりのうしろにかぎにむすびて。いたくさがりたらばこしにをしかふべし。さてのちはりばかまのすそをひろくひろげて。もゝだちのぬひめをうへになして。うへのはかまをもこの定にしてまたのをふますべし。あこめをとりてうしろにまはりて。うちぎぬひとへとりかさねて。くびをみつにをりするて。ひとへもきぬもくちをみせて。右をしたがへにてきすべし。くびをよくひきちがえて。まへをおさへさせて。したおびをとりて。うしろにまはりてわきのしはをよくをしいれて。わきのぬひめのまへのかたをとりて。うしろのをば身になし

つけて。まへをうへにうしろざまにひきなすやうにゆひこめさせて。おびをあてゝ。うらうへかくすべし。おびをむすばせてのちかざみをとりて。くびをとざまにをしなしてきす。からぎぬきたるやうに よくをしさげて。かたをよくをしさげて。まへをひろげて。ひきちがへて おさへさせて。おびをとりてうしろにまはりて。かざみの しりの わきのもとをうへざまに かへして。おびをゆふべし。ひだりをば おほく三寸ばかりかへすべし。うらうへにみゆべきなり。さてのちまへにまはりて。かざみのまへをうはがへをうへざまに おしあげて。おびのむすびめをかくしておびに はさむなり。したがへ もゝく〔か欤〕して。まへをば左右をもあはせにして わきのしたよりうしろへ ひきのべて ひかすべし。かざみのまへは もとよりをもあはせに

おりたる物也。さながらまへをちがへておびをあてゝすべきに。おびのむすびめもかくさんれう。又たゝみながらしたるは。うしろにひかれて まへのひろごれば。ひろげてあてゝうへざまにおしかくしたるかたゞゝひせちなり。さてのち かざみの右のはたそでをうへざまにおりかへして。あこめうちぎぬひとへのそでぐちをみせて。かゐなたはむほどをよくおして。手をもておさせて。すきあふぎをもたす。そでのうへをもよくおしてそでの はたをはねさすべし。ひだりのそでは身にかゐなをひきそへさせてはたらかさず。かざみのはたそではひきたれたり。
さてのちものいみをつく。
くれなゐのうすやうをひろさ三分ばかりかさねながらきりて。右のみゝのまへのほどのかみをつみあげて。わけめより二寸ばか

りさげて。そのしたよりひきとほして。手をうしろにむけてかたかぎにむすぶ。しもへさがりたるてはすこしながく。かみにうしろざまなるはすこしみじかゝるべし。むすびめのかしらはすこし五分ばかりはしろくて。このてはあかきかたのうへにてあるなり。いま一すぢをとりてひだりにまはりて。左のみゝのうしろに。又てをうしろにして右の定につく。もとはものいみは右をさきとして。うしろにもつけてみつをつけたれども。このいゑのならひにてかくふたつをつくるなり。左のまへによせて。ものいみのかしらのさしいでたるをひねりかへして。あかくみせてつくる人あり。ゆきのかみもりなりがたうのやうなり。されどもいまはしろがしらになりにたり。右の物いみはかみにうしろへむきたるてをまへざまにむけてつくることあり。つねに人しらず。おさなからんものの。ひたいがみすきなどしたらんに。ものいみをつけんをりかくすべし。人しらず。ひすべし。

かざみのながさたちやうあり。うへのはかまのまたのこのなし。あこめうちぎぬひとへわきあくべし。それがきせよきなり。わきあかぬあこめのながきなどにあひてみじかくきせなし。わらはのすがたをよくするを上ずとはいふなり。

かざみのひだりのはたそでのたもとのすぢを五六寸ばかりほころばす人あり。ゆだちとなづけたり。ぞくのひがごとなり。ぬひふたぐべし。かざみにゆだちをあくることは。左のわきのぬひめのまへをたもとまでほころばかして。くみにてひもをつくるなり。このぎつねならず。のりゆみのいてにいりた

るさい相の中將の五せちをたてまつらんにあくべしとぞ申つたひたる。物いみはひろくきりつればかみのおほくとられて。かみのはだみえてわろし。すくなくとればさがりくだりてわろし。物いみのひろさをはからひてかみをばとるなり。たうにちはさしぐしといふものを右の物いみのかしらによこざまにさすなり。このくしこれにはさゝず。ながさ六七寸ばかり。はのたけ五分ばかりあるをみねのかたへよくそらしあげてなかをさしたるとぞ申す。

わらはさうぞくの寸ほう。

かざみ。しり一丈五尺。まへ一丈二尺。ゑり一尺にして。三寸をいだしておびにす。おほくびのすそ六寸いだしてひろきをしもにす。まへよりおほくびはかみひろにすべし。そでのひろさふたのにて二尺一寸。くびのたかさ二寸。くびのながさ三尺。かりぎぬのくびのやうにさすなり。せよりくびをいだす。はたそでおもてばかりをなをしそでにす。うちたれ二尺三寸。

うへのはかま。　たけ四尺三寸。このなし。あしつぎ一尺二寸。すそのひろさ一尺三寸。ひろきがよきなり。こし一丈二尺。

あこめ。　たけ四尺一寸。うちたれ一尺三寸。身のひろさ一尺三寸。わき七寸にあくべし。

かさねのはかま。　ながさ九尺五寸。せたまたにぬふ。こし一丈三尺。みのをひとのを□一尺一寸におりて。おほかた一尺七寸にぬふべし。

しもづかひのさうぞくの寸法。

きぬのながさ五尺五寸。そでぐち二尺一寸。はかまつねのごとし。からぎぬつねのごと

し。うちぎぬは。きぬのたけより六七寸ばかりみじかくすべし。ものながさつねの定なり。はしたのみじかきのなし。もんむらずり。
きぬのかずつねは三。御覽四。
このわらはのさうぞくのやう。むことり。女御まいり。五せち。女御の所あらはしなどのさうぞく。かざみのおもてのおりもの。かさねいつへ三へ。うらだみゑをかくことつねのことなり。うへのはかまのおもて。かさねのはかま。あやくれなゐうち。三へ五重することつねのことなり。あこめ五三二又つねのことなり。ひらぎぬのうちさうぞく。この定にかずあるつねのことなり。たゞし女御まいりむことりなどにはひらぎぬのうちさうぞくあるべからず。五せちにとりて。おほかたはくにゝいださん わらはのさうぞくは。ひらぎぬにてあるべきなり。人によるべきことなり。
わらはにとのゐさうぞくといふことあり。つねに人しらず。うちぎぬ ひとつ かさねたるいつゝあこめにはりばかま常のごとし。そのうへにかざみをきるなり。くびのをりやうはたそでのかへしやうつねのごとくして。おびをせで。からぎぬのやうにきせて。うしろのわきのもとうらうへ。まへのわきのもとうらうへをあこめに とぢつくるなり。つねに人とぢどころしらず。ひすべし。うへのはかまをきず。おびせぬゆへにとのゐさうぞくといふなり。むことりの ところあらはしなどせざらんさきにきるべきなり。
しもづかひのさうぞく。れいのながききぬのすこしみじかきがよつひとつにうちぎぬかさねたり。たゞしうちぎぬのすそのきぬよりは七八寸ばかりみじかきなり。いろこ

ころにあるべし。つねはまいりのよのはしろきにこきうちあをひとへなどにてあるなり。からぎぬむめやなぎあをうちつねのことなり。こきはかまつねのことなり。まづはかまをきず。こしのゆひやうわらはにおなじ。次にきぬにうちぎぬひとへをかさねて。くびをおりすゑて。右をうはがへにてよくひきちがへてきせて。おびをとりてうしろにまはりてをしまはしてまへにゆひて。はかまうるはしくひろげ。きぬのすそもひろげをきて。からぎぬをきせてもをとりておほごしをなかおりにしたへおりて。うしろからぎぬのすそをすこしゆひこめて。おびのうへにあてゝ。ひたこしをうらうへのわきのしたよりまへにまはして。もとのおびのむすびめのうへにもろかぎにむすびて。さがりたるをとりあはせてひらをのやうにかへすべし。したおびにかへしてするがよきなり。ものこしをむすばんにつよくひくべからず。うちこしなどはひききることのある也。さがりはたけとひとしかるべし。もろかぎはおほかたのこしのながさによるべし。さがりばかりぞたけとひとしかるべき。さがりのうらうへにかぎはあるべし。もにはあかちのといひてうらうへにみじかきのあり。しもづかひのにはなし。ものすそはきぬのすそのうへにひろげてをくべし。からぎぬのまへひだりのつまをとりて。おびよりしたへとをして。みぎのつまをとりて。わづかにむすびたるがよきなり。つぎにさいしをさすべし。むらごのみつくりのををつけたり。まづむらごをとりてなかをりにとりなして。ひとむすびしてさいしをつらぬくべし。たゞしかたかたをすこしながくすべし。

いたゞきより ひきこさん ようゐなり。さいしをひだりのてにとりて。しもづかひにむかひて たちて。わけめの右のかたの かみをすこし さいしにて すくひて。わけめをこして。又わけめの 左のかたの かみを又すくひて。さいしのさきのいでたるに。このむらごのいとのかた〳〵をわけめのうへよりひきこして。さいしのさきにからむなり。そのからみやうならふべし。ひすべし。本に見えたり。さればいとはうらうへにみゝのうへにさがりたるなり。かたのまへにびんにぐしてさぐべし。いたくひたいによせて さしつれば。うつぶしなどすれば おつれば。かづらのわたりの ほどに さすべし。さてのちすきあふぎをもたすべし。これも たもとのうへよくおして もちてそでぐちをみすべし。このきぬの わきの あきたるがきせよきなり。

ものこしの かたかぎをかくして する人あり。さいしのからみやうもかはる。いへ〳〵の事なり。

五せちの はわらは二人なり。四人八人などあるはごけいの女御だいなどのくるまにのるをりのことなり。しもづかひ二人つねのことなり。五せちの まいりをせんには 四人あるべし。ひめ君のぢんよりをるゝ。き丁をよほうにさしたるもたんれうなり。き丁のすみをばくら人五ゐとりあはせてゐる。近代はしもづかひさゝず。ごぜのさしたるなり。しもづかひも わらはのつぎにたゞゐるなり。

まいりのよは。まづきたの ぢんに。ひめ君の車より はじめて。うしをはづして しぢにをきて。ぢんにむかへてたてゝ。まいりする五せちの まいりあつまりてのち。殿上人まい

りて上らうのひめ君よりしておろす。えんだうをぢんより五せち所までしく。さうぞくしまづしもづかひをおろして。もんのうちにひだりのわきにたてゝ。さいしをうちみだりのはこのふたに女房八人しもづかひ四人これを入たるをとりて。まづしもづかひにさして。もの左のつまさきをとりて。わきのしたよりまへに引出して。右のつまさき右のたもとのうへよりとりて。たもとのうへにつまさきをわづかにむすびあはせたるを。つぼとるとはいふなり。さればものうしろは。かみざまにつぼをゝたるなかにかみさいしのをなどはいりたり。きぬのすそはたゞもとのまゝにうちひろげてひかせたり。さてのち女房の一のくるまをひきよせて。くちより女房をおろして。しだいにさいしをさして。殿上人つきて五せちどころへのぼす。あふぎをさし。もをひきたり。女房おりはてゝのちわらは二人かざみのしりまへをひきてのぼる。つぎにしもづかひ四人しだいにのぼる。つぎにき丁さしたるうちにひめ君をごぜんいだきてのぼる。一の所の五せちのひめ君をばところのざうしきいだきてのぼるべし。女房はかん所のかたよりやがていでぬ。おほかたにさぶらふべきなり。ひめ君わらはしもづかひばかりぞとまりてかみへはのぼるなり。

まいりのよは帳だいのこゝろみといふ。しもづかひはやがてつぼとりながらのぼるなり。これにならひてやくもせぬ御覧の日などつぼとる人あり。ふしぎなり。まいりをせずともまいりのよつぼとりたらんはなんにはあるまじけれどもつぼとらであるべし。一の所の五せちにはわらは二人しもづかひ

四人うへぞうし二人ひすまし二人あり。わらはしもづかひのさうぞくはつねのごとし。うへざうしはいつゝあこめにうちぎぬひとへはりばかま。ひすまし三あこめにうちぎぬひとへもばかまをきるなり。をのをのでいゑあふぎをもつ。ひめ君ののちにおんより五せち所へいりてゐるなり。これらはのぼらず。

さい宮さい院女御だいにはわらははあれどもしもづかひははしりわらはのさうぞくをするなり。あこめうちぎぬひとへにはりばかまをきてそばをはさみてかざみをきたるなり。まへはからぎぬのやうにひろげて。ついたてにきせて。しりはうらあはせにおりて。わらはは殿上のしりながのやうにかくるなり。あしだをはく。あふぎうちはをさす。又けいししかいといふ物あり。けいしははりばかまをきてそばをはさみて。わきながのあこめうちぎぬひとへをきて。おびをして。そのうへにもをしもづかひのやうにきて。つぼとりたるなり。これもあしだをはく。さいしをさしたり。扇をさす。しかいばきは。あこめうちぎぬひとへをきて。そのうへにふたのなるすそごのはかまをきて。したのはかまきて。くゝりをすへてかみをあげて。くんたいひれをつけて。うちはたゝうがみをもつ。女御だいにはしかいはなし。さうぞくはかみあげの女くはんのするなり。うるはしくはしかいをはくべきものなり。内侍のすけもぐしたり。女御だいにはしかいばきをしもづかひといふなり。御くるまのともに十二人。さうぞくくれなゐのはりばかまそばをはさみあげて。うへにあこめをきておびをす。からぎぬをきる。もをつぼとる。

ぬりあしだをはく。さいしをさす。すきあふぎもつ。

うちでをすること。

一けんに二ぐをいだす。いろをりによるべし。まづかたばかまをよきほどにひきいだして。其うへにきぬのまへをひとへをぐして。したふたつばかりをよくひきいだして。なげしのきはによくおし出したるがよきなり。さらでいちどにみなひきいづればきぬのきりくちのうつぶしになりてわろくみゆるなり。ひきいだすことはおほいかによりてすべし。みちなどにてあらむはいたくながくいだしなどすべからず。ひろびさしなどにてあらむにはすこしくつろかにいだすべし。きぬのすそをはしらよせにかけて。かた身をいたすにとりて。せぬひなどをはしらのとほりにあたるほどにひきいだすべし。たゞしなげしたかきところはみじかくもあるなり。それはからふべし。はかまはきぬのすそ七八寸ばかりをひきあげて。すそをたらさで。はしへいづることは。ひとへより四五寸ばかりあまるほどにすそをいだすべし。きぬのこづまのきはよりはじめて。すゑびろにいづるなり。そのはかまひとへのうへにものこしをきぬの袖のしたよりこづまのもとよりながくひきいだしてすそざまにひきのべて。きぬのすそをまづうるはしくしをきて。みすのしたよりてをいれて。きぬのくびをとりてうへざまにをしをりをくやうにしなして。そでをうるはしくぬひめをしたになすやうに袖ぐちに手をいれてうらうへざまにひろぐべし。かまへてきぬのすそのかたへそでをきやるやうにして。からぎぬの袖より二寸ばかりひきいれてか

さねをくべし。一けんに二ぐを出す。うらうへこの定なり。このすそのうへはしらよせのきはよりものかたづまをとりて。はしらのきはごとにひきいだすべし。きぬ二ぐがあはひをひろくいだしなして。そのあはひにき丁をひろくみせていだすを上ずといふなり。きぬをひきのべていだして。あはひをせばくて。きちやうをしほ〳〵とすくなく見するをわろしといふなり。すがたよき女房のはしらのきはにゐて。かた身をおしいだしたると見ゆべきなり。みなみおもてなんげんもひきわたしたるやうになんげんもいだすなり。きぬのかさなり。わたつきなどをよくいだしなして。きぬをうつぶしならやうにいだしなすまじ。きりくちなどを物をきりかさねたるやうにすべし。なげしたかき所にたゞひきいだしつれば。うへのきぬはすゝみいでてうつぶすなり。まづしたをひきいだして。なげしのきはにためて。さりげなくてしをけばうつぶす事はなし。きぬのつまのかたをいたくひきいだすまじ。さきとがりなるやうにてわろし。なげしにひきそへたるやうにいだすべきなり。そでのうへにあるみすはしものへりをかならずあらはに見するやうにまごとにあらはすべし。もしきぬのあつきうすきあらば。あつからんをばおしへし。うすからんをばとぢいとなどをひききりてふくらめ。はしらのきはのちんしなどをとりて。したにさしかひなどすべし。はかまをいだすことは一の所つぎのところになし。たいけんもん院の御時よりあることなり。みなみおもて七けんも八九けんもありといへどはしがくしのまは御帳のまにていださず。なにごと

もおなじことなり。きさきだちにはしがくしのにしの大さうじのまにていださず。かならずにしとおもふまじ。ひんがしはれならばひむがしにてもあるべし。にしおもてうちでおなじ事なり。これまたひんがしにてもあるべし。つまどのまのうちでなげしのうへに物どもありていだしにくし。これをよくいだすを上ずとすべし。しとみのとおなじやうにすれば。きぬのいたくながくいでたるやうにうへの見えてわろければ。みすをふくらめんれうにき丁をしきゐのうへにきぬふたつがあはひにみすをひきふくらめてたてゝ。そのうへにおくにあるそでをみすをうちかけさせたるよし。つまどにはちんしなし。かきたらんによるべからず。ならふべし。うちでするほどなればつまどのとびらもとりのけかうしのもともとりて

びんぎの所にをくなり。よるもうちではひきいるれども人をつけてかうしもおろさず。ならひたらんうへのおぼつかなさのれうにかきをくなり。

なつのうちでぐるまのきぬは。まつりのさい院女づかひなどのはあつぎぬにすゞしのうちきからぎぬをかさねていだしたり。うちでにはうるはしくねりたるはりひとへがさねにひきへぎかさねてうちでもくるまのもあるなり。つねはくれなゐのはりひとへがさねなり。

くるまのきぬをいだすこと。

御くるまのしりよりきぬをいだす事つねのごとし。たゞしたすだれをかみにおしかふことをせで。つまとそでとのあはひにをくべし。ものこしさげて。ぢずりのつまをすこしこしのうへにひきいだすべし。きぬの

いづることは。くるまの ほうだての かみ二三寸ばかりよりはじめてひきいだして。うちぎぬひとへうはぎうるはしくかさねてひきいだして。とみのをのうへ四寸ばかりつまさきをすかして。きぬのまへをまへいたによくをきて。くるまのそでにおしかけていだして。そでのぬひめをしたにをきなして。すそにをしつけて。袖口をみせてをくべし。そでのしたよりものこしひきいづべし。ながさ二尺はかり。おほかたは きぬの せぬひのぬひめにいとをながくつけて。竹をけづりて車のうちにさして。そのたけにいだしてのち。よきほどをかけよ。さがらでよきなり。いづるほどは。きぬのひろさ。まへのかたをいだすにせぬひのほうだてにかくる丶ほどなるがよきなり。いとのすだれよりいでぬほどなるがよきなり。せはまへいでむにはそのいとをすこしおくにいれてつけよ。女房のくるまのきぬいづることもこの定なり。下すだれをすだれのかみにをしはさみて。ひとへとくるまのそでとのあはひにさぐべし。御くるまのしりにかはることはこのしたすだればかりなり。ものこしは一りやうに四すぢつくなり。まへの左右に二すぢ。うしろの左右にふたすぢなり。ながさ二尺よばかりなどいだすべし。ものこしはあはひをひろくいだせ。せばきはわろし。うたてあり。二人のりはくちばかりにいだすべきなり。

わらはのさうぞくをいだすこと。まづわらはむかひて二人のりたれば。はしのかたのかたばかまをあらんかぎりしもざまにひきいだして。其はかまのうへにかざみのしりのすそをわらはのうしろよりひきいだし

て。おもてをうらになかをりにして。はかまのすそに二寸ばかりなどたらさでひきさげて。それに又ならべてかざみのまへひとつをひきいだして。はかまのうへにならぶるなり。うらうへこの定なればわなをみなむかひざまにいだすべし。一人をこの定にいだせばいづれもおなじことなり。たゞし右のくちにのりたるはあふぎさしたるてをさげず。左のくちのはひだりのてをばたゞうちをきて。右の手にあふぎをさすべし。はかまみじかくはかざみをながくはりばかまよりはひきいづべし。四人のるともこの定なり。もしかざみのおもてにふたへおり物もあり。又ふりうもあることあらばおもあはせにせでうらあはせにたゝみていだすべし。まへよりはかまふたつかざみのしりまへよつさがりたるに四人のりはしりもかくあるべし。二人のりはくちばかりにいづるなり。わらはのくるまにはしたすだれをかけぬことなり。されどもしたすだれをかけてたるひとあらばとるべからず。すだれのうらうへのはしにまきかさねて。わらはのひたいなどみゆるほどにあぐべし。したすだれのすそをいたのうちにあるきよりひきいだしたるがよきなり。はかまのうへかざみのしたにはあこめのつますこし見ゆ。四人のりはしりもこの定にあぐべし。二人のりたるにはしりのすだれはおろしたるなり。わらはの車にはさい相のくるまのなれば下すだれはかけぬなり。もし中納言の車にてかけてまいらせたらんをとるまじ。かけながらあるべし。しもづかへあじろぐるましたすだれかけず。すだれをあぐる事おなじ。はかまをわらはのやうにひきいだして、そ

のうへにまへいたなどにかゝるほどにきぬのつまをひきいだしたるなり。たゞひらにうちをきてあるべし。四人あらばしりまへにのせてあぐべし。あふぎをさすことおなじ。〔裳〕もをいだす。

ざうしのこと。むまにのるべし。くるまにのりたらばかん所よりありくべきなり。さうぞくつねのごとし。五せちのうへざうしひすましはくるまにのるべきなり。女御まいりにはしもづかひのそうぞくをばはした物のきたるなり。とくせんといふもののながききぬきたるがあるなり。このしもづかひさうぞきたれどもくるまにのりては女房わらはなどの車にはつゞけず。かんこうぢよりまいりあふべし。うへざうしは女御まいりにもあり。あこめいつゝうちぎぬひとへはりばかまつねのごとし。

ふみをつゝむ事。

女御まいり。むことりなどのふみは。むすびてつゝむ事そらにいひがたし。本をみるべし。

くら人なりとも。又つぎの所にてなりとも。うるはしきけさうぶみのつかひをせば。まづその所にゆきて。さうなくのぼることなし。中門のくちにたちてかくと申せば。その所の申つぎ中もんのとより　おりあひて。これへといふなり。そのみちは中門のとよりつまどをいりて。中もんのらうのえんよりきぬのそでいだしたらん所へゆくべし。女御まいりには。うちのくら人はうるはしくすきわた殿にかうらいのたゝみ一帖しきて。とう京のしとねしきなどしてあるなり。しとねしきたれども御ふみ女房にまいらせいれてのちたゝみにゐるには。しとねをば

われよりかみにしてたゝみにゐるべし。御返ごとをたびて。やがて女房のさうぞくをいだされば。とりてもとの道をかへりて。中もんのらうのうちのえんよりおりて。御所にむかひて一どはいすべし。つぎの人にはろくあるもあり。またなきつねのことなり。ざをしかずは。いづくにてもさもあらん所に御返事のほどはゐるべし。つぎの所にてはろくありともはいすべからず。くら人そくたい。つぎの所のはいくはんにてあるなり。

大臣じたいのふみいるゝはこをつゝむやう。

これも本をみるべし。つゝみてぐしたり。だんし四枚を二枚づつうへしたにあてゝつつみて。だんしをほそくたゝみて。うへのかさねのもとにひきときざまにかたかぎにむすぶべし。

宇治の大臣殿の御時。大臣じせさせたまひしに。うるはしくはこにいれてつゝみて。なをしもそのつゝみたるはこをたかきあんにをきて。あかぎぬのし丁もちて。けいし二人しきじ二人束帯にてあいぐして。兵部さうにおくりつかはしたりしかば。いゑはうけて。あくをうちたりししたにすへてかへりにき。きんだいしきじにつけてあるなり。

名かうをつゝむこと。

だうくやう又うるはしき佛事などに。名かうはしろがねのはこのちいさき。はぐろめのはこなどのやうなるにいれてつゝむものなり。おり物うす物から物などのしろき。かう。うすはなだなどなるが。きぬのはたはりよりはすこしせばきが。ながさ八尺ばかりなるが。二重も三重もいつへも七重もひねりかさねたるにてあるをおもてをうへにて

まづなかおりにして。其なか おりの所にこのはこををきて。ふたへにをしあはせて。左右のはしをかみに名かうつゝみたるやうにうらうへをして。そのはこの きはを からぐみのほそきがこのつゝみ物のいろしたるにてもろ かぎにゆふなり。かぎは 一尺ばかりさがるべし。すそはつゝみ物とおなじながさあるべし。たゞしこのくみはやがてつゝみ物のかさなりたるかずにいくすぢもあるべきなり。ながくば さがりたる所になかうなをむすぶなり。又たゞむすばねどもあり。ほそぐみならぬともあつひらひとすぢなどにて ゆふこともあるぞ。さてのちとりぐちとて。殿上などの ふみさしのやうなる物にこのゆひたる所をさし はさみてあるなり。そのとりぐちはところに したがふべし。えにらでんがひ すりたる もあり。だうくやうなどには さるべし。そうけの 所などにてはくろぬりなるべし。

ひらづつみにて物をつゝむ事。

まづひらづつみをおもてをしたにてひろげて。なかにころもばこのふたをあけてをく。そのうちに いれかたびらを いるべし。ひろげてころもばこのうへにをきて。そのうへにしたいか物をいれて。そばをまづ うらうへおし おほひて。又しりかしらをうらうへおしおりて。このいれたる物をつゝみかくして。そのつゝみたるをころもばこにをきて。そのうへをひらづつみにてつゝみて。すみずみをむすぶなり。

いれかたびらのていは。ひらづつみのうはざしなきなり。冬のはおり物。あやにてもあかうらあり。夏はすゞしにて ひねりかさねたり。このごろは まづいれかたびらにてつ

つむことなし。いれかたびらをばおしたゝみてせんにころもばこにいれて。そのうへにゆら〳〵とみせているゝなり。

まづはりばかまをなかをりにしていれて。そのうへにひとへもの のぐをかさねながら。れいのきぬだたみにしてふたへにをりて。右をうへにてをきて。からぎぬもあらばそのうへにをきて。そのうへをむすぶなり。ころもばこのふたは。ほかへつかはさばつつみのむすびめのうちぎぬのうへにをくべし。うちにて人にたまはゞ。むすびめのうへにをく。あふげてをくなり。ころもばこまきゑらでんをしなどする つねの事なり。又はゞかりある所などのには。くろぬりつねのことなり。はこのうちにをりたてあり。あやおり物からあやつねの事なり。

わらはのさうぞくをつゝむべきやう。

まづひらづつみをおもてをしたにてひろげて。そのうへにはりばかまを ふたつにをりて。こしのかたをうへにをくべし。はかまながくば。三へに屛風のひだのやうにこしをうへにてたゝみて。こしをうへにてをくべし。そのうへにあこめうちぎぬひとへかさねて。れいのやうにたゝみて。ながくともみじかくとも。袖たけにすそをおりて。右のそでをうへにてをくべし。そのうへにかざみをせおりにたゝみて。そでうらうへにやりて。すそをとりて。くびのもとへまづふたへにをりて。つぎに右のそでをうへにて。これも屛風のやうに三つにおりて。そでをうへにてをくべし。おび。だんしにつゝみてをくべし。さてのちひらづつみのすみ〳〵をとりあはせて。わづかにむすぶべし。しもづかへのはたゞの女房のにおなじ。

そうのさうぞくをつゝむこと。
まづひらづつみをひろげて。ころもばこををきて。いれかたびらいれて。おほくちあこめひとへうへのはかまいるべし。あこめはそでたけにをれ。うへのはかまはこしぎりをれ。されどもころもばこになをすこしあまるなり。そのうへに衣のうへにけさもはたゝみて。くみもしはかみをたゝみてゆひたり。くみにてゆはゞゆふやうあり。本をみるべし。けさにならべてをくべし。あふぎしたうづかみにつゝみてをくべし。これもほかへつかはさば。ふだんはむすびめのうへにおほふべし。さうかいやないばのふたにをきて。つちたかつきのうへにすへたり。そくたいをいれてつゝむともしだいこの定なり。うへのきぬはせおりにして。なかおりに又して いるべし。御さほなどにかくるやうにたゝむべし。御なをしまたこの定なり。

そくたいのさうぞくのこと。
そくたいをきることはなつふゆおなじことなり。冬のにははんぴつねはなし。わきあけには冬もあり。なつのにははんぴをぐしたり。あこめなし。かたびらにひとへをかさねてきるべし。こはくはりたるひとへばかり又つねのことなり。なつはかんだちめあか色のしたがさね。殿上人ふたあゐ。おとなしき人青くちばつねのことなり。冬つゝじのしたがさね。かんだちめあや。殿上人ひらぎぬなり。又さもあるをりやなぎさくら。うらやまぶき又おりによりてきるなり。殿上人もいろをゆりたるこれらをみなきる。わかき人うらこきすはうもえぎ又つねのことなり。うへのはかまもかくのごとし。おとな

しき人はやなぎのしたがさねとてきる。うらはあをくろいろにそむるなり。まめぞめ(豆染)と申す。かんだちめなどはおもてはからあやなどにてあり。殿上人そ(諸)大夫などは。おもてはたゞきぬをふくさばりにてつくるなり。うへのはかまのおもてふくさにてきるなり。御だうぐやう(堂供養)千ぞうなどのだうどうじ(堂童子)のそめわけ(染分)とて左右〔は歟〕わかちてやなぎつゝじとてある。やなぎのつねのうすやなぎなり。つゝじといふはつねのしたがさねをいふなり。はんぴのらん(欄)にはいづれもうらなし。さればおり物などのはおもてばかりをする物なれば。くさぐ〵とさがりてみえず。さればきんだい(近代)かくしてこはきうらなどをつけてあらす人おほかり。だうどうじのそめわけなどにははなぎれ(鼻切)といふ物をはくことあり。それはさしかけ(差懸)とて。まつり(祭)のつかひ(使)などのかへさの日はく。又六位のはれにははくものなり。くつぬひ(沓縫)のするものなり。

わきあけのこと。

わきあけ(闕腋)をきることは。したがさねまではつねのそくたい(束帯)なり。わきあけはしたがさねにおなじやうにぬひかさねたるがよきなり。しりはいま三寸ばかり。下がさねのみじかき。かゝげたるにはよきなり。ひろさ五分ばかり。かた身づつせばきが。なかをり(中折)にするにはよきなり。まへはかりぎぬ(狩衣)のやうなるをわきあけのうはがへのすそをあしのくびにつかせて。したがへをば一寸ばかりひ(引)きあげ(上)。したがさねをも一寸ばかりづつしたざまにひきあげつゝきする也。しりはきてのち。たけのあたるほどをしたがさねにとぢかさねて。やがてしもざまにうらうへのはしをしげからでとぢてだしたるが。た(劔)

ちにかくるおりはよき也。●
ひゐながしらとは。しりをとぢかさねてのち。したがさねかさねながらわきあけのひだりのつまをとりて。うへざまにひきかへし。したがさねをかさねながらすみざまにすぢかへており。又すぢかへてふたへをりたれば。かみはせぬひのぬひめのかみざまへをるゝなり。そらにはいひがたし。ならふべきことなり。さきとがりなるをそばにひきまはして。とがりたるさきをたちのおびとりのなかよりひきとほして。さきはたけとひとしくさぐべし。かくひきとほさんをりは。はんぴのをぐしてとほして。このさがりたらんしりのうへにさぐべし。これはわするゝことなり。はんぴはらんをよくあらしたるがよきなり。いたくさがりたるもおめてわろし。よこぬひめのかみ二三寸ばかりみゆるほどにあつべきなり。ふゆのはうちはんぴなり。かんだちめうちのくら人などはらのはんぴなり。たゞのしうはくろはんぴなり。なつはかんだちめうちのくら人黒はんぴなり。殿上人已下はうす物。したがさねのやうに二あゐなり。冬はかんだちめはつねにはんぴきることなし。しよさの行幸などにかたまひといふことあり。それにはかならずきることなり。はんぴのをはこをといふ物にてくびをゆひて。このごろの人は上下せられたればよし。たゞうるはしくゆふやうあり。本をみるべし。ならふべし。さうぞくしのひすることなり。

ほうこのこと。

ほうこといふ事あり。きぬさしぬきうるはしくきて。そのうへにしたがさねきて。うへのきぬにしりつくりて。おびさしてさくを

もつなり。ゑう(衛府)はせず。そくたいにしたがさねのしりをくるといふことあり。それはいかでかは。そのながさの物をかみにくりあげて。せなかにをくことはあらん。すそをたけとひとしくはからひて。そのかみ(上)をわなにしてさげて。かみをさがるまじくおびによくかふなり。

そくたいにこきさうぞく(濃装束)といふは。うへのはかまのうら。おほくち。こき物にてあるなり。すはうのあこめ。あをきひとへにてあるべし。たがさねはつねのつゝじなり。夏は二あゐの下がさね。こきはりひとへにしろきかたびらをきるべし。あかきなどはきるべからず。五ゐも六ゐもおさなくてはじめてありきなどする人はみなきるべきことなり。

（首書）ひとへもこきひとへにてこそはつねにもあれ。

四月一日。しらがさね(白重)とてしろきうす物をはんぴしたがさねにきる。しろきはりひとへ(張單)。しろきあせとりをきるなり。かんだちめ。殿上人。五ゐ六ゐ。外記史きる也。ゑう(衛府)はきず。かむだちめのもむもんなり。かとり(縑)といふものをうるはしくはきるなり。十月一日もきる。ねりたるきぬさや〳〵とはりたるなり。したがさねにうらあり。

（首書）なつ冬のしらがさねならねども。ごくねち(極熱)のころ。官たかくいたりたる人のしらがさね(白重)をきるはつねのことなり。これも。大臣殿の仰と。すけゆきがてにてうらにかきてをしたり。

そくたい(束帯)は四月一日よりなつのをきれども。いくわん(衣冠)は五ゐも六ゐもごけい(御禊)のほどなどまでは冬のをきるなり。ふゆのうへのきぬをきるべし。さしぬきもなつのさしぬ

きはごけいのころよりきるなり。きぬは一日よりひとへがさねをきて。すゞしのひとへなり。ひたひとへはまつりのころより六ゐはきるなり。それもすゞしくばひとかさねつねのことなり。五月といふともさむからんにはきぬをきるべし。まつりの御幸などには六位はひきへぎにすゞしのひとへをかさねてきたるなり。十月一日よりふゆのそくたいなれども。又いくはんは五せちのころまではなつのなり。六ゐのさしぬきもきる也。うちのくら人などこそあれ。院のくら人などとうほく院のねん佛の頃よりうす色のふゆのさしぬきをしおに色とてきる。さてもありなん。たゞししをんいろはひがことなり。ほかにしるしたり。
わかやぐ人は。なつすゞしのさしぬきをあさぎにてもうすいろにてもきまぜてきるつねのこと也。五位になりなば。ふゆあさぎをとくきよ。あしからず。六ゐのしんなどはかりばかまをきるに。さしぬきなどきんれうに。院のひくら人などになりてきるなり。きんだいならねどさしぬきにいくはんするふしぎなり。殿下のこうとうなど猶かりばかまなり。ほうゐの事はきんだいさたなけれども。六ゐのしらはりのかりぎぬにきらゝふるひてきることは。五月七月などのしをれたるにきることなり。ふゆなどきるはうたてきことなり。
かうのぬのかりぎぬつねのことなり。されども院のくら人などにておそくうちへわたりなどして。さかりすぐれば。右のたもとぬひこして。しろききぬ。あをきひとへなどをきてあるをうたへありとはふるくは申けんとぞ。五ゐもしらはりのぬの。かりぎぬは夏

はきるにあしからず。かうのぬのかりぎぬ又つねのこと也。六ゐもつねはことゝあることには。うやをかくべきなり。きんだいかかぬふしぎなり。五ゐもしうのおまへなどへまいるとては。さうなくうやをかきて。ふみくゝみをして。ふるくはまいりけるなり。

わかき殿上人などるり色のさしぬきとてあさぎのこきをきることとは。五月などのふたあゐのさしぬきのしをれたるおりきることなり。きんだいはいつもきる。ふしぎ〳〵也。しをんいろのさしぬきとて九月ばかりに殿上人などのきるは。おもてはうすいろのなつのさしぬきにて。あをうらのはりうらをつけてきるなり。これをしをん色とはいふを。たゞうす色のふゆのさしぬきをつけたる。みぐるし〳〵。かやうのことをしりたりとて。人まへはれにていたくいふべからず。をのづからとふ人あらばこたへ。もし又さもあらん人にははし〳〵をいふべし。むげにしらぬやうなるもわろし。たゞしひすることは。やすく人のしつべきことをひする也。大事なることはいへどもきゝとることなし。

かんだちめなどのさくらのしたがさねとてきるは。おもてはからあやおり物なれども。うらはこきむらさきに染るなり。花のさくらにはあらず。いろをゆりたる殿上人かんだちめにおなじ。さしぬきむらさきのおり物つねのことなり。かやうのものをうちのくら人きるに。うへのきぬのろうさうなるうるはしきことなり。あを色はふゆもなつも。からあや。ふせんれう。けんもんさなどにてあるぞいみじき。さればにや。はれにも

ちゐることなり。

大臣の大將などのたいきやうのそんざをもし。又のりゆみのそうをもとるに。かいねりがさねの下がさねとて。くれなゐのこくうちたるあやのおもてに。ひとへもんのふくさはりのうらつけたるをきる。この下がさねをきんには。こうばいぢのひらをかならずさすべし。たゞし正月七日いごならば。こうばいはもちゐるべからずと申す。

大將のこうばいぢのひらをにかいねりかさねきることは。りんじ客又もやの大饗にきる也。のりゆみのそうには。こうばいぢのひらををばさゝぬ也。一の人のきんだちは。殿上人のあいだなれども。ぜんくうをくるまじりにぐしたるなり。これもうらにかきてをしたり。

いくはんなをしにきぬをいだすこと。

いくはんなをしにきぬをいだすこと。うちぎぬあつぎぬいづれもつねのことなり。五せちにはくら人はくれなゐうちをいだす。わか殿上人またつねの事なり。又殿上人はおめらかして五へも三へももみぢがさねなどにしてもいだす。おもており物あやつねのごとし。かすがのつかひなどにはいくわんにもなをしにもきぬをいだして。かぶりにかしはばさみをする事なり。くゑんえいにはあらで。えんびをとざまにをりて。たけなどをけづりてはさみてさしたれば。くゑんえいのやうにさがりたるなり。それはだいりせうもうにはかの行幸などには。ゑふみなすることなり。大將なをしにてはじめてありきになをしにうちぎぬいだして。さくをもちたちをはけども。それにはかしはばさみせず。五せちにも又す正の御幸などに

もなをしにきぬをいだすことはつねのことなり。これらにははかしはばさみせず。なをしはじめには又かならずきぬいださず。きこめてもあれども。さくを もちたちをはくことはおなじことなり。

きぬをいだすことは。きぬさしぬきをきたるうへにわたいりたるきぬにてもうちぎぬにてもをきて。うらうへのつまをさしぬきのまへよりまへによくひきちがへておびをするなり。うしろはたかく引あげて。まへのつまさきはさしぬきのうへにたけに三四寸たらぬほどにあぐべし。うしろはなをしにてもうへのきぬにてもきたらんに。らんのすそよりへりををきたるやうにみゆまじきなり。見せたる人々あり。あさまし。みせじれうに。わざときぬのうしろのすそをなかいりにぬふこともあり。さらねどもよくおしあげておびしつればみえねども。いたくうしろをだにをしあぐれば。つまのうしろへひかれてまへのひろごることあり。又せばまへのかたはまへへまはらねば。うらうへにおほくびをつけたるよし。きぬをいだして。まへなるつまをうらうへのそばへをしなして。さしぬきをひきあぐる人あり。まへをいだすといふなり。つまふたつをば前に見せて。そのうへよりさしぬきをば引あぐべきなり。

宮づかさにまつりのつかひなどするもうへのきぬにうちぎぬいだして。かしはばさみしてくだる。このゑづかさおなじことなり。わらふかぐつをかならずはくべし。

かんだちめ殿上人このゑづかさなどはたちひらを折によりてもちゐる。かんだちめはつねはむもんのごくのおび。こんぢのひら

をさすなり。殿上人はつののおび。めなうつねにさすことなり。そだいぶこの定なり。めなうはずんぽうのなきかはりにもちゐるものなり。たゞしりんじのまつりの日は。殿上人めなうをさすことなかれ。めなうといふものは天下に八すぢぞむかしはありけるを。五ゐのまひ人みなさしつれば。のこりはあるべくもなきをきんだいめなうのおほくなりたるゆへに。あないもしらずさす殿上人あるべし。

せちゑにはかんだちめ殿上人。おびにぎよたいをつく。かんだちめはきんなり。殿上人のはしろきなり。おびの右のわきにほうせんといふよほうなるいしふたつがなかにつくといへども。もとこしによるべし。ふとからんはせなかになりなん。ほそからんはわきにいりてかくれなん。をりによりてはからふべし。

たちのさうぞくは。つねはあをきかはなり。されどもむらさきだんのひらをならんには。むらさきがはにてしかへよ。

さうぞくはしたうづはきて。うへのきぬをきて。ひもをときてのち。でゐのけうそくにしりをかけて。びんは上らうはかくことなり。大將のずいじんなどの御びんなどにめさるゝには。中もんにさぶらふがのぼる所あり。やなぐゐをときてたつるところあり。中門のうちのらんをのぼる。つぼにてもやなぐゐにてもあるをば。中もんのらうのなかのおほきなるはしらによせてかくるなり。これもしりたらんあしからず。

いろをゆりたる人。もえぎのさしぬきつねのことなり。むくらんぢはけびいしのべたうのきるものなり。それもきるをりあり。だ

いりせうまう。かぶりにかしはばさみして。しらはのやにとがりやふたつさしておふなり。
とがりや さすことは。花山の家にすると こそきゝしやうに おぼゆれ。こと人はいとせぬにや。

まひ人のさうぞくのこと。

まひ人の さうぞく たまはるには。いくはんをして。まへのようちへまいりて。ゆば殿にて給はる。よきふくろをぐすべきなり。かべいじうをせんもおなじことなり。きんだいくら人の もとへ。ふくろばかりをやるつねのことなり。あをずりは かりぎぬのしりながきに山あゐといふものして竹きりにほうわうをすりたり。したがさね春はさくら。ふゆのにはつゝじ。うちはんぴなり。はかまはふたのにて またなし。くざくの まろをいろいろにかき。したのはかまをかさねたり。ももだちをいろ〳〵にくみたるいとしてつがりたり。つがりやうならふべし。かくにおよばず。こしむらごのこしなり。くら人のけびいしはもゝだちをばつがらで。またのをつがるなり。

かもやはたなどのはれの御幸などにはまひ人のすりばかまを宮ばら大臣大將などにめさるれば。からあやににしきのこしをさし。たまのつがりをして。くれなゐのうちたるしたのはかまなどをしてまいらせらるゝなり。それにはかましたのはかま べち〳〵にてまいらする人あり。うたてあることなり。これよりやがてはかまにしたのはかまをかさねて。ふたへにをしおりて。ひらづつみにもいれでまいらするなり。これのみにあらず。たゞ人のもとへまひ人のすりばかまを

つかはさんにもかさぬべし。さてこれをかさねのはかまとはいふなり。

まひ人のさうぞくをすることは。まづはかまをつがりて。したのはかま。きぬうちぎぬをきて。はかまをまへごしの右をとりて。うしろよりまはして。左のわきにかたかぎ(片鍵)にゆふなり。さてうしろごしのひだりをまへより右にひきまはして。右のわきにまたかたかぎにゆひて。うらうへにさげたるなり。ながさはこしにしたがふべし。さてのちはかまぎはをきる。くゝり(括)をすへてのち。したがさねはんぴをきること わきあけにおなじ。そのうへにあをずりをきる。まへはわきあけのやうにしたいり(下入)にきすべし。あをずりのしりはひとのなれども。したがさねのしりのうへになかのぬひめになかをあてて。わきあけのやうにとりてしりをかくること又わきあけのやうなり。たちにかけんをりはんぴのをひきいづべし。したうづをひとへはきて。しかゐ(糸鞋)をはく。はかまのくゝりにて。しかゐのきびす(踵)にかけてゆひたるがぬげでよきなり。そののちひだりのそでのぬひめのうへのかたにあかひもとぢつく。うしろのさがりにうはてのなかよりひきとほしてさげよ。まへはあをずりのひとはり(針)どころよりさげよ。

あかひも(赤紐)はひろさ五分ばかりにて。なから(半)のほどにあげまき(総角)むすびて。うらうへのさがりにになむすびて。ひらてがひ(平手貝)をおしたり。こきうちひとすぢ。すはうひとすぢあるなり。五ゐ六ゐはしりざや(尻鞘)をさす。五ゐはとら(虎)。六ゐはあざらし(水豹)。をの〳〵ひらをあり。さく(笏)をもつ。かざしのはな(挿頭花)はぢん(陣)にてさす。さすべきところをかぶりにかねてはなち(放)て

まいる。
べいじうのさうぞく。
そくたいなり。あをずりのすりやうかはる。すろかざしやまぶき。これもぢんにてさすなり。

をみのこと。
をみをきることは。そくたいのうへにあをずりをきるなり。そのすりあをくてむめきじをする。かんだちめ殿上人。五せちのせちゑの日。大じやうゑなどに。藏人まできる。はんぴをきる。しろきあこめひとへ。しろきあせとりなどにてあるなり。しり。又これもひとのなれば。まひ人のやうにしたがさねのしりにもとぢつくるなり。これもあかひもあり。これは右のかたのうへになかをとぢつけて。うしろまへにさげて。うしろはわきにとぢたるがよきなり。かぶりにひかげといふものを左右のみゝのうへにさげたり。かぶりのこじのもとにひかげのかづらといふものをゆひて。しろきいとのはしなどほとかしくみなるしてあげまきになをむすびさげて。かた〳〵に四すぢづつかぶりのつのをはさめて。まへにふたすぢうしろにふたすぢ左右にさげたるなり。このいとかざるところにこゝろ葉とてむめのえだのちいさくつくりたるをこのかづらにまとひてたてたり。かづらなければあをきいとよし。このこゝろは。かぶりのまへのすぢのもとと。うしろのかづらむすびたるところにたつといふ人あり。ひかげかた〳〵に八すぢもあり。心々なり。せちゑなればぎよたいをつく。殿上人はめなうをさすべし。かんだちめはうもんのおびさす。ひらをはをみのひらをといふ物あれども。つねになければ。

こんぢをさすつねのことなり。かんだちめはかざりだちなり。

わらは殿上のこと。

わきあけのさうぞくもののぐつねのごとし。うへのきぬあかいろなり。つねの五ゐのうへのきぬのあかみたるやうなり。もんにあふひつねのことなり。したがさねつねのつゝじ。おもてあや。うらひとへ。もんやうしてうちたり。なかへあり。はんぴはくろはんぴ。らんをなどは羅といふものなり。なつはうすもの。常のあこめのいろこゝろにあるべし。たゞしこきさうぞくならば。すはうのあこめあをきひとへにて。こきうちぎぬきるべし。うへのはかまおりものかんだちめのさうぞくのていなり。これはこきさうぞく。うらはこし。おほくちもこかるべし。とりかさねてわらうだのうへにをきてとりいだすべし。きるべきしだいにをくべし。おび。つののまろとも。五ゐのさく。ひきおび。したうづ。しかい。あふぎをぐすべし。だみゑあり。なつのしたがさねあかいろ。くろはんぴなり。いろをゆりたるゆへなり。うへのはかまのうら。おほくちあかくともくるしかるまじけれども。をさなければうちまかせてはこきさうぞくなり。さうぞくをすることはつねのわきあけなり。たゞしはんぴのをゆふべし。本を見るべし。さうぞくしてのち。わらうだにこのちごをすへて。びんづらをゆふべし。

かゝげのはこのふたにはさがたふたすぢ。□ながさ一尺よばかり。ほそさ五分ばかりにらをたゝみて。いろ／＼のいとにて。かづらてにてふことりをぬひたり。いろはんぴのらんのき・か□むらさきのいとのふとら

かにおしよりたるが。□ながさ二三尺ばかりなる三すぢ四すぢ。くし二枚がうち。ときぐし一枚。ひらかうがい一つ。あぶらつぼに・あぶらわたいれて。□こがたなひとつ。これらをかゝげのはこのふたにいれて。さうぞくにぐしてとりいだすなり。ゆするつきの水いれて。やないばこにをきてぐすべし。かみねりふたすぢ。

みづらをゆふこと。

まづときぐしにてちごのかみをときまはしてひらかうがいにてわけめのすぢよりおなじをわけくだして。まづ右のかみをかみねりしてゆひて。左のかみをよくけづりて。あぶらわたつけなでなどして。もとどりをとるやうにけづりよせて。ひ□さきのいとをひとすぢとりて。そのみづらのところ。あがりさがりのほど。めとまゆとのあはひにあたるほど。まへうしろのよりのきは。ちごのかほのひろさほそさによりてゆふべし。かほひろくはまへによせ。ほそくはうしろによすべし。たゞしいかさまにもみゝよりはまへなり。かみのもとをいつからまきばかりつめゆひて。かみよりしたうらにまむすびにゆふべし。まづしたむすびをして。かうがいのさきをゆするつきの水にぬらして。むすびめをぬらしてまむすびにすべし。いとをのべじれうなり。糸をきらでかみのすそをよくときくだしてのち。みゝのうしろのかみをみゝのうしろかくるゝほどにびんぷくをふくらかにけうらにひきて。みゝをかくすべし。つぎにかみのするをちごのかたのまへによく〱なでつけて。ちごのむねにをしあてゝ。ちのほどにあたるほどをとらへて。またあかいとして三まとひば

かゝりして。まむすびにつよくゆひて。こがたなしてむすびめのきはよりいとをきるべし。さてそのゆひたるしものかみをよくよくなでてのち。みつにわけて。みつぐみにすそまでくみくだして。そのすそのくみはてをかみへひきかへして。もとゆひたるいとのきらでをきたるして。このくみはてのもとをもとゆひたるところにまむすびにしてのち。きはよりいとをきるべし。いづくをもゆはんにはむすびめをぬらせ。いとのくつろがぬなり。かみのすゑをばみゝのうへよりこして。びんぷくのうちにはさむべし。なをするいでば。くびかみのうちにをしいるべし。ちごをさなくてかみみじかくば。べちにつけがみといふものをもとゆひたるうへにゆひつけてゆふなり。そのかみなどをよくゆひなどしておとしなどすまじきなり。

つぎにはさがたをとりて。このもとをゆひたるうへにあてゝ。ちごのうしろにてをしてはさがたにむすぶ。そのゆひやうかくべきにあらねば。ひだり右の本をゆひてぐしたり。まづひだりをゆひてのち。わらうだながらひきまはして右をゆふべし。わがまはるもこちなければ。このれうにわらうだにはすうれども。きみの御みづらなどにまいりたらんにはびんなし。われまはるべし。ゆするつきの水はいとのむすびめぬらさんれうなり。つぎにちごをたてゝ。わきあけのしりをかゝく。したがさねによくかさねてみだるまじく。はりにいとをつけて。うらうへのはしをところ〴〵とぢてせぬひをす。そよりなかをりにかみへをりのぼせて。ひだりのわきのしたよりまへにひきこして。うしろはちごのたけとひとしきほどにて。

そのなかほどをわなにをしをりて。すそを
うへにて。ぬひめをば身のかたになして。ひ
だりのたもとにわなをうしろへうちこし
て。ひぢのかみにうちかけたれば。しりのす
そはまへのかたにさがりたるなり。つぎに
しかゐをはく。したうづをはきてそのうへ
にはくべし。ぢん(陣)をあゆむほどはくつ(履)のし(屧)
きをぬきてはくべし。しかゐははきては殿
上へも御所へもまいるなり。左大臣殿つね
おほせらるなるは。うちの御びんづらはか
はるなり。べちのことにあらず。御ぐしのす
ゑのみゝにはさむ所をもとまき(元卷)のいとのう
へにくる／＼とあるかぎりまきをきてゆひ
つけたるなりとおほせらるなるはひがごと
にやとおぼゆ。いかにむつかしげならん。を
さなくおはします御ぐしのつけがみさがら
ば。せん(先)にゆひたるかたのもとゆひのいと

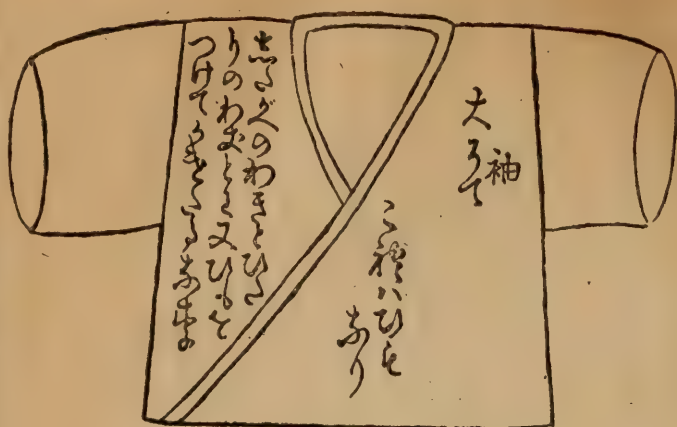
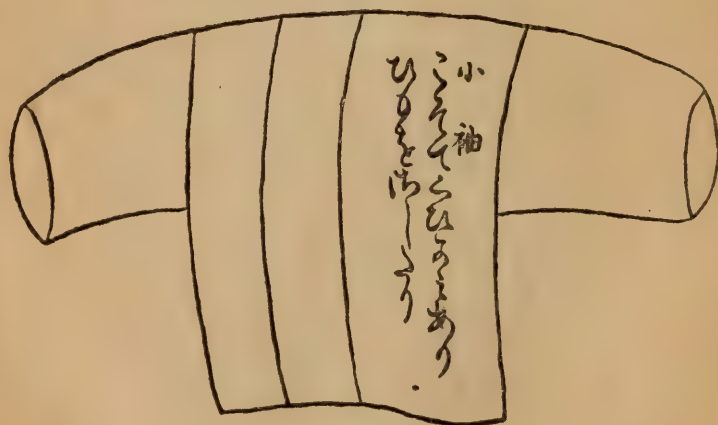
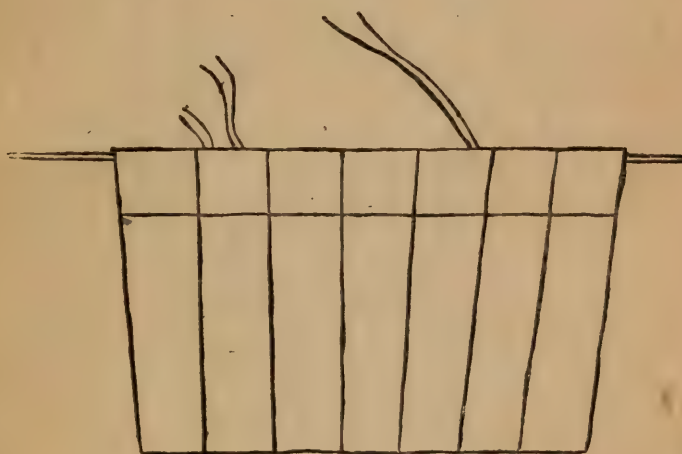
をきらで。御いたゞきよりひきこして。右の
もとゆひにゆひつけよ。
(首書)馬にのらせ給ときは。うはてにしりはか
く。つねのそくたいの定なり。すきゆきがてにてかきておりしたり。
とのゐ(宿)さうぞくといふは。つねのいくはん(衣冠)
なり。さしぬきしたのはかまつねのごとし。
そのうへにわきあけをきて。かりぎぬのを
びをするなり。しりのかけやうはそくたいに
おなじ。きまへもたけとひとしくきすべし。
とのゐさうぞくには。さげびづらとてゆふ
なり。ことのしだいはおなじことなり。ゆふ
やう又おなじことなり。もとゆひたるいと
をまむすびにむすびて。きはよりきりてな
かをゆはず。すそをくまでよく／＼かた(肩)の
まへにかみのすそなでさげて。むらさきむら(紫村)
ご(濃)のいとのみつぐりにこおよりのほどに

よりたなる九尺ばかりあるして。もとゆひのむらさきの糸のうへをもろかぎにゆふなり。そのかぎはながさはちごのちのほどまでさがるべし。すそはひざにあたるほどまであるべし。いとみじかくばそれよりみじかくてあるべし。かみのすゑも。このいとのすそも。わなも。うらうへながらかたのまへよりさがるべし。これもわらうだにすへて。まづひだりをゆひてまはしてゆふべし。このふときいとをあしづをといふなり。かくあしづをしてゆひたるうへにうるはしきびづらのやうにはさがたをゆふことあり。とのゐさうぞくのとおもひて。ひきつくらふおりの事也。おほかたそくたいのさうぞくにははんぴのをといふものあり。それをきんだい。ほそきをしてくびをゆひて。ひきまはしてしたる。ことやすきれうなり。うるはしくはさがりたるをのやうにて。八尺ばかりにてふたすぢあるなり。ゆふやうかきにくければ本をしてぐしたり。ゆふべきやうは。まづうへのはかまをひきのべてをきて。そのうへにこしのもとよりあてゝ。あしつぎのしもにこのはんぴのをのひろさのほどをさげてゆふなり。これはひすべし。ゑふのわきあけなどにはゆふべきをつねにはゆはず。わらは殿上の人はかならずゆふべし。

〔原本圖在此間今依便宜移下〕

らいふくをきること。

まづえぼうをして。びんをかきておる。つぎにしたうづ一枚をはく。つぎにこそでのうへにおほくちをきる。そのうへにもをうしろよりまへにひきまはして。そうのもきるやうにして。ものうしろなるをを右のかたよりひきこして。まへのひだりのわきなる

らいふくのやう

くびなうちへおることは。こそでのくびのひものしもにあたるほどになるべし。

かぶり(冠)を(緒)あり。つけどころはみゝのまへなれども。みゝのかみよりみゝのうしろへこして。おとがいのしたいにゆひて。さがりをくびかみにおしいれたり。又うるはしくくびかみのと(外)にみする人あり。

これはも(裳)なり。たゝみやう。そう(僧)のものていなり。こしつきをして。しもはみどり(緑)いろのけもん(文紗)さなり。かみはしろきけんもさ。きるをりはこしにひきまはして。まへにひきちがへてゆひて。うしろにつけたるを(緒)かたよりひきこして。まへなるをにゆふべし。

くりかはのくつ。おもてにあかくすをぬりて。うらににしきのうらをなしたり。おなじきしきあり。あかきいとのをつけたり。

みじかきをにむすぶ。さげじれうなり。うへのはかまのすそよりもをば三寸あげてきすべし。そのうへにこそでくびかみあり。もすそより四寸ばかりあげてきる。三寸つねのことなり。小そでより大そで三寸あげてきる。おほかたうへのはかまのすそよりおほそでのすそまでに一尺につもるべし。三寸づつあげてきるべきなり。したおびをせず。大袖にはひもどものあるをかけてあるなり。したがへのつまなるひもをひだり

しろぢのにしきのしたうづなり。

のわきなるにかくべし。大袖ながくばしもを一定にして。かみへなであげてしたおびをして。そのうへにとぢて。ひらをのみじかきやうなる物をあてゝ。まへにむすびて。した一枚をうへにかへして。むすびめをかくして。うらうへのはたをとづべし。ながくばかたかぎ。みじかくばまむすびにもすべし。ながくてかぎのみへば二枚がなかにかくしてとづべし。さがりは一尺よばかりなり。ひらをよりはみじかし。かみろく寸にちの

しもなどにあつべし。まへに右のひざにあてゝ。たまのつらぬきて はたのやうなるをさげたり。ぎよくはいといふなり。かみにあるををずのしたよりとをしてゆふなり。ゆひめをかくしてずにはさめ。ひだりのわきのしたにたんずとてきりひらをのやうなるものをさぐ。ていはずにおなじ。是にひすることは。ずのむすびめをかくしてゆふばかりなり。したうづ。しろぢあかぢつねのことなり。

かぶりにみゝのほどにあたりて左右にをあり。そのををみゝのうへよりみゝのうしろへこして。をとがひのしたにゆふべし。すゐはつゆなどして。くびかみのうへにみせたる人あり。又くびかみのうちにをしいれたるつねの事なり。をりえぼうしのうへにとうしみのわをふとらかにして。かみぼそにして。みへもよへもかさねいれたり。かぶりをふかくいれじれうなり。

くりがはのくつにをつきたり。あしのうへにゆふべし。たちをはかず。尺をもつ。げの尺。もしはつねのもちゐさく。うへのはかまからあやをきるべし。

大そで小そで。四ゐのうへのきぬのあかみたるにすはうのうらをつく。あをいろのもあり。大そでのくびはつねのきぬのやうにすそまでつけくだしたるをうちざまにをりとほして。こそでのくびかみのうへにひきまはしたるなり。ひもはみすべし。大袖よりはこそでのはながし。

中少將のよろひきるやう。

かぶりつねのごとし。くゐんえいをしておひかけをす。おほくちにあせとりをきる。うへのはかまをきて。かりぎぬのおびのやう

についたてなるわきあけをきる。したがさねきず。はんぴなし。わきあけのうへにかゝりぎぬのおびす。おびさゝず。よろひをきる。くびかみなどをさいしきて。そでもなくてうちかけのやうなるくさずりはあり。そのうへにたちをはく。ひらををまへにゆふことつねのごとし。たゞしゆひてのち。むすびめをらいふくのずのやうにかくして。一枚をかへして。ふたつがなかにわなをかくしてとづべし。さがりのながさ常のごとし。やなぐゐををふ。うはおびはひくべし。ひかぬは常のことなり。たゞのをりはうしろをばうはてのかみよりこしてゆふなり。これはおびをさゝねば。たゞひらをのなかにあてゝゆふべし。

うはおびをひくこと。

いたつきにからみて。しものむすびたるをときて。いたつきにはからみながら。ながきかたをうしろにひらをのうへにひきまはして。まへにひらをのうへにかたかぎにゆふなり。うはおびのすそにつゆつけたるをひらをのすそにひとしくせよ。みじかくばちからなし。又うしろよりひきまはして。もとのいたつきのもとにむすぶこともあれどもそれはわろし。

おひかけをかくる事は。このゑづかさ。ゑふのかみ。大將常のことなり。大臣の大將はかけず。行幸にもけにも。ひらやなぐゐにかけてもたせたり。

さがりは二枚あるをうへより一枚かみより

ひらをかへすべきやう。

しもへかへす人あり。それはむすびめをそんじてわろし。うへのおもてなるべきかたをせんにあんじてしたにかさねてしたよ

り一枚をうへざまにかへして。その二枚がなかにかぎをかくしてとづべきなり。

おとこになるあいだのこと。

くしたなごひをひろげて。なかのほどにくしのはこのふたをきて。ふたのうちにだんし二枚しきて。そのうへにもとゆひ。くし二枚がうち。ときぐし一枚。かうがい。たかむながたな。つかをかみにてつゝむべし。かみひねりふたすぢいれたり。くしたなごひの左右をてばこのふたのうへにをしおほひて。またしりかしらをうらうへをし。をりかけてつゝむやうにするなり。ゆするつきに水をいれてやないばこのふたにすゑてぐしたり。又かぶりにてあれば。こじをはなちて。それもやないばこにすゑたり。くしたなごひはながさ七尺ばかりにて。三のばかりあり。おもてあやうすかういろなり。うらこきうちたるひとへもんなり。

くしたなごひのうちにはだんしを二枚たたみながらしきて。そのうへにたかうながたな。もとゆひ。くし二枚がうち。ときぐし一枚。かみねり三すぢをぐせらる。これも兩せちえのぎに□かるべし。ならうところは。だんしをひきちがへてしくとこそならいたれ。ふしんなり。のちのれうにしるしをくなり。すけゆきがてにてかきておしなり。

かはらけにしそくをきて。をしき二枚にすへたり。さぬきわらうだ一枚ぐすべし。もしわれとりはちをせば。ざによりてわらうだしきたらんにひだりのひざをさきにかけてゐて。くしのはこのふたをつゝみながら。ちごのまへによこさまにをきて。うるはしくひろげて。ちごをうつぶしにひざをおりてふせて。もとゆひをとりて。くしのはこ

のうへにひきのべて。をきてかみをかみざまにかきなして。おなじよりうるはしくわけて。まづひだりのかみをうるはしくときて。かみひねりしてゆひて。またみぎをときてのち。とりあはせてもとゞりにとりて。びんぷくひきてのち。しきたるかみをとりて。かみのするゑをふさのほどをのべて。つゝみて。かみひねりしてゆひてきるべし。きらんことはよういあるべし。ふさのほどみじかくするな。うるはしくもとゞりをとりて。ふさをはさまんにあしからじのれうなり。かみばかりはきれねばかみのうへをきる也。あしくきりてちごのひたいきるな。よういあるべし。とくとりはつるがよきことなれば。ながきもとゆひをばふたへにおしをりて。みじかくしてとるなり。とくとりはてんれうなり。もとゞりとりはてゝ。みづしてけづりあげてのけば。かくはんの人のかぶりをもえぼうしをもせさするなり。かみのすゑはちごにみせで。きりはてゝひざのしたにをしかひて。くしのはこのふたにいれてのく。こじをはなちたるかぶりなれば。まづこじをもとゞりにいれてのち。ひたいをせさするなり。又こじをはなたぬつねのことなり。かうがいにてひたいをわたして。びんをかくまねをす。さうぞくはまづわらはさうぞくにてもなをしにてもきて。おとこになりて。かへりいりてそくたいをして。いではいしてのち。もとのざにつきて。まへのものはまいらするなり。もとゞりのふさをゆふことなし。

御もとゞりをとること。

御くしのはこのふたにかみをしきて。もとゆひ。御くし二三枚。かうがい。かばさみをい

れたり。とることつねのごとし。たゞし御もとゆひをのごふことは。まづかみをすこしやりて。ほそくたゝみて。びんぎならんかけがねのつぼにひきとほして。はなづらのやうにむすびて。それより御もとゆひをひきとほして。すゑをとりあはせて。ひろきかみをたゝうがみのやうにみつにたゝみて。わなのところを御もとゆひふたすぢがなかにいれて。ひきのべてのごひて。御もとゆひのなかのほどをぞもとつけたるはなづらのやうなるかみにきし／＼とすりのごふやうにうらうへのすゑをとりてすべし。御くしのはこのふたをきて。御もとゆひのすゑを六七寸ばかりをきて。ひだりの手してとりて。さりげなくてながきかたを右の手してひだりのひぢのほどにをしあてゝとりて。そこをきとひねりてをきて。そこより

もとまきのはじめをば□しそめて。いつからまき。おほくてなゝからまきにすぎず。もとまきおほかれば。もとゞりのとくぬくるなり。又ひぢにあてねば。六七寸のほどよりながきかたをくしのはこのふたの二方にひきあつることも有べし。うちの御もとゞりとることもおなじことなり。ふさのゆひやうかはるなり。ふさをふたつにわけてこもとゆひふたつして。べち／＼にふたつにゆふなり。そのゆひやうは。うらうへながらかたかぎにゆふなり。そのかぎのてをひだりみぎにむすべば。ひだりのはめのこむすびにせよ。それがよきなり。もとゞりをとることはならふによるまじ。てんせいのてきゝによるべし。

かりぎぬのいろ／＼やう／＼。

おりもの。すはう。もえぎ。しろき。こうばい。きなる。このいろどもはわかくおさなき人。いはひにみなきるいろどもなり。

すはうはうすきすはうにうらこきすはうのきぬ。あをきひとへにても。こきひとへにても。むらさきのさしぬき。こきしたのはかまをきるべし。うらこきすはうのかりぎぬ。すはうのにほひのきぬなりとも。ひとへしたのはかまをなじことなり。かりぎぬすはうにても。もえぎのきぬにくれなゐのひとへならば。くれなゐのしたのはかまくるしかるまじ。おもてすはうなりとも。かばざくらなどならんには。いはひのことにはきるべからず。もえぎのかりぎぬには。くれなゐのにほひにこうばいのひとへ。くれなゐのうすやうにしろきひとへ。こうばいのにほひにくれなゐのひとへ。うすこうばいにあをきひとへもくるしからず。又やまぶきのにほひにあをきひとへ。又きなるひとへもよし。これもさくらもえぎなどにては。いはひにはきるまじ。こうばいのかりぎぬ。うらまさりにてもうすこうばいにても。もえぎのきぬくれなゐのひとへ。むらさきにほひくれなゐのひとへ。むらさきのうすやう。しろきひとへ。これらをきたるよし。たゞしこうばいのかりぎぬは。としのうち正月十五日のうちにきるべし。十五日すぎてはきぬことなり。うすいろのきぬにくれなゐのひとへもよけれども。うすいろのきぬをいはひにはきぬなり。

大臣殿五ゐの少將にて十五六のほどいまだむらさきのさしぬきさせ給しとき。とばの上なんじのくらべむまの日。きくち

ばのひねりかさねたる御かりぎぬ。おみなべしのすゞしのきぬ。しろきひとへにうすいろのさしぬきのあをきうらつきたるをとく大じ殿きせまいらせさせ給たりければ。とばの院。かやうのなりはこの世にはいまはいともみえぬをめづらしくいみじとぞおほせられける。コノカシラガキドモ。コ大臣殿ノ御テナリ。

しらあを。むらさきのにほひにくれなゐのひとへ。もえぎのきぬにくれなゐのひとへよし。これもさくらにては。いはひにはきるべからず。うすいろのきぬもよけれどもいれず。たゞあらむには。うすいろのきぬにくれなゐのひとへつねのことなり。むめのかりぎぬにては。いはひにもきるべし。

うらやまぶきのかりぎぬにむらさきのにほひくれなゐのひとへも。又むらさきのうすやうにしろきひとへも。もへぎのきぬにくれなゐのひとへも。うへこきすはうにてしたへにほひてあをきひとへも。うつくしきものなり。

いとゆふむすびかりぎぬ。おさなき人のやなぎさくらむめなどにてきるものなり。

ふせんれうは。もえぎ。すはう。しろき。きなるもあり。わかき人つねにきるものなり。このいろ／＼はおりものにをなじことなり。ただしいはひには。からものはうちまかせてはきぬもの也。

わかき人はなつのかりぎぬはひねりかさねてをきる也。三へなりともひねりなり。色によるべし。コ殿ノ御テナリ。

けもんさは。わかき。をさなき。おとな。いろこそかはれ。つねにきるものなり。

とくさ。うすいろ。うすはなだ。しろあを。

このいろ〳〵にしろうらつけて。しろききぬ。しろきひとへ。おとなしき人みなきる。たゞしはりうらはうすはなだ。しろきにはつけてもきるつねのことなり。しろあをのしけもんなどにてあるにはりうらなどつけては。いたくおとなしき人はきず。みるいろのしろうらは。わかき人はきず。なからおとなのしろぎぬもうすいろのきぬも。かさねてきたるよし。

わかき公卿もとくさのかりぎぬきるときは。うすいろのきぬにしろききぬかさねてきるには。うすいろのさしぬききるほどのよはゐなれどもくるしからずとぞとく大じ殿おほせられし。コ殿ノ御テナリ。

あかきかうのうらしろき。このいろ。わかき人もうすいろのきぬにもしろぎぬもよし。又おとなしき人もきてん。

にがいろのうすいろうらつきたるは。わかき人。うす色のきぬもきなるもしろきもかさねてきれども。うすいろはくろみあひたるやうなり。きなるきぬは秋のはじめなとめまたなか〳〵三月にきるものなり。

ひはだいろのしろうらといふは。あかいろにしろうらのつきたるなり。これもうすいろしろぎぬかさねておとなしき人のきるものなり。

このみるいろ。あかきかう。にがいろなどは。なからおとな。もしはわかきもきる。このいろいろきぬほどのおとなもあり。ふたあゐ。こきはなだ。はなだのしろうら。もえぎ。あかいろ。くちば。うすあを。はじ。むしあを。ふたあゐのかりぎぬには。すゞしうらはわろきものなればつけず。はりうらにもあるなり。きぬはくれなゐ。やまぶき。こうばい。き

なる。もえぎ。うすいろなどもきれども。つねにはくれなゐのきぬきず。やまぶきにあをきひとへよし。

紅紫。このいろは。けのいろにあらず。本書にもみえたり。コ殿ノ御テナリ。

こうばいのにほひにくれなゐのひとへよし。きなるにくれなゐのひとへは秋きるなり。つねにはきず。きじぬを春きるには。きひとへをきるべし。もえぎにくれなゐのひとへよし。うすいろにくれなゐのひとへは。たもとのくろみあひてわろし。このきぬどもは。わかくをさなき人のかさねてきるなり。すこしおとなだつ人はしろぎぬよし。

ずいじんはてんとうぎぬとて。あはひをきらはず引かさねきるを。あきすけの三ゐといひし人は。あまりずいじんをこのみて。うすいろのきぬにきなるきぬひかさねてきて院へまいりたりければ。うすいろにしろぎぬかさぬるはつねのことなり。これこそあまりのことなれとて。とばの院わらはせ給けるとかや。たゞしうす色にかぎらず。おとなしき人のくれなゐむらさきのきぬなどきるほどの一日のはれには。しろききぬをかさねてきるはつねの事なり。つうじぎぬとなづけたりとかや。コ殿ノ御手也。

こきはなだのかりぎぬも。すゞしうらはわろし。ねりうらのよきなり。きぬはふたあゐのにおなじ。あゐ色はいづれもきるべし。

はなだのしろうらはをさなき人はきず。きぬも又いたくくれなゐやまぶきなどいろこきはすゞしうらにはわろし。きなるしろきなどよし。

もえぎのかりぎぬ。はりうらなればやまぶき

うすいろよし。きなるきぬはこざうしきめかしくてわろし。やまぶき□あをきひとへならねども。こきうすきにわたるひとへよし。
うすいろまたふたつにくれなゐのひとへならねども。しろぎぬかさねて。しろきひとへにてもきる。
あかいろはうすいろうらなれども。うすいろのきぬやまぶきつねのことなり。わかき人もえぎのきぬにくれなゐのひとへうつくし。
くち葉のかりぎぬ。ねりうらすゞしうら。つねのこと。きなるきぬきれども。きなるはいたくさだまりたり。うすいろしろぎぬあしからず。
はじのかりぎぬ。うすいろのかりぎぬ。あきのはじめにすゞしのきぬに。ひとかさねにてもねりぎぬにてもよし。しろぎぬまたよし。
むしあをのかりぎぬ。うすいろのはりうらならば。山ぶきよけれども。秋のはじめにきなるきぬ。うらこきすはうのすゞしのきぬなど。ひとかさねにてわかき人のきたるよし。なか〳〵秋すぎて。としのうちにはしろききぬよし。としかへりてはむしあをはきぬいろなり。
あをいろ。からあや。けもんさ。ふせんれうにても。うすいろうらこきうらをつけて。はれにきるものなり。
あをぐろといひしものは。むしのあをがいますこしこきにあをうらつけて。むさなどのきる物なり。
からあや。しろあを。やなぎさくら。ひそく。しろあを。うすいろのきぬ。しろぎぬともによし。やなぎまたこのきぬどもによし。

さくらのうらはわかき人はこくてもきる。おとなしき人はうす〳〵とあかうらにつけてもきず。しろぎぬつねはよしとおもふをり。くれなゐやまぶき又よし。

ひそく（秘色）のかりぎぬうすいろうらなり。これもつねはしろぎぬよしとおもふをり。くれなゐやまぶきまたつねのことなり。秋はひそくにうすあをうらつけて。こぐり（小栗）いろとておとなしき人はきるなり。これらは五ゐはみなきるものなり。

首書　ひそくはなを一日のはれにきるいろなり。そののちは。けにてもきてん。これにあらずして。はじめよりしろぎぬなどにはきず。コ殿ノ御テナリ。

おり（織）あを（襖）。うすあを。しろあを。からかみ（唐紙）。うすいろ。これらはみなしろきすゞしうらなり。おりかりぎぬねりうらはつけぬことなり。

又さぶらひ（侍）もしはそだいぶ（諸大夫）とおもふをりつけてもきる。うすあをのかりぎぬにはうすいろのきぬよし。うすいろにはしろきにしかず。

首書　うすいろのおりかりぎぬは上らうはきるまじきこと也。やしろのつかさ（社司）やうの物。このみきる色なり。

からかみ（唐紙）又うすいろのきぬもよし。しろきもよし。おりかりぎぬはなつもふゆも五ゐのためにいみじき物なり。あさぎのさしぬきにもうすいろにもきたるによし。

うす物けんもさ（顕文紗）におなじやうの物なれば。いろおとなもわかきもこゝろにあり。いとをそめてうすあをなどにおりたるが。あやのやうなるものおりうす物といふは。くら人などもきる物なり。

ちやうけむ（長絹）のかりぎぬおとなしき人のきるも

のなり。よりく〵りをさしてきるなり。又そ(諸)だいぶ(大夫)もさしてきる人あり。まことしくおとなしくて。きる人はく〵りさ〵でたもとぬひこしてもきるなり。

ぬ(布)のかりぎぬ。ふたあゐ。もえぎ。あをに(青丹)。くちば。かう(香)。すはう。うすあを。をみなべし(女郎花)。こん。はなだ。しらはり(白張)。

このいろ〳〵のぬのかりぎぬ。殿上地下の六ゐつねにきるものなり。このなかにも。ひとへかりぎぬにてきるいろは。かう。あをに。くちば。もえぎ。すはう。しらはりなり。ふたあゐ。をみなべしなどは。うらつかではわろし。をみなべしはすゞしうら。ひねり(捻)かさねてよし。

(首書)内大臣殿はふたあゐ(二)のぬののひとへにて。るりいろのさしぬき。とばの院(鳥羽)の六月の御逆修にきさせ給たりけり。中將の御時なり。ヤガテコ殿ノ御テナリ。

この別當殿(コノ別當實家ノコトカ)のきんじきの中將のころ。しらはりのぬのかりぎぬをうすいろのさしぬきにき給たりしをば。ある人上ろう(臈)のぬのかりぎぬはそめて(染)をきることなり。しらはり(白張)はきぬことなりとぞ申し〵。もろもと(師元)と申し物しりに外記のことなどにはにずや。されども宇治の入道どの(忠實)のおほせなど。よくおぼえたりし人なり。コレモコ殿ノ御テナリ。

ふたあゐ(二)はすゞしうらはわろければ。はりうらすこししたゝかにはた(端)ぬひたるもわろし。このみきるべからず。くちば(赤朽葉)すゞしうらもうつくし。あかくちばひとへにて。すゞしうらつけたるは[ ]うすくちばのきうらつけたるは。もえぎ(萠黃)のきぬもうすいろも。またなつすゞし(生)のひとへにもうつくし。

あをに。もえぎ。山ぶきのきぬも。うすいろも。又なつすゞしのひとへにてもよし。いつもきるいろ也。

うすあを。しろうらひねりかさねて。うすいろ山ぶきのきぬ。なつすゞしのひとへにもよし。

をみなべしは。六月七八月などはなちてはきぬものなれば。すはうのしろうらのすゞしのきぬなどよし。

しらはりは。六ゐは五月六月などにきる物なり。常にはきず。かうのかりぎぬはいつもきる。をみなべし。うすいろのきぬ。もえぎなどもよし。なつすゞしのひとへにてもうつくし。

こむ。ふたあゐは。しめらぬものなれば。なつあつきころ。すゞしのひとへにきたるうつくし。ふゆはいたくきず。このなかにこむふたあゐにるりいろのさしぬき。かうのかりぎぬもおなじ。さしぬきなどにはかんだちめもはれなどにきる物なり。

しらはり。かう。こん。ふたあゐは。五位もきる物也。ぬのかりぎぬにはこれこそつねに五位のきる。白はりをつねにきることはせず。きんだい冬もきる。いはれぬことなり。

すはうのかりぎぬ。六ゐはいつもきるべし。きぬはやがてうらこきすはうもくるしからず。うすいろもよし。春うらやまぶきよし。秋きぎぬよし。秋はきくとても。春はぼうたんもちつゝじとても。か□にあるいろなり。うすもえぎのきぬもうつくし。

さしぬき。

むらさき。はしたいろ。うすいろ。ねりあさぎ。はなだのうちさしぬき。もえぎのさしぬき。むらさきのおり物のさしぬき。いろゆり

たる殿上人も。うちのくら人などきる。たゞのむらさき。わかきかんだちめ殿上人をさなきわかき五位六ゐみなきることなり。かならずはらじろをさすべし。
はしたいろ。これ又おとなだつわかき人などはきる事なり。
うすいろ。又あさぎ。もえぎなど□も。殿上ぢ下の五ゐみなきることなり。
うすいろには。おなじいろのくゝりをむすびたるなり。はらじろをさゝず。
ねりあさぎは。なつふゆおとなしき人のきるものなり。そだいぶなどは五ゐになりなば。とくきたるにあしからず。うすいろはなつさしぬきのむつかしきに。□
はなだのうちさしぬきは。をさなき殿上人もしは六ゐなりとも。こととあらんにはきたらんくるしかるまじ。

もえぎのさしぬきは。いろをゆりたらん人はきたらんくるしかるまじ。わらは殿上の人などはつねにおりものにてきるなり。くゝりおもての色にてくみさげけり。
ほり川の院のくらゐの御時。それがし。ただいまなおぼえず。五十よにしてはじめてくら人になりたりける。もえぎのおり物のさしぬきをふみちらして。そはわきちて。あさがれゐにまゐりたりければ。みかどゆゝしのさうぞくのさまやとて。すこし御へいきうのていなりければ。かしこまりてついゐて。君のゆるしたびたるいろなれば。しろしめすにおよばずと申ければ。わらはせ給けり。コ殿ノ御手ナリ。
なつさしぬき。ふたあゐ。るりいろ。うすいろ。おりあさぎ。しをんいろ。
ふたあゐは。おさなくわかきみなきることつ

ねのことなり。はらじろをさすべし。

るりいろは。わかけれども殿上人などのあつきをり。ふたあゐもあつれたればきる物なり。

うすいろは。つねに五ゐ六ゐみなきる物なり。

おりあさぎは。五ゐはわかきもおとなしきも。夏さしぬききる人はみなきるなり。

しをんいろは。つねにきる物にあらず。秋はじめにきる物なり。うすいろのなつさしぬきのおもてにうすあをのねりうらをつけて(蒲)。すはうのしろうらのかりぎぬ。すゝきをみなべしのすゞしのきぬなどうつくしきものなり。

なつうすいろをきる。五ゐはあさぎをきませたるくるしからぬことなり。なつふゆあさぎのねりたるをきる人は。なつもなつさしぬきはきず。またうすいろのさしぬきなつもふゆもきず。いはひのことなどにてかみなどよりきせらるゝにはきることなり。ぢ(地)下のそだいぶ(諸大夫)なれども。かすがまうで(春日詣)などには。おりもののかりぎぬ。からあやのさしぬきなどはきることなり。

きぬは。六ゐはにほひもうすやうも。ふたつ(二)みつきるつねのことなり。殿上人またさたにおよばず。ぢ下の五ゐもことゝあるには。しろぎぬ二がうへに。くれなゐ。紫。うすいろもかさねて。みつもきるなるべし。きぬ□いふなり。くれなゐかさぬれば。しろうらをつくるなり。

むらさき。はなだのきぬ。うすいろはしろきひとへがうへにもふたつがうへにも。かさねてきるはつねのことなり。

ひとかさね(一重)にきるきぬのいろ。

うらこきすはう。はるはなでしことてきる。

夏もなでしことても。又うらこきすはうとても。わかき人おさなききる。
うす色又はる秋よし。
うすあを。四月にわかかえでとてうつくし。きなるは秋よし。春はなか〳〵。ふたつばかりにひとへかさねて。たゝらへいろとてぞきる。
しろぎぬは。おとなしき人すゞしのひとへかさねても。ねりひとへにてもいつもよし。
一所の殿上人ならぬ六ゐは。さしぬきはうちまかせぬことなり。かゝりばかまをきるべきなり。六ゐのしんなりとも。一所のひくら人などにても。さしぬききるに。この比はむらさきふたあゐにところをかず。殿下の勾當などはけにもきぬものなり。
かりばかまは。なつふゆはこしにてみゆるなり。うすくあついなるは。宮のさぶらひ所のしうのきるなり。かみざまのは。うぢぬのの かゝりばかまなどのよきなり。たゞしかくいへども。人のさうぞくみなあらぬことになりにたり。はからひておりによるべし。六ゐなどははれにもけにもぬのかゝりぎぬをきれども。きんだいふせんれう。けもんさ。をきてきぬなり。はれには。さはなにをかきるべき。
ずいじんはくれなゐ。うすいろも。やまぶき。むらさき。ふるくはろくのきぬを。ひろひあつめぎぬとてきけるなり。
このゑの大將のずいじんは。いろをつくしてなにをもきれども。こきくちばかみしもはきぬことなり。中少將のににてわろきゆへなり。大將も中少將のもかゝりばかまは元三のほどはこうばゐにてあれども。二日も三日も行幸あれば。そめわけをきてこうば

ゐはきず。いかさまにも三日ののちはきぬなり。さぶらひゑふ(衛府)などのさもあるがおとなだつは。みるいろのうらしろきかみしも。とくさのうらしろきかみしもなどはつねにきるものなり。

(首書)行幸なきとしは七日まできるなり。コ殿ノ御テ。コウバイバカマハ十六日ノセチヱマデトモキコエタリ。三日ノウチ行幸アリテ。ソメワケニナリヌレド。七日ハマタコウバイノハカマヲキルトコソキコエレ。元三七日十六日。コレナラデハ。サテノ日ハイカサマニモスハウバカマヲキルナリ。物□御モモヱギ□ハカマナリ。

女ばう(房)のさうぞくのいろ。

春夏秋冬のいろ〳〵。いはひにきるいろいろ。

うらこきすはう(蘇芳)。

おもてはなか(半)らほどのすはうの。うらはこ(濃)きすはうなり。あをきひとへ。

すはうのにほひ。

うへはうすくて。したざまにこくにほひて。

あをきひとへ。

ま(松)つがさ(重)ね。マツガサ子ハ。アチキチウヘニテアルチ。ミルヤウニオボユルハヒガゴトカ。

うへ二つすはうのこきうすき。もえぎ(萠木)のにほひたる三。くれなゐのひとへ。

しろぎぬつねのことなり。

すはうのにほひ。しろぎぬにはしこきうちをかさぬべきなり。

くれ(紅)なゐのにほひ。

うへくれなゐにをひて。したへうすくにほひて。こうばい(紅梅)のひとへ。

くれなゐのうすやう。

くれなゐにほひて三。しろき二。しろきひとへ。

こうばいのにほひ。
うへはうすくて。したへこくて。あを（青）きひとへ。またまさりたるひとへをもきる。
もえぎのにほひ。
うへはうすくて。したへこくにほひて。くれなゐのひとへ。
うすもえぎ。
おもて はみなうすあをにて。うらの すこしこきなり。これもくれなゐのひとへ。
やなぎ（柳）。
おもてはみなしろ（白）くて。うらみなうすあを。くれなゐ（紅）の ひとへ。又うらにほひて おもてはしろくて。うらはしたへこくにほふ。
十月一日より ねりぎぬ（練衣） わたいれてきる。
きく（菊）のやう〳〵。
おもて（面） みなすはうのにほひ。うらみなしろし。あをひとへ。

おもてすはうのにほひ。うすきなる二。あをきか。こきうすきくれなゐのひとへ。
もみぢ（紅葉）のやう〳〵。
くれなゐもみぢ。
くれなゐ。やまぶき。きなる。あをき。こきうすきくれなゐのひとへ。（スハウヒトヘトソオボユル）
はじもみぢ。
きなる二。（キナルハヒトツニテヤマブキチニホハカスナリ）やまぶきくれなゐ。すはうくれなゐのひとへ。
あをもみぢ。
あをきこきうすききなるやまぶきくれなゐすはうのひとへ。
かへで（蝦手）もみぢ。
うすあを二。きなるやまぶきくれなゐ。くれなゐのひとへにても。すはうのひとへにても。
もぢりもみぢ。

あをきこきうすき二。きなるやまぶきくれなゐ。うらはすはうくれなゐ。やまぶきこきうすきくれなゐのひとへ。
五せちよりはるまできるいろ。
むらさきのにほひ。
うへこきむらさきよりしたへうすくにほひて。くれなゐのひとへ。
むらさきのうすやう。
うへよりしたへうすくて三。しろき二。しろきひとへ。
くれなゐのにほひ。さきにしるしたり。
くれなゐのうすやう。さきにしるしたり。
こうばいのにほひ。さきにしるしたり。
うらまさりたるこうばいは。おもてうすくてうらまさりてあをきひとへ。
やなぎ。さきにしるしたり。
もえぎ。さきにしるしたり。

やまぶきのにほひ。
うへこくてしたへきなるまでにほひて。あをきひとへ。
うらやまぶき。
おもてみなきなり。うらみなこきやまぶき。
あをきひとへ。
はなやまぶき。
うへよりしたまでみな中らいろのやまぶき也。あをきひとへ。
むめぞめ。
おもてはみなしろくて。うらみなこきすはう。あをきひとへ。
むめがさね。ムメガサ子ハ。ウヘコウバイナルモ。アカイロナルモアルナリ。
うへしろきこうばいにほひて。くれなゐ一。こきすはう。こきひとへ。あをきひとへも心
心なり。
ゆきのした。□クレナヰノヒトヘコソヨケレ。アヲキハワロシ。

しろき二。こうばいにほひて三。あをきひとへ。

むらさきむらご。

むらさきにほひて三。あをきこきうすき二。くれなゐのひとへ。

ふたついろに。

うすいろ二。うらやまぶき二。もえぎ二。くれなゐのひとへがさね。

フタツイロハ。モエギヲウヘニカサヌルコトモアルトカヤ。サレドツ子ニハコノ定ニウスイロヲウヘナリ。カズオホクスルニハ。コウバイナドコソ。

いろ〳〵。

うすいろ一。もえぎ一。こうばい一。うらやまぶき一。うらこきすはう一。くれなゐのひとへ[　　]又さくらつゝじとて。さくらのきぬ。さくらもえぎのうはぎ。かばざくらのからきぬなどをきる。

四月うすぎぬにきるいろ。

さうぶ。

あをき。こき。うすき。しろき。こうばい。こきうすき。しろきすゞしのひとへ。

わかさうぶ。

おもてあをきこきうすき三。ふたつはうらしろし。しろおもて二。うらこうばいのにほひ三。しろきすゞしのひとへ。

ふぢ。

うすいろのにほひて三。しろおもて二が。うらあをき。こきうすき。しろきすゞしのひとへ。又くれなゐのすゞしのひとへ。

四月ノアハセノキヌニハ。イカサマニモ。シロキスヾシノヒトヘヲカサヌルコトニコソアメレ。マツリヨリノチ。スヾシノキヌニセンコソ。クレナ井ハカサ子メ。アハ

セノキヌニハ。ナニイロニテモアレ。シロキヒトヘト思ハヒガゴトカ。

つゝじ。

くれなゐにほひて三。あをきこきうすき二。ひとへしろきくれなゐ。こゝろ〳〵なり。

花たちばな。

やまぶきこきうすき二。しろき一。あをきこきうすき。しろひとへ。あをひとへ。

うのはな。

おもて みなしろくて うらしろき二。きなる一。あをきこきうすき二。うらしろきひとへ。

なでしこ。

おもて はすはうに ほひて三。しろきおもて二。うらすはう。くれなゐ。こうばい。あをきこきうすき。しろき。くれなゐひとへなり。

しろなでしこ。

おもてみなしろくて。うらすはう。くれなゐ。こうばい。あをきこきうすき。しろき。くれなゐひとへ。こゝろ〳〵なり。

ぼうたん。

おもてみなうすきすはう。うらみなしろし。すゞしのひとへ。

わかかえで。

みなうすもえぎ。くれなゐ。しろきひとへ。心心也。

もちつゝじ。

すはう三にほひて。あをきこきうすきしろひとへ。

五月ひねりがさね。

さうぶ。うすぎぬのいろにおなじ。

むらさきの うすやう。うすぎぬ のいろにおなじ。

くれなゐのうすやう。うすぎぬの色におなじ。

花たちばな。うすぎぬにおなじ。

なでしこ。うすぎぬにおなじ。
ウスギヌハ。ウラノイロ〳〵ナルニ。ヲナジヤウニハイカナルベキゾ。オモテノイロノ定歟。
かいつばた。
うすいろにほひて三。あをきこきうすきくれなゐのひとへつねのことなり。□ばかりなり。
六月よりのひとへがさね。
すはうくちば。くれなゐうすいろ。うすあを。
からかみそめつけ。ふせんれう。
からかみきなるに。しろたてあをきかさねをしたり。けもんさふせんれう。これらはみなふたへなり。すはうくちばくれなゐうすいろうすあを。これらはみなしらがさねしたり。
カラカミハヤウ〳〵ナリ。キガラカミアヲガラカミツ子ノコトナリ。スハウウスイロウスクチバ。ウヘシタオナジコサナルモアリ。ツ子ノコトナリ。
七月七日よりきがへする。
はぎうすいろにあをたて。したにあをきかさね。
をみなべしきなるにあをたて。したにあをきかさね。
オミナベシナドハ。六月ギヲムノ御ヱ□□ナドヨリキル。ツ子ノコトナリ。
八月一日より十五日まで。ひねりがさね。
くれなゐのうすやう。
むらさきのうすやう。
すゝき。
すはうのこきうすき三。あをきこきうすきしろひとへ。
アヲキヲウヘニカサ子テ。ナカ□アリテ。シタニスハウヒトヘ□ニホヒテ。ヤ

ガテスハウヒトヘト思ハヒガゴトニヤ。
りんだう。かいつばたにおなじ。
きく。ねりぎぬにおなじ。
もみぢ。ねりぎぬにおなじ。
八月十五日より九月八日までは。わたいれぬ
すゞしのきぬ。すはううすいろしろききく
もみぢ。ねりぎぬに同じ。
をみなべし。
おもてをみなべし。うらみなあをし。くれな
ゐのひとへ。
九月九日よりすゞしのきぬのわたいれたるを
きる。くれなゐむらさきうすいろ□
しろ。これらみなつねのことなり。
十月一日よりねりぎぬはしにかき□
このきぬともにうはぎにをきてはおりによ
りこゝろにあるべし。あゐいろはじいろを
かさぬ。きくのきぬにもみぢのうはぎをも
かさね。もみぢのきぬにきくのうはぎをも
かさぬべし。
うちでには。きくもみぢのきぬはおぼろげ
にてはなし。をしいだしぎぬにはつねのこ
となり。
上らう女ばうのいろをゆるといふは。あを
いろあかいろのおり物のからぎぬ。地ずり
のもをきるなり。いろをゆりぬも□
□さもある女ばう。おりもののからぎぬを
ゆりてきる。つねのことなり。つねにはりう
もんのえびぞめのからぎぬ。りうもんなら
ねどもねりぬき。つねのことなり。いろをゆ
りぬ女ばうも。うはぎはおりものなり。
うちいでには。いかさまにも。えびぞめのお
りもののからぎぬなり。たゞしいろをつく
しなどすることには。えびぞめならし□
のへにしきのからぎぬ□のことなり。

もにたまのうはざしつねのことなり。くるまにはのる人のしなにしたがへ。おり物りうもんあひまじることなり。
うはぎ。いかさまにもおりものなり。
からぎぬにはひもといふものあり。からぐみのいろ〳〵なるにてあげまきになをむすびて。六すぢも八すぢもして。からぎぬのおほくびのかみはうらうへにつけたるなり。
うちでにもくるまのきぬにもあらば、そでのうへにとにひきいだしてさぐべし。きぬからぎぬうはぎ□きなりまで。やうやうに色をつくし。にほひ□てする常の事なり。うちぎぬはうちまかせてはくれなゐなれども。きぬにしたがひて。こきうちはなだえびぞめうち。あをうち。すはううち。しろうちつねのことなり。
すはうのきぬには。こきうちこきはかまをかならずきるなり。しろぎぬまたこきうちこきはかまなり。このいろ〳〵のうちぎぬは。たゞきぬつねのことなり。
もはなつふゆこし□こしむらごなれどもねらず。□いふな□ふねども。くちばうすいろ。つねのことなり。
なつのくるまのきぬには。うるはしくははりひとへがさねをも。ひとへがさねをも。ものゝぐかさねていだす。つねのことなり。きぬのいろをもさだめ。くるま二りやうとも五りやうともさだめられば。あつぎぬ。なつもふゆもかならずいだすべし。
御くるまのしりには。あ□にもいださぬなり。まつりのさい院のいだしぐるま。ないしのすけのいだしぐるま。あつぎぬをいだせども。からぎぬうはぎもはすゞしなり。あふぎはまつりの日はふゆのをいだす。かへ

さには。きぬはおなじことなれども。あふぎばかりはもちかへて。なつのあふぎをいだすなり。

わらは(童)のさうぞく。あこめ(衵)はねりたれども。かざみ(汗衫)うへのはかまはすゞしなり。

うちいで(打出)おしいだ(出)しぎぬ。をりによりいろこゝろにあることなり。りうもんは[　]さま[　]なり。おしいだしぎぬ。[　]ころの[　]ゆるなり。よくこゝろあるべし。

うちでには。すみのひぢおりこそよくこゝろえあるべきこと。御が(安元)にまさすけ(雅亮)がはじめていだしたりしをみてする人あれどもみぐるし。本を見るべし。すはうのにほひうらこきすはうなど。上ろうなどのたてまつるは。かずはいくらもこゝろ〲なり。こきうちすはうのうはぎ。こうちぎふたへおり物つねのことなり。又こ[　]うちの女ばうは。うはぎ[　]うちぎぬにからぎぬばかりなり。[　]て五せちのもうはぎはなし。

これは本には。三卷まき物にてあるを。一帖にかきうつしたるなり。まさすけがみづからのてにてかきたり。ぺちにかみにかきてをしつけたるは。すけゆきがてなり。かしらがきはこ殿の御てなり。それをみなかきうつしたるなり。かたかなにてかきたることは。わらはがかきたるなり。

應永第九之暦林鐘中旬加ニ修理一畢。(高倉永行卿歟)

入道參議 (花押)

いでゐ(出居)のぐ(具)。すけゆきがてにて。おくにべちにかきたり。

づし(厨子)ひとよろひ(一雙)。まきゑしたり。はじめづしのかみ(上)のこし(層)のはしに。ゆするつき(泔器)。だいふたあり。おなじきづし

のおくに。かゝげのはこ。だいあり。おくのづしにはなちのはこ二合。まきゑ。だいあり。かぶりのはこの名也。けうそく。すゞりのはこ一。でいにとりて。びんぎの所にこれをたてゝ。この定に物のぐをおくなり。このたなのまへにかうらいのたゝみ一帖しく。

きたおもてに。

くろぬりのおほきなる二かいのだいあり。たなをたつ。いれものなり。しものこしにはんざうたらいぬきす。おなじきこしにならべて。たなごゐのはこ。ちいさきこだいのまきゑしたるにすう。はこもおなじくまきたり。にしきのおりたてあり。

右滿佐須計裝束抄以柴野彦本挍合聊加傍注畢

群書類從卷第百十三

裝束部二

助無智秘抄（一名年中行事裝束抄）

四方拜。元日。

御劔ノヤクノ近衞司。モトヲシ（紫檀）ニマキヱ（蒔繪）ノタチナリ。

小朝拜。元日。

上達部ハ有文ノ帶。金魚袋ヲツク。餝劔ヲハク。カザタチノ裝束。アカナメシニハダン（緂）ノ平緒。コンヂノヒラヲ。キラハズ可ㇾ用ㇾ之。アヲナメシノ裝束ニハ。ダンノヒラヲハモチ井ズ。大將モ宰相中將モ。隨身ハ紅梅ノカリバカマ也。七日マデハコレヲモチ井ル。七日中ニ朝キムノ行幸アレバ。ソメワケニナリヌルニハ。紅梅ノ狩袴ハ。七日中ニモモチ井ルベカラズ。左右衞門左右兵衞督ノ隨身ハ。イツモアヲ（襖）バカマナリ。

近衞司ハワキアケノ袍ニスイエイニテ。ラデンノホソダチ。銀魚袋。巡方ノツノノオビナリ。メナウヲモチ井ルコトモアレドモ。ウチマカセテハ巡方ノオビナリ。隨身ハサキニミエタリ。マキヱラデン（螺鈿）ノ劔ハ近衞司ナドハモチ井ズ。上達部タチモ。オトナシキヒトノモチ井ルベケレドモ。ソレハワカキモ時々ミナモチ井ル。クワノクツ（靴）ハ公卿モ近衞司モオナジモノナリ。

小朝拜。

藏人上﨟一人計小朝拜立レ列。但無官ハ列ニタヽズ。シャクヲモタヌユヘナリ。

文官。位袍。笏ヲモツ。靴ヲハク。

衞府。位袍。絲鞋。劔。紫革装束。尻鞘。平緒。

或人シザヤヲイレズトイフ。シカレドモ近代ミナイル。

節會。

文官。位袍。他ノ裝束ツ子ノゴトシ。サクラノ下重ヲキルベキカ。タヾシ又ツ子ノコトナリ。上袴ウキモンヲモチ井ルベシ。タヾシカタモンモアルニシタガフナム難ナシ。

衞府。位袍。浮文袴。尻鞘。平緒。糸鞋。ヒラヤナグヒヲオフ。野劔。ムラサキノカハノシヤウゾク。シザヤ。ヒラヲ。シカイ。ヌノオヒラナリ。

儀式官。位袍。ツ子ノシタギヲキルベシ。

元日ノ早旦ニ御クスリトテ白散ヲグスル事アリ。一日三日同供ス。後取トテ毎日ニ一人ヅツイル。元日ニハ四位。二日五位。三日ハ六位ツトムルナリ。コレミナ束帯ナリ。近衞ヅカサナドハツトメズ。

同日一所拜禮事。

文官。位袍。裝束ツ子ノゴトシ。

儀式官。同二文官一。

衞府。位袍。野劔。裝束紫革。尻鞘。平緒。淺沓。但着二糸鞋一有レ例云々。件間平ヤナグヒニオイテハ。トモノモノニモタスベシ。

三日臨時客。

上達部モ近衞司モ。蒔繪細劔ナリ。タヾシ一ノ人ノトノバラハ。ラデンノ劔ヲ二三日トモニモチ井ラル。タヾノ人ハ蒔繪劔ナリ。尊者ニ大將ナドムカハンニハ。カイ子リノ下ガサ子ヲキル。ハレニ紅梅地ノヒラヲヲサス。アル人チカク紅梅地ノヒラヲヲ。ノリユ

ミノソウノ日サ、レタリケル。ヒガゴト、コソウケタマハレ。隨身ノ紅梅ノ狩袴ニグシタルコトナリ。カイ子リニハコンヂノ平緒モクルシカラズ。ムラサキダンノ平緒ヲサヽヌコト、故實ニ申。昔花園ノ左大臣ドノノリユミノ奏ノ日。カイ子リニ紫ダンノヒラヲヲサ、セ給タリケレバ。法性寺殿アザケラセ給テ。太政大臣（久我ノ大相國也。）コソヲシヘモラサレタリケントオホセラレケレバ。花園殿ハヂサセ給ケルトカヤ。

火ノ色ノ下重。カイ子リトカハリタルモノナリ。火ノ色トハ。ウラオモテトモニ打物ニテ。中倍ヲ入タルナリ。カイ子リトハタヾウラクレナ井ノハリタルニテ。中ヘモナキナリ。ノリユミノ日ハ。カイ子リヲキルコトナリ。火ノイロハ宿德ノ大臣。モヤノ大饗日尊者シテキルコト、ゾキ、ツタヘタル。三條内大臣殿コノヒノイロヲト、ノヘテ。カイ子リトコ、ロエテ。ノリユミノソウノ日キサセタマハントテ。アルヒトニミセサセ給ケレバ。ミテメデタク候。但カイ子リニハ候ハズトマウシケレバ。大臣殿イトモ心得ズシテキサセ給ニケリ。

上東門院昔大原野行啓。宇治殿非參議時舞人タリ。習樂ノ日紅打下重。黑半臂。時ノ美談ナリケルトカヤ。

七日十六日節會。

公卿。近衞司。元日同事也。十六日ノ節會ゾカナラズ夜ニイルユヘニ。外辨ノ上首ハ。カナラズダンノヒラヲヲサストマウシナラハシタル。承明門ヨリヒキテイルガ。ダンノヒラヲ火ノヒカリニアラハレテイミジキトカヤ。

六位如二元日一。

朝覲行幸。二日アルヒハソレヨリノビテモアリ。

上達部ハラデンノタチ。巡方ノオビ。靴ノクツ。大將オナジ。但ヒラヤナグヒヲオフベシ。大臣ノ大將ハ隨身ニモタスルナリ。オイカケ（緌）ヲヤナグヒニカクルナリ。隨身ソメワケ。左ハスハウ（蘇芳）。右ハクチバナリ。又ヤナグヒノエビラ。大將ハクヱンシヤウヱリタルヲバモチ井ズ。ナヲ輕々ノ故ニヤ。

近衛司。ワキアケ。ヤナグヒ。劔。隨身ナドハ大將ニオナジ。セキヨリトノ神社ノ行幸ナドニ。近衛司ハヤナグヒノマロヲ、ヒク。大將モシハ近衛司ハモトモ染裝束ヲスベシ。但上達部ハ下重ハイロアルヲモチ井レドモ。ウヘノ袴ハ只例ノ定ノウキモンナルヲモチ井ルベシ。タヾシワカキ人ナドハソメウヘノハカマヲ用モアリ。禁色ノ人半臂下重イロアルオリモノヲモチ井ルニハ。ヤガテハンピ（半臂）オナジモノナリ。オリモノノ下重ハイカニモ二度ハモチ井ズ。實長卿宰相中將ノトキ。春日行幸ニウラヤマブキノオリモノ、下重ヲキテ。マタヤガテカヘサノ日。ソノ裝束ヲ用タリケレ。大將宰相中將若三位中將ナドハ。コトナルハレニ染裝束ヲスベシ。左右兵衛督人ガラニヨリテキルベキニヤ。左右衛門督ナドハイトセヌコトナリ。イハンヤ顯職ニ井ヌ人ハソメ裝束ハミグルシカルベシ。定賴宰相非參議中將ナリケルトキ。カイ子リヲキタリケルトカヤ。スイシヤウ（水精）ヅカノタチハ馬ニノル日ハカズト宇治殿（頼通）ハオホセラレケル。スベテヨキタチヒラヲバ馬ニノル日ハ不用事也。又近衛司行幸日ハ。チイサキ馬ニノルベシ。オホキナル馬ハ御輿ヲミサゲテビンナシ。又近衛司ハミナ平文ノウヅシヲ用

ベシ。カラオ、ムスバズ。
ヒラヤナグヒノ水精ノハズカブラ。閑院大將朝光ノシイダシタマヒタリケルトカヤ。ソレヨリサキハウシノツノナリ。近代大將ノヤナグヒニハ。(上差)水精ノカブラニテアリ。近衞司ノハ。ウハザシカブラ二ヲスルナリ。
雨儀ノ行幸ノ時。御輿ニアマガハスルニハ。鳳輦ヲバオホヒカクサズ。雨皮ヲホコロボシテイダシタルナリ。

二宮大饗。東宮中宮也。三日有二此事一。
上達部。近衞司。裝束臨時客ノ日ニ同。

母屋大饗。
掌客使トテ。尊者ヲムカフル使也。主人ニシタシキ近衞司ヲモチ井ル。モトヲシ。マキヱノタチ。マロトモノオビ。馬ニノリテムカフ。尊者ノゼムクウ(前駈)シテカヘル。尊者ハ火ノイロナラ子バ。サクラノオリモノ、下重ヲ用ベシ。上達部ハ有文ノオビ。ラデンノ劔也。
藏人。蘇甘栗使勤仕ノトキ。衞府。文官。儀式官。ミナ青色ニ火色下重ナリ。タヾシ廷尉ハ雜色ノ下重ヲキルベカラズ。

叙位。五日。依二日次一可レ有二延引事一。
上達部。無文帶。蒔繪劔。近衞司同。

女叙位。同。

御齋會。自二八日一始。十四日終。
上達部。蒔繪劔。無文帶。近衞司モオナジ。蒔繪劔。マロトモノオビ。

御薪。
裝束ツ子ノゴトシ。

兵部手番。
裝束ツ子ノゴトシ。

踏哥節會。
公卿。近衞司。裝束(襖)カ(袴)ミニミエタリ。
大將ノ隨身アヲバカマニアラタム。

射禮。十七日。建禮門前ニテヲコナフ。

上卿參議。裝束ツ子ノゴトシ。六府ノ將佐。サウヅクツ子ノゴトシ。ユミヤトモアヒグスベシ。

賭弓。今朝イノコシヲ行フ。

公卿。蒔繪劍。無文ノオビ。弓矢鞆ヲアヒグスベシ。ユミヤハザニツクトキ。モチヤウアルベシ。

近衛司。モトヲシ。マキヱノタチ。マロトモノオビ。弓矢アヒグスベシ。ユミニトモヲツクルヤウアルベシ。

今日ハヤナギノシタガサ子ヲキズ。四府將佐ハマヅ矢ノソウトイフコトアルベシ。

除目。正月十一日。又被レ撰二日次一。

公卿。マキヱノタチ。無文ノオビ。ハコブミヲトル人。ヨルナレドモカイツクロフベシ。一ノ人ノトノバラ執筆ニマイリ給トキ。オリモノ、下重ヲモチ井ラル、オリモアリ。近衛ツカサマイラバ劍ヲハカズ。タヾシヒビツ。ツイガサ子ノヤクナドニハ。花族ノ人ハヨ爪フ爪。

除目清書。上卿宰相着二仗座一行レ之。

裝束ツ子ノゴトシ。

下名。同。

釋奠。如レ常。

文章生藏人着二位袍一參レ役。但宴會ニハ着二青色一。

大原野祭。

裝束ツ子ノゴトシ。

春日祭。

ツ子ニハ弁バカリマイリテヲコナフ。一ノ人ノトノバラ中納言ニナリテハジメテ上ケイセサセ給ヲバ。春日詣トナヅケテユ、シクキラメカル、事也。タヾノ上卿ハセズ。近衛

司コソクラヅカサノ幣ヲタテラル、ニアヒグシテ。ツカヒトテ二季ニ左右近衛カハルガハルスルコトナレバ。近衛司モサルベキ人ハイデタチシテ。キラメキテクダルコトナリ。ミチノホドハナヲシニカシハバサミシテ。野劔ニシザヤサシテハキテ。ワラフカグツハキテクダル。随身ニハスイカンカリアヲナドキセテ。ウツシ馬ニノセテサキニウタスベシ。ノチ〳〵ハキラメカズ。諸宮ノ使モ幣ニグシテマイル。ソレモ近衛司東宮中宮スケ。モシハユゲヒノ佐ナド宮司ニテクダルハ。ソレラモキラメクベシ。廷尉佐ハラウドウナドグスルトカヤ。

新年祭。二月四日。

装束ツ子ノゴトシ。

園韓神祭。

装束如レ常。

列見。二月十一日。

公卿。有文ノオビ。ラデンノタチ。フカグツハクベシ。アメノフルトキノミチアマリアシキニ。列見定考外記政事ナラ子ドモ。フカグツヲハクベシ。

圓宗寺最勝會。

上卿宰相參ニハ。御齋會ニ被レ准アヒダ。劔笏ヲテセズ。

祈年穀奉幣。

装束ツ子ノゴトシ。

仁王會。

公卿。出居ノスケ。ミナマキヱノタチナリ。

季御讀經。行事藏人初後日ニ着二青色一。但極熱ノ時被レ行者強不レ可レ着。無レ便之時可レ有二用心一歟。

装束如レ常。

位祿ノサダメ。二月中旬ニ行。

装束如レ常。

御燈事。

石清水臨時祭事。

使四位上ラウ。ワキアケノ袍。巡方帶。ラデンノ劔。アサキクツ。

舞人。アヲズリノ袍。ラデムノタチ。メナウノオビ。五位ハシザヤヲイル。

公卿。蒔繪劔。無文帶。

殿上人。近衛司モ劔ヲハカズ。

此日ハメナウノ帶ハサヽズ。カサ子カハラケトテ。花足ノ殿上人ヲエリテセサス。裝束ツ子ノゴトシ。

代始ニハ。使ハ宰相。カサ子カハラケニハ公卿ノヨルナリ。

今日ハ公卿サクラノシタガサ子ヲキルベカラズ。主上ノタテマツルニハヾカルナリ。臨時祭日ハ馬腦ノオビヲサヽズ。舞人サスユヘナリ。昔ハメナウノオビハワヅカニアリケレバ。モタヌ人モマヒ人ノレウニカリモトメシケレバ。タヾノ殿上人ハサスニオヨバズ。ソレガ今ニ流例ニナリテ。近代ハツクリメナウトテオホカレドモ。ナヲサヽヌナリ。近衛司モ今日ハ劔ハカズシテ。重盃ノヤクモスルナリ。

六位。

調樂夜。裝束ツ子ノゴトシ。

試樂日。青色。野劔。紫革裝束。尻鞘。平緒。絲鞋。挿頭竹葉。但中務丞兵庫助等。雖二帶劔一無二尻鞘一。是細劔也。ハンピニオキテハ可レ着也。ソモソモ件日文官ノ藏人。又非藏人。衛府。アナガチニビレイノ裝束ヲ不レ可レ着。タヾツ子ニキヨゲナル裝束ヲ可レ着也。

祭日。早旦ニ行事藏人アヲイロウキモンノサシヌキニウチギヌキテ。舞人裝束ヲワカチタマウ。撿非違使ハアヲバカマナリ。打衣ハキズ。衣ヲ出サズ。但行事藏人ア

ヲイロヲキザル先例アリ。シカレドモ近代カナラズキル也。タノ藏人裝束。衣冠束帶トモニキル。タヾシ他ノ藏人ハ舞人陪從裝束ヲクバルアイダ。アヲイロヲキルベカラズ。件裝束舞人陪從ニワカチタマヒテノチ。ゲデンシテ舞人ノ裝束ヲシテイソギマイルベシ。ソノヽチ御禊ヲヲコナフ。但件裝束靑摺袴ヲ以二公物一モチ井ルベシ。アコメヒトヘアハセノハカマヲワタクシニアヒマウクベシ。件日ノタチノ裝束アヲカバナリ。カチテアヒマウクベシ。ソモ〳〵件日供奉ノレウニ。隨身二人グスベキナリ。然ルヲ未レ到二本府一ノ尉ハ心ニマカセズ。サレバ府ノカミニフレ申テモヨホスコトナリ。カドノオサハコヽロニマカセテメシツカフコトナリ。御倉ノ小舍人又オナジクメシグスベシ。內記藏人若陪從ニイラバ。着二靑摺一陣ヘイヅベシ。マタモム官藏人陪從ニイラバ。ウキモムノハカマノウヘニ着二陪從ノ裝束一也

二孟旬。四月。十月。

ワカキ上達部ハコノ日白重ヲ着。无文ノカブリ。白キコメノシタガサネ。シロキムモンノミガキバカマ。白帷。白單。マキヱノタチ。无モンノオビ。コノ日モ一ノ人ノトノバラハ螺鈿ノ劔ヲハキ給。代ノ始ニハ旬ヲヲコナハル。サラヌトキハヒラザトテ。出御モナクテ。仗座ニテ見參ヲソウセラル。殿上人ハコノ日出仕スレバ。老タルモ若モカナラズ白重ヲ着。御禊ノ日マデハアラタメザルニヤ。裝束躰ハ公卿ニオナジ。少納言ナニガシトカヤイヒケルヒト。白重ニ赤帷ヲキタリケリ。サルハ職者家ニアリケルトカヤ。旬ノ日ニアラ子ドモ。六七月ヨリアツキニハ。宿

徳公卿白重着ツ子ノコトナリ。又桔梗下重トテ。公卿モ殿上人ノヤウニフタアヰナル無文ノ下重ヲ着事アルベシ。ソレモ平絹ノミガキ表袴ヲキルナリ。キキヤウノシタガサ子着トキハ。アヲタン(青緂)ノ平ヲサスベシトゾ。アフチダンノ平緒トテ。ムラサキアヲキマジリテダムナル平緒ニハ。劔ノ装束ムラサキガハモキラハズ用也。サレバ殿上人ハ。メナウノオビ。樋螺鈿ノ劔。捩緂平緒モチツレバ。事カケヌトゾマウス。ヒラデンノタチトハ。ヒヲスキテソノナカニカヒ(貝)ヲスリタルナリ。セキエイルベキトコロニモ用トゾ。又白重。夏。ワカキ人ハ練ノ絹ヲゾモチヰル。ソノキヌ大和國ノ貢也。キンダイ(近代)ハタエテミエズ。シカレバタヾアツキカラキヌヲモチヰル。旬アルトキハ老人公卿平緒ヲ苗色ニソメテ着事アリ。表袴モ平絹ヲモチヰル。白重ノゴトシ。苗色トハ黄氣アル青物也。大將ノ番長青狩袴トイフモ。故實ニテナヘイロニソムルナリ。

六衣更衣。

文官無官オナジク白重ノ装束ヲ着ス。袍ハ位袍ナリ。宿装束ニオキテハ有文ヲモチヰルベシ。冠オナジ。

衛府儀式官。無文ノ装束ヲキズ。タヾツ子ノゴトシ。有文ヲモチヰル。タヾシ文官無官ノ人更衣ノアイダ。ミナ練ノ白重ヲ着ス。冬ニイリタルトキノ更衣ハ。平絹ノ装束ヲ着ス。平絹装束ヲ着ストキ。無文ノカブリヲモチヰルベシ。

更衣ノ後宿装束ヲキルハ。マヅ貫首直衣ヲキラル。又一﨟ノ藏人キテノチ。フユナツ(冬夏)ノ装束ヲキルベシ。タヾシ冬ノ更衣ノアイダナツノ袍ヲキル。冬ノサシヌキヲキル。ツ子

ノコトナリ。ナツノ更衣ノトキ夏ノ袍ヲキテ。冬ノサシヌキヲキルベカラズ。マタ四月一二日ノアイダニ文官ヨリ衞府儀式官ニウツル人。宿衣ノトキ。冬ノ袍ヲキルベキカ。タダ夏ノ袍ヲキルベキカ。分明ナラザルコト也。タヾシ夏衣ハソノ儀可レ有レ便カ。可レ尋シ。抑夏ノ更衣ノトキハ以ニ灌佛日一有文裝束ヲキルベシ。冬ノ更衣後以ニ射場始ノ日一キルベシ。タヾシ灌佛射場始ナキトシハ。相ニ慮其程一テ只可レ着ニ有文裝束一歟。タヾシカルベキコトイデキタラムトキ早キカフベシ。

灌佛日。神事ニアタル年ヲコナハレズ。

裝束如レ常。六位同。位袍。ツ子ノ裝束。

賀茂祭。

裝束ツ子ノゴトシ

六位。

垣下藏人二人青色ヲキル。下重ニオキテハフタア井（二藍）カ。タヾシ蘇芳マタツ子ノコトナリ。三四﨟藏人カナラズ件ノ役ヲツトム。前駈藏人裝束。位袍。黑半臂。蘇芳下重。浮文袴。但白色。尻鞘。平緒。淺沓。相具ベキモノ。御藏小舍人。府隨身二人。ケビ井シハカドノオサ（看督長）二人。隨身二人。テウドカケ（調度掛）一人ソヘグスベシ。

還日。垣下藏人行事ナラビニ二﨟等ナリ。裝束位袍。黑半臂。蘇芳下重。浮文ノハカマ。衞府勤仕ノトキハ。タチヲハク。ケビ井シハ平劔。革緒。裾長ハ細劔。丸緒。壺胡籙。弓。於ニ胡籙一者。廷尉裾長タヾオナジコトナリ。垣下ニアラザル藏人見物ノトキ。衣冠ニテ見物スベシ。侍臣ノ車ナリ。衞府者ヲナジクヤナグヒヲ可ニ隨身一也。

祭日。位袍他裝束ツ子ノゴトシ。タヾシ行事藏人布袴ノ小舍人二人ヲグシテ大路ヲ

所レ渡也。車簾前アグベカラズトイヘリ。非藏人乘渡之時。ウシロノスダレヲアグベキカ。

警固間事。祭前未日アルヒハ巾日ヲコナハル。マツリトヾマルトシモ。コレハ行ハル。

衞府藏人件日ヨルヒル帶二弓箭一也。參二御前一御膳ヲ供スルトキモ。ツ子ニコレヲタイス。ツボヤナグヒホソタチナリ。テイ井ニヲキテハ平劒ナリ。タヾシヤナグヒニヲキテハ廷尉尻長同前也。奏レ文トキハユミバカリヲヲク。フンサシヲトテ御所ニ參ナリ。タヾシ陪膳ノ四位ハユミヤタチヲトキヲキテコレヲグス。タヾシエイヲバトカズ。オイカケヲテセズ。アルセツニタチハタイシナガラ候也。近ハ右近中將基忠朝臣陪膳ヲツトムルトキ。タチヲハキテコレヲ供ス。マタ左近中將公實朝臣陪膳勤仕ノトキ。タチヲタイセズ。イカヾ。コレビンニシタガフコトカ。タヾシヤクソウノ五位六位ニヲキテハ。ユミバカリヲヲキ。他ノモノノグラヲミナタイスルトコロナリ。マタシムカウニヲヨビテ殿上ニフストキ。カタハラニトキヲクナリ。タヾシ密々ニ直廬ニヲクレイナリ。マタ陣外ノトキハサラニ不レ可レ着。タヾトモノモノニモタスルナリ。先ニ殿下ニマイリテ。キウセンヲタイスル人オホクアルガ。ソノユヘナシ。

御賀茂詣事。供奉藏人上臈二三人バカリカ。衞府文官ヲイハズ。ミナ靑色ヲキル。式部丞アヲイロヲキルトキ。冠ノヒタイアテハナチテシリヲ曳ナリ。衞府藏人タチヲハク。シリナガハホソダチマロヲ。ケビ井シハ平劒カハヲ。件御物詣式日ナラバツボヤナグヒ。ユミヲモタスベシ。コレケイゴノアイダニヨリテナリ。タヾシ式日

ナラザルトキナラバ。ユミヤヲモタスベカラズ。コレケイゴニアラザルユヘ也。表袴下重等ソノ人ノコヽロニアリ。廷尉ニヲキテハコノカギリニアラズ。白キハカマヲキルベキナリ。他ノ藏人モ雖二常事一黑半臂。蘇芳下重。白表袴ヨキ也。タヾシワカキ藏人ハソメバカマ。フタヘオリモノナドキルツネノコトナリ。廷尉侍中供奉ノトキ。カドノヲサテウドカケグスベキコトナリ。

松尾祭。

梅宮祭。

已上。上酉日ナリ。

吉田祭。

中子。四月。十一月中申。

㝡勝講。

公卿。マキヱノタチ。出居將。オナジ。

侍中火舍取ノ藏人。アヲイロヲキルベシ。

近衛手番日。

侍中(將監)アヲイロヲキテ本府ヘマイルベシ。

定二賑給使一事。五月中行之。

第一ノ大臣ノ申行事也。サハリアレバ次人ヲコナフ。裝束ツネノゴトシ。

忌火御飯。六月。十一(二歟)月十二月(日歟)平旦ニアリ。

陪膳。ムカシハ布袴ニテアリケリ。イマハソクタイツネノゴトシ。

御體御卜。六月。十二月十日。

月次祭。六月。十二月十一日。

神今食。六月。十二月十一日。新年祭ノゴトシ。

中院行幸ムカシハアリケリ。公卿マキヱノタチ。近衛司ノタチオナジ。ツボヲオフベシ。アサキクツ。大内ヨリナルトキノコトナリ。

諸司ノ小忌ヲキル。大將撿非違使別當ハヒラヤナグヒ。ウラニアヒタルヒト供奉スルナリ。近衛司ハアヒアハズヲイハズグスベシ。

ミナ小忌ナリ。公卿ハ上卿一人。宰相一人。御ウラニアヒタル人ノマイルナリ。タヾノヒトハオホミノアクニ候。行幸ナキトキハ。神祇官ニテ上卿宰相辨バカリニテヲコナハル。十二日ゲサイノ御カユアリ。小忌ノヒトヒカゲヲカクベシ。

侍中。行幸供奉御湯殿人。朝衣ノ下重ヲヌギテ。今衣ヲキルナリ。シタウヅヲヌガズ。アルヒハ朝衣ノシタガサ子ノウヘニ今衣ヲキル。

節折。六月。十二月晦日。

乞巧奠。七月七日。

盂蘭瓮。七月十四日。

秋季仁王會。アキノキノニムワウヱ。
ハルノゴトシ。代ノハジメニハ大仁王會トテ殿々ニテアリ。

相撲。

大將奏ヲトル。ワカキ人ソメ裝束ツ子ノコトナリ。公卿近衞司ラデンノタチ。公卿ノオビ有紋ナリ。奏ヲトル人コトニビレイノ裝束ヲキル。

侍中。ハジメノ日。行事幷他ノ藏人二人バカリアヲイロヲキル。アルヒハ四人バカリキル。近衞將監藏人アヲイロヲキ弓箭ヲタイス。ツボヤナグヒ。劔。ホソダチ。ツギノ日。アイカハリテノコル藏人ラ。アヲイロヲキル。タヾシ行事ニケ日ナガラキルベシ。裝束二具アリトモ。カイツクロフトキ。位袍ニキカユルツ子ノコトナリ。

釋奠。同二月。

季御讀經。同二三月。

定考。大畧同列見。

駒引。
上卿近衞司ミナマキヱノタチ。

官奏。
平座。九月九日。
例幣。
八省へ行幸ナリケリ。近代タエタリ。
六位。
文官。位袍。淺沓。把笏。
儀式官。同二文官一。
衞府。位袍。ツボヤナグヒ。ホソダチ。マロチ。淺沓。件儀裾長衞府事也。
撿非違使。ヒラヤナグヒ。ノダチ装束ムラサキ。シリザヤ。ヌノオビ。シカイ。行幸ノアイダ本陣ニタツ。
御國忌時。
行事藏人アヲクチバノシタガサ子ヲキル。
冬ハヤナギヲキル。タヾシ近代アナガチニコノコトナシ。
更衣。十月。同二四月一。

射塲始。
公卿近衞司。マキヱノタチ。位袍。他ノ装束ツ子ノゴトシ。公卿侍臣藏人ラ。ミナ箭一手ヲコシニサス。
侍中。
文官。袍ツ子ノゴトシ。白重ヲ着。
衞府。ヒラヤナグヒ。ユミ。タチ。装束ムラサキガハ。シリザヤ。ヒラヲ。ヌノオビ。シカイ。位袍。タノ装束ツ子ノゴトシ。
初雪日。
侍中。アヲイロオリモノノサシヌキヲキテ。諸陣へムカヒテ見參ヲトルベシ。就中ニ帶刀ノ陣ニムカフ藏人。ヨウジンスベシ。アヲイロニアラズトモ。タヾビレイノ装束ヲソクタイニテモキルベシ。
朔旦旬。十一月一日。四月旬ニオナジ。
五節。
丑日。

帳臺ノ出御ノ御共ノ人々。殿下以下五六人バカリ。直衣ナリ。アルヒハ衣ヲイダシ。アルヒハイダサヌモアリ。殿上人兩貫首直衣。以下人々アルヒハ直衣。アルヒハソクタイナリ。六位ハコヨヒハ。イツカフニソクタイニテアルベシ。

寅日。

貫首以下一向直衣衣冠ナリ。六位オナジク衣冠ナリ。タヾシアヅカリノ藏人ハソクタイヲスベシ。アヲイロヲキルベシ。式部丞アヲイロニ火イロノシタガサ子。衣冠ナラバウキモンノサシヌキヲキルベシ。他ノ藏人ビレイノ裝束ヲキルトイフトモ。アヲイロオリモノノサシヌキヲキルベカラズ。貫首以下ミナキヌヲイダス。アルヒハウチギヌ。アルヒハオリギヌナリ。ウチギヌニモ中年人ハワタヲイル。夜ニイリテノチ。ナベラカナルソクタイヲシテ。御前ノコヽロミニマイル。

卯日。

今日モ殿上ノエンスイナリ。貫首以下直衣。諸大夫殿上人ハ衣冠ナリ。六位又衣冠ナリ。オホヨソハ殿上人モ六位モ。ヲサナキニハコキシヤウゾクトテ。エビゾメ或(指)モエギウチサシヌキニ。ウチギヌモサシ(貫)ヌキモデイ(泥)ニテダミカヘシテ。ウラコキスワウノキヌ。コキヒトヘ。コキシタノハカマナドキルナリ。アヲノキヌハワカキ人ハキヌトゾマウセドモ。近代ハワカキ近衞司ナドモキ(着)タリ。藏人アヅカリ布袴。アヲイロ火イロノシタ(下)ガサ子(重)エビゾメ(蒲萄染)ノ(青)ウキ(浮)オリモノ(織物)ノサシヌキ。アルヒハアヲイロ(色)ニカタモン(固紋)ノオリモノノサシヌキ(文)。紅ノウチギヌヲイダス。コレモン官ナリ。

衛府エウニヲキテハ。ウチギヌヲイダサズ。コメテキルベシ。ケビ井シ(検非違使)ハ殿上人ノエンスイ。ワラハ御覽ノアヒダ。サウゾクソクタイヲスベシ。タヾシアヲイロヲモチ井ルベシ。承暦二年平時範布袴ヲキル。アヲイロニモエギノハンピナリ。コレ平行親例云々。他ノ藏人ラ寅日ノ裝束ノゴトシ。タヾシ六位ダシギヌチコムベシ。件日中院ノ行幸アルトシハ。ワラハ御覽ノノチ秉燭ニヲヨブアヒダ。殿上人藏人ソクタイニテ行幸ニクブス。小忌ヲキル。日蔭ヲカク。タヾシコケナリ。ソモソモ御ウラニアハザル侍臣。コトニ行幸ニ供奉セズ。コレヲミヲキザルユヘナリ。タヾシ殿上ノ職事十人ハ。御ウラニアハズトモカナラズ小忌ヲキルベシ。

辰日節會。

人々ミナソクタイナリ。タヾシ預藏人朝ハ宿衣ヲキルベシ。アヲイロナリ。モクランヂノオリモノノサシヌキニ。ダシギヌ欵冬ヲモチ井ル。タヾシケビ井シハアヲバカマニ一コンゾメ。ウツベキカ。衛府ハキヌヲイダサズ。尅限ニ小忌ヲキ。ヒカゲヲカク。イトノイロ人ノ心ニアルベシ。シロキヲヨキトス。ウキモンノハカマ。イロコヽロニアリ。文官儀式官オナジ。衛府ニヲキテハ弓箭ヲタイス。ヒラヤナグヒナリ。アヲカハタチ。アチカハ。シリザヤ。ヒラヲ。ヌノオビ。シカイナリ。ソモ〳〵中院ノ行幸アルトシ。今日小忌ヲキル。行幸ナキトシハ小忌ヲキズ。タヾシ小忌ヲキルトキハ。式部丞シリ(裾)ヲヒキヒタイアテヲハナツ。廷尉オナジクシリヲヒキ。儀式官文官トイフトモカナラズハンピヲキル。コレ小忌ワキアケナルニヨリテナリ。又ヲミヲキル

日。ビレイヲコノム人。ソノハカマフタヘオリモノノハカマナリ。タヾシ廷尉ニヲキテハコノカギリニアラズ。シロキウキモンノハカマナリ。ヲミノウヘニキウセンヲタイス。節會ノアイダ童下仕ニツクナリ。マタ式部丞藏人小忌ヲ着ナガラ點標。曩時無二此事一。而近代之例定事也。射塲殿ヨリイデテ列ニクハヽルナリ。

新嘗祭。行幸アルトシモアリ。

新嘗會。

上卿一人。宰相一人。弁少納言各一人。小忌ヲキタリ。昨日新嘗會ヲコナヒタル人ナリ。節會。公卿近衛司ノ装束サキ〴〵ノ節會オナジコトナリ。

賀茂臨時祭。

公卿殿上人ノ装束石淸水ノゴトシ。タヾシカヘリタチノ御カグラヲコナハルベシ。

神今食。六月チミルベシ。

御佛名。

公卿出居將。装束ツ子ノゴトシ。

行事藏人。カナラズアヲイロヲキル。火舍取ノヒト御導師ヲオホスル人ナド。カナラズアヲイロキルベシ。火舍取ノヤクノヒト。オホクハ行事ノ所役ナリ。マタダウドヲジノ藏人コレヲキル。タヾシアヲイロヲキズシテ件ノヤクヲツトムルヒト。マヽソノカズアリ。シカルベカラザルコトカ。

荷前使事。十二月十二日。

装束ツ子ノゴトシ。

御佛名。

公卿。

マキヱノ劔。出居劔笏ヲモチ井ズ。他ノ出居ノ儀ニハカハリタリ。今夜フルクハ大將カナラズ宿マウシセサス。又半夜ノ御導師ノ

ホドニ左近府殿上ニ栢梨ヲスヱテ公卿以下ニス、ム。次將互ニ勸盃。栢梨トハ府ノ庄ノ名ナリ。攝津國ニアルニヤ。

内侍所御神樂。

裝束ツ子ノゴトシ。近衞司ナレドモ。コヨヒハタチハクマジ。

追儺。十二月晦日。

上卿宰相衞府タルヒトハ。ツボヤナグヒヲオフ。近衞ヅカサモモトヲシニツボヤナグヒ。

陰陽寮桃ノ弓葦ノヤヲマイラス。上卿以下コレヲトルトキ。弓ヲ撤シコレヲモツベシ。衞府藏人弓箭ヲタイス。タヾシツボヤナグヒナリ。細タチ。平緒。廷尉トイフトモツボヤナグヒヲオフ。タヾシタチハヒラダチナリ。革緒。

十一日神今食行幸事。

戌尅行二幸中院一。主上着二御帛御裝束一。御腰輿。無二警蹕鈴奏一。公卿以下前行。前日行事藏人注二殿上人夾名一給二神祇官一。仍隨二小忌之合否一所二供奉一也。供二忌火御飯一之後。大忌之人不二昇殿一。凡今日扈從人除二執柄殿下一之外。皆着二小忌衣一。行事藏人以二小舍人一令レ賦レ之。參仕之後於二所邊一袴上着レ之。衞府上卿宰相懸レ緌。用二壺胡籙蒔繪劒一。近衞司同レ之。近衞兵衞外雖レ不二供奉一。爲二雲客一之衞府用二壺胡籙一。五位以上皆着二縫腋一候二御後一。至二于六位一者平裝束布帶着二糸鞋一。用二平緒一入二尻鞘一。但撿非違使用二平胡籙一。於二廷尉府生以下一褐衣垂袴。用二壺胡籙一。一位以下尋常束帶。用二淺沓一如レ例。殿上四位之中一人藏人一人。奉レ供二御湯殿一。是山蔭西宮勸修寺等之種族所二勤仕一也。其儀入二御神殿一之後。御湯殿役人二人參二北掖戶下一。依二天氣一於二同壁下一各着二今支一。件役職事。近衞司之間多有二其便一。爲二衞府一之者。先解二弓箭一脫二

表衣下襲韈等。昇殿。（或不脱韈云々。）六位脱袍着今支。（或脱下襲。）立戸下。卽以主殿官人。令取御湯。藏人計之。次上﨟役人先試御湯寒温。（以左手搔。）次縫殿獻浸布。次內藏寮獻天羽衣。次獻御泔坏搔上宮等。次縫殿寮供祭服御裝束。改帛御裝束着御也。次藏司供御幘。御湯殿役藏人於戸外次第令催獻。同役上﨟人於長押上傳進之。次主水司供御手水御湯。役人帶四品之時。卽奉仕陪膳。爲五位之時。藏人頭奉仕之。去康和五年十一月新嘗會行幸之時。左少將實隆朝臣爲御湯殿役人。而俄以他行。藏人頭又以不候。仍左中將俊忠朝臣更奉仕陪膳。是臨時儀也。次召御笏。次小忌。上卿催行次第事。丑尅供曉膳。□剋還宮。大忌公卿於陰明門幄前名謁。右近次將問之。

助無智秘抄（一名年中行事裝束抄 付臨時）

齋王卜定。

勅使祿アリ。藏人頭勤之。中將ナドハ劔ヲハキ笏ヲモツベシ。

齋院ニ被進扇使。（御禊日祭日等兩度也。）

殿上藏人アヲ色ヲキテ參勤之。本院祿ヲタマフ。

御願寺供養。

御齋會ニ准ゼラル丶ヲリ。堂中トイヘドモ劔ヲハキ笏ヲ持ベシ。

御讓位。

節會行ヒテウルハシク御讓リアルニハ。公卿螺鈿劔。有文帶。魚袋ヲツケズ。衞府ノ人ハ壺ヤナグヒヲオフ。近衞大將撿非違使別當ハ平胡籙。近衞司ハモトヲシ。ツボヤナグヒ。蒔繪太刀。靴。カタセチヱナレバ立陣也。又

位ニテ事オハシマス君ノ御時。節會オコナハレズシテ。神璽寶劔バカリヲ新帝ヘワタサル、ニモ。近衛司裝束オナジコト也。公卿ハ蒔繪ノ劔ナルベシ。上官巡方帶也。

開闔事。

讓位日セキヲカタメラレタルヲヒラク也。大事ノ公事也。時ノ有識ノ上卿參テオコナフ。コノツイデ解陣モアリ。六府ノ將佐モ。直衣ニ柏夾。蒔繪劔。壺胡籙ニテ參リテ後。陣トクベキ由ノ仰ヲウケ玉ハリテ後。弓箭ヲトキテ纓ヲオロス也。オホカタ警固ノ間ハ。直衣ニテモ弓箭ヲ帶シ。或ハモタセテ近衛司ハ有也。公卿ハタヾ內裏ノ公事バカリコレヲ帶ス。他所ニテハタイセズ。天慶ノ將門ノ亂ノアヒダ。節會ノ日公卿ハタヾツ子ノ定ニテ。諸陣ハ警固シタリト見エタリ。御齋會ノ日ハ御前ニ候公卿ミナ。衞府ハ弓箭ヲ帶スト云リ。イカナルコトニカオボツカナシ。平治亂ノトキ桂大納言（于時中納言左衞門督。）ツ子ノ定ニテアリキ。三條內大臣殿其日節會ノ內弁ニテ奉レバ。ヤナグヒ隨身ニモタセラレタリ。大炊御門右大臣。（于時中納言右大將。）松殿。（于時中納言中將。）此人人ハ平胡籙。右大將壺。中納言中將殿螺鈿劔ニテオハシアヒタリキ。オボツカナシ。スベテ胡籙オフ日ハ魚袋ハツケヌナリ。（モトヨリツケタリトモトクベシ。）

御卽位。

位ヲユヅリ奉リテ後。始吉日ヲエラビテ天ニツゲ申サル、心ナリ。香ヲ庭ニタクハ其心ナリ。一ノ大臣禮服キテ內弁ノコトハオコナハル。左右ノ御子代トテ。宰相モシハ三位禮服キテ八人堂上ニ候。外辨公卿ハ禮服キテミナアリ。中納言ノ中ニサルベキ一人叙位ノ宣命使ヲスルナリ。禮服ノ外辨。或ハ

人或六人モアリ。近衛司ハサイ着ノ袍モメシテミジカシ。タヾシ冬ハ下襲ヲキズ。ウヘノキヌバカリナリ。カツラヨロヒヲキル。ヨロヒトイフハ舞ノウチカケノヤウニシタリ。フルクハキヌナドニテカタノ如クシケリ。近代ウルハシクカ子ヲイタニマゼテ。メデタクイトニテオドシナドシタリ。昔ノコトハナニ事モ輕色ナルナリ。平胡籙ヲオフ。老懸ヲカク。螺鈿ノ野劔常ノゴトシ。ヨロヒキルヲリハ平緒ハムスブ様有。ソレヲシラヌ人ハキリヒラヲニテ。タヾ風情モナクユヒタルナリ。將ノ隨身ハタレバカマ常ノゴトシ。里内ヨリ八省ニ行幸アルトキ常ノゴトシ。禮服ヲキヌ上達部。ウチマカセテハ參ルマジキ事ナレドモ。近代ハミナ參ズルナリ。ソレハ無文帶。蒔繪ノ劔ナリ。或螺鈿ヲモチ井ル人モアリ。五位ノ次將モ今日ハシザ

ヤヲサヽズ。寛弘ノ御即位ニハ行成卿ゾ中納言ニテ宣命使シタリケル。興福寺ノ寳藏ニアル禮服ヲ給ハリテキタリケリ。ソノ玉ノ冠ノイレ物ノウチニ其日ノ我作法進退ヲメデタキテニテ委ク書テヲキタル也。大炊御門ノ右大臣ノ久壽ノタビ中納言ニテ宣命使シテ。ソノ冠ヲ申タマハリテセラレタリシニ。其行成卿ノシルサレタルモノハミ侍シ。禮服ハ累代ノ物ヲ申玉ハリテキルコトモアリ。又ワタクシニアタラシクトヽノヘテキルコトモアリ。ボロ〳〵トヤレソンジテワロケレドモ。クルシミナキモノハ禮服ノ袍ナリ。サテフルキ袍ヲバ禮服ノヤウナリトイフニヤ。昔ノ人ノ装束ナエ〳〵トゾアリケル。サレバヒトツ車ニ大臣タチナドノ二三人モノリアヒテアリキケリ。末代ノ人ノ装束ハ一人ダニモ車ニノリグルシ。

大カタハ裝束ナユベキオリ。コハキ物ヲキタルモワロキナリ。節會ニ人ノイタクモ裝ハズカザリケルニヤ。齊信卿ノ消息ニ先代ノ時ノ節會袍コレヲカシケンズトカ、レタリケルハ。節會ノ袍トテフルクナエタレドモ。人ニカスガアリケルニゾ。オボツカナシ。人ノ病スルトブラヒニムカヒナドスルニ裝束ナドノコハキハキハメテビンナキコト、ゾ。又後朱雀院ノ御時ニ其年ノ旬ニ公卿ノタチナミタリケルヲ御覽ジテ。次日資房卿ノ藏人ノ頭ナリケルヲメシテ。昨日公卿ノ裝束ヲ御覽ゼシカバ。以外ニ袖コソ大ニナリタレバ。カクテハ世ノツイヘナリ。イカヾスヘキ。右府（後小野宮殿。）ノモトヘマカリテ。イヒアハスベシトオホセラレテナゲカセタマヒケレバ。右大臣殿ニ申サレケレバ。御返事ニ。ミナノ公卿ニソノヨシオホセラレンモアシク候ナン。ワレソノ由ヲウケ玉ハリテカシコマリ申サバ。サスガ老大臣ノ御氣色カヾフリタリトキコエバ。人モナヲリハンベリナントハカラヒ申サレケレバ。ソノ定ニ披露シテ。門サシテカシコマルヨシセラレケレバ。人ミナキヽオソレテ。モノノ寸法ヲチヒサクナシテケリ。近代ノ人ノ袍ハホト〳〵綾二疋バカリナリ。

大甞會御禊日。

位ニツカセタマヒテ。大甞會オコナハルベキ御ハラヘノ行幸ナリ。一ノ大臣節下ヲツトメラル、。節旗ヲサキニ立タリ。大納言ノ大將ナドモ其例有。隨身ハハンヌキタリ。左ハツ、ジノ下重。コキウチノヒトヘ。右ハ柳ノ下重。コレモアヲウチノヒトヘ也。左ハワシノ羽ノヒラヤナグヒ。六位ノ府ノヤナグヒノ定。右ハシキリ羽ノヤナグヒナリ。劔ニハ

平尻鞘ヲイレタリ。ソメワケノカリ袴。タヾシスソゴ。大臣大將ノ府生ハ馬ニノリテ本陣ニ候ベケレドモ。故實ニ大將ノ邊ニ近クウチソヒタリ。番長ハ馬ノクチハリタリ。雜色ヲバコノ行幸ニハ具セズ。オノヅカラアレドモ六府ノホカヲアユブベシ。近衞ノ將ハ例ノ行幸ノ定。隨身ニモ蠻繪ハキセズ。ヤマトグラニノルニハ杏葉ツクベシ。左右衞門左右兵衞府ノ隨身ニハ蠻繪ヲキセタリ。幼主ノ御時ハ女御代トテ。大臣モシクハサルベキ大納言ノムスメヲイダシタテラル。フルクハ御元服ノ日。ヤガテソノ人ヲ女御トサダメラレケル。末代ニハカナラズシモシカラズ。又幼主ノ御時ニハ母后御ウシロニノラセ玉フ故ニ出車アリ。攝政殿モ幼主ノ御時ハ馬ニテ供奉アルコトモアリ。オリ居ノ御門ハ二條大宮ニ御棧敷ツクリテ御覽ズベシ。御棧敷ノスノコニハ。兼官ナキ大臣モシハ前官ノ人ノシタシクオボシメスベキ人ナドゾ。一人モシハ二人候テ。御コシノトヲラセオハシマストキハ。地ニオリテ井ラル丶。アマタハ井ヌコト丶ゾ。

供奉六位。

　藏人八人。此中ニ五位二人有べシ。

五位。

　闕腋袍。シリミジカ。アヤノ表袴。黑半臂。巡方帶。魚袋チツクベシ。大和鞍。杏葉チツク。タチハクベキ人ハ螺鈿ヲハクベシ。

六位。

　卷纓。老懸チツク。蘇芳褐袍。（ヒトツミ シリミジカ イ）半臂。下重。如レ常。浮文袴。丸鞆帶。弓箭ヲタイセズ。熊皮行騰。野劔。（シリザヤ イ）ぬりぐつ。緣螺鈿鞍。葦鹿切付。楚鞦。

又說。

　ホソエムビノ冠。老懸。ぬりぐつ。布帶。他

ノ物ノ具同前。コレマタ難ナシ。
或說。タチヲハキ弓箭ヲ帶ス。
僮僕。童舍人バカリナリ。押紙ザフシキチメシグセズ。アル人マタコレチグス。

大嘗會國郡卜定。

大臣以下陣ニツキテ定申サル丶也。悠紀ハ近江。主基ハ丹波。モシハ備中也。官寮ヲメシテイヅレノ郡ト云コトヲウラナヒサダメラル丶。サテ博士ウケタマハリ。本文ヲイダシテ。悠紀主基ノ御調度ノ御屛風ニハ。時ノテキヱラビテ其本文ヲカ丶セラル。マタ時ノウタヨミニ仰テ。本文ノ心ヲイハヒニヨセテ。哥ニハヨマセテ。同御屛風ニカ丶セラル丶也。

卯日廻立殿行幸。

大內ノ內裏ナル時ハ。鳳輦ニテ廻立殿ヘ行幸有。タヾシ龍尾道ノウヘニテ腰輿ニタテマツリウツル。幼主ノ御時ハ母后タテマツルベケレバ。鳳輦ニテヤガテ廻立殿ヘツカセタマフ也。主上ハ帛ノ御裝束ヲメス。納言參議ウラニアヒタルハ。小忌ヲキテツカフマツル。其外ハ大忌ノアクニツクベシ。近衞司ハツヂノカチノ行幸ノ定ニテ。蒔繪螺鈿劔也。壺ニテアリ。廻立殿ニテ御湯アルニ。藏人頭御湯殿ハスルナリ。藏人ハ山蔭中納言ノ子孫ヲモチヒラル丶。其時ナキニハモトメテモ藏人ニナサル。大嘗宮ニウツラセ玉フニハ。前行ノ大臣トテ御サキニ立テ。大臣一人ツカフマツル。攝政殿ハ御後ニオハシマス。主上ノアユマセ玉フ筵道ヲバコト人ハフマズ。コレ大神宮ヘ物マイラセハジメサセ玉フナリ。コトシノ物ヲバコノノチキコシメス。

辰日節會。

悠紀ノ帳ニツカセ給ナリ。公卿ノ装束例ノ節會ノ如シ。カナラズ今日ノ内弁ヲオコナヒ玉フ。夜部ノヲミノカミ宰相ハワタクシノ小忌ヲキテ参ル。近衛司ハウラニ合アハズヲイハズ。ミナヲミヲキテ参ル。小忌ノシタニハ常ノ束帯ノアコメノカサナリタルヲキル。

巳日節會。

主基帳ニオハシマス。ソノコトガラ昨日ノゴトシ。内弁ハ大臣サハリアレバ大納言モセラル。今夜ハ清暑堂ノ御神樂アルベシ。コノ堂ハ豐樂ノ堂ノ名ナリ。豐樂院ノイマダヤケヌサキニハ。ソレニテノミ大嘗會オコナハレタリケリ。サレバ小安殿ニテハ御神樂アレドモ。世ノ人イヒナラハシタルコトニテ。清暑堂ノ御神樂トイフナリ。

午日節會。

コレハソノ儀大畧同事也。タヾシケサ悠紀主基ノ帳ヲゾコボチテ。タヾ例ノ豐明ノ節會ノ定ナリ。叙位ニカヽ井シタル近衛司ハ。小忌ニ平胡籙オヒテ老懸カケテ劔ハキテ列ニ立タルコソイミジケレ。節會ハテヽ大内ニカヘラセ玉フニハ。ヤガテホコヲサゲテゾ行幸ニハ供奉スル。節會ハトヨノアカリニカハリタルコトハ。悠紀主基ノ久米マヒヲゾ御覽ズ。

臨時事。

殿上賭射。

射手ニオキテハ。公卿。四位。五位。六位。ミナアヲ色ヲキル。儀式官。文官ト云トモミナワキアケアヲイロヲモチ井ル。禁色ヲユリタル人心々ニ錦織物等ヲキルナリ。シカラザル人ヒラギヌヲモチ井ル。文官トイフトモカナラズ半臂ヲキルベシ。コレアヲイロ

ワキアケナルユヱ也。タヾシ近衞將劔ヲハク。細劔。平緒。外衞佐尉左右馬頭侍從少納言等ニオキテハ帶劔セズ。射手出居トイフトモ。近衞司ハミナ帶劔スベシ。

念人裝束常ノ如シ。藏人モ射手ニイラズバ位袍ヲキルベキカ。念人ト云トモ公卿侍臣等。弓箭ニイタリテハ所二隨身一也。

仁王會。

行事ノ藏人アヲ色ヲキテ火舍ヲトル。タヾシゴク子ツナラバ。アナガチニアヲ色ヲキルベカラズ。

㝡勝講。

オナジ裝束常ノゴトシ。子細上卷ニノセタリ。

揭焉ノトキ麴塵袍ヲキル事。

ケチエンノ時。御禊垣下五節預。御佛名堂童子等カナラズキルベシ。又御齋會內論義仁王會季御讀經御佛名行事コレヲチヤクスベシ。但仁王會季御讀經堂童子形勢ニシタガフベシ。極熱ナルニヨリテナリ。御佛名ニオキテハカナラズキルベシ。タヾシ青色ヲキズシテ堂童子勤仕人ソノカズアリ。文章生藏人束帶ノトキカナラズ青色ヲ着ス。又廷尉ノ藏人青色ヲモテ常ニトノ井裝束ニモウヘブシニモキルベシ。

行幸。

公卿裝束如レ常。衞府タル人弓箭ヲタイス。老懸ヲカク。大臣ノ大將ハ弓箭（イタツキ）ヲタイセズシテ人ニモタス。老懸ヲヤナグヒニカケタリ。近衞司ワキアケ。老懸。帶劔（マキヱノタチ）。弓箭ヲオフ。靴ノクツナリ。藏人ミナアヲ色。靴ヲモチ井ル。カラヲ（唐尾不結）ヲイハズ。マタアヲリヲサヽズ。フチラデンノ鞍。ソシリガヒ（楚鞦）韋鹿キツケ也。二省丞ノ藏人八省ニ供奉スルトキ位袍ヲキル。カ

ラヲヲムスブ。御後ニ供奉ノ時アヲ色ヲキル。シリヲヒク。カブリノヒタイアテヲハナツ。カラヲヲムスバズ。衞府ノ藏人本陣ニ供奉スルニアヲ色ヲキ。弓箭ヲタイス。タヾシ平胡籙。布帶。野劔。尻鞘。紫革裝束。平緒。絲鞋。脛巾。蓁也。京中トヲキ所オナジキナリ。地下ノ衞府ハ相違ス。

臨時奉幣ノ時ハ省ニ行幸事。

裝束如レ常。

藏人裝束。九月十一日例幣ノゴトシ。

大井鷹狩行幸事。野行幸ト號ス。

近衞諸衞佐。ミナ褐襖袴。脛巾。蓁 近衞將ハ平胡籙。諸衞佐ハ狩胡籙ナリ。承保三年十月廿四日ノ行幸ニ二品式部卿宮アヲ色。關白殿アカ色ノ袍ナリ。大臣以下參議非參議ミナアヲイロヲキル。左右近衞將各二人タカヽヒタリ。件人ノ裝束スイカンナリ。神妙也。左近中將公實朝臣。右近中將基忠ナリ。件ノスイカンノ人。踏ノアヒダハ御輿ノ左右ニシコウ。野クチヲイラシメ玉フア□ダ。弓箭ヲトキテタカヲスヱテ野外ニノゾム。抑大井ノ御所ニツカシメ玉ヒテ後。御舟ニ御スルアイダ。近衞司ノタカヽヒタカヲスヱテ。モトノゴトク弓箭ヲ帶シテ御舟ニ候ス。藏人ノ裝束ニオキテハサウイナシ。

件度供奉藏人等。

左衞門尉藤原孝淸。裝束。青色。黑半臂。蘇芳下重。浮文袴。

左衞門尉平時範。同廷尉。裝束如二孝淸一。

左兵衞尉藤原家實。青色。蘇芳半臂。同下重。同表袴。

大膳權亮藤原惟信。青色。萠木織物下重。蘇芳半臂。

非藏人式部丞橘致綱。青色。供奉本省。位袍如レ常。

蔭孫高階能遠。青色。唐晴色下重。

蔭孫源行實。青色。桔梗織物下重。萠木袴。

藏人頭左近中將源雅實。装束。補選綾褐衣。白結物狩袴。象眼冠。
藏人頭源俊實。装束。象眼。褐衣。懸袋。狩袴。打衣。
左少辨藤通俊。装束如レ常。着二青色一。
抑六位衞府藏人。
平胡籙。劍。尻鞘。平緒。布帶。絲鞋。如二例行幸一。

殿上和歌合。
先々ノ装束サダマレルハフ(法)ナシ。タヾシ承曆二年四月(廿八日也)コノコト有。左右人下重ミナ蘇芳也。但藏人ハ表袴ハオモヒ〳〵ニ着ス。

左方。
左衞門尉源行實。袴唐綾黃。
式部丞大舍人助藤仲實。袴萠木。
左衞門尉藤淸宗。廷尉白袴。
非藏人式部丞橘致綱。装束如レ常。

右方。
左衞門尉藤惟宗。廷尉。白袴。
中宮少進藤知家。袴唐織物。
蔭孫藤基綱。浮文袴。

臨時勅使。
御直衣ヲオロ(下)シテキル。カブ(冠)リノカシ(柏)ハバ(夾)サミセズ。

行啓供奉藏人。
文官アヲイロ。タヾシアフリヲサヽズ。二省丞ハカラ(唐)ヲ(尾)ヲユフ。衞府ノ供奉スル時。啓ノ尉平胡籙。尻鞘。平緒。布帶。絲鞋。行幸供奉ノゴトシ。アヲイロヲキル。非啓之人シカラズ。タヾ前駈ノ儀ナリ。

輦車宣旨仰事。
コノ宣旨ヲオホスル藏人。カナラズアヲイロヲキル。ウキモン(浮文)ノハカマモシクハカラ(唐)アヤ(綾)。

天皇御服之時事。天下諒闇是也。
殿上侍臣。四位。五位。六位。ミナ橡ノ袍。タヾシ表袴下重等鈍色ナリ。宿装束ハ差貫掛等

ミナ鈍色。但褂ハ黄色花田ミナマジヘキル也。

燒亡時事。

奏ニ燒亡ニ藏人。宿装束ト云トモコレヲ奏ス。束帶ニテモモトヨリソノカギリニアラズ。廷尉藏人燒亡ノ所ニユキムカフトキ。冬ハアヲイロキル。白キアヲバカマ一斤染毛沓也。タヾシニハカニテケグツヨウ井セズバ。アサキクツニテアルベシ。又弓箭胡籙ヲタイスベシ。夏ノ時アナガチニアヲ色ヲキズ。但着不着ノコト人ノコヽロニアルベシ。廷尉ハアランニシタガヒテ。白羽ノ矢ナリトモオフベシ。撿非違使等參内ノアイダ。殿上口ニナラビタツ他ノ藏人ソウスベシ。モシ他藏人タチカクレバ。殿上口ノハシラノモトニ弓箭ヲヌギ置テ。小庭ヲワタリテ殿上ノワキノトノモトニ毛沓ヲヌギオキテ。御所ヘ參テ奏スベシ。承保二年七月廿九日内裏燒亡。上卿侍臣藏人装束。束帶。衣冠。タヾアルニシタガフベシ。タヾシ近衞司。諸衞佐ミナツボヤナグヒヲオフ。撿非違使別當源俊明卿。直衣ニ隨身ノ白羽ノ矢ヲオフ。火長ノ矢カ。殿上ノ廷尉ミナ狩胡籙ヲタイス。

抑左衞門尉源盛長。我家ヨリアヲイロヲキテ參ル。シカルベキ人ミグルシキヨシヲシメサルアイダ。近邊ノ人イデテ位袍ニ着シアタム。

藏人初參事。

新藏人初參ノ時。無紋ノ装束ヲキル。

冠。無文。位袍。夏ハウス物。二藍。冬ハ緑衫。ムラサキウラ 下襲。無紋。躑躅。表袴。ヒラギヌ瑩。袙。綾モエギウスイロ。單。紅綾。大口。紅生ナリ。帶。角まろとも。襪。チリヌキ。扇。衞府官ハ劔。細劔。笏。タイスベシ。冠モ細纓ニテアルベシ。文官儀式官笏バカリヲモツベシ。

宿裝束。

平絹奴袴。ハラジロアルベシ。衣。綾如レ常。單。同。

禁色ヲユルサレテ着トキハシカルベキ人ノ御裝束ヲ申ス。半臂。下襲。表袴等也。此外ハ私ニ用意ス。禁色ヲユルサレテ後シバラクアテ。ウスモノ、サシヌキヲキルベシ。宿衣ヲユルサレテ後。兩三日布袴ヲ着ス。タヾシ近代ハ一日バカリキルカ。オホヨソ青色ハ束帶ニキテノチ。トノ井裝束ニキルベシ。新任ノ人又コロモガヘ後（任）一兩日ヲヘテ。衞府儀式官ニウツリニンジ。文官撿非違使ニウツリニンジナドスル人ノ事也。

凡藏人青色ヲ着スル時カナラズウキモンノ袴ヲキルベシ。カラアヤノ袴キルトキカナラズ象眼ノ下重キルトイヘリ。タヾシ冬ハカナラズカラアヤノハカマヲ用。下重半臂ニオキテハ。ハナヲ象眼ヲモチ井ルベシ。シロキアコメヲキルベカラズ。宿衣ニアヲキイロヲモチ井ルコト。カナラズオリモノカラ（唐）アヤノサシヌキヲキルベシ。但固織物ハ上古キズ。シカルヲ近代イデ（出來）イタルモノ也。ナヲアヲイロヲキン日ハモチ井ルベカラズ。タヅヌベシ。夏時ウスモノ、サシヌキヲ用ルツ子ノ事也。二省丞ハアヲ色ヲキルトキ。ヒタヒアテヲハナチシリヲヒク。但沓ニオキテハ。ハナキレアサキ心ニアルベシ。夏ノ時アヲイロアナガチニキルベカラズ。タヾシ人ノコ、ロニアリ。キ（着）ンニオキテハベチニソシリアルベカラズ。タヾ極子ツノコロニテミグルシキ故ナリ。

掲焉ノ時麴塵ヲキル事。

ケチヱンノ時藏人カナラズキクヂンノ袍ヲキルベシ。コレ雜袍ノ宣旨ヲカウブリタル

ニヨリテ也。宿衣マタシカナリ。就中蘇甘栗使。臨時祭舞人試樂日。御禊垣下五節預(中畧)ニカナラズキルベシ。(中畧)又廷尉ノ藏人。青色ヲモテ常ニトノ井装束ニモウヘブシニモキルベシ。

青色ヲキザル事。

主上令ㇾ着御ㇾ日ハ。案内ヲシラズ着バヌギカフベシ。賀茂祭ナラビニカヘリノ日。二省ノ丞役ヲツトムル日。撿非違使ハジメテ廳ニツキテ畏ヲ申日ト也。節會ノ本官役凶事ノトキキルベカラズ。凡藏人青色ヲキルコヽロ。御衣ヲタマハル心也。麴塵ハ大臣以下非藏人藏人藏人所雜色非雜色通用ナリ。但非藏人ハ無文ヲ用ベシ。オホヨソ藏人シカルベキコトニヨリテ勅使ニテ城外スルトキ。御直衣ヲオロシテキルナリ。但文官ノ藏人ノ事也。衞府ニオキテハ着セズ。凡無官藏人結官ノ後。還着以前無文ノ装束ヲキルベシ。タヾシ近代シカラズ。諸司ノスケ式部丞ニウツリニンズルトキ。下重ヲヒキアゲテ拜賀ヲ申也。新任ノ衞府卷纓ナラビニワキアケノホウヲキル。但近代結官里亭ニイデヽ衞府ノ装束ヲキテ參內ス。殿上人兵部ノアテブミヲマタズ。シリナガキ衞府撿非違使ノ宣旨ヲウケタマハル時。殿上口ニシテシリヲ(小舍人シテ)キル。(コレヲキラス)タトヒ里亭ニイヅトイフトモ。參內ノ後シリヲキルベキカ。又畏ヲ申ザルサキ宿衣ヲキテ夜參內スルトコロ也。但表袴ノウラニオキテハ。件ノアヒダモトノゴトク蘇芳ノ色ヲモチ井ルツ子ノ事也。畏ヲ申テノチシカルベカラズ。アヲウラヲモチ井ルベシ。畏ヲ申サヌサキトイフトモ。シロキキズ。アヲバカマニオキテハキルベシ。有ㇾ心喪ㇾ人アヲニビ(青鈍)ノ織物。表袴。綾ノ柳色ノ下重ヲキ

ル。夏ノ時ハアヲニビヲキルベシ。綾ノキヌマジヘテコレヲ用井ル。参河権守(伊與殿御事)平範國藏人タリシアヒダ。式部卿宮薨之時コノ装束ヲキル。又勘解由次官(左衛門權佐殿御事)平行親藏人タリシ時。伯耆守道行朝臣卒去之時。コノ装束ヲキル。件道行朝臣ハ行親伯父ナリ。シカルヲ惟仲卿ヤウシタルニヨリテ着服ヲセズ。心喪ノ装束ヲモチ井ルカ。コレヲラト、先例ヲタヅヌルニ。但アヲニビノ表袴ヲキテハ心喪ノ人ニカギラズ。ソライロト號シテトキドキキル也。凡ソメ袴ハシカルベキ時キル也。ビンナキ(便)時着用スルバウナン(難)アルコトナリ。上古年齢ヤウヤクカタブク人アヲニビノサシヌキヲキル。近代シカラズ。

オサナキ人ノコキ装束ノ事。十五歳以前事也。

束帶。

袍。半臂。文官冬コレヲキズ。下重。コレラハ夏冬ニツケテ。ウチマカセタルフツウノモノ也。シタギハ冬ウラコキ蘇芳ノ袙ニ濃單也。マタアヲキ單モクルシカラズ。表袴ノウラ大口。コレラハコキイロニテアルベキナリ。

夏。

表袴ノウラ大口ハ冬オナジ。アカカタビラアヲ單ノカハリニシロカタビラシロキハリ單ニテアルベシ。タノ装束冬ノゴトシ。コキヒトヘヲキルトキハリヒトヘヲバキズ。

布衣。

コレモカリギヌ(狩衣)ハフツウ(普通)ナルベシ。スハウ(蘇芳)ノキヌニコキ(濃)ヒトヘ。又アヲキヒトヘニテ。シタノハカマコキニテアルベキナリ。夏ナラバ四月ニ。ソレモスハウノキヌ一カサ子ニスヾシノシロキヒトヘヲ重子テキルベシ。五月ヨリハヒタヒトヘ(直單)ニテ

アルベシ。キヌハアルベカラズ。八月十日ゴロマデハコノヂヤウナリ。八月十日アマリナラバスハウノスヾシノキヌニスヾシノヒトヘヲカサヌベシ。九月ツゴモリマデハコノ定也。十月一日ヨリハ子リギヌニコキヒトヘニテモアヲキヒトヘニテモアルベシ。又オトナシケレドモイロユリヌ近衞司ノ祭ノ使スルニコノ裝束ヲスル事アルベシ。ソレハ袍ハフツウノ袍。シタギマタコノ定ニテ。半臂下重コキイロニテヒトヘニテキルナリ。ヒトヘハ冬ノ下重ノウラパカリヲヒトヘニテキルコトアルベシ。コレモシロカタビラシロハリヒトヘ。ウヘノハカマウラ大口コキ色ニテアルベキナリ。

水火童女裝束。

汗衫。

色蘇芳。或ハミドリノイロ。綾平絹イヅレモ例有。夏ノ時ヒトヘガサ子。

寸法事。

身ヒロサ九寸。カタ。大袖九寸。ハタ袖四寸。袖ノ口二尺二寸。マヘノナガサ一丈。ウシロノナガサ一丈二尺。アコメ夏ハヒトヘガサ子。

寸法。

ソデノ口二尺二寸。タテ三尺五寸。ウチキヌハキウチ。ソデノ口二尺二寸。タケ三尺三寸。ウヘノハカマオモテシロシ。ミガクウラ〔ミ脱〕シドリ。

寸法。

ナガサ三尺七寸。

シタノハカマコキウチ。ナガサ七尺。オビサイカク（犀角）ヒキオビ一スヂ。カタミシカイタス（絲）。ビンヅラノレウノムラサキノヨリイト。アフギ（扇）

ヒノアフギ。クツ。アサキクツ。

ビンヅラノ事。總角事也。

マヅカミヲフタツニワケテ。ミヽノスヂニミヽヨリ一寸ヲアゲテシタユヒヲスベシ。（ソテヨリマヘニイダスベシ）ソノウヘヲムラサキノクミニテモ。ヨリイトニテモ。フトサハハシノホドナル。ナガサ三尺バカリアルニテユヒ。メノコムスビニシタレバ。コレハ主上ノ御總角ノムスビヤウ也。ワナノカタヲマヘニアテタレバ。ワナノナガサ一寸バカリニテ。スコシマヘヘスヂカヘタルヤウニテ。兩方ツノヽヤウニテアルナリ。サテワナナラヌカタハ。ウシロヘムキテ六寸カヽリニテ。フタスヂサガリテアルベシ。

主上ノ御總角ノ事。

チタイハコノ定ニユヒタルヲ御グシノスソヲ三ニワケテ。フタツヲバクミアハセテカミヘアグベシ。サテイマヒトツニテアゲタルモトヲマトフベシ。

御服事。

一大小諸神及季冬奉二幣諸陵一帛衣。卽位及正朔受二朝賀一袞冕十二章。

一朔日受レ朝聽レ政受二蕃國使表幷幣一及大小諸會。黃櫨染衣。

一本服二等以上親喪。服二錫紵一。外祖父母亦同。三等以下及諸臣之服喪。除二帛衣一外通二用雜色一。貞觀臨時格。此段喪葬令歟。姪孫雖二二等一依二以レ日易一レ月制一不レ服二錫紵一歟云々。錫紵者細布鼠色淺黑袍。帛衣者謂二白練衣一。

右助無智秘抄以東叡山普門院本書寫挍合

群書類從卷第百十四

裝束部三

餝抄上

一衣服

袍 麴塵青色帛 赤色淺黃橡

表袴 老少之 人文

袙 付單衣老少着 用夏冬裁縫

襪

帖紙

衣 付單衣

下袴

出衣

布袴

下襲 夏冬老少文寸 法先例染色

打衣

大口

扇

直衣

奴袴

布衣

衣冠

一袍。

首書 筆談曰。中國衣服。自北齊已來。全用胡服窄袖緋綠。唐貞觀時猶爾。開元之後稍廢轉矣。通典曰。宇文護始袍加下襴。遂日爲後制。卽今公服也。

麴塵。

天子常着御。稱黃櫨染。文。竹桐。鳳凰。麒麟。

近衞 天養二十一朔旦旬。主上黃櫨染御袍。躑躅御下襲。黑御半臂。縮線綾表御袴。

青色。

天皇着御。文同黃櫨染。臨時祭次度出御。着御青色。櫻御下重也。藏人着之。所雜色

御禊前駈着レ之。拜領由歟。藏人被レ聽二禁色一之時。先着二御衣等一。其意也。仍件色相二傳古物一云々。

帛。

天子令レ從二神事一御之時着御。

天養元九八。齋宮(妍子)群行。震儀召二改白御裝束一。着御事。御二大內一之時一度召二御裝束一。行二幸里第一之時先令レ着二御尋常御裝束一。於二小安殿一召二改白御裝束一。

(六條)仁安二十一廿一。自二廻立殿一移二御神殿一。主上着二帛御裝束一。無文玉巡方御帶。其體甚少。自レ院被レ獻之。

淺黃。

親王着御。

(崇德)保延五或秘記曰。(後白川)雅仁親王元服。諸卿等相談曰。無品親王着二黃衣一。或曰。謂二之淺黃一。專不二分明一。宗能卿曰。是黃色之薄也。予曰。或記曰。親王着二黃衣一。注曰。其淺黃也。世稱二之黃衣一。或記曰。着二綠袍一云々。以レ之推レ之。猶淺黃色歟。(指貫體也。)宗能曰。淺黃者是心喪色也。豈可レ用哉。餘人更不二口入一。予心中雖レ存レ無二其謂一之由上。更不レ出二口外一歸亭。後勘二日記一。

(三條)長和二年三月廿三日。行成記曰。新冠兩王(敦儀敦平)着二黃衣一。(其淺黃色也。稱二之黃衣一。)(堀川)寬治元六二一御曆曰。着二綠表衣一給云々。改二着男御裝束一。綠御袍淺黃也。世稱二之黃衣一。面葵綾練之。裏同色平絹。同練張之。有文御帶。件御裝束。自二此前一自二待賢門院一被二調進一也。

(近衞)久安六十廿三。新大納言傳二法皇(鳥羽)詔一曰。(崇德皇子)重仁親王元服夜。袍色如何。其意趣宜二裁レ狀奏聞一者。報狀曰。無品親王黃衣之由見二西宮抄一。(臨時中。)又縫殿寮式有二所見一。(淺黃。卽薄黃由也。)可レ用二薄黃色一。

考案。先年六條宮元服之時。袍色有二御沙汰一。薄女郎花色也。有二黃氣一者。

赤色。

太上皇着御之。

保元四朝覲。着御赤色御袍。

長寛元朝覲。（同上）今年不着御赤色。着御橡云云。今案。先院（後羽）脱屣之始。神社御幸朝覲等着御赤色。後々着御橡也。文窠中竹桐也。

橡袍。

四位以上橡。五位有蘇芳氣。六位綠。廷尉佐大夫外記史大夫尉等着赤色。近代四位五位無差別。不知故實云々。志之羅綾。非尋常物。故普賢寺入道（基通）說トテ或卿相談曰。件物吾未見聞。古者張目綾トテ自然只張付也云々。文多者唐草。但有輪無輪。當家（道家）用無輪云々。當時攝政九條。窠中唐草。近衞流。納言之時。立涌雲中窠。（中有唐草）關白之後無窠。只大立涌雲云々。當時右府（實氏公。）納言之時如恒。而大臣之後着遠文袍。故入道大相國。（賴實公。）大臣之後着大龜甲遠文袍。前右府（師經公。）又着之。

治曆土御門（後冷泉）（師房）令着遠菱文袍。若宿老高位之後着歟。但件日着御心喪服。若依此事着遠文歟。可尋。赤色淺深。隨家習着之。當時大外記淸中兩家有淺深也。師重朝臣。良業眞人又如此。大夫尉又如此云々。

一下襲。付半臂。

（首書）實錄曰。隨官多服半臂。卽長袖也。唐高祖減其。謂之半臂。或號背子。

冬。面浮線綾文。（粉張瑩之。）裏遠菱文。（濃打菱遠文。）壯年之人有中陪。又文四菱重也。老者一菱遠文。或說。宿老之人面裏張テ着之。不瑩不打。野稱フクサ張下重。或只稱張下重云々。野宮左府（公繼）常着之。夏赤色。（老少之儀如冬。）宿老濃有黑氣。若人蘇芳有赤氣。半臂。冬禁色之人襴羅。（薄物。）身濃打。夏大文黑半臂。冬常者不着

之。袒裼之時若騎馬之時着之云々。不聽禁色之人。冬平絹。其色如恒。夏穀二藍半臂。（冬濃打。夏二藍。）半臂襴以一幅折返而付之也。而後堀川院朝覲持明院（後高倉）之時。土御門大納言（定通）息中將（顯定朝臣）。着染裝束。半臂ヲヌメラカシテ着之。人々傾奇云々。可有用意事也。仍注之。

下襲寸法事。

假令。大臣一丈四五尺。大納言一丈二三尺。中納言一丈一二尺。參議八尺。四位七尺歟。但近年無存寸法之人。只以長爲先。且又隨人高下可斟酌其長短歟。後堀川院御時。雖被定寸法。不拘制法歟。撿非違使別當已下裾。可載先例也。

大理拜賀家次第曰。應德記曰。尻長四尺餘。御裝束被減云々。

（後鳥羽）建久御記曰。御下襲尻四尺餘。御裝束被減云々。

進辭書後大理進退事

（近衞）久壽元十一或秘記曰。別當隆俊卿勘物曰。別當進辭書後。延下襲裾。不待左右出仕。若返給者。且曳。雖一兩日數度進辭書每度延裾云々。准此今日未返給辭書。可出衣歟。而不出之如何。問其由之處。无所陳。

下襲色之事。

火色。

臨時客。賭弓。試樂。凡無止事之晴（時）着之。

唐綾下重着黑半臂事。

久安二二十一列見。（賴長）或秘記曰。予令着唐綾櫻下重。猶着黑半臂之故也。至織物者。不着黑半臂。（忠實）禪閤命云々。

（近衞）仁平元十一廿三臨時祭試樂。舞人隆長。（宇治丞相）三男。着火色下重。黑半臂。紺地半緒。

長寛元正十八賭弓。或秘記曰。左大將(基房)火色下重面裏打之。右大將裏張之。合付中陪。火色下重者。裏可張也。入道殿被仰曰。有打事云々。但僻事也。

仁安二正十八賭弓。或秘記曰。右大將(忠雅)火色下重裏張之。件裏文單文繁也。四五寸計小筋ヲ遣テ織也。有中陪。紅梅地平緒。

(首書)嘉禎三年正月三日臨時客。左大臣(兼經)被着火色下重。後日案內人曰。面裏共打。中陪强張。文面浮線綾圓。裏遠菱如常云々。黑半臂。紺地孔雀唐草平緒。累代物云々。後日顯平卿曰。中陪紅梅衣。張ヲメラカサズ。ヲシタヽミテ入中也。紅中陪ハ黑見云々。半臂裏普通單。但コハリノ料ニ付。裏面小葵。裏菱濃打。或說淺黃色云々。

天養元正廿一賭弓。左大將雅定。初取奏。着火色下重。

久安三三廿八禪閤御賀。宇治左府(賴長)着火色下重。

(鳥羽)天仁二正一臨時客。殿下(忠實)皆練下重。黑半臂。紺地平緒。

(鳥羽)永久四正二臨時客。內府忠通。着皆練下重。黑半臂。紺地平緒。

(崇德)長承三正三臨時客。尊者左大臣家忠。皆練下重。黑半臂。

予案。火色皆練已似無等差。但如長寛記。以裏張可稱皆練歟。年紀不守次第載之。且隨見出故也。

紅梅。

正二三月晴着之。或年中十一二月着之。付蘇芳打裏之時。稱紅梅也。

(首書)(四條)嘉禎三正三臨時客。主人(通家)攝政。裏紅梅下襲。堅織物浮線綾圓。面白裏蘇芳。同半臂。紺地平緒。

仁平二正三朝覲行幸。中將隆長着二紅梅織物半臂下重一。

仁安二正二臨時客。主人（基房）攝政。紅梅下重。（面紅梅。裏蘇芳打也。）浮文梅散花。下不レ着二半臂一。

保延四正二朝覲。或秘記曰。予（賴長）裝束。半臂。紅梅堅文織物。下重紅梅浮文織物也。兩種物文相同。浮文堅文織誤。臨レ期難二調改一。令レ申二此由於大殿下（忠實）一之處。浮文堅文各別者。騎馬之時定見苦歟。被レ仰下可レ着二打下重一之由上。而新打下襲。明日料未二裁縫一云々。自レ內（崇德）被レ仰下可二早參一之由上。大殿下御返事曰。刻限已遲々。只不レ擇二浮堅文一可二着用一。依二此仰一不レ着二半臂一。騎馬日須レ着二半臂一。雖レ然不レ着又常事也。

仁平三正三臨時客。尊者（實能）內大臣。唐綾梅下重。黑半臂。

長承三正三臨時客。主人（忠通）。紅梅織物半臂下重。

蘇芳。

四季着レ之無レ難。但夏生綾也。若薄物。

（高倉）承安三四十七。近衞使少將隆房。薄蘇芳薄物半臂下重。表袴青打。非二禁色一也。

（鳥羽）保安元四賀茂行幸。新右大將（家忠）被レ着二蘇芳二重下襲一。（織物裏色濃如何。）

久安二十一八皇后（得子）宮八講結願。宇治左府着二蘇芳堅文織物下重一。

（首書）（堀川）嘉保二四十七。御禊前驅右兵衞佐實隆。（薄蘇芳下重。萠木表袴。）右衞門權佐時範。（蘇芳下重。）嘉禎三四廿三八幡行幸。近衞大殿（家實）。少將兼平。着二蘇芳二陪織物半臂下重一。（地龜甲。文青濃薄鶴丸。）萠木表袴。文如レ常。但紫濃薄窠文。

薄色。

宿老之色也。四季通用。佐渡院（順德）御宇春日行幸翌日。令二前左府（良平）公一。着レ之。于時七月歟。單

綾織物。文宮形也。

松重。

四季通用之色也。故左府。家通前關白息。後堀川院朝ニ覲高陽院ニ之日被レ着レ之。于時正月。有ニ色々文一。

保延三七廿三仁和寺競馬。宇治左府。于時内大臣。松重半臂下重。白浮文織物表袴。紺地平緒。

嘉禎三四廿六八幡行幸。實雄三位中將着ニ松重下重一。捻重文窠形。白浮文表袴。頭中將資季朝臣着ニ松重下重。蘇芳表袴一

花葉色。

經黄色緯欵冬色。大略花欵冬色歟。裏青打云々。多者三月着用。故通宗卿。任子宜秋門院中宮之時。大原野行啓試樂着レ之云々。

紅葉。

十月十一月晴着レ之。青紅葉。黄紅葉。紅紅葉。櫨紅葉。色々。蝦手紅葉。在ニ人情一

仁安三十廿一大嘗會御禊。故殿通親于時中將。黄紅葉下重。同半臂。文窠形。濃蘇芳表袴。予年少之時。通方故殿仰曰。染裝束文多所レ用ニ菱形文一也。予順徳建暦度爲ニ藏人頭一用ニ此色一了。

保延五十廿六成勝寺供養。宇治左府着ニ紅葉下重一

菊。

十月十一月晴着ニ用之一。菊色々在ニ人情一

久安五十十一日吉行幸。三位中將兼長着ニ菊半臂下重表袴一

裏欵冬。

春冬等晴多着ニ用之一。

嘉禎三四廿三八幡行幸。近衞三位中將基嗣。着ニ生裏欵冬一。但夏裏欵冬如何。被レ申ニ合大殿一歟。然者有ニ其故一乎。可レ尋。兼經

嘉禎三正三臨時客。左大臣着ニ裏欵冬下襲。文窠形云々。同半臂一。紫緂平緒。

花橘。

四五月晴着用之。

前内府宰相中將(通光)通忠爲中宮權亮勤仕賀茂祭使之時。着花橘下重。蘇芳表袴。

(首書)嘉禎三四廿三八幡行幸。右大將家着花橘下重。白表袴。浮文歟。可尋。太政入道(公經)未經羽林。實藤又着此下重。但二重織物。萠木表袴。

女郎花。

七月八月晴可着用歟。

仁安三八四朝覲。中納言兼雅着女郎花下襲。

柳。

宿老人着用之。

元永元正廿六(鳥羽)立后。(璋子)關白(忠實)柳下重。紺地平緒。

天養二十一一朔旦旬。出居侍從右京權大夫顯親朝臣着柳下重。于時記之。衰老之故歟云々。

久壽元二廿六法勝寺千僧御讀經。或秘記曰。今日初着柳綾下重。同三月廿日院御八講。右大臣(雅定)殿(中院)。着唐綾柳下重。或秘記曰。今日右大臣語曰。用引柳半臂下襲之日。以薄織綾爲表衣。見土御門右府(師房)記。康平(後冷泉)三年四月廿二日宇治殿(賴通)仰云々。

保延六十二大殿(忠實)出家拜問。令着布袴給。(柳下重。)

永治元十(近衞)御禊。女御代前駈五位十六人。已上柳打下重。先々多用櫻。今度長元例也。(永治宜作康治。下效之。)

(首書)嘉禎三正三臨時客。菅宰相爲長卿着柳張下重。歲八十歟。

黄柳。

仁安二正二臨時客。或秘記曰。尊者左大臣(經宗)。黄柳下重。面薄黄如練色。裏濃黄打也。

後日平相公親範。談曰。後日尊者被ㇾ命曰。近日可ㇾ着ニ火色下重一之時。前有ニ晴宿老之人一用ニ此色一。京極大殿(師實)令ㇾ注給裝束記如ㇾ此。故知足院入道殿(忠實)令ㇾ命給。文固文窠文。(京極令ㇾ着ニ此色一給時。令ㇾ用ニ鴛丸ㇾ給云々。)黑半臂。依ニ平相公命一如ㇾ右。而後日左中將賴定朝臣談曰。參ニ向彼亭一。令ㇾ取ニ出件下重一給見ㇾ之。面薄黃浮線綾固文織物。裏薄靑打也。平相公說僻事也者。又三條中納言實房。曰。左府被ㇾ命曰。須ㇾ着ニ火色一也。而賭弓在ㇾ近。連々無念。仍所ㇾ着也。又着ニ黑半臂一。若有ニ難人一歟。打任下重同物着事也。然而有ㇾ所ㇾ存者。

豸案。說々中。賴定朝臣三條中納言之說。可ニ信受一也。親範處言人之由聞ㇾ置之一。其謂歟。

(首書)若鷄冠木下重事。嘉禎三四廿三八幡行幸。三位中將公佐着ニ若鷄冠下重。白表袴一。

中將顯親朝臣着ニ同色下襲一。文龜甲。

引耗。

多炎天着ㇾ之。先年修明門院(重子)春日一員御幸。宰相中將實氏着ㇾ之。單濃打也。

保安元四賀茂行幸。關白(忠實)候ニ御後一。騎馬。着ニ引耗下重。紺地平緖給。

(首書)曳陪支下重付ㇾ裏事。嘉禎三四十六賀茂祭。使右近少將源輔通朝臣。爲ニ內府(定通)口入一被ニ出立。而引陪支下重半臂等可ㇾ付ㇾ裏之由諷諫。人々疑殆。前內府被ニ不審一云々。或人曰。近衞大殿(家實)傾奇給云々。

嘉禎三四廿三八幡行幸。攝政(兼經)新(基家)大納言着ニ引陪支半臂下重一云々。

曳陪支下重半臂事。

康平二四十二。土御門齋院自ニ大膳職一入ニ紫野院。御禊也。向ニ新大納言師實。出立所一日。裝束表衣如ㇾ常。曳陪支半臂黑打綾。殿(賴通)下仰曰。

半臂或用二夏薄物黑半臂一云々。傳聞。往年小一條大將(濟時)。大納言。故殿(道長)中納言。同日奉二仕此御禊御前一之時。下重同用二引陪支半臂一。彼大將用二夏薄物黑半臂一。故殿如二今日所一レ用。時人曰。彼大將知二此事一人也。又故殿者大入道(兼家)殿幷一條左大臣(雅信)殿存生之間也。定有レ故歟云々。左大臣云。彼大將半臂。是又一說也云云。今雖レ有二兩說一今日只用二故殿餘風一也。

萠木。

仁安二十廿一日吉御幸試樂。新中將賴實。逢腋。萠木下重。同半臂。裏濃蘇芳上袴。

櫻。

三月晴多着二用之一。白櫻・櫻萠木。樺櫻等也。白櫻歲中正二三月或用レ之。予歡喜壽院供養。三月。于時三位中將。着二櫻萠木下重一。浮織物。面萠木櫻ノチリ〳〵。裏花田打。有二中陪一。

永久三二十一朝覲行幸。新大納言(忠通)法性寺殿。樺櫻下襲。櫻花文。

保安四二廿九朝覲。新大納言有仁。櫻萠木二重織物下重也。

天養元正廿一賭弓。宇治左府着二櫻張下重一。去年朝覲行幸所レ着下重也。

永治元三廿一女御(美福)得子。(崇德)堂供養。大將着二樺櫻織物下重一。

仁平二正三朝覲行幸。宇治左府着二(近衞)櫻唐文下重一。

永久四正二臨時客。民部卿(宗通)櫻下重。紺地平緒。師時記云。白櫻下重歟。可レ用二紫緂一者也。

白重。

宿老之人多着二用之一。先年左土院御宇㝡勝講。當時前左府良平公。于時大納言。着二美絹白重一。人以不レ爲レ可。故左府(家通)前關白息。着二(賴長)麁惡絹一。稱二麁路一。在二彼家一云々。

保延六十一十新所旬。或人記曰。康和二年七月一日新所旬。此日左大臣俊房。着二白重一。

云々。今日予着レ之如何申二禪閤（忠實）一。仰曰。老人苦熱之比着二白重一。因レ之彼大臣被レ着歟云云。何可レ着乎。仍今日余着二打下重一。

久安四六一秘記曰。院御逆修結願。土御門（雅定）大納言着二生裝束襪練一。老人尤可レ然歟。

仁平二正三。關白（忠通）令レ着二白重一。

仁安三十二殿記曰。衞府着二闕腋一之時。不レ着二白重一云々。

永久四正二臨時客。或人記曰。師時朝臣着二用白重一如何。左府二男。先年故民部卿俊明。殿下（忠實）令レ任二太政大臣一給時。大饗日被レ着二件下重一。（俊明）彼人爲二一大納言一之上。宿德之舊臣也。以レ彼思レ之。猶宿老之人可二着用一歟。但更衣之日。不レ論二老少一皆所レ着也。依二不審一旦所二書付一也。可レ尋二先例一。

長寬元五或記曰。隆季卿着二白重一參內。中古爲二恒事一。然而近代不レ見。或人曰。此事不レ甘心一。宿老人可レ然人着レ之云々。

久安三四十一或秘記（賴長）曰。仁和寺灌頂後朝。予着二白重一。

仁平元正一或秘記曰。今日太政公（實行）着二白重一。其表瑩レ之。諸卿傾奇。申二禪閤一之處。有二無レ難之仰一。

永久四正二師時記曰。下官着二白重一。白袙。單衣。紺地平緒。大臣（俊房）仰曰。不レ論二殿上人上達部一。オトナビヌル人着レ之者也。

孝案。宗能難。無二其謂一歟。

（首書）嘉禎四正。着二白重一事。內々示二合備州一之處。御白重尤珍重候。且所レ見如レ然。憶ニナレバ彌勿論之事歟。金剛勝院供養日。康治二年六月六日。顯賴卿着二用之一。次日宇治左府被レ語二申禪閤一。知足院殿。ソレハ何樣ニシテ令レ着ケルニカ。白重ハ冬着レ之。夏ハ四月朔日ノ白重ヲ置テ。定ナドノ有夜。熱時着レ之。又

老者ノ刷之時着也。秋中間着二白重一何故哉云々。師元曆記所レ注如レ此候。隨二覺悟一令二注申一候。

二藍。

苦熱之比着二用之一。先年㝡勝講。右大將（實氏公。）着レ之。文如レ常。

（首書）嘉禎三年五月廿三日㝡勝講。內府（右大將。）着二二藍下重一。文如レ常。同三年五月㝡勝講。前左府三位中將公佐着二二藍一云々。

青朽葉。

自二㝡勝講之比一。至二于七月中下旬一。極熱之比又甚雨之時多着レ之。無二其難一。宿老人雖レ非二極熱一惣着レ之。隨二吉事一時不レ着レ之。着用之儀大概如レ此。於二殿上人宿老一者。近代モ多用レ之。爲家卿少將之時（于時十六七歟。）着レ之。其色濃。公卿希見レ之。前關白（家實）當時攝政（道家）㝡勝講被レ着レ之。有二黃氣一トクサ色也。

保元二四十五祭歸立。近衞使右中將信賴朝臣。今日着二青朽葉半臂下襲一。櫨緂平緒一。仁平元五廿四㝡勝講第三日太政大臣（實行）白單衣。青鈍半臂下襲綾。沃懸地劒。

保元三六九相撲事始。少將成憲朝臣（年預。）着二青朽葉下襲一云々。

同節。七月或秘記曰。出居將或青朽葉。青緂平緒。

（首書）嘉禎二五廿三㝡勝講。通成朝臣（歲十六。）着二青朽葉半臂下重一。其色濃ハナヤカ也。（地薄物。）棟緂平緒。（縫卯花。）五卷日。頭中將實雄朝臣着レ之。其色薄也。同年九月九日重陽平座日。權辨兼隆朝臣着二青朽葉下重一。其色薄青。花色トクサニ可レ染歟。又極熱之比着レ之云々。孟秋九月不レ可レ然歟如何。嘉禎三四廿三八幡行幸翌日。帥中納言隆親卿加二陪從一。着二青朽葉一。其色薄云々。

唐裝束。
仁安三八廿四殿記曰。內府久我雅通。御拜賀。予于時中將禁色也。唐綾表袴。顯文紗下襲。赤色。
久安正四行幸。攝政忠通令着柳唐綾櫻下重。裏色薄。唐綾表袴。
同二二一朝覲。宇治左府着唐綾櫻下重。表袴。十一日列見。着件下重。彼記曰。雖唐綾猶着黑半臂。至織物者。不着黑半臂。禪閤命。
嘉禎二五廿三寂勝講。中納言中將實着書顯文紗赤色。下重。表袴。縮線綾歟。分明不見。左頭中將實雄朝臣同着顯文紗下重。後聞。表袴固文云々。不可然歟。
フクサノ裝束事。
練緯ヲ染テ着也。雅賢年卅五。中將朝覲行幸着之。經通東大寺供養樂行事着之。
或古老曰。有禁色之望人。着之尤見苦。又無禁色望人共ニ付テ片腹痛。不着ハ宜歟。但可依事。少年顯官者。着用何事在哉。
蒲萄染。
嘉禎四年三月廿八日按此條自齋藏春日行幸翌朝。左大將實經立片舞。着蒲萄染下重。黃丸文。
一表袴。
夏冬無差別。禁色人有文。宿老人藤圓。若人霰窠文。藏人頭。聽禁色之殿上人。五位六位藏人等着霰窠文。又晴時浮文。常ハ堅文。但近年五位藏人等隨所存着之。不可例事也。不然之人平絹。瑩之。裏皆紅打。有中陪。
一打衣。
近代多不着之。或人曰。尋常之儀。雖冬束帶着打衣云々。夏赤帷上付張袙。紅。近代多袖許付。畧儀也。
保延四十一廿三宇治左府着座記曰。不着

打衣二云々。
多案。件度雖レ不レ着之尋常着之歟。仍注載之。

一衵。付單衣。
公卿用二赤衵一。壯年之人着二染衵一。若菌木薄色類。權大納言家良。曰。吾等大臣後着二赤衵一。納言間着二染衵一云々。宿老之人。或白衣平絹。同單云云。夏帷上付二張衵一。紅。老人白帷。白張衵云々。單衣。紅。單文。年少之人重文。宿老遠菱。首書
嘉禎二九九 重陽平座日。菅相公爲長卿着二白帷。白張單衣一。老儀歟。尤可レ然歟。

壯年人束帶着二濃單衣一事。
久安四六廿三。侍從兼長申レ慶。束帶濃單衣。
同五八廿五。三位中將兼長申レ慶。或秘記曰。今日始着二紅裝束一。先々濃裝束。

夏束帶着二染衵一事。
或人衣抄曰。九月九日以後。夏束帶不レ着二赤帷。着二染衵一。如黄色也。有二其說一。猶重二紅單衣一也。其單衣平絹也。

一大口。
紅生平絹。或紅張衣。但近代不レ用レ之。宿老之人或白張絹。

一襪。
平絹。或說。夏着二唐裝束一之人。着二顯文紗襪一重一云々。或人曰。故通宗卿爲二藏人頭一寂勝講着二唐裝束一之時着レ之云々。足下可レ有二用意一事云々。黑足見苦云々。佛名故人有二襪合事一。或練緯之二重。或雪下紅梅。盡二種々美一也。近代如レ此事一向絕了。

一扇。
公卿宿老之人。束帶之時不レ論二夏冬一持二檜扇一。直衣之時猶持レ之。年少之公卿。或炎天持二蝙蝠一。冬年少之人橫目扇散薄畫繪。持之。
久安五十十一日吉行幸。三位中將兼長用二

塗銀泥黄菊之冬扇。依禪閤仰也。
重服扇。保元二十一廿八或秘記曰。重服之後初出仕扇鈍色。至于扇者夏冬改之。諒闇扇事。冬扇如尋常。但不置文云云。兩度諒闇。藻壁門院。後堀川院。或置文。夏扇樺花。色薄香村濃。香村濃。或壯人散薄云々。

香染扇事。
保延四二四春日祭。宇治丞相上卿。束帶香染冬扇。

若大臣持夏扇事。
保延二九二鳥羽競馬。或秘記曰。予(賴長)衣冠帶野劍。持夏扇。依大殿(忠實)仰也。

一帖紙。
陸奥紙。或檀紙。好事雲客祭礬固聽様帖紙。
透夏直衣云々。

一直衣。
聽禁色之人。夏大文薄物。冬浮線綾。不然之人。夏穀。冬志々羅綾。宿老之人裏白。壯年薄色裏。

香直衣。
保延三三三平等院一切經會。大殿着之。

無襴直衣。
久安三九十二法皇(鳥羽)天王寺詣。宇治左府依仰着無襴之直衣。薄色裏濃之由注之。

浮文直衣事。
建暦(順徳)大嘗會寅日。左中將資平朝臣着浮文直衣。(織浮線綾。)兼日依上皇(後鳥羽)仰。余(道方于時藏人頭)奏之。彼時仰曰。着浮文直衣之時必可奏也。主上着御之故也。若今案之仰歟。將又有先例歟。彼時如此事有淵深之沙汰也。

宿老之人着平絹直衣事。
承安元四十七賀茂祭。近衞使右少將隆房朝臣出立。從花山院大相國(忠雅)着烏帽子直

衣。立烏帽子。平絹直衣。三條相國。公房公。後高倉院御中陰初七日歟。着之。前内府通光西山御堂供養日被着。又當時攝政道家常被着云々。前内相府曰。着平絹直衣指貫事。上下平絹者似諒闇。仍故實一物着有文云々。

初夏老卿着冬直衣事。

仁安三五一殿記曰。民部大輔憲雅朝臣。語申大夫殿定房久我。曰。故朱雀禮部能俊。待賢門璋子院中宮御時爲彼大夫。御惱之間。四月朔比。宿侍着冬直衣之由傳奏。大夫殿被仰曰。宿老公卿皆以着歟。此兩三年之前四月朔。故卿二品喪家。五七日。爲布施取着直衣行向。先到入道相國公經亭。於彼客座覺悟着冬直衣之由。卽主人對面。無隔心謝此事。相國答曰。故院後白川。御參籠天王寺。父入道實宗。四月朔比。思失着冬直衣。稱忘失之由。妙音院入道師長曰。宿老公卿着之常事也。

大理烏帽子直衣共官人事。

保元元三二或秘記曰。大理殿雅通相具若君被渡宮法印房。烏帽子直衣。共撿非違使能景云々。負胡籙。立烏帽子。毛沓。

文治二八廿。參花山院。申承雜事之次被仰曰。故忠雲法印爲故宮座主弟子之日。我着烏帽子直衣。共官人着烏帽子者。彼日御裝束。不注。愚暦仍令書裏。此事中出之趣者。別當家通。先日被示送曰。烏羽御念佛中間欲着布衣。仍又官人可着烏帽子在共之由存知如何。先人重通。大理之時。官人着烏帽子在共云々。是古老之家人之説云々。我不覺悟。又不記置。依不審所尋申也。予答曰。不覺悟。大理着布衣相具官人事。不打任歟者。後聞。大理猶着直衣志基景。着冠在共云々。禪閤又被仰曰。大理着布衣相具官人事不見知。至于烏帽子

直衣者可然歟。仍我有此事。是私出行儀也。

一衣。付單。

自十月一日至三月晦日。尋常三領。練單衣。非老者單文綾。單衣。但三月二月末。頗及暑氣者。衣一領。重綾衣歟。生單衣。平絹。以之號一重。又無難。二領三領之染衣ニハ。シタニ不重白衣時。不用白單衣。一重生單衣ハ。染衣ニカサヌル無憚。尋常定事也。自四月一日春夏モ一重ハ着レドモ。此日以後ハ必定用之也。至五月十餘日。近代五月不着衣。用單衣。壯年之人ハ若雞冠木薄色。宿老ハ白衣ニ帷ヲカサヌ。自二月末三月着之。稱帷重也。自五月十日近代四月下旬猶如此。至八月十四日。平絹生單衣。保延以往。雖衰老之次將之輩更不着帷。近代皆着之。自放生會比至九月九日。綾生衣一領。平絹生單衣也。至九月晦着之無難。其色女郎花。朽葉。蘇芳。薄色。薄青。黃。青裏等也。故院御時成菩提院御念佛結願。八月上旬之時。壯年人皆着生衣。晴ニハ猶可着歟。自九月九日至十五日。又如四月張衣一重着之。生モ練モ任意也。自十月一日張衣三領。見上。但非年少人。非極寒者一重。生單衣。衣無難。非壯年人。雖八月中旬着白張衣無難。又雖壯年。晴日着色々張衣常事也。近代三領衣。五節壯年人外不着歟。

或人衣抄曰。文治三年新日吉小五月。中將忠經。少將家經。着生衣參。夏始生衣自是始。其後通宗又着之。通具又着之。其後遍滿。古老不知此事。承仁偏新儀也。

養和元年八月。梶井宮受戒。供奉殿上人多着張衣。少々着生衣。

治承三年秋。左中將泰通朝臣。年卅三。左少將資通朝臣。年廿八。共直衣着白張衣。少年所見也。雅賢

實敎等ハ雖三十餘猶着生衣。其比人老少皆ヲトナシキ裝束ヲ着用。仍下官自年十八着薄色奴袴。近年人不然。或曰。蹴鞠之人着若年之裝束云々。中御門内府宗能。說曰。男裝束惣無生衣。不可着云々。仍彼子孫不着之。但亡祖卿藏人少將之時。白川院歷覽鳥羽殿東山之日。浮文指貫。着女郞花生衣。烏帽子。風口ニカウガイヲ指テ居鶺鴒供奉之由。物語之次聞之。寛治之比。猶有男生衣歟。

仁安三四廿六殿記曰。大夫殿御敎命曰。自五月可着單計。予通親申曰。因幡少將隆房。近日着生衣。被仰曰。令着已云々。或人又着張衣。常事也。又着生衣云々。

同二九廿二同御記曰。殿仰曰。九月十三日以後。可着練衣。不可着凉衣。八月十五日以後。可着生衣。九月練衣一重。生單。十月二重練單云々。

保元三八廿五院後白川號始御幸。殿上人衣冠。多着生衣。或單平絹衣事。

保延四二三宇治丞相春日詣。綾紅打出衣。白衣三單文。白單衣。

一奴袴。

色淺深。隨年依官可斟酌也。禁色之人織物。不然之人志々羅平絹。壯年之人夏着大文薄物。或烏多須岐等。生織物白文奴袴。高貴之人着之云々。當家壯年之間。着龍膽多須岐。宿老之後藤圓。

夏冬指貫更衣事。

或人衣抄曰。自十月維摩會比至四月御禊前用練指貫。自四月御禊日至十月十日比生指貫。若五節着夏衣之輩相侍不冬衣。

仁安二九十八殿記曰。參殿尋申曰。夏指貫何比マデ可着候哉。被仰曰。五節マデハ

令着也。故入道殿御教命ニハ着夏指貫。色色ノ衣可透也。冬ハ指貫。維摩會行事弁下向可着。其前貫首着之。雖然好事者。十月籠居五節着也。來月上旬衣冠。猶着夏指貫也。雖廿日比可着衣冠。

保延二四御禊。或秘記曰。雅賴談曰。自今日可着生奴袴云々。此事在雅兼卿記。故花山院左府殿家忠之仰云々。但彼卿曰。雖無所見。古人之着用如此云々。

仁安三四六殿記曰。着衣冠。冬袍。冬指貫。　祭以前不着直衣指貫。

今案。保延雅賴談。仁安故殿道親之記。相叶或人衣抄意歟。但祭以前之由令記給。御禊前一兩日事也。但同事歟。可着夏衣冠歟之由。有後日難云々。

五節着夏指貫事。

首書　嘉禎二年十一月五節寅日。花山末子少將。年十五也。直衣冬ハ如常指貫。單衣二藍。紫匂三青單衣。欵冬ハ打衣青透云々。如仁安御記或人抄者。可着夏袍歟。如何。

保延二年十二十八宇治左府于時内大臣大將。壯年直衣始。織物薄色堅文。指貫籠括。

仁平三二廿八中納言中將兼長直衣始。紫堅文織物指貫。

久壽元十一廿三中納言中將師長直衣始。薄色浮文指貫。末濃奴袴。或書曰。如洛外非尋常出仕之時。色々末濃。村濃。如唐綾。非制限着之云々。

今案。公卿勅使。八十嶋類也。

保元四正廿六公卿勅使。別當。時忠。大夫進隆家。末濃奴袴。青鈍浮文奴袴。

保安五十廿一新院鳥羽高野御幸。御後左衞門督。通季。青鈍浮文織物奴袴。白文御奴袴。

保安四二二新院始御幸。御奴袴半色二重

織物。鸚鵡唐草白丸文。無文靑鈍奴袴。
保安五四十四兩院御棧敷御幸。殿下濃打
ヒヘキ出衣。靑鈍無文奴袴。依レ仰着二薄色奴
袴一。

四品之後可レ着二薄色指貫一事。

仁安三正八殿記曰。大納言殿雅通久我。敎命曰。四
品之後。可レ着二薄色指貫一。是入道殿雅定中院。仰也。
薄色指貫紐腹白也。是又入道殿中院。仰也。
彖案。兩祖御命尤可二信受一。雖レ然近代十
二三歳輩。多昇二四品一帶二高官一。尤可二斟酌一
事歟。已異二于古一也。

壯年公卿冬指貫夏指貫着交事。

仁安三五一殿記曰。大夫殿久我。仰曰。冬指
貫。年少公卿與二夏指貫一着交常事也。宿老
之人者不レ及二沙汰一。着二冬指貫一者也。
保安五七十三若宮始渡二御白川殿一。公卿已
下四人皆被レ着二薄色奴袴一。有二別仰一。

紫指貫着用事。

或書曰。紫奴袴ハ及レ廿者不レ可レ着。近代人
人所二見及一。兼宗卿十七少將之時着二薄色一。五
節公衡卿廿四侍從之時猶紫奴袴也。人々
所存樣々歟。通資卿十八少將之時着二薄色一。
父內府雅通存生之時也。
今案。仁安殿記。大納言殿命曰。四品之後
可レ着二薄色一也云々。今所レ被二思合一也。但
十四五六猶可二斟酌一歟。

年少大臣晴時可レ着二堅織物指貫一事。

保延三十二三法成寺御八講竪義日也。或賴長
秘記曰。參二近衞殿一。忠實大殿問曰。着二何指貫一哉。
余答曰。薄色綾指貫。殿下起レ色曰。年少大
臣竪義日必着二堅織物指貫一。何可レ隨二老人之
作法一。於二老人一者。雖二淺黃平絹一有二何憚一哉。

白文二重織物指貫事。

此條省書歟嘉禎三十一十九寅日殿上淵醉。太政入道公經

末子少將實藤。着梅丸白文紫二重織物指貫云々。如此事如何。執柄臣嫡家多者無止人着之也。但當世獨步之人。不能子細哉。後日六條大納言有傾奇也。

不依官隨年齒用紫奴袴事。

平治元年二月十日。中納言中將基房。春日祭進發日。被着紫織物奴袴。同日右大弁資長着薄色奴袴。

夏織物。

久壽二四廿一賀茂祭。隆長見物。二藍織物奴袴。鳥襷文。

淺黃堅文奴袴。

保延六十一十五童御覽。宇治左府于時大臣大將。着淺黃堅文指貫。

萠木指貫。

仁安三十一廿二童御覽。中將賴實着萠木指貫。梅重出衣。

今案。建曆度寅日。當時右大將家嗣于時中將。着此色也。

公卿借用殿上人奴袴事。

久安四二十一攝政忠通法性寺邊移徙。予宇治左府。着宿衣。借用侍從師光薄色指貫。余無薄色指貫之故也。

宿老之人大將後着薄色奴袴。

仁安三八廿二殿記曰。爲御使參花山院忠雅。着直衣可參院。愚意所存淺黃指貫何樣可候哉。古賢大將之後着薄色云々。土御門殿師房拜賀翌日令參宇治。着直衣毛車。令帶劒笏云々。而今度令相具之由在御記。然者今度此定可候歟。御返事曰。尋常儀薄色宜歟。淺木何樣可候哉。然而率爾也。淺木又有何事哉。去廿四日御直衣始。薄色練指貫。

薄色指貫。

或人書曰。夏指貫狩衣。薄平絹用程人着薄

物指貫。假令英華之輩。着二綾羅一之程猶用二薄物一也。無二先途一之輩過二壯年一。薄物依二異樣一不レ着レ之。近代無文織綾薄物指貫。人多着レ之。古人曰。如二近衞司一努々不レ可レ着。老者依レ無二止事一。用二生奴袴一之時。薄物着用也。近代少年少將着レ之。冬ハ、ラ綾。古人又惡レ之。近代每レ人着レ之。直衣同前。

紫菀色指貫。

或人書曰。九月九日以後。或說。必不レ待二九日一。有二可レ然晴時一着レ之。晦以前着二紫菀色指貫一之人着二練指貫一。件指貫。古人紫菀色。而薄色靑裏着レ之。雖レ着二紫冬。二藍一夏。人。於二此間練指貫一者。猶可レ用二紫菀色一。秋中不レ着二此色一之人。尤過二十月上旬一可レ着二冬指貫一歟。雖レ着二紫菀色一。於レ袍者猶着二夏袍一。

指貫腹白事。

或書曰。少年壯年腹白結。少年之時結ノ組ヲク、リサシノ中央之程ニツイトヲシテ。マヘニ腹白ヲ結也。故殿京極殿歟。仰曰。我等一門此前ノニ結。假令十六七以後ノ人ハ。ク、リサシノ內ヲ融シテ引出シテ。腹白許ヲ結也。中少將。侍從。兵衞佐之輩。年廿四五マデハ必可レ用二腹白一。頗サタサグル時。朝夕有二事煩一撤レ之。晴日猶可レ用二腹白一。如二五節一也。次雖二三十之人一。猶晴ニハ結ヲ不レ籠。腹白ノ程ヲ過テ。オトナシキ人ハ。指貫同色ノ組ヲ融テ引出テ。白絲ヲ不レ交。其絲許ヲ如二腹白一組テ猶サグル也。腹白ハ四筋サガリタル。是ハ二筋也。及二三十餘一者。此事不レ可レ然也。

瑠璃色指貫。

仁安三四廿六殿記曰。大夫殿久我。敎命曰。淺黃指貫。五月以後可レ着。言二瑠璃色一。或書曰。極熱之比。着二瑠璃色指貫一。近代雖レ屬二冬氣一不レ憚。猶似レ不レ知二故實一歟。

一下袴。

宿老之人。白下袴。壯年用二紅下袴一。幷濃下袴。故有雅卿着二黃生下袴一。白下袴下着レ之。切二口一令レ出也。自二資賢卿常着一レ之云々。後日對二面正佛房一之次號二馬入道一。問レ之。答曰。故入道常雖レ着レ之。非二此袴一云々。

老後可レ着二白下袴一事。

仁安三正八殿記曰。大納言殿久我。致命曰。老後可レ着二白下袴一也。

生單下袴。

保延二九二鳥羽競馬。宇治丞相衣冠。白袷。生單下袴。

一布衣。

張裏壯年之人用レ之。但舊例無二過失一。高年之人多着レ之。生白裏宿老之後用レ之。近來老少用レ之。尤可レ有二差別一事也。

保安五二十白川鳥羽兩院雪見御幸。按察經實唐蒲萄染襖。紅衣。戸部忠敎香織物紫裏襖。紅衣。侍從中納言實隆。濃香襖。黃衣。左衞門督通季。青織物襖。紅衣。別當實行。白唐綾襖。白衣。新源中納言雅定。唐蒲萄襖。唐紅衣。左兵衞督實能。唐蒲萄卷染襖。唐紅衣。新三位。ヒハダ襖。衞府之人皆帶劍。

保安五十廿一新院高野御幸。御後左衞門督通季卿。布衣。蒲萄染綾織物青打裏襖。青鈍浮文綾織物奴袴。皇后宮權大夫師時。布衣。薄色圓文綾襖。裏濃。十一月二日同還御。別當忠敎。白綾狩襖。立涌雲。紅衣。ムク蘭地奴袴。立烏帽子。

布狩衣。

極熱之比勿論。其後依レ時依レ人歟。其一門ユルサレタル人ノ着タルガ宜也。非二可一レ然之人一者不レ可レ然。予少年。十二三歟。故殿相具令レ參二六條殿一給。朽葉布狩衣絬色々如二松藤一也。着レ之。先院隱岐。御時。夏比上下多着レ之。壯年之人。或指廣絬也。白組也。

薄平絬。

或書曰。卅四五以後人不ㇾ可ㇾ着歟。

白裏狩衣事。

或書曰。白裏狩衣ハ。故人雖二衰老一猶憚ㇾ之。近代嬰兒多着ㇾ之。俊成入道沈倫不ㇾ居二顯官一叙二四位一及二四十一之後。着二白裏狩衣一。侍從大納言成通卿。參二會院一見ㇾ之。白裏狩衣キサセ給ナトテ被二流涕一。是衰老失二前途一之由歟。以ㇾ之思ㇾ之。侍從少將等更不ㇾ可ㇾ着歟。近代公衡。兼宗。忠季等。侍從少將之時皆着ㇾ之。

着二白裏一之間布衣帶事。

或書曰。着二白裏一之間。雖二布衣一用二白帶一。恒例也。

張裏狩衣事。

保元中納言中將春日祭上卿下向日。中山內府忠親于時中將。宿老歟。着二縹張裏狩衣。薄色指貫。白衣二。同單一云々。

白裏狩衣。

平治元春日祭上卿下向日。中山內府于時中將。着二縹白裏。白衣。白單一云々。

織狩衣事。

仁安三正八殿記曰。大納言殿敎命曰。四品之後。織狩衣雖ㇾ令ㇾ着不ㇾ得ㇾ意。汝猶不ㇾ可ㇾ着。

一出衣。

久壽元正八。崇德新院修正御幸。隆長衣冠。出二紅打衣一。

平治元二十。中納言中將基房。春日祭進發。直衣。出二紅打衣一。右大弁資長。衣冠。出二裏欵冬衣一。

久壽二四廿一賀茂祭。隆長見物。直衣尋常。二藍織物奴袴。鳥襷文。紅曳折。出ㇾ之。生單。

保延二十一十二五節帳臺試。予着二直衣一。薄色指貫。白衣。紅打衣出ㇾ之。

保延四十一。宮御方淵醉。民部卿忠教。直衣。淺黃奴袴。蒲萄染衣不㆑出㆑之。侍從中納言實隆。直衣。淺黃指貫。紅梅出㆑之。
高倉嘉應元十一十三殿上淵醉。頭弁信範直衣出㆓柳衣㆒。
長寬元十一十五同淵醉。頭中將忠親。柳織物出袿。頭辨雅賴。白出袿。
仁平三十一十八。頭弁朝隆朝臣。昨日直衣。出衣。今日衣冠。不㆓出衣㆒。
崇德大治元十一。中將宗能。白衣三。着㆓同單衣。薄紅梅織物㆒。浮文。
仁安三十一。故殿通親櫨紅葉五重。チメラカス。紅面織物。紅葉三。青單衣。
永久四十一十三。宗能出㆓蘇芳打衣㆒。
仁安三十一廿一。故殿。禁色織物筥形。濃蘇芳裏。打出衣。裏勝萠木。衣三。立涌雲。紅單衣。單文。有文直衣。薄色織物指貫。紅打衣。
紫薄樣三。

長寬二十一十五。內藏頭俊盛朝臣。柳袿。前周防守隆輔朝臣。大貳成範朝臣。同袿。右中將家通。實宗朝臣。少將通能。已上紅梅織物袿。
保安四十一。備中守敦兼。參河守有賢。衣冠。白織物。固文。綿衣出㆑之。
仁平三十一十六。隆長直衣。紫浮文織物指貫。出㆓紅打衣㆒。十八日。紫浮文織物指貫。紅梅浮文織物出衣。不㆑入㆑綿。有㆓中陪裏等㆒。
保安五十一十七。藏人左兵衛尉泰重。青色萠木浮文筥形。織物紅打衣。紅梅匂衣等也。
長寬元十一十五。五位藏人重方。薄色唐綺出袿。白衣二領。同單衣。堅織物指貫。頭藏人左兵衛尉源通定。青色袍。織物指貫。皆紅袿三領。同單。
仁安三十一廿一建春門院皇太后宮淵醉。大相國。忠雅。不㆓令㆑出㆑衣給㆒。兼實着㆓白織物衣㆒給。右大臣。出衣。大宮大夫。公保。花山院中納言。兼雅。束帶。已上別當。時忠。着㆓一斤染平絹㆒云々。權大

夫。宗盛。出衣。

長寛元十一十六或秘記曰。宮御方淵醉。右兼房府。右將軍兼實。中宮權大夫實長。右衞門督公保。大宮宰相隆季。宰相中將實國。已上不㆑出㆑衣。右兵衞督重盛。出㆓裏濃紅梅厚衣㆒。武衞密語曰。人々不㆓出衣㆒。已爲㆓失錯㆒歟。予答曰。有㆓何事㆒乎。先々恒事也。後日申㆓大納言殿㆒。被㆑仰曰。末座壯年之人々皆所㆑出也。我爲㆓三位中將㆒之時。皇嘉門院爲㆓皇太后宮御所禁裏㆒時。紅打綿入所㆑出也。可㆑參㆓童御覽㆒之人。不㆑應㆓其召㆒之時。着㆓束帶半臂㆒參上。不㆑可㆑然之人着㆓束帶㆒頗爲㆓無㆑便事㆒也。故中院右府雅定所㆑被㆑示也。

天養元十廿八重仁親王着袴。上皇崇德御直衣。出㆓紅打衣㆒。

永久二二十四　新大將法性寺殿歟。直衣始。有㆓出衣㆒。紅打衣云々。

保延二十二十八宇治左府大臣之後直衣始。紅打出衣。

仁平三十二廿八中納言中將兼長直衣始。紅打出衣。

久壽元十一廿五中納言中將師長直衣始。紅打衣。

仁安三十一廿一皇后宮多子淵醉。別當時忠着㆓一斤染衣㆒。平絹云々。

同二十廿四日吉御幸。舞人賜㆓裝束㆒。殿記曰。予薄色衣二。紅單衣。濃打衣出㆑之。泰通薄色二。紅單衣。濃打衣。隆房黃葉衣三。紅單衣。萠木織物出衣。知盛薄色二。紅單衣。濃打出衣。通能薄色二。紅單。紅出衣。

同四二十二殿記曰。皇后宮平野行啓。賜㆓舞人裝束㆒。着㆓直衣㆒。薄色衣二。紅單衣。出㆓紅打衣㆒。是兼日令㆓沙汰㆒。大臣殿少將之時。高陽院春日一員之御幸。令㆑勤㆓仕舞人㆒御時例也。舞人等各以出衣紅打衣。但家光出㆓紅梅織物㆒。

久壽元九廿九鳥羽競馬。右大將兼長衣冠。半色織物奴袴。白生單衣。出衣引打。不着衣。

首書保延二十一十四中宮聖子渕醉。宇治左府于時内大臣大將。着直衣。白衣。薄色織物指貫。濃打。

長寛元十一十六童御覽。右將軍兼實被出松重。猶不入綿打重。浮文藤圓指貫。右府基房被出裏衣厚綿絹云々。

保延二十一十四童御覽。宇治左府直衣。半色丸文奴袴。薄紅梅衣二。同色單衣。裏濃紅梅織物出衣。闕白忠通淺黃丸文綾奴袴。令出堅文織物白厚衣給。保延三十一十五童御覽。宇治左府于時内大臣大將。薄色浮文織物指貫。濃打出衣。白衣三。白下袴。單衣。同六十一十五。同人淺黃堅文織物指貫。白堅文織物出衣。仁平元十一十九童御覽。同人紅梅浮文出袿。薄色堅文奴袴。同三十一十八童御覽。兼長紫浮文織物指貫。出紅打衣。仁安二十一廿七春日詣。因幡少將隆房衣冠。出紅打衣。保延四二三宇治丞相春日詣。衣冠。綾紅打出衣。五日同歸洛。直衣。浮文織物笥形。濃蘇芳裏打出衣。裏勝萠黃衣三。立涌雲。紅單衣。保延五十一十五大殿忠實八幡詣。同競馬。大殿着堅文織物出衣。同十一月十一日大殿春日詣。宇治丞相衣冠。紅打出衣。大殿衣冠。御出衣經青緯櫨色也。文立涌雲。永治元三廿一女御得子美福。堂供養。院御直衣。紅御出衣。保安五二十雪見御幸。新院鳥羽御烏帽子直衣。紅堅文織物出衣。濃紫織物浮文御奴袴。保安五四十四兩院御棧敷御幸。殿下忠通濃打ヒヘキ出衣。令着鳥羽青鈍無文奴袴。保延二正廿六御五十日。上皇御直衣。固文綾。御出衣龜甲浮文織物。紅色。入綿。保延二九二鳥羽競馬。宇治丞相衣冠。紅打

出衣。

一衣冠。

宿德人。大弁宰相。依レ事着レ之。雲客者修正御幸。院尊勝陀羅尼着レ之。自餘衣冠之。雖二束帶一帶二革緒劔一。无レ難事歟。

久安四二十一攝政（忠通）法性寺邊移徙。宇治丞相着二宿衣一。

仁安四正廿六別當時忠伊勢勅使發遣。衣冠柏夾。無二出衣一。

仁安二十一廿七殿記曰。攝政（基房）春日詣。依二院宣一勤二仕前駈一。衣冠。騎馬之間。帶劔（野太刀）。着二半靴一。少將隆房。少將光能。衣冠。

保安五十廿一新院高野御幸。始終參二御共一人々。上達部殿上人布衣。自餘衣冠。別當一人衣冠。不レ渡二前庭一。藏人右衞門權佐實親衣冠。負二狩胡籙一。帶劔。柏夾也。

保延二九二鳥羽競馬。宇治丞相衣冠。出二紅打衣一。前駈束帶。

一布袴。

執レ聟若四方拜。非二公事一无レ止之時着レ之。直廬除目。攝政被レ坐二簾中一之時着レ之。

保安二三七新（忠通）博陸慶賀之後初出仕。直衣。檳榔。前駈等布袴。

（堀川）康和二四禊祭日。內大臣（雅實）參二齋院一。御布袴。大文奴袴。蘇芳下重。野劔。

此分迄。撰者通方卿以二自筆一令二書寫一畢。已後分。逍遙院（俗內大臣實隆）。以二自筆一令レ染二禿筆一。右本限二日數一借用之故。文字等難二見分一事共。如二本令一書寫畢。重可二淸書一者也。

餝抄中

一身具

冠　烏帽

老懸　劔 餝劔螺鈿蒔繪野劔 樋螺鈿薄塵地黑漆

平緒 紫緂紺地白地蘇木地青 緂紅梅櫨緂香緂鈍色香　帯 有文無文紺青玉 馬腦犀角牛角

弓 彇取柄樺 卷組弦　箭 箶簶箸羽樺矢 尻隙塞表帯

笏　履 靴沓淺沓深沓半靴毛 沓鼻切沓藁沓糸靴

一冠。

四位已上有文。地下五位已下无文。

年少之人用二薄額一。近代有二事煩一。不レ依二年齒一用二厚額一。僻事也。中年人或用二半額冠礒額一。隨二人面一立之。插頭花之時。令レ放二前細絲一也。纓閉レ之。不レ然爲レ風各別被二吹成一也。

（崇德）保延三正一槐（賴長）記曰。于時内大臣右大將。初着二厚額冠一。年十八。

（六條）仁安三正八殿（通親）記曰。大納言（雅通）殿久我。敎命曰。四品之後。可レ着二厚額冠一。入道殿（雅定）中院。仰也。猶着二薄額冠一人間有歟。雖レ然不レ得レ意也。

眔案。近年人々。僅十二三歲昇二四品一帶二高官一。仍異二于古一也。隨二年齒一可レ斟二酌事一歟。薄額。苦熱之比有二其煩一也。仍不レ論二歲之老少一。近代多用レ之。

柏夾事。

削二白木端一。其長如二卷纓木一。但不レ塗レ墨。以レ白可レ爲レ詮。非常警固時如レ此。或說。破二檜扇一用レ之云々。破懸天纓末ヲ取テ。巾子ニ引充テ。巾子ノタケノ程ヲ夾懸。末ハ在レ外。ワナハ在レ內。卷纓指所ニ指也。卷纓ハ內ザマヘ卷。是ハ外ヘ折。玄隔不レ似也。不レ知二人多以二卷纓一爲二柏夾一。或裝束師云。柏夾有二秘說一。木ヲ三ニ破懸テ。纓ニ一枚ヲ夾テ卷。不二延亂一也云々。兼日存知。如二春日祭使若公卿勅使一柏夾木塗云々。件木黑白共ニ。其長不レ過二一束之內一云々。

一烏帽。

宿老之人薄塗。壯年厚塗。近年不レ論二老少一

着二薄塗一。不レ可レ然事也。古人着二薄塗烏帽子一。臨レ期平禮云々。額打樣。隨二人面一可レ有二用意一。只以レ不レ屬レ目爲レ善也。晴時布衣。可レ用二平禮一云々。而近代希也。入道相國公經公。一門烏帽額上ヲ取ヒサク。先祖阿古丸大納言。白川院寵愛之間。烏帽ノサキヲ取テ常令二引寄一給。其濫觴云々。資賢卿家。烏帽子後ヲスヘタリ。如レ此家々曲節之外。只以二不レ屬レ目之樣一爲レ吉也。正佛房號二馬入道一。曰。無二此事一云々。

平禮事。

或書曰。雖二中少將一。備二威儀一日。多平禮。公保卿少將二十許マデ常事也。基家。光能。及二四十一。近代其兩人外。近將不レ及レ見。基家又好二此事一。

一老懸。

古今厚薄異也。古ハ事外薄也。今ハ甚厚。但隨レ人可レ用事歟。撿非違使別當用二厚老懸一爲レ吉。老懸緒紫。或紺絲。

日蔭老懸事。

崇德保安四十一十八宗能卿記曰。國司。入レ夜廻立殿行幸。今朝着二裝束一參內。但卷纓老懸。日蔭之間。尤有二其煩一。今度四條嘉禎元年大嘗會。通成朝臣賜二皇后宮御給一叙二從上四位一。仍立二叙列一。老懸懸二日蔭上一。或六位懸二日蔭下一。不レ可レ然歟。

一劔。

餝劔。

四節會。大嘗會御禊。加茂祭使節用二此劔一。近代多用レ代。如法餝劔。御禊行幸。節下大臣帶レ之云々。近衞康治御禊。宇治丞相帶レ之。如法餝劔。故師賴卿。師光元服之時授レ之。每レ見二此劔一淚難レ禁之由被レ記。故堀川左府後房劔云云。餝劔裝束革多赤滑。而建久三正一院後鳥羽拜禮。有二藍革裝束幷靑革滑等一云々。

嘉禎元十二十九御佛名次。或公卿有ニ紫滑
裝束ニ云々。
又曰。古物餝劔。大畧木地云々。
（近衞）久安二十一十四或記（賴長）曰。豐明節會了。叡子
內親王退出。群卿改ㇾ劔撤ニ魚袋ニ。土御門大納
言宗輔。劔魚袋如ㇾ本云々。是爲ㇾ奇。同三十一
廿同記曰。同節會了。皇后自ニ內裏ニ出ニ御白
川ニ。余（賴長）以下替ㇾ劔弃ニ魚袋ニ供奉。
愚案。先年左土院（順德）御宇。自ニ嘉陽院ニ豐明
節會了還ニ御閑院ニ。步儀。人々大畧改ㇾ劔撤ニ
魚袋ニ。而權大納言忠房卿不ㇾ改ㇾ之。上皇（後鳥羽）數
度被ニ責仰ニ。松殿（基房）入道諷諫之由被ㇾ申。雖
ㇾ然御禊行幸之外。用ニ餝劔ニ供奉無ニ所見ニ
之上。不ㇾ快之由被ㇾ仰。仍被ニ退出ニ了。今
見ニ久安宗輔所爲ニ。更以覺悟注ㇾ之。
（白川）承保土御（師房）曰。節下同殿（政通）隱文巡方帶。餝劒不
ㇾ用ㇾ代云々。

一螺鈿。
任大臣。立后節會。行幸。列見。定考。元三中
出仕。公卿用ㇾ之。或無ㇾ止佛事拜賀等。卿相
用ニ此劔ニ。雲客節會之外不ㇾ用歟。元三二三
日或用ㇾ之。卿相時云々。少納言。八省輔。列
見。定考。行幸。節會等之時帶ㇾ之。
正月二三日出仕用ニ螺劔ニ間事。
（二條）保元四正二中山（忠親）記曰。蒔繪劔。御堂（道長）御流者
三ヶ日之間螺鈿劔也。然而非ニ參議之間ニ不
ㇾ可ㇾ然之由。故祖父（家忠）相府令ㇾ申ㇾ敎ニ訓先人（忠宗）ニ
給。
仁安三正二殿記曰。于時少將。縫腋蒔繪細劔。內（忠雅）
府螺細劔。賴實。賴定螺鈿如何。定房。實家
蒔繪劔。公卿可ㇾ帶ニ螺鈿ニ。殿上人可ㇾ帶ニ蒔繪ニ
云々。
同四正三殿記曰。出仕。縫腋。丸鞆帶。蒔繪
太刀。

仁平元正三(近衛)或秘記曰。今日余及兼長卿螺劔太刀。有文帶。師長朝臣蒔繪劔。丸鞆帶。

愚案。保元仁平記。相叶仁安御記情歟。事由卿相帶之。依有二宮饗疑也。殿上人誠無其益歟。

賀茂詣用此劔事。

保延六四十五。關白(忠通)賀茂詣。予(宇治。)螺鈿劔。(大臣着之例也。)同五十廿五大殿(忠實)賀茂詣。兩殿下螺鈿劔。有文帶。大納言已下蒔繪。無文帶。

愚案。賀茂詣。大臣可用此劔歟。

御八講用此劔事。

久壽元三廿(近衛)院(崇德)御八講。人々蒔繪。無文帶。右(雅定)大臣(中院殿歟。)帶螺鈿劔。

競馬日帶此劔事。

保延四四廿七仁和寺競馬行幸。宇治丞相花柑子螺鈿劔。盧橋紺地平緒。

相撲節出居將帶之事。

保元三七或秘記曰。出居將等皆闕腋。螺鈿劔。(或樋。)

拜賀用此劔事。

永久二二九(鳥羽)內大臣(雅實)拜賀。蒔繪螺鈿劔。(鸜鵒。)

保延二十二十三宇治左府(于時內大臣。)慶申。金作堀物蒔繪螺鈿劔。(有樋。)

久安五八廿五三位中將(兼長。)慶申。或秘記曰。用金劔。(蒔繪螺鈿。)平緒。(紫緂。)帶。(有文玉。)

仁平三十二廿七中納言中將兼長慶申。蒔繪螺鈿劔。有文帶。

愚案。公卿之後拜賀。用螺鈿劔。有文帶歟。

着座用此劔事。

保延四十一廿二宇治左府着座。蒔繪螺鈿劔。(摺鸜鵒。)有文帶。

大嘗會御禊帶弓箭之人帶此劔事。

永治元十御禊。或秘記曰。帶二弓箭一之人。帶二螺鈿劍。不レ付二魚袋一。
永承土御門曰。帶二衞府一之人。胡籙。螺鈿劍。不レ付二魚袋一。按門依レ例衍歟。
治曆江記曰。衞府公卿帶二弓箭一之輩着二螺鈿。不レ付二魚袋一。
螺鈿劍樣々。嘉禎元十二十九御佛名次。或人語曰。近衞前關白家。花橘螺鈿劍殊勝云々。沉地櫨牟玉以レ金付レ之。葉青瑠璃。花銀云々。永久三二朝覲。新大納言法性寺殿歟。帶二金作紫檀地鸚鵡螺鈿劍一。同二朝覲。新大納言同人歟。樋螺鈿劍。保安三朝覲。殿下金作紫檀地螺鈿劍。永久二二六任大將。內大臣法性寺殿歟。紫檀地鸚鵡螺鈿劍。保延二十二九任大臣。宇治。蒔繪螺鈿孔雀。金作劍。大殿□緂平緖。同正廿一母屋大饗。宇治左府紫檀地螺鈿劍。水精柄。仁平元正廿六內大臣大饗。宇治左府。水精螺鈿。水精柄。此劍。治曆三正尊者日京極殿所レ用也。見二御曆一。保延四二三春日祭。上卿宇治丞相金作沃懸地劍。孔雀鸚鵡螺鈿。乘二唐鞍一時不レ用二樋螺鈿一事。嘉保二四十七江記曰。美作守自二此亭一出立。劍右兵衞督借レ之。樋螺鈿水精甲也。御禊前駈者。用二樋螺鈿一歟。乘二唐鞍一時。一向不レ用レ樋也。嘉禎三正三臨時客。左府被レ帶二沉地鸚鵡金作螺鈿劍。累代物云々。

一蒔繪。

卿相雲客帶劍之人多用レ之。但可レ帶二蒔繪一之公事。雖レ有下通二用螺鈿一之例上。可レ帶二螺鈿一劍一之公事。無下帶二蒔繪一之例上。余家賀劍在二前內府許一。具平親王劍云々。海部白蒔。子孫始拜賀之時。借請用レ之也。

葺手劍執柄家被レ用二吉事一事。

寛(後冷)德三二十三土御曰。從殿(賴通)賜葦手劔平緒二筋。明後日侍從(俊房)拜賀料也。

保延二十二宇治丞相參結政。蒔繪劔。葦手。銀作。御堂御物云々。兼宣旨日所帶也。

保安四三十一新(忠通)關白分賜隨身之後申慶。射懸地蒔繪細劔。殘葦手也。

同日公事不替劔先列事。

保延六六廿三宇治。列見。不替劔參直物。

永治元五十七同人記曰。列見。右大將(實能)不改劔參宸勝講云々。尤可然事也。

天養元十一九考定了參位祿定。不替劔。

愚案。螺鈿多雖不改之。於餝劔者必可改之歟。上皇仰留耳底。

有樋劔事。

仁安二正賭弓。右大將銀樋劔。今案。老少或用之。

瑠璃柄劔。

保安四三廿九臨時祭。攝(忠通)政金作樋劔。蒔唐草。瑠璃柄也。

瑠璃水精柄不用騎馬事。

康(後冷)平三四十二土御曰。齋院入紫野。新大納言師實勤仕前駈。紫檀地村螺鈿中鴛鴦飛鮫柄。殿(師通)下仰曰。騎馬之時不用水精瑠璃者也云々。仍今日用此劔。

嘉保二四十七江記曰。美作守自此亭出立。劔右兵衛督借之。樋螺鈿。水精甲也。水精甲騎馬之時雖不着。近例皆着之。猶如舊記。騎馬時不薫香歟。

沃懸地事。

宿老之人撿非違使別當等用之。但中院大理問答抄。蒔繪沃懸地。共有加點。彼是可用歟。但用遠文蒔繪云々。

仁平元五廿四宸勝講。太(實行)政大臣帶沃懸地劔。

同四三卅大(公能)理出行始着劔。沃懸地。

建久元故殿大理御出行始。沃懸地劔。

拜賀帶二蒔繪太刀一事。

保延五十二廿七右大將實能。慶申。着二蒔繪劔。无文帶。或秘記曰。尋常着二螺鈿劔一。而彼一門慶申日。着二蒔繪劔。無文帶一。

蒔繪劔樣々。

嘉禎元十二十九御佛名次。或公卿語曰。京極大殿常被レ帶テ有二黑樋一劔上[付劔]銀細樋上下渡レ之。中黑地蒔繪。處々唐草。上下沃懸地云々。樋寄二上方一度レ之。古人不レ執二蒔繪劔一。執二螺鈿劔一云々。此劔有レ二。一腰傳二在花山院一云々。稱二川樋劔一者。樋中畫二種々繪一。其上伏二水精若瑠理一云々。

保安四三三新關白被レ下二萬機詔一。蒔繪細劔。孔雀。金造堀物也。

保延四十二廿七。賴長或秘記曰。知信朝臣爲二大忠實殿御使一持二來細劔一。一沃懸地。一有レ樋。共蒔繪。曰。沃懸地劔者。故京極大殿御着座之時。渡二御長實卿宅一。大殿內々給二御劔於長實卿一令レ奉給。當時關忠通白殿下御着座之時。渡二御東三條一。又大殿令レ奉二此劔一給。然者今度依レ爲二祝物一所レ令レ奉也。然而納言度令レ奉了。貴殿御物定也。同物兩度。頗不レ得レ心。仍副二他劔一令レ奉也。件劔故大殿師實常所二帶給一也。相傳。當時大殿常令レ帶レ之。仍自アイレ今已後。貴殿予也。常可レ令レ帶也。予答曰。賜心□恐悅不レ少候。

一野劔。蒔繪。木地。螺鈿。蒔繪螺鈿。尻鞘。

近衞次將。外衞佐等常令レ持レ之。東帶出仕之時。相二具笏一。率爾隨レ役之時。多用二此劔一也。或宿老公卿。高位之人常令レ持レ之。或付レ護。公卿將遠所行幸之時。着二蒔繪螺鈿野劔一。木地。次將行幸之時多用レ之。而近代。次將或用二蒔繪螺鈿野劔一云々。且者御禊。嘉禎。弁少將實雄。入道相國末子。用二蒔繪螺鈿野劔一云々。定有二其例一歟。可レ尋二宿老一。

次將騎馬之時。宿衣之催。着二束帶一用二革緒野劔一。不レ具二隨身一。或又具二隨身一。常事也。修正御幸。多如レ此。遠所使節之時。入二尻鞘一也。

雖レ相二具布衣隨身一主人幷隨身不レ帶二野劔一例。

平治元二十中山記曰。關白基實春日詣。余忠親着二布衣一。隨身童不二相具一。依二卒爾一貧將力不レ及之故也。又非二榮花一乎。新中將賴定朝臣。又如二予儀一。少將兼雅隨身。雖レ着二染裝束一不レ帶レ劔。仍又不レ被レ帶二劔一。

蒔繪螺鈿可レ用二遠所一事。

仁安二十廿三殿記曰。大納言殿久我。被レ仰曰。蒔繪螺鈿劔。遠所行幸可レ用。木地螺鈿。京中可レ用者也。

大將直衣始用二此劔一間事。

仁安三八廿二殿記曰。爲二御使一參二花山院忠雅一。廿四日着二直衣一可レ參レ院。土御門殿拜賀翌日。令レ參二宇治一。着二直衣一毛車。令レ帶二劔笏一。而今度令二相具一之由在二御記一。今度此定可レ候歟。廿四日御直衣始。參レ院給。令レ帶二劔笏一御。蒔繪野劔。常劔也。○案。雅通八月十日任二內大臣一。十一日兼二右大將一。

私案。土御依レ非二公所參一。不レ被レ帶二劔一歟。久我殿依二院參一令レ帶二劔笏一給歟。

保延六十二九左大將雅定中院。直衣始。不レ帶二劔笏一。但令レ持云々。土御門右府師房例云々。有與云々。

今案。中院殿追二土御門殿例一。不レ被レ帶二劔笏一云々。猶有二其故一歟。

永久二二十四新大將法性寺殿。直衣始。出衣。着二野劔一把レ笏。

中納言中將直衣始用二此劔一事。

仁平三十二廿八中納言中將兼長直衣始。出衣。帶二野劔一。小狐。把レ笏。慶賀。

久壽元十一廿五中納言中將師長直衣始。出衣。帶二野劔一。小狐。把レ笏。

試樂日舞人或帶二野劔一。
仁安二九十五殿記曰。參二花山院一。被レ仰曰。
日吉御幸試樂來月廿一日。闕腋。或帶二野劔一。或細劔。
大將內裏燒亡帶二此劔一事。
保延四二廿四內裏燒亡。自二東三條一行二幸白
川殿一。予（御長）帶二野劔一。革緒。蒔繪鮫柄。
尻鞘事。
仁安二九十五殿記曰。參二花山院一。仰曰。尻
鞘事。舞人之時。竹豹皮不レ憚之由。故法性
寺殿被レ仰云々。可レ用二虎皮一也。廿日參殿。久
我。申下承二雜事一之次。（忠雅）申曰。舞人之時。可レ入二虎
皮尻鞘一之由內府被レ命否如何。被レ仰曰。必
不レ入二虎皮一。竹豹ヲ入也。予勤二仕舞人一之時。
故播磨入道尻鞘ヲ借用。是竹豹也。雖レ然虎
皮又神妙歟。
仁安二廿一廿一 賀茂臨時祭。同三石清水
臨時祭舞人之時。故殿用二竹豹尻鞘一給也。

同四二廿二殿記曰。四位用二豹皮一。五位用二虎
皮一云々。
（首書）仁安四正廿六公卿勅使。別當時忠。衣冠。
帶二野劔一。入二虎皮尻鞘一。
細尻鞘事。
或書曰。布衣騎馬。殊刷時。御幸已下。執柄
宇治供奉。若親姓之人。如二公卿勅使相伴時一。
帶二野劔一。或虎皮細尻鞘云々。
諒闇劔尻鞘事。
保元元或秘記曰。水豹尻鞘。無文青革裝束。
左右衞門權佐（惟方。賴憲。）尻鞘。虎皮。
一樋螺鈿。
樋螺鈿者。普通之樣。蒔繪樋中ニ摺レ貝也。
或說。稱二樋螺鈿劔一者。有レ樋螺鈿劔也云々。此
事不レ得二其意一。蒔繪樋事。依レ有二螺鈿通用一歟。
螺鈿有レ樋者。何有二通用之詮一哉如何。先年
隱岐院御逆修御佛事日。予（通方）爲二三位中將一。用二

樋螺鈿劒。樋ニ景菱ヲ摺。普通ヨリハ廣。嚴重ニ見也。入道相國公經帶ニ螺鈿劒一之由傍難云々。其時上皇仰曰。樋螺鈿通用物歟云々。仍人々閉口之由。後日聞之。

一薄塵地。

心喪服。用ニ此劒一云々。

承保元十廿六上御曰。着ニ心喪服一。上東門院御服也。帶ニ薄塵地無文紫革裝束。紺地無文平緒一。

一黑漆。

諒闇帶レ之。金具等拔ニ替吉服劒具一也。裝束無文紫。或藍革云々。劒柄白佐女如レ常。重服同黑鞘。金物黑漆。白革裝束。柄黑佐女云々。

保元二十一廿八中山曰。劒柄黑佐女。鞘黑漆。金物黑漆。白革裝束。柄金物等塗レ墨用レ之。督殿忠雅如レ此。

一平緒。

紫端。劒裝束紫革。繡不レ定。孔雀。尾長鳥。竹桐鳳凰。或唐花。四季花。但黃鳥神妙物也。或青端相交之時。春用レ之云々。此平緒壯年人モ用。宿老人モ用。但繡可レ有ニ用意一事也。近代大略不レ論ニ日夜。每ニ公事一用レ之。無念事也。踏哥節會可レ用之由。見ニ保延五正十六宇治左府記一。

宿老人用ニ紫平緒一例。

建久三正一拜禮。中山內大臣忠親。紫端。縫黃孔雀。關白。紫端平緒。

紫端平緒劒裝束間事。

保延四八十七槐記曰。行啓。師賴卿曰。只今蒙ニ勅授宣旨一。御劒暫可ニ申請一。問曰。螺鈿歟。答曰。蒔繪也。不レ供ニ奉行啓一。可レ奉ニ仕若宮前駈一。予曰。劒裝束青革。平緒紫端何事有乎。答曰。紺地何事之有乎。卽召ニ遣之一。

嘉禎元十二十九御佛名次。或公卿曰。故普

賢寺入道命曰。用紫端之時。必非劔裝束紫革歟。故如何者。代々所用劔等。不改裝束革。又件帶劔之日。用紫端之由被注。以之案之。紫端平緒。劔裝束藍革。無難歟云云。

爹案。此事尤可有其謂。保延左府案已相叶者歟。古人言有其興也。

端平緒樣々。

永久三二九内大臣（忠通）拜賀。紫端平緒縫鶴。

保安四三三新關白（忠通）萬機詔被下。紫端平緒。鶴松枝千鳥相交也。

保延四十一廿三宇治左府着座。螺鈿劔。紫端平緒。縫松鶴千鳥等。

保安四十十五大甞會御禊。攝政（忠通）平緒紫端。縫黃鳳凰。

保延二十二九任大臣。宇治。紫緂平緒。孔雀。別當也。

仁平元正廿六内大臣大饗。宇治。紫緂黃鳳平緒。

保延四二三春日祭。宇治丞相上卿。紫緂黃鳳平緒。

紺地。劔裝束藍皮。

古人多繡祝物。唐鳥。白黃。若唐花。能見繡也。此外千鳥。梅。雉。若鶴。松等多繡之。近代繡種々新物。不被甘心事也。執柄家繡葦手平緒。多慶賀時用之。件平緒裏。鷹司殿自令付給之由。見宇治記。御堂入道平緒云々。定繡祝言歌情歟。心喪平緒無繡云云。

承保元十廿六土御門殿令着心喪服給之時。紺地無文平緒云々。或壯年之人紺地平緒。以絲置文云々。大理平緒。遠文獅子蠻繪。或黃鳥云々。

舞人用紺地平緒古物事。

仁安二殿記曰。大納言殿仰曰。汝可用希有

紺地平緒。近代人々用美麗平緒。不知故實也。繡小鳥。小草。竹桐平緒也。
仁平元十一廿五。舞人隆長。用紺地平緒。

小忌人用紺地平緒事。
久壽元十一十九豐明。右大將兼長卿。紺地平緒。
保安四十一大嘗會。國司宗能朝臣着小忌。彼人記曰。紺地平緒。小忌舞人之時。所用紺地平緒也。

御卽位着甲次將可用紺地事。
仁安三三廿殿記曰。大納言殿久我。敎命曰。着甲之日。用紺地平緒云々。

紺地平緒樣々。
永久四正一。殿下忠實紺地平緒。以白絲縫蠻繪也。
同三二朝覲。新大納言紺地平緒。孔雀蠻繪。
保安三二朝覲。殿下忠通紺地平緒。縫白鳥許也。

保安四三十一新關白令賜隨身之後申慶。紺地平緒。縫葦手。
保延二十二十三宇治左府于時內大臣。慶申。紺地平緒。繡梅丸文。

着火色下襲用紺地平緒例。
保安五正賭弓。內府有仁着火色下襲。用紺地平緒。故實也。

白地平緒。劔裝束藍革。
稱小忌平緒。着小忌之時用之。繡桐竹若小草等云々。是小忌文也。
平治或秘記曰。大嘗會辰日。着小忌平緒。依無其實用紺地。人々皆如此。或用緂。抑小忌平緒者。白縫小忌文。今度所不見及也。

青緂。或稱樗緂。劔裝束藍革。
四五月比用之。縫樂玉。最勝講出居將。好事次將用之云々。或縫卯花。燕等。或縫花

橘。瞿麥ニ又縫ニ黄孔雀。色々唐花ニ

保元元七相撲節。或記曰。出居次將。或青朽葉下襲。青緂平緒云々。

紅梅地。劔裝束紫革。

多者賭弓。臨時客。着ニ火色下襲ニ之人用レ之。繡ニ遠山小松等ニ後堀川寛喜臨時客。爲ニ尊者ニ當時右府公實氏。着ニ火色下襲ニ用ニ此平緒ニ其色事外濃薄ナル程ヲ染歟。件平緒繡ニ遠山ニ

仁安二正賭弓。右大將紅梅地平緒縫ニ白梅ニ

蒴木地。劔裝束藍革。

春用レ之歟。予見レ之。繡ニ紅梅。白梅等ニ

櫨緂。劔裝束藍革。或櫨革。

多者九十月用レ之。繡ニ菊。龍膽ニ或繡ニ紅葉ニ予家用來賀平緒。櫨緂歟。着ニ紫緂平緒ニ變歟。具平親王平緒云々。繡ニ菊。枯野等ニ稱ニ左土院御平緒ニ故雅清卿。貞應後堀川御禊勤ニ仕大將代ニ之時用ニ櫨緂平緒ニ縫ニ黄菊。白菊ニ大嘗會。午日。嘉禎。於ニ東廊座ニ雜談之間。右府實氏曰。去御禊。公佐用ニ櫨緂平緒ニ土御門大納言定通問曰。繡如何。答曰。菊龍膽也。又問曰。裝束革如何。櫨革有レ緂云云。右府曰。前後緒不レ依ニ劔裝束ニ而用ニ櫨革ニ之時。必用ニ櫨革之後緒ニ云々。不レ得ニ其意ニ云々。

或人首書曰。櫨革者。藍革上ヲ染也。文黄也。

薄櫨緂。

未レ見ニ其躰ニ或公卿曰。有ニ此平緒ニ云々。逐可ニ勘入ニ

香緂。

未レ見ニ其躰ニ或公卿曰。有ニ此平緒ニ逐可ニ勘入ニ

鈍色。

諒闇之時用レ之。重服之人同用レ之。但無レ總歟。

保元二十一廿八中山記曰。重服平緒鈍色。

絹帖之。自普通平緒八三許分狹帖之。無總幷繡。

香。

諒闇之時用之。而貞應後高倉度諒闇。故通具卿用香平緒。人々傾奇。仍今度諒闇。藻壁門院。後堀川院。兩度諒闇也。左金五弃置。予用之。後日披見中山內府記之處。保元故久我大臣殿雅通令用給。劔裝束無文紫革云々。甚有興事也。今度予劔裝束又如此。自然相叶先祖所爲。誠是愚者之一得也。

一帶。付魚袋。

有文。或稱隱文。有巡方圓友。

節會。行幸。行啓。列見。定考。拜賀用之。無止佛事。賀茂詣等。高位之人或用之。其文鬼形。獅子形。唐花。非一。眞實玉火ニモ不燒云々。予所持帶。故兼忠卿家燒亡之時。在其中。一切無損氣。先院隱岐。御參籠八幡之時。先年被召隱岐院了。件帶鬼形。

拜賀用有文。

保延二十二十三宇治左府于時內大臣。拜賀。有文帶。螺鈿劔。

小忌人用有文。

久壽元十一十九豐明。右大將兼長卿。有文帶。

蒔繪劔用有文例。

保安四三三新關白萬機詔被下。有文帶。蒔繪劔。

童殿上人用有文事。

久安元正四槐記曰。菖蒲丸。童殿上所借用之有文。右大將實能。帶之。頗如尋常帶。忠通攝政殿。余等借用。故入道右大臣殿宗忠。小帶。而件帶先年爲當今令用給。自院被召云々。今日行幸。令用件帶給云々。

馬腦。

四品用之。舞人之時用之。着小忌之時。或用之。臨時祭舞人等依用之。馬脳有員。仍所役殿上人不用之。故實云々。

仁平元十一廿五槐記曰。舞人隆長。馬脳帶。小馬脳。

久壽二四廿一同記曰。賀茂祭。皇后宮使憲親朝臣。明日用小馬脳。

小忌着馬脳帶。

保安四十一大嘗會。宗能着小忌。馬脳帶。

犀角。付巡方圓友。

巡方。節會。行幸之時。侍臣用之。圓友。常用之。

仁安二十廿一日後鳥羽吉御幸試樂。新中將賴實用巡方。

久安四六廿三侍從兼長申慶。着束帶黄朽葉。丸鞆。在法性寺。

久壽二四廿一賀茂祭。多子皇后宮使權大進憲親用鴛鴦。通天。

久安五十廿六師長昇殿。帶巡方。狛錦。

青瑠璃。稱紺青玉。

先年商人持來之。故母儀三品殿取之賜予。但何事ニ可用ト云事不分明。而經賴卿記。次將節會用之由注之。

牛角。稱烏犀。

地下六位撿非違使等用之。重服之人用之。諒闇之時用之。但近代公卿以下多用犀角帶也。

保元二十一廿八中山曰。重服後出仕。帶牛角云々。

魚袋。

首書實錄曰。三代以革爲之。謂之笲袋。魏易之爲龜。唐高祖給隨身魚。三品以上其餝金。五品以上其餝銀。故名魚袋。賜紫則賜金魚。賜緋則賜銀魚。

公卿金魚袋。四品以下銀魚袋。付ニ帶第二石右方。或第一石。隨ニ人之肥瘦ニ云々。付緒紺糸或紫四組。黑漆或朱漆云云。節會大嘗會御禊等付レ之。

大嘗會兼國司之人標山引日不レ付ニ魚袋ニ事。

保安四十一十八宗能朝臣兼國司供奉。着ニ小忌ニ不レ付ニ魚袋ニ云々。

節會大外記大夫史不レ付ニ魚袋ニ事。

保安四或秘記曰。大嘗會大外記師遠。大夫史政重。用ニ巡方ニ但不レ付ニ魚袋ニ。大外記大夫史者。雖ニ五位身ニ不レ付ニ魚袋ニ云々。可レ尋ニ由緒ニ。

首書 外記不レ付ニ魚袋ニ事。內々事次問ニ師季朝臣ニ。無ニ別子細ニ。師安マデハ付レ之。近代不レ付云々。五位已上可レ付レ之云々。釋奠ニモ都堂座五位外記史可レ着レ靴也。而近代不レ着。是又畧儀云々。

齋宮入ニ野宮ニ諸司前駈不レ付ニ魚袋ニ事。

仁安二九廿一殿記曰。初齋宮入ニ野宮ニ。或付ニ魚袋ニ。家習不レ付。

仁平三九廿一兼長卿勤ニ仕前駈ニ。無ニ魚袋ニ。

一弓箭。

弓。

蒔繪可レ隨レ箙歟。各別又不レ可レ有レ難。或摺レ貝云々。弭。銀掘物。或塗物。其文隨ニ蒔繪ニ。取柄。錦。或御綾。有ニ伏組ニ。取柄上下卷レ組。赤或紫。樺。宿老之人用ニ白檀紙幷色紙ニ。壯年之人用ニ紅梅檀紙若薄樣ニ。隨ニ年老少ニ有ニ色淺深ニ。或用ニ眞樺ニ。建曆御禊。順德 中將資平朝臣用レ之。其色紅梅色也。件度少將爲家用ニ青薄樣ニ。後日及ニ沙汰ニ。無ニ所據ニ之由。上皇被ニ語仰ニ也。中院大理問答抄。眞樺。白樺。共有ニ加點ニ。弭上下藤加點。鹿角加點。弓上下弭。銀堀物。中院大理物具問答。鐵散物有ニ加點ニ。卷組紺糸云々。

一箭。

箙。

打任天所レ用。公卿蒔繪。或螺鈿。非參議次將木

地螺鈿。而近代多用木地蒔繪。無伏輪。大將用之。宿老之儀也。中院大理問答抄云。沃懸地。蒔繪。兩樣注之。但沃懸地有加點。

諒闇箙。

保元元或秘記曰。黑漆箙。無文靑革裝束。箭多波禰。以鈍色絹押之。（普通押錦之所也。）

箆。

黑漆細能見也。上差有水精鏑。中院大理物具問答抄。鏑牛角二筋之由有御加點。

筈。

皆水精。中院大理物具問答抄。牛角有御加點。

諒闇箭波須事。

保元元或秘記曰。角波須。

羽。

大將已下次將切生。中院大理物具問答抄。切生摺尾注之。摺尾有御加點。

諒闇箭羽事。

保元元或秘記曰。所存霞尾羽。

表帶。

公卿蘇芳緂。次將蘇芳靑相交緂。春紅梅地。（靑文。）夏靑地。（紫文。）秋黃地。（靑文。）好事之人如此用。但常ハ蘇芳靑相交緂也。有水精露。（或瑠璃有薬。）宿老之人無露云々。中院問答抄。蘇芳緂。無露。有加點。

引表帶事。

諸人所知遠所（日吉。春日等類也。）行幸引之。而仁平二正三或秘記曰。朝覲。小六條院隆長依爲五位結表帶云々。

參案。壯年五位。次將引表帶。張弓歟。引表帶之時。或結箭。或結箙上。師鈎片鈎有兩說云々。

樺。

眞樺。白檀紙。色紙。壯年之人紅梅。（隨年有淺深。）

或用二薄様一。
建暦御禊度。中將資平。用二眞樺一。紅梅色也。少將爲家用二青薄様一。後日及二沙汰一。上皇仰曰。無二所據一云々。凡與レ弓無二各別之儀一。中院大理物具問答抄。白樺有二加點一。

矢尻。
金銅上差。加利末多。中院大理物具問答抄。鐵。散物。共有二加點一。

隙塞薄様。
薄様。隨二老少一可レ有二用意一。打任テハ紅神妙物也。大理白色紙。若檀紙云々。

後緒。
藍革紫皮共用レ之。打任テハ紫革用レ之。押二蝶小鳥貝一。吹反錦皮。用二爐緂平緒一之時。斂裝束爐皮者。箭後緒同爐皮云々。頗不レ知二其故一。右府說也。

一笏。
首書 唐會要曰。笏。周制也。周禮。諸侯象。大夫魚鬚。又竹。晉宗以來。謂二之手板一。魏以後。五品以上用レ象。武德四年七月六日詔。五品以上象笏。六位以下竹木笏。
予所持之笏。法性寺關白賜二清隆卿一之笏。雅隆入道賴資授レ予。以レ之爲二家嗣本様一也。甚持吉。入道相國賴用レ之。當時右大將家此様也。頭廣厚ハ重而持惡也。當家拜賀所レ用之親王御笏。薄テ持吉。古物如レ此歟。手本皆ツヒタリ。往古人拜趨以レ之可レ知歟。
久壽二正一槐記曰。節會。今日所レ用笏。殊有二光明一。押二笏紙一之時。可レ損二其光一。放二笏紙一拭二續飯一之間損レ光也。仍於二高陽院一借二請俊通笏一。押二笏紙一。將二着陣一時把二件笏一。重服之人笏如レ常。保元或祕記曰。但不レ瑩云々。

一履。
靴沓。

華氈錦。帶革有金物。但錦色。隨老少可用歟。可有用意事也。節會。付立后任大臣。行幸。行啓。列見。定考等着之。元日出仕之人爲見任者。雖不參節會令持之故實也。

諒闇靴沓。

保元元或秘記曰。靴。無文革緣。色目普通。靴帶不挿。靴氈淺黃絹。

淺沓。

禁色之人沓歟。用織物。表袴之切云々。但堅文浮文可隨人也。不然之人用平絹。皆押文。爲不混也。但大臣若大將不押文。不混屬故也。執柄家凡不押之歟。

祭使着淺沓事。

仁安三四十八近衞使左少將脩範。淺沓。

重服沓事。

保元二十一廿八或秘記曰。今日初出仕。裝束重服。赤沓。裏鈍色。

深沓。

政始若深雪深雨之時用之。無華旋有緣。

半靴。無文紫革。

直衣。衣冠。布衣騎馬之時用之。華氈錦事如靴沓。

毛沓。

或古老抄曰。布衣騎馬。殊刷時。或毛沓。有帶。如靴帶。

參案。公卿勅使。始終扈從之人。可用歟。

鼻切沓。或稱鴈鼻。

臨時之祭。若諸社行幸御幸舞人試樂日。或用此沓也。土御門大納言。于時中將。先院。隱岐。八幡賀茂御幸試樂日。着火色下重用此沓。彼時予勤仕五位舞人也。着例淺沓。

大嘗會御禊女御代前駈用此沓事。

永治元御禊。女御代前駈廿人。雁鼻沓。六位

鼻切沓。

予案。永治記。五位前駈雁鼻。六位前駈鼻切沓ト注。若有二差別一歟。可レ尋。

藁深履。

保安五二十兩院雪見御幸。新院御烏帽子。直衣。出衣。藁深沓。有二華旋一。

餝抄下

一禮服　　大袖小袖

冠

裳　　綬帯

玉珮　　牙笏

烏皮履　　〔韈〕

一近衞次將甲

一小忌

諸司小忌

大禮若豐明節會小忌小忌袍赤紐日蔭心葉半臂下重打衣袙付單衣

舞人挿頭小忌付赤紐摺袴付下袴津賀利糸下重付半臂打衣付袙單糸鞋

一乘物具

車　唐車糸毛廂檳榔庇網代庇網代檳榔餝車八葉牛車

鞍　唐鞍和鞍移唐笠

一禮服。

大袖小袖。同色。

橡。麴塵。紫。有二三色一。貞應度通具卿後堀川着二麴塵色一。予橡。當家所レ用之禮服。在二烏羽寶藏一。其色橡也。仍用レ之。宰相中將雅淸着二紫色一。其地大畧唐綾歟。單袴大口等如二尋常一。

裳。

水色也。其地縠。

冠。二儀實錄曰。自二黃帝一制爲二冠冕一。

其圖在二近衞永治元或人別記一。近代所レ用略物也。

綬。

如二平緒組一也。貞應予帖二唐綾一令レ畫レ繪也。人

人所為大略如此。

玉珮。

繪様在永治別記。

牙笏。

貞應度多以木如牙笏作之。先例又如此云々。

永承(後冷泉)六二十土御(師房)曰。參殿(頼通)。有牙笏。事次殿御曰。上下共方。是天子御笏也。是朝拜宛御用着也。其外神事之時。多用給上圓也。敬神之心歟。

天暦御時。廣平親王參入之時。主上賜彼親王上下方御笏。其時小野宮大臣(實頼)。九條殿(師輔)。傳聞此由致傍難云々。

烏皮履。

其圖在永治別記。

韈。

白地紫地等小文錦。

一近衛次將甲。

仁安三三廿殿記曰。御即位。着裝束。先着大口。次着單幷帷。次着表袴。次着闕腋。不着半臂下重。雖夏着冬袍。或説。夏着下重。為隱身透也。纔着。添尻。其上着甲。腰二結世比衣。不用帶平緒也。結世比衣之上當平緒。有結様。不能記。大納言殿敎命曰。着甲之日必用紺地平緒云々。次綏。冠卷纓。相具平胡籙幷靴沓。人々甲多用金銅。予押金薄。次將皆張弓。實守(雅通)不張弓。依大納言殿敎命也。

一小忌。

諸司小忌。

建(順徳)暦度予見之。麻布麁惡物也。四幅。身二幅。袖左右各一幅。凡四幅也。以紙捻閉之。前方兩方引合テ挿帶。前方自左方引融上手也。今度通氏朝臣白布美麗也。如形摺之。或後方自帶下引融。籠三角中云々。

大嘗會若豐明節會小忌袍。

着次第。只如闕腋。以袍替小忌計也。

今案。下襲尻ハ廣。小忌尻ハ狹シ。面ニ疊成方。引寄テ折レ之懸レ後。尻折目本ヲ傾右方ヘ引出。令ニ小忌多見一也。

雖レ非ニ衞府一二條至ニ于小忌一闕腋。

但平治元大藏卿長成着ニ位袍一。弁官皆尻長。上官纔着。嘉禎元四條大嘗會。大外記師兼着ニ纔着小忌一。壽詞奏齋主着ニ縫腋小忌一。

高倉保安四大嘗會。或秘記曰。小忌衣事供奉。此事諸司等皆着レ之。但此中右衞門權佐實親。大外記師遠。史纔着也。齋主公長縫腋。

平治或秘記曰。小忌事其躰如ニ闕腋一。但身一幅也。用ニ狩衣寸法一。但前尻如ニ闕腋一也。白布ナ粉張ニシテ摺レ之。後瑩クナリ。無レ裏。單布也。無續披手本ニメ縫ニ越之一。摺様。形木文小草梅柳水蕨雉蝶小鳥等也。飯ヲ褁レ布テ。形木上ヲ叩テ。布ノ面ヲ上ニテ押付テ。覆物踏レ之。其後形ノ上ニ山藍ヲ葉許取集テ摺レ之。木ニテ以レ墨硯ヲ摺様ニ摺也。朽墨吉ト云々。無ニ山藍一時用ニ麥葉。目波志木ニ云々。頸紙蝶小鳥小草許摺也。身後長五摺レ之。或三長。同前ニ三長摺レ之。下﨟不レ摺レ袖。合上自ニ前後一摺レ之。或懸ニ縫目一摺レ之。或大袖摺レ之。端袖小草許摺レ之。

赤紐。

濃打幷蘇芳打也。細帖レ之。赤紐。長一丈四五尺。前ニ濃蘇芳ナル各一筋。ニナニ結也。後又如レ此。幷四筋。

仁安三十一十九豐明。兼長卿着ニ小忌一。赤紐。着ニ小忌右肩一。舞人着レ左。依ニ袒裼一也。

平治秘記曰。赤紐。濃打幷蘇芳打也。有ニ下繪一。押レ貝。或只所々押ニ貝計一。或又羅ニ用ニ縫物一。付ニ右手本一。舞人赤紐者付レ左。小忌者付レ右也。手本ノ縫目ノ上ニ付レ之。前自ニ一針所一引貫。有ニ其便一。

日陰。

組タテ一丈二尺計ト云々。細圓組。或分組。

平治秘記曰。日陰蘰。結ニ冠巾子一。結目有ニ纓上一。組用ニ青糸一。又以レ糸造レ之。小枝少々在レ之云々。予用ニ生蘰一。圓結。白組。若少人或用ニ紅梅一。又白相交又用ニ蒴木ニ云

云。今度不レ見。以二細絲一付レ纓也。冠ノ上結。前方二筋。後方二筋垂也。或三筋。

今度嘉禎。大嘗會。通成朝臣用二青糸日蔭一。

實基卿曰。尤有二其謂一云々。

心葉。

平治或秘記曰。心葉。梅枝三寸計也。予金枝付二梅花貝一。今來以二續飯一爲レ藥。或銀枝付二同貝一。若蘇芳貝破。或用レ銀。或結花紅梅白結。本ニ頗前方ニ付テ纓ヲ副。巾子立レ之。左右方各一枝也。或狹レ上結二四枝一立レ之。但件希也。

半臂下重如レ常。禁色之人羅。不レ然之人濃打。

打衣。

仁平三十一十九豊明節會。兼長卿小忌。濃打衣。

久壽元十一十九同節會。右大將兼長紅打衣。

平治秘記曰。若少人或着二打衣一。

袙。付單衣。

仁平三十一十九豊明。兼長卿小忌。裏濃紅梅。袙二領。濃單衣。

久壽元十一十九同節會。右大將兼長紅袙一領。紅單衣。

平治秘記曰。袙或着二淵醉白衣一。縿レ上也。予只着二薄色袙一領一。

表袴。

仁平三十一十九豊明節會。兼長卿小忌。堅文須レ用二浮文一。表袴。紅裏。

久壽元十一十九豊明。右大將兼長浮文表袴。

舞人。

插頭。

臨時祭。於二禁裏一賜レ之。諸社御幸行啓。或於二社頭一賜レ之。或於二仙洞一賜レ之。先院隱岐。八幡御幸。自二鳥羽南殿一有二御出立一。卽於二御所一賜

レ之。行幸之時。於ニ社頭一賜レ之也。

試樂日挿頭事。

仁安二十廿三日吉御幸試樂。殿記曰。少將隆房挿頭指レ右事也。而左如何。後日大納言殿仰曰。使指レ左。而爲レ違指レ右也。試樂日指レ左有ニ何事一乎。

小忌。付赤紐。

小忌文竹桐。夏不レ瑩レ之。冬瑩レ之。故實。多者着ニ拜領小忌一歟。但年少之人或私調レ之着用云々。赤紐用ニ公物一。

仁安二十一廿一賀茂臨時祭。同三四三石清水臨時祭。故殿着ニ拜領小忌一給也。但ニ頸紙一ヲ指改云々。

仁平元十一廿五秘記曰。臨時祭。舞人隆長少將。靑摺私調レ之。當色頸紙不レ合レ期故也。赤紐有ニ螺鈿一。着レ左。

摺袴。付下袴津賀利糸。

同以ニ公物一着ニ用之一。但下袴津賀利糸私用ニ意之一云々。

仁安二十一廿一賀茂臨時祭。同三四三石清水臨時祭。用ニ公物一。但三乃□下襲私用意。雖ニ拜領一襲袴不レ着レ之。近年人々着ニ狩袴一云云。津賀利組。私ニ儲レ之。靑白二筋。

仁平元十一廿五或秘記曰。舞人隆長摺袴。當色津賀利組私儲レ之。濃袴。私儲レ之。當色袴麁惡之故也。

摺袴腰夏冬無ニ差別一事。

仁安三四三石清水臨時祭。殿記曰。摺袴。无ニ腰幷津賀利組。重尋遺。須之持ニ來腰生村濃一。大夫殿仰曰。雖レ夏晴之時腰張衣也。生衣不レ知ニ案内一公卿所レ爲歟。

依ニ新制一摺袴腰可レ撤ニ金銀多子珠玉一事。

仁安四二十二殿記曰。皇后宮平野行啓。摺袴各錦腰也。凡驚ニ人目一過ニ例事一。襲袴多以紅。五重七重許有レ之。少々濃袴也。及ニ深更一。

光雅送書狀曰。錦腰金銀之類被止了。早可撤。又雜色可付花者。風流可止。已以支度相違。是國家之煩歟。兼日無其儀。如此甚不便也。大臣殿（雅通）仰曰。承曆上皇御覽。甚以優美也。早可撤之由被仰云々。於御前被撤金銀。是非其儀。給了後撤。以外事歟。大相國（忠雅）錦腰不可撤之由被示。承曆不撤。然而大臣殿猶錦字被載之旨被仰。然而不撤。同十三日行啓。未明出立。着裝束。自夜前着入之。而俄金銀玉表着風流錦腰可停止之由。稱院宣大進光雅示遣。仍忽撤之。以組絲用。令撤玉等。錦腰依大相國之敎命不撤之。承曆雖被止金銀玉表着等。不撤錦腰云々。（按上皇疑童之誤。）

下襲。（付半臂。）

同可用公物也。

仁安二三臨時祭。故殿（通親）勤仕舞人。令用公物給也。或壯年結搆之人。私調之着用。非無先例。

仁平元十一廿五或秘記曰。臨時祭。舞人隆長。半臂當色下襲。

舞人半臂躑躅不可然事。

仁安三十二十六後土（通親）曰。今年舞人半臂躑躅云々。未聞事也。仍着私物。或着件半臂。伊保定宗着之云々。自餘私物云々。

打衣。（付袙。單衣。）

私儲之。夏赤帷上ニ張單ヲ付也。打衣如冬。或宿老之人着袙。不着打衣。

仁安三十一廿一賀茂臨時祭。殿記曰。私相儲紅打衣一領單等也。

同三四三同御記曰。赤帷單衣。（紅張單也。付帷上。）紅打衣。（有裏。）是私物也。侍從伊輔。左兵衛佐公網。着濃打衣同單衣。

同四二十二殿記曰。皇后宮平野行啓。濃打

衣。以泥畫梅花。薄色衣一。單衣。紅帷着之。

仁平元十一廿五或秘記曰。臨時祭。舞人隆長。濃打衣。裏濃蘇芳袷二領。濃單衣。私儲之。

嘉禎三四廿三首書八幡行幸。舞人皆如冬打衣袙單衣着云々。六位藏人一人。下ニ着赤衣云々。

糸鞋。

韈上着之。乍着昇堂上無憚。參入之時。深泥者乍着糸鞋着淺沓。但取去敷云々。

糸鞋作在八幡也。仍通氏朝臣舞人勤仕之時。尋別當幸淸令着之。

一車。

唐車。

太上天皇。攝政。關白。無止之人乘之。雨皮。多者張席ヲ下ニヲシマキテ カラグ。但關白一門幷當家張席ヲ上ニテ。雨皮端ヲ出テ。十文字ニカラグル也。

八十嶋典侍。

保元二十廿六八十嶋典侍。侍子紀伊局。勅使唐車。殿下賜之。

大嘗會御禊。

永治元十御禊。乘唐車供奉。

若宮御行始。

天治二八廿五崇德若宮君仁渡御二條殿。御車等。遠江守宗章朝臣調獻唐御車。以青色糸付房。簾等皆青色也。

糸毛。

久壽元十四或秘記曰。中宮呈子自鳥羽南殿行啓。同田中殿先例召在禪閤之貞信公青糸毛。今度被用。在院青糸毛云々。件車。故待賢門院爲中宮常出入之時。白川院被造云々。

冢案。貞信公青糸毛。執柄家秘藏之間。白川院始令造給歟。且藻壁門院入宮之時。青糸毛新車又出來。入道相國造之云々。件車在近衞之流故也。

仁安三十廿一御禊。（高倉）女御代車。貞信公青糸毛。前攝政被調献之。簾。青色。糸卷有繡。下簾。青色。有繡。浮線綾。頸總。青色。組總。村濃。鞦。赤革。朱漆。付杏葉。疊繧繝端。錦茵。雲珠。寬弘以後不居之。雨皮持一人。烏帽子。狩衣。退紅襖衣。白襖袴。布下袴。

永治元十御禊。御車。貞信公御車。相國加修理。葺青糸。押金窠文。青簾。有繡。伏組。浮線綾綾青下簾。有繡。繧繝半帖。唐錦縁茵。赤鞦。付杏葉。棟緂組綱。雲珠。寬弘以後不居之。今度可居之由有仰。不知其旨之處。依御牛震令取也。頸總。同以下可付之。而御牛垂頭。依被引地。又令取之。牛。自院被献之。

紫糸毛車。

永治元十御禊。女御代二車用朱雀院車。而后宮出車料。自殿下被召畢。仍用齋院車。是又先例也。廂差紫糸毛。押金窠文。紫糸卷簾。有繡。同色頸總。繧繝半疊。東京錦茵。赤革鞦。杏葉。棟緂組總。三車。齋院車。按察大納言被献。實本家御沙汰。無疵。紫糸毛。押金銀窠文。相交。自餘同二車。已上自一車至于二三。金作車。不出袖。

長元九御禊。（後朱雀）女御代御車。青色糸毛庇指二車。有廂。自此車以下皆紫糸。四車。无庇。

廂車。

保延六十二九或秘記曰。左大將中院殿。（忠通）直衣始云々。左大將曰。半蔀車觸申執柄依許所乘也。廿六日馬權頭顯定云。大將今日初乘半蔀車。申事之由於入道殿（忠實）乘之云々。

檳榔廂。

保延二三四大殿（忠實）春日詣。直衣冠。檳榔。有半蔀庇。

網代。連子。或號網代廂。

網代有庇。或網代有連子物見。懸簾。攝政

關白大臣大將乘レ之。

金作車。

永治元十廿六御禊。女御代金作檳榔毛。左大將殿被レ獻。例檳榔用二金物一也。青簾。下簾。紫。連着鞦。自餘如レ常。

毛車。

執柄家々禮之人用二檳榔毛一。檳榔。前關白近衞。領鎭西志摩戶庄土產云々。仍二所望一用レ之云々。當家用レ菅。但檳榔毛尋得之時用レ之。又無レ難云々。予兩度尋二取富小路中納言盛兼卿一用レ之。以二二囊一爲二一兩一。但不足云云。簾蘇芳。緣緣金綾。下簾蘇芳。未濃鞦。連着革鞦。疊。繧繝端。榻。大臣黃金物。大將散物。納言已下黑漆金物。執柄家納言間散物。大臣ノ後黃金物。諒闇。晉通之儀无二相違一。少々用二無文藍革青簾。淺木末濃下簾一。今度兩度諒闇。後堀川。藻壁門。執柄一門。但大納言家良如レ常。右府兄弟。實氏公。實有。左金吾後高倉具實。用二此儀一。貞應故通具卿用二此儀一也。

保元二正一或秘記曰。公卿以下車如レ恒。殿下幷亞相毛車懸二青簾一。无文青革緒等也。

直衣始用二毛車一事。

保安二三七新博陸殿忠通用レ之。慶賀之後初有二出仕。便直衣。檳榔。

保延二十二廿八宇治左府大臣後直衣始。檳榔。

仁平三十二廿八中納言中將兼長直衣始。檳榔。

仁安三八廿四久我殿雅通直友始。毛車。

保延三三四大殿雅實春日詣。宇治丞相扈從。直衣。檳榔。

首書 嘉禎三三廿六近衛前關白被レ申二兵仗拜賀。乘二檳榔庇車一。上檳榔庇。有二圓總一。袖上連子繪唐花。物見有二半蔀一。蘇芳簾。同下簾。廿八日直衣始。件車被レ替レ簾。常簾也。藍革端一蝶。被レ懸二青下簾一。不差黃也。

文車。

久安五四廿或秘記曰。中將兼長朝臣正下拜賀。中將車去年用二常網代一。今日始用二檜網代一文同。是餘例也。

十月十六日同記曰。師長昇殿。網代車。其文巖小鳥。

仁安二二十五殿記曰。殿久我。被レ仰曰。車文如何。侍從同樣如何。故入道殿雅定不レ御之時。予中宮權大夫出仕之時。令レ違レ袖。予本定紋チモダカ鶴。又物見。予緣青紋金青。然者爭不レ違哉。袖中ニ鶴ヲ作テ令レ起如何。被レ仰曰。不レ可レ然。此一家通文不吉也。物見ニ令レ出レ簾如何。予近衛使之時用レ之。尤吉。仍此定ニ定了。

多案。今子孫皆通文。違ニ先人御命一如何。三位師季卿。故典藥頭賴基養育。鐘愛无レ他。仍申二請故殿一令レ乘二大面一。但物見金青。無レ簾。而近代彼兄弟皆乘レ之。塗ニ綠青一令レ張レ簾ニ付レ總。凡種々秘事。或大臣調ニ此車一。每ニ出仕一用ニ出車一。末代甚无念事也。爲レ是如何。

四月十六日同御記曰。古人被レ語曰。大面車。故入道殿近衛司之時。賀茂祭使令ニ勤仕一給。顯房而件時出來云々。又大固食車。六條右大臣御車也。而大相國殿雅定令レ傳ニ給公卿一之後。依ニ六條右大臣殿仰一。件車傳ニ給楊梅大納言顯雅一。大面車非ニ先祖者一歟。故右府御時出來歟。固食車。野行幸之時初出來云々。是僻說也。自ニ土御門殿御時一出來歟。

押紙云。嘉禎三年五月廿七日。久我恒例八講。內府定通被レ入。束帶。被レ乘ニ上網代車一。上自ニ網代袖一出ニ錢金一云々。後日前內府通光被レ語曰。吾家兩三代不レ調ニ件網代車一。只調ニ半蔀車一所レ乘也。若花山之家例歟。且又大臣着ニ束帶一乘ニ網代一事。定無ニ先例一歟。可レ乘ニ網代一者。直衣若衣冠可レ宜歟。吾家可レ用ニ網代一之時。借ニ用子息車一常事也。又堀物揚云々。件揚當家不レ調。只自ニ納

言大將之時。用黄金物搨也。一日又被懸下簾云々。同不得其意。如此遼遠之時。不懸下簾也。青侍語。件車簾端。普通蝶圓ヲ圓蝶二ヲ以墨消之云々。以言大臣用一蝶。无案內。雜書如此調歟。言一蝶者。只圓蝶一ヅツアルナリ。

餝車。

賀茂祭見物雲客車。

久壽二四廿一　隆長見物。其車上檜網代。實檜。左右縱緣。內張青薄物。外空立松。簾用伊豫簾。霞地切之上緣際。每懸緒處附花柑子。上左右簾皆付千鳥。物見紺青亂文。不解垂簾。禪閤班牛。畝鞦。件鞦本夾堅食。

御禊前駈車。

仁安三四十五御禊。左兵衛佐通盛車。透蝶。圓文。雜色車。付松藤水鳥。

保元元四十一御禊。左衛門佐光家車。松藤鶴透ス。牛黄班。左兵衛佐　家通車。杜若透之。本文也。

永保三四十三御禊。前駈左衛門權佐爲房。八葉網代。不開物見。楊梅色革鞦。伊知比遣繩。

賀茂祭使車。

保元二四十四諒闇。近衛使右中將信頼朝臣車渡大路。袖透文採色々。物見下網代上付文。簾切テ霞地紫革緒押貝。鞦入志部。雖甚雨張莚不覆。

承安三四十七近衛使隆房風流右樂器舞裝束付之。依右近又用右歟。車簾付蝶鳥舞也。是古風流也。信家中將　風流云々。彼時牛童着胡飲（多子）酒裝束。

仁安三四十八太皇大后宮使大進右衛門權佐經房車。不施風流。近衛使右少將修範。風流殊美麗。唐糯畫。付唐花。

治承二四廿一右馬助爲保車。唐草丸透之。長物見。打立不知。牛黑班。鞦入薬。春宮（安德）使權佐維盛朝臣右少將。車。透蝶。本車文簾付洲濱立松樹。鞦有薬。院御牛黑。紫勾打衣。交遣縄。

中宮（德子）使大進基親車。透袖許。葵藿等也。袖上寄子以紫縹白色紙形。簾不彩色。革押貝。有末濃總角幷總薬等。院御車。牛黑。近衛使少將顯家朝臣車。車當色皆用五節之風流。網代。張赤地錦。上許也。色紙形。押色々錦。上許也。物見。以青玉石疊形貫懸之。但下方一尺ノ程巻上之。物見下。地展銀薄。其上畫牡丹唐草文。以紺青緑青畫燕子。緂緫文。以紺地錦龜甲文。劒形押之。摸几帳帷也。前袖。左方彫透。殿上人立形。着直衣。右方彫透。童女立形。着黄紅葉五。後袖。左方彫透。下仕立形。紅薄様五。蒲萄染唐衣。着透扇。右方彫透。衛府藏人立形。着青色袍。不帶劒。立板内。畫唐繪。緣蒔之摺貝。前簾。貫玉。摸御簾。右上方スヂカヘザマニ切之。左方付高麗帖一枚。其緣蒔之。其上着東京錦茵。五節所贅子之躰也。後簾。貫玉。摸御簾。切右方。自金銅帽額打出紅勾五。鞦。村濃。紫與青有薬。遣縄。櫨勾打交。有薬總。牛。志本黃。院御牛。

八葉。付小八葉。

大八葉。五緒。長物見。極位人大臣乘之。而近代多乘用。不可然云々。

賀茂祭日弁已下車。

保元二四十一御禊。權右中弁雅方五位藏人左衛門權佐。車。不切物見。

仁安三四十五右少弁重方車。小八葉。外記史无物見。

保元元四十二頭左中弁雅教朝臣車。八葉物見如例。赤鞦。黑牛。

嘉保二四十二有信問答。江納言車。用八葉。邐際。而文依有例頗大。八寸許如何。予曰。八葉文大小。更不可有異儀。時範爲六位撿非違使之時繪邐際。是經幸（章イ）相議所爲也。猶无便宜。於八葉大小者。殊可無其差別。又車物見不可開。是先例也。予爲廷尉之時。奉御禊前駈之日。兼房朝臣見物

陳之。所感事二。所傾事二云々。所感事二者。一者先容貌。是爲廷尉。一者車尤可如此。不開物見。所傾事二者。一者府隨身帶鷲尾胡籙。切文。可令負鷹羽胡籙也。一者冠巾子頗高云々。是一説。藏人左將監爲季所傳語也。

嘉保二四十七御禊。右衞門權佐時範車。八葉網代。打立不知。不開物見。黑鞦。伊知比遺繩。

重服車。

保元二十一廿八或秘記曰。車八葉。黑鞦。借請督殿令新調給。

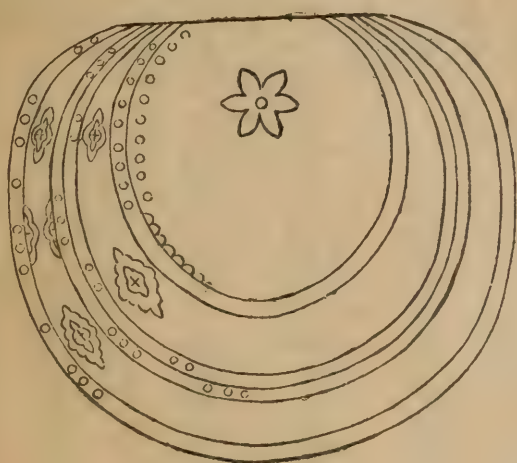
窃案。近代多用八葉歟。如法喪車張莚云々。久安宇治左府調之歟。

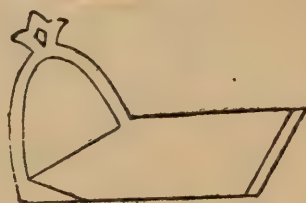
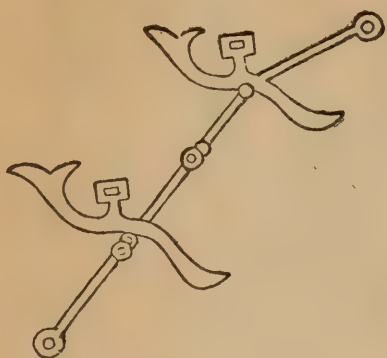
新車乘始故實。

久安五十廿五或秘記曰。午刻師長乘新車也。依未造了無輪云々。先日禪閤命曰。乘新車之時。不必有輪之由。故殿御命也。

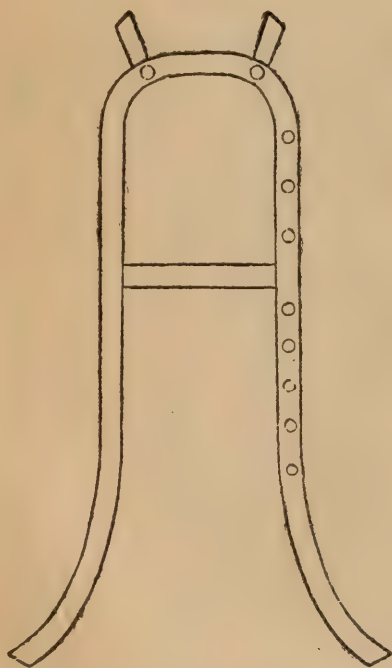
一鞍。

唐鞍。橋。黑地螺鈿。入玉。表敷。錦。大滑。有金銅金物鈴等。借請德大寺唐鞍寫之。大滑。三重有伏輪。二重付透金物。端三十二。次端二十六。鞍敷下紺地錦伏輪。上有菱針等。多見之。必不一樣。或付藤丸金物。或付花橘。有鈴等。而此鞍大滑无鈴。

鐙。金銅。

古唐鐙等。多者無レ舌。只輪許也。而近代爲二踏能一所レ爲歟。可レ然也。

轡。金銅。

鞦。赤滑。或朱漆。付杏葉。

鞦廣一寸四分。兩方長四尺三寸。杏葉一方五。兩方十。

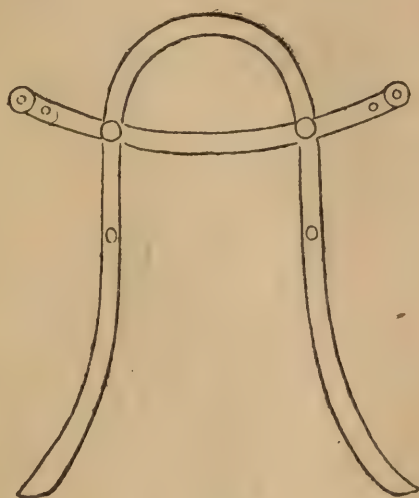
有二金物一。一方九。凡兩方十八。

杏葉。胷懸七尺一寸。杏葉五。廣如二尻懸一。方金物九。

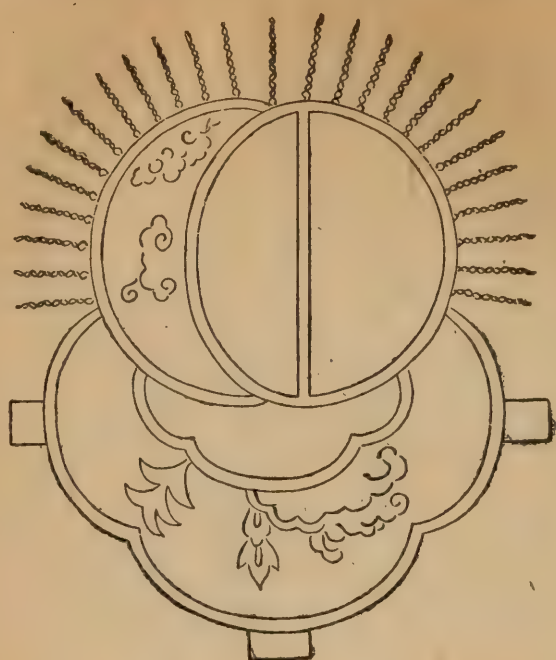
伏輪黄鏡白

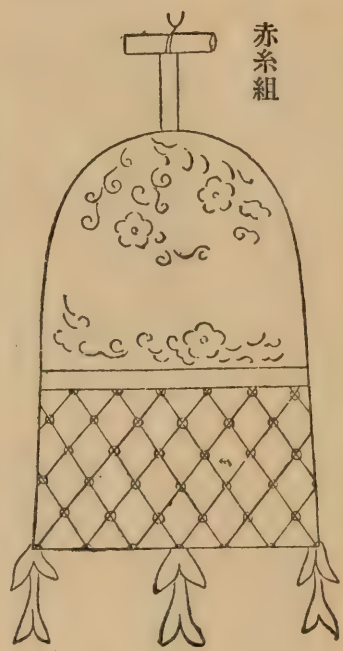
カコ

如帯上手

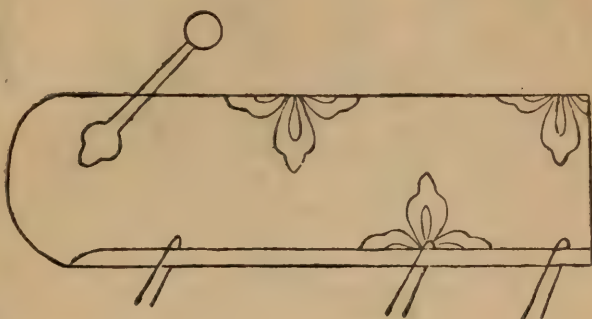
面懸。立二尺。廣一寸。横加レ紐。定三尺九寸。方金物六。

手綱。蘇芳絲如レ常。四位已下青絲也。

差綱。祭使種々絲。村濃。或打交。蘇青打交組。端蘇芳絲。御禊白差縄也。

雲珠。
有伏輪。上透唐草。下鏡。

頸總。
鉢透物中有大鈴。下瓔珞。

赤糸組

八子。兩方六筋。已上十二。
シチテノモトニ付云々。或記。毛ツケト記。

金銅鈴

鞍覆。如レ常。
嘉禎二年四月廿三日祭。通成朝臣使節。借ニ請入道大相國（公經）唐鞍一。八子無レ鈴。

銀面。
尾嚢長一尺二寸。

長元九御禊。公卿及節下（教通）少納言餝馬。銀面。尾袋。頸總。雲珠。杏葉。皆具。

治暦元御禊。諸卿已上皆乘ニ餝馬一。菖蒲形。銀面。唐鞍。杏葉。雲珠。頸總。如レ常。
保安御禊。攝政（忠通）鏡鞍。杏葉。下引赤銅。
天仁或記曰。殿下（忠實）騎レ馬給間。御顔突ニ當菖蒲形一給。人々稱レ危。自今以後可レ用レ意事也。
永治元御禊。宇治丞相節下。彼日記曰。鹿毛馬自ニ入道殿（忠實）一下給。先日雖ニ尋求一。敢無ニ被レ餝馬一。只有ニ葦毛被レ餝。俗人說不レ餝ニ葦毛馬一。依レ似ニ淨飯王一也。仍餝ニ葦毛馬一否。欲レ申ニ入道殿一之間。昨日下ニ給此馬一。柔耎無ニ驍氣一。向レ車差レ笠更以不レ驚。今朝置ニ唐鞍一。予先乘試。唐鞍八子雲珠鈴頸總也。自ニ入道殿一修理下給。攝政（忠通）本自ニ騎馬支度時一。令レ用ニ此唐鞍一給云云。
承保元節下大臣（土御。）馬。河原毛。字瘂川。唐鞍。杏葉。具從ニ法成寺入道殿（道長）一傳來。在ニ左大臣家（師實）一云々。今所レ被ニ借遣一也。

和鞍。

行幸可用縁螺鈿云々。雖然近代或鏡鞍。或蒔繪。彼是所用也。切付。四位已上豹皮。五位已下虎皮。手綱公卿蘇芳緂。四位已下楝緂。差縄。公卿師差縄。四位已下片差縄。行幸舌短鐙。御幸舌長泥障。

泥障伏輪事。

保元元四十一御禊。前駈右衛門佐光宗。泥障有伏輪。

祭使引馬鞍。

治承三四廿一近衛使右少將顯家引馬。鏡鞍。鞦纑末濃。畝同村濃。(不染交青色。)泥障懸金銅伏輪。打交差縄。有蘂總居飼。(懸青砂鞍覆。有縫物。)

大嘗會御禊女御代前駈鞍事。

永治元十御禊。前駈廿人。五位十六人。蒔繪螺鈿鞍。虎皮切付。泥障。小總。鞦纑緂手縄。六位四人。縁螺鈿鞍。葦鹿切付。泥障。楚鞦。

楝緂手綱。

初齋宮入諸司鞍。

仁安二九廿一殿記曰。初齋宮入野宮。五位已上和鞍。(黑地。)楚鞦。付杏葉。結唐尾。

仁平三九廿一或秘記曰。兼長(參野宮。)和鞍。用唐鞍鞦。(竝付杏葉。)

大治三四十四初齋院御禊。別當有賢用蘇芳緂手綱幷連着鞦。例歟。可尋。

保安五九廿一初齋宮御禊。前駈中將宗能朝臣馬。(鹿毛。)黑地螺鈿鞍。大滑下鞍。豹切付。連着鞦。(付杏葉。)

天養元九八西河御禊。因幡守藤原信輔。長門守源師行。越中守源資賢。土佐守高階盛景。各和鞍。(付杏葉。)參議右近權中將經定。和鞍。唐鞍鞦。(付杏葉。)權中納言左衛門督公教。鞍鞦如先。於東廊邊。右兵衛督公行語曰。雖供奉齋王東河御禊前駈。此事未見尋得。先天

皇御大内之時。供奉此行幸之人。無文帶蒔繪劒。仍齋王前駈 勤仕之時。騎泥障馬。如今日。從里第行幸八省之時。有文帶螺鈿劒。但撤弓箭幷老懸等。或垂纓。駕結唐尾馬。新中納言季成卿同之歟。先供奉行幸故也。

治承三四九初齋院入左近府給。勅使參議左中將定能朝臣。和鞍。不付杏葉。不結唐尾。左衞門權佐光長如此。

仁安二六廿八初齋宮東河御禊。殿記曰。申刻參。垣下役少將泰通參。今夜前駈也。予問曰。馬令指泥障給歟。將又令結唐尾給歟。答曰。指泥障。淺沓也。予依爲芳契敎曰。結唐尾可着靴。少將驚。如命令結唐尾。

愚案。治承定能儀。若有所見歟。天養公行語。又如此。而泰通一向似不存歟。

公卿將諸社行幸。

久安五十十一日吉行幸。三位中將兼長鏡鞍。緣臥組。已上禪閤賜之。

雪見御幸上皇御騎馬御鞍。

保安五二廿御馬。栗毛。鏡地鞍。但緣堀物。舌長鐙。近代物也。豹切付。不竹豹也。連着鞍。蘇芳緂手綱等也。

諒闇鞍事。

保元元十二十七御方違行幸。或秘記曰。鞍緣螺鈿。或沃懸地。葦鹿切付。淺黃手綱。無文革大滑等云々。然而余今夜。付事安用移。嘉承或人記又注。且非無所據。又夜陰不及沙汰。悉不能調儲。右少將實國朝臣又駕移。公教左將軍諷諫云々。已叶愚案。或多只駕普通鞍。雖然又夜陰不及沙汰哉。

藻壁門院 諒闇中 日中法勝寺 御八講御幸。面々人々所爲不同。或借用大夫尉騎馬。

鞍。赤手綱。壺鐙云々。或緣螺鈿。或普通鞍云々。

嘉保二四十七江記曰。美作守自二此宅一出立。鞍右雅實大將被レ借。橋并鐙并鏡也。小文韉豹。其轡又鏡也。只水付散物也。手綱。蘇芳緂私儲レ之。泥障新栽レ之。

移。

近衞次將乘二用平文移一。或摺レ貝入レ玉。或入レ銀。或押二薄文一。有二錦心一。上敷二大滑一。緣用レ錦。付二金文堅食一。大滑畫二雲竜等一。鐙。或入レ銀或押二薄文一。轡。或平文。或金銅。手綱。蘇芳平緒有二伏組一。韁。平文。付二堅食一。金物鍮金銅。差繩。或葦津緒。或藤。或榛緂或打交。舊例。左右次將各一人用二寮移一。近代面々新調用レ之。宿老次將或乘二和鞍一。次將等夜行幸用二無文鞍一云々。甚不レ可レ然事歟。首書

平文移鞍覆。无二所見一。但打覆無レ難歟。

仁平元十一十三臨時祭。舞人隆長。中將。乘二平文移一。禪閤調レ之。白差繩。

鞭。

乘二和鞍一之時用二蒔繪鞭一。用二平文鞍一之時。猶用二蒔繪鞭一。無レ難歟。舞人用二藤卷鞭一。馳レ馬故歟。打任テハ鞭令レ指二舍人腰一。而平禮出衣。舍人令レ指二狩衣頸紙一。高官高位之人。強依レ不レ持レ鞭。如レ此歟。淺位之人尤自可レ持。仍无二此儀一歟。可レ尋。

鞦。

古鞦チイサク總短。近代鞦甚大總長。四條大納言隆親。母儀三品八十嶋勅使之時。爲二藏人頭一。直衣出衣令レ張二口皮一時。鞦ニ付二金物一。故松殿基房入道見物曰。鞦金物有二打所一云云。若辻ニ可レ打歟。一向今案也。可レ尋

笠事。

賴平卿曰。囊。當家記。無二裏緒頸革一。強非二大滑一。用二小草革一之由。前關白近衞。所レ語也。

此抄者通方卿抄也。元亨二年五月五日。以六條前中納言之本書寫畢。不可外見。

權大納言判

延文二八六。以前相國本挍合之。文字誤等直之了。

中納言藤　判

此一卷。土御門大納言殿御抄。號餝抄也。御自筆正本。至愚老相傳秘藏[ ]。而應仁已來兵亂。仁和寺坂本比叡山等。所々雖預遣。終以紛失歟。子細難書述者也。仍此本借請按察卿。親長卿。忍老眼之不堪。手自寫之。細字不見解。只任筆畢。子孫堅可停止外見者也。

文明十八年三月六日。調料紙一枚許染筆。同四月十日終功了。此内不染翰之日十五六日也。

從一位源朝臣判

此外臨時公事衣抄雜衣抄。幷羽林籠鶴抄。本朝沿革禮等。仁王會抄。皆此御抄也。一時紛失。惜哉。右借請中院前內府通秀公。本。餘暇之次。連々染筆了。不可外見者也。

文明十八年十一月九日

權中納言藤原朝臣

此一冊秘々。且雖窓外不出候。種々令懇望。限日數借請畢。此內上半分程者。撰者以自筆令書寫。已後西三條逍遙院入道俗內大臣實隆。以自筆所書續也。於本雖無比類。書寫之誤等。猶可有之歟。後日令清書。可備證本者也。

于時天正十七年六月廿七日

羽林郎源某判

右餝抄三冊以屋代弘賢松岡辰方之本挍之書中所引以實氏書當時右府以定通書土御門大納言依之案之自嘉禎元年十月至于同二年四月之間抄之歟挍合之序聊加傍注以便童蒙云

群書類從卷第百十五

装束部四

後照念院殿装束抄

冠事。

透額冠事。

六條殿基實十八まで令レ用給。于時攝政。

猪隈殿家實御記云。建仁土御門元年四月八日初着二額宛薄額ノ一也冠一。

岡屋禪閤兼經廿年まで着給。

照念院殿兼平十三まで着給。大納言大將。

槐記云。初着二厚額冠一。十八。

柏夾事。

雅鈔云。かぶりのえんびをかしはばさみとて。ふたへにおりて竹などをわりてさしはさみて冠にさしたり。いそのもはさみて。すそはうへのかたにみせて。けんゑいといふものさしたるやうに。けんえいはむすびの末まきつめたり。是はかりそめの事なり。

装束着樣事。

知足院殿忠實仰云。束帶尻ハ平緒の下縁に宛て可レ作。小ガ吉也。

衣笠前内府家良。命云。月輪兼實ハ三シハエモンヲカカレタリケルヲ。普賢寺殿基通ハ筑紫人ナドコソタクリモテト咲給。

束帶事。

濃装束事。上階以前着レ之。但可レ依二年齡一歟。

黑半臂。蹴䠇下襲。濃打衵。近年尋常之時强不ㇾ着ㇾ之。
裏濃蘇芳衵二。若一。濃單衣。或青。濃大口。
縮線綾表袴。裏濃。椙ノ横目扇。
改ニ濃装束ㇾ着ニ紅装束ㇾ事。多上階後着ㇾ之。
半臂下襲。濃装束之時ニ無ニ相違ㇾ。紅打衵。近代尋常時强不ㇾ着歟。萌木衵二。若一。或薄色。安元御賀。三位中將殿如ㇾ此。紅
單衣。表袴裏赤。赤大口。檜扇。
最勝講三日中装束事。
猪隈殿。後鳥羽建久五年三位中將。土御門正治元年大納言大將。装束如
ㇾ恒。其後丞相也。
岡屋殿。後堀河嘉祿二年大納言十七。初日如ㇾ常。結日。二
藍下重。常薄物半臂。同二藍也。紺地平緒。
大殿。兼平四條嘉禎四年大納言十一。第三日。唐装束。顯紋
紗。紋唐草。赤色下重。同黑半臂。白唐綾。文霰地窠。表袴。
紺地平緒。
四條仁治元年大納言大將。第三日。二藍下重。薄物。文如ㇾ常。同半臂。
表袴如ㇾ恒。紺地平緒。

唐装束事。
知足院殿仰云。唐装束。冬ハ唐綾ノ表衣。同表袴。
下重。唐絹ノ半臂ナド着也。大口。衵。單衣ハ不ㇾ然。
夏ハ唐絹ノ表衣。同半臂。表袴。於ニ單。帷。大口ㇾ
者不ㇾ然。
若時最勝講ナド着ㇾ之。
白装束事。
普賢寺殿。建久九年夏御方違行幸。着ニ白張單衣。帷ㇾ。
今案。是白装束歟。第三度御攝籙間也。御年三十九歟。
白装束時。表袴裏白。
猪隈殿ハ不ㇾ着ニ白装束ㇾ。
岡屋殿。後深草寶治元年御還補之時令ㇾ着給歟。御年三十八。
照念院殿。龜山文永六年大閤兵仗慶申ノ時着給。御年四十二。
雖ㇾ着ニ白装束ㇾ。表袴裏計ハ紅ヲ着時モアリ。後深草建長
基忠文永。伏見永仁大閤拜賀之時如ㇾ然。冬平。注ㇾ之。
圓光院殿。後宇多弘安九年正月一日始着給。衵單表袴裏大口等紅也。

御年四十。

愚身。(花園)正和四年。冬平。四十一

夏冬ノ白重事。

(鳥羽)元永元年十二月七日寂勝寺供養。殿暦云。參內。重面ヤウシタルヲ着ス。知足院殿ノ仰云。中外抄。御堂四月一日ノ白重ヲ令ㇾ置給ヲ極熱時取出着御アリ。凡白重ハ老者トオモフ時着也。件時ハ只綾ヲ白シテ着也。又上ノ袴冠ナドモ有紋也。又殿上人ナドモ。一日不㆓出仕㆒シテ次日ヨリ出仕ノ人ハ白重ヲバ着スレドモ。冠表袴ナドハ例ノヲ可ㇾ着也。

信範卿記云。(近衞)仁平二年正月三日朝覲行幸。關白(忠通)殿着㆓御白重㆒。御下重面綾九文。紅裏單文。御袙。單衣如ㇾ例。

又云。(後白河)保元四年四月旬。殿下(基實)白重。練半臂下襲。

同日六條殿御記目錄ニ云。參內。白襲。

八日灌佛。參內。着㆓白襲㆒。

岡屋禪閤。建長五年十二月法勝寺阿彌陀堂供養。着㆓白張下重㆒給。于時大閤。

縫腋事。

衣笠內大臣命云。普賢寺殿ハマトハジト被ㇾ仰キ。和名抄ノ心也。

先祖人袍文事。

岡屋御命云。六條殿殿上人ノ程。着㆓普通文袍㆒給歟。

信範記云。御袍文如㆓凡人㆒之由載ㇾ之。一門人ハ龍膽唐草也。

仰云。四品幷上階中納言等拜賀之時。申㆓執柄㆒御袍着ㇾ之。代々例也。闕腋袍。殿上人時。四度節會行幸ノ時着ㇾ之。行啓ニ陣ノ次將許リ着㆓闕腋㆒供奉。御後ノ人ハ縫腋也。

龍膽唐草ノ文袍事。攝籙以前着ㇾ之。

岡屋御命云。一門人着ㇾ之。件文自㆓(忠通)法性寺殿御時㆒出來。先公殿上人ノ程ハ凡人袍ノ文ヲ着給。公卿以後召㆓此唐草文袍㆒云々。此事被ㇾ示㆓東山禪閤㆒之處。自㆓公卿㆒以後着事不ㇾ知之由被ㇾ示キ。

繪様。文大小可レ依ニ年齢一。

袍文事。

仰云。餘家皆着ニ輪無轡唐草等一。但大臣以後着改之人等有レ之歟。大炊御門故内府 冬忠公大龜甲。花山院 相國通雅公 輪違等着レ之キ。家例也。

岡御命云。東山^{道家}入道物語云。執龍膽文ノ表ノ衣。古ハ凡人着レ之歟。

法性寺殿^{忠通}御時。被レ書ニ公事一給之時。邦綱大納言着ニ立沸雲袍一。

沸雲并鶴浮線テウ^{綵}ノ袍事。

知足院殿仰云。立沸雲袍。宇治殿召ケルトテ。一ノ人着レ之。我讓ニ關白一之後初出雲ヲ着也。申テ云。件ノ立沸雲ハ。宇治殿初而召候歟。仰云。其ハイカヾ有ケン。先例ナドヲ以令レ着御歟。

（原本立沸雲袍様在此間今從便宜移下）

建長六年二月十八日經光卿記云。九條前内^{師實}府被レ仰云。執柄被レ着ニ立沸雲袍一事。京極大殿仰云。壯年之執柄不レ可レ着レ之。五旬後可レ用云云。而近代昇ニ氏長者一人。不レ謂ニ年之老若一皆令レ着給。又齡及ニ五旬一之□。近代已稀之故歟。

立沸雲繪樣。攝籙ノ時冬着レ之。

或抄云。執柄袍文沸雲ハ。攝二四海一如レ雲。故用レ之。

攝籙時夏袍文。（浮線テフ）冬直衣文。冬下襲面ノ文等同レ之。

大閤時袍文繪樣。夏冬同レ之。

赤色袍事。着二此袍一之時可レ爲二染下重一也。寛治表袴同染レ之。具見二代々之記一。

代々令レ着給例。

御堂。道長 寛弘一條二年三月八日中宮彰子大原野行啓。御年四十一。

寛仁後一條二年十月廿二日御年五十二。上東門院彰子行幸。東三條行幸之時。法興院殿又如レ此云々。

京極大殿。師實 承暦白河三年十一月廿七日大原野行啓。御年三十八。

寛治二年正月十九日行幸。御年四十七。袍織物。

知足院殿。天仁二年九月六日高陽院競馬行幸。御年三十二。袍織物。

月輪。建久五年三月十六日中宮任子大原野行啓。四十五。袍唐綾。

岡屋殿。建長二年十月朝覲行幸。

彼時岡屋御記云。文立沸雲如レ常。裏蘇芳。

用二赤色袍一之時。先例多用二織物一。雖レ然綾又

有例。其色頗赤。非紫色。彼時ノ袍切如此。
建長二岡御記云。赤色袍。不限執柄臣。第一
上卿可着之由。見西宮記文。今度袍用綾事。
保元後白河二條平治等内宴之時。法性寺殿六條殿如此。
闕腋刷日猶如此。其上六條殿雖若齡令用
之給。況於衰老哉。表袴如此之時可用浮
文。雖然衰老之間用綾。是非無例。保元後白河法性
寺殿如此。准彼此例所着用也。

始着無張目之袍事。

弘長元年正月一日愚暦云。今日始無張目俗云シヾラ。之袍着之。

弘長元年正月十一日經光卿記云。殿下岡屋
入道殿第二度執柄御時。御袍御直衣非志々
良。熨面被用之。古賢之所爲雖不必然。自
今春止志々良由令語給。

半臂事。着青朽葉下襲時半臂。事在下重部。

雅抄云。冬は半臂つねはなし。わきあけには
冬もあり。夏のにははんぴをぐしたり。
仰云。文小葵歟。弘安春日行幸時。尋申大北
政所之處。不覺。但小葵歟云々。
今案。冬も袒裼などする時はきる也。黒打
半臂也。染裝束時は別事也。
夏之黑半臂事。身下襲ノ裏ノ樣ナルモノ也。
欄ラム羅也。

下襲文事。

冬下襲面文。
見右。
同裏文。或竪文也。夏下重文同之。
岡御命云。下襲ノ文ノヒシハ立ザマニ付之。
普賢寺殿被仰云。先公ハ横被付之。審不之
間尋申東山禪閤之處。立ザマニ付之由被示
キ。

下襲ノ緣事。

年少ノ間オメラカス。

下襲ノ色事。

師時卿永久(堀河)御元服ノ後宴ノ日記云。(正月七日ノ事也)中納言顯通卿着二櫻下重一。去三日宰相中將實澄着二同色下重一。而人々云。節會日蹈蹈外不レ可レ着二他色下重一由被レ難。後日以二此旨一尋二申左府一。仰云。於二元日一ハ蹈蹈下重外不レ着二他色一之由所レ聞傳一也。於二自餘之節會一不レ聽二其旨一。故二條殿敎通。談云。正月用二下襲一次第。元日蹈蹈。二日皆練。三日櫻。七日柳者。

打下襲事。

知足院殿仰云。入道殿臨時客日櫻御下重。不下令レ着二半臂一御上。櫻下重爾不レ着二黑半臂一之由見二御曆一。

又仰云。櫻下重綾ナルニハ黑半臂也。織物ニハ同色半臂也。

又同仰云。櫻下重ニハ劔裝束用二靑革一。他人用二紫革一。但櫻下重用二紫革一事有也。

永久四年正月二日長秋記云。(雅實)右大臣殿仰云。櫻下重ニハ必用二紫緂一也。

染装束事。
衣笠命云。ヲトナビタル人ハ染ニ下襲計ニ不レ染ニ表袴一。
四條大納言隆親卿ノ云。前關白良實。被レ語シハ。染装束時染ニ下重ニ不レ染ニ表袴一事。必非ニ宿老振舞一。裾ヲ可レ懸ニ高欄一。公事ノ日。若キ人モ裾計染之由見ニ松殿基房抄一。
常着色々。
薄色。夏有レ裏。　二藍。夏無レ裏。
蘇芳。夏宿老人。或無レ裏。　裏濃蘇芳。
濃打。夏無レ裏。號ニ引倍木一。　松重。已上不レ嫌ニ時節一。
柳。年少人不レ可レ着。自ニ五節一至ニ三月一。　紅梅。自ニ五節一至ニ正月十五日一。
花山吹。自ニ正月一至ニ三月一。　裏山吹。同。
櫻。自ニ正月一至ニ三月一。　櫻萠木。同。
樺櫻。同。　朽葉。夏多着レ之。
樗。五月。　菊。自ニ九月一至ニ五節一。
萠木。不レ嫌ニ時節一。　卯花。四五月。
花橘。四五月。面朽葉。裏青。
已上下襲也。此内蘇芳裏濃。紅梅裏。山吹萠木等ノ表袴ニモ着レ之。
嘉禎首書四條三四廿三八幡行幸之時。照念院殿于時少將。蘇芳二重織物御下重。同織物萠木表袴。並見ニ御記一。
嘉保堀河二四五賀茂行幸。左大將二藍織物下重。款冬織物表袴。在ニ心記一。
西宮鈔云。
蘇芳。夏冬着レ之。　藤柳。打或張。
蒲萄。冬時用レ之。　紅躑躅。打。用ニ平絹一。
二藍青赤黄朽葉白襲。古時無レ之。
白柳青朽葉之外。公卿不レ服ニ平絹一。
高家口傳ニ云。或人申ノ云。蘇芳ノ下襲ヲ着時ハ表衣裏ニ紫ヲ用ト舊物ニ書付。不審也。
引倍木下襲ノ事。冬下重ノ裏濃打也。
天仁鳥羽二年四月廿六日八幡行幸。曆云。今日ヒ

ヘギノ下襲。半臂。
保安二年四月七日賀茂行幸。私御記ニ云。濃打ノ下重。號ニ引倍木一。同半臂。
法性寺殿御消息ニ云。引倍木。極熱之比不レ着レ之。以ニ賀茂祭一爲レ終。以ニ例幣行幸一爲レ始云々。
西宮記ニ云。曳倍木。四八九月之間用レ之。或黒半臂。或打半臂。
後二條殿大將間着レ之給。承曆元四十七賀茂行幸ノ時也。于時參議大將。御年十六歟。
後鳥羽文治元年四月廿二日賀茂詣。殿下基通濃色引倍木。御下重打物也。無レ裏。單也。冬ノ直衣。文綾丸也。
弘安三年四月十九日愚曆ニ云。賀茂行幸也。着ニ束帶一。濃打ノ下重。號ニ引倍木一。冬ノ躑躅ノ下重ノ裏也。ハタヲヒチル。依ニ制符一。近年彼下重不レ打レ之。只張也。仍キラナシ。然而今日打レ之。同半臂也。件下重四月着レ之。天仁鳥羽保安同。知足院殿法性寺殿八幡賀茂等行幸。于時令レ着レ之給。于時攝政。承曆白河後二條師通又令レ着給。參議大將。此外故普光苑關白。弘長龜山賀茂行幸日着レ之。還御以後不レ着ニ引倍木一之由。在ニ法性寺殿御記一。
弘長賀茂行幸之時。大納言實經欲レ着ニ引倍木下重一之處。關白着用之間不レ着云々。
躑躅張下襲事。近年制符以後。朝夕着ニ此下重一。岡屋禪閤御命云。元三ナドニ着事有レ之歟。但慥例不ニ勘出一。
弘長元年正月十一日經光卿記云。參ニ殿下兼平一。仰云。此一兩年令レ着ニ張下重一給。然而赤單ハ如レ常。未レ及ニ白單一。攝籙令レ着ニ交打下重一給。常事也。節會日爲ニ打下襲一云々。
火色皆練下襲事。岡御命云。カイ子リ。行幸ニ不レ着。岡御命云。二色無ニ指差別事一歟。六條殿基房松殿被ニ賭弓一日。一人ハ裏ヲ打。一人ハ不レ打。イカナリケルコトニヤ。兩人替タリケレドモ。法

性寺殿何レヲワロシトモ不レ被レ仰云々。知足院殿仰云。カイチリ重ハ必用ニ黑半臂一。表袴用ニ織物火色一。下重裏ハ張タル物也。助無智秘抄云。火の色の下重はかいねり(搔練)とかはりたるもの也。火の色とは。うらおもてともに打物にて。なか(中倍)へをいれたるなり。かいねりには。唯うらは紅のはり(張)たるにて。なかへもなきなり。のり弓のそふの日は。かいねりをきたる事也。火の色は。宿德の大臣のもやの大饗日尊者してきる事とぞ聞つたへたる。三條內大臣此火の色をとゝのへて。かいねりぞとこゝろえて。のり弓のそうの日きさせ給はんとて。淸職と申しものしりたりし五位にこれはいかにととはれければ。うちひらいて。めでたく候もの也。但かいねりには候はずと申ければ。大臣いとも心えずして。きでやまれにけりとかや。上東門院むかし大原野に行啓。宇治殿(賴通)非參議の時舞人たり。試樂ノ日に紅打下重。黑半臂。美談也。

知足院殿仰云。かいねりがさねは可レ用ニ紺地平緒幷青革裝束ノ劔一也。

應保(二條)元年二月十日中山內府(忠親)記云。加伊練ハ稱ニ火色一。其體。面ハ紅打。裏ハ如ニ紅單一。中倍ハ紅色ヲハイスル也。不ニ捻重一。只中ヘヲ籠テ縫也。而故內府公(家忠)ノ敎ヘ。賭弓之時紅打三重ヲ重テ着レ之。件日雪灑之間潤頗見苦云々。

正嘉(後深草)二年二月十八日經光卿記云。向ニ三條入(實親)道右府第一。被レ語云。祖父左府入道(實房)ハ被レ作ニ裝束記文一。是人々衣裳色目以下抄物也。隨分家之重寶也。搔練ノ下襲。火色下重ハ各別物也。共爲ニ赤色一之間。人存ニ同物之由一歟。是不レ可レ然。搔練ハ張下重也。火色ハ頗色薄。搔練ハ赤色殊深也。着ニ搔練一之日。必可レ指ニ紺地平緒一云云。如レ此之口傳等多被レ書レ之。

始着二柳下襲一事。

後二條殿。

堀河永長元年十二月爲房卿記云。殿下師通令レ參二御堂一給。關白殿今日始令レ着二柳張下襲一給。年來只令レ着二打下重一給也。被レ申二大殿一有二其沙汰一。但件年十一月廿九日臨時祭。初令レ着二柳下重一歟。猶可レ勘。

知足院殿。

鳥羽天永二年三月十五日。賭弓。卅四。攝籙以後六年。

猪猥殿。

順徳建保二年三月五日。執柄以後九年。卅六。柳幷青朽葉着レ之給也。

照念院殿。

後深草正元元年二月五日西園寺一切經供養日初着給。柳下重ハ心喪ノ色トテ。吉事時不レ着之由申習。

圓光院殿。

首書弘安大納言時着給。

愚身。花園正和五三十六臨時祭日。年四十三。

雅抄云。有泰抄。おとなしき人やなぎ。まめといひて。あをぐ面はふくさばりにてきるおろにそめたり。そめほかり。

始着二青朽葉下襲一事。仰云宿老後冬夏青朽葉也

猪猥殿。

建保二年三月五日。攝籙以後九年。御年三十六。

岡屋殿。

四條仁治元年五月廿四日。最勝講。攝籙以後四ケ年。卅一。

照念院殿。

後深草正嘉二年五月始着給。御年三十一。

彼時被レ用二下重切一也。

令二注置一給云。色猶可二黃青混二苗色一云々。

圓光院殿。

基忠後宇多弘安九五五最勝講時初着給。御年四十。

後深草正嘉二五廿四愚曆云。今日始着二青朽葉下重一。地幷文加レ常。青色ノ過タルハ苗色ニ似

タル由禪閤被レ仰。半臂同色也。地幷文不レ違ニ下重一。自餘紅。引倍木以下如レ例。

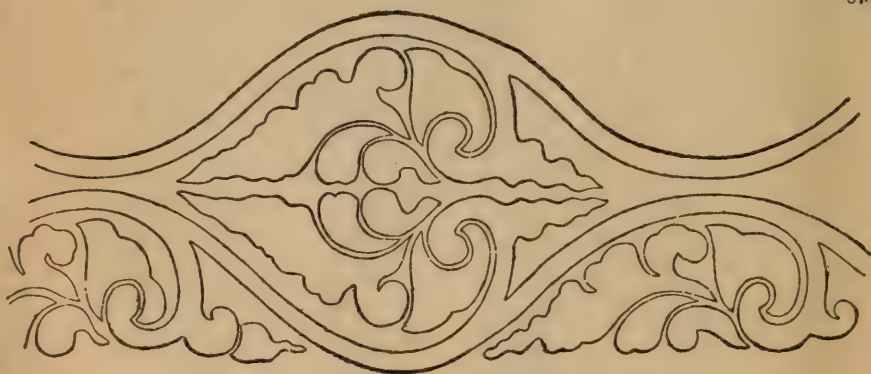
普賢寺殿。朽葉下重惣不レ着給。岡命。

岡屋殿御命云。夏秋不レ嫌。折節着レ之也。色ハ聊有ニ黃氣一。

師光云。心喪ノ色トテ神事ニ不レ用ト申。雖レ然賀茂祭ニハ着レ之。嘉保元年土記云。賀茂詣。大殿青朽葉御下重。朽葉ノ下重。後二條殿即如レ斯。

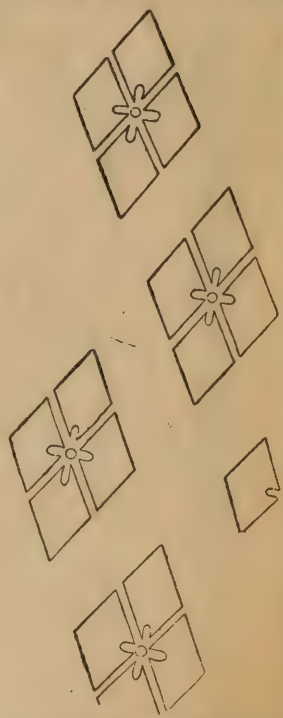
節會日着ニ柳下重一事。

岡屋殿御命云。節會鳥羽ニ着ニ柳下重一事不レ可レ然。但有レ例。殿曆云。永久四年正月七日柳下重。今案。執柄不レ列ニ朝廷一勿論歟。

土御門正治二年正月十六日親輔卿記云。節會。殿下御參內。御束帶。濃青張御下重裏濃青。面綾張白。平絹御袙如レ恒。

衣文。袙同レ之。

束帶下紅打衣事。
近代常時畧レ之不ニ着用一。如ニ袒裼一之時着レ之。
束帶下袙事。
知足院殿仰云。公卿ハ蘇芳ヲモ蒴木ヲモ着。常ニハ大臣以前蒴木。大臣以後紅也。
安元御賀ニ。三位中將殿薄色袙。
六條殿上階御拜賀。紅御袙。猪隈殿同御拜賀。蒴黄御袙。
岡屋禪閤御命ニ云。吾ハ大臣以後束帶ノ下尓着ニ赤袙一。凡一門人大臣以後着レ之。
單文。
上階以前濃單衣。或青。上階以後紅。
夏束帶下帷事。
仰云。上階以前白。上階以後紅。着ニ白裝束一之時又白。
表袴腰結事。
岡屋禪閤御命ニ云。家嗣公云。闕腋之時必結レ後。縫腋ハ只結レ前。
表袴文。霰窠也。若年ノ時着レ之。雖ニ宿老後一晴時又着レ之。文大小依ニ年齡一。其事委可レ勘ニ先例一也。
衣殿仰云。若時縮線綾。其次固織物。文藤丸。霰窠マデハアラズ。次アヤ也。餘人固織物之時モ霰也。
始着ニ固文藤丸表袴一事。
岡屋。嘉祿二年四月。大納言。十七。
(原本藤丸文圖在此間今依便移下)
束帶下赤張單衣事。
普賢寺殿被レ遣ニ信範卿許一御書云。夏張單衣此近代用綾凡夏單衣ハ生單衣ヲハリタルニテ本儀可有之然者用平絹之條叶道理歟不可依色
束帶赤バリノ單衣ハ常之平絹用レ之。綾ハ如何。依レ有ニ不審事一尋申也。
束帶下白張單衣事。
建久九年七月廿二日 普賢寺殿御記目錄云。
御方違行幸。着ニ白張單衣帷一事。御年卅九。
岡屋禪閤。寶治元年正月後深草令ニ還補一給之時。袙以下被レ用ニ白色一歟。卅八。

藤丸文如ㇾ此。指貫文同ㇾ之。

照念院殿大閤始。四十一年。着ニ白袙以下一給。
束帶下大口事。
殿上人間色濃。
上階以後色紅。始ツカタ練歟。
白裝束時白色也。
笏事。
知足院殿仰云。有ニ横目一ハ見苦也。
仰云。慶賀笏。在ニ近衞一。代々拜賀時用ㇾ之。牙笏着ニ
禮服一時用ㇾ之。
餝劔事。
仰云。節會時帶ㇾ之。但大節會。白馬。豐明。幷御禊行幸

之時不レ用代云々。
永治(崇德)槐記ニ云。如法餝劔。必用ニ赤滑革足緒一。
餝劔代事。
子細見レ右。
安元(高倉)元年正月一日午禪記云。餝劔代。紫檀地螺鈿。鞘黃樋。赤滑革裝束。
螺鈿劔事。
行幸時用レ之。九條殿流正月二日用レ之。
執柄時節會或用レ之。
片節時諸卿用レ之。
此外猶有ニ着用事等一。
衣云。沉地盧橘御劔事。京極大殿。實金葉。青瑠璃花銀。是又紛失。
長和五年正月二日(二宮大饗日也)小右記云。大納言公任(道長)着ニ有文帶。螺鈿劔一。舊年送ニ消息一云。左相府云。二日用ニ螺鈿劔一雖ニ不レ然之事一。依レ被レ命可レ着者歟。無ニ二宮大饗一之時。公事不レ用ニ隱文帶。螺鈿劔一者也。大納言存ニ此由一。年來不レ着。而依ニ相府命一所レ用也者。大謬言也。今日多用ニ樋螺鈿一。失ニ舊說一畢。
カフ螺鈿事。
衣笠命云。文貝ナルニ。フチヲ金ニテモナ爾ニテモ入タル也。
仰云。摺貝ハタヾ金ヲホソクフセタル也。刷日着レ之。
蒔繪螺鈿劔事。
遠所行幸。雨日行幸。公卿以後拜賀等用レ之。
正月二日九條殿流用レ之。
遠所行幸時用ニ蒔繪螺鈿劔一事。
衣笠命云。木地ハ令レ損之故也。褻行幸ナドニハ。蒔繪劔ニ紙ニテ貝ノ樣ニ文ヲ押也。
蒔繪劔事。
常公事每度用レ之。有レ樋劔同前。但聊刷日可レ着也。

於二紫宸殿一被レ行二即位一之時。執柄用二蒔繪一。

螺鈿野劍事。

行幸時四位將用レ之。五位入二尻鞘一。遠所行幸時。大將幷公卿將或用レ之。蒔繪野劍。執聟之時被レ用。是又紛失。仰二小狐事一。

瑠璃水精柄等劍事。

岡屋禪閤御命二云。瑠璃水精等柄劍者。晴時用レ之。但騎馬日不レ用云々。

劍足緒革隨二平緒色一取替事。

衣笠命云。普賢寺殿全無二取替事一。紺地平緒爾紫革ノ足緒モ紫平緒藍革足緒モ不レ可レ有レ苦之由被レ仰キ。而猪隈殿每度令二取替一給。

衣云。胡籙ノウシロヲトヒラヲトハオナジクテ。劍ノヲハカハリタルモクルシカラズ。

衣ハシ革裝束ノ劍。紺地。紅梅地。紫緂。樗緂等。惣皆ハシカハノ裝束ハクルシカラヌ事也云々。花山院此裝束ノ劍有云々。京極大殿御物云々。

京極大殿黑樋劍事。一ハ在二花山院一。櫨皮ノ裝束也。一ハ入道殿ノ御時紛失。

劍足緒事。

知足院殿仰云。櫻下重着之時。劍ノ緒ハ我用藍革。他人ハ用二紫革一。

騎馬日劍平緒事。

知足院殿仰云。騎馬ノ日ハ最上ノ劍平緒。水精ノ柄等不レ用事也。

白重時劍緒平緒事。

知足院殿仰云。白重ニハ紺地平緒。青革之足緒ノ劍。

紫緂平緒事。

晴時着レ之。年少之間雖レ非二指晴一常着レ之。

青緂事。

同二紫緂一。

櫨緂事。

仰云。八九月之比着レ之。猶可レ見二先例一。但見在十月如二

紅葉相殘ｰ時者用ﾚ之。後鳥羽院仰之由。今出川兼季相國記ﾚ之云々。

紺地事。

常時用ﾚ之。

仰云。葦手平緒ハ紺地也。繡者鷹司殿倫子御堂北政所。自ﾚ令ﾚ縫給云々。或說。令ﾚ付ﾚ裏給云々。葦手劔一具物也。着陣之時多用ﾚ之。

紅梅地平緒事。

仰云。非常物。普賢寺殿御時有ﾚ之。不ﾚ知ﾆ行方ｰ云々。有ﾆ子細ｰ歟。

嘉保二年正月三日自筆云。臨時客。櫻練下重着ﾚ之。紅梅平緒。件緒御堂殿被ﾆ着御ｰ。今日帶ﾚ之。

樗緂平緒事。付手綱。

衣笠命云。樗花開比五月許差ﾚ之云々。而手綱ハ不ﾚ嫌ﾆ時節ｰ。樗緂ハ靑緂紫緂交也。

仰云。四五月比差ﾚ之。靑緂有ﾆ薄紫匂ｰ歟之由有ﾆ一說ｰ。而多者靑緂紫緂相交歟。此事猶不審。

前右府公衡公二具所持。皆兩緂相交。

玉帶事。

延曆十四年聽ﾆ參議以上着ﾆ白玉帶ｰ。

有文巡方帶事。號ﾆ隱文ｰ。

節會行幸用ﾚ之。帶ﾆ餝劔螺鈿蒔繪螺鈿劔等ｰ時。用ﾆ此帶ｰ也。

永長元年二月十九日自筆云。宇治殿御談ﾆ云。法性寺御八講日被ﾚ帶ﾆ隱文ｰ云々。劔蒔繪也。臨時客日。蒔繪ノ劔ﾆ差ﾆ有文帶ｰ云々。此事不審也。

有文丸鞆帶事。

差ﾆ無文帶ｰ之日。殊刷時着ﾚ之歟。

無文玉丸鞆帶事。

公卿以上常時用ﾚ之。

馬腦帶事。

四位常時用ﾚ之。

犀角帶事。

五位用ﾚ之。

魚袋事。

仰ニ云。元三中行幸付ニ魚袋一。而後鳥羽院御時。相ニ似大甞會御禊行幸一トテ被レ憚レ之。猪隈殿以下於ニ御所一俄被レ撤レ之。仰云。九條殿元日節會ニ魚袋加ニ修理一不ニ出來一間御遲參。貞信公被ニ尋申一之間被レ申ニ此由一。仍我令レ付給魚袋解レ之被レ進。後日被ニ返進一之時。被レ付ニ松枝一令レ向ニ貫之家一給。被レ令レ詠。付レ之被レ進。

　春かせにこほりとけたる池の魚は
　　千歳を松のかけにかくれむ

仰ニ云。公卿以後金魚袋。公卿以前銀魚袋。

胡簶丸緒事。

冬忠公云。板突爾一ッ纒テ宛。平緒半引廻結ニ前方一不レ垂レ末。挿ニ帶宛一。平緒半引タレハサガリテ見。同聊自レ半上引ニ廻之一。

雅抄云。まろをひく事は。もといたつき(板突)にからみて。しもにむすびたるをときて。いたつきにからみながら。ながきかたをうしろにひらをのうへにひきまは(引廻)して。みじかきかたをとりあはせて。まへのひらをのさがりのうへにまろをのすその露つけたるをひとしくして。かたかぎ(片鉤)にむすぶ。もすそをひとしくむすびたらすばかりの事にぞある。

仰。平胡六羽。是等ニハ切テ用レ之。仍テ細キ也。餘人ハ不レ切用レ之云々。仍廣キ也。行繼云。此邊ニハ切テ用レ之。仍鼻ツキニハグ也。弓ニ卷ニ紫組一事。端ハ繁ク中程ハマバラニ卷也。イカニモ解也。衣笠内府ハ解ザル樣有也。ソクヒナド付ハ無下事也云々。

衣丸緒結付事。左右ノワオナジ樣ニシテ。露ハ二寸餘サガリテアリ。サガリハ左へ板突ノカタへサガルナリ。ウシロヲ(後緒)ニ貝五六所付也。ウシロヲツクルハ。革サキ下へムク也。マへ緒同ジ。ウスヤウ紅エビラニイル。又

ハヅハ水精面指カブラ。餘人不レ然。クビハヒタクビ。シモニ羽ノキハニコガハアリ。クツマキヾハニカミニコガハアリ。

衣丸緒引事。イタツキヲバカラマズシテ。アナヒキマトヒテマムスビニ結テ。ウシロヘムキタルヲ。ウシロヲノカミニソヘテムスビテ。タリヲバハサムナリ。タリヲサグルニハ。平緒ノカミニサグルナリ。

衣丸緒引事。ヒラヲノカミナルウシロニソヘテ引ベシ。イタツキヲバカラマズシテサグルガヨキ也。マヘノタリヲバサゲズシテハサミタルヨシ。タリヲサグルハ。ヒラヲノフサノカミニアツベシ。

仰。或人云。丸緒ノ露。ヒラヲノ上ニヒトシクムスビタルヲバタヽクト云。カタ／＼ヲミジカク結ビタルヲバタヽカズトイフニヨリテ。タヽクタヽカヌ兩說也。冬忠公說。不レ垂挿レ帶。

平胡六羽事。

カブラヲ面ニ差。然而裏面ニ子ヲ成問。カブラニハ裏羽ヲハグ也。又弓矢不レ卷ニ紅梅檀紙一。只白檀紙也。但實ニハ色紙ヲ卷之由。有ニ普賢寺殿仰一。

衣笠命ニ云。平胡六羽。近來大略不レ切シテハグ。廣着故歟。

小隨身胡六事。

仰ニ云。如ハ小隨身用ニ逆顏一僻事歟。可レ用レ葛歟云々。仍弘安十年朝覲行幸之時。三位中將タダノ隨身ニ用レ葛。隨身等云。餘家者用レ葛。執柄家自ニ小隨身時一用ニ逆顏一之由。信範卿注レ之。猶可レ爲ニ逆顏一也。後日見ニ信範卿記一。六條殿普賢寺殿殿上人ノ間ハ葛。公卿以後逆顏也。但少將拜賀被レ用ニ逆顏一。是殿御隨身箙被ニ借渡一由也。敎經卿云。粟田口大納言入道記ニ。普賢

寺殿仰トテ。殿上人程用レ葛。公卿已後逆顏云云。

中山記ニ云。近衞殿少將拜賀事。被レ示ニ人々一。隨身簏者。諸衞惣簏也。而家例用ニ猪皮一。是攝籙人上下﨟隨身共用ニ猪皮。取ニ渡件簏一之体也。我時不ニ見給一。而故信範卿云。只存ニ在故殿納殿一申テ被レ用ニ猪皮一有ニ何事一哉者。仍隨ニ彼申狀一了。又可レ然歟申之御時被レ用了。不レ可レ及ニ異儀一者。拜賀當府隨身參入給ニ胡六一。仍有ニ此沙汰一也。後日參ニ粟田口時中ニ此事一被レ仰云。雖ニ攝政關白府生番長一用ニ猪皮簏一是例也。下﨟者用ニ惣簏一。而春日詣後雖ニ下﨟一皆用ニ猪皮一。其故者。乘ニ移馬一之時下﨟皆用ニ猪皮簏一是例也。其家執柄家用之由。往年或人所レ示也。年久其人不ニ覺悟一。但有職之由所レ覺也。近衞大將モ上﨟隨身ハ猪簏也。其モ下﨟乘ニ移馬一日者用レ猪事也。

衣笠命ニ云。中少將隨身胡六。小牛革等。左ハ紫革。右ハ藍革也。然而通用無レ苦云々。

襪事。

鷹北政所被レ仰云。練貫ヲバ不レ用ト岡屋殿被レ仰。

靴ノ花仙事。

衣笠命云。靴ノハ赤地。但丞相以前ナドハ。其ハ青地無レ苦之由。普賢寺殿被レ仰。後日命云。普賢寺殿ノ仰ニハ。靴ノ花仙者青地。而猪熊殿（忠良）ハ執柄以後コソ青地ニテハアレト被レ仰ト。故大納言入道者赤地也。但赤ラカナル染裝束時ハ青地ト申キ。

保安大嘗會御禊日朝記ニ云。殿下御靴韈錢用ニ黃鳥錦一。無事華麗之故也。

雨日着ニ深沓一事。

永承五年東北院ノ行幸。雨降。公卿深沓。次將着レ靴。

貧房記云。深泥日着レ靴太無二便宜一。但執柄被レ定仰一云々。

衣云。深沓ハ雪時相二具之一。不レ靴。不二牢靴一。無二花仙一。

汗拭布事。

龍君命ニ云。普賢寺殿御時ハ長五尺許也。

布袴事。

雅抄ニ云。ほうこは。さしぬきつねのきぬ。したのはかまをきて。そのうへにしたがさねをきて。うへのきぬにしりをつくりて。おびをさし。さくをもつべき也。

夏布袴ハ。岡屋殿ノ仰云。帷ニ重ニ張單衣一。但夜分ハ帷計モ着レ之。

衣冠事。

嘉祿三年四月五日。經ー御記云。夏加茂祭以前着二冬裝束一。冬ノ五節以前ノ衣冠ハ着二夏裝束一。秘事也。

此事如二執柄一如何。

隱文巡方

隱文丸鞆

右後照念院殿裝束抄以肥後守經亮藏本及一本挍正了

群書類從卷第百十六

装束部五

装束抄 西三條實隆公抄也

冠。

推古天皇御宇冠位十二階ヲ定ム。孝徳天皇古キ冠ヲ止ラル。左右ノ大臣ハ猶古キヲ用ユ。天武天皇悉古キヲ止テ。漆紗ノ冠ヲ用ユ。今ノ烏帽子也。持統天皇又本ノ冠位ヲ授ラル。當時ノ冠是也。有文無文トテアリ。尋常有文也。但近代織物ノ羅ナキニヤ。糸ヲ以テ菱ノ紋ヲ閉付テ。唯有文ノヨシ許也。

天子御冠。

薄額。暑天ニハ半額ヲ召ス。角ノ上程ニ穴アリ。羅ニテ引塞也。是世ノ始ヨリ崇神天皇ノ

比マデモ。神鏡ト同ジ殿ニマシマスユヘニ。朝夕御冠ヲ離サレズ。緒ヲ通シテ結バレシト也。又御神事ノ時ハ。御幘トテ。白キ絹ヲ以テ巾子ヲ結バセ給フナリ。

臣下冠。

少年薄額。中年ノ後厚額ナリ。或記ニ十五歳マデハ薄額。十六歳ヨリ厚額ノヨシ見エタリ。然ルニ京極大閤（師實）三十四歳左大臣ノトキ初テ厚額ヲ用ユ。後二條關白（師通）三十二歳内大臣。宇治左府（頼長）十八歳同ク内大臣ノ時ヨリ用ユ。此等ノ追ニ先蹤ニ十六歳以後モ任槐已前ハ可レ有ニ用捨一事也。近代ハ官ノ尊卑ニヨラズ。一向十六歳ヨリ厚額ヲ用ルコトニナレリ。抑透額ノ冠ハ。忠義公（兼通）ノ息閑院大將朝光始テシ出シ侍ルヨシ見エタリ。

纓。

同レ冠。羅ヲ以テ用ユルナリ。

袍。

表衣トモ號ス。衣服濫觴。漢朝ノ始鳥獸ノ羽皮ヲ服トス。黄帝始テ衣服ヲ作ル。我朝ノ始。神代鵜鷀ノ羽。天照大神御代始テ神衣ヲ織ナリ。應神天皇御宇百濟ノ服。大寶令ヨリ唐ノ衣服ヲ用ル也。

黄櫨染。（文桐竹鳳凰。）

天子常ニ召ス。黄櫨染ト稱ス。延長ニ大原野。承保ニ大井川等ノ行幸ニ臣下モ着用ス。是ヲ染ルニハ綾一疋ニ櫨十四斤。蘇芳十一斤。酢二升。灰三石。薪八荷。

麴塵。（或號ニ青色一文同。）

是モ天子ノ御袍ナリ。臨時祭庭座舞御覽。又ハ弓場始ナドノ晴ノ時召ス。青白橡ト稱スル是也。又臣下着用ノ例邂逅ニ見エタリ。但藏人是ヲ着ス。所ノ雜色御禊前駈日着スルハ拜領ノ由ナリ。染ルニハ綾一疋ニ苅安草

大九十六斤。紫草六斤。灰三石。薪八百四十斤。

帛。夏生。冬練張。

天子御神事ノ時ニ召ス。廻立殿行幸。奉幣使發遣。齋宮群行等ノ日召也。

赤色。文窠中ニ竹桐。

太上天皇ノ御袍。赤白ノ橡ト稱スル是也。大治朝覲。建久ニ八幡等ノ御幸ニ召ス。時ニヨリ天子モ召ス。内宴賭弓ノ日ナド例アリ。又攝政關白モ是ヲ着スル。宇治(頼通)京極(師實)等皆着用ス。但松殿(基房)ノ口傳ニ。赤色ヲ着スルニハ故實アル由見エタリ。北山抄。赤白ノ橡闕腋ノヨシシルス。西宮抄ニ近代縫腋ノヨシ見エ侍ル。染ルニハ綾一疋ニ黄櫨大九十斤。灰三石。茜大七斤。薪七百二十斤。

黄衣。文小葵。

儲君以下無品親王ノ袍。又西宮抄ニ。無品親王孫王源氏ノ公卿ノ子孫等昇殿ヲ聽テイマダ無位ノ程是ヲ着スルト見タリ。此袍ノ色古今沙汰有レ之。縫殿寮式。淺黄。西宮抄。薄淺黄。京極大閤。中御門右府(宗忠)等ノ記ニ綠色。行成記ニ黄衣。是淺黄色也。世ニ黄衣ト稱ストイヘリ。保延ニ親王元服ノ時。淺黄。コレ黄薄色也トシルシ侍ルナリ。

深紫。

一位ノ袍ノ色ナリ。院ニモ召スナリ。最上ノ物ナレバ。非二其人一シテハ着用スルコトナシ。仍深紫深紅ヲ禁色ト云。其淺キ色ハ制ノ限ニアラズ。ユルシ色ト云フ。延喜三善淸行ノ議奏。長保太政官符ニモ此由見タリ。異朝ニハ。紫紅ヲ間色トシテ朝服ニ不レ用レ之。又婦人ノ服ニチカキニヨリテ褻服ニモセズトイヘリ。但隋煬帝。一品紫。次ハ緋。次ハ綠ヲ用ルヨシ見エタリ。染ルニハ綾一疋ニ紫草三十斤。酢二升。灰二石。薪三百六十斤。

淺紫。
二位三位是ヲ着ル。染ルニハ綾一疋ニ紫草五斤。酢二升。灰五斗。薪六十斤。
深緋。
四位ノ着ル色ナリ。綾一疋ニ紫草卅斤。茜大四十斤。米五升。灰三石。薪八百四十斤。
淺緋。
五位ノ着ル色ナリ。綾一疋ニ茜大卅斤。米五升。灰二石。薪三百六十斤。
深綠。
六位。帛一疋ニ藍十圍。苅安草大二斤。灰一斗。薪一百卅斤。
淺綠。
七位。帛一疋ニ藍半圍。黃蘗大二斤。
深縹。
八位。帛一疋ニ藍十圍。薪一百二十斤。
淺縹。

初位ノ着スル色ナリ。帛一疋ニ藍半圍。薪三十斤。但大同ノ格ヨリ。七位深綠。初位深縹ニ改ラレ侍ル。
皆如レ是品々アル事ナレドモ。中古以來。四位已上ノ袍フシカ子ニテソムルユヘニ。其差別ミエザル也。仍四位ヨリ一位迄オシナベテ黑シ。今モ五位緋。六位綠也。此外ノ品ナクナレリ。零落ノ儀也。但四位ニ黑クスルハ。深緋ヲ染ルニ紫艸三斤ヲ加ルユヘニヤ。サレドモ四位ト三位トノ色ハカハルベキコト也。參議正四位下庶明。天曆五年二月中納言ニ任テ從三位ニ叙スル時。九條右丞相（師輔）ヨリ淺紫ノ袍ヲヌギテツカハス。又貧房記ニモ三位ニ叙シテ袍ヲ改ルヨシ見エ侍ルモノ也。
袍文。
主上。桐。竹。鳳凰。上皇。菊。唐草。窠ノ中ニ八葉菊。將軍家。無レ輪。任槐以後。竹。桐。

攝家。丁子。唐草。杏葉。多須支。龍膽。關白ニナリテハ。雲立涌。大閤ノトキ雲ニ鶴也。又攝錄ノ時。夏ノ文。浮線蝶ノ丸ナリ。土御門大納（通方）言抄ニ當時攝政九條。窠ノ中ニ唐草。近衞流。納言ノ時ニ立涌ノ中ニ窠ノヨシシルス。三條大炊御門中院ノ黨。日野勸修寺等輪ナシ。西園寺。德大寺。花山院。四條ナド轡唐草。大臣以後ハ異文トテ。三條。大龜甲。西園寺。丁子。唐草。大炊御門。龜甲。洞院。藤。鞆繪。或藤丸也。此外猶有ルベシ。家々相傳ノ子細有事ナレバ。他家ノ事强テハシルシガタシ。各冬ハ志々羅地ノ綾。裏ハ平絹。夏ハ縠。又異文ノ袍ハ熨地也。

下襲。

近來上下別ニ切テ用ユ。下襲ノ下ト稱ス。裾ノコトナリ。冬ハ表浮線綾。色白。裏ハ遠菱ノ綾。色蘇芳ノ濃打也。是ヲ蘇芳打ノ下襲ト云。色家ハ立菱ノ文。諸家ハ橫菱ニ織ル。又壯年ハ四菱ノ重文也。中陪アリ。老者ハ一菱ノ遠文濃色也。或ハ裏表共ニ不レ打。只張テモ用ユ。野々宮（公繼）左府常ニコレヲ着ル。夏ハ縠ノ遠菱ノ文。蘇芳。裏ナシ。生蘇芳ノ下襲ト云是ナリ。又禁色ヲ聽サレザル殿上人以下ハ。躑躅ノ下襲トテ平絹也。色ハ蘇芳ノ下襲ニ同ジ。夏ハ二藍ノ縠ナリ。文。右ノ外莒ガタ。杏葉。以下下襲ニヨリテ可レ有レ替事也。

寸法。

代々ノ制符同ジカラズ。近代用來ハ。攝關一丈二尺。大臣一丈。大納言八尺。中納言六尺。參議五尺。四位五位四尺。皆踵ヨリ餘ルホドヲ云。是後堀川院ノ制符ナリ。主上ノ御裝束モ。御下襲。半臂。打衣。袙。單。表ノ袴。大口ナドハ臣下ニ不レ替。但文小葵也。又裾ヲ別ニスルコト不レ宜云々。

火色。
裏表共ニ打。臨時客。賭弓。御賀ナドノ極テ晴ニ。無二止事一人是ヲ着ス。

紅梅。
表紅梅。（以下イ无）裏蘇芳。冬ヨリ春ニ至テ晴ノ時着ス。臨時客。搭供養ナド例ナリ。

赤色。
拜賀。春日賀茂等參詣ニ用ユ。

松重。
表青。裏紫也。朝覲。行幸。行啓。競馬等ノ晴ニ四季共ニ通用。

花葉色。
經黄。緯款冬。裏青打。多ハ三月着用ス。

紅葉。
表黄。裏蘇芳。九月ヨリ十一月マデ着ル。是ヲ黄紅葉ト云。青紅葉。表青色。裏朽葉。櫨紅葉。面蘇芳。裏黄色。蝦手紅葉。面薄青。裏黄色。數多品々侍ルナリ。

菊。
表白。裏蘇芳。十月十一月晴ノ時用ユ。

裏款冬。
表黄。裏紅。春冬臨時客。御賀。春日詣。行幸ナ（ド）ドニ用ユ。花款冬。面薄朽葉。裏黄。自レ冬至レ春。白款冬ナドト（替リイ）モ申侍也。

女郎花。
表。經青。緯黄。裏。青。七八月ニ着ル。

柳。
表白。裏青。冬ヨリ春（以下イ无）マデ着ル。又黄柳トテ有リ。着用ノ儀同ジ。臨時客。御賀。旬ナド例アリ。

櫻。
表白。裏蒲萄染。春三ケ月ノ間晴ニ着ル。或説ニ第一ノ大臣常ニ是ヲ着スルトイヘリ。櫻萠木。面萠木。裏赤花。（以下イ无）樺櫻。面蘇芳。裏赤花。等色替レリ。着用ノ儀同ジ。臨時祭。任大臣。除目ナド例有。

躑躅。
表白瑩。裏濃打。冬ヨリ春ニ至テ用。〔以下イ无〕拜賀。春日祭例有。

青朽葉。一説。面。經青。緯黄。裏青。是ヲ青朽葉ト云。
木賊色也。最勝講ノ頃ヨリ七月中旬マデ着ス。是極熱ノ時ト云リ。サラヌ時モ宿老之ヲ着ル。又極熱ノ頃ハ右ニシルス二藍ノ下襲モ用ユ。七月ヨリ九月ニ至テ用ユル也。黄朽葉モ着用ノ儀同ジ。

紅。
紅梅ヨリハ色厚(コキ)也。是モ晴ノ時用ルナリ。邂逅ニ見タリ。

白重。
裏表共ニ白シ。更衣ノ日上下着スル。宿老ハ更衣ナラヌ日モ着ル。又極熱ノ時モ是ヲ着スト見エタリ。又衞府闕腋ノ時ハ白重ヲ着セズトイヘリ。

蒲萄。
表蘇芳。〔以下イ无〕裏花田。冬ヨリ春ニ至テ是ヲ着スル也。春日行幸ナド例アリ。

曳倍木。
色蘇芳。濃薄ハ時ニヨル。多ハ炎天ノ頃是ヲ着ル。諸社ノ行幸御幸。齋院ノ御禊。賀茂詣ナドニ例アリ。

唐綾。
是ハ唐裝束ニテ。文色ナド强チ定事ナシ。下襲表袴ニ唐綾唐ノ顯文紗ナドヲ着スル事也。凡唐裝束ハ。一日晴ト稱シテ尋常ニ替リ侍ル也。仍定ル儀ナシ。又唐裝束染裝束ハ。老者ハ用レ之侍ラザル事トミエタリ。

右袍。下襲。時ニヨリ事ニヨリテカハレリ。仍先例ヲ追テ着用シ侍ル事ナリ。着用ノ先例シルシ侍ルベケレドモ。事多ニヨリテ。先色メ計ヲシルシ侍ル也。

半臂。
唐ノ高祖其袖ノ長ヲ制シテ減ズ。是ヲ半臂ト號ス。禁色ヲ聽ル人。冬。襴。羅。薄物ノ濃打。夏ハ大文ノ黑半臂也。近代春冬ハ常ニ不着。五節ノトキ。袒裼ノ時。若ハ騎馬ノ時是ヲ着ル。非色ノ人ハ。冬ハ平絹濃打。夏ハ縠ノ二藍。文。菱ノ三重多須岐也。此外下襲ニヨリテ其色ヲ儲シト見エタリ。

衵。
公卿ハ赤キ綾ヲ用ユ。中壯年ノ人ハ染タルヲ着ル。文ハ。將軍家桐唐草。諸家少年重文。中年以後遠菱也。凡衵ハ春冬計用ユ。近代一向是ヲ畧ス。又宿老ニ至リテハ白キヲ用ル也。

單。
紅ノ綾。文ハ菱。四季共ニ着ル。春冬フクサバリ。夏秋ハ張單也。是ヲ夏ハ引倍支共號ス。是モ近代ハ袖單トテ。帷ニ袖計ヲ付テ用ユ。極老者ハ白キヲ用ヒ侍ナリ。

大帷。
紅ニ染タル大帷也。汗取ノ帷ト號シテ。夏秋是ヲ着ル。近代單ノ袖計ヲ付テ。夏冬共ニコレヲ着ス。老人ハ白キ帷ナルベシ。

表袴。
夏冬無差別。少年浮線綾。霰地ニ窠ノ文。中年ヨリハ藤ノ丸堅文。是ハ公卿以下禁色ヲ聽ル人着ル。非色ノ人ハ平絹ノ瑩。裏ハ何レモ紅打也。但老人ハ不打ナリ。此外承保大井川ノ行幸ニ。京極關白唐錦ノ表袴。正治ニ猪隈關白繭木ノ表袴ヲ着用セシハ。唐裝束ノ時ノ事ナリ。

大口。
赤大口トテ。紅ノ生ノ平絹ナリ。又ハ張絹ヲモ用ユ。但近代見エズ。宿老ノ人ハ白キ張袴

也。

襪。

練貫ヲ用ユ。宿老ハ平絹。唐裝束ノ時ハ色々美ヲ盡シタル事ドモ見エ侍ル。凡襪ハ束帶ノ外着用セザル事ナリ。御免ヲ蒙テハ。直衣衣冠ニテモ用ヒ侍ルナリ。

笏。

天子ノ御笏。上下方也。是朝拜ヲ受タマフ時ノ御笏也。上古ハ神祇ヲ拜給時持給フハ前圓ナリ。臣下ノ笏。古ハ五位以上ハ象牙。白木ノ笏ヲ通用ス。前詘後直也。六位以下木ヲ用ル。前挫後方也。又五位マデハ散位モ是ヲトル。六位以下ハ散位ノ輩トル事ヲユルサヾルヨシ長元七年法曹ノ勘文ニ見エタリ。異朝ニハ天子球玉。諸侯象牙。大夫ハ魚鬚又ハ竹ナリ。士ハ木ニテカザリ。或象骨ヲ以テカザルヨシモ見エタリ。兩朝共ニ形相ノ替リヲ以テ尊卑ヲシメス。然ニ中古以來。禮服ノ時バカリ牙ノ笏ヲ用ヒ。常ニハ竝テ木ノ笏也。一向制ノ定ル事ナシ。但主上上皇ハ。近代マデモ牙ノ笏ヲ用ヒ給フト見エ侍ル。

扇。

宿老ノ公卿。夏冬ヲワカズ。束帶直衣ノ時是ヲ持ツ。年若キ公卿。炎天ノ比蝙蝠。冬ハ杉目。泥薄ノチラシ檜書タルヲモツナリ。攝家用ヒ來ハ。盛年ノ時。兩方ノ面ニ藤ノ丸ヲ糸ニテ這ハシテ押タル檜扇ヲ持。又十七八歲ノ比ハ白キ糸ノ閉アマシタルヲ藤ノ房ニ結テ持。一向十五以前ハ杉ノ横目ニ繪ヲ書タル蝶鳥ノ蟹目ノ扇也。古ハ檜扇ニ公事ノ次第ナド書テ持タルト見タリ。

帖紙。

陸奥ノ紙ヲ用ルヨシ見エタリ。時ニヨリテ薄樣檀紙ナドヲ用ル事モ侍ルナリ。

帶。

直衣ヲ用ル人ハ直衣ノ切ヲ用ル。サナキ人ハ下襲ノキレヲ用ユ。夏冬ノカハリモ直衣下襲ニ同ジ。

劔。

餝劔。

諸ノ節會。內宴。御禊。行幸ナドニ公卿是ヲ帶ス。如法ノ餝劔近代不ㇾ及ㇾ見也。仍テ其様委曲記シガタシ。装束ハ紫滑藍革ナドト見エタリ。鞘ハ大略木地ノヨシシルセリ。安元二年三月四日太上天皇ノ御賀ニ。松殿關白紫檀地ノ金作ノ螺鈿ノ劔ヲ帶ス。鞘ノ上下ニ水精ノ伏龍アリ。目ノ內ニ玉ヲ入ラル。是餝劔歟ノヨシ月輪殿(兼實)記ニ見エタリ。

餝劔代。

內宴。節會。御元服等ニ公卿是ヲ帶ス。代トハ餝劔ノ代トイフナルベシ。北山抄ニ是ヲ內宴ノ劔ト稱スル由載タリ。承元四年四月朔日峯(道家)禪閤ノ記ニ云。今日關白餝劔代ヲ帶ス。其勢螺鈿劔ノゴトシ。金ヲ以テ伏輪ヲカクル。紫檀地ノ上ニ唐草ヲ貝ニテ押也。柄ニ瑠璃ヲ用ユ。露同ジク瑠璃ナリ。殊勝ノ物ト云云。

螺鈿劔。

行幸ニ公卿以下是ヲ用ユ。節會ノ日ハ諸衞ノ將佐是ヲ帶ス。又節會ノ日。執政ノ人代ノ代ト號シテ此劔ヲ用ル也。御堂ノ流。元三ノ間ハ螺鈿ヲ帶ス。殿上人ノ時ハ蒔繪ナリ。此外讓位。任大臣。立后。列見。定考。或ハ無ㇾ止事ㇾ佛事ニモ用ユ。列見。定考。行幸。節會ニハ少納言八省ノ輔モ是ヲ帶ス。御禊ニ帶ニ弓箭ㇾ公卿是ヲ帶ス。賀茂詣ニハ大臣帶ㇾ之。宇治左府ハ拜賀幷競馬ノ日モ帶セシナリ。拜賀ニハ公卿ノ後帶スルト見エタリ。又九條右丞

相ノ曰。列見。定考ハ是宮中ノ大事也。公卿以下螺鈿ノ劒可レ帶云々。其樣。地ハ沈地。紫檀地等ナリ。木地ニ金貝ヲ摺ル物ナリ。

將軍家拜賀此劒例。

康曆元年七月廿五日鹿苑院（義滿）准后大將拜賀ノ時。沉地螺鈿劒ヲ用ラル。

永享二年七月廿五日普光院（義教）將軍大將拜賀ニ沉地螺鈿劒ヲ用ラル。

康正三年七月廿五日慈照院（義政）准后大將拜賀ニ同劒ヲ被レ用也。

攝家。

嘉禎三年正月三日光明峯寺（道家）攝政ノ臨時客ニ普光園院（良實）于時右大臣。紫檀地ノ螺鈿。水精ノ柄ノ劒ヲ用ユ。

諸家。

仁平二年正月廿六日大饗ニ宇治ノ左府金作ノ紫檀地。螺鈿劒ヲ用ユ。文鸚鵡。唐草。緣螺鈿伏輪アリ。柄瑠璃ナリ。禪閤（忠實）是ヲ給フト云。

樋螺鈿劒。

帶スル儀。蒔繪ト螺鈿ト通用ノ劒ノヨシ峯（道家）殿下ノ記ニ見エタリ。又金樋ハ過差ノ儀ナリ。行幸ニ公卿着用ノヨシ記セリ。通用ノ劒トハ。鞘ハ蒔繪ニシテ。樋ノ中ヲ螺鈿ニスルナリ。

應永十五年四月廿五日。福照院（滿基）關白ノ記ニ樋螺鈿トハ樋ノ中ニ螺鈿ヲスル。鞘ハ蒔繪ナリ。是通用ノ物ト記セリ。或記ニ樋ノアル螺鈿ノ劒ヲ樋螺鈿ト存ズル輩アリ。誤タル說ト云々。其樣。或金銀ノ樋。或ハ瑠璃水精ノ樋ニ或ハ唐草ナド。イロ〳〵ノ文ヲ樋ノ中ニ摺ナリ。

蒔繪螺鈿劒。

遠所ノ行幸ニ公卿是ヲ帶ス。又拜賀ノ日必此劒ナリ。或記ニ此劒ヲ螺鈿ト蒔繪ト通用

ノヨシ思輩アリ。僻事ナリ。

將軍家拜賀ニ此劔ノ例。

建武元年十一月十九日等持院(尊氏)將軍參議拜賀ノ時。蒔繪螺鈿ノ劔帶セラル。

長祿三年慈照院(義政)准后左大臣ノ拜賀ニ同ジク蒔繪螺鈿劔ヲ帶セラルヽナリ。

攝家。

元永二年知足院(忠實)攝政內大臣ノ拜賀ニ蒔繪地鸚鵡螺鈿劔ヲ用ラル。

諸家。

仁平元年八月十日宇治左府春日詣。蠻繪ヲ蒔。鸚鵡ノ螺鈿劔。同十一日。金作ノ沃懸地ノ螺鈿劔ヲ用ユ。

蒔繪劔。(付蒔繪樋有劔。)

是ヲ平塵ノ劔ト號ス。尋常着用ノ物也。拜賀。行幸。弓場始。御讀經ナドニモ帶スルナリ。治承元年十二月二日中將良通拜賀。唐草蒔繪劔ヲ帶ス。此劔御堂(道長)殿ノ御物也。拜賀ノ時必是ヲ帶スルヨシ月輪(兼實)殿下ノ記ニ見エタリ。

將軍家有樋劔ノ例。

應永二十三年四月廿日內大臣(勝定院將軍義持)。石淸水八幡宮臨時ノ祭ノ日。樋アル蒔繪ノ劔ヲ用ラル。

攝家。

保安四年三月廿九日臨時ノ祭ニ攝政(忠通)金作ノ蒔繪ノ樋ノ劔ヲ帶ス。瑠璃柄也。或記ニ騎馬ノ時瑠璃水精ノ柄ヲ用ザル事ト見エタリ。

螺鈿野劔。

近衞ノ次將外衞ノ佐等。行幸ニ之ヲ帶ス。又春日等ノ遠所ノ行幸ニ。公卿ノ大將次將ナド着用ス。邂逅ノ事ナリ。攝家一流ノ所爲ノヨシ後成恩寺(兼良)記ニ見エタリ。永長二年左大將(忠實)。(知足院殿下。)天永二年中納言ノ中將(忠通)。(法性寺關白。)承元四年左大臣(道家)(光明峯寺殿下。)ナド。春日行幸ノ日此劔ヲ用ラ

ル。

蒔繪野劒。

大將等ノ直衣始幷御幸ノ供奉。直衣ヲ着ル時是ヲ帶ス。納言ノ直衣始ニモ野劒ヲ用ル例アリ。又直衣衣冠ノ時モ帶ス。布袴ニモ是ヲ帶ス。其樣。毛拔形アリ。平緒革緒時ニシタガフ。又尻鞘アリ。虎豹等ノ品アリ。尻鞘ニオイテハ公卿遠所ノ行幸ノ時ニ是ヲ用ル。賀茂石淸水等ノ臨時ノ祭ノ舞人ハ常ノ事也。凡野劒ニナリテハ蒔繪螺鈿。シヒテハ差別ナキト見エ侍ル也。

將軍家此劒ノ例。

建久元年十二月二日右大將賴朝直衣始ノ時。革緒ノ野劒ヲ帶ス。

康曆二年正月廿日鹿苑院(義滿)准后大將ノ直衣始。

永享二年十一月九日普光院(義敎)將軍大將ノ直衣始。

康正二年正月廿五日慈照院(義政)准后大將ノ直衣始。

文明十九年正月廿五日常德院(義尙)大將ノ直衣始等。皆蒔繪螺鈿ノ野劒ヲ帶セラレシ也。

攝家。

元永二年二月十四日法性寺(忠通)攝政大將ノ直衣始ノ時ニ野劒ヲ用ユ。

文治四年正月廿七日月輪(兼實)殿下氏ノ長者ノ後初テ春日ノ社ヘ參詣ノ時。衣冠ニ海浦ノ野劒ヲ帶ス。先例小狐ノ劒ヲ用ユト云々。同日內府。良通。二位中將。後京極良經。同衣冠ニ野劒ヲ用ユ。

諸家。

康和三年四月祭ノ日。久我(雅實)內大臣齋院ニ參時。布袴ニ野劒ヲ帶ス。

平鞘劒。

上皇薨ノ御幸ノ時。御車ノ内ニ入ラル。將軍家攝關以下公卿出行ノ時。車ノ内ニ入テ。下車ノ後ハ前駈ニモタシムル也。帶スル事ナシ。

將軍家例。

寛正四年十一月二日。慈照院義政准后等持寺八講ノ時。永繼冷泉左衞門佐朝臣平緒ノ御劒ヲ持ヨシ見エタリ。

諸家。

貞和二年十一月九日。中園相國公賢風雅集竟宴ノ日。院參ノ時。革緒ノ劒ヲ車ノ内ニ入。下車ノ後前駈上首ニモタシムルヨシ日記ニ見エタリ。其樣。常ノ蒔繪野劒ニ革緒ヲ付テ。柄ニ毛拔形ノアルモノナリ。則毛拔形ノ劒ト號ス。或革緒ノ劒トモ號スル也。

平緒。

紫緂。劒裝束紫革。

諸節會行幸。拜賀。大甞會之御禊。任大臣ノ大饗。春日祭。御賀等之日是ヲ用ユ。又若年ノ人ハ尋常ニ是ヲ用ユ。繡孔雀。尾長鳥。桐。竹。鳳凰。唐草。四季ノ花。黃鳥。鶴。松。千鳥ナド也。強テ定事ナシ。紫ニ青緂相交平緒ハ春用ユト見エタリ。

蘇芳緂。

此平緒。執柄ノ外他人用ザル由。寛治六年八月九日ノ記ニ見エタリ。

青緂。劒裝束藍革。

或棟緂ト號ス。四五月ノ比最勝講ナドニ是ヲ用ユ。藥玉。卯花。盧橘。瞿麥。燕。孔雀。唐草ナドヲ縫ト見侍ル。

紺地。劒裝束藍革。

讓位。節會。行幸。御幸。拜賀已下。凡尋常用ル平緒也。又小忌之舞人。甲ヲ着ル次將紺地ヲ用ル也。古人多ハ祝ノモノヲ縫。又唐花。千

鳥。松。梅。雉。鶴ナド縫也。昔ハ紺地ニ蘆手ヲ縫タル平緒。御堂關白以來攝關家ニ傳テアリシト也。

將軍家拜賀ニ此平緒ノ例。

建武元年十一月十九日等持院將軍參議ノ拜賀ニ此平緒ヲ用ラル。

應永十四年七月十九日勝定院將軍大將拜賀時。紺地ヲ用ヒラレシ也。

攝家。

寛治八年四月十四日賀茂詣ニ京極關白(師實)此平緒ヲ用ユ。同日。宇治關白(賴通)同紺地ヲ用ヒラル。

承元四年十月廿五日讓位ニ光明峯寺(道家)大納言ノ大將ニテ紺地ノ唐草ノ平緒ヲ用ヒシ也。

萠木地。(劔ノ裝束藍革。)

春是ヲ用ユ。紅梅白梅ナドヲ縫ト見エタリ。

安元二年三月四日御賀ノ時ノ舞人中ニ。萠木ノ平緒ヲ用ユルヨシ見エタリ。

紅梅地。(劔裝束紫革。)

多ハ賭弓。臨時客。此平緒也。又染裝束ノ時是ヲ用ユ。繡ニハ遠山。小松。白梅ナドナリ。又火色ノ下襲ヲ着ル人。此平緒ヲ用ユト見エタリ。

嘉保二年臨時客ノ日。後二條關白(師通)火色下襲ニ紅梅平緒ヲ用ラル。

櫨緂。(劔裝束藍革。或櫨革。)

九十月是ヲ用ユ。又御禊大將代ヲ勤ル時用ユ。繡ハ菊。龍膽。紅葉ナドト見エタリ。具平親王ノ平緒。櫨緂ニ菊ノ枯野ヲ縫トシルセリ。

帶。

有文巡方帶。(或隱文ト稱ス。)

節會。行幸。行啓。列見。定考以下公事。又無止事佛事。拜賀。賀茂詣。御賀等ニ高位人是ヲ用ユ。文ノ事。鬼形。獅子形。唐花。唐草ナド也。

眞實ノ玉ハ火ニモ不レ燒トイヘリ。凡裝束ノ具足ノ中ニ劔笏帶ニハ名物共アリト見エタリ。

將軍家拜賀此帶ノ例。

建武元年十一月十九日等持院將軍參議拜賀ニ有文巡方ヲ用ラル。

康暦元年七月廿五日鹿苑院准后大將拜賀ニ有文巡方ヲ用ラル。

長祿三年十二月十五日慈照院准后左大臣拜賀ニ此帶ヲ用ヒラレシナリ。

攝家。

仁平元年八月十日宇治左府春日詣ニ獅子形ノ帶ヲ用ユ。又光明峯寺承久三年四月攝政。安貞二年十二月關白。各拜賀ノ日同帶也。

無文巡方帶。

天子帛ノ御衣ヲ召時。此帶ヲ用ヒ給。凡人ハ是ヲ不レ用ヨシ。後（兼良）成恩寺記アリ。

有文丸鞆帶。

有文巡方ト通用ノ物也。仍着用ノ例巡方ニ同ジ。但節會行幸ニアラザル日便アリト見エタリ。

無文丸鞆帶。

尋常着用ノ物也。春日詣ノ御前。布袴ノ時丸鞆ヲ用ヒ。束帶ノ時ハ巡方ヲ用ルヨシ見エタリ。又蒔繪ノ劔ヲ帶スルニハ此帶ヲ用ユト見エタリ。巡方丸鞆共ニ玉ノ帶ノ事也。彈正式白。白玉帶ハ三位已上幷四位ノ參議マデ用ルヨシ見エタリ。

馬腦帶。

舞人幷小忌ヲ着ル人ナド着用ス。又四位ノ人尋常是ヲ用ルヨシ。土御門大納言（通方）ノ抄ニ見エタリ。但彈正式ニ馬腦ハ五位已上通用ストアリ。又應德三年正月朔日。左大弁匡房（于時從三位。）馬腦ノ帶ヲ用ユ。保元三年内宴ノ日。關

白法性寺。赤色ノ袍ニ馬腦ノ帶ヲ用ユ。安元元年四月。侍從良通・馬腦ノ帶ヲ用ヒシ也。

金青玉帶。

承曆二年七月廿八日。相撲ノ召合ノ時。殿上人巡方帶ヲ用ユ。然ニ長忠金青玉帶ヲ用ユ。不レ可レ然由日記ニ見エタリ。安貞三年正月廿七日。峯關白法性寺寶藏ヲ開テ。帶ノ箱三合ヲ取出ス。此中ニ金青玉ノ帶二腰アリ。

瑠璃玉帶。

治承四年御卽位日。主上可レ召ニ御帶一。兼日院ヨリ獻ゼラル、有文ノ瑠璃ノチイサキ御帶ノヨシ信範記ニ見エタリ。

犀角巡方帶。

節會。行幸以下。四位五位是ヲ用ユ。又弁官拜賀等ニ用ル也。

犀角丸鞆帶。

用事犀角巡方ノ帶ニ同ジ。但五位尋常是ヲ着用ス。彈正式。班犀ハ五位已上通用ノ由見タリ。

白石帶。

大外記是ヲ用ユナリ。彈正式。紀伊國石ノ帶ノ白クカヾヤケルハ。六位已下不レ可レ用ヨシ見エタリ。

烏犀帶。

尋常六位是ヲ用ル。彈正式ニ六位已下ノ帶ノヨシ見エタリ。

魚袋。

異朝ノ儀。古ハ算袋。魏文帝易テ龜袋トス。唐高祖始テ魚袋ヲ諸臣ニ給フ。當朝ノ儀。延喜式ニ參議以上及紫ヲ着ル諸王ノ五位已上金魚袋ノヨシ。自餘ノ四位五位銀魚袋ノヨシ見エタリ。節會。大甞會。御禊。內宴。臨時祭使。二宮大饗ナドニ是ヲ着。又御禊ノ時。四位五位トイヘドモ國司ヲ兼ル人ナラビニ外記史

ハ着ザルヨシ見エタリ。

履。

〔草イ〕挿鞋。

天子尋常ニメス。幼主ノ時ハ糸鞋ヲ用給フ也。

靴。

朝賀。小朝拜。節會。内宴等ニ天子モ召。臣下ハ此外卽位。行幸。行啓。列見。定考。駒牽。讓位。立后。立太子。任大臣。釋奠等ニモ是ヲ用ユ。

半靴。

直衣。衣冠。布衣ニテ騎馬ノ時モチユ。行幸御幸ナドニ束帶ニテモ用ユ。凡騎馬ノ時ノ履、ナリ。

淺履。

尋常公卿以下悉ク是ヲ用ユ。禁色ヲ聽タル人ハ。履敷ニ表袴ノ織物ヲ用ユ。非色ノ人ハ平絹也。又文ヲ押ス。大臣大將文ヲ不レ押。惣而執柄家ニハ文ヲ押ザルヨシ見エタリ。

深沓。

外記廳ノ政ニ公卿是ヲ用ユ。尋常ニモ甚雨深雪ノ時着用スル也。

鼻切沓。

或ハ雁鼻ト稱ス。臨時祭。諸社ノ行幸。公卿以下是ヲ用ユ。舞人試樂ノ日モチユ。昔ハ四位五位ノ上官計是ヲ用ユル由見エタリ。或說。雁鼻ハ又替リタルヨシ記セリ。

藁深沓。

雪見ノ御幸。上皇着御ノヨシ見エタリ。

〔革沓イ〕草履。

御齋會行香ノ間。王卿着用ノヨシ見エタリ。

糸鞋。

舞人及諸衞ノ六位是ヲ着用ス。殿上ノ舞人ノ時。風流ノ糸鞋見タリ。主上太子幼時召ナ

リ。將軍家伊勢參宮ニ被ㇾ用ㇾ之ハ又別之事也。

麻鞋。

手振走孺ノ着用スルヨシ見エタリ。

毛履。

撿非違使以下。便ニ隨テ着用ス。

衞府具足。

卷纓。

卷纓ハ大將以下五位已上。弓箭ヲ帶スル輩是ヲ用ユ。但卷纓ト云ト柏夾ト云ト有ニ差別一。柏夾ノ時。纓ノ卷樣。末外ニアリ。輪穴ハ內ニアリ。柏夾ノ木ニ差別アルナリ。

細纓。

武官ノ輩六位已下是ヲ用ユ。六位藏人是ヲ用ルモ武官ノ故也。

老懸。

武官ノ人。卷纓ニ是ヲ用ユ。但六位ハ細纓ニ用ル也。其品厚薄ノ替リアリ。古ハ薄ク近代ハ厚キヲ用ユル也。緒ハ紫或ハ紺ノ糸ナド。時ニヨリ人ニヨリテ替ルベシ。納言ノ大將ハ行幸等ニ弓箭ヲ帶。仍纓ヲ卷テ老懸ヲ用ユ。大臣ノ大將ニイタリテハ弓箭ヲ不ㇾ帶。隨身ニ令ㇾ持ㇾ之。仍老懸ヲ不ㇾ懸ナリ。然ニ鹿苑院准后ハ。永德二年ノ行幸ニ左大臣ノ右大將トシテ纓ヲ卷。老懸ヲカケ。弓箭ヲ帶セラル。但コレハ別勅ノヨシ見エタリ。後例タルベカラザルヨシ。成恩寺關白〔經嗣〕シルサル。凡大臣ノ大將弓箭ヲ帶スルコト〔ナシイ〕ハ。雷鳴陣ノ外先例ナキヨシ見エハベルモノナリ。

袍。

位襖〔袍イ〕トテ。武官ノ輩ハ闕腋ヲ用ヒ侍ル也。事ニヨリ攝關大臣ナドモ闕腋ヲ用ヒ侍レドモ。尋常弓箭ヲ帶スル輩ニ限リテ。闕腋ヲ着用シ侍ル事也。

弓。

蒔繪或ハ摺貝。彌ハ銀ノ彫物。或塗物。其文ハ蒔繪ニ隨ヒテ書。取柄上下ノ卷ハ赤或ハ紫。紺糸等也。樺ハ若年ノ人。〔紅イ〕紺梅ノ檀紙并薄様ヲ以テ是ヲ卷。宿老ノ人ハ白キ檀紙ヲ用ユ。但建暦元御禊ノ日。少將爲家靑キ薄様ヲ以テ卷。後日及ニ沙汰一也。後鳥羽院ノ仰曰。年齡ノ沙汰非ニ正儀一。何モ白樺ヲ以テ可レ卷云々。建暦ノ度。中將資平眞樺ヲ以テ卷レ之。其色紅梅ノ色ナリ。

箙。

公卿蒔繪。或螺鈿。非參議ノ次將。木地螺鈿。或ハ木地蒔繪ヲ用ユト見エタリ。裝束藍革。錦革。多ハ紫革ナリ。平胡籙。木地螺鈿ハ行幸ノ日每ニ用レ之。蒔繪ハ例幣行幸ニ用レ之。螺鈿ノ劔ヲ帶スル時モ妨不レ可レ有也。蒔繪螺鈿ハ兩方ヘ通用ノ物也。壺胡籙。讓位節會等ノ警固ノ時。衞府ノ公卿以下帶レ之。但大將ハ壺ヲ負ザル由見エタリ。

久安五年十月朔日日吉ノ行幸ニ。三位中將兼良平胡籙ヲ帶ス。紫檀地ノ螺鈿ノ箙也。

壽永二年二月廿一日朝覲行幸ニ。大將良通。平胡籙。中將良經。平胡籙。

嘉禎四年三月廿八日。春日御幸ニ左大將圓明寺實經。平胡籙。沈地。蠻繪。螺鈿。紫革。後緒蘇芳緂丸緒。羽面星丸。裏妻黑。共高名ノ物也。弓蒔繪。丸緒ヲ引ト云々。

箭。

篦。

黑漆也。上差ハ水精ノ鏑ナリ。平胡籙ニハ落矢マデ廿一筋。壺胡籙ニハ六七筋歟。慥無ニ所見一。

筈。

水精ナリ。

羽。

大將以下次將切生。或抄曰。鷲羽ヲ以テハタ〔グイ〕
紅梅ノ檀紙。若ハ白キ紙ニテ卷レ之。

樺。
眞樺。或白キ檀紙。色紙等ナリ。壯年ノ人ハ紅梅。或薄様。其品弓ノ樺ニ同ジ。

矢尻。
金銅。上差加利末多。

間塞薄様。
尋常妻紅ヲ用。大理ハ白色ノ紙。若ハ檀紙ヲ用ユト見エタリ。

表帶。丸緒トモ云。
公卿蘇芳緂。次將蘇芳青ヲ相交也。春ハ紅梅地。青文。夏ハ青地。紫文。秋ハ黄地。青文。好事人如レ此用レ之。但常ハ蘇芳青相交緂也。水精或ハ瑠璃ノ露アリ。宿老ノ人ハ露ナシト見エタリ。遠所行幸ノ時。上達部次將野劔ヲ帶スル時。表帶ヲ引。五位次將ハ是ヲ結。舊記ニ表帶ヲ結トモ引トモアリ。同事ト見エタリ。
右劔。平緒。玉帶。弓箭。沓以下着用先例品品是アリ。事繁ニヨリテ畧シテ記侍ラザル也。

布袴。
常ノ袍ニ指貫ヲ着テ。下襲劔笏等ヲ用ルヲ布袴ト云。攝政直廬ニテ叙位除目等以下ノ公事ヲ行フ時着二用之一。或ハ大臣等拜賀トシテ來入ノ時用レ之。此外四方拜。神社參詣。執聟ナドノ公事ニアラズシテ無二止事一時皆例アリ。又攝政關白ナドノ前駈魏々タル時用ユ。或春日詣ノ御前ノ辨少納言等着用スル也。將軍家ニモ用ラレ侍ル也。
嘉慶二年正月十六日久我相國具通。右大臣ノ拜賀トシテ鹿苑院准后ノ亭ニ參。准后布袴ヲ着用セラレシ也。

衣冠。

常ノ袍ニ指貫ヲ着スルヲ云。公事ニアラズシテ尋常參內ノ時用ユ。或ハ春日詣。競馬。修正。御幸。院ノ尊勝陀羅尼ナドノ時ニハ劔笏ヲ用ユルナリ。晴ノ時ハ衣單出衣等モ重ル事アリ。

將軍家ノ例。

文和三年二月廿四日。等持院將軍參內ニ。衣冠。浮織物ノ指貫ヲ用ラル。

延文二年七月廿九日寶篋院將軍義詮參內ノ時。衣冠ヲ着用セラル。

康曆元年四月廿八日鹿苑院准后。于時右大將ニテ參內ノ時。衣冠ニ下絬ヲ被レ用也。

同社參之例。

至德二年八月廿九日鹿苑院准后春日社參詣ノ時。衣冠ニ下絬ヲモチヒラル。

寶德四年三月九日慈照院准后春日社ニ參詣ノ時。衣冠ニ下絬ヲ用ラレシ也。

攝家之例。

嘉禎三年四月十日御室開田准后入室ノ時。普光園院。于時右大臣。衣冠。白衣。白キ生ノ單。薄色ノ生ノ奴袴ヲ被レ用。圓明寺。(圓イ)實經于時左大臣。薄靑ノ衣。白キ生ノ單。半色ノ浮織物ノ奴袴。紅ノ下袴ヲ用ユ。

應永二年九月十七日鹿苑院准后大講堂供養ニ登山之時。福照院關白。于時大納言。衣冠蔥木ノ唐織物ノ指貫。腹白ノ絬。紅打ノ衣。生ノ單。紅ノ下袴等ヲ用ラル。

直衣。

春冬。表。白志々羅綾文。浮線蝶ノ丸。少年人ハ丸ノ勢小クシテ繁居レ之。長大ニ及ニ隨テ次第ニ勢分ヲ大ニナシテ遠ク居ル也。裏。弱年ノ人ハ紫。成長ノ時次第ニ薄クナシ。或薄縹ニモスル也。猶又年老テハ大畧白キゴトクニナス也。後ニハ一向白キ也。極テ宿老ノ

人ハ。表モ平絹ヲ用ユ。宿徳ノ直衣是也。童躰ノ人ハ。表白浮織物。繁文。裏紫ナリ。夏秋ハ裏ナシ。薄物。文三重多須支。或ハ弱年ノ人ハ二藍。次第ニ濃花田ヨリ薄花田。後ハ大略白キガゴトシ。袖ノ端捻レ之。文ハ弱年宿老共ニ以テ繁文三重多須支ナリ。童躰之人モ薄物。但文ハ小葵ナリ。色ハ二藍也。土御門大納言抄曰。直衣ハ禁色ヲ聴人夏大文ノ薄物。冬浮線綾。然ラザル人ハ夏ハ穀。冬ハ志々羅ノ綾ト云々。西宮抄ニ王者以下雜袍ヲユリシ人。直衣ヲ着用ストイヘリ。

直衣文。

天子。冬小葵。裏櫻重。夏單直衣。文以下臣下ノゴトシ。又御引直衣トテ尋常ニ召レ之。臣下ニ替レル直衣ナリ。是モ昔ハ御下直衣トイヘリ。近代御引直衣ト稱ス。僻事ノヨシ見エタリ。

冠。

此直衣ニ冠ヲ用ユルヲ冠直衣ト稱ス。强テ名目ニアラザレドモ。烏帽子直衣ニ對シテ稱スル也。冠ノ品（圖イ）右ニ見エタリ。

烏帽子。

此直衣ニ立烏帽子ヲ着用スルナリ。假令冠直衣ヲ着シテ内ニ參。直ニ院參ノ時烏帽子ヲアラタメ着ルヨシ諸記ニ見エタリ。仙洞ハ右眉。攝家ハ小諸眉。諸家十六以前諸眉。以後左眉也。壯年立烏帽子。老者折烏帽子。攝家ナドハ折ザル事ト見エタリ。然ニ近代宿老ノ後是ヲ折ナリ。諸家ハ十六ヨリ是ヲ折。清花大臣家ナドハ折ベカラザル事也。但鷹狩或ハ蹴鞠。馬上ナドノ時ハ折烏帽子タルベシ。又社人如木ノ雜色等立烏帽子ナリ。サレドモ是ハ柳佐比ト稱シテ各別ノ物也。又社人如木退紅等ハ暫時モ風折ヲ用ザル事ナ

リ。凡烏帽子ヲ細〔ニイ〕烏帽子。引立烏帽子。平禮ナドノ替リアルト見エ侍レド。近代ハ着用スル人ヲ〔イ无〕見エ侍ラザル也。

天子直衣着御例。

建久二年十一月廿日五節參入。主上御裝束ヲメス。小葵ノ綾御直衣。同文ノ白キ御衣ニ領同單衣。紅打ノ御衣。濃紫ノ霰地ニ窠ノ文ノ御指貫。腹白ノ御衵。紅ノ御下袴。白御檜扇等ト云々。

承久二年十一月十五日五節參入。主上御裝束小葵ノ御直衣。裏薄色。紅打ノ出衣。綿チ不レ入。半色ノ浮文ノ織物ノ指貫窠ノ文。腹白ノ衵等着御。

太上天皇。

天養元年十月廿八日重仁親王着袴ノ時。上皇冠直衣。薄色ノ織物ノ指貫。紅打ノ衣ヲ出サルト云々。

貞和四年十二月十七日上皇新院ニ御幸。御直衣。出衣。二重織物ノ紫ノ御指貫。腹白之御衵。

將軍家。

建久元年十二月二日右大將頼朝。四十四歲。建久三七十二除目征夷大將軍。直衣始ノ參內ノ日。直衣ニ藤丸ヲ固織物奴袴。薄色ノ紅梅ノ衣ヲ出ス。

嘉禎三年十月。前大納言頼經。號ニ七條將軍一。廿一歲。參內ノ日直衣ヲ着用。

貞治六年三月廿九日寶篋院將軍義詮。于時大納言。卅八歲。中殿ノ御會ニ直衣。薄色ノ固文織物ノ指貫。紅打ノ衣ヲ出ス。

康曆二年正月廿日。鹿苑院將軍直衣始ニ二藍ノ直衣。紫ノ織物ノ指貫。文藤ノ丸。紅ノ下袴。腹白ノ衵。紅打ノ衣等ヲ用ラル。

寬正五年十二月五日慈照院准后義政。于時左大臣准后。三十歲。新院ノ御幸ニ直衣如レ常。指貫花田織色。文雲立涌。被レ用。

童躰ノ例。

應永元年十二月十七日勝定院義持。元服以前ニ直衣。紫浮織物。文小葵。衵。綾蘇芳。文桐。唐草。單。綾濃色。文小葵。指貫。紫二重織物。地文龜甲ニ白浮線蝶之丸。紝腹白。下袴紅扇横目檜椿。等ヲ用ラル。

宿德之例。

文明十二年正月十日准后義政于時左大臣。四十八歲。年始ノ參內ニ直衣。如ㇾ常。指貫。白綾。襪。平絹ヲ用ヒラレ侍ル也。

攝家。

寬治七年閏三月十日知足院關白忠實。于時中納言。十七歲。左大將ノ後始テ直衣ヲ着テ院ニ參ル。紅打ノ出衣。紫ノ浮織物ノ指貫ヲ用ラル。

元永二年二月十四日法性寺攝政忠通。于時内大臣。二十三歲。大將ノ後始テ直衣ヲ着テ參內。紅打ノ出衣。紫ノ浮文ノ指貫ヲ着用ス。

宿德ノ例ニ

文明十二年四月廿六日大染金剛院持通。于時前關白。六十五歲。慈照院准后參內ノ日。生ノ白平絹ノ直衣。同色ノ指貫ヲ着用ス。

襴ナキ直衣。

久安三年九月十二日法皇天王寺詣ニ宇治左府仰ニヨリ襴ナキ直衣ヲ着ル。薄色。裏濃ト云々。

香ノ直衣。

保延三年三月三日知足院前關白トシテ平等院一切經會ニ。香ノ直衣ヲ用ヒラレシ也。

直衣ノ布袴。

直衣ニ下襲。指貫。劔。笏等ヲ用ユルヲ直衣ノ布袴ト云也。布袴ヨリハ邂逅ノ事ト見エ侍ル。保延六年九月廿九日大外記師元抄ニ。知足院殿仰ニ云。御堂宇治京極ノ大殿ニ。昇進并内辨官奏除目執事等〔筆脫〕ニ至ルマデ。一トシテ替ル事ナク蹤ヲ追侍レド。直衣布袴ト云

裝束ヲ着セザリシ也。サレドモ。シカルトキノ裝束ハ。其事ニ逢ザルニハ不ㇾ及ㇾ力云々。

將軍家直衣ノ布袴ノ例。

應永廿七年二月九日嵯峨ノ寶幢寺供養ニ。勝定院將軍紅梅之直衣。下襲。指貫。蒔繪劍。紫地ノ平緒等ヲ被ㇾ用也。此時蒔繪ノ劍如何之由後成恩寺注ス。サレドモ治安二年五月關白ノ競馬。下官布袴ニ細劍ヲ用ル由。小野宮ノ記ニ見エタリ。又仁平三年十一月廿六日宇治左府ノ春日詣ニ御前上官少納言藤原敎宗。布袴ニ細劍ヲモチユルヨシ見エタリ。カタ〴〵巨難有ベカラザルカ。但後成恩寺ノ難ゼラレシゴトク。月輪後京極以來。攝家蒔繪ノ野劍ヲモチヒ來リ侍ルナリ。

攝家。

永祚元年四月八日法興院攝(兼家)政競馬ニ直衣布袴ヲモチユ。

正暦年中ニ御堂關白曲水宴ノトキ。紅梅ノ直衣。火色ノ下襲。紫ノ織物ノ指貫ヲ着ス。(以下三行イ无)凡直衣布袴ハ。其日第一ノ公卿ノ取意也。下﨟トシテハ斟酌アルベキヨシ家ノ記ニ見エタリ。

組懸。

本儀紙捻也。紫ノ組懸ハ後鳥羽院蹴鞠御好ユヘ建久年中ヨリ始テ出來タル事也。サレド建久以來モ蹴鞠ノ時ナラデハモチヒザル事ニテ侍ルヲ。近代ハヨノツ子用ル事ニナレリ。然ニ今モ公事ニハ必紙捻ヲ用ヒラルル也。上古ハ蹴鞠ノ時モ紙捻或ハ琵琶箏ノ緒ナドヲ假初ノヤウニモチヒ侍リシ事也。

衣。

衣ノ事。或ハ袙トモコレヲ稱ス。但三條(轉法輪)家ニハ。束帶ノ下ニカサヌルハ綛着トテ袙トス。直衣幷狩衣ノ下ニ用ルハ莫大長シ。

是ヲ衣ト稱スト見タリ。直衣ノ下ノ衣ハ夏冬大略差異ナシ。色ハ薄色。萠木。紅。黄。蘇芳。紫。紅梅。此等少年ノ人用ユ。白色ハ長年ノ人用。皆綾也。中年已後白キ衣ニ志々良綾ヲ用ル也。文ノ事ハ小菱。窖形。浮線蝶ノ丸ナド也。若年ノ人ハ繁文。老年ノ人ハ遠文也。裏イヅレモ平絹也。但此等ハ尋常ノ時用ユル分也。晴ノ時ハ浮織物。唐織物。時ニ隨テ色々ノ衣ヲ出衣ニ用ユト見タリ。

單。

直衣ノ時。此單ヲモ重ル也。其品。右ニ記侍ル也。

奴袴。

四位五位ハ平絹ナリ。色淺黄。公卿以上綾ノ織物ナリ。是若年人用レ之。綾ハ中年以後是ヲ用ユ。禁色ノ人。十五歳以前濃紫ノ浮織物。文付。龜甲。裏同ジク紫ノ平絹也。是ハ春冬ノ事也。夏ハ生ノ浮織物。色又同ジ。經緯トモニ染テ是ヲ織也。裏生ノ平絹。色又同ジ。十五歳以後ハ鳥多須岐ノ浮織物也。色紫。裏同前。夏ハ生ノ織物。文幷ニ裏同前。或ハ若年ノ人薄物ノ大文ノ三重襷。瑠璃ノ指貫ヲモチユ。又薄色ノ鳥多須岐。或ハ藤ノ丸ノ織物用レ之。浮織物。固織物。年齢幷ニ官位ニヨリテ是ヲ用ル也。中年以後薄色ノ綾。文藤ノ丸。色ノ淺深。年齢次第ニウスクナル也。中年以後老者ハ淺黄也。至極老人ハ白色ノ練ノ奴袴也。差貫ノイロ年齢ニヨル事。十五歳。(中納言大將ノ時。薄色固織物。)十七歳。(大納言。薄色固織物。)十八歳。(綾同文。同官薄色。)二十八歳。(左大臣。綾淺黄。)三十七歳。(關白直衣始。薄色固織物。)以上光明峯寺殿下ノ着用ノ次第如レ此。凡是ヲモツテナゾラヘシルベキ儀歟。但時ニヨリテ又故實有ベシ。極テノ晴ニハ老人モ紫ノ指貫ヲ着用スル事侍ルナリ。

差貫之文。
天子。
霰地ニ窠文。或雲立涌。凡主上差貫ヲ召事ハ。五節參入幷殿上淵醉ノ夜差貫ヲ召ス。是ハ侍臣ニ相交テ御覽ノ由也。仍晝ノ御座ノ御劔ヲ召具セザル事也。又蹴鞠ノ時内ニ着御アリ。後鳥羽院蹴鞠御好ノ故ニ。此御代ヨリ〔以下无イ〕ノ事也。古ハ蹴鞠ノ時モ小口袴ヲ召トミエタリ。
仙洞。
八葉之菊。或ハ鳥多須岐。藤丸。雲立涌也。花園院二十四歲ノ御時。始テ藤丸ヲ着御ノ由見タリ。
將軍家。
鳥多須岐。或ハ藤丸。雲立涌ナリ。但年齡官位ニヨリテ被レ用侍ル事也。
攝家。
鳥多須支。藤丸。雲立涌也。雲立涌ハ攝關ノ後ニ着用スト見エタリ。
紫苑色之指貫。
九月九日以後。晦日以前。紫苑色ノ指貫ヲ着ス。或說ニ必九日ヲ待ズ。可レ然晴ノ時是ヲ用ユト云々。
瑠璃之指貫。
極熱ノ比着用ス。然ニ冬ニ至トイヘドモ是ヲ着ル。故實ヲ知ザルニ似タリト云々。一說ニ五月以後着用セザルヨシシルセリ。然ニ六七月故人多着用ス。
下袴。
腹白ヲ用ユル程ノ刷之日是ヲ用ユ。腹白ノ絬ノ時ハ必是ヲ用ユルナリ。是モ昔ハ綾也。近代ハ平絹。十五以前ノ人濃蘇芳。十六以後ノ人紅。長大ノ後白色也。裏ハ表ニ同ジ。文强チ定事ナシ。近代平絹ヲ用ユル故ニ。文ノ沙

汰ニ及ビ侍ラザルナリ。

奴袴之結。

紫ノ指貫ヲ用ユル人。腹白ヲ結ル。腹白ト稱スルハ白組紫組二筋ヲ奴袴ノ結差所ヘ入テ長クアマシ。引出シテ封結ノゴトク組タル也。薄色ノ奴袴ニハ腹白ヲ用ヒザル事也。結ハ一筋引出シテ是ヲ結。或又籠ル也。中年以後ハ一向是ヲ籠ル事也。但中年以後モ晴ノ時ハ猶紫ノ指貫ニ腹白ヲ用ユルト見エタリ。又腹白ノ年齢過ル人ハ。指貫ト同色ノ組ヲ用ヒテ腹白ノ如クサグル例モアリ。淺黃ノ指貫ニハ白キ組ヲ用ユト見エ侍ル。腹白ノ組ハ二筋ニテサガリ四ツアリ。餘ノ組ハ一筋ニテサガリ二ツアリ。腹白ノサガリハ長ク。餘ノサガリハ短ク侍ル也。

帷。

直衣ノ時ノ帷ハ聊束帶ノ時ニハ替リタルヨシ見エタリ。然ドモ近代其差別沙汰スル人侍ラザル也。

笏。

直衣ヲ着用スル時。事ニヨリテ持レ之也。笏品。右ニ記シ侍也。

扇。

直衣ノ時尋常持レ之事同ジ。右ニ注シ侍ル也。

小直衣。或狩衣直衣。

攝家ハ丞相已後。凡家ハ幕下ノノチ着レ之。文色等ハ大略。狩衣。尋常着用スルハ浮文ノ織モノ。夏ハ生。冬ハ練也。堅文織物幷練ノ薄物。夏冬通用。浮文ハ繁。堅文ハ遠也。但依二年齢一可二相計一也。風流小直衣ハ無二法令一。且可レ依二先規一也。裏ハ平絹練生任レ心。色ハ可レ隨二面色一。袖結ハウスヒラ。蘇芳緂。紫匂以下也。宿老淺黃。濃薄打交。又堅固。細々長絹。小直衣ニハ白糸ヲヨリテ一筋ナラベテ結トス。無二定法一。

〔イ〕尤略儀ニテ侍也。〔无〕但狩衣指貫ニ下括ハ常ノ事也。小直衣ニ下括スル事ハ先規未ダ勘ズ。出衣單等重ル事ハ久安四年三月宇治左府高野詣記ニ見タリ。〔エイ〕攝家於私亭内々人ニ對面ノ時ニ直衣前張ヲ着スルナリ。猶褻ノ時。生平絹ノ袴ヲ着ス。夏冬同ジ。練緯薄物トハ。竪ハ生。緯ハ練。織ヤウハ縠ノゴトクモヂリテ織也。

水干。

紗ニテモ平絹生ニテモ。又色ハ白ヲモ〔テイ〕何色ニテモ。大納言時マデ内々着用之。又陽明ノ家ニハ。大臣又前途ノ後モ如長絹直垂被着用之。尤不審也。

布衣。

狩衣者色不定。若年ノ時ハ紅梅。萠木ノ浮文織物。盛年ハ竪織物ノ遠文。十五未滿時ハ袖結毛拔形。若キ人ハウスヒラノクミ。萠木。紫。

紅等ノ打交。次ハ紫匂。次ハ薄色次ハ淺木。裏ハ表色ヲ可用ナリ。白裏狩衣ノ事。或書曰。故人雖衰老猶憚之。近代嬰兒多着之。俊成入道沈淪不居顯官。叙四位及四十之後着白裏狩衣。侍從大納言成通卿參會院見之。白裏狩衣着サセタマフナトテ被流涕。是衰老失前途之由歟。以之思之。侍從少將等更ニ不可着歟。近代公衡。西園寺 兼宗。中山 忠季等。侍從少將之時不着之。平治元年春日祭。上卿下向中山内府忠親。于時中將。着縹白裏白衣白單云々。着白裏之時。帶白帶恒例也。布狩衣ハ時人ニヨリテ着之。又織襖トハ。狩衣ニ二重織物ト見エタリ。保安五年二月十日〔延イ〕兩院白河鳥羽雪見ノ御幸。

按察經實唐葡萄染襖。紅表袴。戶部忠教香織物。紫裏。紅衣。侍從中納言實隆濃香襖。黄衣。左衛門督通季青織物襖。紅衣。別當實行白唐織襖。白衣 新源中納言顯定唐蒲萄襖。唐紅衣。左兵衛督實能唐蒲萄染襖。唐

紅衣。新三位ヒハダ襖。衛府之人皆帯劔。保延五年十月廿一日新院高野行幸。御後。左衛門督通季卿布衣。蒲萄染。青打裏襖。青鈍浮文織物奴袴。皇后宮権大夫師時布衣。薄色固文綾襖。裏濃。十一月二日同還御。別當忠教。白綾狩襖。立涌雲。紅衣。木蘭地奴袴。立烏帽子云々。

直衣。同布直垂。

練ヲ用ユ。色ハ何ニテモ。今見ルニ大槩黒紅色也。ムク蘭地ト云色ノヨシ或人申侍シ。下ハ房ノナキ長絹成ベシ。紗ノ直垂ハスグレタル家々ニ着シ侍ル。大槩水干〔ニイ〕ノゴトシ。陽明ノ家ニハ精好ノ直垂ヲ紅・染御着ノヨシナリ。小刀ヲ着シ給。小刀ハ他家ニモ用事侍リ。布直垂ハ諸大夫着ス。是ヲ俗ニ大紋ト云。大キナル紋付タルニヨリテ云カ。緒ハ打紐也。前ニテムスビテ下ル。下モ上ニ同ジ。長キ袴也。素襖袴トノ替リ目。ムナ緒革ト打組〔トイ〕・ナリ。

長絹。

元服以前之ヲ用ユ。菊トヂトテ黒キ房アリ。地ハ生ニテモ紗ニテモ色ハ白〔同イ〕シ。

道服。

地ハ狩衣ノ如シ。出家着用ノ衣ノゴトシ。月形ナキ物ナリ。大臣至極ノ褻ニ用。是ニ立烏帽子ヲ着用ス。

襖袴。

近衛大槩着。狩袴ナド同類。名ノミ替テ子細ナシ。狩襖トテ。随身。舎人。牛飼等ノ着。狩袴。白染分。朽葉。紅梅。萠木。二藍等。サマ〳〵有事也。可依先規。

褐衣。

随身ノ着スル物ナリ。狩衣ノ脇ヲフサギタル物ナリ。着用事可依先規。

退紅。白丁。
是等ハ下部ノ着物也。笠持。沓持等ノ着物也。
退紅ハ能家ニ具スル也。

衣色。

梅。面白。裏蘇芳。十一月至二二月一。
莟（ツボミ）紅梅。面紅梅。裏蘇芳。
裏倍（マサリノ）紅梅。表紅梅。裏紅。
紅梅。表紅。裏紫歟。十一月至二二月一。
紅。紅梅ヨリハ色厚也。
柳。面白。裏青。自レ冬至レ春。
黄柳。
花葉色。經黄。緯山吹。大畧花山吹色。裏青打也。多三月着レ之。
櫻。面白。裏青歟。關白大臣等春着レ之。
樺櫻。表蘇芳。裏赤花。二三月用レ之。
櫻萠木。面萠木。裏赤花。
花山吹。面薄朽葉。裏黄。自レ冬至レ春。
裏山吹。表黄。裏紅。春冬多着レ之。
躑躅。面蘇芳。裏青打。三月着レ之。古記。躑躅下重。表蘇芳。裏紅打云々。又一説。面白。裏蘇芳。或裏青トモ。
藤。表薄紫。裏青。三四月着レ之。
卯花。柳同。四月着レ之。
菖蒲。面白。裏紅梅。五月用レ之。
盧橘（ハナタチバナ）。面朽葉。裏青。四五月着レ之。
瞿麥。面紅梅。裏青。五六月用レ之。

青朽葉。面青。緯黄。裏青。四五月老者多用レ之。
黄朽葉。七月至二八月一。
赤朽葉。
荻。面蘇芳。裏青。秋着レ之。
萩。經青。緯蘇芳。裏青。
女郎花。經青。緯黄。裏青。或裏不レ付レ之。七八月着レ之。
桔梗色。
槿。花田。
紫苑。面薄色。裏青。九月九日以後晦日以來着レ之。説多ナリ。
龍膽。面蘇芳。裏青。
萱草色。柑子色大畧同ジ。
黄紅葉。面黄。裏蘇芳。十月十一月着レ之。
櫨紅葉。面蘇芳。黒ミアリ。裏黄ナリ。
青紅葉。面青。裏朽葉。
蝦手紅葉。面薄青。裏黄。
若蝦手。面薄青。裏紅。又一説。裏薄紅歟。
紅葉重。黄色。山吹厚薄一重。紅厚薄一重。
白菊。面白。裏蘇芳。又號二蘇芳菊一。十月十一月用レ之。
落栗色。源氏有レ之。
若苗色。出二源氏一。
苗色。薄萠木。
篠青。同レ柳。
枯色。面白。裏薄色。
枯野。面黄。裏薄青。
雪ノ下。上白。裏紅。中部同。
海松色。黒萠木。

松重。面青。裏紫。四季通用。
青木賊。
黄木賊。
黒木賊。
今様色。濃紅梅。
蒲萄染。面蘇芳。裏花田。當時着用薄色指貫色也。又織色。經赤。緯紫。
二藍。赤色ト青花トニテ染也。夏用レ之。
苔色。面香。黒ミアリ。裏二藍。
檜皮色。面蘇芳。黒ミアリ。裏花田。
虫襖。面青黒ミアリ。裏二藍。又薄色。
濃蘇芳。四季着レ之無レ難。
薄蘇芳。
裏濃蘇芳。
蘇芳ノ香。面蘇芳。裏黄ヲサスナリ。
赤色。櫨ト茜トニテ染レ之。アクチサス。又織色。經紫。緯赤歟。
氷。面白ヤウ。裏白無文。
秘色。〔瑠璃色イ〕
瑠璃色。濃花田也。今濃浅黄ト云。
紺ノ青丹。
青丹。濃青丹ハ黄チサス。表裏同。
比金襖。面青黄。裏二藍。
鳥ノ子重。面白瑩。濃蘇芳。一説表裏白瑩平絹。更衣時上下着レ之。又老者常用。
掻練。表裏紅打。或裏張。又云。火色。自レ冬至レ春。
蒴木。濃蒴木ナリ。
香。就二老若一浅深有。

赤香。
香ノ文濃。
水色。
花田。本名浅黄也。濃花田。薄花田有レ之。
浅黄。
薄色。經紫。緯白ナリ。又染色モアリ。或二藍色薄トモ云。
濃色。經緯トモニ濃紫色。
青鈍。花田濃色也。尼ナド用色ト云。
鈍色。ウツシ花ニテ染レ之。又云。花田染也。又蘇芳ニダウサチ入テ染ト云。青花ニ黒ミヲ入ルトモ。諒闇之時直衣指貫勿論。表袴表ノ袍此色也ト云々。
橡。諒闇ノ時。殿上人已下着レ之。袍染色也。従二本官一之時不レ着レ之。必着二位袍一。
濃打。濃紫ヲ打。近代附子カ子ニテ染レ之。
薄青。經白。緯青。又染色モアリ。
濃青文濃。
白襖。
赤櫨。
魚綾。山鳩色ト云。
木蘭地。黒紅色歟。
虹色。
青色。苅安ト紫トアクチサス也。
當色。私云。諸色也。見二衣服令義解一。當色ノ如木ニアリ。
半色。經緯トモニ薄紫也。
火色。下襲ノ色ナリ。自レ冬至レ春。

聽色。紅薄色ヲ云。尼君ナドニモ、重ノ衣ニハクレナ井ヲ用ル。源氏物語玉葛ノ卷ニ見タリ。

梔御衣。クチナシノ色モ。女ニテハ尼ノ着色ナリ。同卷ニ見タリ。

這裝束抄。西三條逍遙院内大臣實隆公。撰本也。可レ謂ニ奇珍一者也。

天正五年孟夏中院。

黄〔イ光〕門郎經（花押）

右裝束抄以松岡辰方藏本一挍畢
更以古抄本一挍了

群書類從卷第百十七

裝束部六

前中納言定家卿京極

次將裝束抄

節會。

元日。　白馬。正月七日。　踏歌。同十六日。　豐明。十一月中辰日。

垂纓。闕腋袍。半臂。巡方帶。付魚袋。螺鈿細劔。靴。

隨身垂袴。舊老公卿將隨身。或着染袴。垂袴。下官用此說也。

壺。元日白馬。必着紅梅狩袴。踏歌或同之。或着例染袴。說々不同。

踏歌節會夜。一品宮入御院御所。下官着闕腋。供奉成定着縫腋。但不參節會。左大臣殿內辨。餝劔。魚袋。令參給其御供。闕腋更不可有難。

件日。若節會以前。若以後。雖隨他所役着此裝束更無難。一院拜禮。

若御幸以下。有可騎馬供奉事者。臨時斟酌。或着縫腋。蒔繪劔。丸鞆帶。供奉之後。着改參節會。又有其例。

元久二正五御幸。土御門御元服後宴。供奉人多着縫腋改參內。

同建永二正七關白家實從一位時。拜賀改之。

後朱雀長曆元正七嫄子入內。以後不改其裝束。

元久元正七攝政良經從一位拜賀。供奉人不改。

白馬節會日。若預加階之人。源中納言師仲卿用此說。尤爲證據歟。

卷纓。螺鈿野劔。不レ付二魚袋一。參內。引レ陣之後立二入閑所一。懸レ緌帶二弓箭一。平胡籙。如二行幸一。立二叙列一給二位記一拜舞畢退出。撤二弓箭緌一。垂纓參二所々拜賀一。五位將若叙二四位一者。着二五位袍一。相二具尻鞘一參內。帶二弓箭一時同入二尻鞘一。叙列畢又撤二尻鞘一。着二改四位袍一。參二所々拜賀一。

叙人若勤二馬ノ頭代一者。叙列畢同撤二弓箭緌一。而垂纓勤レ之例也。

馬頭代事。參內之後當座催レ之。當レ用二左右當座下﨟一。下﨟故障之時。又雖二上﨟一勤レ之。中將猶有レ例。着レ靴取レ梓。爲二上說一。或着二淺沓一取レ笏。次說也。

行幸。

卷纓。緌。闕腋袍。巡方帶。螺鈿野劔。五位入二弓。尻鞘一。蒔繪。平胡籙。相二具弓箭一參內。召仰訖帶レ之。若兼日有二召仰一之時。參內直帶二弓箭一。

隨身。

狩胡籙。藁脛巾。洛外行幸。藁下着二藁沓一。京中着レ履。必着二染分袴一。左蘇芳。右朽葉。雖二元三中一猶着二染分一。

遠所行幸平胡籙。曳二表帶一也。丸緒。但八幡行幸猶不レ曳レ之。南京之時曳レ之。或人云。更依二遠所一不レ曳レ之。品有二可レ曳人一歟。隆長爲二五位將一。依二五位一朝覲行幸曳レ之云々。

元三日。

縫腋袍。蒔繪細劔。平緒。丸鞆帶。

隨身。

白馬。更着二紅梅袴一。二日有二朝覲行幸一。雖レ令レ着二染分一。三日猶可レ令レ着二紅梅袴一。或有下更不レ着二紅梅一說上云々。紅梅袴。自二元日一至二十八日賭弓日一。除二行幸日一。令レ着レ之。但家々說不レ同。

女叙位院宮御申文役。

御前之儀時不レ帶レ劔。不レ把レ笏。依二殿上役一也。直廬儀之時帶劔取レ笏。

御齋會內論義。季御讀經。仁王會。灌佛。㝡勝講。

臨時御讀經等出居。

蒔繪細劔。丸鞆帶。

隨身。

染分。左。二藍。右。萠木。左右近又通用。任レ意。於二御齋會一者紅

梅袴也。同地事。

佛名出居。

殿上次將。不二帶劍一。不レ取レ笏。不レ具二隨身一地下將。帶劍取レ笏。

射禮。賭射。弓始場。

例束帶。縫腋。丸鞆。不レ持レ笏 蒔繪細劍。 相二具弓矢一。眞卷弓矢也。件弓付二鞆弓懸一。臨二刻限一挿レ矢。右腰。取レ弓。乍レ付二鞆弓懸一持レ之。弓場始。射手之時。出居舞之裝也。於二射禮賭射一者。隨身紅梅袴。若三日被レ行時。非二此限一用二例袴一也。

春日祭使參內幷社頭裝束。

垂纓。闕腋袍。巡方ノ帶。魚袋。餝劍代。紫緂平緒。隨身。蠻繪。指レ鞭。藁脛巾。左筆尻鞘。

路頭。

衣冠。若直衣刷之時出衣。藁深履 或半靴。 柏夾。蒔繪野劍。虎皮弘尻鞘。

隨身。布衣。　狩胡籙。　乘二移シ馬一。

向二出立所一人。

束帶如レ例。細劍。隨身如レ例。

臨時ノ祭使。

闕腋袍。禁色下襲。半臂。巡方。魚袋。螺鈿細劍。紫緂平緒。隨身。蠻繪。

路頭。於二朱雀院邊一改レ之。

衣冠。或出衣。半靴。蒔繪野劍。弘尻鞘。柏夾。刻限無ンバ二其程一。隨身不レ改二蠻繪一。

舞人。

卷纓青摺。赤紐。半臂。下襲。打衣。地摺袴。糸鞋。襪。

不レ乘二沛艾馬一之人。赤紐ヲ不レ融二帶表ウハ手ニ一。糸鞋ノ緒懸二袴結一結レ之。指切青摺ノ鰭。袖之鰭ヲ爲二故實ト一。乘二惡馬一之人。赤紐ヲ引二融ス表手ニ一。糸鞋緒ヲ不レ懸二袴結一結レ之。

寒氣時。打衣之下ニ重二尋常染衣二領許ヲ一着レ之。

暑氣時。猶着二打衣冬單衣ヲ一無二其難一。於二單衣一者雖レ着二何色衣一猶可レ用レ紅。又不レ重二紅單衣一之時。紅色不レ可レ着レ之歟。假令。黃。薄色。紅梅。蒴木等類衣可レ着歟。着二濃打一時必重二濃單衣一。

若重二染衣一者重二濃蘇枋一宜歟。
舞人着二他色單衣一事。故人不レ甘心一。近代多レ之。似レ不レ知二故實一。
庭坐役人。
束帶如レ例。但不レ用二馬腦帶一。
多令レ持二野劔一。不レ具二隨身一。
或持二細太刀一。平緒。具二隨身一。心々各別。是中山內府說云々。
警固。四月未日夕。
例束帶。垂纓。細劔。把レ笏。
參內。依二上卿召一參レ陣。承レ可二警固一由上之後。卷纓。緌。豫相具負レ壺籙。取レ弓。至二解陣日一。不レ論二束帶宿衣時一。必可レ着二夏直衣一。帶二弓箭壺。劔。緌。出二行他所一之時。猶卷纓相二具弓箭緌等一。緌壺イタツキニ結付也。勤二仕陪膳一之人。暫撤二物具一。如レ元。卷纓。緌。勤畢又着レ之。役送人置二弓計一也。不レ撤二劔弓箭一。直衣警固之時。劔緒。胡籙緒皆ハコヱノ下ヨリ結レ之也。

賀茂祭使。
多着二加伊禰利加佐禰一。被レ聽二禁色一之人非二此限一。又着二例ニ藍半臂下襲一恒事也。
垂纓。巡方。魚袋。餝劔代。紫緂平緒。赤色扇。或帶二平胡籙一持レ弓。說々不レ同。隨身蠻繪。指レ鞭。
向二出立所一人。六衞府。卷纓。細太刀。平緒。相二具物具等一。取レ笏。隨身如レ例。
還立日使。
如二昨日一。但着二靑朽葉半臂下襲一。
解陣日。
帶二弓箭一。承二上卿命一還出。撤二緌弓箭一垂纓。
馬埸騎射。左近。五月三日荒手結。五日眞手結。右近。四日荒手結。六日眞手結。
束帶如レ例。細劔。丸鞆帶。笏。隨身。壺。垂袴。
府步射同レ之。被レ行二賭射一之時有二此事一。
放生會。
偏如二行幸儀一。
駒牽。
裝束如レ例。細太刀。把レ笏。具二隨身一。
法勝寺大乘會。凡准二御齋會法會一。

帶劔。五卷日雖レ取ニ捧物一。猶帶劔持レ笏。取レ笏。隨身如レ例。

其外佛事所必撤ニ劔笏一耳。

五節之間。

丑日。參入。直衣。古人不レ刷。寅日。殿上淵醉。直衣。楚々出衣。隨身。布衣。帶劔。同夜束帶。打梨。卯日如ニ昨日一。非下付ニ童女一人上。兼日催。若少年之輩者不ニ出衣一。昨日不ニ出仕一人或出衣。昨日雖レ不ニ出仕一。不レ出又無レ難。同夜有ニ中院行幸一時。

卷纓。緌。縫腋。丸鞆ノ帶。細劔。蒔繪。壺。弓。着ニ小忌一之人。袍上着ニ小忌一。小忌帶前後各押入。諸司小忌トニテ。不法ノ物也。以ニ紙捻一閉レ之。

辰日節會見レ上。

有ニ中院行幸一。着ニ小忌之裝束一。大嘗會時。三ケ夜着也。侍從猶帶劔同ニ將佐一。冠。垂纓。日蔭。有ニ心葉一。小忌袍。白布以ニ草摺之右方一付ニ赤紐一。身袖如ニ狩衣一。尻均ニ下襲一。例半臂。下襲。表袴。衵。單衣。以下皆如レ例。巡方。魚袋。螺鈿細太刀。着レ靴引レ陣也。

追儺。

縫腋。卷纓。如ニ警固時一。但夜事不レ及レ刷。負ニ隨身壺一。帶ニ野劔一用ニ蘆弓一。爲ニ故實一耳。

立坊立后任大臣節會。讓位又同。

縫腋。蒔繪細太刀。垂袴。取レ笏。相ニ具緌弓壺一。

參內之後。臨ニ刻限一。卷纓。緌。帶ニ弓箭一引レ陣。多着ニ淺沓一。或着レ靴。事畢又撤レ之。垂纓退出。出ニ向饗所一。新任大臣。若后宮。宮司等拜賀申繼之時。垂纓。取レ笏徹ニ弓箭一帶劔。申レ之。今日申繼。雖ニ先出逢時一。不レ撤ニ劔笏一。依ニ便宜一也。是近代例也。

立后若勤ニ啓將一者。同垂纓取レ笏參レ陣。蒙ニ上卿命一之後參ニ本宮一。又卷纓着ニ緌弓箭一祗候。第三日給レ祿退出。

后宮行啓啓將。一如ニ行幸一。

行幸記。供奉行啓時。解ニ弓箭一。撤レ緌供奉。若行幸可レ有ニ還御一者卷纓。爲ニ遷幸儀一者垂纓也。非ニ啓陣一次將供奉後。垂纓。縫腋。螺鈿細劔。持レ笏。着レ靴。

凡有ニ出御御拜一之時。次將取ニ御劔一。

束帶如レ例。不二帶劍一。多曳二下襲尻一。如二夜陰雨儀時一。或懸レ裾又無二其難一。

拜賀申繼。

先不二帶劍一。不レ取レ笏出逢。還昇申二其人候由一。帶劍把レ笏還出。仰二聞食由一。但近代多出逢時。猶帶劍取レ笏恒例也。但不レ可レ然。

行二幸他所一。

一兩日御逗留之時。帶二弓箭一之儀。一同二警固之間一。

御幸諸院幷親王大臣以下皆准レ之。

束帶催之時。細太刀。隨身壺如レ例。若衣冠布衣催之時。私着二束帶一供奉之日猶細太刀平緒。猶具二隨身一。無二其難一。又雖二束帶一。於二衣冠催時一者帶二野劍一。是常事也。於レ帶二野劍一者不レ可レ具二隨身一。凡細太刀平緒之時。必相二具隨身一。

着二衣冠布衣一供奉之時。

蒔繪野劍。相具參入。及二刻限一。着二半靴一之時可レ帶レ之。半靴。非二殊晴一者不レ具二隨身一。於二刷時一者相二具布衣隨身一。殊結搆之人令レ負二狩胡籙一持レ弓。尋常人帶劍計也。於二一員御幸一者一同二后宮行啓一。

布衣騎馬殊刷之時。御幸以下執柄宇治。令二供奉一。若親姓之人如二公卿勅使相伴一時。或令レ懸二調度一。尋常野矢也。但必不レ然。帶二野劍一。鹿皮。或虎皮。細尻鞘。半靴。或毛沓。有レ帶。如二靴帶一。

朝夕出仕。不レ論二束帶直衣布衣一。令レ持二蒔繪野劍一。若不レ慮隨二殿上之外役一者可レ帶レ之。束帶之時帶劍者必持レ笏。如二夜御幸一可レ取二松明一之時。依二畧儀一。雖二帶劍一。不レ持レ笏無レ難。

禁中諸院之外隨身之時必帶二野劍一。取レ笏。有二兼日催一者。細太刀平緒。相二具隨身一耳。

后宮以下無二殿上之所一隨役一時。惣帶劍把レ笏。如レ此事非二兼日催一。隨二參會一勤仕之時。帶二野劍一。無二其難一。雖レ有二殿上所諸院同宿后宮親王以下陪膳役送所レ宛等一之時上必帶劍把レ笏。近日稱二內府說一也。公繼公也。院御所中解レ劍隨レ役。保延之比。待賢門院灌佛。中將公能帶二劍笏一。彼是玄

隔也

白重事。不論職事。非職。文武官。殿上人着之。雖地下上官着之。

四月十月朔日出仕之人着之。或說。朔日雖不出仕着之云々。

及祭前日多着之。或灌佛日改之。假令隨可然事着尋常裝束日必可改歟。冬十月中旬之間斟酌可改之。雖夜有行幸者。必可着染重歟。着白重之間。雖布衣用白帶恒例也。中古向祭使出立所之人猶着白重。近代或人難之云々。

青朽葉下襲。

自最勝講之比至于七月中下旬極熱比。又甚雨時多着之無其難。宿老之人雖非極熱惣着之。隨吉事時不着。如拜賀移徙元服着袴。

指貫事。

自十月維摩會比至四月御禊前用練指貫。自四月御禊日至十月十日比生指貫。若五節着夏之衣之輩。相待其程不〔可歟〕改冬衣。但九月九日以後或說。必不待九日有可然晴時着之。晦日以前。着紫菀色指貫之人着練指貫。件差貫古人紫菀色面青裏着之。近代只以例薄色指貫稱紫菀着之。雖着紫。冬。二藍夏。人於此間練指貫者猶可用紫菀色。秋中不着此色之人。尤過十月上旬可着冬指貫歟。雖着紫菀色。於袍者猶着夏袍。極熱之比着瑠璃色指貫。近代雖屬冷氣不憚。猶似不知故實歟。

如洛外非尋常出仕之時。色々末濃村濃如唐綾。非制限。隨時着之云々。

四月十月更衣之後不着直衣。此間宿衣用位袍也。及着改指貫之時始着直衣也。

夏指貫。狩衣。薄平絓用程人。着薄物指貫。假令英華之輩不着綾羅之程。猶用薄物也。如下官無前途之輩。過壯年薄物依異樣不着之。近代無文織綾薄色指貫人多着之。古

人云。如近衞司努々不可着。老者之依無止事用生奴袴之時着用物也。近代少年時着之。冬志々羅綾。古人又惡之。近代每人着之。直衣同前。

非常警固事。

內裏燒亡。

古人云。陣中三町之內火事時。不待仰帶弓箭。但臨時可斟酌。雖遠如風狂煙掩者可用意歟。雖三町內事。尋常不及騷動者不可急歟。如此之時可守有職先達若貴人之所爲并敎訓。

山大衆參陣時。

高倉嘉應。同治承。後鳥羽建久二年。將佐帶弓箭。順德建保六年又有此事。次將多帶狩胡籙。頭中將伊時重服束帶。蒔繪劍。可謂不足言。

假令於里亭見火。若聞不慮事馳參者先必着宿衣可馳參。卒爾周章事布衣不憚。但雖近邊非內裏火。布衣人不可昇殿。猶在里亭必可着衣冠歟。若着布衣參他所之時有如此之事者。歸家可改哉。尤乍布衣可參歟。抑如此之時。束帶細太刀之類努々不可有之由。古賢誡之。若着束帶備他所禮時。又難改着歟。其事無其隱者。束帶ニテ參有何事哉。內裏之外束帶事不可勝計。

裝束。

直衣。若衣冠。帶野劍。弓。狩胡籙。冠。柏夾。或雖直衣負野矢。滋藤弓。無其難。或布衣尤可負野矢歟。但只可隨所在。シトキツバ。アヲヒツバノ太刀不可憚。

今案。

無爲本自參內祗候之時。猶於禁中有如此事者。尤召寄瀧口矢可帶。瀧口尤可存故實。次將召取弓箭之時。貫首之外イタツキヲ拔取天指腰也。爲謁貫首也。依無便也。頭中將召之

者。イタツキナガラ可レ進。瀧口雖レ不レ存。次將必拔可二返給一也。

於二里亭一見二此事一。猶可レ相二具狩胡籙一歟。柏夾木必可二用意一。

先例。管見不レ及。

後朱雀院（六十九代）御時。（大畧。）頭中將資房。烏帽子。直衣。雖二資房卿所爲一近代不レ可レ用レ之。

六條院（七十九代）御時。（四月上旬云々。）中將實守。衣冠。柏夾。狩胡籙。知二物由一人。大畧一同。或將着二例行幸裝束一。或將着二冬直衣一。人々驚レ目云々。

（高倉）安元元年五節最中陣有レ火日。出二御南殿一。（御引直衣。）內侍不レ着二裝束一。取二劒璽一在二御供一。關白殿追參入。內侍之躰見苦。近衞司可レ取二劒璽一由被レ仰云々。

同三年大極殿燒亡夜。依二火近一行二幸土御門一。夜少將雅賢。實敎。供二奉賢所一步行。或諸大夫騎レ馬渡二其前一。雅賢以レ弓打二其頰一云々。

同年衆徒參陣。次將帶二弓箭一。維盛ハコヘノウヘニ負レ矢。人感レ之云々。可レ依レ人也。

建久二年山大衆參陣。忠季朝臣。直衣帶二野劒胡籙一之間。先上括。柏夾。狩胡籙。（騷動之間於二下侍一裝レ之也。）

件日下官依二殿下御供一束帶。但相二具狩胡籙一。忠季帶レ之間。於二同所一帶レ之。柏夾木自二懷中一取出。彼朝臣見レ之。加二感言一。自餘次將見レ之。召二寄瀧口矢一。又令レ卷レ纓。共人等卷レ之。皆卷纓也。見ル人々更直レ之。又更取二寄狩胡籙一負レ之。雅行一人雖二參入一更不レ帶二物具一。垂纓不レ帶二劒一祗候。定有二所存一歟。

柏夾事。

削二白木端一。（其長如二卷纓木一。但不レ塗レ墨。以レ白可レ爲レ詮。非常警固之時如レ此。）檜扇破懸天。纓末取天。巾子引充天。巾子タケノ程夾。纓末在レ外。ワナハ在レ內。卷纓指所指也。卷纓內ザマヘ卷。是外折。玄隔不レ似也。不レ知之人多以二卷纓一爲二柏夾一。

若着二布衣一者。雖レ昇二燒亡御所一。於二臨幸御所一者不レ昇レ殿。自二庭上一可二退出一。

土御門內裏燒亡之時。師仲中將布衣云々。自餘雖レ多依二故人談一注レ之。

次將參內之時。先可レ尋二問御輿長等參否一。近可レ候二腰輿一之由先可レ加二下知一。

事及二危急一者。雖レ非二近習一不レ顧二推參一恐近二伺御前邊一。先可レ奉レ見二玉躰平安一。古老之遺訓也。安元陣中燒亡之日。頭中將。（入道內大臣。）融二二間一參二朝餉一。爲レ奉レ見二玉躰一也。人以爲レ可。

禁中之外。雖二諸院后宮一不レ帶二弓箭一。只帶二劔計一也。

燒亡之所事及二危急一者。馬引二入庭上一騎レ之。近候二御輿邊一也。諸院以下等如レ此。（不レ憚二門內一。）又云。如レ此之時。頗可レ着二尋常之服一。打梨之躰似レ不レ知二故實一云々。

文應元年五月十五日。以二右少將守資朝臣本一書寫之。以二靑侍一右筆之間。文字散々難二見解一歟。此鈔者。定家卿書二出之一授二子息一畢。

左權少將判

爲レ備二忽忘一書寫畢。

正三位判

四條隆永卿本寫之。

永正十年夏五月　右大臣判

右次將裝束抄以奈佐勝皐屋代弘賢松岡辰方藏本挍合畢。

三條家裝束抄 一號伏見院宸翰裝束抄

一冬袍はしじら地の綾文緣。家用之輪無は當家。大炊御門。中院黨。日野。勸修寺等用之。轡唐草は西園寺。德大寺。花山院。四條以下多用之。夏冬無差別。大臣以後異文袍定レル事也。當家は壯年の時雖任大臣。暫輪無用之也。宿老之後用龜甲。大龜甲遠文居之。大サ七寸計なり。八條大相國(實行)被用此文。仍而當家用之。他家異文袍。西園寺は長命唐草。大炊御門龜甲。閑院藤鞆繪。自餘只今不覺悟。追而可詩記。又異文袍は熨地なり。裏普通物なり。冬袍は裏有之。平絹なり。强張調之。色の事。四位已上は稱黑袍。フシカ子にて染之。面はフクサ張なり。夏の袍は文同上。薄物織之。無裏。色又同上。餅ノリにて强ク張之。

一下襲事。冬のは面熨シ地の綾。文浮線蝶丸。遠文に居之。調樣は粉張。如雜色之狩衣。裏同ジキ綾。文遠菱。濃蘇芳染之。大略如フシカ子染なり。裏はサヤ〳〵と强張張之。近來下襲上下別に切て用之。稱下襲ノ下トハ裾ノ事也。袍長サ大臣大將一丈也。大納言八尺。中納言六尺。參議五尺。四位五位四尺也。此は踵より餘ル程をいふ也。抑此面白粉張。裏濃蘇芳。中倍花田は躑躅の下重と號して。老弱貴賤常の時通用の物なり。但四位より以下は裏面俱平絹なり。只今所注スルは公卿以上の事也。又雖四位以下。聽禁色人公卿の定めなり。夏の下襲は薄物。文遠菱。色蘇芳。或は稱赤色。公卿常の時用之。(如夏袍也。)無裏。只單なり。如袍張之。鰭を捻なり。下襲の尻は夏冬共に二幅なり。寸法の事ノ記右ニ畢。顯職幷弱年の人。異なる晴の時。染裝束とて。半臂。下重。表袴等。色々用之。其間事。見入道左大臣(實房)

殿裝束抄。仍畧レ之。又四位已下は當時二相の色なり。二相とは。赤花青花と相交ル色なり。

一半臂事。春冬尋常の時近代不レ着レ之。定事也。如二五節ノ一可レ袒(ハダヌグ)之時必着レ之。調様。色以下委細見二裝束御抄一。仍畧レ之。夏秋着レ之。大紋薄物。大文ト云ハ。三重襷の重文の菱なり。色如レ袍。欄弁に忘緒。半臂の同物なたゝみて用レ之。如二懸帯一。又結レ腰物なり。

一單事。單文の綾。紅に染て用レ之。春冬はフクサハリ。捻ルレ鰭。夏秋は張單とて板引にする也。色春冬に同なり。是を夏は引倍木とも號する也。至極老人は白くて用レ之。

一赤帷。夏秋着レ之。紅に染たる大帷なり。強張レ之。汗取の帷と又號レ之。至極老人白クて用レ之。冬は不レ着レ之也

一袙は。文小葵。地は綾なり。紅色。面ふくさ張。裏平絹同色。極強張レ之。尋常の時着レ之。或又略レ之。冬の時計の事なり。夏不レ着レ之。老若通用なり。但近年畧レ之條常事也。染裝束の時。紅打袙なり。壯年の人萠木薄色。或は着レ之。凡束帶の袙は一領の外不レ着レ之。

一上袴。壯年の人。縮線綾と稱して白き浮織物。地は小石疊。號二之霰一也。其中に有二窠の文一。中年の人は堅織物。文藤丸。遠ク居レ之。裏紅の板引。腰に有二上指糸一。白き練(クリ)線の糸ふとくよりて指レ之。股立に有二夷懸ノ糸一。白練絲ふとき也。冬夏四季同物也。老人モ非二白裏一。紅張裏なり。板引にせず。

一赤大口。常に着用するのは。生の平絹を紅に染て如二常ノ大口一縫なり。但四のなり。上の袴よりも短キなり。夏冬同物なり。裏面におなじ。

一着袍次第。

冬は先着二赤大口一。次上袴。次單。次袙。次下重。上下。其上袍。夏は先赤大口。次上袴。次單。次下重。上下。次半臂。次袍。或說先赤大口。次次下重。袙風情の物着レ之。次上ノ袴を着して。

上の袴の腰にて下着を着籠。二説也。

一直衣事。地下の人不レ着レ之。建保三禪閤命。近衞司ハ雖ニ地下一着レ之云々。

春冬面しじら綾。文浮線蝶圓。少年の人はまろの勢分少くして。聊繁ク居レ之なり。調樣。面白くて不レ着レ色。ふくさ張。裏さや〳〵と强張レ之。若年の人は紫色。年成長の時次第ニ薄くなして。薄花田。又猶年老て後は大略如レ白なり。衰シテ宿老の人は裏一向白なり。張樣は同事なり。又至極老人は。或着ニ平絹ノ直衣ニ不レ着レ色。張樣又同前。童躰の人面白浮織物。文小葵重文也。裏同前。紫。夏秋は裏なし。薄物。文三重襷。色は若年人ニ藍。紫。次第濃花田。薄花田。後は大略如レ白成也。袖の端捻て。文は若年之人宿老共以無ニ差別一重文三重襷なり。又童躰の人の薄物。文小葵也。色の事ニ藍なり。帶の事直衣切なり。冬裏あり。夏無レ之。或は又下重の切をも用る也。異説也。

一指貫事。

四位五位は平絹。公卿以上は綾幷に織物なり。織物は若年人聽ニ禁色一之以後用レ之。綾は中年以後の人用レ之。十五以前人濃紫の浮織物。文つゞき龜甲。裏同紫平絹なり。さや〳〵と張也。是は春冬の事なり。夏は生の浮織物。色ニ重濃紫。文同レ冬。皆經緯共ニ染て織レ之。裏生の平絹。文同レ面。

一衣ノ事。若年の人は。冬時衣ニ三も重着レ之。是古義なり。近代大暑晴時之外一着レ之。或は袙とも稱レ之。但當家存知之分。束帶の下などに重用るは。纔着(サイチャク)。タケトヒトシキ事也。以レ是爲レ袙。直衣幷に狩衣の下に用レ之は莫大也。以レ是爲ニ差別一。狩衣直衣の下の衣は夏冬大暑無ニ差異一。色は薄色。萠黃。紅。黃。蘇芳。紫。紅梅。女郎花用レ之。是等壯年の人用レ之。白は長年の人用レ之。皆綾なり。面ふくさ張。裏平絹。色同レ面ニ。さや〳〵

と張て如ニ女房ノ薄衣一。長年人は白き衣。用ニしじらの綾一常ノ事也。文の事。小葵。莒形。浮線蝶の丸。若年の人は繁文。老大の人は遠文なり。是は皆尋常の時用之分也。異晴の時。顯職幷に壯年の人。或は浮織物唐織物など隨レ時色々の衣を出衣に用レ之。其色等委細不レ及レ注。分明に見ニ古記一なり。

狩衣の衣は大都（スベテ）直衣におなじ。但五月九月壯年の人用ニ生衣一裏表生也。皆用レ有レ色。不レ用レ白。多分女郎花蘇芳など也。

一單事。常の單文重菱也。綾色は。紅。白き。青き。薄色。蘇芳。黃。ふくさ張。春冬同事也。夏張單。とて。きら〳〵と板引にして用レ之。或は引へぎとも稱レ之。老人不レ用レ色。用レ白なり。

一下袴事。本儀綾也。十五以前の人濃色一（濃蘇芳の事也。）十六以後の人紅色なり。長大の後白色なり。裏面さや〳〵と張レ之。下括の時用レ之。文は定れる事なし。略儀。近代平絹也。張様同前。

一帷事。常袖白き布の大帷なり。冬時不レ用レ之。壯年の人なれども五六七月張單に重て用レ之。中年以後の人四月八月衣に重て用レ之。又單計に重て六七月に用レ之。又七夕帷とて帷計をも用るなり。是は中年以後老人事也。香帷老者用レ之。多五月事也。近代經ニ撿非違使一別當人の外不レ用レ之。又束帶の赤帷を汗取と稱して用レ之。蹴鞠の家の人の事也。他人不レ然。

一着ニ直衣一次第事。

先單。次衣。次指貫。此下着どもを着籠むで。指貫の腰を結。次ニ着ニ直衣一。晴の時出衣あらば。結ニ指貫腰一之後。指貫の上へに着ニ出衣一。以ニ太帶一結レ之。出衣の尻つみあげて挿ニ帶後一。出衣の前あきて。妻出ニ兩膝の間一。

夏秋は先帷。次張單。或ハ號ニ引ヘギト一。若年の人は張單の上に生衣を重着なり。用ニ生衣一の事は五月九月事なり。老人は不レ着ニ生衣一事也。次着ニ指貫一。有ニ出衣一。着レ之の躰同レ冬。

一狩衣事。或は鷹衣とも書レ之。稱ニ布衣一同物なり。

五位以上用ニ織物一。狩衣不レ因ニ禁色一の事也。春冬松重。面萠木。裏紫。文大略松唐草。松蠻繪。松菱などなり。凡着ニ其色一之時用ニ其文一。通用なり。自餘以レ此可レ知。老人不レ用レ之。花山吹。面黄。朽葉。織物ならば。經紅。緯黄。用レ之。裏紅平絹。文山吹立涌。山吹蠻繪。山吹唐草等也。老人不レ用レ之。裏山吹。面黄。朽葉。裏青。文同前。裏張裏。柳。面白。裏青張。引のりにする也。織物綾などは。文柳蠻繪。柳立涌。只又柳を重文織也。壯年以後の人。或面用ニ練緯一。用ニ唐綾一。若年人浮織物。浮線綾。薄物等用レ之。萠木色。四季通用之十五以前の人不用之歟 裏面同前。若年人用レ之。香の色。若年人はこがれ香と號して。下かぎを薄紅にして。黄をませて染レ之。所詮濃香也。織物にて着するの時は。經緯共に濃香に染て織レ之。裏紅也。張裏引ノリ也。老人は經は香なる糸。緯は白糸なり。仍文白也。浮織物。浮線綾。長年の人不レ用レ之。唐綾幷に薄物等を用也。又老者は白裏。生張也。

櫻萠木。面萠木。裏紫張裏也。文櫻立涌。櫻蠻繪などなり。春用レ之。中年以後不レ用ニ此色一。若年人用レ之。

白櫻。面裏共白。或又裏紫なり。若年中年之人用レ之。文ノ事同前。老者不レ用レ之。春用レ之也。

樺櫻。面薄蘇方。裏濃蘇方。若年之人用レ之。中年以後不レ用レ之。文事同前。春用レ之。

裏濃蘇芳。季通用也 面薄蘇方。似ニ樺櫻一。文無ニ定物一。宜レ在ニ人意一。若年人用レ之間繁文也。

黄ニ青裏。是は號スニ枯色トー。面香。裏青。冬時若年ノ人着レ之。

花田。季通用也 圓花田と號して。面裏共ニ同色。壯年の

人は張裏。中年の人は生張の裏用ㇾ之。老者ハ白裏生張。用ㇾ之。十五以前人不ㇾ用ㇾ之歟。薄靑。裏同色。若年壯年人用ㇾ之。老者不ㇾ用ㇾ之。白裏は壯年人も官により依ㇾ事用ㇾ之。

檜皮。四季通用也面ひはだ色。裏同色也。或又花田裏。兩說共無ニ苦事一なり。若年の人不ㇾ用ㇾ之。中年以後の人用ㇾ之。老者は白裏。

白色。四季通用也若人年は浮織物。浮線綾。練薄物等也。中年以後は唐綾顯文紗の薄物。唐和共用也老人も用ㇾ之。練緯老人も用ㇾ之。裏は若年の人は張裏。中年以後生張也。

赤色。四季通用也若年壯年の人等用ㇾ之。裏同色也。

蒴木。春夏通ニ用之一。若年の人着ㇾ之歟。雖ㇾ夏張裏先規なり。

仰浮線綾は冬夏通ニ用之一。練ノ薄物は冬ばかり用ㇾ之云々。

右一册。伏見院御宸翰也。以ニ或人之秘本一令ニ書寫一畢。

黃門侍郎煕房判

此一册。以ニ淸閑寺中納言煕房卿。自筆本一。以ニ古本一如ㇾ形書ㇾ之云々。摸ニ寫之一。加ニ一挍一。

寛文七年陽月廿七日

黃門侍郎資煕判 朱引

資煕卿云。抄中稱ニ當家一者三條也。

ツバキ龜甲。裏同生。色紫也。此年齡十五以後。以後は鳥多須岐。浮織物。色紫。裏同前。夏ノは生織物。文幷裏同前。或又如ㇾ此。若年の人夏薄物大文。三重多如淺黃云々須岐。瑠璃色指貫用ㇾ之。又薄色文鳥襷。織物用ㇾ之。經濃薄色緯白。浮織物固文。或藤丸依ニ年齡幷官途一用ㇾ之。中年以後薄色。綾指貫。文藤丸。色淺紋。依ニ年齡一次第ニ依ㇾ老薄クナス也。夏冬無ニ差別一練指貫也。至極老人は白色也。又淺黃綾差貫。中年之人

用ㇾ之。着ニ薄色ㇾ之人も依ㇾ事用ㇾ之。奴袴を括事。
着ニ紫指貫ㇾ之人多分腹白ヲ括ル。腹白ト稱スル
ハ白組紫組二筋を奴袴ノ括り差所へ入テ。
長クバアマシテ。引出テ封ジ。緒ノ如ク組タ
ル也。或又猿尾トモ。薄色奴袴ニハ腹白ハ不ㇾ括事也。
尾トテ一結之緒四五寸計切テ引事也。結ハ一筋。或ハ引出て結ㇾ之。
或又籠ルナリ。中年以後籠ㇾ之勿論事ナリ。
右此書の裏書にあり。
元祿九年正月廿八日寫之訖。

雁衣鈔

禁中御鞠布衣例。
李部王記云。天慶六年二月廿九日。温明殿前
ニテ有ニ蹴鞠事ㇾ。當世得ニ其名ㇾ輩數十餘人。布
衣。烏帽子ヲ着セリ。
布衣事。撰集秘記云。布衣。太上天皇已下隨ㇾ便服ニ用之ㇾ。無ㇾ所ㇾ限。
張裏。壯年之人用ㇾ之。但舊例無ニ過失ㇾ高年人
多着ㇾ之。生白裏。宿老後用ㇾ之。近來老少用ㇾ之。
尤可ニ差別ㇾ事也。
一織狩衣。
久我内大臣通親公仁安三年正月八日記云。
大納言敎命。四品之後織狩衣雖ㇾ令ㇾ着。不ㇾ得
ㇾ意。汝猶不ㇾ可ㇾ着。
一布狩衣。
通方卿抄云。極熱之比勿論。依ㇾ時依ㇾ人歟。其
一門ゆるされたる人の着たるが宜也。非ニ可

レ然人ニ者不レ可レ然。予少年。十二十三歟。故殿相具令ニ之候ニ六條殿一給。朽葉布狩衣給巽之如ニ松藤一也。着レ之。先院隱岐。御時。夏比上下多着レ之。壯年之人或指ニ廣紕一也。白組也。

一張裏鴈衣。

保元中納言中將春日祭上卿下向日。中山内府于時中將。宿老歟。着ニ縹張裏狩衣。薄色指貫。白衣二。同單一。

一白裏狩衣。

或書云。白裏狩衣は。故入雖ニ衰老一猶憚レ之。近代嬰兒多着レ之。俊成入道沉淪不レ居ニ顯官一。叙ニ四品ニ及ニ四十一之後着ニ白裏狩衣一。侍從大納言成通卿。參ニ會院一見レ之。白裏狩衣きさせ給しなとて被ニ流涕一。是衰老失ニ前途一之由歟。以レ之思レ之。侍從少將等更不レ可レ着歟。近代公衡。兼宗。忠季等侍從少將之時皆着レ之。平治元年春日祭上卿下向日。中山内府于時中將。着ニ縹白裏

白衣。白單衣ニ云々。

一長絹狩衣。長絹狩衣ハ。經ニ大理一之人着レ之。其外我身至極テカクト思人着也ト。先達所レ申也。

或書云。宿老人可レ着レ之。但撿非違使別當雖ニ年若一必定着レ之。都テ公卿ニ成ぬれば着用無レ憚。殿上人者四位ノ中弁可レ着レ之也。又經ニ歷三ケ國受領一者着レ之云々。近代不レ可レ然歟。醫師陰陽師等着者非ニ正長絹一。ゐせ絹也。長絹と云は如レ箏絹也。

狩衣色々。

白青。

表裏同。表練薄物綾也。或浮織物。裏粉張也。不レ論ニ老少。不レ嫌ニ四季一。

萠黃。

面裏同。裏引糯。若色也。至ニ十七八廿一マデ着レ之。

二藍。二藍。白裏。晴時着レ之。故實入ニ中倍一。不レ然者。裏白透レ面。色白メ惡也云々。

面裏同。表濃花田。アカミ有ベシ。裏引糯。年齢同ニ萠

黄赤色。

赤色。

表蘇芳。裏濃花田。或云。裏二藍。若色也。

花田。

面裏同。壯年人濃。老人薄。濃花田ハ師花田ニテ。及貳十全可着之。白裏ハ自四五十着之。或云。卅着之。

香。

表裏同。白裏は五十餘人着之。

木賊。

表黒青。裏白。白裏老色也。五十餘人可着之。

黒木賊。

裏白。祝之時不可用之。

薄青。

表黄青。裏青。師薄青ハ三四十人モ着之。白裏ハ五十餘人着之。おとなしき人ハ青ミヲ薄すべし。年によりて薄く濃かるべき也。

薄色。

表薄花田。赤みをすこしすべし。裏濃薄色。至廿餘人着之。白裏ハ卅已滿人着之。

檜皮。

表蘇芳。裏二藍。老色。白裏ハ卅之後着之。

淺黄。

表薄紺。裏同。及五十餘六十可着之。白裏又老色也。

蘇芳。

二藍の猶赤みあるべし。

篠青。

表白。裏青。三四十之人着之。

青苔。青丹。

苔色。

表濃香。裏二藍。若も頗老も着之。不論夏冬。

比金青。

寶治二年十月廿一日宇治御幸。大宮大納言公相卿。供奉。比金襖狩衣着之。件色面黄青ニテ頗有黑氣。裏用青色。加引乃衣唐花紅。引立烏帽子。有平禮同。

櫨。
表赤色。裏黃。若色也。年少人モ又十七八人モ着之。秋末冬初可着之。

朽葉。
薄紅黃ヲ差。

青朽。
裏青。

紅梅。
表紅梅。裏蘇芳。若人着之。

白梅。
面白。裏蘇芳。

柳。
表白。裏青。若モ老モ着之。

櫻。
面白。裏薄色。或云。二藍。若色。卅計ニテモ着之。

樺櫻。
表薄色。裏濃色。裏ニ赤も有べし。十七八ニテ着之。

櫻萠木。
面萠木。裏二藍。自樺櫻頗若也。

卯花。
表白。裏青。春號柳。秋號菊。

鷄冠木。
表裏同。

花橘。
面黃。裏青。

躑躅。
面紅梅。裏青。

樗。楝。
面薄色。裏青。

萩。
面薄色。裏青。或云。面蘇芳。裏蒴木。廿許ニテ着レ之。
女郎花。
面黄。裏青。秋初可レ着レ之。到二十七八一着レ之。
海松色。
面黑。裏黑青。老色也。老人裏二藍。或白裏。
老色也。
虫襖。蒸青。
面青。裏二藍。或濃薄色。卅許人着レ之。自レ其頗若人モ不レ可レ有レ苦。或人記。虫襖狩衣ハ秋晴ニ令レ着也。其外ハ不レ用。但祭使など色多盡之時。或令レ着レ之。
白菊。
表白。裏青。秋末冬初着レ之。若色也。
黄菊。
面黄。裏青。
紅葉。
面赤色。裏濃赤色。
黄紅葉。
面黄。裏黄也。但青裏ヲモ付也。
枯色。
表薄香。裏青。自レ冬至二二月許一可レ着レ之。若モ頗老モ着也。或云。おとなしき色なり。
松重。
表青。裏蘇芳。或云。濃薄色。赤み有べし。十七八ニテ着レ之。冬色也。或云。表蒴木。裏赤也。
氷。
表裏白。但表は只張べし。裏板引也。或表裏共用二引糯一事在レ之。
一依二四季一可レ着色。
春。
紅梅。白梅。柳。櫻。蒴黄。樺櫻。
夏。
卯花。鷄冠木。躑躅。楝。

秋。
萩。女郎花。秋初。海松色。虫青。白菊。黄菊。秋末。冬初。
紅葉。黄紅葉。

冬。
枯色。松重。氷。

一不ㇾ論ニ時折節ヲ可ㇾ着色
白襖。二藍。萠木。花田。薄色。薄青。檜皮。赤色。青苔。香。朽葉。淺黄。苔色。海松色。蘇芳。木賊。

一祝之時可ㇾ用色。
松重。海松色。白。青。二藍。萠黄。

一聟取之時可ㇾ忌色。
薄花田。薄青。赤色。香。淺黄。櫻。枯色。苔色。薄色。

一移徒之時可ㇾ憚色。
赤色。檜皮。苔色。萠木。薄青。櫻。淺黄。香。

一常不ㇾ可ㇾ用色。
黒木賊。比金青。

一用ニ布狩衣ノ色。白張布狩衣ハ五月雨時着事也
白張。香。二藍。紺。萠黄。赤朽葉。端ニハ裏ヲモ付着也。女郎花色。青之蘇芳。朽葉。薄青。
或云。布狩衣朽葉。香用ㇾ之。二藍ヲモ着歟。常ハ不ニ打任ニ歟。布狩衣ニ織物指貫ニ着タルガ能見也。只指貫頗貧氣有ㇾ之歟。

一侍狩衣色事。
赤色。二藍。花田。虫襖。薄青。蘇芳。青鑪。赤櫨。檜皮。木賊。薄色。海松色。篠青。表白。裏青。氷。花出ノ巳メマロ。薄青。
重代宿老侍。海松色木賊ナドヲカユモ着事。常事也。又一日晴時。狩衣付ニ練貫ヲ。又五位侍着ニ用香狩衣ヲ事。晴之外細々不ㇾ可ㇾ用之云々。

一袖結事。
有ㇾ裏狩衣如ㇾ常。練裏狩衣差ニ練結ヲ。生裏ニハ差ニ生結ヲ也。或書云。薄平結。三十四五以後人不ㇾ可ㇾ差ㇾ之歟。

但於二六位一ハ。雖レ爲二有レ裏狩衣一。可レ差二搓括一。是
秘說也。
布狩衣括事。壯年人青村濃紫村濃。中年人濃
村濃。老人白也。四十八九人頗可二早速一云々。
然バ五十已滿可レ宜歟。着二白指貫一人。袖括可
レ白也。
但雖二壯年人一。於レ有レ色狩衣香花田二藍之類也。用二白縒
括一常事也。或村濃如レ常。
幼稚人。或薄平。或置括也。
置括ト云ハ。毛拔形ノ形ニ糸ヲフサギ。其中
ニ或花或草色々括レ之也。
正下四位中將ハ。雲客極官位也。可レ着二白裏
狩衣一。可レ差二組分括一也。爲二年少一者。猶可レ爲二薄
平一歟。袖括ヲバ不レ可レ用レ之。
一折二吹反一事。
問云。袖端幷吹反折事。其故如何。又何狩衣
可レ折哉。答云。於二吹反一ハ。表裏色替之時ハ。
雖レ爲二何色一結搆ニ候。可レ折レ之。嵯峨內大臣
家嗣公。命云。淨土寺入道。德大寺左府。予云。俊
使時行向キ練童々。予本ヲ反キ。或反。德大
寺不レ可レ反歟之由示レ之。淨土寺何樣ニ者可二
一樣一之由示レ之。予後案レ之。不レ可レ反也。侍。布
衣ノ裏能時。吹反シトテ爲レ見反レ之歟。衣狩
衣不レ可レ然也。
一衣色事。
紅梅。蘇芳。薄蘇芳。裏濃蘇芳。萠黃。
或記云。萠木衣ハ自二五節一着レ之。何家此由
ヲ執。
薄色。紅。紫。吳綾。綠。苔。黃衣。白衣。山吹。
練貫。綾。
一單衣色事。
濃紅。白。青。黃。
問云。布衣ニ出二萠木單一事有レ之哉。然バ何之
色單可レ出哉。

答云。萠木單事勿論。紅單白單例事也。其外蘇芳濃單等有レ之。

又問云。上括之時。猶袙ニ着レ單事有レ之哉。

答云。邂逅事歟。細々には未レ見及一也。

一大帷色事。

白。萠黃。香。藍。摺紅。

一帶色事。

冬躑躅。夏ニ藍。（公卿以下禁色人。赤色之外ニ藍也。）白生帶。若六位之人晴之時可レ用レ之。但地下六位常ニ用事秘說也。又一日晴之時用二錦帶一事有レ之。

或記云。凡狩衣帶ハ切二下襲裾一用レ之。仍隨二其色一。公卿并禁色四位五位有文赤色。非禁色四位以下地下人等無文ニ藍也。青色帶ハ着二青朽葉下襲一人用レ之。

問云。如二柳櫻一狩衣着之時。反二冬帶一事有レ之哉。其故如何。若爲二替色一歟。然者何白襖之時不レ用レ之。外又可レ用バ。何も布衣之時可レ反哉。

答云。白襖之外反事。未二見及一不二存知一。

一奴袴下袴等色事。

在二直衣篇一。仍不レ注レ之。

一近來細々用習狩衣色々。

梅。（面白。裏蘇芳。自二五節一至二三月一着レ之歟。）

櫻。（面白。裏花色。櫻裏是也。自二五節一至二三月一歟。）

樺櫻。（面蘇芳。裏同。時節同レ櫻。）

櫻萠木。（面青。裏ニ藍。時節同二樺櫻一。）

柳。（面白。裏青。四季通用。卯花菊同秋之故歟。）

裏山吹。（面黃。裏紅。自二五節一至二三月一。但於狩衣ハ春季用之）

花山吹。（面薄朽葉。裏黃。時節同二裏山吹一。）

藤。（面薄紫。裏青。三月用レ之。四月同通二用之一。）

已上。春季可レ着二用此色一歟。

盧橘。（面朽葉。裏青。四月五月着レ之。）

昌蒲。（面青。裏濃紅梅。時節着レ之。）

楝。（面薄色。裏青。四月五月着レ之。）

瞿麥。面蘇芳。裏青。或面用二紅梅一。兩說也。四五六夏三ケ月着之歟。

桔梗。面二藍。裏青。五月六月着レ之。

女郎花。面黃。裏青。六月自二祇園會一同着レ之。秋季通二用之一。但九月於二狩衣一ハ非常事歟。

萩。面蘇芳。裏青。時節同二女郎花一。

檀。面蘇芳。裏黃。秋用レ之。

已上。夏季可レ着二用此色一歟。

龍膽。面薄蘇芳。裏青。自二九月一至二五節一。

黃菊。面黃。裏青。時節同二龍膽一。

葉菊。同二柳號一。時節同二黃菊一。

白菊。同二梅號一。時節同二黃菊一。

移菊。面中紫。裏青。時節同レ右。

青紅葉。面青。裏朽葉。時節同二龍膽一。

黃紅葉。面黃。裏蘇芳。時節同レ右。

已上。秋季可レ着二用此色一歟。

松重。面青。裏蘇芳。冬常用之。但他季不可有憚也。

枯色。面香。裏青。

自二師馳一至二二月一歟。但五節表着間用レ之。次又三月着用間有レ之哉。此等例近曾雖二不可一近來儀不レ可レ及二色難一歟。他色々又如レ此。相違不レ可二勝計一之歟。

青丹。濃青差レ黃。表裏同色。

苔色。面香。裏二藍。

赤色。面蘇芳。裏縹。

白襖。

二藍。

萠黃。薄青。縹。

香。

檜皮色。

海松色。

木賊。青。黃。白。黑。

已上。不レ定二時節一歟。

虫襖。一說爲二玉虫色一。但夏季着否。存二畧儀一歟。

朽葉。面欵冬。裏黃。

茶染。

槿。

同衣。

黃青裏。自ㇾ秋至二五節一歟。

蒴黃。自二五節一至ㇾ春。或號二若鷄冠木一。又四月用ㇾ之。

薄色。時分不定。

黃衣。春季着哉否。有二異儀一歟。

紅衣。裏中紅梅衣紅單等之時號二紅匂重一。白衣白單等之時號二紅薄樣一。

紅梅。

紫衣。付二櫻裏一之時號二葡萄染一。裏薄紫衣歟。單之時號二紫匂重一。白衣白單之時號二紫薄樣一。

欵冬。表紅。裏黃。表薄朽葉之時號二花山吹一。

裏濃蘇芳。不ㇾ定二時分一。

白衣。

指貫。

紫。冬。　單色。　薄色。

淺黃。　青色。　二藍。夏。

紫苑色。夏或號二薄色一。或裏青。　瑠璃色。夏。

白色。近代着ㇾ之哉。　青鈍。　半二重。

半葉色。

本云

以二陽明本一書寫畢。

應永己卯曆應鐘三五天。以二公務隙一任ㇾ本馳ㇾ筆者也。

鷄首左大丞藤原判

應永卅年南呂五々。借二請一位大納言兼宗卿自筆寫本一。課二命管城毛錐子一。掃二鵶蚓一了。于時淸風颯々。頻排二一點之殘燈一。秋夜皓々。既聽二五更和鐘一焉。

鳳城就官藤原判

康正二年沽念五日。借二請前內槐時房公自筆本一。以二他筆一書寫畢。如二右奥書一者。祖父入道殿御抄也。正本撰失之間。重所二寫置一也。于時三春輿漸盡。百華香已稀矣。

諫議蘭臺藤原判

布衣記

永仁三年八月日。伏見院北面日野殿に被參仕申。齊藤越前守助成が於在所。諸家青侍北面少々有識之輩二十餘人參會之時。申合以連判定置之事。隨而北面瀧口布衣判官已下侍出仕進退之事。

一布衣進退。立烏帽子。風折可折左。紙よりの烏帽子懸也。五位にて指貫時可爲馬上也。衞府時は風折也。内々時は不可折之者也。

一裝束之下ぎ。夏冬相替。白帷白小袖也。次狩衣。靑袴。押折也。衞府時者重衣。袖一重。靑袴に身を入。下紐也。大帷。下袴。重あり。次五位にて狩衣。白布。平絹の指貫。花田色也。紐を上。次袖の紐はすじの糸左綺右綺二筋。色はあゐ染に三寸許の段五分許。にほひ可有黃色也。次衞府をつくる時。織狩衣に袖一重。衣を重。指貫に身を入。下紐。次上帶は。自四月至九月は。生のせいかうに紫淺木の間色を付。自十月至三月。練絹に白粉を付。上に成方に黑重をする也。一分許。五位六位無替。次押折の時。五位六位共以裾を左へ。刀之下へ引取。但衞府は不取裾。但馬上之時可取裾。下時下裾。

一太刀。刀。扇事。太刀は衞府の太刀。五位之時は平さやをも用。絃袋をさす。次刀はさやまき。さげ緒は鎌倉さげ緒。かうがい同鎌倉。次扇如常みがき付也。

一弓矢事。弓は重藤。矢數廿五。上指四。かぶらしこにさす。限齋藤家如此。是利仁天下御敵退治時より云々。尙以其故在之云々。次矢黑うるしにさはすや。羽は鷲の羽。上指白箆。羽鷹羽。鷲の羽。何にても用。四羽にはぐ也。何もはぎ糸の上をば紙はぎにする也。次上帶。金手皮付。但押折之時は金手皮なし。主人矢をおひ。

弓持叓なし。調度懸持之。隨而調度懸の裝束。衞府時與押折時可替也。衞府時は立烏帽子走水干也。色は蔚木。上下同色。押折時は折烏帽子。赤皮の烏帽子懸。紙綺の小結。裝束はかちむのよろい直垂なり。

一馬のこしらへ様之事。髮まかず。沓かけず。鞍は水干鞍。切付はあざらしの皮。上敷同皮。或師子面皮。力皮。師子丸にて上をつゝむ。ふせぐみあるべし。轡は鏡ぐつは也。しをでのくつ。腹帶。鐙は白鐙。舌長胸より肩まで白。次内内之時。常しきの鐙不苦。次手綱腹帶はかちんの類。不然者淺黃。指指縄打ませ。白淺木かちん三色。左打右打二筋取合て指也。指様。馬のふりがみより三卷をきて。かうきはにくびの骨のどの下にて。ひつときの懸結にしばりて。胸の右のわきにたはむ程にしをでのねにたぐり付也。たぐりのながさ一尺二寸也。次引さし縄之叓。白指縄也。仍ふとさの程。指指縄常の布の一はたばりを六に立て。三ぐみの縄二筋に成なり。ながさのほどは三丈なり。但布一のながさ二丈五六尺歟。布一のゝながさも不苦。次引さしなわの事。聊ふと〴〵として。布一はたばりを五にわり。三筋をもつて三打にするなり。次しりがいの事。糸ぐみのうね。押折の時はうね許。衞府の時はふさを付なり。次あをりの叓。くまの皮。次ふちは。くま柳のとうまきのふち也。舍人刀のごとくにさす。ぬき入の方を上になす也。馬にははだか足にてのる也。かちにてはあさ沓をはく。或はげゝもはくなり。山坂にてはすへわらんぢなり。

一笠の事。公家武家共以無替。晴の時白袋。けしやう皮あり。笠持常白丁也。立烏帽子。打懸着也。しと筒腰にさす也。同主人のしやう木持歟。次雜人夫一人。笠しやう木松明已下有之。

一馬の時僮僕者事。衞府時は童一人。郎從二人。調度懸一人。舍人二人。中間六人。其儀は隨レ時。かいぞへの若黨中間。跡に上下着召具。

一童裝束事。髮をさげ。入もとゆひをする也。白紙也。下着事。夏冬により替也。白帷白小袖也。上は水干。下は葛袴。水干色紫蒴木間なり。のぼりはた袖。一身に袖一色を替。くずにてもする也。次我が家文を金ぱくにてをす也。在所は前袋に一。左右袖外に二所。前に二所宛。已上五なり。うしろには不レ付。同はかまにも不レ付。袖のくゝりとくび程は赤皮也。次葛袴は。中程よりもすそをかちんに染。こしの下よりすそまで。色々の繪具にて繪をかく也。時々の文草木花紅葉也。所々に白金ぱくにて切はくをちらすなり。腰は絹也。又絹をもかさね候也。絹の事。紫紅蒴木の間。平絹に色を付。所々に金白はくにて雲を入違たむなり。のぼりといふは前袋半分なり。

一郎從事。立烏帽子。裝束走水干。上色うすかう。袴葛也。はく紙にて水干に家の紋をおす。うしろ左右袖の上五所。前袋に一。已上六。袴にはおさず。くゝりを上。刀をさす。

一調度懸の事。立烏帽子に蒴黃色の走水干。上下同色。くゝりを上。刀をさす。しこをおひ弓を持。しこはかけをにて左の肩へ懸。右の脇の下へひきまはし。つるまきをかたにもたせ。次白布を十德のおびの如く平ぐけにして。其帶をもつてゐびらを腰に付。弓をばつるを上になし。にぎりの程を右のかたにかけ。本はずを一尺ばかりをきて。右の手にてかたくる也。刀をさすなり。

一舍人の事。立烏帽子に右近ぞめの走水干。上下同なり。くゝりを上。刀をさす。一人如レ此。一人はそへ舍人也。折烏帽子。淺木の一重直垂也。

紙よりの小結也。
一中間事。折烏帽子小結常也。染直垂に大帷を重。袴に大口を重ね。直垂の色付。地かちんにもんを香。或地香。文かちむ。又は蒴木也。家の文也。はくにて文を付時は。地色かちんにてもかうにても無文也。文をつくる在所。上下九所。上はうしろのぬひめ。左右の袖の上。胸の引合。但引合には文を二ツにたちわりて兩方に付。間一也。然ば上に四なり。袴はうしろ腰の下に一。前ひざの上左右に二ツ。もゝだちに兩方二。已上五なり。袴にはくゝりを入上也。ちわらぢをはくなり。
一立所の事。行連次第。繪圖に在レ之。
一衞府の時も路次近所の御供には馬に不レ可レ乘。不レ可レ有二其用意一也。不レ乘レ馬時者。衞府をも連。郎徒舍人不レ可レ入者也。
一八幡。春日。日吉。非二其而已一。都の外御供には。押折にて參會の御供たりといふとも。さ樣の在所へは。かん小路なきによりて參會中に不レ及。其上遠路なるによつて。且爲二御用心一乘馬にて路次の供奉可レ申也。其時は僮僕の者可レ替。衞府時但郎徒を不二召具一なり。
一調度懸の事。折烏帽子に紙よりの小結に赤皮の烏帽子懸。褐布直垂に赤革のひぼなり。袴もくゝりを入て高く上。矢をおひ弓を持叓は。衞府の時に不レ可レ替。但しこに手かはをさすべからず。その外は同もの也。
一舍人事は。ゑふの時のそへ舍人のごとし。折烏帽子。紙よりのこゆひに淺木の一重直垂にくくりを上也。
一童と中間と不レ替。衞府時成とも。御供成とも。はれの時の樣に依てけつこう有べし。
一諸役次第事。抑御出仕之時。於二殿中一第一御祝の給仕事。第二御裾の役。第三御すだれの役。

第四御笠の役。第五御沓の役。御しぢの役。如斯次第〳〵に上首より可隨なり。

一於本家進退の事。出仕中門の沓ぬぎにいで。道の脇に立。御車中門による時は。すだれの役に隨。すだれの左のすそを。かどをとりて指上時。上之方車の右にめす。于時すだれをおろす也。御車御門に 立時は。中門の沓ぬぎにて沓を進。其時小雜色の方より沓を如斯請取。自如木方青侍請取。其時如木三足あよみよる。其時侍一足歩向。目禮して沓を請取。沓ぬぎにて進也。但諸大夫の進時。依爲上首侍不綺之。諸大夫隨諸役也。次笠持の事。如木進退かうこなきによて。小雜色の方より請取なり。其時禮如木與同叓也。

一諸社の祭禮に本家御參向在時も。又御私御參社の時も。御へいひざつき巳下社頭において有之。仍御師御祓をもつて參。侍立向取次申。其時左の手を上に成。右の手を下になして。左の方へなびかして請取。驪上の方へ參時に。右の手を上になし。左の手を下に成。持なをし。右の方へなびかして參也。御取有て以後本座になをる時。御拜巳後御師參。直に御幣を給者也。御師社頭の御前にをきて。拍手打て後御沓をなをし參せて御退出あり。如此役に隨時。我身も沓をぬがず可隨者也。

一狩衣事。六位之狩衣は。面仁和寺布好也。裏は練貫を付也。付色は主の年により又は狩衣の色による。面裏同色をば二重と申。此色は紫萠木の間也。主の年二十ばかりまでは可用也。次面萠木裏白をばとくさ色と申。此色をば主年廿四五まで可用。次面紫裏萠木をばひわだ色と申也。次面こき萠木裏薄萠黄をば海松色と申。次面紫裏白をば萩花色と申也。次面紫裏薄紫をば藤重と申也。卯花色。瞿麥色。女郎

花。尾花。白菊。ひは。櫻色。梅重。柳色。或面蒴木裏紫をば松重と申。色々の名どもあり。雖ㇾ然近代此色付失によて知人なし。所詮面も裏もその色のこき薄きによて其名を申替也。いかにも主の年によりて其色をば好むべきなり。次に袖のくゝりの事。六位にては常式のまだらをめす。かのあつぐみなり。五位之時布狩衣をば已前に書をく也。折狩衣には平ぐみたるべし。殿上人の狩衣のくゝりと同ものなり。

一六位之時の青袴事。面は上品の宇治さらし也。布に白粉を付。八の袴。裏は練貫にのりふのり〔衍歟〕をよく付て。いかにもさやめきは張るべし。下重の袴。いさゝかふとき布にのりをつよく付て。いかにもえもむをよく持様にはるべし。内まちと腰をば生の絹たるべし。下袴腰はほそき布也。すそのくゝりはねりくりの糸丸ぐみたるべし。

一大帷事。是もふと布にてはなし。いさゝかほそぬのなり。ふのり粉をよく可ㇾ付。のりのうすきは衣文を不ㇾ持也。

一衣之事。歳十六七許までは。平絹のいた引たるべし。色は狩衣の色によりて蒴木紅の間たるべし。又あこめを用候也。年廿許よりは紅のあやたるべし。歳卅二三までは可ㇾ用也。其已後。假令くちば香貫白風情のをりを可ㇾ用也。いかにも依二狩衣色一可ㇾ好也。

一押折の時は重衣事本儀には無ㇾ之。但不ㇾ重ㇾ衣時は無二行粧一間。晴時は雖ㇾ為二押折一可ㇾ重ㇾ衣也。不ㇾ苦事也。於二本家一内々時は殊不ㇾ可ㇾ重ㇾ衣。如ㇾ此子細依二腰細一也。

一袖一重事。好絹をうこん染に色を付。狩衣の袖より一寸ばかり出べき也。衣と大帷の間に可ㇾ付也。

一五位之狩衣の事。上品の宇治さらしの布に白うすく粉を付て。一重狩衣なり。袖のくゝりは具に在㆑前。次指貫。平絹。色は花田色なり。裏は白絹にのりふのりこを付て。いかにもさやめきはるべし。まちこしは生の上品の絹也。下結はねりくりの四ぐみなり。押折の時は上括。衞府時は下括なり。かやうの事は五位六位不㆓相替㆒。

一太刀事。六位の時は衞府の太刀。五位にては平さやをも可㆑用。衞府之時は五位六位までも帶劔なり。馬上時同前。押折の時は中間持也。本家にて御しやくをも取。御給仕をも仕時は太刀を取なり。就中末代於㆓子孫㆒。此趣可㆑秘々々。不㆑可㆓取散㆒。若可㆑閉聾は諸神諸佛可㆑有㆓御罰㆒。諸家之靑侍末代重寶也。いかにも可㆑秘㆑之。

調度懸（郎從舍人・郎從童）馬（皆副中間同同・皆副中間同同）副舍人笠持

瀧口出仕次第事。

一頭辨しゆくし始之時御供申者也。瀧口人數之叓。其家人は依㆑時六人まで被㆓召具㆒也。但一人も被㆓召具㆒者也。人數あまりおほき時は。一﨟。二﨟。三﨟。四﨟。五﨟も次第に申者也。

一瀧口の事。七歲之年より十二三歲迄が本職なり。但御事闕時は十五六歲まで不㆑苦。是は家之瀧口事也。道瀧口は年廿歲ばかりまでは可㆑隨也。

一主の進退の事。立烏帽子に狩衣。風折也。下着の叓。夏は白帷。冬は練貫たるべし。

一裝束の事。水干狩衣と申者也。上下共に同色なり。登端袖替故に如㆑此名を申替也。只狩衣のごとし。着樣も如㆓狩衣㆒。仍裝束のやう。面白練貫ならば。裏の色あをかるべし。面靑練貫ならば。裏は平絹たるべし。面には縫物をする也。文叓は主の家の紋をもぬひ付也。又時の草木花紅葉をもぬひ候也。次のぼりはた袖は金襴

たるべし。色は水干の色によりて。はた袖の地の色をかへ候なり。又は主のこのむべき也。裏をばいかにものりこはくふのりを入べし。袖のくゝりはけぬきがたにて。殿上人の袖のくゝりと同物也。次大帷の下の袴も狩衣のごとくあるべき也。次衣をも重袖一重もあるべき也。狩衣と同事也。袴には身を入て下括也。上の帶の事は狩衣のごとし。次淺沓なり。

一太刀は衞府の太刀也。六位の也。刀は鞘卷なり。

一扇は檜扇なり。板數十六まい。付花さげの糸は色々也。太刀は中間にもたすべし。太刀はくことなし。

一弓しこの事。主のたいすべき也。弓は重藤。矢はしこの矢也。是常式の如し。矢の數十六筋さす。其外上ざし二筋さす。的矢也。齋藤の家には上ざし四筋たりといへども。瀧口の時は的矢一手さしそへたるによりて。上指其まで四筋に用也。瀧口おさなきによて。禁中にても君の御ゆるされ有て的をも仕なり。依之的矢をさすなり。是瀧口のめいはうなり。次馬にも乘なり。いかにも少年が本也。

一弓しこも矢も主にあいにたるやうにこしらへるなり。矢の篦上ざしまでは白篦たるべきなり。的矢はのごひうるしたるべし。羽はたうの羽にてもはぐなり。但上指と的矢との羽は鷹の羽たるべし。上指は四立にはぐべき也。しこには上帶に手皮付べき也。

一しこを主のおひ様は常のごとし。弓の持やうは。左の手につるを袖の中へ成て持也。馬の上にても其如く持也。いかにも絃を袖の中へ引そへ持也。絃をうちへなす事は瀧口のこつはうなり。其子細在口傳也。

一內裏にて貫首殿上に着座の時。瀧口殿上の小庭の土戸の外脇壁の內に床木を上首次第に

立ならべ腰をかくる也。其時弓を右の手に持なをし。弓杖につく。其時は弓庭にて的を射時。足をふみ定弓杖つくがごとし。

一殿上の小庭にてもんじやくと申て。瀧口祝言に哥うたふ事あり。其時床木に腰かけながら瀧口の云。主殿つかさ〴〵。殿上の小板敷には貫首の御座候やと申。主殿司答云。いやさもさぶらはずと申。其以後瀧口歌うたふなり。

そよや祝なれば。松の枝には鶴こそすをばくへ。岩ほが上に龜あそぶなり。やれかとつとう。

如レ此うたひてしこうするなり。一反うたひて。なを申候へとあらば又うたひ候なり。三度(反イ)まではうたひ候也。うたひはてゝ後。もんじやくのさきのげざんといふ也。是は見物の人をはらひのけたる詞なり。内裏にても。本家にても。門前出入時も。見物衆せきあひ候時可レ申詞也。

一本家にて瀧口出仕時。在所與廳造合ついがきに副。殿上の小庭のごとくに寢殿のきはより上首次第に着。床木弓を右の手に持なをしてつえにつく也。

一馬の揃やうは衞府時に不レ替。次のりやう同前。沓を不レ用素あし也。裾を取事。狩衣の時のごとし。乘馬の時取。下馬時下。弓矢をば殿中にても可レ持なり。

一僮僕之事。不レ可レ替。衞府同叓也。在所同前。依レ無レ替不レ及二委注一者也。

一家の瀧口。家の判官と申は。其於二本家一。普代の侍の成所の判官の叓也。みちの瀧口道の判官と申は諸家に在レ之。被二召具一なり。且又諸家へ渡て。御訪肝要にて。身をやとはかし申間(聞イ)。其本家多。又は本家不レ定。然者公家の御家をきらはず奉公申によりて。家の方よりは是を下する也。其本家をさらず普代して各別の主を

とらず。北面ながらその本家けんたいする計也。故に家の瀧口家の判官とて。是を宗とすると云々。

一判官出仕之事。冠束帶赤衣也。別當殿ていゐのすけと進退大略同前。僮僕已下の支。如二本目錄一ならば事の外の大儀也。但それは上古の事。近代は家の判官も道の判官に毎事可二相尋一家の事。久退轉之間。目錄の難レ用道の事。毎年賀茂祭に自然別當殿御出仕の時。細々供奉申間。如レ其相尋出仕供奉申は。更不レ可レ有二其難一者也。何時も家の道を發。隨二其役一事あらば。悉道の判官をたのむべき上は。別て委不レ及二注置一。近代道の外家の判官無之上は。雖レ發二家例年沙汰し付し如くならば。諸家の不審御難あるべき間。如レ斯注なり。此記錄式目次第何にも可レ秘。此道に入ざる輩に不レ可レ見。背二若此旨一押有二一見一者。佛神三寳の御罸を可レ蒙之由。本記に在レ之乎。我家心指深輩。若のぞむ事あらば。以二罸文一可二相續一之者也。仍爲二末代一衆議如レ此。所レ定如レ件。

兵衛尉能兼在判　越前守助成在判
兵衛尉賴直　同　左衛門尉房名在判
兵衛尉助氏　同　右衛門尉重宗　同
左衛門利盛　同　兵衛尉景季　同
左衛門宗信　同　左衛門尉安盛　同
左衛門尉安忠　同　左衛門尉信忠　同
河内守安俊　同　左衛門尉長信　同
越前守重信　同　越前守忠信　同
河内守安範　同　丹後守貞房　同
越前守信光　同　伊勢守長信　同

已上

群書類從卷第百十八

装束部七

連阿口傳抄

装束寸法

一束帶。

袍ノ長サ

主上院東宮ハ一ノ御骨ヨリ御キビスマデノ御寸法ニ餘リアルベシ。一尺二寸。親王大臣次第ニ可レ有ニ了簡一歟。餘リ年少次第ニ殿上人七寸餘リ。地下五六寸。何モ年少可レ有ニ了簡一歟。

同廣サ。

主上院東宮ハ一ノ御骨ヨリ中ノ御指ノサキマデニ一寸餘ホドヲ二ニヲリテ。御大袖ハ御身ヨリ五分ヒロシ。御ハタ袖ハ此外ニ付ベシ。宮大臣ハ御指ニ五分アマル程ヲ二ニヲルベシ。殿上人ナラバハコヒニヒトシ。地下ハ聊タラズ。大袖ノ付目ヨリ。ワキヘ一寸五分スヂカヘテ上ベシ。

ハタ袖ノ事。

大袖ノ三分ガ二也。

袖ノ口ノ事。

身ト大袖トヲ合テ猶二寸五分。或一寸。仁ニヨリテ可レ有ニ了簡一歟。

ハコヒノ事。

身ノ廣サニハコヒノ長サハ一寸五分ミジカシ。凡ノ寸法ニヨリテ可レ定歟。此スソ三寸五

分セバクオトスベシ。サキハスソボソナルユエナリ。袖ノ付メトハコヒノツケギハトノアハヒ一寸五分アルベシ。是ヲ帯トウシト云。但帯トウシハ前ノ付下ニアル也。一寸五分ノ間ニ小紐ヲ付ル歟。

ラムノ高サノ事。

ハコヒノナガサニ一寸五分オトルベシ。タケニヨルベシ。襴ノ左右ニ耳ノ様ナル物ヲバ(ニイ)アリト云。其ソバヘ出タル分。襴ノ高サニ一寸五分オトルベシ。是モ年少可ニ相計一。アリノサキアリニ同。

大クビノ事。

上ハエリノ廣ノ半ナリ。下ハ上ヲ二合タルホドナリ。是ハ上下年ヲ不レ謂。可ニ了簡同一。

ムネノヲリメノ事。

クビカミノ前ノキワヨリ七寸六寸ノ間也。了見上下ニヨラズ。年少ハ可ニ相計一。

一半臂

袍ノ長サヲ五ニヲリテ三分也。ムネノ折メヨリ也。此外ニ襴アリ。上下年少同事。廣サハ袍ノ身ニ一寸ヒロシ。袖ナシ。襴ノ高サハ袍ノラムニ五分オトルベシ。左右ノ脇ニ十二宛。後ニ六タヽミ置間。長サ一丈二尺。是半臂アラシト云。

大クビノ事。

六寸アルベシ。上サマ次第ニセバシ。

忘緒事。

廣サ三寸五分。長一丈二尺。年少又可ニ了簡。帯ノ長サ可レ依レ腰。是ヲ引帯ト云。忘緒ノタヽミヤウアリ。二ニヲリテ。ワナノ片ヲ三分一ホドニヲリテ。マタワノ中ヲ引帯ニテ結。

ムネノヲリメノ事。

袍ノハ頭紙ノ下ヨリサス也。是ハエリヨリサス間。頭紙ノアツサヲ三寸バカリアテヽ。袍ノ

ムネノヲリメヨリ三寸ニテモ二寸五分ニテモ寸法ニヨリテ長サ可レ定。

一下襲事。

前ノ長。ムネノヲリメヨリ袍ノ襴ノツケギハマデ也。後ハ裾別ナラバ帶ニハヅレヌホド也。裾ツヾカバ其長サ仁ニヨリテ長短アルベシ。主上大臣一丈二尺。腰ヨリ下分也。此外腰ノ上一尺四寸。帶ノ上ノヘコシカタ下ヨリノハネカヘシ四五寸。是ラヲ取合テムネノヲリメヨリイクラホドトシルベシ。大納言ヨリ參議マデ一丈。殿上人八尺。地下七尺。但辨少納言ノ人可ニ了簡一。其人ツイタケモアリ。廣サハ身ハ袍ニ同。袖ハ袍ニ一寸ニテモ五分ニテモマササルベシ。

一袖事。

長サ袍ニ五六寸ミジカシ。廣サハ下襲ノ了簡也。

一單事。

長サ一寸袖ヨリマサル。袖ノ廣サ一寸五分袖ヨリヒロシ。身袖ニ同。

一表袴事。

長サ一ノ骨ヨリキビスマデノ寸法ヲ三ニヲリテ二分ニ猶二寸ナガシ。是ハ殿上人ナドノニヨシ御所サマ大臣ナドハ今一寸五分長クスベシ。マタ人ノ腰ノ高下ニモヨルベシ。廣サハ長サノ三分一也。猶一寸五分マサルベシ。大ノノ亥也。小ノハ大ノノ三分ガ一也。猶一寸セバシ。サガリノホドハ。足ツキニ五分カヽルホド也。足ツキ九寸バカリ。寸法ニヨリスソノ口三寸計オトスベシ。マタノカタ也。腰ノ高サ一寸五分。長一丈二尺。上下年少可レ計。ヒダヲバ小ノヲノヅキテトルベシ。

大口事。

表袴ニ同。足ツキナシ。スソヨリ上ヘ内ヘオシ入ル。如レ此スレバ。モヽダチヨリ下ハ四ヘニ

ナル。長サハ表袴ヨリ三寸バカリミジカシ。

一直衣事。

長サ袍ヨリ一寸ミジカシ。上ザマハ二寸ミジカシ。廣サ袍ヨリ二三分バカリセバシ。自餘如ㇾ袍。

衵事。

長サ直衣ノ長サニ六七寸ナガシ。廣サ袍ノ衵ノツモリノ如シ。

單事。

長サ衵ノ如シ。廣サハ袍ノ單ノゴトシ。

指貫事。

上ザマハ實身ノ御寸法ニ六寸五分ナガシ。大臣以下ハ次第ニ。殿上人三寸五分。地下一寸餘。或ハ餘ナシ。廣サハ長サヲ二ニ折テ猶一寸ヒロシ。上ザマノ也。殿上人ナドハ五分マサル。地下ハアマラズ。此内ニ大ノ小ノアリ。大ノハ小ノニ二寸五分マサル。是モ寸法ニヨリテ一寸マサルモアリ。モヽダチハナカラヲリ也。マタハ一寸アガル。クヽリ一丈二尺計。

下袴事。

長サ一尺廣サ一寸。指貫ニマサルベシ。

一狩衣事。

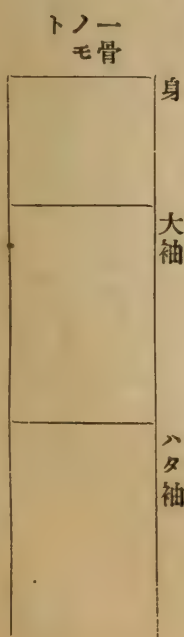
長サ前一尺後四寸實身ニマサル。大臣以上如ㇾ此。公卿大畧如ㇾ是。大納言以下可二了簡一。殿上人以下前八寸後二寸實身ニマサル。地下輩ナドハ猶ミジカシ。年少又可二相計一。廣サハ實身ニ三寸マサル寸法ニテ。一骨ヨリ中指マデノ分也。身ハ大袖ニ同。ハタ袖ハ一寸五分セバシ。紙形ニテ可ㇾ計。

其紙形如ㇾ此。

身

大袖

ハタ袖

一骨ノモト

身ハ半ノ寸法也。
合テ大袖ニ同。
如レ此アツル間。身ハ二ツ分也。
只今(其大袖イ)ヒロサチ身ニシルスベシ。

袖口ノ事

大袖ハハタ袖ノ廣サヲ合テ猶二寸マサル。大臣以上也。大納言以下次第ニ可二了簡一。殿上人ハ其寸法指ニ同。侍ナドハ指ニタラズ。

衵事。

長サ一尺實身ニマサル。廣サ二寸五分狩衣ヨリセバシ。狩衣ハ一身ナリ。二寸五分オトルホドヲナカラヅツハカラヒアハスベシ。小寸法可レ有二了簡一。袖口ハ布衣ニ同ジ。

單事。

長サ一寸廣サ一寸五分衵ニマサル。分袖ノ事ナリ。身ハ衵ニ同。

指貫事。

如レ注レ右。カハルベカラズ。

袖ノク、リノ事。

十五以前ハケヌキ形。十六ヨリウスヒラ。其後アツボソ。老者ハヨリク、リ。六位ハヨリク、リ本義ナリ。雖レ然當時一向ケヌキ形。クミヲモサス。

淨衣事。

狩衣ヨリツ、シクスベシ。ハタ袖ハ一寸オトリナリ。

袴事。

長サ淨衣ノ前ノ長サニ今一尺三四寸ミジカシ。廣サハ長サヲ二ニヲリテ七八分セバシ。マタノ付所上ヨリ一尺。

衵事。

長サ實身ニ八寸長シ。廣サ淨衣ニ一寸ミジカシ。

下袴事。

長サ一尺廣サ五分。袴ニマサルベシ。

葛袴事。

長サキビスヨリ五分バカリ餘ル。廣サ長サノ半分也。但三分バカリマサリモスル。上下同色ノ水干ナラバ三四寸モヒロシ。上下水干ハユウケンナル間ナリ。上ハ布衣ノ前後ノミジカキ物也。タリクビニヒボアリ。タリクビナラバ右ノヒボヲカタヨリ後ニ付テ。左ノヒボヲバクビカミノヲリフセタルサキニツケテ。左ノタモトヨリ取出テ。前ニスヂカヘテユフベシ。馬ニ乗時ハ右ノヒボヲモ後ヨリ前ニ同ヤウニユフベシ。鞠ノ時又如レ此。

一ヱリノ寸法ハ前後ヘノアツサヲヱリト云リ。マヘノ廣サハアツサヨリモ今二三分セバシ。コレハヱリ形ノ事也。ナカラヲリ也。頭紙ヲバ其マハリニアテヽ。カキ形ノ間ハ三分ガ一ヨリ一寸三四分バカリ廣シ。是ハヱリ形ノタチノ也。ヌヒシロヲオキテクビカミヲハカラフベシ。年少ノ人ムキテアツベシ。クビ形ハ後一寸マサル。前ノカキスツル分一寸セバシ。

一烏帽子ハ其仁ノヒタヒノキハヨリウシロヘノカミノハヘギハヘマハシテ。二ニ折テ可レ定。タケハタカクアラバ。ヘリノケテヨハウ。ヒキクバ。ヘリノケテヨハウ也。ヘリノ高サ一寸バカリガホド也。人ニヨリテ五六分モアリ。七八分モアリ。可レ計。

一身ノ二アルヲバ大忌ト云。一アルヲバ小忌ト云。

一晝装束ト云ハ束帯ノコト也。直衣并衣冠ヲ宿装束ト云ヲモチテ可レ有ニ了簡一。

一ハタカ單トハ束帯時打衣袒ヲ不レ着ヲ云カ。

一束帯着次第。

先着ニ赤大口一。其後表袴ニ足ヲ入テイマダ腰ヲユハズ。次ニ單ニ袒ヲ重テ後。袴ノ腰ヲ結フ。腋ノ通リヨリハ聊前ヘヨセテ。右ノ方ニ片カ

ギニ結レ之。腰ノスソヲ同程ニハカラフ。但片ミジカ也。サガリノ程上臈ハ長ク。下臈ハタカク也。或ハ前ニ兩カギニモスベシ。次ニ下襲ノ腰ノシハヲ深ク入テ。帶ニテ腰ヲユフ。但裾ベチナラバ。裾ノ腰ニテ可レ結。或ハ半臂重テ忘緒ニテ可レ結レ之。次ニ半臂忘緒ノワナヲ左ニアテ、。イタクツヨカラヌ程ニ結レ之。其後ニ袍ヲ着テ。頭紙ヲバ前装束師マハシテ。後装束師ヒボヲ入。先右ヲ可レ着。右ノ袖ヲ手ニ入ル。下カヘナル故也。次ニ腰ノシハヲ深ク入テ。前ヘマハスホドヲ可レ待。前ヘマハシオフセテ後。尻ヲ作テ前装束師ノユビニオサヘサスベシ。尻ノ作ヤウ。腋ノ縫目ヨリチト前ノ方ヲサシサゲテ取テ。上ヘ引上。其アゲホド。スソニ見合テ。襴ノ高サヲハカラフベシ。帶ノトホリヨリシモヲ引上テ。腋ノシハニマトヒ付ヤウニカラミカクシテ。內ヘヒ子ル也。下ヲバヨコザマニ取テ。上ヲバタテザマニ取テ。腰ヲカフベジ。チトマトヒカクシタルヨシ。尻ヲ帶アテ、ノチ。大ニヒキナセバ。ワキノシハヒカレテツマルガヨキ也。前装束師ニヨクトラヘサセテ。其上ニ帶ヲアツ。帶ユヒテノチ。尻ノ大小ヲ見ハカラヒテ。イマダウルハシクシメザランサキニ。尻ヲ作オフスベシ。ツマリタラバ。イクラホドモヌキ出ベシ。大小ヲハカラヒオフセテ。尻ノ高サヲハカラヒテ。高クバ內ヘヲリカヘスベシ。中ノ縫目ヲバ帶ノ下ノトホリヨリモイマスコシサガリメニヲル。左右ノカドヲバ帶ノ中スミニアテガヒテ中タワニスベシ。三角一面ニスルト云ハコレナリ。三角一面トイヘバトテ。中ノヌヒメヲ装束師ノ前ヘ引テカドヲツクルコトニハアラズ。心エヌ仁。サヤウニスルコトアリ。比興也。三角トハ兩方ノカド二角タカクカド有。中ハ中タワナルガ一角也。兩方ノ角

ノアヒハ面スグナル間一面ト云。中ノヌヒメニカドヲアラセントテヲル事。ユメ〳〵アルベカラズ。中ヲヒキクダニアラスレバ三角ニミユル也。兩方ノカドヲタカクシテ。カドヨリナホ腋ノカタヲベタ〳〵ト取ヒシギテ。カドヲタテタルガヨキ也。カドヲタテ、帶ノカタヲ共ニマカサントスルハキタナキコト也。帶ノシハヲヨク〳〵腋ノカタヘオシヤリ。ミメヨク作ナス。尻ノ大小仁ニヨルベシ。相カマヘテ袖ノ下ニタワマヌヤウニスベシ。ワキノカヒヤウニヨルベシ。尻ノ大小。御所サマハ勿論也。大臣以下次第ニチイサクス。但參議ニイタルマデハ。公卿ナレバイタクチヒサカルベカラズ。殿上人モ次第ニ。下臈ニナラバチヒサクスベシ。凡尻ハ餘ニ大ナルハワロシ。次ニ襴ヲオシカヘスコト。襴ヲ上ヘハ子アゲテ。ソレヲマタ上ザマヘミマキシテ。主ノ大口ニオシマトフベシ。次ニ袖ノ衣モンカクコト。身ヨリノシハヲカタノトホリヨリハサゲテトリテ。上ヘ高クカキ上。次ニ一ノシハヲカマヘテ深ク入テ洞ヲ深クスベシ。二ノシハヲバ淺ク。ホラノトヲリ取。身ト袖トノ縫メヨリ三寸餘身ヨリノ方也。二ノシハハ是ヨリハシヘ二寸餘。一二ノ間也。二ノシハトハタ袖ノ付目ト一寸バカリアルベシ。一ノシハノサキ。ム子ノヲリメヨリ一寸或ハ五分ウシロヘコス。ム子ノヲリメタカクツキタラバ。ヲリメノモトニテアルベシ。タカサヒキサニヨリテ見合ハカラフベシ。一ノシハ。ハタ袖ノ付メヨリオクヘ四寸バカリ入ベシ。其次ニソノアヒホドニ二ノシハヲ付ベシ。二ノシハハイサヽカナルベシ。マタ同ジホドニモス。是ハワロシ。袖ノ外ハ一ノシハノトホリヨリハタ袖ノスソヘカドヲトホスベシ。サレバトテ。カタナノハノヤウ

ニトルコトハワロシ。マロヤウニトルベシ。ハタ袖ノスソ上ヘハスルコトハ地下ニイタリテノコトナリ。殿上人以上ハ唐ノ犬ノ耳ノヤウニフラ丶トサガルベシ。ソレサグルシダイハ。一ノシハノ通リヲ次第ニスソヘニホハカシテ。ハタ袖ノスソヘシダイニニホハカシテ。スソマデヲリワレバ。スヱハフラ丶トサガルモノ也。袖ノ衣紋モシリノゴトク。次第ニ下﨟ヘハ小クカクベシ。洞ヲサゲテトリテ。後ヘ袖ヲコセバ。衣紋大ニナル。洞ヲアゲテ取テ衣紋ヲ付バ小ナルベシ。次裾ヲ石ノ帶ノ上手ニカクル事。帶劒ノ時ハ劒ノ足緒ノアヒニカクル也。殿上人ハ尻ノ右ノハシ。面ノ白ミヲ二寸バカリミセテ。アラハニヲリカヘスベシ。公卿ハサモセズ。只裏ノ黒ミバカリヲミスル也。大方中ノヌヒメヲバ前ヘナリ。兩方ノハシヲバウシロヘナリ。スソノナガサノ事。表袴ヨリチトアガルベシ。ソレモ仁ニヨリテケヂメアルベシ。公卿ハ大略スソヲヒクホドナリ。前裝束師表袴ノ腰ヲバ結ベシ。是ハ本義也。右ノ腋ニユフハ片ワナニ結ベシ。スソノサガリノホド。カタ〳〵餘ニ長クバ。ワナニ長キ方ヲカヒカクベシ。袒ノ前フクラ。腋ヲヨクククツロゲテ。タワヤカニ引上ベシ。下重ハ兩方一寸餘前チフス也。ヅツヲリテ。コレモ腋ヲタブ〳〵トクツログベシ。前ノ高サハ襴ノツケメマデトヾクベシ。但前フクラヲ本トスベシ。次ニ半臂ノ前ニホソキ物ヲクビノサキ也。兩方ノ腋ヘオシヤリテ。下具ヲモタスルヤウニ。此前ヲバチトツメタルガヨシ。忘緒ハイタクツヨカラズ。或ハ忘緒ノ引帶ヲバウシロバカリニアテ丶前ヲバハヅシテ緒ニハコメズ。袖ノ衣紋カク時ツマルハワロキ故也。前ヲハヅシタラバ。ノチニクビノサキヲバ帶ニカフベシ。凡前ヲバ半臂バ

カリヲバハナツキニス。次ニ袍イマダ着セザル以前ニ。先下具ノ袖ノ下ヲ取合テ。ヨコザマニ主ノ手ニモタセ。其後袍ノ袖ヲ入テ。頭カミヲ重テ。ヒボヲ後装束師入ヲ待ベシ。次ニ下カヘノランノ付ギハヲ取テ。主ノ後ヘ左ノ手ニテ引マハシテ。右ノハギニ引カケテ。左ノ手ニテトラヘテ。右ノ上イ手ヲサシヤリテ。セノヌヒメヲ取テ主ノ左ヘ引ベシ。セノ縫メ。ナカラヨリチト左ヘスグルホド也。右ノ手ニテ襴ノツケギハヲ後ヘ引マハスベシ。左ノ手ニテトラヘタルヲバハヅサズシテ。右ノ手ヲウシロヘヤル。装束師ノ左ノヒザニテ。ハヅレヌヤウニ押付ベシ。上カヘマハシオフセタルトキ。マタ装束師ノ右ノヒザニテ主ノ左ノハギニオシツケテ。前ノ高下前フクラヲバハカラフベシ。上カヘノ大クビノ帶ノシタヲナカラバカリタテザマニヲリテ。ランノツケギハマデ也。スヂカヘテニ

ホハカスペシ。ランマデハカクベカラズ。前ノフクラミタラバ。アラハニシテ。上左ノ手ニテナリ。ヲバ下ヘ内ヘオシイレ。上ヲバ右ノ手ニテサヽゲテ。其上ニ帶ヲアツベシ。緒ヲ二マトヒシテツヲクユフペシ。次ニ上手ヲ取テ左ノワキノ下ヨリサシヤルベシ。前ノヒキサハ。院春宮。御足ノコウニツク程也。主上ハ今スコシ高キヤウニメス也。執柄ナドハ一寸バカリアガルベシ。大臣二寸バカリ。大納言以下花族ナラバ二寸餘アガルベシ。或三寸。人ノ家ニヨルベシ。藏人頭五寸。四位五位ノ雲客ハ六寸バカリ歟。袖ノ衣紋カク時。袍カサ子ヌ以前ニ。下具ヲヨク〳〵重オフセテ。袖ノ外ワキノシハノソバノヲリメヲトリヒシグベシ。袍カサ子テ後ハ。ツヨクカタナノハノヤウニハトルベカラズ。袍カサ子テ後。衣紋ウルハシクカク時。其ヲリメハタ袖ノキハ。ヲ一人ハトラユベシ。凡

衣紋ヲバ後裝束師カクベシ。ウシロヲバ上手ガスル故也。ハタ袖ノハシヲサゲテ引バサガル也。アゲテ引バアガル。

一下具事。

半臂。在二忘緒一。下襲。裾別ニモ有。打衣。夏引倍木。袙。單。表袴。赤大口。大帷子ハ非分ノ物也。夏ノ時ハ無レ單。大帷子ヲアセトリト號テ着。白モ赤モ大帷子ハアセトリト云也。夏ハマタ單ヲコハクハリテ。ハリ單ト云テ着。袙ヲバ老者ハ不レ着歟。此時大帷子也。打衣ヲバ夏ハ不レ着。此面ヲハナチテ着ヲ引倍木ト云也。餘リニ年少ノ時。大帷子ハ無骨也。主上ハ御大帷子メサズ。御鞠ナドノ時メス事アリ。十五以前六十以後。赤帷子ヲ不レ着。白シ。十五以前ハ濃色ナル間。帷ハ白シ。六十以後ハ老者ナル間。何モ白キ具成間白シ。凡鞠時ハ直衣衣冠ニモアセトリトテ赤帷子着。面白キ也。又白帷子ハ勿論。イツモ着間無ニ子細一。

一直衣着次第。

先下袴。當時兼指貫ニ重テ一度着レ之。次單。夏ハ無レ之。更衣ノ單ヲ着也。老者汗取トテ帷ヲ着ス。主上花色御帷ハメサズ。次袙。夏ハ更衣。單。大帷ナド着也。次指貫。次打衣。夏ハ引倍木。妻ヲ不レ出バ指貫ノ下ニ着。又説ニ。妻ヲ出トモ下ニ着テ。指貫ノ上ニ。古ハ前ヲホコロバシテ出説有。上結ノ時。打衣。單。下袴不レ着。此時ハ大口バカリ也。只袙ト更衣單ト也。着樣ハ。腰ヲマハシテ前ヲ靑魚尾(サバ)トテウチチガユ。當時ハ如ニ束帶ニスソヲマハス也。ハコヒノ作樣。下ヲ上ヘ。人ノ下クチビルノヤウニシテ。マタ上ヨリクチビルノヤウニ下ヘキスベシ。タヾシマタ下クチビルヲ畧シテ。上バカリニテクワセタルヨシ。ハコヒノ下ヲ帶ノ下ヘ引タルハ。ハコヒノサキハ子テヨシ。縫目ニカド

ナクテマロヤウニハスベシ。腋ノシハヨク入ベシ。小紐ノ付所肝要也。帶トホシトテ。袖ノ下ニハコヒノ上一寸五分アル所ニ付ベシ。腋ノシハハ下具ノ着樣ニヨルベシ。衣紋如ㇾ束帶ㇾ。

實身寸法ヲ取事。其仁ヲ板ニ立テ。一ノ骨ヨリ板敷マデ可ㇾ取。廣サヲバ左ノ手ヲノベテ中指ノサキマデ可ㇾ取。若此人普通ニカハリテ腰高クモヒキクモアラバ。腰ノモトニ寸法ヲ可ㇾ取。

代々相傳之口傳抄。先一帖奉ㇾ授ニ小弼殿ニ候。不ㇾ及ニ外見ニ。可ㇾ令ニ秘藏ニ給ㇾ者也。

貞治五年九月六日

藤原永綱二位
連阿　在判

連阿不足口傳抄 肥前入道持連橘以國抄共也

一指貫身入次第。殊口傳故實アルベシ。

下袴ヲ指貫ノ縫目ヨリ後ヘ五分コスベシ。指貫ハ前ヘ五分チガフベシ。下袴カヘスコトキビスノモトヨリ一寸五分殘シテ內ヘヲリテ。前ノヌイメノトホリヨリモ、ダチノ方ヘ上ヘサキボソニヲリカヘスベシ。但是ハ故實也。本儀ニハ。指貫ノスソヨリ一寸五分ヲリカヘ

スヲ皆內ヘカヘス。之ハ昔也。當時ハオリチガヘタルヨシ。若クオサナキ人ハウスク入ベシ。次第老者ハアツク入ベシ。ナニトシテモアツクナル間。イカニモウスク入ベシ。ク丶リノシワ。長ク末ヲトホシテ。不同ニ入ベシ。シワハコマ〳〵トアルガウツクシキナリ。ヨウロタワノシワハ。モ丶ダチノハシヘオリトホスベカラズ。六七寸オクニテタテザマニシワノ末ヲオリテヲリトムベシ。ニホワズシテニハカニトヾマリタルヨシ。下袴ヲ重時。シトシトト重ヲウスベシ。入時モ丶ダチノタモトヲ人ニトラヘサセテ。キビスノモトヲ我足ニテフマエ。左ノ袴ヲバ我右ノ足ニテ。右ノ袴ヲバ我左ノ足ニテ踏ベシ。ヨウロタワノシハヨリ入ベシ。アマリタカキモワロシ。ヒキ丶モワロシ。テウレンセバ可レ有二了見一。

シワノ名。

股ダチノトホリニシワノ數多キヲバク丶リノシワト云。手形ノシワトモ云。靑袴ニハ必手形ノシワト云ベシ。マタノトホリニ一ツトホリタルヲバヨウロタワト云。ソノトホリノ前ヲバ膝ノシワト云。ヨウロタワノ前トモ云。スソニサガリタルヲ追立ノシワト云。追立ノシワト云ハ。今チトケスシキ叓也。タヱヌクシワト云。サキダチキル時。ヒカレテタヱヌユヘナリ。其前ヲバ菖蒲形ト云。是ハフタ靑袴淨衣ニハヨシ。指貫ニハタヱヌノシワノ前ト云ヨキナリ。ヨウロタワノシワノ內ヲヨコザマニミダレズ。ヌケヌヤウニアヲノキミオリカヘスベシ。カマカセテムズトヲルベシ。

ク丶リノクミノ名。

腹白ト云ハ。一筋ハ白。一筋ハ指貫ノ色ナリ。是ヲク丶ルヤウ。ク丶リサシノ上マナカホドヲ。一寸バカリヅツサシトホシテ。色アルヲ下。

白ヲ上ニ入テ。引スヘテ身ヲ入ナリ。花族ノ人ハモ、ダチノトホリノヌイメノモトヨリ出ス。花族ナラザル人ハ前ノトホリヨリ出ス。其組ヲ三グミニスベシ。藤花ノヤウナリ。カマヘテ色ノ有ヲ面ニ出サズ。腹白ハ腹黒ニスベシト云々。クミタル分ノ長六寸バカリ。其末ニクマザル分。色ノアルニ。白ニマカルベシ。其長七八寸バカリ。ワナノ方ハクミトヾムル所ニテトヾマル。白ト色ノアルト。二ニテオシマハシテユイトム。此分十五以前ノ叓也。十六七バカリマデモスル人アリ。オサナキ時ハヤワラカニクム。次第ニカタククムベシ。凡十六以後。ク、リサシノ内ヘ二筋ヲ入テ。前ノヨリ出テ腹白ニクムベシ。此時ハチトミジカシ。此後此定ニ出テクマズシテタヾオシミダスベシ。此名ヲミダレ腹白ト云。此後子ズヲトテ。ワナヲ内ヘ入テサキヲ出。鼠尾ノ長八九寸許ヲ一筋出間出分ハ二筋也。此ク、リハ必白カルベシ。老者ノ指貫ナル故也。コノ後ワナノ方ヲ出猿ヲト云。子ズ尾ヨリ短シ。四五寸歟。六十ニナラバコムベシ。但子ズヲサル尾ヲバ常ニハ不レ出。引繕(結イ)之時可レ出。唯普通ニ。常議ニハ十五マデク、リサシノ上ヲ一寸計サシトホシテ腹白ニクム。此後ハク、リサシノ内ヘ入テ取出テクム。此後内ヘ入テ取出テクマズ。廿餘ニナラバ。コメク、リ。ク、リサシノ内ヨリ出バ必自レ前ス。凡花族ハモ、ダチヨリナレドモ。御所サマコソ如レ此ナレ。關白家凡人家人ノ心ニヨリテ。自レ前出仁アリ。可レ尋ニ其人一也。

一ク、リ本樣。

一淨衣身入次第。ク、リノシワノ所。白菟ノ額ヤウナルベシ。下袴ヲ皆内ヘヲルベシ。追立ノシワヲバ不レ入。ヒザノシワヲバ指貫ノホドフカクハ不

レ入。ク丶リノシワハアラ〳〵ト可レ入。此シワヲトホス時。マツ通ヲミセテ。手ニテ取ツメテ。ク丶リテスフベシ。モ丶ダチノトホリヲ人ニトラヘサスルコト。アハヒ四寸バカリオキテ。股ダチヨリモシモヘ六七寸許サゲテ。兩方ノ手ニテ引ハダケテトラヘサスベシ。ヒザノシワヨリ下ナルシワヲカタ〳〵トヨスベシ。ヨウロタハヲバキハメテ多クマロヤウニシモヘタハシテ。サキサガリニスヾキノナビキタルヤウニ入ベシ。筋ヲスグニトホサズシテ。シワヲベチ〳〵ニトリトホス。ヒト丶リニセズシテ。取ニカメ〳〵スベシ。

シワノ名。

ク丶リノシワ。手形ノシワト云。ヒザノシワ。

菖蒲形。是ヲチノウチト云 指貫ヲマシ。 追立。此シワハ不レ入。指貫バカリニ可レ入。

ヨウロタワ指貫ニカハル多。

モ丶ダチノ後ニタテザマニオリタル。ユキカクシノシワト云。指貫ニナキシワナリ。

一襖袴ノ身如二淨衣一。但アラ〳〵トヒキ〳〵トケスシク入。

一水干。狩襖。上ハ水干。下ニハ指貫着也。スソゴノ指貫ナド也。兒童ナドノ着歟。下具如二狩衣一。

一臨時祭ノ小忌事。

前後ノ着様如二狩衣一。前後ニカメス。衣文ハ身ヨリバカリヲカ丶デカイタグベシ。裾ヲ上手ニカクル時。闕腋袍ノ如クヒナガシラヲ取。小忌ノ時右ヲカタヌグ。赤紐ハ左ニ付。一筋也。石帶ノ上手ノ内ヲ引トヲスベシ。闕腋ナル間半臂アラジ。必々可レ出。夏モ冬ノ下具ヲ着スル。面白儀ナリ。此公事ノ本儀冬ナルユヘナリ。五節ノ時ハ左右思々ニヌグベシ。

一ヒカゲノ糸付事。

冠ノ角ノモトニ青絲ニテユイ付。苔ノマヲナリ。心葉モ角ノヲバ前ノカタニ草ノオイ出タ

ル樣ニ付ベシ。苔ヲウユベシ。青糸ヲ苔ノ樣ニ付ベシ。是糸也。

凡小忌ノ赤紐左ニ付。右ヲヌグ也。當家ニハ付チガユベシ。他家ニカハルナリ。カタヌグ時ハ。紐ヲハヅシテ小忌バカリヌギテ。下具ヲミスベシ。

一小忌。文ハ遠山ニ雉。縫樣如二狩衣一。但タモトハ如二淨衣一。袖四如二束帶一。ミノ下具ヲ着間ナリ。裾長下襲同。短裾ノ仁モ此時ハ長裾也。

臨時祭ノ小忌ノ繪樣。

大嘗會五節ノ小忌繪樣。

五節之時ハアナガチニカタヌガズ。但五節ノカタヌギト云ハ。袍着タル時ノ事也。其時ハ袍バカリヌグナリ。梅ヲ付ズシテ小草ヲ付タルヲバ小草ノ小忌ト云。草ヲハラ〳〵ト摺付ナリ。

殿上ノ淵醉如レ此。

一凡小忌文ハ。杉。梅。蝶。小鳥ナリ。

一舞人裝束事。

摺袴。腰左右ニ結垂ベシ。ヒヲク、リツカリノクミ。片一筋ヅツナリ。或ハ二筋ニテ片ヲツクル。此時兩方四筋也。キラメクニクミノサキニ露シベヲ入ベシ。玉ニテ上サシス。或ハ又金物ウツ。ツカリノアナニ。撿非違使彈正官等跨々ヲク、ル。

赤紐事。陪從舞人左ニ付。クセ馬ニ乘時上手ニカラム。又ハタ袖ノハタヲ一寸バカリ切テ。大指ニツラヌク。此時是ニモ金物アリ。半臂打衣タムベシ。ハタ袖ノ金物。當時無二其儀一。

一摺袴ノヒヲク、リノ本樣。

一使束帶。公卿使不給　御服給。御下重。御表袴ナリ。

一舞人。　青摺。小忌也　桐。竹。鳳凰。　摺袴。蠻繪。

キラメク時。年少綾ニテ下地ヲスル也。スリバカマト云ハスリノ名ナリ。

一陪從。　青摺。文。シュロ。表袴。普通。

一加陪從。　陪從ニ同。
一此日ハ舞人馬腦帶ヲ指。乍ニ十人一也。六位ハ犀角ノ丸鞆。布帶ヲモ指也。
此日四品ノ指馬腦ヲ借用ノ心地也。
一頭挿花事。使藤。陪從山吹。　舞人櫻。人長藤。使ニ同。
主上先黄櫨染。庭座御覽之時。孫廂ニ出御之時ハ青色御袍被ニ着御一。此時六位不レ着。凡青色袍。於ニ禁中一一人着間也。此日雖レ爲ニ四品一。不レ指ニ馬腦帶一。舞人被レ借間也。犀角ヲ指故ハ日本國ニ馬腦十具アルヲ舞人十人ニ被ニ借用一間也。八具ト云説アリ。其時ハ六位布帶ヲ指。
一臨時祭日ハ近衞司着ニ禁色表袴一云々。近代無ニ此儀一。
一舞人裝束事。
其祭夏ナル時モ冬ノ下具ヲ着モ一説也。又夏冬着スル一説。又夏ナレバ一向夏ノ下具着ス。一説也。一向夏ノ下具ヲ着。小忌ノ鷺目ニハルベシ。又冬ヲマスル時。引倍支ヲ略シテ唯袙ヲヒラク、リヨリ出ナリ。是一儀ナリ。
一赤紐事。
長一丈廣サ三分ニ。中一筋ハ蘇芳。二筋ハ濃色ドリ。タ、ミ樣ハ一寸四分ヲ四ニオリテ。三分半ニタ、ミナシテ。中ノホドヲニナニ結テ。テウ小鳥ヲアイニ書也。押モスル。金銀ノハクニテモスルナリ。
一五節ナドノ時。小忌公卿下ハ表袴也。摺袴ハ凡舞人バカリ也。
一元服次第。主ハ我手チニギリテ。二ツ重テヒタヒニアテ、。ウツブキニ龜居也。
打亂筥。廣蓋。兩説。小本結三筋可レ入レ之。二筋ハサキユイワク。刀ハタカンナ刀。サキヲ五分バカリスグニヲルベシ。ス刀ト云之時ハ刀ノサキチトマロヤウナリ。ツカノツ、ミヤウハ。タカンナツ、ミナリ。髮ハ二ニワケタルヲダンシニテツ、ミテ。一一ニオリテ刀ヲサカテニ

持テ。我方ヘハヲナシテ引キル。主ノ方ヘハヲムケズ。左ヨリハヤス。理髮ノヒザノ下ニサシカウ。左ノヲバヤガテ左ニ。右ヲバ右ニナリ。櫛手拭ハ綾二ノ三ノ間也。四方ナリ。ソレヲ主ノ前ニヒラク。元服ノ具ト云ハ小本結三筋。櫛三枚。此内トキ櫛一枚。カミヒチリ三筋。タカンナツ、ミニス。カウガイ二。ビン櫛一。刀一。長六寸。ユスルツキヲ柳筥ニスユ。打亂筥ハ猶本儀也。ユルス土器ノ臺アラバ勿論ソレニスユル。ユスルツキト。自餘ノ具足ト物二ニスユ。

親王殿下御元服事。又在別紙。

一髻取次第。スルスツケ紙捻三五七九之間凡半ナルベシ。

先二タケノ紙捻ニテ根モトユイヲス。三マトヒシテ一ムスビニス。次ニビムフクヲ引ヒキヲウセテ後。ツヨクシメテ眞ムスビス。其キハニスルスツケノカミヒチリ一アリ。カミヒチリ五ナラブ。次ニアヒヲアラセテ又スルスツケヲス。其數半ナルベシ。取持ハ本儀ハ元服ノ時ノ如クアルベケレドモ。主ノ居ヤウニヨリテ後ヨリモトル。ソバヨリモトルベシ。其主チクラハチテモトルベシ。凡小本ユイニテモトレ。取時ハウツブキタル本儀ナル間。トモカクモアルベシ。カマヘテ主ノムヅカシク思ハヌヤウニトルベシ。此後（衍歟）ヒビンカク時。カウガイビングシサカテニトリ。口ニテクワヘナドスル。ミグルシキ事也。カウガイノ取ヤウ書付ニ及バズ。可有口傳也。文章不足。口傳抄不可有他見。無沙汰之子孫ニツタフル事アルベカラズ。可入火中。後嵯峨院以來隨分有沙汰事ヲ書付。寶治以來抄共也。

貞治五年十月三日又一帖書進也。

藤原永綱入道
連阿彌陀佛

此本民部少輔高階盛重朝臣授畢。

應永十一年九月十日書寫。

右京權大夫高階成春相ニ傳之一。

此抄伯二位忠富王所持本。一覽之次卒染筆。[者歟]ハ可レ出ニ他所一而也。

永正第三暮春候　　内大臣（花押）

裝束雜事抄

淨衣事。布六丈。上下之分。

白布こはぐ〵と調ず。上は布衣に同じ。但兩方の袂を前へ一寸づつぬひこす。はた袖のはしをば内へ折て縫なり。其外はひねり。前後のすそをひねらず。袖のくゝり白すゞしのまろぐみ。つゆばかり入也。十五歲までは白生平絹をさす。或は白糸くゝりも用レ之。此時ははた袖はしぬはず。ひねるなり。五だんに入。かり衣のごとし。はた袖のはし縫事。昔はまる組を縫くゝみけると云々。今は露ばかりなれども。そのゆへ也。はかまもおなじ布。もゝだちの二のろ。前うしとをして。まへにちといろ。うしろへまはり。わりの後に入。如レ此四のづつ左右の袴にあるべし。惣の袴の廣さ。昔は一尺三四寸にすぐべからずと申ども。當世はひろきをこのみて。一

尺六七寸にさたす。またこし白生平絹。白下袴。はかまぎはを入なり。指貫は中にをよばず。夏冬同物也。下具冬は袙。或衣大帷子。夏は引倍木。或單等也。色目狩衣に同。常はたゞ大帷子ばかり也。白生帶。大口は着せず。衣文も狩衣に同。衣等を着せば。袴ぎはにかさねくはゆべし。社參の時用之。仙洞も内々御社參の時は着御あり。公私かはらず。又生絹淨衣もあり。童形もしは上﨟の若時用之。絹には必袖紙白平組也。或はいと下具は布に同。委細は式目抄の下にあり。

半尻事。三丈一(二イ)尺。

かり衣のうしろの一尺ばかりみじかき物也。色目。着用の時節。衣文帶等。皆かり衣に同じ。宮の御童躰御俗躰。若き御時着御也。攝家淸花人も若時着す也。指貫に着せば袙など下具あるべき歟。常は只内々まへ重の白大口も着給也。委細は法躰裝束抄の奥。童裝束の所に有。

布衣の事。

しらあをころ香花田等也。萠木みる色檜皮などもある歟。此色々はきぬの狩衣着する年齡に同。常の布ひとへにてはたをひねる。前後のすそをばひねらず。ぬひやうも下具等も同前。色を付るには薄き布がうつくしき也。袖のくゝり生の白糸をさす。二筋づつ入也。三だんに染。まつ紫たん十五或十六までさす。(又おさなき時はけぬきがたもする也)もえぎたん。十六七より廿四五或卅ばかり迄さす。こうたん。廿六七或卅ばかり迄是をさす。白糸は六十ばかりよりさす。是も官によるべし。白あをのふん也。色ある布衣には老少たゞ白糸の紙也。又萠黄たんさす程の人。たとへば廿三四のころ迄は。ころ香なども。此もえぎたんをさすも。内々はくるしからず。夏冬通用也。又晴のとき二藍などに白生の平組をもさして。若人

用なり。五たんにこはりをつかひても入。又こはりもなくてつきとふしてもいるゝ也。仙洞も布衣をめさるゝなり。光嚴院は花田寄布の御狩衣を夏常にも着御有しと云々。下具きぬのかり衣に同。

臣下袍事。

四品袍。ふしかれ染綾しゞら。宿老は熨斗目也。裏平絹。色表に同。はた袖は面を折かへす。夏は薄物。關白より四品まで袍色おなじものなり。

攝關家御袍文。

地唐草窠中に龍膽。中少將より大臣まで此文なり。

雲立涌。關白當職之時着給也。

雲ニ鶴。大閤之時着給也。是は大畧のしめ也。

凡人袍文。一通の人の事なり。

〔[illegible]〕輿唐草。閑院兩家は皆着す。但三條家は輪無レ之と云々。此外着用家々。御子左。四條。平松。楊梅。山科。菅家。當家。兩局輩着二用之一。

無輪。源家。平家。花山院。三條。日野。勸修寺。

異文之事。但大臣以後家々之文不レ同。又相國之時袍文かはる也。

三條。きんけう所々。德大寺。西園寺。花山院。大炊御門。久我。堀川。勸修寺。竹の丸を着云々。

五位袍。蘇芳染綾しゞら四位に同。家々不レ同。裏平絹。色表に同じ。又黒裏も付る也。夏は薄物。文(色イ)同。

朱紱。赤衣事也。色紅に黄氣あり。しゞら。文不レ同。裏平絹。廷尉彈正は黄裏。五位外記史は蘇芳裏。夏は薄物。文色等冬に同じ。官外記は。入らんとて。袍の左右のらんのありを中へおし入てぬひて。當職の程は着也。他官不レ然。

六位袍。綠衫平絹を紺に染たる物也。裏蘇芳。夏無文薄物。こめと云物也。色二藍むらさき色なり。

青色袍。練浮織物。文牡丹に尾長鳥。たて青。緯黄。裏蘇芳。夏は裏をとりて着す。夏冬同物なり。麹塵ともいふなり。

此青色は殿上六位藏人一﨟必是を着す。晴の時は三人迄着して路次供奉。庭上迄參內す。堂上は一人ならでは着せず。院以下諸第へ參る事子細なし。又一﨟藏人は。公方御袍黄櫨染。をも下されて細々着二用之一。

文官は縫腋垂纓。武官は闕腋細纓老掛等也。文官なれども內舍人兼帶の藏人は。

警固時は卷纓。老掛。弓箭。劒を帶す。袍は縫腋なり。二省丞は此御袍をば公方御束帶の日は着せず。私の青色を着す。又臨時祭庭座の時は。私の青色も着せず。位袍を着す。これ公方青色を着御の故也。まとはしの袍は。たつ時身の前うしろを引揃へて。中を折て。その折目のきは前の方に襟かたをあけて。うしろにはこゑのわなをぬひて。胸の折目をとりてたゝめば。前後同たけに成なり。此外らんあるべし。

わきあけの袍事。

公卿は衞府官なれ共着せず。殿上地下四位五位の衞府官着之。常のまとはしの袍のらんをときて。うしろにぬひつゞけて。下襲の裾の長さに同す。節會行幸の時かやうなるべし。着様は後伏見院震筆御抄にあり。但その樣に前を當時はひきくは着せず。ちと高き也。六位藏人のわきあけは。短樣裾たけとひとしき也。後四五寸計打はゆべし。下襲のゑりより一二寸みじかゝるべし。武官の藏人はいつも腋あけを着する也。まとはしもわきあけも。着様は口傳抄。後伏見院御抄にあり。肩あて腰あては當世きず。

裝束の下に着小袖の事。

白き小袖は老若用之。紅梅うき織物のこうばいは。十五迄着用之。白きうき織物は廿四五迄着なり。但官又人によるべし。廷尉佐弁官は練貫着せず。但職事兼帶の弁は着す。綾の小袖は三十餘より着之。夏は白帷子老少着也。

裾丈數事。

主上春宮是同。一丈二尺。

御きびすより御引ある分也。上につゞく御たけの分。此外四尺ばかりもあるべし。これは御おとなの事なり。御寸法にしたがひて

はからひ申べし。
上皇主上におなじ。
又凡人の如く。御裙を別にめさるゝ事もあり。時宜也。
關白。一丈二尺。
是もきびすよりの分。腰よりは一丈五尺。
大臣。一丈。
是も同前。腰よりは一丈三尺。
大納言。八尺。
腰よりは一丈一尺。
中納言。七尺。
腰よりは一丈。
參議二位三位。五尺。
是も腰よりは八尺。但參議二位三位は。今一尺餘ながしと云々。
撿非違使別當并大辨參議。三尺五寸。
腰よりは六尺五寸。
四位五位六位。四尺。
腰よりは七尺。
應永六年四月日
參議正三位行備中權守藤原朝臣永行

物具裝束鈔

一劔事。

飾劔。近代其實希也。當時用二餝劔代一也。公卿節會日用レ之。殿上人祭使之時用レ之。

螺鈿細劔。木地。公卿行幸日若列見定考之日用レ之。殿上人節會日用レ之。

樋螺鈿劔。樋計摺レ貝也。前官大臣常用レ之。

蒔繪細劔。或有二銀樋一。若人用レ之。蒔繪樋者雖二老年人一用レ之。公卿幷殿上人常用レ之。

蒔繪螺鈿劔。宿老公卿殿上人行幸之時用レ之。但近代公卿殿上人常用レ之。

黑漆細劔。諒闇之時用レ之。

螺鈿野劔。殿上人行幸日帶レ之。但花族壯年之公卿春日行幸ナドニ用レ之。常事也。

蒔繪野劔。大將直衣之時或用レ之。殿上人布衣日帶レ之。或雖二束帶一如二御幸一帶レ之。

金作細劔。大臣之外不レ用レ之。

一平緒事。

紫緂。四季通用レ之。　紅梅地。賭弓日大將用レ之。

香緂。　青緂。青楝緂平緒同事也。

櫨緂。秋外希歟。　薄櫨緂。

紺地。　楝緂。四季通用レ之。

萠黃地。緂イ　青摺。紺地ニ以二白糸一縫二桐竹一也。

鈍色無文。諒闇平緒。

一帶事

縠帶。

有文巡方。公卿節會行幸用レ之。　無文巡方。主上帛御裝束令レ用レ之給。

有文丸鞆。子細同二有文巡方一。

無文丸鞆。公卿常用レ之。帶二蒔繪螺鈿一之時用レ之。

馬腦帶。

巡方。曲水宴。野行幸。關白用レ之。　丸鞆。尋常四位五位帶レ之。

角帶。

巡方。四位以下節會行幸用レ之。　丸鞆。四位以下常用レ之。

一平胡籙事。

羽。　箆。箭十六也。此内落箭。

水精括。筈又波須トモ。　尻鏑二。或七。號二皆鏑一。

箙。木地螺鈿。大臣大將用レ之。蒔繪螺鈿。但刷日花族公卿將用レ之。

丸緒。　蒔繪弓。

一束帶事。

冠。垂纓常事也。

卷纓。警固中公卿殿上人爲ニ衞府官ー者用レ之。　柏夾。非常之時公卿殿上人爲ニ衞府官ー者用レ之。

細燕尾。六位侍非藏人隨身用レ之。　透額。年少人着レ之。

緌。

袍。異文大將以上着レ之。

縫腋。常着レ之。　闕腋。衞府官者節會行幸日着レ之。

半臂。公卿。夏三倍タスキ薄物黑染。襴同。冬面小葵綾黑染打レ之。裏平絹水色張レ之。襴羅單。但折レ端。非職殿上人。夏無文薄物。色同前。冬平絹黑染打レ之。襴同上。

下襲。公卿。夏赤色下襲薄物。文菱。冬躑躅下襲。面白綾。文浮線綾丸。裏濃打。文菱。非職殿上人。夏ニ藍下襲。無文薄物。冬躑躅下襲平絹。

表袴。若年公卿并聽ニ禁色ニ殿上人。窠霰浮織物。中年以上藤丸堅織物。若少人付ニ濃裏ー。

衵。夏不レ着レ之。若少人蘇芳或萠黃。中年人薄色。

引陪幾。夏着レ之。　單。夏不レ着レ之。若少人濃單。或青單。中年以上紅單。

大口。紅。若少人濃色。　襪。練貫。

魚袋。公卿金。殿上人銀。節會并祭使付レ之。　扇。

履。　笏。

白重。　唐裝束。

生裝束。　染裝束。

一直衣事。

直衣。夏公卿三倍タスキノ薄物。非職無文薄物。カトリノ直衣ト云也。冬公卿浮線綾丸志々良綾。非職無文綾。櫻直衣ト云也。

二陪織物直衣。上皇并兒着レ之。　織物直衣。花族年少殿上人着レ之。

紅梅直衣。　練貫直衣。

平絹直衣。

指貫。若年公卿冬紫織物指貫。文鳥多須幾。夏ニ藍生指貫。文同。自ニ五月ー薄物瑠璃色指貫。文ニ重多須岐。至ニ八月ー着レ之。壯年人薄色織物指貫。文藤丸。冬面裏練レ之。夏面生裏練レ之。織物淺黃指貫。中年公卿晴之時着レ之。綾指貫壯年以後夏冬通用着レ之。宿老大臣着ニ平絹指貫ー。

烏帽子直衣。大臣ー大納言大將等着レ之。又大臣子孫等雖ニ大中納言ー於ニ家中ー雲客以下對面之時着レ之。

小直衣。　狩衣直衣。

引直衣。

一禮服事。

玉冠。　大袖。

小袖。　裳。

表袴。　綬。

玉珮。　牙笏。

扇。赤色。　襪。錦。臣下白生絹。

引帶。生絹。　烏皮沓。

燈心輪。

一布衣事。

梅狩衣。面白。裏蘇芳。自二五節一正月十五日マデ年少人着レ之。

柳狩衣。面白。裏青。自二正月一至二四月祭日一着レ之。

櫻狩衣。面白。裏二藍。春用レ之。自二年少一至二壯年一着レ之。

櫻萠黃狩衣。面萠黃。裏濃二藍。春用レ之。自二少年一至二壯年一着レ之。

樺櫻狩衣。面薄色。裏濃二藍。春用レ之。自二年少一至二壯年一着レ之。

花山吹狩衣。面タテ紅ヌキ黃。裏黃。春用レ之。若人着レ之。

裏山吹狩衣。面黃。裏萠黃或紅。若年人春着レ之。

藤(萠カ)狩衣。面タテ青ヌキ黃。裏萠黃。自レ春至二四月一着レ之歟。

卯花狩衣。面白。裏青。四五月着レ之。

若鷄冠木狩衣。面裏共薄青。四月着レ之。

杜若狩衣。面二藍。裏萠黃。四五月着レ之。

盧橘狩衣。面タテ黃ヌキ紅。裏青。四五月着レ之。

楝狩衣。面薄色。裏青。四五月着レ之。

女郎花狩衣。面タテ青ヌキ黃。裏青。自二六月一至二九月一着レ之。

瞿麥狩衣。面薄蘇芳。裏青。四五六月着レ之。

菖蒲狩衣。面青。裏濃紅梅。四五月着レ之。

桔梗狩衣。面二藍。裏青。五六月着レ之。

萩狩衣。面薄紫。裏青。自二六月一至二八九月一着レ之。

紫苑狩衣。面濃薄色。裏青。自二六月一至二八九月一着レ之。

黃紅葉狩衣。面萠黃。裏蘇芳。自二九月一至二五節日一着レ之。

青紅葉狩衣。面萠黃。裏黃。自二九月一至二五節日一着レ之。

菊狩衣。面白。裏青。自二八月一至レ冬着レ之。
黃菊狩衣。面黃。裏青。自二九月一至二五節一着レ之。
龍膽狩衣。面蘇芳。裏青。自二九月一至二五節一着レ之。
枯色狩衣。面黃。裏青。自二十月一至二翌年三月一着レ之。
松重狩衣。面青。裏赤色。四季通用歟。年少人至二十五歲一着レ之。
二藍狩衣。面裏同色。
二藍布狩衣。若年人着レ之。
薄色狩衣。於二此狩衣一者。不レ謂二夏冬一必可レ用二生裏一也。面裏同。
薄青狩衣。面裏同。中年以後用二白裏一也。
朽葉狩衣。面タテ紅ヌキ黃。裏黃也。
檜皮狩衣。宿老人用二白裏一。面紫。裏同。
白襖狩衣。
白襖布狩衣。
香狩衣。若年人モロ香。壯年以後香ノ貫白也。老年人白裏。
香布狩衣。
花田狩衣。面裏同。宿老人用二白裏一。

赤色狩衣。面赤。裏二藍。年少人着レ之。
萠黃海松。面裏同。年少人着レ之。
海松色狩衣。面色青黑ニテ如二海松一。裏白。宿老人着レ之。
比金襖狩衣。面タテ黑青ヌキ黃。裏□。或說。タテキヌキ黑青ト云々。是定說歟。
移菊狩衣。面薄紫。裏青。
紅梅狩衣。面タテ紅ヌキ白。裏□自二五節一至二正月一着レ之。或說。自二立春一着レ之云々。

一唐鞍具事。

橋。付四緒手。
表腹帶。
力革。
銀面。
尾袋。
頸總。
革鞦。
攝蝶。ムナカヒ十三。シリカヒ十八。ヲモカヒ十。
手綱。

表數。
鐙。
轡。
角袋。
雲珠。
大滑。
杏葉。ムナカヒ七。シリカヒ十。ヲモカヒ十。
餉付。十。
差々繩。

引差繩。　鞭。
靭負搦。　鞍覆。
一移具事。黒移。平文移。
橋。　左筆。
大滑。　鐙。
轡。　手綱。
鏁覊。　鈴。平文之時用ㇾ之。
一和鞍具事。
橋。四緒手。　表敷。
表腹帶。　切付。四位豹。五位虎。
大滑。同前。　鐙。大滑之時壺鐙。切付之時舌長鐙。
轡。　手綱。公卿蘇芳綟。殿上人棟綟。
尺泥障。切付之時用ㇾ之。大滑之時不ㇾ用ㇾ之。
一鞦事。
連着。　畝鞦。
楚鞦。　小總。
連子總。

一切付事。
小豹。公卿及四位用ㇾ之。　竹豹。小豹ヨリモ勝物也。上臈上達部用ㇾ之。
虎。五位用ㇾ之。　葦鹿。外記史内記等用ㇾ之。
水豹。六位用ㇾ之。
一手綱事。
蘇芳綟。公卿用ㇾ之。　棟綟。殿上人以下四位五位用ㇾ之。
紺綟。六位用ㇾ之。
一鞍覆事。
打鞍覆。面濃打。裏蘇芳打。　織物鞍覆。面青顯文紗。裏青打絹。
透鞍覆。地薄物青。文三倍多須幾一倍也。鰭チ捻。以ニ色々糸一唐鳥唐花縫ㇾ之。
虎皮鞍覆。花族輩水干鞍之時用ㇾ之。
鹿皮鞍覆。水干鞍之時常用ㇾ之。殿上人絹裏。地下前駈以下布裏也。
一差繩事。
綾打交差繩。賀茂祭使ナド風流之時用ㇾ之。
布打交差繩。水干鞍之時常用ㇾ之。
白布差繩。唐鞍大和鞍黒移鞍等常用ㇾ之。

一車事。
餝車。賀茂祭使乘レ之。　青絲毛。春宮乘二給之一。
赤絲毛。賀茂祭女使乘レ之。　尼眉車。關白太政大臣乘レ之。
唐庇車。上皇女院乘二給之一。　半蔀車。大將以上乘レ之。
檳榔毛車。關白以下至二參議一常乘レ之。　網代車。文車事也。家々說々不レ同也。
八葉車。長物見大八葉大臣乘レ之。切物見大八葉上下常乘レ之。小八葉外記史弁官醫陰之輩乘レ之。
一榻事
黃金物。大臣用レ之。　散金物。大將用レ之。
黑金物。納言以下公卿用レ之。
一下簾事。
蘇芳末濃。毛車之時用レ之。
青末濃。濃末濃トモ云也。網代車八葉車之時用レ之。
纐下簾。糸毛并唐庇等用レ之。毛車之時用レ之事有二先規一。
一雨皮事。
面練薄青染レ之差レ油。裏白生絹。近代面裏練レ之。薄青染不レ差レ油。爲二公平一云々。公卿以上

僧綱用レ之。
張筵。殿上人以下凡僧用レ之。
一小忌事。
豐明節會大中納言參議弁少納言着レ之。近衞司大嘗會之時着レ之。
小忌心葉。金銅梅花也。　日蔭糸。
赤紐。
一青摺事。
臨時祭舞人着レ之。文桐竹也。但陪從小忌ハシュロ也。
青摺。　赤紐。
摺袴。　打衣。
衵。　單。
表袴。
一挿頭花事。
臨時祭之時。使。藤。舞人。櫻。陪從人長。欵冬。大嘗會辰巳節會。小忌納言。櫻。參議。欵冬。關白。

藤。親王。紅梅。大臣。藤。納言。櫻。參議。欵冬。
一隨身袴色事。
菉脛巾狩胡籙之時必用染分袴。
染分。左近蘇芳。右近朽葉。　儲色。左近二藍。右近萠黃。
紅梅袴。元日出仕次將隨身必着之。然者至十八日賭弓日着之。元日不出仕次將隨身。白馬踏歌可着染分袴。
白襖袴。左右衞門兵衞督隨身着之。左右近衞拜賀日又着之。
一蠻繪文事。有說々。
常說。左近。師々。右近。熊。
一劔幷平胡籙裝束事。有說々。
常說。左近。紫革。右近。藍革。
一馬副事。
行幸行啓幷一員御幸之時。公卿召具之。祭使召具之。
冠。卷纓。　緌。
褐衣。　袴。

袙。結搆之時着之。　單。同前。
布帶。　菉脛巾。
舌地。近代只菓沓也。
同人數事。
大臣十人。　大納言八人。
中納言六人。　參議四人。
祭使八人。常事也。
一手振事。
祭使召具之。常十二人也。
冠。卷纓。　緌。
褐衣。　半臂。
下襲。　袙。
單。　袴。
布帶。　藥袋。布。
菉脛巾。　舌地。
一小舍人童事。
狩衣。上下。　衣。

單。　毛沓。
水干。　袴。
脛巾。城外之時用レ之。　藁沓。
水干幷狩衣事。依レ時可レ隨二主人裝束一也。
一雜色事。
平禮。　白張。上下。
衣。　單。
下袴。　沓。
襪。
或平禮上ハチ亂緒。或細烏帽子上紐山藁沓。
或風流之時着二當色一也。以上依レ時可レ隨レ事
也。
一車副事。
冠。　緌。
衣。　襖袴。
藁脛巾。
以上糸毛幷庇車之時着レ之。

平禮。　白張。上下。
下袴。　亂緒。
以上如木之時着レ之。
烏帽子。コウヘイ。　白張。上下。
藁沓。
以上細々常如レ此。
同人數事。
院八人。　關白太政大臣六人。
大臣四人。　大中納言二人。
參議散二位三位一人。
牛飼事。
裝束之樣大略同二車副一。但不レ着二白張一也。遣手
之外水干葛袴。或着二直垂一。
一御廐舍人事。
如木之時平禮亂緒。フタコノ時細烏帽子藁
沓。
平禮。　狩衣。上下。

衣。　單。
亂緒。
一居飼事。
水干。紅。　紺袴。
藁沓。
一馬部事。寮御馬相副者也。
冠。　緌。
褐衣。　襖袴。
袒。　單。
一飼丁事。同前。
裝束同居飼。

應永十九年八月廿一日書寫之。本者花山院亞相忠定卿自筆也。仍文字悉不違寫之訖。

右物具裝束鈔以松岡辰方之本挍正了

群書類從卷第百十九

裝束部八

深窓秘抄

御袍寸法。

御身之長四尺。但伏見殿ハ三尺九寸也。御帶トヲシ一寸五分。ハコヱノワナ九寸。同サキ九寸。カタミノ分ナリ。廣サ一尺五分。御ノボリ三寸五分。月形ノ半分。下六寸五分。御袖長二尺。廣サ大袖一尺五分。鰭袖七寸五分。御襴ノ高サ八寸。蟻七寸五分。蟻サキ六寸五分。

立樣同御長取事。

御身一丈三寸。御後五尺一寸五分。御ヱリ肩ハ。前ニアク分ハ三寸五分ノ內二寸ニユリ。二身ノ分二丈六寸一ハリ。御袖夏四一ノ分。長サ四尺四寸。一丈八尺一ハリ。御ノボリ五尺。御襴九尺。御首髮二尺五寸。以上一丈六尺五寸一ハリ。以上二ハリニタケトル也。但イヅレニモ入シロアルベシ。ヒイル計アル也。以上惣御長五丈八尺。入シロ三尺八分也。冬ノ御袍ノ時ハ。又ハタ袖五尺イルベシ。冬惣丈數六丈三尺イル也。

御直衣冬縫立ノ定。宮ノ御方(後土御門院歟)御元服ノ寸法ナリ。

御身ノ長四尺。御胸ノ折目ウチ。御襴ノ付ギハマデ。御胸ノ通リ折目六寸也。御身ノ廣サ一尺一寸。ハコヱノワナ九寸。御帶トヲシ一寸五分。御大首上ハ月形ノ半分。下六寸。御袖ノホタテ二尺二寸。御大袖一尺一寸。御鰭袖七寸五分。御

襴ノ高サ七寸五分。御蟻六寸五分。御蟻先五寸五分。御袖御タケ四尺五寸。御胸ノ折目八寸。御身ノ廣サ一尺五分。御セヌヒ上打一尺三寸。左右ノ御裾ノ脇一尺一寸縫ベシ。御エリ廣サ三寸。御身ノ前ウチ出ル。御胸ノ折目ウチ御ウシロヘ明ニテ。御後ハ一幅ニテ。御エリハ四尺五分。御身分御エリノ廣サハ三寸バカリ。御前ハワナ也。御大首常ノ如シ。下五分。廣サ一尺一寸。御袖前四寸。御胸ノ折目御後一尺四寸。御指貫ノ長サ四尺。御モヽダチノタカサ。下ヨリ二尺二寸。長下打廣サ一尺九寸五分。大のは一尺一寸。小のは八寸五分也。襞積八寸五分。御後同ジ。御腰ニ。御前六尺五寸。御ウシロ四尺五寸。御直衣ノ丈數。冬ノ分。御身二丈一尺二寸。御前五尺二寸。御後五尺四寸。御ヲクビ(ノボリイ)五尺一寸。御袖六コノウチ。御鰭袖二丈四尺。御襴八尺九寸。以上五丈九尺二寸。此寸法ハツメタルナリ。御裏四丈四尺八寸。

傍續ヲノヲノ縫立ノ定。正長元年九月十六日室町殿(義教)寸法。身ノ長。前四尺八寸。後三尺一寸。大クビ四尺。襴ハコレノヨブンニテ。身ノ廣サ一尺五分。大首髪ハ月形之半分。下五寸五分。袖ノ下縫ハヅシ六寸五分。鰭袖袖ノ引立一尺九寸。大袖一尺五分。鰭袖七寸五分。袖付上一寸アケテ下七寸。襴之高サ七寸。ワナ二尺五寸。襴ノ兩方ノハシ折テ一寸五分ヲ閇ベシ。惣縫立ノ丈數三丈三尺。指貫ノ長サ四尺。股立ノ高サ下ヨリ二尺二寸。腰ノ長サ六尺。廣サ一尺九寸。大ハ一尺五寸。小ハ八寸五分。襞積一尺一寸。前後同ジ。

御引直衣。宮ノ御方御着袴ノ寸法。

身ノ長三尺六寸。廣サ七寸五分。御袖ノ引立一尺六寸五分。廣サ八寸。鰭袖五寸。御衣長三尺七寸五分。廣サ七寸五分。御袖一尺六寸五分。廣サ八寸五分。内袖ナシ。御單長三尺八寸五分。廣サ七寸五分。袖一尺六寸五分。廣サ九寸五分。袴長

サ三尺。腰七尺三寸。直衣身ノ長二尺七寸五分。廣サ七寸五分。袖ノ引タテ一尺六寸五分。廣サ七寸五分。鰭袖五寸。衵長二尺九寸五分。廣サ七寸五分。袖一尺六寸五分。廣サ八寸。指貫長二尺五寸五分。廣サ一尺三寸。下之袴長三尺五寸。廣サ一尺三寸五分。御腹白長サ九尺ヅツ二筋。紫二筋白ク。

直衣ノ縫立。二ノ宮ノ御方。長享二年十二月十二日青蓮院御得度ノ御時。

身之長三尺五寸。廣サ一尺五分。胸ノ折目五寸。ハコヱノワナ八寸。袖タケ二尺ノ内但分アリ。襴ノ長サ八尺四寸。高サ七寸五分。蟻七寸五分。サキ六寸五分。ノボリ四寸。同スソ五寸五分。身ノ長サ七尺七寸ニユリ。

半尻。二宮御方(御室御所十歳)入室ノ時ノ縫立寸法。

身御後二尺三寸。廣サ九寸。前三尺一寸。ノボリ上三寸。スソ四寸五分。袖タケ一尺三寸五分。廣サ大袖九寸。鰭袖六寸。惣以上一丈三尺九寸。右縫立ノ分此外コシアルベキ歟。ハタ袖ヨリイデベキカ。

夏之御直衣御服寸法。宮ノ御方。十七歳。

御身九尺五寸。二ツ分一丈九尺。御ノボリ五尺。御袖四尺一寸。四ツ分一丈六尺四寸。御襴八尺五寸。又八尺五寸五分。御首髪二尺二寸。惣以上五丈一尺一寸。三尺九寸入シロ又五丈二尺。代七百五十匹。

常々御服用ノ冠服ノ分少々。

軒冕十二章。玉冠之御時唐服也。

禮服。大袖也。有レ裳有レ綬。有二玉佩一。有二御肩宛一。諸臣又用。色有レ差。

玉冠。唐冠也。組緒ヲ用。

拔巾子。御元服之御時用。諸臣同。

透額。同十六未満也。

金巾子。常ニメサル、御冠也。金ノ紙ヲ以御纓ヲハサム也。

三山。唐冠之時用レ之。

巻纓。老懸之時用レ之。吉禮凶禮共有レ之。老懸三ノ習有。

細纓。六位用レ之。老懸アリ。

御立烏帽子。ヲリ井ノ御時御用也。諸臣ハ大將以上。又大臣ノ息。又凡人以下ハ十八未滿也。但神人ハ淨衣ノ時用レ之。

折烏帽子。大サビ。小サビ。諸眉。片眉アリ。人ニヨルベシ。左右ニ習有。

平禮。地下ニ用レ之。

御袍。諸臣同用レ之。織紋有レ差。色又不レ同。夏冬有レ差。

御直衣。ヲリ井ノ御時用レ之。夏冬有レ色。夏。アナハタ。冬。白字ヲ平絹。諸臣又用レ之。

引直衣。小直衣。傍續也。色雜々。

袒。織物ニアラズ。付色ナリ。單ニ重ヌルモノナリ。上下トモ用レ之。

小忌衣。一名青摺。神事等ニ用レ之。

淨衣。黃又白。神衣也。

水干。單也。上下トモニ用レ之。

帛衣。神事ニ御用ヒ也。諸臣ハ不レ用。

黃櫨染。御衣之色也。

麴塵。同御衣之色也。極﨟賜レ之。

薄額。厚額冠ニアリ。

高巾子。踏歌人用レ之。

下襲。其差多矣。

缺腋。羽林用レ之。腋ノ字テキト云。

半臂。畧衣也。唐之世作レ之。上ノ服也ト云々。

單。袙。裾。夏冬有レ差。

帷。汗取也。

表袴。束帶。

指貫。奴袴也。下括時。衣冠直衣布衣。狩衣ノコト。等ニ用レ之。色有レ差。大臣白ヲ用。

赤大口。人ニ依テ有レ差。束帶用。生絹平絹精强等也。

指籠。袴ノ字。 指貫ヲ畧シタル也。
狩襖。随身舎人等用レ之。布ニ裏ヲ打タル也。夏冬用レ之。
素襖。上下ト云。下部ドモノ用ル也。
直垂。上下用レ之。平服也。
道服。大臣ノ平服也。
平緒。帯劔ニ用レ之。紫緂。紺地青緂。白棟緂・櫨緂。有二前張一。
半尻。童形用レ之。前張ハ宮ノ御方被レ用。
大褂。小褂。女房用レ之。
五衣。四時ニ依テ用レ之。女服也。板引同。
唐衣。ウヘノキヌ也。
裳。ヒトヘ。夏用レ之。
掛帯。女房用レ之。
御襪。諸臣モ用レ之。有レ差。錦。練貫。平絹等也。
靴沓。天子諸臣通用ス。深沓也。
淺沓。鼻キレ也。常ニ用レ之。

牙ノ笏。禮服ノ時用レ之。
福等柴ノ笏。一位ノ笏。位山ノ櫟也。
有紋巡方。无紋巡方。天子ノ外不レ用レ之。
有紋丸鞆。无紋丸鞆。
以上玉ノ帯也。非參議以上用レ之。
馬腦帯十具。唐ノ帯也。今傳ヘテ以爲二舞人之帯一。
犀角。烏犀。六位用レ之。
斑犀。凶禮用レ之。
餝太刀。木地螺鈿。蒔繪螺鈿。樋螺鈿。蒔繪細太刀。螺鈿ノ野劔。蒔繪野太刀。黒漆太刀。六位。
沃懸地太刀。沉地螺鈿。
魚袋。金銀。非參議以上着レ之。
草鞋。鞋チカイト云習也。 天子之外不レ用レ之。僧道又用レ之。
絲鞋。幼主ノ御時用レ之。又舞人用レ之。
烏皮沓。禮服ニハ必此沓也。

靴毯。錦也。青赤之二色。是ハ深履ノタヲヽイ也。

半靴。タヲイナシ。侍用レ之。

踏懸。舞人ノ沓也。

毛沓。布衣騎馬ニ用ルコト有。皆侍ノコト也。公卿ハ不レ然。

鴨沓。蹴鞠用レ之。

雁鼻。淺沓也。又鼻切トモ。但別也ト。未レ知。

藁深沓。雪履也。

華旋。有服沓。赤沓。鈍色裏也。諒闇沓。无文革緣。靴毯淺黄平絹也。

打衣。今ハ着用ノ人ナシ。冬ハ打衣ヲカサヌル也。夏ハ大帷也。其上ニ張袙ヲキル。今又畧ノ袖計用テ。袙モナシ。畧ノ畧シ也。

直衣。襴ナキヲ用ルコト。宇治前左府着レ之。久安三年ノ記ニ見ユ。

浮線綾直衣。香直衣例在レ之。

平絹直衣。宿老着レ之。冬直衣ヲ夏用ルコト。老人用レ之。

萠黄指貫。羽林賴實。仁安三年十一月廿三日着レ之。

薄色指貫。宿德ノ大將用レ之。

薄物指貫。是又老人也。

紫苑指貫。冬用レ之。

ルリノ指貫。淺黄常ノ指貫也。元來夏ノ指貫。今四時共用レ之。

白下袴。老後用レ之。壯年紅濃下袴也。

黄生下袴。白袴ノリンニ出也。

出衣。又打衣也。色々不同。

柏夾。白檜木也。長サ手一束也。黒白有。卷纓之如クニスル也。但口傳有。

萓草之袴。尼ノ袴。

裾。一丈四五尺ヨリ七尺マデノ間用レ之。强不レ拘ニ寸尺ニ歟。

下重。［　］火色。晴ノ時用レ之。
紅梅。正二三月。又仲冬季冬。
スワウ。四季トモニ用。薄色同。年老ノ人用レ之。
松重。卽チ四時用レ之。
裏山吹。春冬。
盧橘。四五月。
女郎花。七八月。
柳。老卿用レ之。
黃柳。宿德之大臣用レ之。
萠黃。壯年雲客用レ之。
櫻萠黃。通用色々アリ。
二アヰ。夏用レ之。
白重。老人用レ之。菊幷紅葉冬用レ之。
花葉色。裏青表薄黃。七八月用レ之。
靑朽葉。七月末用レ之。
引倍木。暑夏ニ用レ之。主上夏ハ袙ナシ。引倍木也。

應仁二年八月日　　前參議顯言在判

右深窓秘抄行世既久然其中往々有可疑者且顯言卿寬正三年以權中納言薨而書應仁二年前參議甚無謂蓋他人借名以所作也讀者可辨

撰塵裝束抄

皇太子禮服。

禮服。冠。謂作有別式也。黃丹衣。牙笏。白袴。白帶。深紫紗褶。謂褶者所以加袴上。故俗云袴褶也。錦襪。烏皮舃。謂烏皮者皂皮也。舃者高鼻履。

親王禮服。

一品禮服。冠。四品以上。每品各有別制。深紫衣。牙笏。白袴。條帶。謂條帶者辮絲。深綠紗褶。錦襪。烏皮舃。佩綬玉佩。謂綬者綟綬也。佩者帶玉。天子珮白玉。公侯珮玄玉。是也。

諸王禮服。謂五世王不入此限。令內通例也。即須着諸臣之服。

一位禮服。冠。五位以上。每位及階各有別制。諸臣准此。深紫衣。牙笏。白袴。條帶。深綠紗褶。錦襪。烏皮舃。二位以下五位以上並淺紫衣。以外皆同一位服。五位以上佩綬。三位以上加玉佩。諸臣准此。

諸臣禮服。

一位禮服。冠。深紫衣。牙笏。白袴。條帶。深縹紗褶。錦襪。烏皮舃。三位以上淺紫衣。四位深緋衣。五位淺緋衣。以外並同一位服。大祀大嘗元日則服之。謂此文承上三條也。大祀者臨時之大祀。假如祀天地之類也。大嘗者神祇令每世一年國司行事是也。

朝服。

一品以下五位以上。並皂羅頭巾。衣色同禮服。牙笏。白袴。金銀裝腰帶。白襪。烏皮履。六位深綠衣。七位淺綠衣。八位深縹衣。初位淺縹衣。並皂縵頭巾。謂縵無文繒也。木笏。謂職事。烏油腰帶。白袴。烏皮履。袋從服色。親王綠緋緒。謂以綠緋二色相雜而爲緒也。一品四結。二品三結。三品二結。四品一結。諸王三位以上同諸臣。謂三位以上者一位以下也。同諸臣者下文正位紫緒一位三結等是也。正四位深緋。從四位深綠。正五位淺緋。從五位深縹。結同諸臣。謂下文上階二結下階一結是也。其初位者以大少爲正從。即大初位上少初位上二結之類。諸臣正位紫緒。從位綠緒。上階

二結。下階一結。唯一位三結。二位二結。三位一結。以緒別正從。以結明上下。朝廷公事即服之。

制服。

无位。謂庶人服制亦同也。皆皂縵頭巾。黃袍。謂裁縫體制一如朝服也。烏油腰帶。白襪。皮履。朝廷公事即服之。尋常通得着草鞋。家人奴婢橡墨衣。謂橡櫟木實也。以橡染緇。俗云縵橡衣也。此條無白袴者。文之省略也。

凡服色。白。黃丹。紫。蘇芳。緋。紅。黃。橡。纁。蒲萄。謂纁者三染絳也。蒲萄者紫色之最淺者也。緑。紺。縹。桑黃。揩衣。蓁柴。橡墨。如此之屬。當色以下各兼得服之。謂假令着紫之人。兼得服蘇芳以下諸色之類。此條包爲男女立制。

內親王禮服。

一品禮服。寶髻。謂以金玉飾髻緒。故云寶髻。四品以上。每品各有別制。深紫衣。蘇芳深紫紕帶。淺緑褶。蘇芳深淺紫緑纈裙。錦襪。緑舃。飾以金銀。

女王禮服。

一位禮服。寶髻。五位以上。每位及階各有別制。內命婦准此。深紫衣。五位以上皆淺紫衣。自餘准內命婦服制。唯褶同內親王。

內命婦禮服。

一位禮服。寶髻。深紫衣。蘇芳深紫紕帶。淺縹褶。蘇芳深淺紫緑纈裙。謂下條云緑縹纈紕裙。此條无紕字。即知五色交綵以爲纈文也。錦襪。緑舃。飾以金銀。三位以上淺紫衣。蘇芳淺紫深淺緑纈裙。自餘竝准一位。四位深緋衣。淺紫深緑紕帶。烏舃。以銀飾之。五位淺緋衣。淺紫淺緑紕帶。謂在傍爲紕也。自餘皆准上。大祀。大嘗。元日。則服之。外命婦夫服色以下任服。謂衣裙竝同。

朝服。

一品以下五位以上。去寶髻及褶舃。謂其錦襪亦去。爲與舃同類。以外竝同禮服。六位以下初位以上竝着義髻。謂以他髻飾自髮。是爲義髻。衣色准男夫。深淺緑紕帶。縹纈紕裙。初位去纈。白襪。烏皮履。四孟則服之

制服。

宮人深緑以下兼得レ服レ之。紫色以下少々用者聽。謂聽レ用二細帶等一之類也。緑縹紺纈。謂三色纈各得二特用一。不レ得二交レ色以爲レ纈。其不レ顯二深淺一者。卽得二通服一耳。及紅裙。四孟及尋常則服レ之。若五位以上女。除二父朝服一以下色者。通得レ服レ之。其庶女服同二無位宮人一。

武官禮服。

衛府督佐。兵衛佐不レ在二此限一。以下准レ此。謂依二官位令一。兵衛佐是正六位下官也。其雖レ任二五位一。不レ可レ同レ督。依二相當法一制二禮服一故也。仍須下依二朝服法一准二志以上一加中錦裲襠上。若六位任二三衛佐一者。亦准二志以上法一也。竝皁羅冠。皁綾。謂二冠紘一也。牙笏。位襖。謂無レ襴之衣也。加二繡裲襠一。謂一片當レ背一片當レ胸。故曰二裲襠一也。兵衛督雲錦。金銀裝腰帶。金銀裝横刀。白袴。烏皮靴。兵衛督赤皮靴。錦行縢。謂縢緘所三以覆二股脛一。令三衣不二飛揚一者。

朝服。

衛府督佐。竝皁羅頭巾。位襖。金銀裝腰帶。金銀裝横刀。白襪。烏皮履。其志以上竝皁縵頭巾。皁綾。位襖。烏油腰帶。烏裝横刀。白襪。烏皮履。會集等日。謂元日及聚集幷蕃客宴會等。止爲二志以上一立レ制也。加二錦裲襠一赤脛巾。帶二弓箭一。以レ鞋代レ履。兵衛。皁縵頭巾。皁綾。位襖。烏油腰帶。烏裝横刀。帶二弓箭一。白脛巾。白襪。烏皮履。會集等日。加二挂甲一帶レ槍。以二位襖一代二紺襖一。以レ鞋代レ履。主師。謂門部使部。其隊正等者依二衛士例一也。皁縵頭巾。皁綾。位襖。烏油腰帶。烏裝横刀。白脛巾。白襪。烏皮履。會集等日。加二挂甲一。帶二弓箭一。以二縹襖一代二位襖一。以レ鞋代レ履。竝朝廷公事卽服レ之。衛士。皁縵頭巾。桃染衫。白布帶。白脛巾。草鞋。帶二横刀。弓箭。若槍一。會集等日。加二朱末額挂甲一。以二皁衫一代二桃染衫一。朔日節日卽服レ之。謂朔日者四孟朔日也。節日者初注會集等日是也。其主帥以上注稱二會集日一者。朔節日亦同。但衛士注言二會集日一者非二是朔節日一。凡着二朝服一之時督佐牙笏。志以上木笏。此文不レ載者。畧諸須レ知也。尋常去二桃染衫及槍一。其督以下主帥以上袋准二文官一。

古衣二鳥獸之羽皮一。黄帝易二之布帛一。鄭玄易緯。乾鑿度注云。古者田漁而食。因衣二其皮一。先知レ蔽レ前。後知レ蔽レ後。後王易レ之以二布帛一。易下繫

辭曰。包犧(云伏犧。)氏之王天下也。作爲網罟。以佃以漁。則田漁而食。伏犧時也。禮運說。上古之時云。昔者先王食鳥獸之肉。衣其羽皮。是田漁而食。因衣其皮也。又曰。後聖有作。治其麻絲。以爲布帛。易繫辭曰。黃帝堯舜垂衣裳而天下治。然則易之布帛自黃帝始也。白虎通曰。衣者隱也。裳者障也。所以隱形自障蔽也。則以蔽形已爲禮之初。而貴服賤服各有等差。是爲禮之成也。故孝經卿大夫章云。非先王之法服弗敢服。注云。服者身之表也。尊卑貴賤各有等差。故賤服貴服謂之僭上。僭上者爲不忠。貴服賤服謂之偪下。偪下者爲失位。是以君子動不違法。擧不越制。所以成其德也。服。野王案。在上曰衣。在下曰裳。摠謂之服。今云衣服者不獨衣裳。謂摠可服用之物也。

皇太子禮服。

下條云。大祀大嘗元日則服之。官曹事類云。寶龜元年。皇太子始着禮服。

禮服冠。(謂作有別式也。)

古記云。禮服冠。謂禮冠也。玉冠是也。

黃丹衣。

黃丹者。以紅花支子酢麸交染。縫殿寮式云。黃丹綾一疋。紅花大十斤八兩。支子一斗二升。酢一斗。麸五升。槀四圍。薪一百八十斤。(准生木所定。餘皆准之。)衣謂袍也。

牙笏。

彈正式云。五位以上通用牙笏白木笏。前詘後直。六位以下官人用木。前挫後方。今按。五位以上通用牙笏白木笏。六位以下用木。則示尊卑之異也。故禮玉藻云。笏。天子以球玉。諸侯以象。大夫以魚須文竹。士以竹木象可也。鄭玄曰。球。美玉也。文猶飾也。大夫士飾竹以爲笏也。不敢與君竝用純物。是示尊卑也。

大夫與士笏俱用竹。大夫以魚須飾之。士以象骨爲飾。不敢純用一物。所以下人君也。又按。五位以上前詘後直。六位以下前挫後方。則示其形制異也。故玉藻云。天子搢珽方正於天下也。諸侯荼。前詘後直。讓於天子也。大夫前屈後屈。无所不讓也。鄭玄云。此亦笏也。謂之珽。珽之言珽然无所屈也。前後皆方正也。荼謂舒懦。所畏在前。圓殺其首屈於天子也。大夫上有天子。下有己君。故首末皆圓。前後皆讓。正義云。前詘謂圓殺其首。後直下角正方。讓於天子者。降讓於天子故詘也。挫。鄭玄曰。折也。賈逵曰。折其鋒曰挫。說文摧也。牙。象牙也。

白袴。白帶。深紫紗褶。

白袴。表袴也。縫殿式云。深紫絞紗一匹。紫草十五斤。酢三合。灰四斗六升。薪一百廿斤。廣雅。紗。小也。微也。小縠也。古記云。褶。似婦人裳也。私按。褶。着袴上也。禮服中所謂裳也。

錦襪。烏皮舃。

親王禮服。

一品禮服冠。四品以上。每品各有別制。

二品以下四品以上。皆着禮冠。但形制各有別式也。

深紫衣。牙笏。白袴。

深紫衣。所謂大袖也。深紫。縫殿寮式云。深紫綾一疋。紫草三十斤。酢二升。灰二石。薪三百六十斤。

問。論語。紅紫不以爲褻服。注。紅紫間色不正。且近婦人女子之服云々。又詩云。緑衣黃裳。緑亦間色也。聖人不以紅紫爲私居服。詩人刺以緑爲衣。而本朝服制。一位以下着紫衣。六位着緑衣何乎。答。隋煬帝數出遊。令□下百官以戎服從。一品紫。次朱。次

綠。後世遂爲朝服。然唐人朝服。猶着禮服。京師士人行道間。猶着衫帽。後變爲白衫。今紫衫戎服也。國制因循隋服也耳。

衣服。漢朝衣始。上古衣鳥獸之羽皮。黃帝初作衣。世本曰。胡曹作衣。胡曹。黃帝臣也。日本衣始見神代。但不見其始作之由。又少名彥神以鷦鷯羽爲衣。又天照大神織神衣。應神天皇世。百濟王貢縫衣工女。本朝應神以來用百濟衣服。大寶依令。用唐衣服。深紫等戎服也。養老始右襟。

冠。孝德大化四年罷古冠。左右大臣猶着古冠。天武十一年三月詔曰。親王以下百寮諸人位冠莫服。六月以男夫始結髮。仍着漆紗冠。今按烏帽子也。持統四年授冠位。冠。推古朝定十二階賜之也。天武朝罷之。令着烏帽子。持統又授冠。

條帶。

大袖上帶也。

深綠紗褶。錦襪。烏皮舄。佩綬玉佩。

爾雅郭璞曰。綬。即玉佩組。所以連繫瑞玉者也。綬。組綬。禮記。組綬。天子玄。公侯朱。大夫純。世子綦。士縕。此佩玉之組也。應劭漢官儀曰。綬。長一丈二尺。法十二月。廣三尺法天地人。此佩玉之組也。朱云。无品親王無禮服。稱有品故也。綬。乳下左方付之。以絲針付之。玉佩。右方懸之。當膝。隨步有聲者也。

諸王禮服。

二位以下五位以上竝淺紫衣。以外皆同一位服。

縫殿式云。淺紫綾一疋。紫草五斤。酢二升。灰五斗。薪六十斤。

諸臣禮服。

四位深緋衣。五位淺緋衣。

縫殿寮式云。深緋綾一疋。茜大四十斤。紫草三十斤。米五升。灰三石。薪八百四十斤。淺緋綾

一疋。茜大卅斤。米五升。灰二石。薪三百六十斤。

大祀。大嘗。元日則服之。

疏云。大祀。謂臨時祀也。大嘗。謂每世嘗也。大祀卽大嘗也。元日。正月一日朝賀是也。今大嘗祭時不着禮服。卽位日着用之。不知其故。

朝服。

朝參之服也。

皂羅頭巾。

頭巾。今世冠是也。彈正式云。凡除禮服幷參議以上半臂五位已上幞頭之外。不得着羅。

金銀裝腰帶。

彈正式云。刻鏤金銀帶及唐帶。五位以上竝聽着用。

六位深綠衣。七位淺綠衣。八位深縹衣。初位淺縹衣。

縫殿寮式云。深綠帛一疋。貲布亦同。藍十圍。苅安草大二斤。灰一斗。薪一百廿斤。淺綠帛一疋。藍半圍。黃蘗大二斤。深縹帛一疋。藍十圍。薪一百廿斤。淺縹帛一疋。藍半圍。薪三十斤。初位淺縹衣。大同元年十月七日格。

皂縵頭巾。

無文冠是也。不用羅。只用絹也。

木笏。謂職事。

職事官用笏也。

烏油腰帶。

彈正式云。凡烏犀帶。聽六位以下着用。但有通天文者不在聽限。

袋從服色。

朱云。无位有袋不善。无用也。位袋。弘仁雜格止云々。

親王綠緋緒。

是以下。謂其袋幷緒色也。

諸臣正位紫緒。從位綠緒。
此一句者。一位以下初位以上袋緒色也。
上階二結。下階一結。
此一句者。四位以下初位以上袋緒也。
以緒別正從。
一位以下三位以上。以緒別正從耳。无上下
故也。
制服。
穴云。於無位不合云朝服。故云制服耳。
無位。
未叙初位之前無位色。謂之皂也。
黃袍。
尋常通得着艸鞋。
无位之者。雖仕諸司。公事之外通着草鞋。況
庶人車馬之徒。不可着皮履。
家人奴婢橡墨衣。
橡者。以搗橡幷茜灰染之。朱云。家人奴婢。謂
官戶奴婢亦同也。
凡服色者白黃丹。
私按。白御衣。女帝御服也。故置黃丹上歟。黃
丹以紅花支子酢麩交染。
紫。
以紫草染之。
蘇芳。
以蘇芳木染之。
緋。紅。黃橡。纁蒲陶。
緋以茜染之。紅以紅花染。
綠。紺。縹。桑黃。揩衣。蓁柴。橡墨。
綠。以藍與苅安染之。縹。以藍染也。
如此之屬。當色以下各兼得服之。
朝服之色。從位立法。今此條爲下重立也。
講書私記。私案。黃丹者太子服也。紫。緋。綠。縹。謂
之當色也。
內親王禮服。

寶髻。

紕帶。

禮記。鄭玄注曰。紕。緣邊也。又曰。在下曰紕。

爾雅。紕。餝也。音疋夷反。

淺綠褶。

穴云。女褶服裙上耳。跡云。男褶表袴上。

女褶先着褶而纈裙着表。而褶下端顯也。

蘇芳深淺紫綠纈裙。

以五色交染也。

外命婦。

穴云。三位妻服紫衣。四位命婦服緋耳。

朝服。

義髻。

義。命之意也。穴云。六位以下着義髻。五位以上无髻耳。今上髮女房所用之髲也。

四孟。

孟月之朔日也。

宮人。

朱云。宮人謂十二司宮人者。

其庶女服同无位宮人。

制服條。爲無位宮人立制也。

武官禮服。

禮服之時。不着弓箭。

牙笏。

衞府督佐。五位相當也。故執牙笏。

朝服。

其志以上。

兵衞佐以下幷餘司尉以下也。穴云。兵衞佐同志以上服。若帶五位者。與衞門督朝服无別也。

尋常去桃染衫及槍。

朱云。尋常去桃染衫者。未知可着何衣。答。依文。除桃染衫之外。皂衫幷他色等可着。

朱末額。

四位深緋衣。用紫裏。有所以哉。答。四位深緋。以茜交染紫。五位淺緋。染茜不交紫。深緋裏用紫色類不違歟。

四品以上。每品各有別制。

延喜式部式云。其禮冠者。親王四品已上竝漆地金裝。以水精三顆。琥珀二顆。青玉五顆交居冠頂。以白玉八顆立櫛形上。以紺玉廿顆立前後押鬘上。其徽者立額上。一品青龍。尾上頭下。右出左顧。二品朱雀。右出左顧。三品白虎。尾上末卷。頭下右向。四品玄武。爲蛇所纏。竝右出左顧。立玉者有莖幷座。居玉者有座無莖。

諸王禮服。

式部式云。諸王一位漆地金裝。以赤玉五顆。綠玉六顆交居冠頂。以黑玉八顆立櫛形上。以綠玉廿顆立前後押鬘上。二位以白玉一顆。綠玉五顆交居冠頂。以赤玉八顆立櫛形上。自餘竝准一位。三位以黃玉八顆立櫛形上。自餘竝准二位。四位漆地櫛形押鬘。玉座皆金裝。自餘銀裝。以赤玉五顆。綠玉六顆交居冠頂。以白玉十顆立前押鬘上。以青玉十顆立後押鬘上。不立櫛形上玉。五位漆地銀裝。以黑玉十顆立前押鬘上。以青玉十顆立後押鬘上。自餘准四位。其徽者鳳。三位以上正位正立仰頭。從位正立低頭。正四位上階左出右向。下階右出左向。從四位上階左出左顧。下階右出右顧。五位准四位。

諸臣禮服。

式部式云。諸臣一位以紺玉八顆立櫛形上。自餘竝准王一位。玉色交居。王臣各異。二位以綠玉五顆。白玉三顆。赤黑玉三顆交居冠頂。以赤玉八顆立櫛形上。自餘准一位。三位以黃玉八顆立櫛形上。自餘准二位。四位以赤玉六顆。綠玉五顆交居冠頂。自餘准王四位。五位以綠玉五顆。白玉三顆。赤黑玉三顆交居冠頂。自

餘准王五位。其徵者麟。正從出向。皆准諸王。
褶裳。裙（裾イ）廣五尺二寸。裙（裾イ）廣二寸五分。長二尺二
寸三分。
衣有小袖大袖。重着之。小袖有頸紙。大袖无
之。文色一如小袖云々。
綬玉佩。天子者綬三垂之。玉佩左右二流垂之。
庶人者綬二。玉佩一流垂之。當右付之。
褶。推古天皇十三年閏七月己未朔。皇太子命
諸王諸司俾着褶。
一服用事。
延喜彈正式云。凡五位以上。通用牙笏白木笏。
前詘後直。六位以下官人用木。前挫後方。愚案。
凡衣袖口濶無問高下。同作一尺二寸。已下其禮服用牙笏。尋常用白木笏。
腋濶者一尺四寸。其表衣長纔着地。愚案。今世袍丈尺過法用
也。
凡除禮服幷參議已上半臂。五位以上幞頭之
外。不得着羅。愚案。參議已上半臂。幷五位以上冠今代猶用羅。西宮抄云。五位已上。六位藏人及新冠者皆用綾冠。更衣時幷暑月者。白下襲。着無文冠。近代五位已上。雖更衣着綾。愚案。綾則謂羅也。白襲着無文冠。無文者以單絹張之也。
凡無品親王諸王內親王女王等衣服色。親王着
紫以下。孫王准五位。諸王准六位。愚案。其服色者用纁。衣服令云。無位黃袍。西宮記謂。無品黃衣。又延喜縫殿寮式云。無位[illegible]黃也。故無品親王衣用黃色。此謂親王着紫以下者。一品親王用紫以下也。同者包無品親王黃衣而言也。但縫殿寮式。淺黃有稱綠色之淡。而無品親王或用綠袍。故長和二年三月行成卿記云。新冠兩王着黃衣。注云。淺黃色。謂之黃衣云々。
凡婦人得着夫衣服色。但節會之日不在此例。
凡大臣帶二位者。朝服着深紫。諸王二位已下
五位已上。諸臣二位三位並用中紫。愚案。衣服令。一位深紫衣。三位以上淺紫衣。延喜□二位大臣准一位。故用深紫袍。諸王五位已上用中紫。而諸臣二位三位同。□蓋尊王氏故也。
凡庶人以上。不得襖子重着。
凡綾者。聽用五位已上朝服。六位已下不得服
用。愚案。今世五位已上袍。得用綾。
凡五位以上女。依父蔭得着禁物。雖為六位以下妻着。猶得

依父蔭。
凡揩染成文衣袴者。竝不得着用。但緣公事所着。幷婦女衣裙。不在禁限。
凡淺衫染袴。朝廷公會悉聽服用。
凡錦衣者。內命婦及女王幷五位以上嫡妻子。竝節會之日聽通服。繡者不在聽限。
凡深淺純紫裙者聽庶女以上通着。
凡蘇芳色者。親王以下參議以上。非參議三位及嫡妻女子幷孫王。竝聽着用。
凡衞府舍人刀緒。左近衞緋絁。右近衞緋纈。左兵衞深綠。右兵衞深綠纈。左門部淺縹。右門部淺縹纈。
凡囚獄司物部橫刀緒色。胡桃染。帶刀資人黃。
凡諸禁色者。摠雖下衣不聽服用。
凡支子染色可濫黃丹者。不得服用。愚案。黃丹爲太子之服色故也。
凡滅紫色者。參議已上聽通用。五位已上聽着半臂。私案。西宮云。滅紫色綾半臂。雖冬時襴必用羅類。
凡赤白橡袍。聽參議已上着用。私案。西宮云。赤色。主上及王卿內宴時服之。青色。帝王及公卿以下侍臣隨便服之。如延喜式者。赤色。參議已上着用。與西宮不同。
凡公私奴婢。服黃。蒲陶。淺紅。赤。練橡。白橡。墨染。其裙青。赤。絁布等色聽之。紫。緋。綠。紺。縹等不須全色。唯得纈紕裁縫。私案。衣服令制服條。家人奴婢橡墨衣。又服色條云。凡服色。白。黃丹。紫。蘇芳。緋。黃橡。纁。蒲萄。綠。紺。縹。桑黃。揩衣。蓁柴。橡墨。如此之屬當色以下。各兼得服之。注謂。假令着紫之人。兼得服蘇芳以下諸色之類。此條包爲男女立制也。今案。當色トハ位ヲ云也。
凡親王以下車馬從服色。通着皀及躑躅染。青。褐。自餘色皆斷之。其女從衣者。通着黃。赤。練。蒲陶。退紅。中綠。淺綠。橡。白橡。墨染等色。
凡親王以下。五位以上及內親王。孫王。女御。內命婦幷參議以上。非參議。三位嫡妻。女子。大臣孫。女藏人等從竝聽着染袴。
凡金銀薄泥。不得爲服用幷雜器飾。但五月五日諸衞府甲冑之飾。不在制限。愚案。下條云。凡五月五日供節。諸衞府

官人以下。除甲冑飾之外。不聽用金銀云々。又近衞府式。又騎射條云。官人二人。着皂緌緋布衫。金畫絹甲形。金畫布冑形。近衞卅人。細布甲形。銀畫布冑形。又兵衞府式云。凡五月五日騎射。官人二人。皂緌。深緑貲布衫。金畫細布甲形。金畫冑形云々。又案。五月五日。今世童子菖蒲冑者是也。

凡純素金銀及白鑞。聽爲五位已上服用之餝。

凡縹色以藍摺者。衞府舍人等儀服。他人不得輙用。

凡畫餝太刀。五位以上聽之。

凡刻鏤太刀。非新作聽五位已以上着用。

凡刀子及。長五寸以上不得輙帶。但衞府者聽之。

凡内命婦三位以上。聽用象牙櫛。

凡五位以上聽用虎皮。但豹皮者。參議以上及非參議三位聽之。自餘不在聽限。私案。西宮抄。太刀尻鞘幷下鞘等。公卿用豹皮。四位五位用虎皮尻鞘或竹豹。

凡白玉腰帶。聽三位以上及四位參議着用。玳瑁。馬腦。斑犀。象牙。沙魚皮。紫檀。五位以上通用。私案。西宮云。白玉隱文。王者以下三位及參議已上用之。斑犀四位五位用之。

凡紀伊石帶隱文。王者。及定摺石帶。參議已上。刻鏤金銀帶及唐帶。五位已上。竝聽着用。紀伊石帶白晳者。六位以下不得用之。私案。西宮云。無帶紀伊石。文玉等公卿。

凡烏犀帶。聽六位以下着用。但有通天文者。不在聽限。

凡魚袋者。參議已上及着紫諸王五位已上金裝。自餘四位五位銀裝。

凡以獨窠錦爲鞍褥者禁之。

凡六位以下。鞍鞦總不得連着。但聽着鞦韉。及後末紫鞍褥。紫籠頭鞍杷緋鞦等。皆禁斷之。纁鞦不在制限。

凡參議已上。撿非違使別當已下。府生已上。聽着緋鞦。

凡貂裘者。參議已上聽着用之。私案。西宮云。臨時祭舞人歸路。服黑皮衣。

凡熊皮障泥。聽五位以上着之。

凡大臣已上覆鞍者用ニ淺紫一。參議已上深緋。諸王五位以上緑色。諸臣黃色。六位已下不レ得レ用。

凡内外諸司。不レ論ニ把レ笏非レ把レ笏者一。公事公會之所。悉着レ靴。自餘時着レ履。把レ笏者。雖レ非ニ公會一又雨泥之日聽レ着レ靴。庶人等通着レ履。

凡六位七位朝服。同着ニ深緑一。八位初位共服ニ深縹一。私案。衣服令。朝服條云。六位深緑衣。七位淺緑衣。八位深縹衣。初位淺縹衣。

凡諸衞府生以上。左右馬寮准レ此。除ニ衞仗日一之外皆着レ靴。但着ニ布帶一時須レ用ニ麻鞋一。

凡除ニ着靴一之外通着ニ麻鞋一。私案。西宮云。麻鞋手振走孺之所レ用。

雜染色事。

黃櫨。天子衣 櫨十四斤。蘇芳十一斤。綾一疋定。下同。

黃丹。皇太子衣 紅花大十斤八兩。支子一斗二升。

深紫。一位衣令同 紫草三十斤。

淺紫。令三位以上 紫草五斤。

深滅紫。紫草八斤。酢一升。灰一石。

中滅紫。紫草八升。酢八合。灰八斗。

淺滅紫。五位衣令同 紫草一斤。灰二升。絲一絇。

深緋。四位衣令同 茜大十斤。紫三十斤。

淺緋。茜大三十斤。

深蘇芳。蘇芳大一斤。酢八合。灰三斗。

中蘇芳。蘇芳大八兩。酢六合。灰二斗。

淺蘇芳。蘇芳小五兩。灰八升。

韓紅。紅花大十斤。酢一斗。

退紅。紅花小八兩。酢一合。帛一疋。

深支子。紅花大十二兩。支子一斗。酢五合。

黃支子。支子一斗。

淺支子。支子二升。紅花小三兩。酢一合。

橡。搗橡二斗五升。茜大二斤。灰七升。

青白橡。麴塵事也 苅安大九十六斤。紫草六斤。灰三石。

深緑。藍十圍。苅安大三斤。灰二斗。

中緑。藍六圍。黃蘗大二斤。

淺緑。七位衣 藍半圍。黃蘗二斤。

青緑。藍四圍。黃蘗二斤。帛一匹。

深縹。八衣令同又初位衣 藍十圍。

中縹。藍七圍。

次縹。藍四圍。帛一匹。

淺縹。藍一圍。

深藍。藍一圍小半。黃蘗十四兩。絲一絇。

中藍。藍一圍。黃蘗十四兩。

淺藍。藍半圍。黃蘗八兩。綾一疋。

白藍。藍小半圍。黃蘗七兩。絲一絇。

深黃。苅安大五斤。灰一斗五升。綾一疋。

淺黃。苅安大三斤八兩。灰一斗二升。

喪服事。

素服。見ニ後愚昧記一。

冠。卷纓。無文。

袍。平絹黑色。

下重。鼠色。無レ裏。夏冬同。

半臂。同上。

單。鈍色。　表袴。平絹鼠色。或鈍色。裏柑子色。
衵。鈍色。或白。　大口。柑子。或白。
扇。鈍色。或白。　沓。鈍色敷。
劔笏。不レ帶之例也。　直衣。生絹。黑絹。
指貫。練裏。或薄黑草。　帷。白。
衵。同レ之。　下袴。練白。
扇。花田紙無レ薄。　帶。鈍色。
狩衣。平絹鼠色。冬練。夏生。共無レ裏。尻長短有レ說。
衣。鈍色。或白。　帷。同レ之。
單。同上。
凶服。見二類聚一。
袍。黑染平絹。夏生。冬練。張如レ椽。　下重。鼠色。裏柑子色。
表袴。同上。　白帷。
諒闇服。見二類聚一。
冠。無文。卷纓。　直衣。鈍色平絹。
指貫。同色。　白衣。

合袴。
同束帶。
無文位袍。本儀綾也。平絹略儀也云云。鈍色張裏。鈍色張面。
表袴。柑子色。赤裏。猶用レ紅可レ然也。
同色張下襲。下襲裏張鈍色。表袴ヲメラカサズ。中陪アリ。皆鈍色ナリ。
平絹白褐。　單。
赤大口。
黑漆鞘銀裝細劔。無文藍革裝束。
鈍色平緒。　斑犀帶。鶴通也。
襪。平絹。　檜扇。如レ常。
無文卷纓冠。玉葉。　沓。裏白平絹。
毛車。如レ恒。　青簾。緣無文藍革。
淺黃末濃下簾。
隨身褐衣。濃張單。鈍色袴。
番長白狩袴。白單濃打。
近衞白單。自餘如レ例。
女房裝束。

理髪如レ常。　白絹唐衣。
白袙單。或花田衣。不レ着二打衣一。
心喪裝束。
橡袍。以レ橡染也。裏同平絹練張。　表袴。鈍色。紅裏。
下襲。鈍色。　薄鼠色平絹直衣。
指貫。各有二同色裏一。
鈍色衣一重。普通亮陰白衣也。而嘉承知足院殿着二鈍色張單一給也。
西宮記曰。心喪裝束。綾冠。綾袍。青朽葉。青鈍袴也。或用二無文冠一。除二重服一後一月着二輕服一。
同記云。冬遭レ喪者。一周間服二冬裝束一。夏時遭レ喪者。又一周用二夏裝束一。當朝元無二夏冬衣一。依二滋野相公起請一夏冬更衣。重服者。猶依二舊例一歟。
服者裝束。服者不二新削一レ笏。見二手板經一。
切上緒繩纓冠。古以二麁絹一作レ之。
牛角帶。帝王用二烏犀黑角一。　黑造劔。白革裝束。
赤沓。

王公黑單袍。四位五位本位色薄。人之爲二養子一。爲二實父若養父一。隨二親疎一。着服之時用二輕服一無文冠。位袍。黑表袴。襪。例沓。未レ知二舊例一。近代所レ見也。
候二殿上一童子。重服時。着二黑橡縫腋一。昇殿上官儀式官。隨二本官役一服二位衣一。無レ止家司職事者。卅九日間布衣上。前尻長。着二卷纓冠一。齋會日着二素服一。
重服公卿乘二黑筵一。
玉葉曰。壽永元八十四。着二鈍色小直衣指貫等一。是淨衣之躰也。皇嘉門院御服中。
同記。壽永元五廿七。此日大將除服。着二無文鈍色布衣一。
同記。養和元十二十八。余及大將着二御服一。共濃色也。於二家中一着二直衣。橡。無レ裏。鈍色衣也。出二郭外一截戸外。着二素服一。重服帶。麻繩紙ヲ卷也。大將於二同所一着レ之。先レ是於二家中一着二布衣一。依二余例一。用二布狩衣袴。黑色鈍色衣一。輕服帶。麻布ニ卷レ紙也。其色雖レ黑用二輕服帶一。四條宮御時。知足院殿

例也。
同記。今日第二七日。二位中將着₂鼠色練狩衣₁。無ₗ裏。
同記曰。壽永元五十五。今日余始出仕。橡直衣。練指貫。白帷子。重服冠。黑沓等也。用₂人車₁。前駈不ₗ加ₗ冠。不ₗ着ₗ服。參院。

右撰塵裝束抄以松岡辰方藏本挍正了

袷帷着用時節

柳原一品資定卿。稱名院え被₂相尋₁事。
あはせ着用の事。過し秋の比。いさゝか其沙汰候つる。それに付て。不審出來候まゝ愚存注進候。抑更衣は。首夏孟冬二季にかぎり候得者。公宴本式の時は。今とてもあひかはるべからず。およそ近代見及候分。四月にいたりて公卿はあはせを着し。殿上人は賀茂の祭以後更衣候か。十月南部維摩會以後。冬の裝束に改られ候。但公卿老後高官の人は。四月といへどもあつき折は帷を着し。又八月にもさむき時は。公宴といへども内々御會ごときの時は。袷を着用歟。然るを五月五日より九月八日までは。老臣といへども帷たるべきよし其沙汰候畢。此事如何可ₗ有候哉。もとより公卿も束帶本式の時は。九月中今も夏の裝束勿論

にて候へども。直衣直垂のには。八月中旬のころよりも。重陽の秋にいたりて。大あわせを着用のやうに覺悟候。八月中に袷をはゞかり。帷にてうへをつゝみ着用の事は。武家やうといひて難じ候歟。又重陽より公卿殿上人ともに小袖。大かた定れるやうに候へども。それも內々の事にて。更衣にはあらず候也。所詮袷はかたびら通用の物にて。いつよりいつまでと日限定め着用とは見えず候歟。武家には老若によらず。四月朔日より五月四日までは袷を着して。端午よりは帷子にあらため。又九月朔日より八日までは袷を着し。重陽にいたりて更衣候。近代の事に候哉らん。其沙汰候ける公私事により時によるべくは候へども。宿德の仁と淺位の輩との差別勿論候歟。向後分別のため注進候。是亦賢慮くわしく被㆓勘付㆒候はゞ本望候旨。可㆑得㆓芳慮㆒候也。

袷の事しかぐゝと記したるもの不㆓見及㆒候。又時々の衣裳無沙汰のみにて候得者。法をはづれたる事のみ候間無念の事候。いか樣當時かたびらには。着用見ぐるしき事と存候。時の寒熱によりて。自のはともかくも有てと存事候。所見も候はぬ事にて候間。きと難㆑申候。他事期㆓後音㆒候。恐々謹言。

卯月廿一日　　　　覺

柳原殿

右以㆓彼亭賢眞筆㆒寫㆑之。

于時天正十五仲春初三

從三位淸原朝臣國賢

群書類從卷第百二十

裝束部九

法中裝束抄 是元無名書今私題之

法中裝束之事。

一鈍色白裳付香染事。

問云。鈍色ノ名目并其所用如何。

答。或云。只色ニ付テ鈍色ト云歟。又ハ椎鈍ト號ス。其由可尋之。所詮素絹ノ織色ニテ不染也。本躰ハ縠ヲ云歟。從僧如キノ所用大旨如爾也。但御修法息炎淨衣ハ麁品之平絹等也。一時一會ノ料之故歟。若淨衣被下程之時。私ノ椎鈍ヲ用之由舊記ニモ見タリ。鈍色ハ必編ノ物也。白裳ハ必練テ粉ヲ付張ニセル也。但清華ノ僧。生ノ裳ヲ着ル常事歟。是ハ可為別儀。從僧乃至承仕ノ着用モ練タル白裳而已。

問。此鈍色ヲバ誰法師何時着用之乎。

答。凡僧以上法印乃至。又白裳ヲバ因時黑袍。承仕マデモ通用也。衣裳束ノ外ニハ引裂タル者也。鈍色裝束ニハ多分小袈裟襪ヲ着ナリ。所詮鈍色ハ上下通用之者也。或云。俗中直衣ニ准云々。

問。僧正ハ香鈍色云々。何可謂鈍色乎。

答。只是縠ノ鈍色ヲ香染ニシタレバ。香鈍色ト云歟。名目相違也。星月夜トモ申如歟。此香染糸ヨリ染テ織シナルベシ。

一相表袴事。

問。袒者本躰綾歟。平絹歟。又所用樣如何。
答。僧綱ハ白綾有文。凡僧ハ練貫也。裏平絹練張タルカ。聊サカメキタル者也。
問。此袒ヲバ何ニ宗ト重子着乎。
答。衣絹布ノ衣共重也。鈍色袍裳等通シテ重用也。
問。何ノ季節ニ用之乎。
答。自十月至三月用之也。自四月至九月ハ。大帷ヲ專重之間袒畧也。又御修法之時淨衣ノ下ニモ重之。但如此冬節ニモ袒ノ用意ナキ貧修學者等用大帷事。是多分之儀也。何樣引刷タル出仕ニハ袒必可重之者也。
問。表袴ハ何物乎。
答。僧綱ハ綾白。凡僧ハ練貫。如此用習之歟。何モ裏ハ平絹ニテ練タル也。或裏ヲ赤ク染之。或蒼ク染之有也。凡ハ不可然歟。俗中表袴ハ白粉張ニテ赤キ裏ヲ付タルモ有之歟。

問。此袴ハ何裝束ヨリ着之乎。
答。鈍色袍裳等通而着用之也。又御修法之時。四種法。何モ同表袴裝束ナルベキ也。
問。此表袴從僧已下同可着用歟如何。
答。從僧マデハ鈍色表袴裝束古來常事也。其以下ハ無其例歟。文永之比。後七日法小行事。東寺所司也。承仕也。着表袴。其姿不異伴僧。不可然之由突鼻。修中改之。指貫着之云々。當時モ小行事必鈍色指貫也。以之思之。表袴サマデ下﨟ノ者不着歟。近來故座主之時。三寶院結緣灌頂興行之時。螺吹之役。當堂預號後戸(ウシロト)堂主也。隨其役。而鈍色襖袴。號狩袴。是先例也。可着表袴之由頻望申也。突鼻之間遂用狩袴也。

一袍裳付香染事。
問。袍裳其色其文如何。
答。色ハフシカ子黑色勿論。文ハ織付タル也。クツワ唐艸或蓮花ヒシダスキ。以下其文不定

ニシテ。其類尤多也。夏袍ハ編也。冬袍ハ練テ裏アリ。但夏ノ袍ニ裏付タル粗有之歟。是冬通用料云々。裏ハ或ハ白或ハ空色等。不一准歟。

問。此袍裳何程法會着用之乎。

答。傳法結緣灌頂幷万ダラ供。アザリ幷職衆必着用之。又御齋會內論議顯密法事。晴儀皆是號法服着用之歟。又十弟子以下專當所黑袍着用之常事也。但袍計通用歟。於裳不爾也又僧正ハ香染ノ袍裳有テ同前也。夏冬之替目同之。

抑香袍裳與香鈍色其異如何。

袍裳ハ必有文。鈍色ハ穀ニシテ無文也。此其異也。又法親王等着用紫袍常事歟。或如僧正香染衣用也。

一衲橫皮事。

問。此袈裟其躰如何。又何法會用之乎。

答。衲ハ綴リ也。其又無定樣歟。四方ノ緣等ハ多分綾。或紺地ノ錦等用之。橫皮或唐錦或織物縫物。美麗結構多也。仍衲與橫皮其文以下各別也。御室ニ寶珠之衲トテ貴寶物アリ。其モ橫皮ニ如意寶珠ヲ織レル錦ト云。公庭晴儀。專衲橫皮着用也。僧綱之大僧正大阿ザリマデモ着用也。又凡僧ノ衲衆ニ加ル之時。紫甲ヲバ不用也。衲橫皮着用之僧綱凡通用之袈裟而已。

一紫甲青甲事。

問。紫甲ハ其躰如何。誰人着用乎。

答。地ハ紫ノ綾有文。ヘリハ黑色ノ綾等常事也。橫皮又不相替。是自律師至法印僧綱之着用也。青甲ハ地青ク。ヘリ又黑色等。如紫甲。橫皮又同色。是ハ一向凡僧（有職。非職。）着用者也。又櫨甲トテ已講掛之袈裟有之。（疑闕）地ヲハジノ色ニ染タル也。又甲ノ袈裟トテ。當寺櫻會仁王會舍

利會ニモ。古物ニ二三帖有レ之。雖レ聞レ之未レ見レ之。又僧正着用ニ□袈裟トテ。平袈裟ノ外衲横皮ノ外ニ用レ之。其躰。只地ハ香ニシテ。ヘリヲモ香ナガラ。色ヲ黒キ様ニ染替タル者也。是ハ故賢俊僧正之時マデモ着用有レ之也。香ノ平袈裟ニカハリタル所ハ。平袈裟ハ地モヘリモ同ジ。文同色。甲袈裟ハヘリノ色ヲ黒クシテ。文モ又替タル紺［　］文［　］紋爲シタトモ地トヘリトノ色ヲ染替歟。甲袈裟ニ可二混亂一者哉。可二分別一也。

問。此僧綱ノ甲袈裟ハ何時着用乎。

答。晴儀□横皮［　］レテス［　］ノ儀ハ平袈裟ナリ。□法等ス［　］其外［　］一會導師ナド［　］付タル時□歟。□袈裟如レ然。不二分明一歟。

一平袈裟事。

問。平袈裟其躰如何。又何之時誰人着乎。

答。當寺之所用平ゲサ清花子以下用也。綾着用清華人。浮文ノ［　］。所詮皆白色也。當所者灌頂之［　］儀之時。竪者〔注獻〕證記等着用。又灌頂之十弟子必用也。又ハ修法大法之開白結願伴僧着レ之常事也。精好之袈裟［　］之間。麁絹平袈裟多候也。僧正ハ平袈裟。香染也。雖レ有二文一地與レ緣同色ナル者也。

一襪事。

問。是綾歟平絹歟如何。

答。當寺之様。綱凡通而練貫用レ之。多分如レ此歟。予此事不審候間。故四條黄門閑談之次手談二此事一。俗中所用ハ平絹之粉張ノ物定式也。黄門云。然者不審。北嶺之宿老三井之耆德ニ相尋之所。一同申云。皆平絹之襪着レ之。是內衆之端用レ之候由也。但名僧等練貫用レ之。是別儀也。殊更修法之大アザリ等。努々練貫不レ可レ用之由申歟。予聞。是等說尤叶二愚意一。仍近來修法之時。

畧練貫用平絹粉張。韈了。而近來以來當寺僧綱已下。多分此儀ニ成侍歟。不可思議也。仁和寺所用可尋記也。

一草鞋錦事。

當寺諸僧老若之草鞋ノ錦。或赤地或青地或紺地紫。凡思々而未一准。是無定樣之故歟。或云。俗中靴ノ履ニ准之者。公卿ハ赤地錦ニテ張之。殿上人ハ青地ノ錦用之。綱凡可准之歟。然而僧正可用此儀之法ナケレバニヤ。青赤之[ ]又不定歟。爲之或當時金襴[ ]草鞋。出現以大阿闍梨所着。多分金襴多也。

一衣事。

問。當寺一座道常着用ノ衣。上古之祖師之影像ニ不見之。自何時代出來哉。

答。或云。上古ハ大畧徧衫歟。大師一門等影像如爾也。今此衣ハ。或山僧ノ申シヽハ。天台祖師慈覺之時。猿衣トテ如此シ出サルヽ由語之。但猿衣ト名ツケラルヽ其由不審。大帷重タルヲ多分付衣ト號歟。袙ヲモ冬ハ重事如注上。故光濟僧正ハ仙洞樣ヘモ内々夜ハ衣裝束ニテ被參シ。其裝束云々。其姿ニテ可參之由勅定。又局抔ヘモ不憚之對面歟。凡ハ鈍色ヲ可着也。昔ハ法師モ俗中モ。俗中所用之束帶ヲ着之。指貫ヲ着ト袍ニ指貫ヲ着スルハ。俗中ニ衣冠ト稱ス。束帶ニハ表袴ヲ着ス。是ハ晴之儀也。衣冠ハ内儀歟。又俗中ニモ下(シモ)裝束トテ。夜ハ直衣ナドニテモ仙洞樣ヘ參入事アリ。其姿ニテ又被召出事モ有之歟。

一等身衣事。

侍法師等所着用歟。多分布衣也。指貫着之。袈裟不着之。是内々儀歟。又穀等ヲモ不着。裳袈裟之時號等身衣歟。所詮裳袈裟ヲ不着之時之姿也。勝寶院道意僧正。後七日法勤修之時。阿闍梨坊客來ニ。坊官等身衣廿人陪膳之由誤

傳之。定是布衣歟如何。

本云源僧正御筆可秘藏也。　　　　　　　　源

享保十八年癸丑十一月廿日。報恩院前大僧正隆源以御自筆寫。本紙有行樹院。申出書寫。文字虫入不分明者也。

澄翁

右法中裝束抄門人稻山行敦於京師得之

法躰裝束抄 是元無名書今私題之

法躰裝束㕝付童躰裝束事

一鈍色着樣事 丈數等有之　一五帖袈裟懸樣事
一椎鈍事 サシカリ　一裘帶事
一指狩事　一付衣事
一法服事 寸法事有之　一平袈裟事
一衲袈裟事　一甲袈裟事
一入道衣袴事 着樣縫樣寸法を出樣等有之
一童躰直衣事　一同狩衣事
一同狩襖事　一同半裾事
一水干事　一同垂頭事
一同淨衣事　一同髮結樣事

一鈍色を可令着次第。正道法師又入道同之。

先大口。赤大口。又白れりすゞし兩樣。

次大帷。白。夏冬同。そうかうの料にゑりひろし。

次單。白生平絹。丈數三丈五尺。或は袙の上に着レ之云々。そうかうの料にゑりひろし。袖に中わりを入なり。此外如レ俗也。

次袙。白綾。文不レ同。白裏。夏は不レ着レ之。ぬい様單に同。丈數三丈三尺。夏引倍木とて白綾張單着レ之。非打物なり。

次表袴。文藤丸。裏紅白苛又浮線綾平絹等依レ人着レ之如レ俗也。丈數二丈五尺。

袙以下おなじ。まへにかさねて御かほの見えぬ程にかけて。ひきちがへて。うへのはかまの下に入てこむるなり。俗裝束のごとし。うらをば前にむすぶ。まへふくらなし。そうかうをたつるなり。下具よりきせ。次第にそうかうをたつるなり。又みなきせ一度にもをるなり よく〱わきを入て。袖の下をかさぬべき也。

たゞし當時は。鈍色法服袖單。みじかくして。尻まではさがらず。

次裳。香白無文薄物(單なる物也)。或平絹。練生。又練貫。又打物。(是は法服に着する也)。夏冬通用也。貴人香貫白。凡人不レ着レ之。丈數四丈三尺。寸法にはあしつきとあり。同事なり。ふき返しあり。

うしろよりあてゝひきちがゆれば。まへは二重になるをうしろより前へとりてゆふ也。もろかぎかたかぎ。いづれくるしみなきなり。うへのはかまより三寸ばかりあるべし。下ざまの人はたかくきすべきなり。若裳のながくば。こしにてをるべし。

次鈍色。香白。同レ裳。丈數三丈三尺。四袖ならば四丈なるべし。ころも下具。べち〱にたゝむなり。又かさればかりもたゝむ也。

まへを引ちがへて。御帶をあてゝむすぶ。をびより下を三にをりて。帶のみえぬ様にうへにをしあてゝ。まへもおなじくをりてひきちがへて。帶によく〱おちぬやうにはさむ。帶のはしもみえぬ様にかふべきなり。

又そうかうよく〱たつべし。

次に衣文をかくべし。袖の下をしたゞ〱とよくかさねて。身より入。わきに中高にしわを三入て。大袖の中のたゝみめにしわを入。袖の上のをりめよりをりくだす。又はた袖

のぬいめのほどをさきのやうにをりて。なつの袖袍の衣文のやうにうへへかへすなり。此外袖のうちとのしわ。かりぎぬにおなじく。はた袖のはしをちとはねさするやうにたゝみ。よきやうにかくべし。

但室町殿御出家以後。御衣の御衣文は。大袖の中のたゝみより下にしわをたゞ一入て。そのしわのもとにはた袖をかへさるゝなり。又わきのしわもたゞ一入なり。御このみによりて。予がやうにめさするなり。只公方の御好によりてさたすべき也。此室町殿の御衣をば。予毎度めさする也。

又どんじきの すそのひねりめ みえぬやうたゝみて。帯のみえぬ様にかいたるが見よきなり。

帯。生香白淨衣の帯のやうにたゝむ也。

鞵。平絹。若法師は練貫も無二子細一なり。

檜扇。置物なし。糸計垂レ之。又若法師は有二置物一歟。夏も晴の時は猶ひあふぎに候。

鼻廣。俗のあさ沓の鼻のあるものなり。沓しきはあやにてはる。

念珠。まろすゝなり。鈍色の時はいらたかすゝたばもたずと云々。

又指貫（白綾平絹坊官などは色々に着す也）をも鈍色に着用あり。白下袴なり。

身の入様は俗におなじ。又上結もあるべし。

下具あこめかゝり歟。夏は單大かたびら歟。

下具はさしぬきの下に入。鈍色裳はうへにあるべし。只さきの如し。青蓮院門跡には。

慈鎭和尙より公方へ申うけられて。指貫を着用なしと云々。

一五帖袈裟事。丈數一丈七尺。裏なし。なつふゆ差別なし。

香。練浮織物。又堅織物。文不レ同。せいかうの染色。凡人僧正懸レ之。大納言入道はゆるされて着レ之。織物は法皇竹園攝家懸三給之一凡人不レ懸レ之。室町殿者浮織物有二御懸一也。御文桐唐草也。

紫。貴人僧正以下懸レ之。浮織物貫白。文不レ同。但綾は□など懸レ之歟。

白。薄物せいかう。貴賤懸レ之。

薄墨。有文薄物織物同レ前。綾幷平絹生等付重もあり。

かくる樣。鈍色唐裘袋付衣衣袴等に常にこれをかくるなり。右の袖より入て。そうかうをこして。左のかたにかくるなり。緒のむすびめはまへにあるべし。後の緒のつきたる上をよこざまに右のわきの下までうちへをるべし。又前は緒より上を外へうはむくやうにをるべし。いきの緒のむすびやうは。山寺南都にむすびかふるなり。又山寺のおなじ内にても。門跡によりてむすびかふるなり。さだまらず。先々法皇樣は御崇敬によりて。いづかた樣にも御むすびあり。代々一樣にあらず。代々當家奉仕なり。室町殿は青蓮院樣にむすびあり。時宜にしたがひて。所の門跡のむすび樣をたづねならふべきなり。〔しイ〕

一椎鈍事。此事よく／＼尋ぬれば。鈍色におなじ物云々。

どんじきにおなじ物と云々。或説には。うす墨の織色の鈍色をいふなり。

一裘袋事。丈數六丈三尺。此内ひろはゞ一丈五寸。ひろはゞなき時は七丈なり。たゝみやうはもつけ衣のごとし。下具かさねながらなり。

しゞら綾。　のしめ綾。　又平絹。

俗の直衣の調樣也。文法皇竹園は菊八葉。其外は家々文不レ同。白裏若人裘色あり。ぬいやう付衣に同じ。夏は裘袋を不二着用一之云々。又夏も冬を通二用之一。別にすゞしはなきなり。凡上さまばかりめさるゝものなり。大納言入道まではゆりて着用參内すと云々。僧正又同也。是以下人不レ着之歟。

首書香織物裘袋事。

正安五十二。於二圓山殿下一十種供養之時。

裏書法皇着二御之一。

應永三年四月廿八日。尊道法親王青蓮院天台座主宣命之時。爲二御見物一有レ人二御彼門跡。室町殿御裝束。

御裘袋。如レ冬。　白張單。文桐。　長大帷。
御指狩。白平絹生。　香御袈裟。同織物練。文桐唐草。
白生御帶。　香御扇。　御念珠。予奉仕也。
下具白綾。丈數四丈二尺 袙。丈數袙二同 大帷。白丁。大口。指貫。下袴。五
條香袈裟。念珠。いらたかなり。扇。夏はかうもりあふぎ。帶。白生。
上結之時は腰次あるべし。
可レ着樣。
下結上結兩樣なり。俗のごとし。あこめ以下
なににても。下具は指貫下。したのはかまの
上に入べし。まへふくらなし。よくひきちが
ゆべし。きうたいはさしぬきの上也。をびを
あてゝ。まへうしろのわきをよくつくろひ
て。御裳をとりにがめて。まへへをしやるな
り。直衣の襴のごとし。又えんはもゝより三
へにたゝみて。御裳のつけめにとぢ付る也。
とほへかゝるほどに深くちがへれば。そう
かうのむねわろきなり。そうかう衣文どんじ
きに同也。うらある程にはた袖をかへさず。
應永三元三垸飯。室年卅九町殿御出座之時。御裘
袋。しゞら。文桐丸。白綾御袙。文桐。白綾御指貫。襲目。文藤丸。
白下御袴。五帖香御袈裟。堅織物。文桐唐草。御檜扇。垂
糸。御襪。平絹。御衣文。御はかまぎは。以下予
沙汰之。以前のごとし。
一指狩事。はかまのひろさ一尺三四寸計なり。六ののものなり。
白。　薄墨。　地綾。色。　又平絹。練生。
裏あり。色面にしたがふなり。
ぬいやう淨衣の袴に同じ。ほそき物なり。又
はすゞし也。あしくびくゝりをゆひすへて
着す。下の袴なし。又しわも別してさだめて
入ず。大口をも着せず。裘袋付衣に此さしか
りを着する時は。長大帷なり。又下具ども指狩の下ぐ入てもきせ申也下具はみなさ
しかりの上にあるべし。下具はいくへもあ
れ。かさねて一まへ。その上に衣は一まへ
に。ひきちがゆるなり。裳のうしろの中を。

ちとゝりにがむべし。

此指狩は青蓮院門跡久々着レ之。他門跡は着せず。其故は慈鎮和尚指貫を着する事をきらひて。これをさたしいたさるゝ也云々。室町殿はさしかりをよしとて。さい〳〵御出などの時。御裘袋御付衣にめさるゝなり。又のしめしじら。綾文藤丸。只調様指貫のごとし。予めさする也。其様以前のごとし。

一付衣事。無レ裏。丈數六丈五尺。くびたちたる裳付衣の事。たゝみ様常のごとし。

香薄物。文不レ同。法皇竹園は菊。攝家は牡丹。室町殿は桐なり。又無文有レ之。

白薄物。同前。　薄墨。同。

長絹。　布。

可レ令レ着様。織物絹は裳をとりにがめす。布はとりにがむるなり。

先大口。せいかう俗の如し。次長大帷。ながさ袙になじ。次袙。香白薄色綾也。次付衣を着す。下具は一まへ。又衣はそのうへに一まへなり。まへふくらなし。次帶を白生あつ。そののちそうかうをたつ。衣文以下どんじきに同じ。又内々はくびを半にをりても着す。又指狩を着せば大口を略す。其外はさきのごとし。若又此付衣に指貫を着せば。下具はさしぬきの中へ入べし。着様裘袋のごとし。室町殿は御付衣に香の織物の御衣を袙の上にかさねらるゝなり。常の御出にかくのごとし。袈裟は五帖。かけやう先に同じ。

一法服事。丈數下具等鈍色におなじ。縫様同前。夏冬あり。たゝみ様は鈍色に同じ。

赤色袍裳。文小葵。浮織物。かた織物裏あり。裳には裏なし。夏は薄物。文同レ冬。

法皇竹園貴人晴之時着ニ給之一。

又打裳貴人晴之時着ニ給之一。色并文等同ニ御袍一。夏も有レ裏。又冬も裏なし。綾付色也。

裏書 應永九年九月五日唐僧御對面之時。北山殿赤色御法服。桐竹遠文。

香袍裳。冬は練堅織物。文不レ同。裏あり。法皇は御文菊八葉なども御用あり。夏は薄物。文不レ同。

僧正以上貴賤着レ之。

黒袍裳。冬は綾。裏あり。色ふしかれぞめ。夏は薄物。文不レ同。
貴賤着レ之。
布袍裳。色濃墨兩面夏冬無二差別一。表袴面薄墨平絹なり。此外下具は常の法服におなじ。
受戒の人又は如法經導師等着レ之歟。此色目。應永二年九月十六日室町殿御受戒愚記に委細注レ之。
法服着樣。又どんじきにおなじ。

凡法服寸法事。

其人のたけはたばりをとりて。俗の裝束の寸法になずらへてこれをいたす。むかしより定れる法なし。
後伏見院御法躰の時。當家注進案有レ之。奥に注す。是を見て能々はからふべきなり。
室町殿御出家以後は。聖護院僧正道基の鈍色付被レ進めされて着給て御覽ぜられ。此寸法無二相違一とて。このごとく御衣ども御さたあり。予此時祇候御衣を召さするなり。

凡法衣は流通物なり。別而無寸法に沙汰歟。
年少の法師は此限にあらず。
法服鈍色の裳は十二の物なり。
後伏見院御寸法。當家注進古案。
御しゐにぶの寸法。
御たけ三尺九寸。御はたばり四尺八寸の寸法にていたし申候也。これに准じて寸法をはからひいたすべし。

一御身のたけ二尺八寸。御大くび常のごとし。御身のひろさ壹尺壹寸。御ゑり九寸五分。御そうかう七寸五分。御袖のひつたて貳尺四寸。御大袖のひろさ一尺一寸五分。御はた袖八寸。御裳のたけ二尺九寸。御あしつき九寸。十二の御ひだ四尺五寸。御ひだのたゝみのひろさ二寸五分。御こし一丈。

一御あこめの御たけ。御くびつねのごとし。御身のひろさ一尺一寸。御ゑり九寸五分。御そうかう七寸五分。御袖のひつたて二尺四寸。御袖のひろさ一尺三寸。

一御ひとへ。御あこめにおなじ。

一御長大かたびら。御あこめに同じ。

一御さしぬき御下のはかま日比におなじ。

一白すゞしの御裳。御けさ同。

一御どんじきの御寸法。御裳以下いつでも御しゐにぶにおなじ。

一御法服もおなじ。

一御うへのはかま。普通におなじ。

　但うらはあをかるべし。ねりはり御大口。

　いつもにおなじ白。

御くむたての御ころもの御寸法。

一御身のたけ四尺二寸。御えりより御裳のつけぎわまで。御えん七寸。

御身のひろさ一尺一寸。御大くび常のごとし。御えり九寸五分。御そうかう七寸五分。

御袖のひつたて二尺四寸。御大そでのひろさ一尺一寸五分。御はた袖八寸。

一御裳のたかさ一尺。ながさ一丈一尺。かいまはり也。

一御けさ御たけ一尺五寸。御ゐき四尺六寸。

一御きうたいの御寸法。いつでも御くびたての御ころもにおなじ。いさゝかもかはるべからず。

一平袈裟事。

法服の時懸レ之。又鈍色にもかくるなり丈數四丈。裏はなきなり。緂も甲も一色の物也。七帖歟。

香織物。浮堅文不レ同。僧正以上懸レ之。

白織物。浮堅文不レ同。可レ然人懸レ之。常には不レ懸レ之歟。

白生平絹。貴賤懸レ之。

布。薄墨布。法服之時懸レ之。

横皮。色緂様はけさにしたがひておなじやうにあるべし。丈數一丈八尺五寸。

まづ横皮の小緒を左のいきのまへの帯にむすびつけて。袖のしたよりうしろへとりて。右のかたより前へうちかくる。中はたゝ上さまはたゝまでみながらなり。めさるゝなり

裏書

應永三年五月廿日。室町殿。武家大政入道准三后。山門大講堂供養日着座之時。香法服。金襴袈裟。青地文牡丹唐草。横皮。同前。中はたゝまで御かけ也。

同廿一日。同日受戒之時。赤色法服。同色打裳文桐唐草同袍。白地金襴袈裟。文牡丹。横皮。同前。次にけさを左のたけたかゆびにかけて。（すみなるつゞりをゆびにかくるなり）うしろへひきまはして。うしろの緒をば左の肩より前へとり。したの緒をば右のわきよりまへへとりてひきかけて。かたむすびに胸の邊にてゆふなり。さてけさのはしをたゝみて。むねなる緒にをしかふ也。その上へ横皮をば引いだすなり。

徳治二年十二月九日。石清水御幸之時。法皇後宇多赤色御法服。白浮織物御袈裟。縮線綾御表袴と。或記に有之。

應永二年九月十六日。室町殿於東大寺御受戒之時。布御法服同御平袈裟着給に。予如此奉懸之。但御受戒以前沙汰は。御袈裟のうしろの緒を御ころもと御けさとのなかへをし入るゝなり。御受戒畢。教授師奉出緒候也。先々法皇御受戒之時。當家如此奉仕之。仍今度も存故實。此事可秘々々。只沙彌受戒之時。御袈裟をかへさまにかけて。受戒之後かけなをすこと。其故はいかゞ。

一衲袈裟事。

甲も綴も色々不同。又綾織物。文等不同也。九條歟。かけ樣平げさにおなじき歟。法服の時懸之。

丈數。

たけ二尺七寸。　ひろさ七尺五寸。　つゞり綴一丈貳尺三寸。　かう甲一丈八尺七寸。　裏一丈九尺六寸。　黄鼻五尺七寸。　かう同。　裏一丈二尺八寸。

一甲袈裟事。

丈數も懸樣も平袈裟におなじ。横皮又けさの色にしたがふべし。法服に懸之。

香甲。紫甲。青甲。櫨甲。

一入道着用衣袴事。
生薄墨絹。貴人着ㇾ用之。
同色布。貴賤着ㇾ之。
色の淺深。人のとしによる。極宿老はちとこかるべし。
丈數。布ごろもに二段。はかまに一段。以上三段なり。
ころもはひとへにうらなし。そうかうも只ひたゝれのゑりのやうにして。うちへおりかへす。又付衣などの樣にそうかうのあるもありと云々。つねには見不ㇾ及。大くびあり。ゑんあり。此ゑんは身よりつゞくなり。それをみへにたゝみて。裳のつけぎはにかへしばりにとぢつくるなり。二身四袖なり。袖つけより裳のもとまで兩方のわきあくるなり。みなはた〳〵にひねる也。裳のうしろの中に兩方にひだ三づつあり。また左右のわきまへうしろにひだ三づつあり。この裳兩方のわきへひろごるやうになみがたにしわをゐするなり。裳をばうしろの中よりとるなり。まへの兩方のひだより前はすぐにしはをゐする。うしろは左右はこまかにとりにがむれば。をのづからなみがたになる也。袖のたんのありのいでたるやうにとりなすべし。裳は大くびまでつくべし。ゑりは裳のつけぎはにてとゞまるべし。ゑんまではいづべからず。
はかまはもゝだちの二のわりのとをしあるべし。うらは白きぬ練生いづれもしさゐなし。また腰は白生平絹つねのごとし。ぬい樣又身の入やうたゞ淨衣に同じ。下袴白きぬ。はかまのこしと下袴とにきぬ二疋ばかりなり。
大帷白布一たんばかり。ぬい樣。かり衣の大

かたびらのごとし。
白生帶。淨衣のおびのごとし。
可レ令レ着樣。
大帷は下袴のうへ。はかまのしたにあるべし。衣ははかまの上にあり。まへを能々引ちがへて。まへうしろのわきにこをりをす。わきひろくばふかくをるべし。人にしたがふべし。をびをあてゝゆふつねの如し。衣文は鈍色のごとし。大かたびらはかねてかさねてもつけ衣のやうにたゝむ也。はかま又かさねて身を入。つねのごとし。袈裟は五帖薄墨の薄物。文は人の所爲にしたがふ。不同なり。貴賤懸レ之。かけやう同前。
大臣の入道以上は絹衣袴。香袈裟をも又懸るなり。香げさは大納言入道もゆるされては懸レ之云々。
應永二年八月。時正中於二室町殿北御所一御懺法之時。具行人四辻前大納言入道殿。季顯卿。中山前大納言親雅卿。等は。布衣袴に香袈裟懸レ之。貫白薄物。文色々。

衣袴寸法を出次第。
一ころものたけ。その人の一のほねよりきびすのもとまでの寸法に四五寸ばかりおとすべし。下ざまの人は七八寸もおとすべし。
大くびの上は。つねのごとし。下は身のひろさ半分に今五分計ますべし。
ゑりのひろさ二寸にすぐべからず。
こゑりのひろさ六寸ばかり。但くびふとくこゑたらむ人は。七八寸にもすべし。ゑんは六七寸にすぐべからず。身よりつづくものなり。つねは五寸なり。
一うちたれの事。
一のほねより左のたけたかゆびの寸法に今二三寸ますべし。下ざまの人は一寸五分ますべし。この内にて身大袖はたそでをつもりあはすべし。身と大袖

は同ひろさなるべし。たゞしこゑたる人は身をちとひろくまはすべし。はた袖は。大袖二寸或一寸五分ばかりおとすべし。

一袖の引たての事。

その人のたけの半分に一寸ますべし。たゞし上様は今一二寸もますべし。

一裳のたかさははた袖におなじ。又今一寸も五分ばかりもひろくあるべきか。能々はからふべし。たゞゑんのひろさに三寸ますべし。ながさ一丈二尺。

一はかまのながさ。その人のこしより下の寸法に五六寸ますべし。下ざまは三四寸ますべし。ひろさ一尺四五寸にすぐべからず。此内にて大のとをしのわりのをはからふべし。大のにとをしのは。二寸或は一寸五分ばかりおとすべし。又わりのは大のの半分ばかりにあるべし。たゝみよきやうにはからふべし。當時は袴のひろきをみな好む。しからば一尺六七寸にもあるべき歟。人の体によりてはからふべし。しからばその人のたけの寸法にいまきらふ。しからばその人のたけの寸法にいま三四寸おとすべし。

一大かたびらは浄衣の大帷におなじ。身は衣のひろさに同じかるべし。こゑりも同じかるべし。袖はころもに二寸ばかりひろく。ながくしておるべき也。

一下のはかまは袴のながさに今七八寸ばかりますべし。ひろさははかまに五分ますべし。

一あこめは着せず。むかし着する人あり。それは難あり。

一直綴事。

絹のぢきとつ。ねりすずし。白生大口は大臣以下三位入道まで着₂用之₁。或色々のおりものうす物等の直綴も着₂用之₁。

布の直綴布の大口は殿上人以下入道着₂用之₁。

夏は公卿もうすもの。布を用。こゝろにまかすべし。

童躰裝束事。

一直衣。浮織物。文小葵。裏紫。夏は三重多須幾。下具等俗に同じ。指貫攝家以下は二重織物なり。腹白。童躰の時は年齢いかほどなりともうへをとをしてくみてさぐべきなり。絬を前の縫目より出て組之。此外は俗におなじ。是當流說なり。永章卿流は俗の指貫腹白も此色形のごとく。前の縫目より出之。兒俗をいはずくむ。公方樣御指貫の腹白ばかりもゝだちのぬいめより出之組之。當說は童形ばかり前のぬいめより出して。俗のは皆もゝだちの縫めより出して組之。公私とも差別なし。此事如何。

一狩衣事。夏冬着用の時俗に同。色下具等俗におなじ。指貫腹白同前。袖のくゝりけぬき形（十五才まで）。又ふせぐみ（十六才より）つねのごとし。袖のくゝりはおさあいもおとなしきも。五（皆イ）たんに入るゝものなり。袖の下の小はりはなし。袖のくゝりはふせぐみなりとも。濃紫の指貫はら白はくむべし。童躰のほどは。とし三四十なりともかやうなるべし。

一狩襖事。袖絬同前。裏あり。又單もあり。上下ともにおなじ物なり。織物色下具等かり衣に同じ。練生時節色時にしたがふべし。ぬい樣上はかり衣に同じ。下は淨衣の袴におなじ。下袴又身の入樣も同前。帶は狩衣におなじ。

着用只淨衣に同じ。俗も着用之有例。童形狩衣幷狩襖の色々下具等。應永二年九月室町殿御受戒之時の愚記に委細注之。

一半裾事。色同前。裏あるべし。又單もあり。狩衣のうしろの短物也。つねにながき大口に

着給之。帶は狩衣に同じ。下具なし。又指貫を着する事もあり。その時は下具狩衣に同じかるべし。俗躰も着給之。下ざまは不着。高野御幸供奉の若殿上人着用の例あり。

一水干之事。色々織物隨節。上下同色。練生裏あり。

上は狩衣のぬいやうにおなじ。但くびかみのひぼを入ず。木をも入ず。紙ばかりなり。つねよりはほそう。ゑりかたもなし。ひたゝれの様にかどをたつるなり。まへうしろみじかくて。袴のうちへこむる也。くびかみの兩方のはしをしたへをし折て。まへをひきちがへてきする也。くみのひぼを上がへはくびかみのさきにつけて。むねより入て。左のわきより引出す。下がへのひぼは身のうしろの中のとをりのくびかみにつけて。くびかみの外より引まはして。むねの引ちがへよりうちへ入て。右のわきより引いだして。むねにてもろかきにむすぶつねのごとし。袖のくゝりはふせぐみつねの如し。十五才まではけぬきがた也。此まへのひぼのくみも袖のくゝりに同じくみなり。たゞしつゆのさがりのくみわけなし。又單ぐみとて水干のひぼにするくみあり。袴も上におなじ色なり。ぬいやうはひたゝれのはかまに同じ。こしまたも白すゞしなり。練生いづれもしさいなし。但單水干よりくゝりの時はかならずすゞしたるべし。

菊閉も色々の糸なり。水干の色にはへあふやうにすべし。とぢ所。上は五所なり。又袖のうちをもとづる事あり。それは衣文にさしあひてわろき也。袴は股立ひざ四所なり。

下具事。冬は衣。夏は單なり。色織様は時にしたがふべし。衣の縫様多く狩衣の衣に同じ。大口と袴とのあはひへ衣は入べし。左右のもゝだちをはかまきぬ大口を能々かさぬべし。

首書

袷合衣生衣等も着すべし。いづれにても一色を用べし。單はかさぬべからず。

又色ある單。水干幷長絹の水干には色々の糸の菊閉。生よりくゝりひぼ等なり。

衣をかさねず。只大口ばかりの色々の小袖など着する事しさいなし。

又色々のゑなどかきたるもあり。

きくとぢはなくて。たゞひぼ袖のくゝりおなじ色の糸にてもとづるなり。かならずすゞしのいとなるべし。

一たりくびの事。色々織物。又綸などもかく也。つれはよりくゝりなり。

水干のうへばかりをくずばかまにこめて着之なり。衣はかさねず。つねはひとへにて裏なし。菊閉のあるもあり。又只いとにてもとづるなり。

くずばかまは下のはかまもかさねず。たゞあしくびにひきすぼめて着るなり。しへもさだまらず。淨衣の袴のぬいやうのごとし。ゑをかきても着す。又かゝぬもあり。菊閉のあるもあり。又たゞいとにてもとづるなり。

竹園攝家など童形俗躰御若年の時。ながき大口に着給之。下樣はくず袴にて。御童形俗躰皆着之。つねのことなり。

以上皆衣文かりぎぬのごとし。寸法をいだすやうは寸法の抄にあり。

一淨衣事。俗人も十五六才までは。絹にも袖にも袖くゝりかやうなるべし。但絹は下ざまいたく着せず。

生平絹。

袖くゝり生白平絹。又白糸のよりくゝり。二筋づゝ入べし。そでのはたひねるべし。年齡はおとなしくとも。童躰のほどはかやうなるべし。袖のはたはぬいて。つゆのくみばかり入事あるべからず。

又布をも着すべきか。

衣紅梅萠黃蘇芳時によるべし。夏は更衣單生

單生衣引部木等。白下袴白生帯皆俗におなじ。

二兒のかみのゆひやうの事。

もとゆひうすやう。又はくたんしなり。もとゆひの左をあげてみじかく。右をさげてながくする也。もとゆひ左はうつむき。右はあをのく也。さてかみのすそは。左のわきへとるなり。かみのしなによりて中をかみひねりにて一所二所ゆふなり。髪のゆひやうは。をしのはがたつねのごとし。宮など御童躰の時。かやうにゆひたてまつるなり。

應永二年室町殿御受戒之時。上童たちのもとゆひ。右をあげてゆふなり。此事仰出さるゝによりてなり。是はつねにかはられんためとなり。しかれどもかみのすそは左のわきへとるなり。又妙法院門跡にはむかしよりもとゆひを右あがりにゆひて。かみのすそをも右へとるなり。

抑主上春宮御童躰は。御束帯の時御あげびんづら。御引直衣の時は。御ぐしをみださる。又（口傳抄に有之）内々はたゞそと御ゆひあり。あながちに御もとゆひなどのさたまでもなし。

又親王御童躰は。御束帯の時さげびんづら。口傳抄に有之。御直衣の時は。御ぐしをみださるゝなり。又ゆはるゝ事もあり。ゆはればさきのごとくにあるべし。宮以下御直衣の時はみださるべき歟。又つねはゆはるゝ也。

（應永元十二十七御名字義持御歳九）室町殿若公御元服之時。御直衣。御ぐしをみださるゝなり。狩衣を着せむ時は。宮をはじめ奉りみなかみをゆふべきなり。以前の如く髪のゆひやうに公私の差別なし。

此法躰の衣の着様寸法已下之事。先々法皇の御こゝろもは。當家の輩よそゐ奉る也。一向に分明に抄物などなし。今室町殿御衣は。愚身めさするなり。仍公私方々沙汰を經られて。淵底を

きわむるの間。子孫の蒙昧の不審を散ぜんが爲に自筆にこれをしるし。裏判を加之者也。短慮之身定有違失歟。努々不可有外見云々。可秘々々。この一流の中にても。無左右一見をゆるすべからざる者也。

應永三年三月十八日

正四位下行左兵衞權佐藤原朝臣永行在判

右法躰裝束抄於柳堤得之

女官飾鈔

春冬のきぬの色々

一みなくれなゐのきぬ。　くれなゐのひとへ。白きうはぎ。松がさねの小うちぎ。

一くれなゐにほひのきぬ。うへくれなゐにうす紅をかさぬ。紅梅のひとへ。もへぎのうはぎ。赤いろの小袿。

一くれなゐのうすやう。うへくれなゐに白きをかさぬ。白きひとへ。櫻のうはぎ。ゑびぞめの小うちぎ。

一紫にほひ。うへむらさきにうす紫をかさぬ。くれなゐのひとへ。うら山吹のうはぎ。もへぎの小袿。

一紫のうすやう。うへ紫に白きをかさぬ。白きひとへ。紅はわろき也。萠黄のうはぎ。紅梅の小うちぎ。

一梅のきぬ。おもて白し。うらすわう。すわうのひとへ。紅梅のうはぎ。あかいろの小うちぎ。

一つぼみ紅梅。表紅梅。うらすわう。青きひとへ。萠黄のうはぎ。ゑびぞめの小うちぎ。

一うらまさりの紅梅。表紅梅。裏紅。　まさりたるひとへ。もえぎのうはぎ。赤いろの小袿。
一紅梅がさね。　くれなゐのひとへ。ゑびぞめのうはぎ。もへぎの小うちぎ。
一紅梅にほひ。うへ紅梅にうす紅梅を重。　まさりたるひとへ。萠黄のうはぎ。ゑび染の小うちぎ。
一柳。表しろく。うら青。　くれなゐのひとへ。櫻。もえぎのうはぎ。あかいろの小うちぎ。
一さくら重ね。表しろく。うらあかきあか花。　紅のひとへ。紅梅のうはぎ。すわうの小うちぎ。
一山吹にほひ。山ぶきの衣に黄なるきぬをかさぬ。　青きひとへ。萠黄のうはぎ。ゑび染の小うちぎ。
一花山吹。表うすくち葉。うら黄いろ。　紅のひとへ。うら山吹のうはぎ。青き小うちぎ。
一うら山吹。おもて黄色。うらくれなゐ。　青きひとへ。魚龍のうはぎ。ゑび染の小袿。
一くれなゐつゝじ。おもてすわう。うらうすくれなゐ。　青きひとへ。松がさねのうはぎ。山ぶきの小袿。
一つゝじ。表すわう。うら青し。　萠黄のひとへ。かばざくらのうはぎ。藤の小うちぎ。
一藤がさね。おもてうす紫。うら青し。　紅のひとへ。うら山吹のうはぎ。松がさねの小うちぎ。
一色々五。うすいろ。こうばい。もえぎ。すわう。山ぶき。　くれなゐのひとへ。紅梅のうはぎ。萠黄の小うちぎ。
一七重。うへ白き六。くれなゐのこきうすき二かされ。あをきこきうすき一かされ。うすいろのこきうすき一かされ。うへともに七重れ也。　紅のひとへ。すわうのうはぎ。もえぎの小うちぎ。
一しろうすやう。うへもかされも白きをいふにや。　白きひとへ。紅梅のうはぎ。くれなゐの小袿。
一松がさね。表あを。うら紫。　くれなゐのひとへ。萠黄のうはぎ。すわうの小うちぎ。
一かばざくら。表すわう。うらあか花。　もえぎのひとへ。櫻のうはぎ。柳の小うちぎ。
一さくらもえぎ。表もえぎ。うらあか花。　紅のひとへ。紅梅の

うはぎ。ずわうの小うちぎ。
一ゑび染のきぬ。表すわう。うら花田。　紅のひとへ。もえぎのうはぎ。紅梅の小うちぎ。
此内。梅紅梅は十一月の五節より二月まで。櫻山吹は三月まで。藤は三四月ばかり。其外の色色は時をさだめず候。四月にはあはせのきぬにも此色を用候。きぬの地はからをり物二重なり。たゞのをり物。綾。何にても子細あるまじく候。常はおほやけわたくしををしなべて五ぎぬにて候。其内しかるべき御方は。七つも八つも又十も時によりてかさねられ候。唯今の人は五より外はいたく用ひ候はず候。又うちうちは衣一二をも用なり。一にひとへをかさね二三重ねたるもしさいなしと云々
一うはぎ小袿などはふたへをり物。又唐をり物をも用べきにや。

夏のはじめの衣の色。

一藤重ね。表うす紫。うら青。　白きすゞしのひとへ。松がさねのうはぎ。くれなゐの小うちぎ。
一卯花。おもて白く。うら青し。　しろきすゞしのひとへ。紅のうはぎ。ゑび染の小袿。
此外色々。さきにしるすに同じ。四月中は袷の衣にて候。ひとへは衣がへのひとへとて。精好の生絹を何れもかさねられ候。又賀茂の祭の日は生絹の五衣を用事も候。

五月五日より秋までの衣の色。

一あやめのひとへがさね。表青し。うら紅梅。　すわうのうはぎ。ふたあいの小うちぎ。
一花橘のひとへ重ね。おもてくち葉。うら青し。　白きうは着。すわうの小うちぎ。
一撫子のひとへがさね。おもて紅梅。うら青し。　すわうの上着。紅の小うちぎ。
一女郎花のひとへ重ね。おもてたて青ぬき黄色。うらあをし。　紅のうはぎ。赤いろのこうちぎ。
一すわうのひとへ重ね。　女郎花のうはぎ。二藍

の小うちぎ。
一萩のたてあをのひとへ重ね。表たて青くぬきすわう。うら青し。
すわうのうはぎ。をみなへしの小袿。
一萩のひとへがさね。おもてすわう。うらあをし。　女郎花のうはぎ。くれなゐの小うちぎ。
一うすすわうのひとへ重ね。　こきすわうのうはぎ。松がさねの小うちぎ。
一紅のひとへ重ね。　二あひのうはぎ。朽葉の小袿。
一二あひのひとへ重ね。　をみなへしのうはぎ。すわうの小うちぎ。
一ゑびぞめのひとへ重ね。　白きうはぎ。紅の小袿。
一白きひとへ重ね。　紅のうはぎ。二あひの小うちぎ。
ひとへがさねの事。うへはすゞしの織物。あるひはうすものゝあや。したは綾のひとへひねりがさねにて候。下ざまはへいげんうす物などを用る。又綾を何色にても染てはりて用る也。あやめたちばなは五月中。なでしこは六月まで。をみなへし萩は祇園の會より秋のうちめさるべく候。うはぎ小うちぎ皆すゞしの織物。或はふたへ織物をも上ざまは用る也。

九月九日より衣の色。

一菊紅葉又何にても五きぬ。すゞしにうすきわた入て用ひ候に。近比はいかゞ候やらん。

十月より五節までのきぬの色。

一菊の御衣八。うへ五。すわうにほひ。した三。しろし。　あをきひとへ。きあをうらのうはぎ。表黄。裏青。　りうたんの小うちぎ。おもてすわう。うら青し。
一紅葉重ね八。黄色三山吹のうすきこき一かさね。紅のうすきこき一重ね。すわう一。合て八也。紅のひとへ。菊のうはぎ。黄ぎくの小うちぎ。
一白菊。表白。裏すわう。　くれなゐのひとへ。黄菊のうは着。すわうの小うちぎ。

一黄ぎく。表黄。裏青。　くれなゐのひとへ。白きうはぎ。ゑびぞめの小うちぎ。

一うつろひ菊。おもて中紫。うら青し。　紅のひとへ。松重ねのうはぎ。あをき小褂。

一黄もみぢ。表黄いろ。うらすわう。　くれなゐのひとへ。ずわうのうはぎ。青き小うちぎ。

一はじ紅葉。表すわう。うら黄。　紅のひとへ。ゑびぞめのうはぎ。すわうの小うちぎ。

一かへで紅葉。表うす青。うら黄。　すわうのひとへ。くれなゐのうはぎ。ゑびぞめの小褂。

此外の色々は。先の春冬の色のところにしるしをはんぬ。

一うちぎぬの事。　紅の綾をうちてかさねられ候。おさあひ人は濃きうち衣也。夏冬にかはらず。ひきつくろふ時かさねられ候。常にはひとへばかりをかさぬる也。又ひとへの上にうちぎぬをかさぬる事もあり。こきうちぎとは。紫の打たるを云也。今の地に五倍子鐵醬にて染るはまねび物也。

一ひとへの事。　夏は紅。或は濃きひつへぎ也。冬は何にてもひとへねりはる。又ひとへ重ねに引へぎを重ぬる事も有。大概此分にて候。大かたはさだまりたる事候はず候。きぬの色によりてうはぎ小褂は時によりて御さたあるべく候。見どころ候はんずるが肝要にて候。此外又ものゝぐはれの時用候も。からぎぬにてこうちぎあるまじく候。

一裳唐衣は下づかへまでもきる也。

一かざみの事。　うはぎのうへにきる童女のきるもの也。

一小褂の事。　きぬの上にひとへ。ひとへのうへにうちぎぬ。うちぎぬの上にうはぎ。うはぎの上に小褂。其上に袴をきる也。ながさ小袖とひとし。中陪うらあり。寸法は次第にうへにきる

はをめらかす也。

一かいねりの事。　うすき紅のねりはりたるきぬ也。

一ほそながの事。　櫻のほそながにつやゝかなるかいねりとりそへてと。玉かづらの卷に見ゆ。童殿上も細長をきる也。皇太子幼童の時着之。白織物。水源云。未通女のきるものなり。かりぎぬのくびかみの樣にたてゝ。三はたばりの物也。然ども。可然人若は君達女御參の時。をとなしきも着用する也。組にて紐を付る也。

一のしひとへの事。　はりたるひとへ衣を云也。

一うへのはかまの事。　童女ははれの時は。うき紋の表の袴をきる。紋はくはにあられをつくる也。よのつねには。うへのはかまをばきず。源氏葵の卷に見ゆ。

一しびらたつ物。　しびらはうは裳の事也。男は袴の上に着也。女はから裳の上にきる也。褶と書也。

一きぬのたけの事。　八尺九寸也。それによりてかづらのたけもながくする也。

一袴は紅のはりばかま。祝之時こきはり袴。夏冬同じ。褻の時。生の紅のはかま。冬は御ぞ八領或は六領或は五以下。此上に袴をきる也。夏はひとへ重ねの上に袴を着す。近代は小袖を着用す。但ひきつくろふ時御ぞを着す。物の具は冬ひとへ。夏ひつへぎ。うはぎもから衣。小腰ひきこし等。はれの時着す。

一主人は唐きぬ着せざる時小袿をきる也。からぎぬには小うちぎを着せざる事也。

一主人のうはぎ。小袿はかならずふたへ織物也。

一女房は褻の時はひとへうはぎ。紅のうちぎぬから衣等着して。裳をきぬ例也。なを内々はうはぎひとへはりばかまを着せず。たゞきぬの上にもから衣を着する例也。

一ひとへ重ねはすゞしの織物をも又綾をも何をもそめはりてひねり重ぬる也。すわうはりをみなへしも常の事なり。私には平絹うす物などを用る也。又うはぎは織物也。入内のとき女房五節の童女等織物を用なり。内裏中下﨟は織物綾等をきざる也。

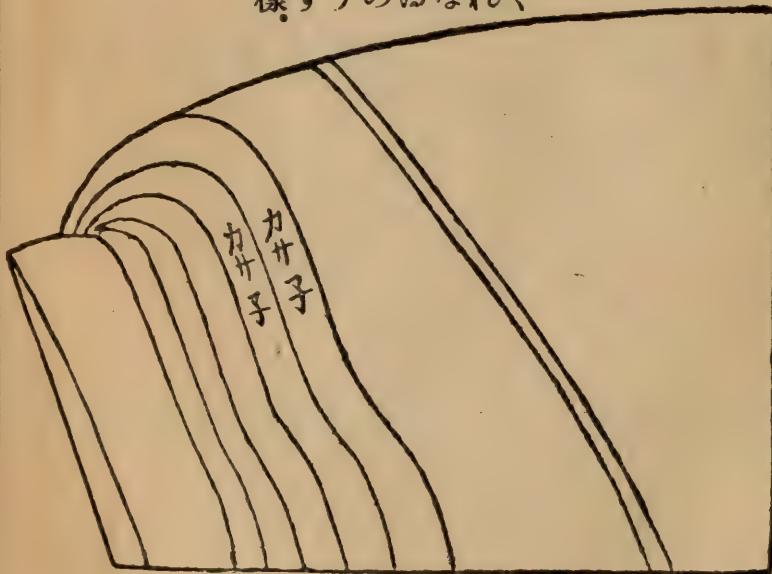
一うちいでに袴を出すは不レ可レ然事也。

依左金吾基春卿。所望下禿筆訖。可禁外見而已。

永正三年春日　従一位

右女官飾抄以松岡辰方本書寫挍合畢

曇花院殿装束抄

一五ッ衣單色目事。

むらさきのうす様。

一紫
二紫
三薄紫
四白むらさきにほひ
五白
六白
七白

もえぎにほひ。

一草具コク青茶
二同
三カリ
四六
五六
六六
七朱

紅梅にほひ。つぼみ紅梅とも。

一紅梅
二同
三たんうすく
四朱
五朱
六朱
七六

（四朱・五朱　紅梅そたんカサネ）

やなぎ櫻はうらうす色。

一白
二同
三同
四同
五同
六同　朱
七朱

（四同・五同・六同　五筋アサギニテフチ取六）

さくら。

一白
二同
三同
四同
五同
六一
七六

（四同・五同・六一　紫ニテフチ六）

雪のした。

一白
二同
三同
四朱　ウスク中
五朱　極緋
六朱　ウスク
七六

梅重。

一白
二同
三朱　少ウスク上ノ方カサネ
四朱　又コク
五朱　又コク
六朱　極朱
七六

六ぎぬ二色。

一薄紫　エング
二同
三同　此間ノ筋ハ紫ニテフチ也
四黄　同斷
五同
六六
七六
八朱

（五同・六六・七六　此四ハ白シ）

同さくらつゝじ。

一紫
二薄紫　エング白フチカク
三同
四白
五同　二筋紫フチ六
六六
七六
八朱

同色〳〵。

一薄紫　エング
二同
三同　紫フチ六
四朱
五六
六黄　朱ニテフチ六
七朱
八朱

すわうのにほひ。又きく共いふ。

一白
二同
三同
四薄紫上ノカタヘカサネ
五同　又少コシ
六紫
七六
八六

うつろひぎく。

一紫
二同
三薄紫
四同又少ウスク
五同又ウ　ス　シ
六同又ウ　ス　シ
七同少紫ニホヒ
八六

六スチ白ニテ六

紅もみぢ。

一朱　アカ紅也
二同　コク少クロメアリ
三丹
四黄
五六
六朱　コク黄也
七朱

山ぶき。

一丹
二同
三紅梅ウスシ
四丹
五キ
六キ
七六

まつざくら。

一六
二六
三六
四ウルミエンチノク
五白　クロミチサシテ
六ウルミ同レ右
七朱

かばざくら。

一紫
二同
三同
四同
五同
六同
七朱

白フチ取

りむだう。

一紫
二同
三ウス紫　成程ウスク白メガチニ
四同
五六
六六
七朱

ちりもみぢ。

一六
二同
　─朱常ノフチ
三同
　─朱フトリ常ノ一倍
四キ
五朱
六同
七同

きはじもみぢ。紅のひとへもん也。

一キ
二同
三同
四丹
五同
六同
七朱

かえでもみぢ。

一六
二同
三同
四キ
五丹
六同
七朱

うらぎく。

一白
二同
三同
四キ
五六
六同
七朱

松がさね。

一紫具　エング少心計アカミサス
二同
三同
四六
五六
六六
七朱

むらさきむらご。

一藤色　エングウククロム心歟
二同
三同　成ほとうすく
四同
五六
六六　後一ツ上ニクサノシル引
七朱

うすぎぬしやうぶ。

一六
二六
三六一ックサシル引
四白
五朱
六紅梅オウトマゼテかほた
七白

つゝじひとへ共　紅も心也。

一朱
二同
三同
四紅梅 タング
五六
六六 クサシル引
七白

花たちばな。すゞしひとへはあをきも心也。

一朱 肉皮引 たんニセテ紅也
二同
三同
四白
五六
六六 クサシル引
七白

ふぢ。しろきすゞしのひとへも心也。

一紫中ウスシ
成程スコシゴフン入テ
二薄紫 エング
三同
四白
五白 ＼二筋六
六朱 ／

一みづし(御厨子)のたな(棚)のおき(置)物の事。
上のぢう(層)にてばこ(手筥)ばかり(許)。
二ぢう(層)めに火とり(取)。ぢむばこ(枕筥)。たき(薫)物のつぼ(壺)。
ぼ(盆)むにすへ(居)て。きやうし(香匙)。こし(火筋)かうはし(香箸)はいおし(灰押)たてゝあろべし。わき(脇)にたんざく(短册)ばこ(筥)。ふみばこ(文筥)。
下のぢう(層)にすゞり(硯)。引合うすやう(薄様)。すゞりのう(上)へにはあるまじく候。なら(並)べてあるべし。
一くろだな(黒棚)のをき(置)物の事。
上のぢう(層)にはらひばこ。
二ぢう(層)めにすみあか(角赤)もとゆひ(元結)のはこ(筥)。わき(脇)のぢう(層)に御はぐろ(歯黒)みのはこ(筥)。わたし(耳)水。くれなゐ(紅)のうすやう(薄様)につゝみて。下のぢうにやは〳〵(和)のかみ(紙)。うへ(上)にぶむちむ(文鎮)置べし。
一こそで(小袖)のとぢやう(閉様)の事。
女ばう(房)おとこ(男)にはかはり(替)候まじ。五つがさね(重)はひとへにとぢぬ。十かさねはすべりてわろく候ほどに。これも五つがさねづつ(宛)にとぢ(閉)候

てふたに入候か。
一女ばう衆こそでの事。
三月一日より二なり。
四月一日よりあはせ一つにこしまき。
五月五日よりすゞしうら。
六月一日よりまるすゞし。
九月九日より二なり。くがいには三ゑりか。
十月一日より三ゑり。
一こうばいぬきじろ。ひとつませは。廿八の春までにて候。いづくもこのぶんにもちゐ候か。
一かもじの水ひきは。四十のとしより二すぢにて候。
一ぶけの御所一のたいよりどんげいゐむどのへたづね申されし御返事。
一こしのかなものゝ事。もとはずいぶむのが七にて候つるが。今はぶげんしだいになりゆき候へども。とがめも候はず候。大上らふにて參候などに。九つにては入候はんずるかとおもひまいらせ候。こしのあしをかな物にてつゝみ候事。上ざまならではときゝつれども。これもぶげんしだいにて候。
一ぬひ物とをしにては下まじく候。とく大じどのの上らふは。かみざまはんぶんのやうに候つれども。とをしはめし候はず候つる。なにむきと申ほどのくらゐなくてはとききゝ候つる。
一ぬひものゝうへにおり物を御ゑりをりてめし候て。かいどりにもをり物めし候はむずるかの事。二をり物はいかゞにて候。
一ぬひ物の下にそめ物の事。
たいがいをりすぢ。こうばいなどのたぐひにて候。はくの下にはそめ物にて候べく候。
一かわらのうの時は。けつこうにだにも候はゞ。きりはうは入候まじきよし仰出され候につきて。をり物のうへにぬひ物とをし。又かひき

りなどにじてめしたるとて候。

一小袖のたぐひにきり(桐)をめし候事。

なにむきにてもゑめし候はず候。上ざまばかりにて候。色々御たづね候。みし世は久しき事にて候ほどに。御しんかう(信仰)候まじく候。とうせ(當世)いはわれまゝ(我儘)のやうにみおよび(見及)候。よろづのみちすたり(道捨)申候まゝ。かやうの事ども大かたたへきたり(絶來)候。

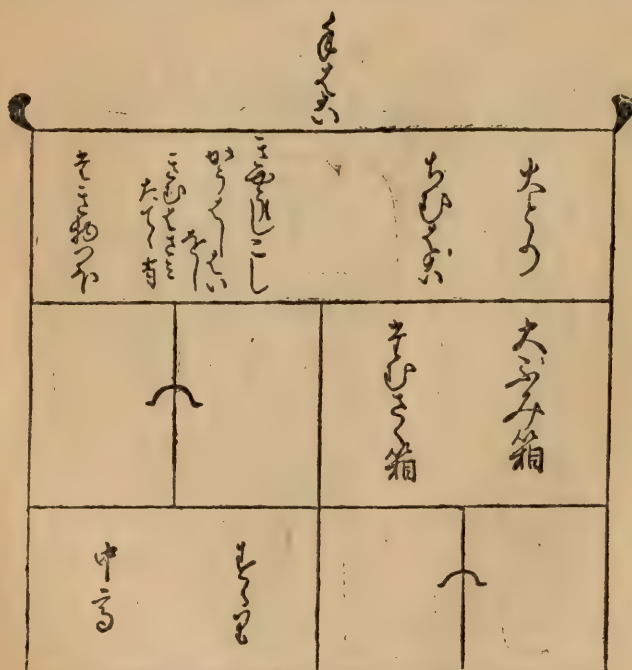
天文八年霜月一日

一のたいどの御返事

かやうのとをり。どんげいゐん(曇花院)どのあそばし候をうつしをき申候。

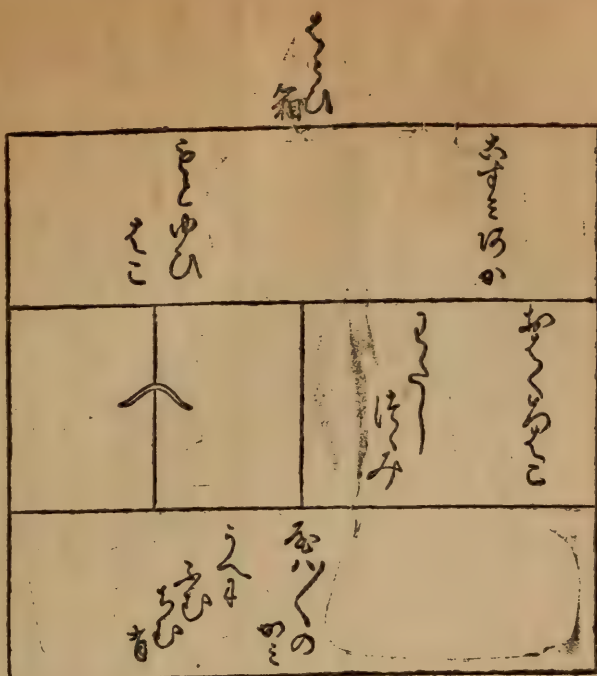
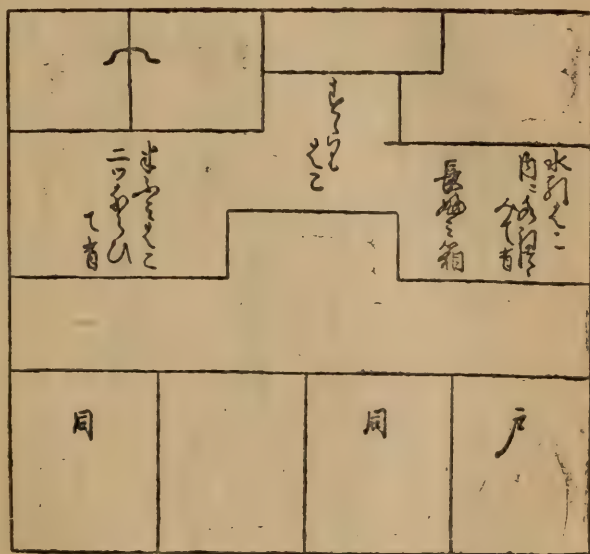
天正三年五月十日

みづしだな。

大ふみ箱

くろだな。

さうしだな。

天保甲辰十一月讀了

忠寶

裝束部十

御禊行幸服飾部類第□

節下。供奉史内記弁裝束司判官等裝束見レ之。

寬治記云。節下左大臣。俊房有二取物等一。

左大臣。馬副十人。手振十二人。四人取物。鞭笏筥。蘇芳袴。同色擣下襲。自餘如レ常。

少納言公衡。和鞍。有二銀面。杏葉。尾袋一。取物四人。持物同二大臣一。

外記雅仲。仲信。柚葉縫腋袍。巡方着レ靴。

寬治時範記云。

節下左大臣。唐鞍。飾馬。

馬副十人。裝束如レ例。　手振。蘇芳褐衣。躑躅單下重。無二半臂一。　執物四人。鞭筥。笏筥。

少納言公衡。倭鞍。有二銀面。尾袋。杏葉等一。裝束如二尋常一。

執物四人。胡床。鞭。少納言侍。

外記二人。三善雅仲。惟宗仲信。倭鞍。楚鞦。結二唐毛一。各着二深綠袍一。俗稱二柚葉色一。

天仁大記云。

權大納言兼右大將家忠卿。裝束如レ常。長秋記云。有二手令二隨身一之儀。振馬副等一。

隨身如レ常。但熊形蠻繪。肅愼羽胡籙。雖二番長一不レ騎レ馬一。

抑近代例。爲二大臣一人多爲二節下一。而左府俊房籠居觸穢。内府雅實服暇。仍上﨟大納言民部卿俊明雖レ當二其仁一有レ議召二家忠之。

少納言家隆。用二飾馬一帶劒。長秋記云。雲珠。頸總。陪從四人。

少外記二人。在二節下上卿左右一。清原祐隆。惟宗貞成。

天仁元江記云。

大臣代右大將。手振十二人。紫褐。取物四人。隨身八人。熊蠻繪。緋眞□青單下重。魚形尻鞘。肅愼羽。馬副八人。取物。熊蠻繪。
[　　]與ニ近衛播磨貞重一取レ口渡。

少納言。從二人。外記左右各一人。柚葉色袍。兵庫屬各一人。允各一人。以上例袍。左頭。允。右助。

退紅從二人。

節旗。騎馬者持レ之。以ニ緋綱一四人張レ之。件旗上三俣鉾如ニ山字一。

保安外記記云。供奉外記史內記等。各着ニ柚葉色絹縫腋袍一。下重以下如レ例。內記用ニ尻長下重一。殊上官等着レ袍。

保安四忠敎卿記云。

節下右大臣。家忠

馬副十人。

隨身八人。召ニ加番長一人府生敦貞一。路次行列之時在ニ手振後一先例也。而於ニ院御棧敷一。太政大臣被レ下ニ知可レ在レ前之由一。仍前行。垂袴。下重躑躅。

手振十二人。赤色褐衣。着ニ柳半臂下襲。朽葉袴。柳下重。依ニ先例一也。藤色。而治曆節下。故大殿爲ニ右大臣左大將一令レ用ニ件色一給。仍以ニ彼例一所レ用也。不レ付レ面事。依ニ彼例一也。

取物四人。笏筥。鞭筥。豹毯。是依ニ先例一也。

保安四師元記云。供奉外記史內記各着ニ柚葉色絹縫腋袍一。

同師元記云。裝束司判官史內記裝束。同ニ行列外記史內記等一。

保安四外記記云。節下少納言公章。少納言侍布衣冠帶革履。[　　]馬副相從了。少納言可レ着ニ布袴一。供奉外記史內記等各着ニ深綠縫腋袍一。柚葉色是也。下襲表袴等如レ例。但內記用ニ尻長下重一。自餘上官等如レ例。

保安四永昌記云。節下右大臣。家。左大將。位服如レ常。蒲萄染打下襲。縮線綾表袴。餝劔代。飾馬。馬副十人。手振十二人。八人手振。四人取物。紫褐。柳下襲。青色單。青末濃袴。隨身府生□黃染布狩衣。以レ梻猥摺。小々紅打衵。白襖袴。熊皮行縢。脛巾。沓。帶ニ弓箭一。依レ例供ニ奉本陣一。仍在ニ大臣後一。番長以下蠻繪狩衣。濃打衵。同半臂。躑躅打下

重。蘇芳袴。脛巾。沓。平胡籙。弓等也。節下少納言公章。鈴少納言俊隆。巡方。魚袋。杏葉同前。

保安四朝記云

節下右大臣左大將。

餝馬。唐鞍。院御馬。馬副十八人。手振十二人。四人取物。鞭笏筥。豹毯。隨身。鑾鎗如二殿下一。左御隨身召二加權番長府生敦貞一。着二柏摺一。在二下﨟隨身尻一。將軍御命云々。

少納言公章。

和鞍。杏葉。馬副四人。取物四人。持物同二大臣一。

外記惟長。盛賢。

柚葉色縫腋。巡方。着レ靴。盛賢雜色當色色襖。黃袙甚不レ可レ然歟。

康治元信範記云

節下內大臣殿。賴長

御裝束如レ恒。但縮線綾表袴。紅打袙。餝劒等。

馬副十人。瀧口。但爲二內舍人一者不レ召レ之。內々經二院奏一令レ申二殿下一給。

紺布褐衣。袖端着二村濃平組一。但寸法身尻六尺五寸。同前四尺三寸。袖一尺六寸。四袖。

□袴。長三尺五寸。

已上縫調定。渡二大路一之時挿二褐衣尻一。

濃蘇芳張袙。面裏共强張。四尺五寸許。青張單衣。寸法同前。白合袴。卷纓冠。無文厚額。老懸。布帶。革脛巾。以二紫色革一爲二結緖一。夏扇。藁沓。黑柄唐笠。

件裝束具別褁二白生褁一。冠笥笠等相具。

送二遣瀧口一。本所御使下家司歟。

手振十二人。依二入道仰出一。用二宇治侍面相美麗者一。八人手振。四人執物也。

卷纓冠。無文厚額。件冠細纓卷纓。被レ尋二先例一之處。無二定式法一。只無官者卷纓也云々。

老懸□紫色布褐衣。尻七尺。前四尺五寸。袖二尺無レ結。□

下襲。稱二柳色一也。尻二幅七尺。前四尺五寸。袖二尺餘。

已上縫調定。褐衣身一幅。下襲身二幅也。渡二大路一之時。幷下重尻引二庭上一。

青末濃布單袴。長四尺五寸。黃色張袙。寸法同二馬副一。同色張單衣。白合袴。布帶。革脛巾。以二青色革一爲二結緖一。

夏扇。藁沓。白柄唐笠。藥袋。黑漆螺鈿有二丸緒并蘇芳末濃綱一。
執物四種。豹毯。鞭筥。笏筥。
御厩舍人一人。
赤色狩衣。襖袴。濃色布裏。山吹色張袙一領。淺黃目染帷。合袴。烏帽子。帶。藁沓。夏扇。白柄笠。
居飼一人。
裝束退紅水干。布黑襖袴。布襖衣。白帷。布下袴。烏帽子。
御馬。
御唐鞍。鏡。杏葉八子。雲珠。鈴。頸總具。蘇芳手綱。濃打覆。蘇芳裏。白差繩。蒔繪鞭。銀柄立袋。
節下少納言源師敎。
裝束如二尋常一。和鞍。付二杏葉一。不レ付二銀面尻袋等一如何。又無二執物一。
同範家記云。節下內大臣。瀧口十二人爲二馬副一。

同或記云。節下內大臣。餝馬。馬副取レ口。瀧口十人爲二馬副一。手振十二人。瀧口從者。懸二胡籙一。在二雜色後一。
少納言師敎。餝馬。馬副四人。內二人取レ口。
同記云。
諸司裝束。
節下大臣。裝束餝馬等如二公卿一。
節下少納言。餝馬。銀面。尾袋。裝束尋常。
外記史內記。柚葉色縫腋袍。深沓。
裝束司判官主典。柚葉色縫腋袍。
康治元十廿六宇槐記云。
紅打下襲。浮文表袴。黑半臂。餝太刀。如法餝劒。非レ代。
紫緂平緒。
翻長
予供奉儀式。
鹿毛馬。自二入道殿下一給。先日雖二尋求一敢無二被レ餝之馬一。只有二葦毛馬一。被レ餝。俗人說不レ餝二葦毛馬一。依レ似二淨飯王一也。仍餝二葦毛馬一否。欲レ申二入道殿一之間。昨日下二給此馬一。柔耎無二驍氣一。向レ車差レ笠。更以不

驚。今朝置唐鞍。予先乘試。

唐鞍。八子雲珠。鈴。頸總也。雲珠頸總。馬頗有厭氣。仍解之令持手振。

馬副十人。瀧口一二藤𢅻一。(右)。二。(左)。夏扇等令持馬副料懷中。不露持。

長元九大二條殿教通。內大臣左大將。治曆四年京極大殿師實。右大臣左大將。等節下之時。以瀧口爲馬副之由。見彼兩殿御記。仍今日。予以瀧口爲馬副。

手振十二人。宇治侍。其中執物四人。又依解銀面令持手振。笏筥。豹毯代。

瀧口調度懸十人。淺黃狩衣袴也。俗呼曰槿色黃衣。

調度懸不挾尻剣禮。胡籙如常負。但以表帶自左肩紘卷當胸結之。弓左持。以弦方爲表。

先日入道殿仰云。調新車可渡大路。予案。事情理不可然。又撿舊記。攝政之外攝政騎馬時事也。此事不見。仍不令渡。

裝束。保安四年新制。不令着打衣。

馬副十具。

卷纓冠。緌。紺布袴。褐衣袴。

褐衣身尻六尺五寸。同前四尺三寸。袖長一尺六寸。袖端着村濃平組緒。袴長三尺五寸。渡大路之時。夾褐衣尻。

濃蘇芳張袙。面裏共强張。長四尺五寸。青張單衣。寸法同袙。合袴。布帶。夏扇。藁革イ脛巾。以紫色革爲結緒。藁沓。唐笠。

手振十二具。

卷纓冠。緌。紫色布褐衣。身尻七尺。同前四尺五寸。青張絹單下重。稱柳色。尻七尺。前四尺五寸。袖四尺五寸。褐衣身一幅。下襲身二幅也。渡大路之時。褐衣下襲等裾引庭上。

青末濃布單袴。長三尺七寸。黃色張袙。寸法同馬副袙。同色張單衣。寸法同袙。合袴。布帶。革脛巾。以青色革爲結緒。夏扇等。藁沓。藥袋。在唐鞍具。唐笠。

攝政騎馬時。廐舍人着褐冠。自餘公卿

舍人裝束。舊記等無所見。仍問人之處。天仁保安例。公卿舍人着布衣之由。多被答。但節下舍人着褐冠。自餘着布衣也。後日宗輔卿談云。院御厩舍人磯次曰。攝政騎馬時。舍人着褐冠。諸卿舍人皆布衣。磯次古老者云々。

御厩舍人一具。

赤色布狩襖袴。濃色布。欵冬色張袙一領。淺黃目結帷。合袴。烏帽子。帶。夏扇。藁沓。唐笠。

居飼一具。

退紅色水干。黑布襖袴。布襖衣。白袴。布下袴。烏帽子。藁沓。唐笠。

同云。節下少納言。先例雖乘和鞍。有銀面尾袋。又相具取物六。少納言公章依家貧無銀面尾袋。又無取物。今度師敎。又依貧家逐公章之例。

同云。節下少外記中原安俊。權少外記清原景兼。兩外記着柚葉色袙。深沓。

久壽二重方記云。節下大臣。伊通 内府。左大將。于時 番長秦重種。近衞佐伯貞弘。張御馬綱。蠻繪。平胡簶。近衞七人。各着蠻繪。平胡簶。侍史行。次馬副十人。褐衣如常。手振十二人。麴塵褐衣。朽葉末濃袴。取物如常。

同信範記云。

節下内大臣。左大將。

唐鞍。餝馬。馬副。手振。取物。已上如式數。隨身番長二人。着蠻繪袍。躑躅下重。濃半臂。打蘇芳末濃袴。藁脛巾。綸尻鞘。平胡六。府生供奉本陣。而猶在馬後。近衞六人。裝束同前。

少納言成隆朝臣。

和鞍。銀面。尾袋。杏葉。取物四人。少納言侍。

平治元。節下内大臣。公敎 左大將。少納言。倭鞍。不具少納言侍。

同兼光記云。唐鞍如常。府生着遠山摺袍。

仁安元師記云。節下右大臣。兼左大將。經宗公。府生在馬前。弓箭不被具。實能皆具弓箭。

仁安三記云。左大臣。節下。手振不具半臂。是有

所見ニ云々。以ニ吉上一爲ニ手振一。其時着ニ市比一。是左府談給也。

同賴業記云。節下左大臣。馬副。二人取レ口。十人在レ後。外記二人相從。上臈左。下臈右。當ニ馬副第三程一。馬副後有ニ手振十二人。左右相竝。節下少納言泰經。螺鈿劍。魚袋。

同帥記云。節下左大臣。馬副如レ例十人。手振十二人。無ニ雜色一。

壽永二信範記云。節下内大臣。宗盛。餝馬。隨身八人。番長二人。近衞六人。左右各四人。蠻繪以下如ニ殿下御隨身一。番長二人爲レ韉。馬副十人。手振十二人。實定記云。麴塵褐。

維房記云。少納言有家。不レ帶ニ餝馬一。不レ具ニ取物一。

元暦元經房記云。節下内大臣。左大將實定。

建久九良業記云。節下少納言重定。螺鈿劍。魚袋。

同忠良卿記云。節下右大將。頼實大納言。兼雅右大臣輕服。内良經大臣籠居也。左大將馬。銀面幷尾袋撤レ之。令レ持ニ馬副番長武守一。藺一座敦尚張ニ馬口一。弓令レ持ニ從者等一。件從者皆列ニ其傍一。右大將同レ之。但銀面不レ撤。張口事同前。但以ニ兩人之弓一令レ持ニ居飼一人一。件大將騎馬之時。毎度如レ件。

同成定記云。右大將今日令□節下給。冠垂纓。帶。餝劍。紫緂平緒。有文帶。付ニ魚袋一。不レ能レ具ニ弓箭一。隨身近衞二人假召ニ加韉一。番長敦近。近衞敦秀。蠻繪袍不ニ綵色一。柳半臂。下重。青末濃狩袴。肅愼羽。懸レ緒。繪尻鞘如レ常。路次引ニ移馬一。

建暦元年十月廿二日宮槐記云。公經内大臣爲ニ節下一。裝束如レ常。躑躅下重。紫緂平緒。先々多如レ此。不レ依ニ年齒一。高官人多用レ之歟。乘ニ黑毛馬一。院御馬。御厩舍人。二藍以ニ黃糸一縫ニ尾長鳥丸一。持レ鞭。手振居飼等相副。馬副十人。手振十二人。取物如レ例。手振蘇芳褐衣。稱ニ紫褐一是歟。蘇芳末濃袴。半比可レ尋。唐鞍。借ニ送予鞍一。雲珠。頸總。手振持レ之。不レ具ニ雜色一。

建暦元年十月廿二日長兼記云。

節下内大臣。

馬副十人。手振十二人蘇芳褐衣。如レ例。舍人居飼等如レ例。舍人平禮有ニ縫物一。

還御之時。馬副一人。上臈。持ニ勅祿一也。

建暦元年十月廿日長兼記云。良輔左府被ニ尋仰一云。

節下大臣還御時。令持祿於馬副之由見吉記。馬副之中最前歟最末歟。又被仰云。手振令持銀面者。第三者可持之歟。雲珠頸總第一二持之故也。予申云。勅祿令馬副上﨟可持之。古儀。朝覲行幸還御。公卿皆纓頭騎馬也。御禊嚴重尤異他。宇治左府依好古儀給令持歟。此作法不可限節下。公卿各可令持也。然而省略歟。雖節下(至イ)省略亦不可難。但可令持者。道理之所判。馬副上﨟可持也。銀面必可被飾歟。但馬沛艾之時。又令取之。先例歟。第一者可取銀面歟。是皆以今案令計候。

建曆二年十月廿八日顯俊卿記云。

節下大臣。(良輔)(左大臣。)

瀧口十人。御馬副。瀧口調度懸十人。帶弓箭在後。

貞應元年十月廿三日外記師弘記云。

少納言惟忠。(節下螺鈿劍。魚袋。)

少外記良元。

師守。(已上各着柚葉色袍。)

仁治三年十月廿一日公光卿記云。

節下。

右大臣。(實經)番長二人(左秦頼種。右同兼躬。)張口。近衞六人在後(藍摺右彩色。)馬副十人。(瀧口在隨身後。)手振十二人。瀧口調度懸十人。(在手振口。)鞍號鈴。前關白被借進云々。

仁治三年十月廿一日師躬記云。

節下。

右大臣。假隨身二人。前行舍人。(二藍山吹衣。)居飼馬副舍人。(萌木黃衣朽葉。)賴峯兼躬二人(藍摺。)張口。其外六人。馬副十人。手振十二人。

寬元四年十月廿四日陽龍記云。

節下。

右大臣。(兼平)(餝太刀。紫緂平緒。)

馬。白栗毛駮。鞍累代之重寶也。鞦有錦水引差縄。蘇芳緂唐綾。有同末濃總。

馬副二人。瀧口三﨟。依代代例申請云々。爲𥿻。

舍人二人。烏帽子尻。不レ着ニ下袴一。付レ口。
次舍人居飼。相並傍ニ路北一。
次馬副八人。瀧口還御之時二人取ニ松明一在レ前。
次隨身八人。左番長下野武利。右番長同武仲。已下左右。蠻繪袍以下如レ例。
次手振十二人。麴塵褐衣。每事如レ例。但豹皮懸レ棹持レ之。還御之時不ニ撤取一。
次瀧口調度懸十人。樺上下如レ常。

寛元四年十月廿四日陽龍記云。
少外記兼左衛門尉中原爲貞。眞イ 垂纓。柚葉色闕腋袍。帶劔。付ニ絃袋一。雖レ爲ニ衛府一准ニ八藏人一之由師元稱レ之云々。今度被ニ新任一之處。無ニ所望者一歟。愚案。八藏人更不レ足ニ准據一。只白地辭ニ衛府一可レ宜也。
權少外記兼右衛門尉中原範基。同前。

文應元年十月廿一日經光記云。
節下左大臣。公相 用口緂平緒。
馬副八人。手振十二人。相ニ具舍人居飼一。其外無ニ雜色一。

文應元年十月廿一日經俊卿記云。
節下左大臣。馬副以下如レ例。

文永十一年十月廿二日山御記云。
節下大臣。師忠 被レ着ニ蒲萄染下襲一。

文永十一年十月廿二日花内記云。
節下右大臣ニ被レ用ニ蒲萄染下重一。家經 攝政密被レ談云。治暦京極大殿被レ用ニ蒲萄染下襲一。彼者。面ハ白也。普通躑躅下重也。仁治今大閤尋ニ治暦例一。殊經ニ沙汰一被レ着。其時モ面ハ白也。故光明峯寺入道攝政者。面白天裏蘇芳打ナル下重ヲバ。躑躅。蒲萄染。蘇芳ト天。皆同躰異名ニシ天着也。アヤマリ天蘇芳ヲ着セント思天。蘇芳ハナヤカニ染タルハ劣說也。家口傳如レ此云々。今度右府面蘇芳。頗不審事也。

延慶二年十月廿一日御記云。抑節下右大臣。道平 蒲萄染下重着レ之。自餘裝束如レ恒歟。

文保二年十月廿七日按察入道記云。既出二御東門一之由有二其聞一。仍有二御參一。御裝束躑躅打下重。有文巡方帶。金魚袋。紺地平緒。如法餝劍。是鷹司前關白物也。寬元節下所レ用物云云。强無二相違一。然而依二佳例一令レ帶給。前駈六人。雜色長不レ被二召具一。如木雜色無レ之。小雜色少々前行。殿上人右中將公綱朝臣。闕腋袍。卷纓。懸レ緌。螺鈿野劍如レ常。弓。平胡籙。不レ帶レ之。令レ持二隨身一。三人召二具之一。褐衣。朽葉袴。狩胡籙。藁脛巾。候二御共一。御馬幷舍人居飼。馬副八人。手振十人。此內取物。

文保二年十月廿七日按察入道殿記云。
次節下大臣。
先白張小雜色三四人。行列之外。副二路傍一先行。不レ定二其數一。自然之儀歟。或又爲二走使一用心歟。乘馬銀面始置レ之。馬頻有二猷却氣一。仍於二途中一取レ之。馬副下﨟持レ之。
次上﨟馬副二人張二馬口一。舍人二人取二馬口一。各香白裏狩衣。無二單袴一。其外 左衞門尉爲清。花田狩衣。無二單袴一。副二御馬傍一。唐鞍有二傾奇之恐一之上。老躰以後。自然依レ有レ恐。被二召具一云々。馬尻近左方□舍人□原(武イ)氏房。平禮。花田狩衣。無裏山吹衣。黃單。御鞭持レ之。但於二路次一被レ召レ之。馬有二停滯之氣一之故云々。爲清取次進レ之。御馬右方居飼龜淸。裝束如レ例。紗鞍覆懸レ之。
次馬副六人。第三四□各二行。舍人居飼ヨリハ駈步也。

文保二年十月廿二日按察入道殿記云。
次少納言信雅朝臣。付花童雜色召二具之一。抑又非雜色歟。白張。紅衣。少納言侍一人相二加之一。冠白張。步行。馬副二人。手振不レ召二具之一。執物先々若有歟。可二勘知一。

正慶元年十月廿八日御記云。
節下左大臣。基嗣
鞦在二水引一。赤地錦。長杏葉。下無レ曳。非レ如二總鞦一。
馬副八人。手振八人。舍人居飼侍二一人一。在二馬左右一。節下外記大略在二馬尻一。行列散々

之間。委不二見分一。

次第司。

寛治記云。御前次第使。同前。長官。右衞門督。不ㇾ負二胡籙一。

御後長官。右兵衞督。同前。

同大府記云。

長官。御前。右衞門督俊明卿。御後。右兵衞督俊實卿。餝馬。不ㇾ帶二弓箭一。垂纓。餝劔。馬副各八人。手振十人。其內四人取物。隨身六人。蠻繪。肅愼羽。但右衞依ㇾ帶二大理一。召二加火長四人一。

次官。御前。式部少輔在良。御後。兵部少輔隆兼。餝馬。馬副張二左右口一。闕腋袍。馬副。手振。各四人。

判官。柚葉色闕腋袍。靴。

主典。同ㇾ之。以上帶劔。

主禮。黃袍。虎皮布行縢。塗沓。垂纓。

同時範記云。

前後次第司長官。御前。右衞門督俊明卿。御後。右兵衞督俊實卿。

以上垂纓冠。不ㇾ帶二弓箭一。帶劔。餝劔。馬副八人。手振六人。執物四人。大略同上。隨身四人。

裝束同上。用二肅愼羽胡籙一。但右兵衞督依ㇾ爲二撿非違使別當一。有二火長四人一。無二看督長一。

次官。御前。式部少輔在良。御後。兵部少輔隆兼。

着二緋平絹闕腋袍一。帶劔。假被ㇾ下二宣旨一。唐鞍。銀面。尾袋。杏葉等。取物四人。同二大臣一。

御前判官。式部丞菅原淳中。中務丞藤原正景。

主典。式部錄。中務錄。

御後判官。兵部丞。民部丞。

主典。兵部錄。民部錄。

以上着二深綠闕腋袍一。帶劔。假有二宣旨一。倭鞍。結二唐尾一。付二杏葉一。取物二人。笏。胡籙。

主禮史生。

着二黃染袍一。垂纓。行縢。畫如二虎文一。

天仁元大記云。

次第司。

御前。

長官權中納言宗通卿。手振取物十二人。相並扈從。帶劔。唐鞍如ㇾ常。

次官式部少輔大江有元。緋闕腋袍。帶劍。着靴。騎馬。
判官中務丞藤原安頼。有陪從二人。着柚葉色闕腋袍。
藤原知仲。柚葉色。帶劍。
主典式部錄中原實行。從二人。
中務錄淸原成行。從二人。
主禮二人。中務史生。着黃袍。虎皮繪行縢。布帶。
御後。
長官參議右兵衞督能俊卿。陪從十人。隨身等可准知之。
次官兵部少輔知信。從二人。裝束同有元。
判官兵部丞藤忠貞。從二人。
民部丞藤忠理。從二人。
主典兵部錄惟宗友景。從一人。
民部錄大江行俊。從二人。
主禮。
天仁元次第司記文云。
次第司長官。馬副六人。手振十人。有取物。
乘餝馬。

次官。緋闕腋表衣。柳打半臂下襲。螺鈿劍。乘唐鞍。銀面。頸總。尾袋。杏葉。雲珠。馬副四人。手振四人。持胡籙。鞭筥。笏筥。
判官。深綠闕腋袍。躑躅半比。着靴。黑造劍。倭鞍。結唐尾。無他餝馬。從二人。黑染褐衣。白布袴。布帶。胡床。笏筥。
主典。同判官等。
主禮。黃闕腋表衣。垂纓。布帶。深沓。布唐形行騰。
天仁元江記云。
次第司長官按察中納言。手振十二人。馬副六人。唐鞍。他上卿又同。
次官式部少輔大江有元。平絹緋闕腋袍。唐鞍。餝劍。馬副四人。手振四人。
判官中務丞。柚葉色闕腋袍。黑作細劍。無文平緒。馬副二人。着褐衣。取物二人。着紫褐。他判官准之。
主典式部錄。柚葉色袍。主禮式部史生。各一人。黃平絹袍。
次第司長官左兵衞督能俊卿。馬副四人。手振四人。隨身六人。師子

鸞綸薄色下重。黄朽葉鍔形尻鞘。鷲羽。

次官。

判官。

主典。

保安師元記云。

前後次第司。

次官式部權少輔藤原資光。兵部少輔平知信等。平絹緋闕腋袍。柳色下襲。蒴木打半臂。巡方。魚袋。螺鈿劔。平緒。唐鞍。馬副四人。手振六人。

判官主典等。柚葉色闕腋袍。柳色下襲。蒴木打半臂。巡方。黒作劔。緣螺鈿楚鞦。取物二人。

主禮史生等。着絹闕腋黄袍。深沓。布帶。行縢。布也。畫虎皮形。

同忠教記云。

御前長官別當實行。右衛門督。

馬副六人。隨身六人。朽葉袴。火長六人。看督長六人。手振十人。麴塵褐。黄朽葉下襲。青末濃袴。

御後長官師時。參議右中將。

馬副六人。隨身六人。青柳下重。朽葉袴。手振。青半臂。下襲。青末濃下袴。

保安四師遠記云。

前後次等司。

次官式部權少輔資光。兵部少輔知信。平絹緋闕腋袍。柳青下襲。蒴木打半比。巡方。魚袋。螺鈿。平緒。唐鞍。馬副四人。手振六人。

判官主典等。柚葉色闕腋袍。柳色下重。蒴木打半比。巡方。黒作劔。緣螺鈿楚鞦。取物二人。

主禮史生等。着絹闕腋黄袍。深沓。布帶。行縢。布。畫虎皮形。

保安四外記記云。

前後次第司。

次官式部 權少輔資光。兵部少輔 知信。其裝

束。平絹緋闕腋袍。柳打下重。蘇木打半比。纔着。巡方。魚袋。文平緒。螺鈿劔。唐鞍。銀面。杏葉。頸總。髮袋。尾袋。雲珠。馬副四人。裝束如レ例。手振四人。胡床。笏筥。豹。毯。裝束如レ例。

判官。闕腋靑絹袍。柳下重。纔着。靑打半比。巡方。黑作劔。平緒。和鞍。結二唐尾一。手振二人。胡床。笏筥。黑褐。白袴。布帶。市比脛巾。

主典。同二判官一。但主典已上着レ靴。

主禮史生。黃染絹闕腋袍。布帶。深沓。虎皮行縢。黃布。以レ墨畫レ文。

保安四次記云。

次第司長官。馬副六人。手振八人。有二取物一。乘二餝馬一。

次官。緋闕腋表衣。柳打半比。下襲。螺鈿劔。乘二唐鞍一。餝馬。銀面。頸總。尾袋。杏葉。雲珠。馬副四人。手振四人。持二胡床。笏筥。豹。毯一。

判官。深綠闕腋表衣。柳打半比。下襲。黑造劔。着レ靴。緣螺鈿鞍。結二唐尾一。手振二人。赤色褐。青色布袴。布帶。胡床。笏筥。市比脛巾。

主典。同深綠闕腋表衣。柳打半比。下襲。黑造劔。着レ靴。緣螺鈿鞍。結二唐毛一。手振二人。褐。白布袴。市比脛巾。胡床。笏筥。皆巡方也。

主禮。黃闕腋表衣。卷纓。今度垂纓也。

保安四永昌記云。

次第司長官。御前右衞門督。實行。不レ帶二弓箭一。火長隨身四人。看督長八人。手振十人。鐙繪隨身六人。其裝束如レ例。御後皇后宮權大夫。師時。除二火長看督長一之外同前。馬副四人。

前後次第司次官。御前式部權少輔資光。御後兵部少輔知信者。着二緋平絹闕腋袍一。倭鞍。銀面。尾袋。杏葉。

判官。御前式部丞有隆。中務丞□隆。御後民部丞公長。廣兼。各柚葉色闕腋袍。着レ靴。

主典。御前式部錄倫俊。中務錄。御後[illegible]
民部錄。已上帶劔。
主禮。黃袍。虎皮布行縢。垂纓。深沓。
保安四朝記云。
次第使。
御前右衞門督實行卿。
垂纓。不ㇾ帶二弓箭錺劔一。馬副六人。手振十
人。依ㇾ爲二別當一看督長八人。火長八人。隨身
六人。蠻繪。
御後右宰相中將師時朝臣。
每事假御前。但馬副。手振。蠻繪隨身也。
次官。唐鞍。銀面。尾袋。杏葉。緋平絹闕腋袍。
判官。柚葉色闕腋袍。靴。
主典。同ㇾ之。已上帶劔。
主禮。黃袍。虎皮布行縢。深沓。垂纓。
保安四御前次記云。
次官。闕腋緋平絹袍。青色打半比。柳色下重。

巡方。魚袋。帶劔。螺鈿。着ㇾ靴。無二錺馬一。取物
四人。豹。毯。笏筥。胡床。褐衣。市比脛巾。帶。
判官。主典。深綠闕腋絹。青色打下重。黑造劔。
倭鞍。結二唐尾一。着ㇾ靴。取物二人。笏筥。胡床。黑褐。白袴。布帶。市比脛巾。
主禮史生。黃染闕腋絹袍。青半比。下重。垂纓。
布帶。虎皮敎行縢。深沓。
康治元信範記云。
前後次第司長官。
御前左衞門督。公敎。
御後左宰相中將。季盛。
已上垂纓冠。不ㇾ帶二弓前〔箭〕一。
同範家記云。次第司次官。式部少輔茂明。着二緋袍一。如二大外記袍一。次官兵部少輔忠能。着二紅梅袍一。非二穩便色一也。
同或記。
次第司。
御前長官權中納言左衞門督藤公敎卿。錺馬。馬副

取口。不レ帶二胡籙一。馬副十人。手振六人。從四人。手振。火長。

次官式部少輔藤茂明。餝馬。馬副取レ口。

御後長官參議左中將季盛卿。餝馬。馬副取レ口。

次官兵部少輔忠能。餝馬。馬副取レ口。袍色如二紅梅一。不レ知二案内一歟。

同記云。

諸司裝束。

次第司長官。公卿不レ帶二弓箭一。

次官。無文緋袍闕腋。帶劒。半比。下重如レ常。餝馬同上。

判官主典。柚葉色闕腋袍。帶劒。和鞍。楚鞦。唐尾。但式部丞付二杏葉一。可レ尋二先例一。

主禮。黃染闕腋袍。布帶。虎皮行縢。黃絹裹之。

康治元宇槐記云。

前後次第司長官。御前中納言別當左衛門督公敎。御後參議左近中將季成。

餝劒。魚袋。不レ帶二弓箭一。馬副八人。手振六人。之中取物四人。隨身四人。裝束同二衛府公卿一。兩長官手振。

着二半臂一歟。

後日按察使實行卿云。故按察大納言實季。

奉二仕次第司一之時。手振着二半比一。今度逐二彼例一也。

久壽二重方記云。

次第司。信範記云垂纓冠帶劍不帶弓箭餝馬

御前長官左兵衛督忠雅卿。別當權中納言。

馬副六人。蠻繪。隨身六人。帶二平胡六一。看督長六人。

火長六人。手振十二人。取物如レ常。豹在レ南。雜色二人。雖レ有レ後列二路傍一。

御後長官右兵衛督雅通卿。參議。信範記云同御前

其儀同二別當一。但蠻繪隨身。帶二四切平胡六一。

仁安元兼光記云。

御前長官權中納言右衛門督重盛。唐鞍。不レ帶二弓箭一。馬副隨身手振等如レ常。

次第司御前次官。着二緋袍一。帶劒。唐鞍。

御後次官。緋袍如レ常。

同三賴業記云。

御前次第司。

長官權中納言兼右衛門督時忠卿。餝劒。魚袋。帶二

弓箭一
次官式部少輔業實。緋闕腋袍。其色薄紅梅也。
判官主典。柚葉色闕腋袍。黑作劒。着ㇾ靴。

壽永信範記云。實定公記同ㇾ之。
次第司長官右衛門督實家。廷尉別當。餝馬。馬副(八人)。手振(十人)。蠻繪隨身(六人)火長(六人)。看督長(六人)。追ㇾ前。

同經房記云。
次第司次官式部少輔元輔。着二緋平絹袍一。帶二劒。駕二唐鞍一。
御後長官參議右兵衛督光能。馬副六人。隨身六人。着二蠻繪一。手振八人。

元暦元外記記云。
前後次第司長官。手振。蘇芳褐也。

同經房記云。
御前長官權中納言兼右衛門督家通卿。蠻繪隨身六人。火長六人。手振馬副如ㇾ例。不ㇾ具二看督長一。

建久九良業記云。裝束司長官權中納言光雅卿。
次官左中弁宗隆朝臣。右大史重元。少內記行景以下。已上位袍。長官已下淺沓。

同記云。御前次第司長官權中納言左衛門督通資卿。不ㇾ帶二弓箭一。次官式部少輔菅原爲長。緋平絹闕腋袍。螺鈿劒。魚袋。

同成定記云。御前次第司長官別當。不ㇾ帶二弓箭一。

建暦元年十月廿二日長兼記云。
次第司長官。
御前別當實宣卿。
馬副六人。一部蠻繪。看督火長各六人。手振十二人。麴塵褐衣。看督長等追ㇾ前如ㇾ常。
御後宰相中將有雅卿。
馬副四人。一部蠻繪。手振等如ㇾ例。

建暦元年十月廿二日宮槐記云。
次第司御前長官實宣。別當。
馬副六人。手振八人。隨身六人。二人沓。四人藁沓。如何。
火長六人。看督長六人。

建暦元年十月廿二日宮槐記云。
御後長官有雅。

撤二取物一。手振懸レ尻。各奉レ炬。相國云。臨時之時略二取物一例也云々。有雅之所爲叶二彼定之趣一也。若諷諫歟。

仁治三年十月廿一日公光卿記云。次第御前長官權中納言兼左衞門督源顯親卿。

馬副六人。隨身六人。有二彩色一也。手振六人。

仁治三年十月廿一日庚午公光卿記云。予爲二御後次第司長官一。仍未明勤二行粧一。

裝束。

冠。垂纓。袍。半臂。略レ之。下襲。表袴。藤丸文。袙。紅。單衣。同。大口。韈。餝劒。如レ常。平緒。紺地。帶。有文。魚袋。笏。扇。靴。花仙用二青地一依二大理一也。

馬。黑鹿毛。唐鞍。借二用前内大臣一。橋。黑地摺貝如レ恒。表敷如レ常。表腹帶袙付二一筋一。鐙。力革。轡。左蹕。鞦。杏葉。鞦左右各五枚。面懸左右各五枚。胸五合廿五枚。銀面。髮袋。尾袋。手綱。蘇芳緂如レ恒。差繩。如レ常。打鞍覆。同。靱□。同。雲珠。手振持レ之。頸總。同。

馬副六人。同二諸大夫侍一。

員數事。西宮抄云。長官馬副。納言六人。參議四人云々。而度々例。參議爲二長官一雖レ有二八人之輩一。未レ聞二四人之例一。仍申二合淨土寺殿一之處。可レ爲二六人一之由。被レ仰云々。

裝束如レ常。

看督長四人。左豐守。近顯。右國成。末□。

承保。按察殿爲二參議一令レ具二四人一給。仍今度追二彼例一。

冠。老懸。退紅狩衣。白褁袴。白袙。白單衣。下袴。絹。絹帶。布帶。菜脛巾。表帶二筋。白羽矢二筋。笠。

已上調給也。

靱。在二藍革後緒一。兼日召寄加二修理一給也。劒。藍革裝束。鼠毛尻鞘。同加二修理一給也。

火長四人。友弘。友安。宗時。友久。

冠。老懸。桃花色狩衣。白褁袴。白袙。同帷下袴。布。絹帶。布帶。革脛巾。笠。

已上調給也。
劔。藍革裝束。鹿皮尻鞘。兼日召寄加二修理一給也。白羽胡籙。如レ常。當日朝給也。如二先一々。赤弓。
隨身六人。衛府爲二長官一者。必召二加二人一。
冠。細燕尾。老懸。蠻繪袍。熊文。不レ加レ彩。朽葉末濃袴。青打半比。同下重。濃打衣。在二同單衣一。合袴。布帶。
劔。藍革裝束。左筆尻鞘。虎皮文。平胡籙。肅愼羽。藍革裝束。三竝差レ之。依二略儀一也。青緂丸緒。弓。卷二白樺一。檀紙也。并紺組。懸緒。青打。有文。菓脛巾。扇。菓。白。沓。笠。
手振八人。依二家例一用二家中雜人一。侍臣人也。
納言六人。三木八人也。
冠卷纓。用二家中雜人一之時如レ此。吉上之時細纓也。老懸。褐衣。麴塵紑。緣黃練。狩袴。青末濃。半比。青朽葉。下重。同。袙。炎色絲一筋差レ之。依二大理一也。單衣。同。下袴。布帶。革脛巾。藁沓。
取物。
笏筥。鞭筥。豹。毯代。

舍人二人。
一人。布裏香染上下。白袙。一人。同樣上下。白袙。
予駕二毛車一。
牛童車副退紅。火長如レ常。
取物持樣事。
頸總。不レ懸レ木。以二右手一取二項緒一。以二左手一取二中程一。雲珠。以二左右手一持レ之。各鞍具也。不レ具二手振一之人。馬副可レ持レ之。
笏筥。如レ持レ笏。鞭筥。同。豹。懸二左肩一。以二尾方一爲レ後。毯代。懸レ杖。以二左右手一橫持也。外方チ長ク懸レ之。
次還御。予供二奉御後一。
火長四人。看督長四人。隨身四人。取二松明一前行。馬副二人。如二晝儀一。四人取二松明一在レ後。手振不レ取二松明一。插レ尻在レ後。
仁治三年十月廿一日師朝記云。
次第司判官。
中務丞藤原盛宣。綠袍。開腋。帶劔。馬副二人。

仁治三年十月廿一日師朝記云。

次第司主典。

中務錄紀維宗。楚鞦。杏葉。綠袍。垂纓。結二唐尾一。童一人。

主禮。

中務史生二人。二行。騎馬。冠卷纓。黃袍。

仁治三年十月廿一日師朝記云。

次第司次官。

式部少輔藤原茂範。赤袍。平絹。唐鞍。馬。鹿毛。銀面。尾袋。帶劔。舍人。萠木薄色。馬副四人。張口。手振四人。有取物。省掌二人。黃衣。

次第司判官。

式部少丞惟宗行氏。楚鞦。白杏葉。省掌二人。

次第司主典。

式部錄和氣助次。青袍。深沓。巡方。楚鞦。童一人。省掌一人。

次第司長官。

權中納言源顯親。隨身六人。手振六人。

仁治三年十月廿一日師朝記云。

次第司長官。

參議右衛門督藤原公光。馬。鹿毛。唐鞍。銀面如レ恒。馬副六人。二人張口。蠻繪隨身六人。看督長四人。火長四人。手振八人。ヨリ張取物。

次官。

兵部權少輔菅原在氏。帶劔。唐鞍。如レ例。赤衣。馬副四人。手振四人。取物。

寛元四年十月廿四日師元記云。

今度御前長官行粧儀。

舍人二人。

二藍上下。黃衣。張帷賜レ之。

馬副六人。如レ恒。

手振十人。

召二具本府吉上一。仍冠細纓。蘇芳褐袍。青下袴。下重。綾。無レ裏。半比。青。無レ裏。下袴。絹合袴。布帶。如レ例。菉脛巾。同。藁沓。同。張帷。給レ之。

隨身六人。

蠻繪。文師子丸。不二彩色一。蘇芳下濃袴。濃打下重。同半比下袴。絹合袴。菉脛巾。如レ例。淺沓。同。布帶。加レ例。懸緒。無文紅打。張帷。給レ之。

手振十人。内左右一二不レ取レ之。
右三。雲珠。　右四。笏筥。　右五。豹皮。
左三。頸總。　左四。鞭筥。　左五。毯。
寛元四年十月廿四日陽龍記云。
次第司。
御前長官權中納言兼左衞門督言藤卿。
餝劒。紺地平緒。不レ帶二弓箭一。
馬。鹿毛駮。馬副二人。張レ口。舍人二人。付レ口。二藍黃衣。
次馬副四人。裝束如レ例。
次手振十人。依レ爲二本府吉上一。細纓。褐衣。青末濃袴。青朽葉半臂。下重。無文。袒。自餘如レ常。左近左衞門左兵衞用二蘇芳末濃袴。躑躅半比下重一。而令レ着二右近陣一。不レ可レ然歟。左右一二無二取物一。右三持二雲珠一。左三持二頸總一。右四持二笏筥一。左四持二鞭筥一。右五懸二豹皮於肩一。左五持二毯代一。抑雲珠頸總。左右一持レ之。彼例也。今所爲之違失也。還御之時。撤二取物一。不レ取二松明一。懸レ裾。已上相國諷諫云々。
次隨身六人。師子蠻繪袍。無彩色。蘇芳末濃袴。躑躅半比下重。濃打衣。紅打無文懸緒菓脛巾。革襪。沓如レ例。劒着二左箏尻鞘一。弓卷二樺幷紺組一。取柄卷二青地錦一。平胡六。鶖羽。青絲丸緒。抑隨身行五。馬副前後。家々說不同也。而手振以後令レ列之例無二所見一。是又相國敎命云。還御之時二合。松明

在レ前。
寛元四年十月廿四日陽龍記云。
御後長官三木右衞門督兼中宮權大夫通成。
馬。黑。馬副二人。張レ口。舍人二人。付レ口。
次馬副四人。雖二三木一具二六人一。先例也。
隨身六人。熊蠻繪袍。青末濃袴。平胡籙。肅愼羽。
次看督長六人。
次火長四人。已上裝束如レ恒。
次手振八人。雖レ爲二吉上一。番長卷纓。堀河大納言諷諫云。麴塵褐衣。青末濃袴。不レ着レ袒。
取物如レ恒歟。可レ尋レ之。
文應元年十月廿一日經俊卿記云。
次第司次官。
式部權少輔菅原在嗣。
着二平絹朱綾一。帶劒。唐鞍。
馬副四人。手振如レ例。
文應元年十月廿一日經俊卿記云。
次第司長官。

權中納言源基具。左衞門督。
馬副六人。蠻繪隨身六人。手振十二人。
相二具舍人居飼等一。
文應元年十月廿一日經俊卿記云。
次第司長官。
參議右衞門督藤原隆顯。別當。
馬副四人。蠻繪隨身。看督長。火長。手振
如レ例。不レ具二雜色一。
文應元年十月廿一日經俊卿記云。
次第司次官。
兵部少輔平信繼。
闕腋平絹朱紱。
馬副張レ口。手振如レ例。
永仁六年十月廿五日經親卿記云。下官勤二仕御
後一。
次第司長官。
裝束如レ恒。席劒。平緒。餝劒。是御後長官御前次官
以下。白地可レ帶二劒一之由職事宣下。節下左兼基
府。今朝於二官司一奉二行之一。
○同
○舍人　○同　○雲珠　○鞭　○豹皮
○馬黒
○同　○馬副
○馬副　○馬副持笏　○頸總　○笏　○毯代
僮僕行五。如二建久源兼忠相公所爲一。無二慥記一。而馬
副員數。如二西宮一者。御後長官四人分明也。近
例如レ此。副府又如レ此。可レ爲二四人一之由。兼申二
合內冬平府一之處。被二相計一也。手振六人。又爲二家
例一。取物樣。雖レ付二雲珠頸總一。令レ持二馬副一。令
レ持二手振一。先例兩樣也。而手振空手。又近詮二
賀茂祭使節之時一。馬副空手。手振持二雲珠頸
總一例也。用二唐鞍一之日同前也。其上前々長官
兼二衞府一之間。具二隨身僮僕一在レ數。馬副之外
今度無レ人。仍手振空手。無レ由レ令レ持也。御前
次第司長官。令レ持二手振一也。後日相尋。予所
存無二相違一。兼日彼卿申二合內府一云。不レ着二半

比例也。馬副如例。雜色不召具例也。而下馬之所。近召仕之者一兩具之。在馬傍。唐鞍申下近衞殿。女騎鞍兼申出。加修理之。取物具同前。豹皮借物他所。

予同參。束帶。

躑躅打下襲。有文帶。巡方、金魚袋。如法餝劔。手木御取用持之。靈後有伏組。 青緌文蝶平緒。雖衞府不卷纓。不懸緌。次第司長官也。

文保二年十月按察入道記。

御前長官。

隨身六人。本式四人之外召加二人。次第司長官法也。細纓冠。緌。蠻繪袍。文師子丸。依爲左衞門也。濃半比。令躑躅裏許一倍也。依左也。無文懸緒。依右也。蘇芳末濃袴。菉脛巾。沓。鰐繪尻鞘劔。黑漆平胡籙。近衞關白物也。鷲羽箭指之。已上作法依左也。紙卷弓。左右同。絃卷絲。其外式ヒ無從。小雜色少々在前。布衣上絬。諸大夫二人侍四人在共。馬從。御厩舍人。居飼。馬副六人。手振八人。

執物如先。

廿六日記。

又馬二匹。大臣殿御分。予分。唐鞍二口。被留大炊御門第。明日拂曉餝整。御厩案主左衞門尉藤爲清。可參由被仰置了。大臣殿御分。近衞前關白被借進。一雲珠也。及鼻。唐鞍。銀面。尾袋。髮袋。杏葉。地敷錦。雲珠。頸總。蒔繪鞭。於鞭許鷹司前關白物也。 是等如例。紗鞍覆。此文同鞭。 此文必雖非唐鞍具物。依異恨時々用之。去延慶御禊行幸時。亞相爲大弁宰相中將供奉時。被用此鞍覆。强雖非本儀。今度又被執物具。笏筥。鞭筥。豹皮。毯代。手振料藥袋。皆相具。鞍自近衞借進之者。予分事。院御馬五栗毛。御厩舍人居飼同被副也。鞍。大炊御門物。鞦。杏葉。無地敷錦。雲珠。頸總。又自他仁取加。蒔繪鞭。打鞍覆。執物。笏筥。毯代等。花山院物

也。豹皮。自レ院被レ下レ之。以上如レ此。先レ之。予自二同門内一騎馬打出。先行徐到二二條邊一。行遂小雜色三四人。先行副レ傍。非二行五一。凡此行幸。不レ召二具雜色一。各本儀也。仍如二如木雜色一無二其儀一。不二分明一難レ用。或副二雜人一。或内々使之時。非レ無二其用一。仍上四人路東仁居給也。先自身。次馬副上﨟二人張レ口。

副舍人二人。赤色一倍狩衣一色。次舍人。居飼。舍人立二右尻一。院御厩舍人也。鞭可レ持レ之。而路間稱レ有二勞事一。令レ持二下人一。御棧敷前舍人自身持レ之。内々申二請之一。強不二叱呵一。裝束。平禮。繭木狩衣。金銅裏彬木山巣文濃山吹衣。紅單。亂緒。居飼立二左尻方一。裝束如レ例。打鞍覆レ自二左肩一懸二右脇一如レ常。次馬副四人二行。自二舍人居飼一ハヒロゴリ天立歟。卷纓　褐衣　上下　菉蓑沓如レ例。制符以後不レ着二濃打衣一。源氏輩着レ沓。他家不レ然。都合六人也。次隨身六人。本式四人。依二長官一召二加二人一爲二六人一。其裝束見レ左。各二行。前後以二一丈一爲レ間。左右一丈五尺許。皆如レ此。次手振八人二行。同隨身。手振裝束々。依二地濕一。手振皆閇二付之一。到二御棧敷前一垂引之。其後不レ閇レ之。地徐乾之上。不レ可レ有二殊晴所一之□也。下﨟四人。捧二執物一。豹皮懸二左肩一。

文保二年十月廿七日御前次第司注文云。

次第司次官式部少輔。

赤色闕腋袍。青半比。帶劍。靴。唐鞍。付二杏葉。雲珠。頸總一。舍人一人。馬副四人。二人張レ口。取物四人。裝束同前。笏。胡床。毯代。虎皮也。下部二人。卷纓。黄袍。

正慶元年十月廿八日御記云。

次第司長官。

權中納言源通冬卿。左衞門督。

垂纓。餝劔。魚袋。隨身六人。蠻繪。火長四人。看督長六人。馬副六人。手振六人。此内四人取物。舍人。居飼。依二次第司一。不レ帶二弓箭一。

次第司次官。

式部權少輔菅原長繼。

唐鞍。馬副二人。手振四人。

次第司長官。

參議左兵衞督藤原長光。

垂纓。餝劔。付二魚袋一。依二次第司一。不レ帶二弓箭一。

隨身四人。蠻繪師子丸。鷲羽平胡六。鰐繪尻鞘劔。

先々大略六人也。四人又有レ例。今度

如レ此云々。

馬副四人。手振六人。取物四人。

同次官。

兵部權少輔藤原朝任。

和鞍。杏葉。

御禊行幸服飾部類第三　公卿

公卿。

寛治元十廿二記云。未申剋計行幸。大略如レ例。

上達部。唐鞍。魚袋。有文帶。衞府弓箭。

寛治大府記云。殿下師實御裝束如レ常。但被レ用二隱文巡方。餝劒。魚袋等一。御後令二供奉一給。攝政騎馬供奉。承平二年例有。左右大將殿。其外多用レ車被二參進一。今日御車副着二褐冠一。餝馬。鏡杏葉。八子。雲珠。鈴。頸総。御馬副十二人。瀧口裝束如レ常。調度懸相具如レ例。御隨身。內舍人。中原季行。源行遠。蘇芳染布衫。白袴。熊行縢。但弓箭。移馬。從レ殿給レ之。在二御馬前左右一。府生二人。左近友。右兼方。黃袙褶布衫。熊行縢。白袴。

弓箭。移馬。從レ殿給レ之。但府生隨身。先例用二移馬一如二本陣一。今度左右相分列二內舍人前一。下々如レ供二奉陣一。自然可二相從一云々。番長四人。左敦時。右武忠之外。左右各一人召二加本府一。府生可レ供二奉本陣一之替也。番長以下步行。舍人十人。左右各五人。已上裝束蠻繪。左師子文。右熊文。半臂下襲。左蹶踘。右柳。末濃袴。左蘇芳。右青。平胡簶。左鷲羽。右鵰俣羽。樺卷弓。左種組。右褐組。懸緒。左無文。右堅食文。尻鞘。左鰐文。右赤皮。濃擣衣。市比脛巾。革襪。淺沓等也。

同記云。上達部。各餝馬。唐鞍。馬副。大納言八人。中納言六人。參議四人也。帶劒人餝劒。但衞府督。宰相中將。帶二螺鈿劒。弓箭一。各隨身四人。蠻繪。

寛治時範記云。攝政殿。隱文御帶。付二魚袋一。御騎馬。唐鞍。八子。雲珠。鈴。頸總等也。無二手振取物一云々。供二奉御後一在二左右一。御隨身。內舍人。源行遠。中原季行。裝束如レ例。卷纓冠。退紅色衫。白狩袴。熊皮行縢。布帶。伊知比脛巾。狩胡簶。弓。移馬等。自レ殿給レ之。騎馬。左右相分。在二御馬前左右一。近衞番長四人。二人本府御隨身。二人。假召レ之。府生供二奉本陣一替。近衞八人。已上十二人。着二蠻繪一。左師子。右熊。下襲。半臂。左蹶踘單。已上縫著。右柳色。末濃袴。左蘇芳。右青。伊知比脛巾。平胡簶。左鷲羽。右鵰俣羽。樺卷弓。左樺卷。右褐卷。赤懸緒。左無文。右平文。淺沓等。已上步行。府生御隨身二人。近友。兼方。裝束如二常本陣一。柏褶黃衫。白袴。熊行縢。濃色打袙。伊知比脛巾。布帶。狩胡簶。乘二移馬一。

自殿給之。假番長參會陣頭云々。御馬副十二人。裝束如例。瀧口等勤仕之。各相從調度懸。御厩舍人一人。着冠褐衣。壓巾等。御鞍覆。令用蒲萄染。面蒲染蘇芳。內府同前。晴儀時。大臣令用此色云々。

同記云。殿下御車檳榔毛。所被渡大路也。御車副六人。着蘇芳褐衣。冠。緌。柳色單下襲。半臂。黃衵。青單。青末濃袴。布帶。牛飼一人着褐衣。布帶。白袴等。持榻。各以相從。是則寬和例云々。

同記云。按察實季大納言已下各騎馬。有馬副。大納言八人。中納言六人。宰相四人。帶衞府督幷近衞中將之人帶弓箭。帶弓箭人不付魚袋。御隨身。其裝束同上。蠻繪。胡簶也。右司人用肅愼羽。但近衞中將被供奉本陣。公卿着餝劒。但帶弓箭。用螺鈿劒。

天仁大記云。公卿權大納言經實以下。下﨟爲先。駕唐鞍。馬副等如常。

同記云。攝政殿下忠實令候御後給。御裝束如常。

江記云。攝政行列。左近陣中。府生二人騎馬在前。番長二人。國重。兼近。御馬口。內舍人。隨身二人。藤原友宗。瀧口藤原清宗。裝束大略如諸衞府。卷纓。退紅襖袴。熊行縢。布帶。菉壓巾。鹿皮尻鞘。狩胡簶。柏摺黃衫。行縢。府生二人。如本陣供奉儀。敦時公種等也。已上四人移馬。番長四人。兼近。國重之外。左加假二人。蠻繪袍。左師子。右熊。下襲。左躑躅。右柳。末濃袴。左蘇芳。右青。布帶。壓巾。淺履。懸緒。左無文。右有文。平胡簶。左鷲羽。右鸛愼羽。繪尻鞘。左豹。右赤皮。近衞八人。裝束同前。已上在御馬後。御馬副十二人。召瀧口。相具調度懸。殿下御車。檳榔毛。被渡大路也。寬和寬治是先例也。御車副六人着蘇芳褐。柳單下襲。黃衵。青單。青末濃袴。布帶等。牛飼一人着褐衣。布帶。白袴。扈從執榻。

天仁元次第司記文云。公卿乘唐鞍。銀面。雲珠。杏葉。尾袋。頸総。馬副。非參議乘倭鞍。結唐尾。付杏葉。又公卿已下五位已上着魚袋。衞府公卿着螺鈿劒。他公卿着餝劒。隨身着蠻繪。柳打半臂下襲。平胡簶。狩袴等。

天仁元記云。右衞門督能實卿。不負胡簶。螺鈿。不付魚袋。爲房粧同。

殿下仰。公卿。下臈為レ先。左大弁重資。修理大夫顯季。大藏卿道良。中納言基綱。皇后宮權大夫顯通。右衛門督能實。隨身二人。熊蠻繪袍。青單下重。青朽葉袴。魚形尻鞘。肅愼羽。已上馬副各六人。大納言經實。馬副八人。凡陣節下次第使之外。公卿不レ具ニ手振一。

保安四次第司記文云。公卿乘ニ唐鞍餝馬。銀面。雲珠。杏葉。尾袋。頸総。馬副等。非參議倭鞍。結ニ唐尾一付ニ杏葉一。又公卿以下五位已上着ニ魚袋一。衛府公卿着ニ螺鈿劍一。他公卿着ニ餝劍一。隨身着ニ纉繪。柳打半臂下襲。平胡籙。狩袴等一。

保安四師元記云。今日攝政殿下。外記記同之府生二人。内舍人二人。各乘ニ細馬一前行。番長以下步行。右大臣。内大臣。府生一人各前行。番長以下步行。今日攝政已下諸卿各用ニ唐鞍一。攝政幷右大將。番長取ニ御馬口一。自餘馬副取レ之。

同外記記云。衛府公卿帶ニ弓箭一。但右大將不レ然。但帶劍。今日頓宮御禊座。公卿乍レ帶ニ弓箭一着座。但實行宗能不ニ着座一。宗輔師時着ニ弓箭一着座。

保安四記云。兼ニ衛府督一公卿。垂纓。帶ニ弓箭一。

同記云。攝政殿下。府生二人。内舍人。各乘ニ細馬一前行。番長以下步行。右大臣。内大臣。府生一人各步行。番長以下步行。今日攝政殿下以下諸卿各用ニ唐鞍一。攝政幷右大將。番長取ニ御馬口一。自餘馬副取レ之。

同忠敎卿記云。内大臣。于時右大將廿一才有仁。餝劍。魚袋。隨身。下柳襲。面白裏青。持ニ主人平胡六一。左衛門督。通季。螺鈿劍。不レ着ニ魚袋。帶ニ平胡籙。隨身。躑躅單下重。左兵衛督實能。同ニ左衛門督一。但隨身。躑躅下重。面白裏濃打。白褁袴。

衛府公卿隨身袴皆有レ色。而用ニ白袴一。可レ尋。大臣左兵衛督等隨身下襲二重也。自餘皆單也。是太政大臣雅實公。可レ用ニ二重一之由被レ申ニ内府一云々。土御門右府。師房。二ケ度供ニ奉大嘗會御禊一。而一度。治暦。隨身下襲二重也。一度單。承保。治暦節下。故大殿。隨身下襲

單。是依ニ先例一也云々。就ニ彼例一。天仁攝政隨身下重單也。

抑治曆。土御門右府被レ申ニ宇治殿一云々。隨身下襲相違。何以可レ爲レ善哉。被レ仰云。登毛加久毛有哉。而承保之度被レ用レ單。尙依ニ此說一歟。

保安四永昌記云。內大臣。有(一七)。右大將。馬副隨身同ニ左大將一。大納言五人。按察 經實。帶ニ餝劒一。馬副八人。 皇后宮大夫能實。藤大納言 宗忠。中宮大夫能俊。民部卿 忠敎。帶ニ螺鈿劒一。他事同前。中納言六人。源中納言 顯雅。馬副六人。侍從 實雅。帶ニ餝劒一。 新源中納言 雅定。已上同前。除ニ戶部一之外。雜色五人。或兩三人。 左衞門督 通季。左兵衞督 實能。縫腋袍。螺鈿劒。隱文。帶ニ弓箭一。隨身着ニ蠻繪一。 左大弁爲隆。牛靴。馬副四人。同上。具ニ雜色三人一。

保安四朝記云。

殿下御參。駕ニ檳榔御車一。連着鞦。常晴時不レ被レ懸ニ件御鞦一。

御車副六人。冠卷纓老懸。蘇芳褐衣。半臂。下重。黃袙一襲。朽葉末濃袴。菉脛巾。

牛飼。褐衣。打衣。濃單衣。白襖袴。菉脛巾。布帶。

御隨身。

內舍人二人。 府生二人。 番長二人。

殿下御ニ御輿左腋一。舊記云。左近陣內者。大殿仰云。須下加ニ御綱內一歟。然而御隨身以下前駈扈從。其人有レ數。置ニ其所一。可下令ニ供奉一給上。

御裝束如レ常。

紫緂平緒。縫ニ孔雀一。隱文巡方。魚袋。餝劒。大殿仰云。如レ此之時多被レ用ニ餝劒代一。而大嘗會御禊。依レ爲ニ希代事一。故大殿寬治帶給了。天仁例又以如レ此。然者雖ニ今度一。又可ニ令レ用レ代給一之由。所ニ令レ申給一也。 香御扇。 御靴。窠錢用ニ黃鳥錦一。每事美麗之故也。

餝馬。新院御馬。黑栗毛。

唐鞍。八子。雲珠。鈴。頸總。已上。御馬副下﨟持レ之。依ニ御馬不レ堪不レ令レ付。 鏡杏葉。腹鈴。

御馬副十二人。着ニ淺黃上下一。帶ニ野箭一。瀧口奉ニ仕之一。一二﨟取ニ御馬口一。裝束如レ常。調度懸十二人。在ニ御隨身後一。

內舍人隨身二人。列ニ府生前一。移馬。狩胡六。自レ殿給レ之。他事私所レ儲也。

橘頼重。撿非違使頼兼男。自院被獻之。濃蘇芳布衫。紅打衵。泥繪紅單。白狩袴。押錦窠文。其廻押伏組。付唐衣。熊行縢。菉䌫巾。冠。老懸等也。從者郎從四人。紺水干。欵冬衵末濃。雜色四人。蒴木藁形木襖衵。紅袴。調度懸一人着。已上裝束等。皆自院下給云々。

藤原重能。武藏權守重孝男。檮衫衵如頼重。狩袴押銀窠文。打襖施泥繪。熊行縢。伏籠以青地錦。繼比禮類。雜色二人。蒴木摸牡丹末濃袴。調度懸一人。赤色引錦襖上下。已上私儲之。所從皆具。可隨頼重由兼有仰。共駕鹿毛駮。

府生二人。狩胡六。移馬。紅打衵。紅單。白袴。自殿給之。黃柏摺。劍尻鞘。布帶。菉䌫巾。私儲之云々。

左武忠。乘鹿毛糟毛。

右兼方。乘栗毛。以上兩人。內舍人後在御馬外。各相具從者二人。皆着狩衣。

番長二人。紅蒲衣。同色單衣。合袴。兼行以下二行列立。在御馬副口。

左兼行。元右長也。今日行列被渡左。

右敦弘。今日右番長補所召也。

權番長二人。濃打衣。濃單衣。合袴。

左兼恒。

右久利。已上兩人。府生隨身供奉本府之代所召也。寛治天仁例如此。御參內之間。不乘移馬。參會陣。

近衛八人。裝束同番長。文略。

已上番長以下裝束。蠻繪袍。左師子。右熊。半臂下襲。左躑躅。右柳色青單。濃擣。已上。末濃袴。左蘇芳。右青。懸緒。左無文。右堅食文。尻鞘。左鰐文。右赤皮。平胡籙。左鶖羽。百大中黑中指篠箙。借召襖御。衛府紫革裝束。右肅愼羽新調之。以烏鷺羽切續。三府他事如常。平胡六。青革裝束。樺卷弓。左卷種組。右卷褐組。常例也。又見度々記。而今度以紫革替種組。黑文革替褐組。是卽周防入道清實朝臣日記。

已上內舍人隨身裝束。官人黃柏摺之外。皆悉賜之。

御厩舍人。冠細纓。老懸。褐濃擣濃單。布帶。白袴。菉䌫巾。新院御厩舍人長忠淸參仕。

居飼。裝束如常。御供院御厩舍人同參仕。移馬居飼四人。裝束同前。

移馬舍人四人。

內舍人隨身二人。麴塵紫擣裏襖上下。濃欵冬衣。支子染單衣。張袴。

府生舍人二人。一人格子布藍蒲染擣重襖上下。黃衵。紅單衣。一人格子布朽葉欵冬打裏上下。濃蘇芳衵。青單衣。已上四人在移馬前。

上達部。各餝馬。唐鞍。馬副。大納言八人。中納言六人。帶劍人餝劍。但衛府督宰相中將。帶螺鈿弓箭。各隨身

蠻繪。
左衞門督通季。　左兵衞督實能。
已上兩人帶二平胡籙一。天仁御禊。能實爲二左衞門督一不レ帶二胡籙一。衞府督皆代官。然者不レ可レ帶二胡籙一之由。有二殿仰一被レ示云云。
參議左大弁。
已上雜色二三人。或融二大路一。或相具令レ追レ前。此内雅定卿右大將無二雜色一。如二式文一者。尤可レ然。就中不レ可レ追レ前事歟。可二尋知一之。
康治元信範記云。攝政殿下乘二唐車一。自二閑路一遮令レ參二頓宮一給。内舍人隨身二人。府生一員。番長以上騎馬云々。可レ尋二裝束一。
同記云。權大納言宗輔已下。右衞門督家成。右兵衞督公行在二此列一。已上各騎馬。有二馬副一。大納言八人。中納言六人。宰相四人。帶二衞府一者帶二弓箭一。

同範家記云。殿下自二閑路一令レ參給。唐車。御隨身裝束如二陣供奉一。見二年々記一。
同或記云。諸司裝束。
公卿裝束。半臂。尋常。餝馬。唐鞍。銀面。尾袋。或不レ用二銀面一。新中納言右兵衞督
永治二十廿六宇槐云。
攝政御裝束儀式。
打下襲。有文帶。魚袋。餝劒。
隨身内舍人二人。豐原泰忠。藤原仲清。
濃蘇芳染布衫。白襖袴。打衣。熊行縢。卷纓。老懸。鹿皮尻鞘。布帶。伊知比脛巾。革襪。淺沓。狩胡六。弓。移馬。
將監將曹各二人。權。
同二本府裝束一。
府生二人。
黃布柏摺衫。謂二之野摺一。打衣。熊行縢。白襖袴。細纓。老懸。猪尻鞘。布帶。伊知比脛巾。革襪。淺沓。狩胡籙。弓。移馬。

番長二人。騎馬給時四人。今日被二乘車一。仍不二召加一。

近衞八人。

蠻繪衫。左師子。右熊。 半臂。左濃打。右青打。 下襲。左躑躅。白面瑩レ之。右柳。

寛治天仁攝政隨身皆單也。今違二彼例一如何。左大臣曰。寛弘九年御堂御隨身下襲二重。實資日記難レ之。

狩袴。左蘇芳末濃。右青末濃。 老懸。細纓。濃打袙。同單。赤懸緒。左無文。右平文。 布帶。伊知比脛巾。平胡籙。左鶖羽。押二堅食一也。右肅愼羽。 樺卷弓。畫尻鞘。左鰐文。右赤皮。 革襪。淺沓。

内舍人已下番長以上。騎馬在二御車前一。

唐御車。

車副六人。

冠。老懸。赤色。褐柳單。半臂下襲。朽葉末濃袴。黄袙。合袴。菉脛巾。布帶。

牛童。

青單袴。布。

移馬十匹。

舍人居飼各十人。

主上皇后美福駕輿之後。自二閑路一騎馳。於二二條万里小路一被レ見二物一。乘輿過後。近扈二從兵衞陣前一云々。乘車被レ候二陣中一。頗似二任意一。還御之時。自二閑路一參會。長元九年經賴記云。關白殿乘車行列。女御代從二車後一也。御隨身官人以下。皆褐衣狩胡籙等也。以レ之思レ之。不レ騎馬レ之時。供二奉本陣一之裝束相違歟。今日隨身裝束違二彼例一。令レ用二何年例一給哉。可レ尋二知一事也。同攝政殿御對面之次。奉レ問二御隨身等裝束一。仰云。長和五年御堂乘車供奉。先於二上東門一見物。天皇自二一條院一出御。乘輿後車扈從之時。隨身裝束如二常裝束一。如二今度一。此事等見二行親記一。今度偏隨二彼例一也。但其後關白乘車扈從之時。隨身裝束如二常行幸一。又寛和二年。兼家大入道殿乘車。

行幸已前渡二大路一令レ參二頓宮一給。

同記云。

諸卿儀。

打下襲。有文帶。付二魚袋一。帶劍之人用二餝劍一。（多被レ用二餝劍代一。）

但帶二弓箭一之人。帶二螺鈿一不レ付二魚帶一。有二隨身一之人。如二攝政隨身一。（左如レ左。右如レ右。衞府督如レ此。）

今日左大將右衞門督家成。三位中將忠雅。隨身下襲如二攝政一。自餘人隨身下襲單也。皆乘二餝馬一。

久壽二重方記云。殿下（忠通）榔檳庇。御車副六人。蘇芳褐衣。朽葉末濃袴。舍人居飼各四人。隨身在二本陣一。御車後。撿非違使爲信供奉。

同信範記云。

關白殿下。

御束帶如レ常。螺鈿御劍。紺地平緒。（孔雀圓文。）魚袋□。

唐御車。平鞦。牛飼持レ榻。

車副六人。

着レ冠。緌。蘇芳張袴。朽葉末濃袴。柳半臂下襲。（面白張。裏青張。件半比下重。先例着二單張絹一。今度如法被レ調二柳色一。如何。）布帶。菉脛巾。□張袙。同色單衣。

牛童。

紺褐衣。濃袙。黃張袙。青單衣。白襖袴。布帶。菉脛巾。

御隨身。（左蘇芳。狩胡籙。菉脛巾。右朽葉。）

上﨟四人。　近衞八人。（裝束同二上﨟一。）

前駈廿人。

平治元。

殿下（基實）騎馬。（蹲踞下襲。固文表袴。隱文巡方帶。魚袋。餝劍。着レ鞦。紫緂平緒。）

御隨身府生二人。（右黃白襖袴。熊行縢。紅打衣。布帶。狩胡籙。乘二移馬一在二御前一。件裝束供二奉本陣一儀也。）

唐鞍。八子。雲珠。鈴。頸總。

御馬舍人。（冠。老懸。褐衣。白袴。濃打袙一重。布帶。菉脛巾。）

移馬舍人二人。着ニ赤衣狩襖袴。山吹衵。黃單衣一。
居飼三人。色目一同。
番長四人。
近衛六人。
蠻繪袍。左師子。右熊。未濃袴。左蘇芳。右青。半比。下襲。左躑躅濃打絹單也。右柳青打絹也。已上纔着。衵。番長二人紅打。權二人并近衛六人濃打。十人皆單衣。
赤懸緒。左無文。右有文。繪尻鞘。左鰐。右虵尾。菉脛巾。淺沓。平胡籙。左鷲羽。右肅愼羽。樺卷弓。
已上步行。此中右番長付ニ御馬口一。
御馬副十二人。瀧口。裝束色目如レ常。上﨟取ニ御馬口一。次一人持ニ銀面。雲珠。頸總一。
調度懸十二人。
平治元中山記云。內大臣。公教 左大將。右大將公能公。已下公卿已上裝束如レ常。但非ニ衞府一者餝劔。付ニ魚袋一。衞府者帶ニ螺鈿劔一。至ニ于前後次第司長官一者。不レ帶ニ弓箭一。公卿皆駕ニ餝馬一。馬副舍人外無ニ他從一。兼ニ衞府督幷中將一人隨身。皆着ニ蠻繪一。負ニ胡籙一。左鷲羽。右肅愼羽。大將隨身又以如レ此。番長不ニ騎馬一。近衞取レ口。
仁安元師記云。攝政基房左大臣騎馬在ニ左近陣中一。內舍人二人。府生二人在レ前。信範記云。騎馬。番長以下八人步行。
兼光記云。攝政殿御騎馬令レ用ニ鈴唐鞍一給。有ニ內舍人隨身一。瀧口奉仕。御馬副十二人。
仁安三記云。實綱卿裝束。隱文帶。付ニ魚袋一。餝馬。尾袋。銀面。今日追レ前。公卿三人。左衞門督。別當。右兵衞督等也。右兵衞督賴盛。相ニ具隨身六人一。尤失也。左衞門督實國。隨身着ニ退紅單衣一。同以失。可レ着ニ濃單衣一也。
仁安三記云。攝政殿車副警蹕。先例不レ然之由。左府談給。
同信範記云。隨身上﨟騎馬。移馬。物節以下蠻繪。左躑躅下重。面白張瑩。裏濃打。右柳。面白。裏例青打如レ常。
同中山記云。攝政乘ニ唐車一列ニ女御代車前一。今度可ニ騎馬給一之由自レ院被レ申。然而第二度。先々用レ車之由令レ申給云々。或記。內舍人隨身。

府生二人。番長二人。番長以下隨身。左右皆着二下襲一。

同記云。

供奉公卿。

內大臣。兼右大將(忠雅)。番長二人。一人取レ口。府生包貞前行。被レ具二弓箭一。

左大將師長。大納言。帶二弓箭一。隨身持レ之。

右大將。內大臣雅通 隨身躑躅下重。但濃單衣。

權大公保。雜色二人。

實保。馬副外雜色一人。

權中實國。雜色追レ前。

參議賴盛。追レ前雜色有二二人一。

有二隨身一之人具二隨身一。無二雜色一。有二雜色一之人追レ前。

壽永元信範記云。攝政殿基通令レ參內一給。御裝束如レ常。但紅打衵。黑半臂。縮線綾袴。有文巡方。金魚袋。餝劔。非レ代。紫緂平緒。黃鳳文。

隨身。騎二移馬一。在二左右一。

內舍人二人。藤原盛季。原行憲。

實定公記同之 卷纓冠。老懸。蘇芳褐衣。顯文紗白狩袴。以二紫絲一縫二鶯丸一。文徑三寸許。紅打衵。施二泥繪一。同色單衣。熊行縢。散物劔。紫革裝束。鹿皮後鞘。布帶。蒙脛巾。狩胡籙。紫革小手。騎二移馬一。移鞍。緣螺鈿。橋。堅食文。無二表敷一。豹文彩色下鞍。文以二紺青一彩色。文廻押二細金一。懸二金銅伏輪一。赤地唐錦渡皮。同力革。散物鐙。堅食。大奈女藍革緣。白針如レ常。此緣可レ用二紫革一由有二議定一。尤可レ然也。緣代可レ用二紫革一。散物轡。堅食。鋂龍頭。鼻革付二金銅堅食文一。手綱。蘇芳打物。押二伏組一。白差縄。腹帶。連着鞦。代々古物被レ用レ之。引差縄。

府生二人。

同前 冠纓。黃色野摺狩衣。黑劔。斑猪尻鞘。熊行縢。蒙脛巾。已上用二私物等一。紅打衣。同色單衣。白襖袴。合袴。布帶。狩胡籙。黑柄唐笠。已上調給之。黑移鞍。散物轡。連着鞦・虎皮文下鞍。文廻押二細金一。

青革大奈女。堅食也。白針如レ恒。鍮龍頭。鼻革在二手金銅文一。手綱。
白差縄。腹帯。一丈二尺。引差縄。
御厩舎人四人。
内舎人随身舎人二人。
麹塵狩襖袴。山吹袙。黄單衣。合袴。烏帽。
平禮。藁沓。白柄唐笠。
府生舎人二人。
一人。二藍狩襖袴。黄袙一重。合袴。烏帽子。
平禮。藁沓。笠。
一人。朽葉狩襖袴。蘇芳袙。青單衣。合袴。
烏帽子。平禮。藁沓。笠。
居飼四人。
退紅衫。黒袴。白布襖下袴。烏帽子。白柄唐
笠。
番長四人。二人元番長。無二移馬一。騎二私馬一。在二御車後一。二人權者。本府催二進之一。
近衛八人。左右各四人。
都合十二人装束。

冠。緌。劔。菉脛巾。已上用二私物一。蠻繪袍。左師子。右熊丸。眼齒牙爪等押二銀薄一。舌口中付二朱砂一。半臂下襲。左躑躅濃打單。右柳色青打單。末濃袴。
左蘇芳。右青。打衣。正員二人。紅打。權者二人。近衛八人。濃打。單衣。皆紅花。不レ論二正員權者一一色。懸緒。紅打。左無文。右有文。各打絹五尺細帖レ之。合袴。布帶。
革襪。繪卷。左赤色組。右紺組。弦所々卷二村濃絲一。黒柄唐笠。已上調給之。
御馬副十二人。各具二調度懸一。
冠卷纓。老懸。褐衣袴。着二紫絲組結一。濃打衣一重。
合袴。菉脛巾。藁沓。檜扇。已上具別褁二平
褁一。冠入レ笞。具二黒柄笠一。一蔿兼能參二藏人
所一。下二給装束一。行幸後朝。冠。緌。褐衣。布帶。
菉脛巾等返上。
調度懸十二人。
淺黄狩衣袴。黄袙一重。合袴。烏帽子。平禮。
藁沓。具別褁レ之。
餝馬。院鹿毛。
唐鞍。黒地橋。縫物表敷。付二瓔珞八筋一。下鞍。紫檀地螺鈿鏡

地孔雀縫物。金銅伏輪。二重懸㆑之。樣物堀物金物付下鞍銀。鏡銀面。八子。雲珠。鈴。頸總。鏡杏葉。在㆓青地唐錦敷物㆒。髮袋。付㆑鈴。尾袋。鏡雲珠付㆑鈴。赤革鞦。付㆓金銅金物㆒入㆓青瑠璃玉㆒。腹下大鈴。蘇芳緂手綱。白差繩。二筋。五丈。白布靫。搦㆓赤地錦㆒。表腹帶。蒔繪鞭。濃打覆。引差繩。

御厩舍人。

冠。緌。紺褐衣。白襖濃打衣一重。合袴。布帶。藁脛巾。藁沓。白柄笠。

居飼。

裝束色目同㆓移馬居飼㆒。

同記云。舍人隨身二人。騎㆓移馬㆒在㆓左右㆒。同府生隨身二人同前。居飼舍人各四人前行。攝政令㆑騎㆓餝馬㆒給。馬副瀧口二人爲㆑轆。舍人居飼等左右。居飼履。次御隨身番長四人。近衞八人。皆蠻繪。色目同前。馬副十二人。瀧口。上臈賜㆓御笏扇等㆒持㆓懷中㆒。下臈二人持㆓頸總雲珠㆒。調度懸十二人。帶㆓弓箭㆒同列。

同記云。殿下御車檳榔毛。被㆑渡㆓大路㆒。車副。六人。着㆓蘇芳褐衣。末濃袴㆒。牛飼着㆓黑褐衣。白襖袴等㆒。等相副。

同隆房記云。公卿皇后宮大夫實房。已下。左兵衞督家通。隨身四人着㆓蠻繪㆒。修理大夫經盛。具㆓雜色三人㆒。持㆑劔。駕㆓唐鞍㆒。各有㆓馬副㆒。大納言八人。中納言六人。參議四人。鈴印少納言。黑地鞍。連着鞦。付㆓杏葉㆒。

同實定公記云。左衞門督時忠卿。裝束司長官。□蒔繪。不㆑帶㆓弓箭㆒。門部四人。垂袴。壺。

元曆元外記記云。殿下基通庇御車。被㆑具㆓内舍人隨身㆒云々。

同信範記云。攝政殿駕㆑車令㆓供奉㆒給。

先前駈笠持。

次居飼十人。

次舍人十人。

一員將監將曹各二人。府生二人。内舍人二人。番長二人。移馬舍人。

皆着㆓當色㆒。虫色狩襖袴。山吹衣。黃單。烏帽子。平禮。

次一員將監二人。將曹二人。

次前駈廿人。

次御隨身番長二人。

蠻繪袍。左師子文。右熊丸。半臂下襲。左濃打。右青打。各單。末濃袴。左蘇芳。右青。紅打衣。同張單。赤懸緒。左無文。右有文。布帶。伊知比脛巾。黑造劍。繪尻鞘。左豹鰐文。右虎皮文。平胡籙。左鷲羽。皆用二中黑一。右鷫鸘羽。以二烏鵲一造レ之。弓。左赤組。右紺組。

府生二人。

黃摺袍。紅打衣。同單。白襖袴。熊皮行縢。黑劒。猪皮尻鞘。布帶。伊知比脛巾。狩胡籙。

次內舍人。

蘇芳褐。白狩袴。紫丸文。縫レ之。紅打衣。泥繪同。單衣。卷纓冠。散物太刀。紫革裝束。鹿皮尻鞘。熊行縢。狩胡籙。紫革小手。布帶。藁脛巾。

次御車。新造唐車。式法如レ例。平絹蘇芳下簾。無二縫物一。平鞦。無レ緒。

次車副六人。

卷纓冠。老懸。蘇芳張褐衣。柳半臂下襲。青色單絹。朽葉末濃袴。黃袙一重。布帶。藁脛巾。

次牛童。

紺褐衣。白襖袴。濃打袙一重。布帶。藁脛巾。持レ榻。院御牛。同童。

次近衞八人。

蠻繪袍。末濃袴。半臂下重以下裝束如二番長一。但濃打衣。其外同二番長一。

次雜色。定長。光久。

烏帽子。平禮。無裾袴□等。革沓。

次連雜色百人。此中番十三人。

平禮。上結。垂尻。

次唐笠持舍人。雨皮張筵持仕丁。退紅白袴如レ常。

建久九忠良記云。殿下基通令レ着二御裝束一給如レ常。有文帶。紺地平緒。餝劒。魚袋。御參內。唐車。院御車也。下簾有二縫物一歟。堅文紗蘇芳末濃如レ常。前駈十六人。御隨身府生二人。黄野摺褐衣。內舍人隨身二人。蘇芳褐衣。番長四人。近衞八人。已上蠻繪。

建曆元年十月廿二日宮槐記云。今日公卿大都不レ具二雜色一歟。一兩卿召二具之一云々。良平大納言二人。忠茂中納言三人許也。

又衞府公卿。弓多ハ持レ左。左大將道家ハ左持レ之。右大將公房。者右持レ之。是非二左右相合儀一。故入道左府者右持之由執レ之。左大將ハ持レ左之由被レ執レ之云々。且於下出二座左幕一之所爲上ハ。院相國語給也。

公卿之中。或令レ持二雲珠一。頸總。或否。又或以二雲珠一令レ持二馬副上﨟一。或以二頸總一令レ持二上﨟一。博陸ハ中央之程ニ令レ持レ之云々。

又中納言雅親。三位範明。乘二葦毛馬一。故實者次ノ事也。當時之所見尤下品なりけり。後人猶可レ愼歟。

建曆元年十月廿二日宮槐云。關白騎馬。瀧口張レ口。隨身取レ口。如二先規一。隨身官人野摺。置染衫菊是也。無二內舍人隨身一。關白之時無レ之云々。關白車。總鞦。下簾長引レ地。可レ然事歟。可レ尋。雜色二三十人歩二行車後一。是先例也。

建曆元年十月廿二日宮槐云。

公卿列。

馬副二人。取レ炬前行。

三位家衡。

從二人。取二松明一在レ後。尤可二前行一歟。取物等皆持也。

建曆元年十月廿二日長兼記云。

供奉公卿。

源大納言。通光。還御時馬副持レ祿。

藤大納言。師經。輕服。

九條大納言。良平。被ㇾ具ニ舍人居飼一。

二位中納言。忠房。有ニ舍人居飼一。還御時雜色二人取ニ松明一云々。如何。

土御門中納言。定通。

新源中納言。雅親。

新中納言。敎成。

右衞門督。親兼。帶ニ弓箭一。門部着ニ蠻繪一。

藤宰相。範明。

六條三位。家衡。

已上用ニ唐鞍一。馬副持ニ雲珠頸總等一。此外左衞門督忠信卿。何自ニ御棧敷前西程一乘ㇾ馬引走。於ニ二條室町一馬留立入。舍弟佐親候ニ棧敷一。乘ㇾ車歸ㇾ家。

關白殿騎馬供ニ奉左近陣一。殿下有ニ御輕服事一。府生二人騎馬在ㇾ前。馬副二人張ㇾ口。自餘馬副行列如ㇾ例。一人持ㇾ笏。一人持ニ雲珠一。二人持ニ頸總一。番長近衞等步行。是先例也。舍人着ニ褐衣冠一。是又先例也。

貞應元年十月廿三日禪大御記云。于時宰相中將。

辰剋限召集從者等見ㇾ之。

隨身四人。

蠻繪袍。師子丸。依ㇾ左也。右熊文。躑躅下重。單打也。右柳色也。今度依ㇾ左也。濃打半比。單。右青。蘇芳末濃狩袴。貫布。右青末濃。

狩袴貫布事。先日尊閤令ㇾ申ニ禪閤一給。拔布常事之由有ニ御返事一。仍如ㇾ此。

平胡籙。鷲羽黑染箙。黃金物。無ニ象眼一。マフタギ用ニ白色紙一。朽緂丸緒。箭押ニ軟錦一。

今度鷲羽所見之處。偏ウスベ尾也。若聊可ㇾ爲ニ切普一歟。又黑染箙。マフタギナド不審。仍尊閤令ㇾ申ニ禪閤一給。御返事云。鷲羽ニテダニ候バ。ウスベ尾不ㇾ可ㇾ有ㇾ苦。又箙ノマフタギ色紙也。黑染箙常事也。

仍此定所ㇾ調也。

樺卷弓。菉脛巾。淺沓。赤懸緒。無文。廣二寸餘許。打ㇾ之。絹也。

繪尻鞘劍。鰐文。地ハ虎文色取ㇾ之。其上鰐文也。右ハサヒツ。是ハ地ノ虎文許也。是予稱左筆。

馬副四人。今度用ニ家司侍一。

冠。卷纓。褐衣。四組紫絲ヲ以爲レ結。褐袴。菓。亂緒。布帶。

濃打衣。

召寄テ見之處。尻廣テ挿レ之。仍後許ハ廣シ。前ハヒシ〳〵ト帖テ挿也。前ハ有レ尻ドモ不レ見也。

居飼一人。

退紅。無レ結。布襖。布ヲ粘張テ袖許ヲ二重ニ返テ重タル也。黑布袴。

舍人長一人。武淸。

平禮。二藍狩衣。垂尻。朽葉衣。亂緒。

雜色一人。元源。

白張立烏帽子。

立烏帽子事。禪閤仰云々。

舍人二人。

一人萠木黃衣。一人紺水干。葛袴。

餝馬。

唐鞍。銀面。髮袋。尾袋。杏葉。鞦ニ十。胸懸ニ五。面懸兩方各ニ七。

如レ常。

今度。本ハ雲珠頸總等不レ可レ持之儀也。而見ニ舊記一。參議已上。髮袋。尾袋。雲珠。頸總如レ常ト書レ之。驚而見ニ建久禪閤御記一。于時中納言。不レ持ニ雲珠頸總一云々。仍予不レ持レ之。

次予着ニ裝束一待ニ剋限一。漸至ニ院御棧敷一之間。予取ニ弓上手一。舍人渡ニ下舍人長一。懸ニ手上手綱前傍一

冠。卷纓。老懸。縫腋袍。縮線綾表袴。螺鈿劍。沈地。有レ樋。金柄。不レ付ニ魚袋一。有文巡方帶。

裝束着了。付ニ使於官廳一。令レ見ニ剋限一。使者歸來云。御輿已出ニ官東門一云々。予帶ニ弓箭一。着レ靴。騎馬。蒔繪鞭。卷ニ檀紙一。茜緒。打ニ出門前一。自レ此立ニ行列一。令レ下ニ知從者一。

先餝馬。

馬副二人張レ口。

次舍人長。居飼。

舍人長ハ馬左。小馬傍。居飼ハ馬右。懸ニ鞍覆一。打馬右。小馬傍。

次馬副二人。
上﨟持笏。アラハニ持之。
次蠻繪隨身四人。
雜色具笠持歩路傍。是爲鹵薄外者。御棧敷前可歩幔外之由示含了。又不可追前之由同仰含了。
暫立大宮辻待御輿。
小時節旗渡。
馬上者持之。四方張綱。地上者張之。
次節下左大臣。家通。
番長一人。騎馬在前。野摺褐。餝馬。鞦下引赤地錦。付杏葉。
馬前蠻繪随身六人歩行。
次大納言。忠房。
餝馬如常。雲珠。頸總。令持馬副。
次權中納言。
雲珠。頸總。令持馬副。
建暦二年十月廿八日顯俊卿記云。爲還御御輿已寄云々。仍騎馬。先行於二條高倉邊。乘馬頗有厭銀面之氣。仍撤之。令持雜色。抑參議馬副四人也。二人張口。二人秉松明。此時撤銀面者可令持雜人哉。先例不分明。當座令案也。迷是非。然而雜色一人之外敢無所從。仍如此。後聞。人々成不審云々。且後日上皇有御尋。申此旨了。猶雜色二人秉松明。馬副可持之歟之由有御氣色云云。此條誠可然歟。但兩人共召具之。雜色一人。老□川原留了。其上召具雜色之條。是非正儀。秉松明渡御棧敷之條。理不可然。猶可尋存。又令持雜色之條モ。誠何事有哉之由有其沙汰云々。
予供奉儀。
束帶如常。有文帶。但非巡方。魚袋。栗毛駿馬。唐鞍。新大納言被借送之。舍人。赤色上下。黃袘。依爲新制一人也。馬副四

人。二人張レ口。二人在レ後。水干袴。雜色二人。平禮。舍人密相副。[　]。人々如レ此。路次之間在二路傍一。不レ追レ前。笠持。自二閑路一參二會河原一。不レ令レ行二列路頭一也。

貞應元年十月廿三日禪大御記云。人々雜色。或渡二着檜墻一。或渡二幔外一。予雜色渡二幔外一。

仁治三年十月廿一日公光卿記云。

公卿。

權大納言藤原公基卿。馬副八人如レ常。雜色雲珠頸總等令レ持レ之。

同實雄卿。馬副八人。雲珠頸總令レ持二馬副一。

權中納言同公親卿。馬副六人如レ恒。雜色一人。不レ持二雲珠頸總一。具二舍人居飼一。

同冬忠卿。馬副六人如レ恒。雜色一人。具二舍人居飼一。依二家例一着レ袴。

同公持卿。馬副六人如レ恒。雜色一人。雲珠頸總等令レ持二馬副一。具二舍人居飼一。

參議源顯平卿。馬副四人如レ常。

仁治三年十月廿二日公光卿記云。抑土御門前定通内大臣。束帶。蒔繪劒。

仁治三年十月廿一日公光卿記云。關白良實被レ着二縮線綾表袴一。乘車供奉。右衛門陣後。前駈十五人。隨身上﨟四人乘二移馬一。

仁治三年十月廿一日師朝記云。

公卿。

權大納言藤原公基。副舍人二人。各赤色。馬副八人。四人取物。

同實雄。馬副八人。上﨟四人。取物不レ持二銀面一。副舍人二人。

權中納言藤原冬忠。舍人居飼。馬副六人。雜色二人。

同公時。舍人居飼。馬副六人。

仁治三年十月廿一日山御記云。予供奉。螺鈿劒。有文帶。馬副八人。雜色不レ召二具一。雲珠頸總等令レ持二馬副一。銀面又令レ持レ之。馬依レ有二厭氣色一也。

寛元四年十月廿四日陽龍記云。一院可レ有二御棧敷御幸一。行幸以前。先可レ供二奉之由先日有レ催。近習之外先例無レ催。予以[　]仍鷄鳴之間。召二集僮僕等一。卯剋着二束帶一。雖レ有二衣冠之催一。有二所存一着レ之。帶二蒔繪太刀一。着二無文帶一。一日之中雖レ不レ可レ改。餝劒。魚袋。尚不レ可レ然之由。有二淨土寺殿之仰一。

抑行幸供奉公卿先參御幸先例。保安四年。民部卿忠教。左衞門督通季等卿之外。無所見歟。裝束事。件日記等不分明。加之。承久三年正月一日。院拜禮了有御幸始。公卿蒔繪太刀。而別當經通卿。帶餝劒參上。見人々劒令帶改。殿上人近將者。着闕腋袍。或及魚袋。右少弁兼右衞門權佐光俊。着縫腋袍。此等例尤可准據歟。

駕毛車。（車副牛飼如常。左衞門尉中原仲光。源行繼。雜色二人細烏帽子在共。）令引馬。（栗毛。借請攝政和鞍泥障如常。用舌二人。花田水干。袴。黃衵。着下袴。）

寛元四年十月廿四日陽龍記云。次大臣騎馬前行。漸進之間。予御幸之時所着之裝束改着之。（有文帶。魚袋。餝劒。紺地平緒。）

寛元四年十月廿四日陽龍記云。

公卿。

權中納言公親卿。（馬副六人。不令持雲珠頸總。具舍人居飼。雜色二人。細烏帽子藁沓在共。）

顯親卿。（馬副六人。上﨟持銀面。不持雲珠頸總。具院御厩舍人居飼。）

予。（馬栗毛。馬副六人之內。第一第二儱。第三持笏。第五持銀面。爲右須千加倍天持之。第六持尾袋。同略雲珠頸總。雜色二人在共。同公親卿。舍人二人同上。還御之時。馬副第三第四取松明在前。笏令持侍。不撤銀面。尾袋等。）

參議左大弁經光卿。（馬副四人。各持雲珠頸總。最末持尾袋。雜色二人平禮在共。）

寛元四年十月廿四日陽龍記云。攝政（實經）唐庇車。（申請院御車。）前駈十五人。（四位二人。五位十二人。六位一人。）

文應元年十月廿一日經光記云。

公卿。

花山院大納言。（通雅。具舍人居飼。）

中院新中納言。（通基。具舍人居飼。）

華山相具雜色一人。其外無雜色。

文應元年十月廿一日經光記云。

關白殿。（兼平）（院檳榔庇御車。）

車副。（蘇芳褐衣。）御隨身。（褐衣。藁脛巾。）

前駈十二人。（彈正大弼範重朝臣以下。）

文應元年十月廿一日信輔卿記云。關白殿駕レ車。唐庇。被レ申二請院御車一云々。令二供奉一給。前駈十二人。御隨身四人。騎二移馬一。在二御車前一。御車副八人。褐衣如レ例。御牛飼。褐衣。

文應元年十月廿一日經俊卿記云。

公卿。

權大納言源　顯良。馬副八人。相二具院御厩舍人居飼一。

藤原通雅。馬副同前。具二舍人居飼一。又雜色二人召二具之一。此外平禮。公卿相二具雜色一。

權中納言藤原爲氏。馬副六人。

參議　平　時繼。馬副四人。

文應元年十月廿一日經俊卿記云。

關白殿下。

檳榔庇。被レ申二請院一。　車副。蘇芳褐。

前駈十二人。　隨身。褐衣。

文永十一年十月廿一日花內記云。師繼

着二束帶一。

、用二蒔繪劔一。丸鞆帶。不レ付二魚袋一。御禊日供奉公卿。不レ用二餝太刀一。巡方帶。付二魚袋一也。予不レ供二奉一。依レ爲二御乳父一。內々爲レ奉レ扶二持之一。參二會官司幷河原頓宮一也。依レ非二職掌一用二褻劔一也。寛元入道相國實氏公。文應入道左府實雄公。非二職掌一參二會川原一。其裝束不レ勘二付一。追可レ尋二記一。

駕二毛車一。前駈四人在レ共。

文永十一年十月廿二日花內記云。師繼

攝政。家經

紫緂平緒。被レ持二香扇一。件扇。檜木ヲ香ニ染テ。以二白糸一閇レ之。被レ談云。香扇者老者之持所也。而保安攝政法性寺殿爲レ被レ持レ之。今追二被例一云々。又鞍覆被レ用二葡萄染一。是寛治大殿師實例云々。自餘行粧追可レ尋レ記。

西園寺大納言。實兼

紫緂平緒。

(忠教)左大將。

同。

(家基)右大將。

同。

洞院中(公守)納言。

同。

文永十一年十月廿二日花內記云。

人々馬事。

攝政自レ院被レ借二遣去年貢馬一駿一也。唐鞍付固。殊攝政肥滿之間。馬不レ堪。於二待賢門內一兩度臥云々。被レ乘之時。被レ用二白木大床子一。土御門大納言不二參內一。自二途中一被二打出一之間落馬。然而不レ損二裝束一。(實家)左衞門督。馬於二官北門一被レ乘之間。太沛艾。置二替鞍一。又予令二置替一之間及二三疋一。少將致賴馬如レ步欲二走出一。能乘レ之。人々逐驚レ目。

同年十月廿二日山御記云。午剋許着二裝束一。(有文帶。)(餝劍。魚袋。上レ括。着二下袴一。)次參二官司一。毛車〔　〕具二雜色長侍一。諸大夫各兩三人。(着二布衣一。用二細鞦一。首付)

正應元年十月廿一日師顯記云。關白殿□毛車。自二閑路一參會。唐車難レ得故者。法性寺殿。康治度召二唐車一令二參會一給云々。

正應元年十月廿一日御記云。午一點着二裝束一。(餝劍。紫緂平緒。巡方帶。)駕二毛車一。(車副二人。牛飼雜色等。無二單袴一如レ常。)參內。相二具餝馬一。(三也。銀面。髮袋。黑地螺鈿鞍。橋繡大滑。有二伏輪一。輪鐙施レ薄。赤滑子鞦。鏡杏葉。尾袋等也。)瀧舍人。(無二單袴一。狩衣色々也。)馬副六人。

永仁六年十月廿五日仲定記云。殿(兼忠)內舍人隨身乘二用平文移鞍一。任レ望御厩別當調二進色目一。

橋。(緣螺鈿。文堅食。)　下鞍。(彩色豹皮色。廻押細金略之。金銅伏輪。緣赤地錦。用二繧繝一。)

轡。(散物。文同。)　鐙。(散物。文堅食。カユ白塗レ之。)

力皮。(赤地錦。)　手綱。(蘇芳。)

差繩。(白。)　腹帶。(同。)

色目自レ殿被レ下レ之。骨鐙不レ借二他所一。古物

也。

延慶二年十月廿一日御記云。爲ニ供奉一。予辰二剋着ニ束帶一。位袍縫腋。躑躅下重。裾長三尺。ナメリナシ。薄色袙。紅單等如レ常。縮線綾表袴。青裌平緒。螺鈿劒。木地有文帶。不レ付ニ魚袋一參ニ官司一。相ニ具弓箭飾馬一。雜色。牛童。車副等。無ニ單袴一也。蠻繪隨身四人。束帶五位一人。布衣輩五六位輩召ニ具之一。

今日予行粧。

隨身四人。

蠻繪袍。師子丸。紫末濃袴。上レ括。平胡籙。黑漆鷲羽矢二並差。有ニ板突一。如ニ普通一。平胡籙。紅薄樣間塞。劒。如レ常。但着ニ繪尻鞘一。鰐文也。菉脛巾。沓。

馬副四人。如レ常。

小雜色三人。

雖レ爲ニ拜賀日一。不レ召ニ具如木等一。是西園寺入道相國。大將後叙ニ一品一。供ニ奉官司行幸一之時。不レ召ニ具之一云々。依ニ彼例一不レ召ニ具一。其外准據之例等有レ之。

舍人。

花田狩衣袴。黃衣。練貫單。平禮亂緒。

居飼。如レ例。

副舍人二人。

無ニ單袴一。一人香狩衣大帷已下如レ恒。一人二藍狩衣。

正慶元年十月廿八日御記云。

公卿。

權大納言藤原公宗。馬副六人。一人持ニ銀面尾袋一。在ニ馬□舍人居飼在ニ馬副內一。

藤原資名。馬副六人。召ニ具舍人居飼一。申ニ請院御廐一也。如木雜色一人。依家例別申請也云々。依ニ家例一。一人着ニ赤色水干葛袴一。

藤原公淸。馬副六人。副ニ舍人一。

藤原長定。馬副六人。舍人居飼。

藤原資明。馬副六人。

藤原忠兼。馬副六人。

藤原經顯。右衞門督。螺鈿劒。木□魚袋。卷纓緌。隨身四人。平胡籙。馬副六人。

參議　藤原實茂。馬副四人。

正慶元年十月廿八日御記云。

左近衞府。

大將藤原經通。隨身蠻繪。鷲羽。馬副六人。銀面。有取物。番長張レ口。

右近衞府。

大將代參議右中將藤原實繼。蠻繪隨身六人。平胡簶。肅愼羽。馬副六人。二人持二銀面尾袋一。

正慶元年十月廿八日御記云。

關白殿。唐庇車。地下前駈八人。隨身蠻繪如レ例。

文永

以下缺失

右御禊行幸服餝部類以異本一挍了

群書類從卷第百二十二

文筆部一

懷風藻序。

逖聽前修。遐觀載籍。襲山降蹕之世。橿原建邦之時。天造草創。人文未作。至於神后征坎品帝乘乾。百濟入朝啓龍編於馬厩。高麗上表圖烏册於鳥文。王仁始導蒙於輕嶋。辰爾終敷敎於譯田。遂使俗漸洙泗之風。人趨齊魯之學。逮乎聖德太子。設爵分官。肇制禮義。然而專崇釋敎。未遑篇章。及至　淡海先帝之受命也。恢開帝業。弘闡皇猷。道格乾坤。功光宇宙。既而以爲。調風化俗。莫尚於文。潤德光身。孰先於學。爰則建庠序。徵茂才。定五禮。興百度。憲章法則。規摹弘遠。夐古以來未之有也。

於是三階平煥。四海殷昌。旒纊無爲。巖郎多暇。旋招文學之士。時開置醴之遊。當此之際。宸翰垂文。賢臣獻頌。雕章麗筆。非唯百篇。但時經亂離。悉從煨燼。言念湮滅。輙悼傷懷。自茲以降。詞人間出。龍潛王子翔雲鶴於風筆。鳳翥天皇泛月舟於霧渚。神納言之悲白鬢。藤太政之詠玄造。騰茂實於前朝。飛英聲於後代。余以薄官餘閑。遊心文囿。閱古人之遺跡。想風月之舊遊。雖音塵眇焉。而餘翰斯在。撫芳題而遙憶。不覺淚之泫然。攀縟藻而遐尋。惜風聲之空墜。遂乃收魯壁之餘蠹。綜秦灰之逸文。遠自淡海。云暨平都。凡一百二十篇。勒成一

卷。作者六十四人具題二姓名一。幷顯二爵里一冠二于篇首一。余撰二此文一意者。爲レ將レ不レ忘二先哲遺風一。故以二懷風一名レ之云レ爾。于時天平勝寶三年。歲在二辛卯一。冬十一月也。

懷風藻目錄。略以二時代一相次不レ以二尊卑等級一

懷風藻

淡海朝大友皇子二首

皇太子者。淡海帝之長子也。魁岸奇偉。風範弘深。眼中淸耀。顧盼煒燁。唐使劉德高見而異曰。此皇子風骨不レ似二世間人一。實非二此國之分一。嘗夜夢。天中洞啓。朱衣老翁捧レ日而至。擎授二皇子一。忽有レ人。從二腋底一出來。便奪將去。覺而驚異。具語二藤原內大臣一。歎曰。恐聖朝万歲之後。有二巨猾間釁一。然臣平生曰。豈有二如レ此事一乎。臣聞。天道無レ親。惟善是輔。願大王勤修レ德。災異不レ足レ憂也。臣有二息女一。願納二後庭一以宛〔充ろ〕二箕帚之妾一。遂結二姻戚一以親二愛之一。年甫弱冠。拜二太政大臣一。惣二百揆一以試レ之。皇子博學多通。有二文武材幹一。始親二万機一。群下畏服。莫レ不二肅然一。年廿三。立爲二皇太子一。廣延二學士一。沙宅紹明。塔季春初。吉太尙　許率母　木（大イ）素貴子等。以爲二賓客一。太子天性明悟。雅愛二博古一。下レ筆成レ章。出レ言爲レ論。時議者歎二其洪學一。未レ幾文藻日新。會二壬申年之亂一。天命不レ遂。時年廿五。

五言。侍レ宴一絶。

皇明光二日月一。帝德載二天地一。三才竝泰昌。万國表二臣義一。

五言。述懷一絶。

道德承二天訓一。鹽梅寄二眞宰一。羞無二監撫術一。安能臨二四海一。

河嶋皇子一首。

皇子者。淡海帝之第二子也。志懷温裕。局量弘雅。始與二大津皇子一爲二莫逆之契一。及二津謀レ逆。嶋則告レ變。朝廷嘉二其忠正一。朋友薄二其才情一。議者未レ詳二厚薄一。然余以爲。忘二私好一而奉レ公者。忠臣之雅事。背二君親一而厚レ交者。悖德之流耳。但未レ盡二爭友之益一。而陷二其塗炭一者。余亦疑レ之。位終二于淨大參一。時年卅五。

五言。山齋一絕。

塵外年光滿。林間物候明。風月澄二遊席一。松桂期二交情一。

大津皇子四首。

皇子者。淨御原帝之長子也。狀貌魁梧。器宇峻遠。幼年好レ學。博覽而能屬レ文。及レ壯愛レ武。多力而能擊レ劍。性頗放蕩。不レ拘二法度一。降レ節禮レ士。由レ是人多附託。時有二新羅僧行心一。解二天文卜筮一。詔二皇子一曰。太子骨法不二是人臣之相一。以レ此久在二下位一。恐不レ全レ身。因進二逆謀一。迷二此詿誤一。遂圖二不軌一。嗚呼惜哉。蘊二彼良才一。不下以二忠孝一保上レ身。近二此姧豎一。卒以二戮辱一自終。古人愼二交遊一之意。固以深哉。時年廿四。

五言。春苑宴一首。

開レ衿臨二靈沼一。遊レ目步二金苑一。澄徹〔清イ〕苔水深。晻曖霞峯遠。驚波共レ絃響。哢鳥與レ風聞。羣公倒載歸。彭澤宴誰論。

五言。遊獵一首。

朝擇二三能士一。暮開二万騎筵一。〔輝い〕〔旗イ〕喫レ臠倶豁笑〔笑い〕。傾レ盞共陶然。月弓暉二谷裏一。雲旌張二嶺前一。曦光已隱レ山。壯士且留連。

七言。述志。

天紙風筆畫二雲鶴一。山機霜杼織二葉錦一。

後人聯句。

赤雀含レ書時不レ至。潜龍勿レ用未ニ安寢一。

五言。臨終一絶。

金烏臨ニ西舍一。皷聲催ニ短命一。泉路無ニ賓主一。此夕誰〔離い〕家向。

釋智藏二首。

智藏師者。俗姓禾田氏。淡海帝世。遣ニ學唐國一。時吳越之間有ニ高學尼一。法師就レ尼受レ業。六七年中學業頴秀。同伴僧等頗有ニ忌害之心一。法師察レ之。計ニ全レ軀之方一。遂被レ髮陽狂奔ニ蕩道路一。〔密い〕察寫ニ三藏要義一。盛以ニ木筒一。着レ漆秘封。負擔遊行。同伴輕蔑。以爲ニ鬼狂一。遂不レ爲レ害。太〔持統〕后天皇世。師向ニ本朝一。同伴登レ陸。曝ニ涼經書一。法師開レ襟對レ風曰。我亦曝ニ涼經典之奧義一。衆皆嗤笑以爲ニ妖言一。臨ニ於試業一。昇レ座敷演。辭義峻遠。音詞雅麗。論雖ニ蜂起一。應對如レ流。皆屈服莫レ不ニ驚駭一。帝嘉レ之拜ニ僧正一。時年七十三。

五言。翫ニ花鶯〔鶯ら〕一一首。

桑門〔寡い〕寡ニ言晤一。策レ杖事ニ迎逢一。以ニ此芳春節一。忽値ニ竹林風一。求レ友鶯嫣レ樹。含レ香花笑レ叢。雖レ喜ニ遨遊志一。還媿ニ乏ニ雕虫一。

五言。秋日言レ志一首。

欲レ知ニ得レ性所一。來尋ニ仁智情一。氣爽山川麗。風高物候芳。〔燕い〕燕巢辭ニ夏色一。鴈渚聽ニ秋聲一。因レ玆竹林友。榮辱莫ニ相驚一。

葛野王二首。

王子者。淡海帝之孫。大友太子之長子也。母淨御原帝之長女十市内親王。器範宏邈。風鑒秀遠。材稱ニ棟幹一。地兼ニ帝戚一。少而好レ學。博渉ニ經史一。頗愛レ屬レ文。兼能ニ書畫一。淨御原帝嫡孫。授ニ淨大肆一。拜ニ治部卿一。高市皇子薨後。皇太后引ニ王公卿士於禁中一。謀レ立ニ日嗣一。時群臣各挾ニ私好一。衆議紛紜。王子進奏曰。我國家爲レ法也。神代以來。子孫相承以襲ニ天位一。若兄弟相及則亂從レ此興。仰論ニ天心一。誰能敢測。然以ニ人

事推レ之。聖嗣自然定矣。此外誰敢間然乎。弓削皇子在レ座欲レ有レ言。王子叱レ之乃止。皇太后嘉ニ其一言定一レ國。特閲授ニ正四位一。拜ニ式部卿一。時年卅七。

五言。春日翫ニ鶯梅一一首。

聊乘ニ休假景一。入レ苑望ニ靑陽一。素梅開ニ素靨一。嬌鶯弄ニ嬌聲一。對レ此開ニ懷抱一。優是〔足い〕暢ニ愁情一。不レ知老將レ至。但事レ酌ニ春觴一。

五言。遊ニ龍門山一一首。

命レ駕遊ニ山水一。長忘冠冕情。安得ニ王喬道一。控レ鶴入ニ蓬瀛一。

大納言直大二中臣朝臣大嶋二首。自レ茲以降諸人未レ得ニ傳記一。

五言。詠ニ孤松一一首。

隴上孤松翠。凌雲心本明。餘根堅ニ厚地一。貞質指ニ高天一。弱枝異〔高い〕ニ萬草一。茂葉同ニ桂榮一。孫楚高ニ貞節一。〔脱 笠い〕隱居悅登輕。

五言。山齋一首。

宴飮遊ニ山齋一。遨遊臨ニ野池一。雲岸寒猨嘯。霧浦挹〔楢池イ〕ろ或楢一聲悲。葉落山逾靜。風涼琴益微。各得ニ朝野趣一。莫レ論ニ攀桂期一。

正三位大納言紀朝臣麻呂一首。年卅五。

五言。春日應レ詔一首。

惠氣四望浮。重光一園春。式宴依ニ仁智一。優遊〔ニ〕詩人一。崑山珠玉盛。瑤水花藻陳。階梅鬪ニ素蝶一。塘柳掃ニ芳塵一。天德十ニ堯舜一。皇恩霑ニ萬民一。

文武天皇三首。年廿五。

五言。詠レ月一首。

月舟移ニ霧渚一。楓檝泛ニ霞濱一。臺上澄流耀。酒中沈去輪。水下斜陰碎。樹除秌光新。獨以ニ星間鏡一。還浮ニ雲漢津一。

五言。述レ懷一首。

年雖レ足レ戴レ冕。智不ニ敢垂一レ裳。朕常夙夜念。何以拙心匡。猶不レ師ニ往古一。何救ニ元首望一。然毋ニ三絕

務。且欲臨短章。

五言詠雪一首。

雲羅囊珠起。雪花含彩新。林中若柳絮。梁上似歌塵。代火輝霄篆。逐風廻洛濱。園裏看花李。冬條尙帶春。

從三位中納言大神朝臣高市麻呂一首年五十。

五言。從駕應詔一首。

臥病已白鬢。意謂入黄塵。不期遂恩詔。從駕上林春。松巖鳴泉落。竹浦笑花新。臣是先進輩。濫陪後車賓。

大宰大貳從四位上巨勢朝臣多益須二首。

年卌八。

五言。春日應詔二首。

玉管吐陽氣。春色啓禁園。望山智趣黄。臨水仁狎敦。松風催雅曲。鶯哢添談論。今日良醉德。誰言湛露恩。

姑射遁太賓。崆巖索神仙。豈若聽覽隙。仁智寓山川。神衿弄春色。清蹕歷林泉。登望繡翼徑。降臨錦鱗淵。絲竹時盤桓。文酒乍留連。薫風入琴臺。蓂日照歌筵。岫室開明鏡。松殿浮翠烟。幸陪瀛洲趣。誰論上林篇。

正四位下治部卿犬上王一首。

五言。遊覽山水一首。

蹔以三餘暇。遊息瑤池濱。吹臺哢鶯始。桂庭舞蝶新。沐鳧双廻岸。窺鷺獨銜鱗。雲罍酌烟霞。花藻誦英俊。留連仁智間。縱賞如談倫。雖盡林池樂。未翫此芳春。

正五位上紀朝臣古麻呂二首。年五十九。

七言。望雪一首。

無爲聖德重寸陰。有道神功輕球琳。垂拱端坐惜歲暮。披軒褰簾望遙岑。浮雲靉靆縈巖岫。驚飈蕭瑟響庭林。落雪霏々一嶺白。斜日黯々半山金。柳絮未飛蝶先舞。梅芳猶遲花早臨。夢裡鈞天尙易涌。松下淸風信難斟。

五言。得聲淸驚情四字一首。
明離照昊天。重震啓秋聲。氣爽烟霧發。時泰風雲淸。玄燕翔已皈。寒蟬嘯且驚。忽逢文雅席。還愧七步情。

大學博士從五位下美努連淨麻呂一首。

五言。春日應詔一首。
玉燭凝紫宮。淑氣潤芳春。曲浦戲嬌鴛。瑤池躍潛鮮。階前桃花映。塘上柳條新。輕烟松心入。囀鳥葉裡陳。絲竹遏廣樂。率舞洽往塵。此時誰不樂。普天蒙厚仁。

判事紀末茂一首。年卅一(二イ)

五言。臨水觀魚一首。
結宇南林側。垂釣北池潯。人來戲鳥沒。船渡綠萍沈。苔搖識魚有。緡盡覺潭深。空嗟芳餌下。獨見有貪心。

釋弁正二首。

弁正法師者。俗姓秦氏。性滑稽。善談論。少年出家。頗洪玄學。大寶年中。遣學唐國。時遇李隆基龍潛之日。以善圍棊屢見賞遇。有子朝慶朝元。法師及慶在唐死。元歸本朝。仕至大夫。天平年中。拜入唐判官。到大唐見天子。天子以其父故特優詔。厚賞賜。還至本朝尋卒。

五言。與朝主人。
鐘鼓沸城闉。戎蕃預國親。神明今漢主。柔遠靜胡塵。琴歌馬上怨。楊柳曲中春。唯有關山月。偏迎北塞人。

五言。在唐憶本鄉一絕。
日邊瞻日本。雲裡望雲端。遠遊勞遠國。長恨苦長安。

正五位下大學頭調忌寸老人一首。

五言。三月三日應詔一首。
玄覽動春節。宸駕出離宮。勝境既寂絕。雅趣亦無窮。折花梅苑側。酌醴碧瀾中。神仙非存意。廣濟是攸同。鼓腹太平日。共詠太平風。

贈正一位太政大臣藤原朝臣史五首。年六十三。

五言。元日應詔一首。

正朝觀万國。元日臨兆民。有政敷玄造。撫機御紫宸。年花已非故。淑氣亦惟新。鮮雲秀五彩。麗景耀三春。濟々周行士。穆々我朝人。感德遊天澤。飲和惟聖塵。

五言。春日侍宴應詔一首。

淑氣光天下。薫風扇海濱。春日歡春鳥。蘭生〔坐歟〕折蘭人。鹽梅道尚故。文酒事猶新。隱逸去幽藪。沒賢陪紫宸。

五言。遊吉野二首。

飛文山水地。命爵薛蘿中。漆姫控鶴擧。柘〔洛イ柘イ〕媛接莫〔落い〕通。煙光巖上翠。日影浪前紅。翻知玄圃近。對翫入松風。

夏身夏色古。秌津秋氣新。昔者同汾〔皇イ紛イ〕后。今之見吉賓。靈仙駕鶴去。星客乘査逡。渚性拉〔臨イ〕流水。素心開靜仁。

五言。七夕一首。

雲衣兩觀夕。月鏡一逢秋。機下非曾故。援息是威歔。鳳盖隨風轉。鵲影逐波浮。面前開短樂。別後悲長愁。

正五〔六い〕位下左大史荊助仁一首。年卅七。

五言。詠美人一首。

巫山行雨下。洛浦廻雪霏。月泛眉間魄。雲開髻上暉。腰逐楚王細。體隨漢帝飛。誰知交甫珮。留客令忘歸。

大學博士從五下刀利康嗣一首。年八十一。

五言。侍宴一首。

嘉辰光華節。淑氣風〔日い〕自春。金堤拂弱柳。玉沼泛輕鱗。爰降豐宮宴。廣垂栢梁仁。八音寥亮奏。百味馨香陳。日落松影開。風和花氣新。俯仰一人德。唯壽万歲眞。

皇太子學士從五位下伊與部馬養一首。年卌五。

五言。從レ駕應レ詔一首。

帝堯叶二仁智一。仙蹕玩二山川一。疊嶺杳不レ極。驚波斷復連。雨晴雲卷レ羅。霧盡峯舒レ蓮。舞レ庭落二夏槿一。歌レ林驚二秋蟬一。仙槎泛二榮光一。風笙帶二祥烟一。豈獨瑤池上。方唱白雲天。

從四位下播磨守大石王一首。年五十七。

五言。侍レ宴應レ詔一首。

淑氣浮二高閣一。梅花灼二景春一。叡睠留二金堤一。神澤施二羣臣一。琴瑟設二仙御一。文酒啓二水濱一。叨奉二無限壽一。俱頌二皇恩均一。

大學博士田邊史百枝一首。

五言。春苑應レ詔一首。

聖情敦二汎愛一。神功亦難レ垠〔陳い〕。唐鳳翔二臺下一。周魚躍二水濱一。松風韻添レ詠。梅花薫帶レ身。琴酒開二芳苑一。丹墨點二英人一。適遇二上林會一。忝壽二万年春一。

從四位下兵部卿大神朝臣安麻呂一首。年五十二。

五言。山齋言レ志一首。

欲レ知二閑居趣一。來尋二山水幽一。浮沈烟雲外。攀翫野花秌。稻葉負レ霜落。蟬聲逐レ吹流。祇爲二仁智賞一。何論二朝市遊一。

從三位左大弁石川朝臣石足一首。年六十三。

五言。春苑應レ詔一首。

聖衿愛二良節一。仁趣動二芳春一。素庭滿二英才一。紫閣引二雅文一。水清瑤池深。花開禁苑新。戲鳥隨レ波散。仙〔言い〕舟逐レ石廻。舞袖留二翔鶴一。歌聲落二梁塵一。今日足レ忘レ德。勿忘唐帝民。

從四位下刑部卿山前王一首。

五言。侍レ宴一首。

至德洽二乾坤一。淸化朗二嘉辰一。四海既無爲。九域正淸淳。元首壽二千歲一。股肱頌二三春一。優々沐レ恩者。誰不レ仰二芳塵一。

正五位上近江守釆女朝臣比良夫一首。年五十。

五言。春日侍レ宴應　レ詔一首。

論レ道與レ唐儕。語レ德共レ虞隣。冠二周埋レ尸愛一。賀二殷解レ網仁一。淑景蒼天麗。嘉氣碧空陳。葉緑園柳月。花紅山櫻春。雲間頌二皇澤一。日下沐二芳塵一。宜下獻二南山壽一。千秋衞中北辰上。

正四位下兵部卿安倍朝臣首名一首。年六十四。

五言。春日應　レ詔一首。

世頌二隆平德一。時謠二交泰春一。舞衣搖二樹影一。歌扇動二梁塵一。湛露重二仁智一。流霞輕二松筠一。凝麾賞無レ倦。花將レ月共新。

從二位大納言大伴宿禰旅人一首。年六十七。

五言。初春侍レ宴一首。

寛レ政情既遠。迪レ古道惟新。穆々四門客。濟々三德人。梅雪亂二殘岸一。烟霞接二早春一。共遊聖主澤。同賀擊壤仁。

從四位下左中弁兼神祇伯中臣朝臣人足二首。年五十。

五言。遊二吉野宮一二首。

惟山且惟水。能智亦能仁。万代無二埃坌一。一朝逢二招民一。風波轉入レ曲。魚鳥共成レ倫。此地即方丈。誰説桃源賓。

仁山狎二鳳閣一。智水啓二龍樓一。花鳥堪二沈翫一。何人不二淹留一。

大伴王二首。

五言。從二駕吉野宮一應　レ詔二首。

欲レ尋二張騫跡一。幸逐二河源風一。朝雲指二南北一。夕霧正西東。嶺峻絲響急。谿曠竹鳴融。將レ歌二造化趣一。握二素愧一不工。

山幽仁趣遠。川淨智懷深。欲レ訪二神仙迹一。追從吉野潯。

正五位下肥後守道公首名一首。年五十六。

五言。秋宴一首。

望レ苑商氣艶。鳳池秌水淸。晩鷰吟レ風還。新鴈拂レ露驚。昔聞濠梁論。今辨遊魚情。芳筵此僚友。追

節結雅聲。

從四位上治部卿境部王二首。年廿五。

五言。宴長王宅一首。

新年寒氣盡。上月濟光輕。送雪梅花笑。含霞竹葉清。歌是飛塵曲。絃卽激流聲。欲知今日賞。咸有不飯情。

五言。秋夜山池一首。

對峯傾菊酒。臨水拍桐琴。忘飯待明月。何憂夜漏深。

大學頭從五位下山田史三方四首。

五言。秋日於長王宅宴新羅客一首。幷序。

君王以敬愛之冲衿。廣闢琴罇之賞。使人承敦厚之榮命。欣戴鳳鸞之儀。於是琳瑯滿目。蘿薜充筵。玉俎雕華。列星光於烟幕。珍羞錯味。分綺色於霞帷。羽爵騰飛。混賓主於浮蟻。淸談振發。忘貴賤於窓雞。歌臺落塵。郢曲與巴音雜響。咲林開靨。珠暉共霞影相依。于時露凝旻序。風轉商郊。寒蟬唱而柳葉飄。霜雁度而蘆花落。小山丹桂。流彩別愁之篇。長坂紫蘭。散馥同心之翼。日云暮矣。月將繼焉。醉我以五十之文。旣舞蹈於飽德之地。博我以三百之什。且狂簡於叙志之場。淸寫西園遊。兼陳南浦之送。含毫振藻。式贊高風云々。

白露懸珠日。黃葉散風朝。對揖三朝使。言盡九秋韶。牙水含調激。虞葵落扇飄。已謝靈臺下。徒欲報瓊瑤。

五言。七夕一首。

金漢星楡冷。銀河月桂秋。靈姿理雲鬢。仙駕度潢流。窈窕鳴衣玉。玲瓏映彩舟。所悲明日夜。誰慰別離憂。

五言。三月三日曲水宴一首。

錦巖飛瀑激。春岫曄桃開。不憚流水急。唯恨盞遲來。

從五位下息長眞人臣足一首。年卅四。

五言。春日侍宴。

物候開韶景。淑氣滿地新。聖衿屬暄節。置酒引搢紳。帝德被千古。皇恩洽万民。多幸憶廣宴。還悅湛露仁。

從五位下出雲介吉智首一首。年六十八

五言。七夕一首。

冉々逝不留。時節忽驚秋。菊風披夕霧。桂月照蘭洲。仙車渡鵲橋。神駕越清流。天庭陳相嘉。華閣釋離愁。河橫天欲曙。更歎後期悠。

主税頭從五位下黃文連備一首。年五十六

五言。春日侍宴一首。

玉殿風光暮。金墀春色深。雕雲遏歌響。流水散鳴琴。燭花粉壁外。星燦翠烟心。欣逢則聖日。束帶仰韶音。

從五位下刑部少輔兼大學博士越智直廣江一絕。

五言。述懷。

文藻我所難。莊老我所好。行年已過半。今更爲何勞。

從五位下常陸介春日藏老一絕。年五十二。

五言。述懷。

花色花枝染。鶯吟鶯谷新。臨水開良宴。泛爵賞芳春。

從五位下大學助背奈王行文二首。年六十二。

五言。秋日於長王宅宴新羅客一首。賦得風字。

嘉賓韵少雅。設席嘉大同。鑒流開筆海。攀桂登談叢。盃酒皆有月。歌聲共逐風。何事專對士。幸用李陵弓。

五言。上巳禊飮應詔。

皇慈被万國。帝道沾群生。竹葉禊庭滿。桃花曲浦輕。雲浮天裏麗。樹茂苑中榮。自顧試庸短。何能繼叡情。

皇太子學士正六位上調忌寸古麻呂一首。

五言。初秋於長王宅宴新羅客。

一面金蘭席。三秋風月時。琴樽叶二幽賞一。文華叙二離思一。人含二大王德一。地若二小山基一。江海波潮靜。披レ霧豈難レ期。

正六位上刀利宣令二首。年五十九〔或七ろ〕

五言。秋日於二長王宅一宴二新羅客一一首。賦得二稀字一。

玉燭調二秋序一。金風扇二月幃一。新知未二幾日一。送レ別何依々。山際愁雲斷。人前樂緒稀。相顧鳴鹿爵。相送使人歸。

五言。賀二五八年一。

縱賞靑春日。相期白髮年。淸生百万聖。岳士〔土い〕半千賢。〔下い〕卜レ宴當時宅。披レ雲廣樂天。玆時盡淸素。何用二子雲玄一。

大學助敎從五位下下毛野朝臣虫麿一首 年卅六。

五言。秋日於二長王宅一宴二新羅客一一首。并序。賦得二前字一。

夫秋風已發。張步兵所二以思一レ皈。秋氣可レ悲。宋大夫於レ焉傷レ志。然則歲光時物。好事者賞而可レ憐。勝地良遊。相遇者懷而忘レ返。況乎皇明撫レ運。時屬二無爲一。文軌通而華夷翕二欣戴〔戴い〕之心一。禮樂備而朝野得二歡娛之致一。長王以二五日休暇一。披二鳳閣一而命二芳筵一。使人以二千里羇遊一。俯二雁池一而沐二恩眄一。於レ是彫俎煥而繁陳。羅薦紛而交映。芝蘭四座。去二三尺一而引二君子之風一。祖餞百壺。敷二一寸一而酌二賢人之酎一。琴書左右。言笑縱橫。物我兩忘。自拔二宇宙之表一。枯榮双遺〔遺歟〕。何必竹林之間。此日也溽暑方間。長皐向レ晚。寒雲千嶺〔淳い〕。涼風四域。白露下而南亭肅。蒼烟生以北林藹。草也樹也。搖落之興緖難レ窮。觴兮詠兮。登臨之送歸易レ遠。加以物色相召。煙霞有二奔レ命之場一。山水助レ仁。風月無二息レ肩之地一。請染レ翰操レ紙。卽レ事形レ言。飛二西傷〔北い〕之華篇一。繼二此梁之芳韵一。人操二一字一。

聖〔田い〕時逢二七百一。祚運啓二一千一。況乃梯レ山客。垂毛亦比レ肩。寒蟬鳴二葉後一。朔雁度二雲前一。獨有二飛鸞曲一。

並入二別離絃一。

從五位下備前守田中朝臣淨足一首。

五言。晩秋於二長王宅一宴一首。

苒々秋云暮。飄々葉已涼。西園開二曲席一。東閣引二珪璋一。水庭遊鱗戯。巖前菊氣芳。君候〔侯〕愛レ客日。霞色泛二鸞觴一。

左大臣正二位長屋王三首。年五十四。

五言。元日宴應レ詔。

年光泛二仙御〔籞イ〕一。月色照二上春一。玄圃梅已故〔放い〕。紫庭桃欲レ新。柳絲入二歌曲一。蘭香染二舞巾一。於焉三元節。共悅望雲仁。

五言。於二寶宅一宴二新羅客一一首。賦得二烟字一。

高旻開二遠照一。遙嶺靄二浮煙一。有レ愛二金蘭賞一。無レ疲二風月筵一。桂山餘景下。菊浦落霞鮮。莫レ調滄波隔。長爲二壯思篇〔延い〕一。

五言。初春於二作寶樓一置酒。

景麗金谷室。年開積草春。松烟双吐レ翠。櫻柳分含レ新。嶽高闇雲路。魚驚亂藻濱。激泉移二舞袖一。流聲韵二松筠一。

從三位 中納言兼催造長宮 安倍朝臣廣庭二首。年七十四。

五言。春月侍レ宴。

聖衿感二淑氣一。高會啓二芳春一。罇〔樽い〕五齊濁盈。樂万國風陳。花舒桃苑香。草秀蘭筵新。堤上飄二絲柳一。波中浮二錦鱗一。濫〔吹い〕叨陪二恩席一。含レ毫愧二才貧一。

五言。秋日於二長王宅一宴二新羅客一。賦得二流字一。

山牖臨二幽谷一。松林對二晩流一。宴庭招二遠使一。離席開二文遊一。蟬息涼風暮。雁飛明月秋。傾二斯浮菊酒一。願慰二轉蓬憂一。

大宰大貳正四位下紀朝臣男人三首。年五十七。

七言。遊二吉野川一。

万丈崇巖削成レ秀。千尋素濤逆折〔析い〕レ流。欲レ訪二鍾池越潭跡一。留二連美稻一逢二槎洲一。美稻一作二茅渟一。

五言。扈二從吉野宮一。

鳳盖停南岳。追尋智與仁。嘯谷將孫語。攀藤共許親。峯巖夏景變。泉石秋光新。此地仙靈宅。何須姑射倫。

五言。七夕。

犢鼻標竿日。隆腹曬書秌。風亭悅仙會。針閣賞神遊。月斜孫岳嶺。波激子池流。懽〔歡い〕情未充半。天漢曉光浮。

正六位上但馬守百濟公和麻呂三首。年五十六。

五言。初春於左僕射長王宅讌。

帝里浮春色。上林開景華。芳梅含雪散。嫩柳帶風斜。庭燠將滋草。林寒未笑花。鶉衣追野坐。鶴蓋入山家。芳舍塵思寂。拙惕〔場い〕風響譁。琴罇與未已。誰載習池車。

五言。七夕。

仙期星織室。神駕逐河邊。咲臉飛花映。愁心燭處煎。昔惜河難越。今傷漢易旋。誰能玉機上。留怨待明年。

五言。秋日於長王宅宴新羅客。賦得時字。

勝地山園宅。秋天風月時。置酒開桂賞。倒屣逐蘭期。人是雞林客。曲卽鳳〔樓歟〕樓詞。青海千里外。白雲一相思。

正五位上大學博士守部連大隅一首。年七十三。

五言。侍宴。

聖衿愛韶景。山水翫芳春。椒〔樹い〕花帶風散。柏葉含月新。冬花消雪嶺。寒鏡泮氷津。幸陪濫吹席。還笑擊壤民。

正五位下圖書頭吉田連宜二首。年七十。

五言。秋日於長王宅宴新羅客。賦得秋字。

西使言皈日。南登餞送秋。人隨蜀星遠。驂帶斷雲浮。一去殊鄉國。万里絕風牛。未盡新知趣。還作飛乖愁。

五言。從駕吉野宮。

神居深亦靜。勝地寂復幽。雲卷三舟谿〔谷い〕。霞開八石洲。葉黃初送夏。桂白早迎秋。今日夢淵々。

遺響千年流。

外從五位下大學頭箭集宿禰虫麻呂二首。

五言。侍讌。

聖豫開芳序。皇恩施品生。流霞酒處泛。薰吹曲中輕。紫殿連珠絡。丹墀蓂草榮。即此乘槎客。俱欣天上情。

五言。春於左僕射長王宅宴。

靈臺披廣宴。寶齊歡琴書。趙發靑鸞舞。夏踊赤鱗魚。柳條未吐綠。梅蘂已芳蹉。即是忘歸地。芳辰賞叵舒。

從五位下陰陽頭兼皇后宮亮大津連首二首。年六十六。

五言。和藤原太政遊吉野川之作。仍用前韻。

地是幽居宅。山惟帝者仁。潺湲浸石浪。雜沓應琴鱗。靈懷對林野。陶性在風煙。欲知歡宴曲。滿酌自忘塵。

五言。春日於左僕射長王宅宴。

日華臨水動。風景麗春墀。庭梅已含笑。門柳未成眉。琴罇宜此處。賓客有相追。飽德良爲醉。傳盞莫遲々。

贈正一位左大臣藤原朝臣總前三首。年五十七。

五言。七夕。

帝里初涼至。神衿翫千秋。瓊筵振雅藻。金閣啓良遊。鳳駕飛雲路。龍車越漢流。欲知神仙會。青鳥入瓊樓。

五言。秋日於長王宅宴新羅客。賦得難字。

職貢梯航使。從此及三韓。岐路分衿易。琴罇促膝難。山中猿吟斷。葉裏蟬音寒。贈別無言語。愁情幾万端。

五言。侍宴一首。

聖敎越千禮。英聲滿九垠。無爲息無事。垂拱勿勞塵。斜暉照蘭麗。和風扇物新。花樹開一嶺。絲柳飄三春。錯繆殷湯網。繽紛周地蘋。皷枻遊南浦。肆筵樂東濱。

正三位式部卿藤原朝臣宇合六首。年卌四。

五言。暮春曲宴南池。并序。

夫王畿千里之間。誰得勝地。〔池い〕帝京三春之內。幾知行樂。則有沈鏡小池。勢無劣於金谷。染翰良友。數不過於竹林。爲弟爲兄。醉花醉月。包心中之四海。盡善盡美。對曲裏之長流。是日也人乘芳夜。時屬暮春。映浦紅桃。半落輕錦。低岸翠柳。初拂長絲。於是林亭問我之客去來花邊。池臺慰我之主賓イ左右琴罇。月下芬芳。歷歌處而催扇。風前意氣。步舞場而開衿。雖歡娛未盡。而能叓紀筆。盍各言志。探字成篇云爾。

得地乘芳月。臨池送落暉。琴罇何日斷。醉裏不忘歸。

七言。在常陸贈倭判官留在京一首。并序。

僕與明公忘言歲久。義存伐木。道叶採葵。待君千里之駕。于今三年。懸我一箇之榻。於此九秋。如何授官同日。乍別殊鄕。以爲判官。公潔等氷壺。明逾水鏡。學隆万卷。智載五車。留驥足於將展。預琢玉條。廻鳧舃之擬飛。忝簡金科。何異宣尼返魯刪定詩書。叔孫入漢制設禮儀。聞夫天子下詔。包列置師。咸審才周。〔い〕玆擇三能之逸士。使各得其所。明公獨自遺闕此舉。理合先進。還是後夫。譬如吳馬瘦鹽人尙無識。楚臣泣玉世獨不悟。然而歲寒後驗松竹之貞。風生廼解芝蘭之馥。非鄭子產幾失然明。非齊桓公何舉寗戚。知人之難匪今日耳。遇時之罕自昔然矣。大器之晚。終作寶質。如有我一得之言。庶幾慰君三思之意。今贈一篇之詩。輙示寸心之歎。其詞曰。

自我弱冠從王事。風塵歲月不曾休。友イ褰帷獨坐邊亭夕。懸榻長悲搖落秋。琴瑟之交遠相阻。〔別い〕芝蘭之契接無由。無由何見李將鄭。有列何逢

〔遊〕道與欲馳心悵望白雲天。寄語徘徊明月前。日下皇都君抱玉。雲端邊國我調絃。淸絃入化經三歲。美玉韜光幾度年。知己難逢匪今耳。忘言罕遇從來然。爲期不怕風霜觸。猶似巖心松栢堅。

七言。秋日於左僕射長王宅宴。

帝里烟雲乘季月。王家山水送秋光。霑蘭白露未催臭。泛菊丹霞自有芳。石壁蘿衣猶自短。山扉松蓋埋然長。遨遊已得攀龍鳳。大隱何用覓仙場。

五言。悲不遇。

賢者悽年暮。明君冀日新。周占載逸老。殷夢得伊人。搏擧非同翼。相忘不異鱗。南冠勞楚奏。北節倦胡塵。學類東方朔。年餘朱買臣。二毛雖已富。万卷徒然貧。

五言。遊吉野川。

芝蕙蘭蓀澤。松栢桂椿岑。野客初披薜。朝隱蹔投簪。忘筌陸機海。飛繳張衡林。淸風入阮嘯。流水韵嵇琴。天高槎路遠。河廻桃源深。山中明月夜。自得幽居心。

五言。奉西海道節度使之作。

往歲東山役。今年西海行。行人一生裏。幾度倦邊兵。

從三位兵部卿兼左右京大夫藤原朝臣万麻里五首。

五言。暮春於第園池置酒。并序。

僕聖代之狂生耳。直以風月爲情。魚鳥爲翫。貪名狗利。未適冲襟。對酒當歌。是諧私願。乘良節之已暮。尋昆弟之芳筵。一曲一盃盡歡情於此地。或吟或詠縱逸氣於高天。千歲之間。嵇康我友。一醉之飲。伯倫吾師。不慮軒冕之榮身。徒知泉石之樂性。於是絃歌迭奏。蘭蕙同欣。宇宙荒芒烟霞蕩而滿目。園池照灼桃李咲而成蹊。既而日落庭淸。罇

傾人醉。陶然不知老之將至也。夫登高能賦。卽是丈夫之才。体物緣情。豈非今日之事。宜裁四韵各述所懷云爾。

城市元無好。林園賞有餘。彈琴仲散地。下筆伯英書。天霽雲衣落。池明桃錦舒。寄言禮法士。知我有麁踈。

五言。過神納言墟。

一旦辭榮去。千年奉諫餘。松竹含春彩。容暉寂舊墟。淸夜琴罇罷。傾門車馬踈。普天皆帝國。歸去遂焉如。

君道誰云易。臣義本自難。奉規終不用。皈去遂辭官。放曠遁嵇竹。沈吟珮楚蘭。天閽若一啓。將得水魚歡。

五言。仲秋釋奠。

運伶時窮蔡。吾衰久歎周。悲哉圖不出。逝矣水難留。玉俎風蘋薦。金罍月桂浮。天縱神化遠。万代仰芳猷。

五言。遊吉野川。

友非干祿友。賓是飡霞賓。縱歌臨水智。長嘯樂山仁。梁前招吟古。峽上簧聲新。琴樽猶未極。明月照河濱。

從三位中納言丹墀眞人廣成三首。

五言。遊吉野山。

山水隨臨賞。巖谿逐望新。朝看度峰翼。夕亂躍潭鱗。放曠多幽趣。超然少俗塵。栖心佳野域。尋問美稻津。

七言。吉野之作。

高嶺嵯峨多奇勢。長河渺漫作廻流。鐘地超潭豈凡類。美稻逢仙同洛洲。

五言。述懷。

少無螢雪志。長無錦綺工。適逢文酒會。終恧不才風。

從五位下鑄錢長官高向朝臣諸足一首。

五言。從駕吉野宮。

在昔釣魚士。方今留鳳公。彈琴與仙戲。投江將神通。拓歌泛寒渚。霞景飄秋風。誰謂姑射嶺。駐蹕望仙宮。

釋道慈二首。

釋道慈者。俗姓額田氏。添下人。少而出家。聰敏好學。英材明悟。爲衆所推。太寶元年。遣學唐國。歷訪明哲。留連講肆。妙通三藏之玄宗。廣談五明之微旨。時唐簡干國中義學高僧一百人。請入宮中。令講仁王般若。法師學業穎秀。預入選中。唐王憐其遠學。特加優賞。遊學西土十有六歲。養老二年歸來本國。帝嘉之。拜僧綱律師。性甚骨鯁。爲時不容。解任皈遊山野。時出京師。造大安寺。時年七十餘。

五言。在唐奉本國皇太子。

三寶持聖德。百靈扶仙壽。壽共日月長。德與天地久。

五言。初春在竹溪山寺於長王宅宴追致辭。并序。

沙門道慈啓。以今月廿四日。濫蒙抽引。追預嘉會。奉旨驚惶。罔知攸措。但道慈少年落飾。常住釋門。至於屬詞談吐。元來未達。況乎道慈。機儀俗情全有異。香盞酒盃又不同。此庸才赴彼高會。理乖於事。事迫於心。若夫魚麻易處。方圓改質。恐其失養性之宜。乖任物之用。撫躬之驚惕。不遑啓處。謹裁以韻。以辭高席。謹至以左。羞穢耳目。

素緇杳然別。金漆諒難同。衲衣蔽寒体。綴鉢足飢嚨。結蘿爲垂幕。枕石臥巖中。抽身離俗累。滌心守眞空。策杖登峻嶺。披襟稟和風。桃花雪冷々。竹溪山沖々。驚春柳雖變。餘寒在單躬。僧既方外士。何煩入宴宮。

外從五位下石見守麻田連陽春一首。年五十六。

五言。和藤江守詠裨叡山先考之舊禪處

柳樹之作。

近江惟帝里。裨叡寔神山。山靜俗塵寂。谷閑眞理專〔等い〕。於穆我先考。獨悟闡芳縁。寶殿臨空構。梵鐘入風傳。煙雲万古色。松栢九冬專。日月荏苒去。慈範獨依々。寂寞精禪處。俄爲積草墀。古樹三秋落。寒草九月衰。唯餘兩楊樹。孝鳥朝夕悲。

外從五位下大學頭鹽屋連古麻呂一首。

五言。春日於左僕射長屋王宅宴。

卜居傍城闕。乘興引朝冠。繁絃辨山水。妙舞舒齊紈。柳條風未煖。梅花雪猶寒。故情良得所。願言如金蘭。

從五位下上總守伊與連古麻呂一首。

五言。賀五八年宴。

万秋長貴戚。五八表遐年。眞率無前役〔後い〕。鳴求一愚賢。令節調黃地。寒風變碧天。已應螽斯徵。何須顧太玄。

隱士民黑人二首。

五言。幽棲。

試出囂塵處。追尋仙桂叢。巖谿無俗事。山路有樵童。泉石行々異。風煙處々同。欲知山人樂。松下有清風。

五言。獨坐山中。

煙霧辭塵俗。山川扗〔壯ろ〕處居。此時能草〔莫ろ〕賦。風月自輕余。

釋道融五首。

釋道融者。俗姓波多氏。少遊槐市。博學多才。特善屬文。性殊端直。昔丁母憂。寄住山寺。偶見法華經。慨然歎曰。我久貧苦。未見寶珠之在衣中。周孔糟粕。安足以留意。遂脫俗累。落餝出家。精進苦行。留心戒律。時有宣律師六帖抄〔巻イ〕。辭義隱密。當時徒絶無披覽。法師周觀未踰浹辰。敷講莫不洞達。世讀此書。從融始也。時皇后嘉之。施絲帛三百匹。

法師曰。我爲菩提修法耳。因茲望報。市井之事耳。遂策杖而遁。自此以下可有五首詩等歟今闕焉。

我所思兮在無漏。欲往從兮貪瞋難。路險易子在由己。壯士去兮不復還。

山中。

山中今何在。倦禽日暮還。草廬風濕裏。桂月水石間。殘果宜遇老。衲衣且免寒。茲地無伴侶。携杖上峯巒。

從三位中納言兼中務卿石上朝臣乙麻呂四首。

石上中納言者。左大臣第三子也。地望淸華。人才頴秀。雍容閑雅。甚善風儀。雖勗志典墳。亦頗愛篇翰。嘗有朝譴。飄寓南荒。臨淵吟澤。寫心文藻。遂有銜悲藻兩卷。今傳於世。天平年中。詔簡入唐使。元來此擧難得其人。時選朝堂。無出公右。遂拜大使。衆僉悅服。爲時所推。皆此類也。然遂不往。其後授從三位中納言。自登台位。風采日新。芳猷雖遠。遺列蕩然。時年。

五言。飄寓南荒贈在京故友一首。

遼夐遊千里。徘徊惜寸心。風前蘭送馥。月後桂舒陰。斜雁凌雲響。輕蟬抱樹吟。相思知別慟。徒弄白雲琴。

五言。贈掾公之遷任入京一首。

余含南裔怨。君咏北征詩。詩興哀秌節。傷哉槐樹衰。彈琴顧落景。步月誰逢稀。相望天垂別。分後草長違。

五言。贈舊識一首。

万里風塵別。三冬蘭蕙衰。霜花逾入鬢。寒氣益嚬眉。夕鴬迷霧裏。曉雁苦雲垂。開衿期不識。呑恨獨傷悲。

五言。秌夜閨情一首。

他鄉頻夜夢。談與麗人同。寢裏歡如實。驚前恨泣寒。空思向桂影。獨坐聽秌風。山川嶮易路。

展轉憶㆓閨中㆒。

正五位下中宮少輔葛井連廣成二首。

五言。奉㆑和㆓藤太政佳野之作㆒一首。仍用㆓前韵四字㆒。

物外囂塵遠。山中幽隱親。笛浦棲㆓丹鳳㆒琴淵躍㆓錦鱗㆒月後楓聟〔晉歟〕落。風前松響陳。開㆑仁對㆓山路㆒。獵㆑智賞㆓河津㆒。

五言。月夜坐㆓河濱㆒一絕。

雲飛低㆓玉柯㆒月上動㆓金波㆒落照曹王苑。流光織女河。

亡名氏。

五言。歎㆑老。

耋紛雙鬢霜。伶俜須㆓自怜㆒。春日不㆑須㆑消。笑拈㆓梅花㆒坐。戲嬉似㆓少年㆒。山水元無㆑主。死生亦有㆑天。心爲㆓錦綢美㆒。自要㆓布裘纒㆒。城隍雖㆓阻絕㆒寒月照㆓無邊㆒。

長久二年冬十一月二十八日。灯下書㆑之。

古人三餘。今已得㆑二者也。

懷風藻

文章生惟宗孝言

此書蓮華王院寶藏之本也。久埋㆓塵埃㆒人不㆑知㆑之。康永元年之比撰㆓出之㆒。上古之風味。尤有㆑興。仍今書㆓寫之㆒。

右以奈佐勝皐屋代弘賢藏本挍合了

〔更以印本挍語用い及伴直方挍本朱書挍語用ろ一挍了〕

文筆部二

凌雲集序

從五位上左馬頭兼內藏頭美濃守臣小野
朝臣岑守上

臣岑守言。魏文帝有曰。文章者經國之大業。不朽之盛事。年壽有時而盡。榮樂止乎其身。信哉。伏惟　皇帝階下。握裒紫極。御辨丹霄。春臺展熙。秋荼翦繁。睿知天縱。艷藻神授。猶且學以助聖。問而增裕也。屬世機之靜謐。託琴書而終日。歎光陰之易暮。惜斯文之將墜。爰詔臣等。撰集近代以來篇什。臣以不才。忝承絲綸命。汗代大匠。傷手爲期。臣今所集。掩其瑕疵。擧其警奇。以表一篇盡善之未易。得道不居上。失時不降下。無言存亡。一依爵次。至若御製令製。名高象外。韵絶環中。豈臣等能所議乎。而殊被　詔旨。敢以採擇。氷夷讃洋詠井之見。不及大陽昇景化草之明。斯迷博我以文。欲罷不能。辱因編載。卷軸生光。猶川含珠而水淸。淵流玉而岸潤。起自延暦元年。終于弘仁五年。作者二十三人。詩惣九十首。合爲一卷。名曰凌雲新集。臣之此撰。非臣獨斷。與從五位上行式部少輔菅原朝臣淸公。大學助外從五位下勇山連文繼等。再三議。猶有不盡。必經天鑒。從四位下行播磨守臣賀陽朝臣豐年。當代大才也。迫緣病不朝。臣就問簡呈。更無異

論。從レ此定焉。臣岑守謹言。

凌雲集目錄

太上天皇　御製二首

詠二桃花一　賦二櫻花一

御製廿二首

落花篇

重陽節神泉苑錫二宴群臣一

九月九日於二神泉苑一宴二群臣一

夏日皇太子南池　秋日皇太弟池亭

秋日入二深山一　夏日藤冬嗣閑居院

河陽驛（春イ）經宿有レ懷二京邑一

江亭曉興　春日宿二江頭亭子一

和二冬嗣河陽作一

和二藤緒嗣過二交野離宮一

和下朝臣嘉通聽二早雁一作上

和二菅原清公途中聞一レ笙。

和二菅清公賦二早雪一

和二進士貞主初春過二菅祭酒舊宅一

聽レ誦二法華經一

野美聞レ使二邊城一賜二帽裘一

餞二朝嘉通慰二問關東一　贈レ錦（綿本文）寄二空法師一

贈二賓和尚一

皇太弟五首

九月九日侍二讌神泉苑一

秋晚侍二內殿宴一　奉レ和レ宿二江頭亭子一

奉レ和二江亭晚興一

駕幸二南池一後日簡二大將軍一

參議左近衞大將從三位兼行春宮大夫美作守

藤原朝臣冬嗣三首

神泉苑雨中眺矚　和二菅祭酒聞一レ笙

奉レ和レ宿二舊宮一。

從三位行常陸守菅野朝臣眞道一首

晚夏禮泉苑勒二四字一

凌雲集

太上天皇　御製二首。

詠桃花一首。

春花百種何爲艶。灼々桃花最可憐。氣則嚴兮應制冠。味惟甘矣可求仙。一香同發薫朝吹。千笑共開映暮煙。願以成蹊枝葉下。終天長樹玉階邊。

賦櫻花。

昔在幽岩下。光華照四方。忽逢攀折客。含笑宜三陽。送氣時多少。乘陰復短長。如何此一

物。擅二美九春場一。
御製廿二首。
　神泉苑花宴賦二落花一篇。
過半青春何所レ催。和風數重百花開。芳菲歇盡無レ由レ駐。爰唱二文雄一賞宴來。見取花光林表出。造化寧假丹青筆。紅英落處鶯亂鳴。紫蕚散時蝶群驚。借問濃香何獨飛。飛來滿レ坐堪レ襲レ衣。春園遙望佳人在。亂雜繁花相映輝。點珠顏綴點鬟吹。人懷中。嬌態閑。朝攀レ花。暮折レ花。攀レ花力盡衣帶賒。未レ厭二芬芳一徒徙倚。流二連林表一晚光斜。妖姬一翫已爲レ樂。不レ畏春風惣吹落。對二此年美(素イ)レ絶何憐。一時風景豈空捐。
　重陽節神泉苑賜二宴群臣一勒二空通風同一。
登臨初九日。霽色敞二秋空一。樹聽寒蟬斷。雲征遠雁通。晚藥猶含レ露。衰枝不レ裊レ風。延祥盈レ把菊。高宴古今同。
　九月九日於二神泉苑一宴二群臣一各賦二一物一得二秋菊一。
旻商季序重陽節。菊爲レ開レ花宴二千官一。蘂耐二朝風一今日笑。榮霑二夕露一此時寒。把盈二玉手一流レ香遠。摘入二金杯一辨レ色難。聞道仙人好所レ服。對レ之延レ壽動レ心看。
　重陽節神泉苑同賦二三秋大有レ年。題中取レ韻。大韻成レ篇。
旻氣何寥郭。登レ高望悠々。大田穫二豐稔一。從レ此歲工休。芳萸筵上薦。時菊盞中浮。林洞逢二搖落一。池淸爲レ潦収。蟋蟀藏レ聲曉。蒹葭變レ色洲。重陽常宜レ宴。況復有レ年秋。
　夏日皇太弟南池。
納涼儲貳南池裏。盡洗二煩襟一碧水灣。岸影見知楊柳處。潭香聞得芰荷間。風來前浦収レ煙遠。鳥散後林欲レ暮閑。天下共言貞二萬國一。何勞二羽翼一訪二商山一。
　秋日皇太弟池亭賦二天字一。五言。

玄圃秋云肅。池亭望ニ爽天一。遠聲驚ニ旅雁一。寒引聽ニ林蟬。岸柳惟初□。潭荷葉欲レ穿。肅然幽興處。院裡滿ニ茶煙一。

秋日入ニ深山一。

歷覽那逢節序悲。深山忽感宋生詞。半天極嶂煙氣入。暗地幽溪日影遲。聽裏淸猿啼ニ古木一。望前寒雁雜ニ涼颸一。炎氛盛夏風猶冷。況□高秋落照時。

夏日左大將軍藤冬嗣閑居院。

避暑時來閒院裏。池亭一把釣魚竿。廻塘柳翠夕陽暗。曲岸松聲炎節寒。吟レ詩不レ厭レ搗ニ香茗一。乘レ興偏宜レ聽ニ雅彈一。暫對ニ淸泉一滌ニ煩慮一。況乎寂寞日成レ歡。

河陽驛經宿有レ懷ニ京邑一。

河陽亭子經ニ數宿一。月夜松風惱ニ旅人一。雖レ聽ニ山猿助レ客叫一。唯能不レ憶ニ帝京春一。

江亭曉興。

今宵旅宿江村驛。漁浦漁歌響ニ夜亭一。水氣眠〔眼イ〕中來濕レ枕。松聲覺後暗催レ聽。天邊曉月看如レ鏡。戶外朝山望似レ屛。記得煙霞春興足。況乎河畔草靑々。

春日遊獵日暮宿ニ江頭亭子一。

三春出獵重城外。四望江山勢轉雄。逐レ兎馬蹄承ニ落日一。追レ禽鷹翮拂ニ輕風一。征船暮入連レ天水。明日〔月歟〕孤懸欲レ曉空。不レ學ニ夏王荒ニ此事一。爲レ思ニ周ト遇ニ非熊一。

和ニ左大將軍藤冬嗣河陽作一。

節序風光全就レ暖。河陽雨氣更生レ寒。千峯積翠籠レ山暗。万里長江入レ海寬。曉猿悲吟誰斷得。朝花巧笑豈堪レ看。非ニ唯物色催ニ春興一。別有ニ泉聲落ニ雲端一。

和下左金吾將軍藤緒嗣過ニ交野離宮一感ニ舊作上。

追ニ想昔時一過ニ舊館一。悽涼淚下忽霑レ襟。廢村已見人煙斷。荒院唯聞鳥雀吟。荊棘不レ知哥舞處。薜

蘿獨向戀情深。看花故事誰能語。空望浮雲轉傷心。

和左衞督朝臣嘉通秋夜寓直周廬聽早雁之作。

涼秋八月驚塞鴻。早報寒聲雜遠空。絕域傳書全漢信。關門表弓守胡戎。凌雲陣影低天末。叫夜遙音振水中。棄女彈琴淸曲響。潘郞作賦興情融。朝搏渤澥事南度。夕宿煙霞耐朔風。感殺周廬寓直者。終宵不寢意無窮。

和菅淸公秋夜途中聞笙。

秋欲彈時聞怪音。吹笙寫得鳳皇吟。鳴贇公(出イ)曲添羌笛。列管催調協雅琴。新聲宛轉遙夜振。妙響聯綿遠風沈。途中暫聽腸應斷。况腹仙郞有興心。

和菅淸公賦早雪。

雲晴朔方早雪降。從天落地本亡聲。班姬秋扇已無色。孫子夜書獨有明。梅柳此時花與絮。樓臺倂是銀將瓊。雖言委積未盈尺。須賀初冬瑞氣呈。

和進士眞生初春過菅祭酒宅悵然傷懷簡布臣藤三秀才作一絕。

書閣閑來冬變春。梅花獨笑向啼人。雖知世上必然理。猶恨門前斷舊賓。

聽誦法華經各賦一品得方便品。題中取韵。

春暮禪心何寂寞。恭々傾耳聽經王。甚深知(智歟)慧極難解。微妙因緣豈易量。續火香爐烟不滅。從風淸梵響猶長。唯歸一乘權立二。引入群生有萬方。

史部侍野美聞使邊城賜帽裘。

歲晚嚴冬寒最切。忠臣爲國向邊城。貂裘暖帽宜羈旅。特贈卿之萬里行。

餞右親衞少將軍朝嘉通奉使慰撫關東。探得臣。

遠使邊城撫殘虜。禁中賜餞送良臣。離庭物候雖初夏。向處風烟未換春。鄕心杳々切歸想。客路悠々稀故人。別後卿能應努力。莫愁千里多苦辛。

贈賓和尙。

賓公遁跡星霜久。萬事無情愛寂然。水月尋常冷空性。風雷未敢動安禪。苦行獨老山中室。盥漱偏宜林下泉。遙想焚香觀念處。寥々日夜着雲烟。

贈綿寄空法師。

聞僧久住雲中嶺。遙想深山春尙寒。松栢斜知甚靜默。烟霞不解幾年飡。禪關近日消息斷。京邑如今花柳寬。菩薩莫嫌此輕贈。爲救施者世間難。

令製五首。

九月九日侍讌神泉苑各賦一物得秋露應製。

蓐收警節秋云老。百卉初腓露已淒。池際凝荷殘葉折。岸頭洗菊早花低。未央闕側承雙掌。長信宮中起隻啼。謬忝恩筵何所賦。晞陽湛々被羣黎。

秋晚侍內殿宴。

季序將除風旣冷。禁垣木葉共含秋。當時聖主賜霑澤。不測鴻恩分外優。舞態近□看處變。歌聲遙入聽中留。微臣荷德良無力。但壽天基獻山丘。

奉和春日遊獵日暮宿江頭亭子應製。

二月平皐春草淺。千乘犯曉出城中。鶉驚遙似星光落。兎盡還疑月影空。合晴征船唯見火。連霄浦樹豈分紅。今朝聖想期何後。不異周王獵渭風。

奉和江亭晚興呈左神榮淸藤將軍。

我后巡方春日晚。廻鑾駐驛次江亭。水流長製天然帶。山勢多奇造化形。岸上松聲眠裏雨。舟

中火色望前星。烟霞欲曙雞潮落。歸雁群鳴起廻汀。

駕幸南池後日餞大將軍。

南池葉暗帷初密。聖主追涼過小臣。此地從來天臨處。林花再得遇陽春。蕪蹊更輾先時跡。舊構還成昔日新。海岳鴻恩何以報。願當粉骨化灰塵。

參議左近衞大將從三位兼行春宮大夫美作守藤原冬嗣三首。

神泉苑雨中眺矚應製一首。探得初字。

雨氣三秋冷。涼風四面初。蘆洲未低雁。芳餌自群魚。岸水飛還落。池荷卷且舒。從天恩盞下。不醉也焉如。

和菅祭酒秋夜途中聞笙之什。

高天日暮多秋感。退食飛纓下玉京。遊子吹笙乘甲夜。一長一短惱人情。風生柳際傳鸞響。月照槐間寫鳳形。完議虞音從此聽。蹌々鳥獸滿皇城。

奉和聖製宿舊宮應製一首。

林泉舊邸久陰々。今日三秋錫再臨。宿殖高松全古節。前栽細菊吐新心。荒涼靈沼龍還駐。寂歷稜岩鳳更尋。不異沛中聞漢筑。謳歌濫續大風音。

從三位行常陸守菅野朝臣眞道一首。

晩夏神泉苑同勒深臨陰心應製一首。

王母仙園近。龍宮寶殿深。追涼天驛幸。縱賞鳳輿臨。竹疎長竿節。松傾小盖陰。醉臣迷聖造。唯有歲寒心。

從五位下行内膳正仲雄二首。

早舟發。

早旦偏舟發。微茫海未晴。浦邊孤樹遠。天際片帆征。釣火收殘焔。榜謌送迴聲。悠々雲水裏。鄉思轉傷情。

謁海上人。韵勒遇樹仕澍句孺務霧芋聚賦趣。

道者良雖㆑衆。勝會不㆑易㆑遇。寢興思㆓馬鳴㆒。俯仰謁㆓龍樹㆒。一得㆑遭㆓吾師㆒。歸貪□寓住。飛流馴㆓道眼㆒。動殖潤㆓慈澍㆒。字母弘㆓三乘㆒。眞言演㆓四句㆒。石泉洗㆑鉢童。鑪炭煎㆑茶孺。眺矚存㆓閑靜㆒。栖遲忌㆓劇務㆒。寶幢拂㆓雲日㆒。香刹干㆓烟霧㆒。瓶口插㆓時花㆒。瓷心盛㆓野芋㆒。磬鳴員梵徹。鐘響老僧聚。流覽竺乾經。觀釋子流賦。受㆓持灌頂法㆒。頓㆓入一如趣㆒。

從四位下行播磨守賀陽朝臣豐年十三首。

三月三日侍㆑宴應㆑詔。

錫㆑宴紫微中。皇歡被㆑物忽。布㆑恩優㆓月令㆒。分㆑思激㆓春風㆒。柳葉依㆑絲綠。櫻花拂㆑舞紅。同茲霑德寓。具醉也融々。

三月三日侍㆑宴應㆑詔三首。

問㆑春開㆓曲水㆒。乘㆑節施㆓陽煦㆒。獻㆑壽千祥溢。含㆑歡萬國附。烟霞處々□。飛鳥番々遇。殊冀高遊日。義和惣轡駐。

紫禁疏㆓佳詔㆒。青陽樂㆓禊風㆒。布帷分㆓柳綠㆒。襲佩挺㆓蘭紅㆒。品彙春芳徧。早高夏預通。自然相率舞。何待㆓后夔工㆒。

禊賞千斯歲。恩榮一伴春。露晞心已肅。雲上慶還申。松竹同宜古。鶯花併狀新。歡餘良景暮。日御借㆓烏輪㆒。

晚夏神泉苑釣臺同勒㆓深臨陰心㆒應㆑製。

神泉苑裡多㆓雄勝㆒。樓觀飛鷲倒水深。玉樹長堆跨㆓帝圃㆒。珠流瀑布寫㆓天臨㆒。千端赫□承㆓春渙㆒。百品差池仰㆓夏陰㆒。今日優遊何所㆑樂。群臣同有㆓釣璜心㆒。

留㆓別故人㆒。

一茲阻面□。百里塊班條。交㆑臂分㆓張切㆒。涉㆑江悲㆓望遙㆒。風途飛藥敢（散歟）。雲路別魂鎖。唯有㆓流㆑天月㆒。相憶寄㆓秋霄㆒。

同㆓元忠㆒初春宴㆓紀千牛池亭㆒之作。

以㆓我龐疎性㆒。閑齋喜㆓遇逢㆒。貞交符㆓水石㆒。深寄契㆓寒松㆒。酒湛情彌暢。琴幽賞自從。還暫久會日。

條已令豈容。

別諸友入唐。

數君爲國器。萬里渉長流。奮翼鵬天眇。軒鬐鯤海悠。登山眉自結。臨水淚何□。但此僊天處。空見白雲浮。

史記竟宴賦得大史公自序傳。

宏材承五百。博贍釵三千。第穴遺文借。梧凝古冊全。屈中天慶起。識大日官傳。張輔稱孤秀。且明耻獨賢。名高良史籍。身毀妬臣年。義魄懸聲價。爰言陵谷遷。

代琴之詞。

託根方據儉。抽幹已臨危。奔溜春秋壞。衡飈歳月吹。侍人誰復說。仙道幸先知。願載重輪轡。高飛九寓垂。

逸人詞。

閑庭幽貞士。休慮潔既攸。明心高翫晩秋。但想榮期三樂趣。還從汗漫九坂遊。

高士吟。

一室何堪掃。九州豈足歩。寄言燕雀徒。寧知鴻鵠路。

傷野將軍。

蝦夷構亂久。擇將屬吾賢。屈指馳三略。揚眉出二權。厥頭勳未展。馬革志方宣。完士何難過。徒悲凶問傳。

左兵衞督從四位下兼行但馬守良岑朝臣安世二首。

九月九日侍宴神泉苑各賦一物得秋蓮應製。

神泉御苑霜氛下。靈沼秋蓮過半黄。露泛穿杯拙生玉。風吹舊眼無復香。波収隱士三秋盖。浦落幽人九月裳。妖艶佳人望已斷。爲因聖主水亭傍。

早秋月夜。

三秋三五夜。夜久夜風涼。虫網露懸白。樹條葉

未レ黃。

正五位下行紀伊守藤原朝臣道雄二首。

詠レ雪。

紛々白雪從二千里一。熒々漉々一何斜。疑是天中梅柳地。雨師風伯獵二玄花一。

春日代レ妓。古詩体。

通夜粧樓獨畫レ眉。春朝擬レ向二歌舞臺一。篋裡鬱金未レ薫レ衣。聖君數度使二人催一。

正五位下林宿禰娑婆二首。

自二山崎一乘レ江赴二讃岐一在二難波江口一述レ懷贈二野二郎一。

泛レ流催二梶棹一。指レ海共朝宗。漁火通レ霄烈。商帆拂レ曙逢。遙山疑レ接レ漢。遠樹似レ生レ江。可レ歎乘レ桴客。營々不レ得レ容。

久在二外國一晚年歸學。知舊零落已無二其人一。聊以述レ懷。簡山請二益菅原五郎一。桃李之報豈無レ壞。

晚年歸二學館一。舊識幾相辭。物是人非日。悲來樂去時。忘筌無二故友一。傾盖有二新期一。欲レ繞二平生事一。居然淚不レ持。

從五位上行大外記兼因幡介上毛野朝臣穎人一首。

春日歸レ田直疏。

千レ祿終無レ驗。歸レ田入二弊門一。庭荒唯壁立。籬失獨花存。空レ手飢方至。低レ頭日已昏。世途如レ此苦。何處遇二春恩一。

內藏頭從五位上兼左馬頭美濃守小野朝臣岑守十三首。

雜言。於二神泉苑一侍レ讌賦二落花篇一應レ製。

三陽二月春云半。雜樹衆花咲且散。鑾駕早來遍歷覽。奇香詭レ色互留レ翫。昔聞一縣榮二河陽一。今見仙源避二秦漢一。此時澹蕩吹二和風一。落蘂因レ之滿二遠空一。梅院不レ掃寸餘紫。桃源委レ積盡所紅。看二花落。落花寂々聽無レ聲。靑黃赤白天然染。南北東

西非有情。遊蝶息尋葉初見。群蜂罷釀草纔生。待花宴花宴。何太合良辰。玉管千調無他曲。金罍百味自能醇。臺上美人奪花綵。欄中花綵如美人。人花兩々共相對。誰得分明僞與眞。借問花節有期否。花開花落億萬春。

夏日神泉苑釣臺應製。

釣臺新結搆。浮柱出從深。水近綸偏盡。軒低竿直臨。岸喧瀑布落。浦暗橘柚陰。自仰中孚化。同欣在落心。

九月九日侍宴神泉苑各賦一物得秋柳應製。

九月高飈吹暮柳。千條縮折無復柔。寒聲寥亮空留笛。衰蔭凄凉不障樓。短晷晩斜星舍冷。邊山盡暗塞途脩。哀生雖謝對霜勒。恩煦之餘未先秋。

秋日皇太弟池亭應製賦園字。

高秋八月氣將肅。叡輿幽尋太弟園。古地猶居帝城裏。抔池體勢絶煩喧。梨庭帶露冷菓落。蘆浦生風水葉飜。憶昔欲論吳季重。南皮之賞不足言。

奉和觀佳人蹋歌御製。

春女春粧言不及。無量無數滿華庭。心嬌膽小羞蹋步。聲裏微々壽千齡。洛津廻雪當韜影。巫嶺朝雲應歛行。河湯舊縣先亡色。金谷新園無復榮。泣眼看々不會厭。徒然奪魂亦損明。還知人間仙路近。重見桃李目前生。

雜言。奉和聖製春女怨。

春女怨。春日長兮怨復長。聞道陽和煦萬物。何偏寒妾一空牀。爲愁心死君不數。緣耻顏銷誰假粧。慈母敎喩逐相泣。伴儔戲慰還共傷。强（獨イ）對鏡臺試拂塵。影中唯見顦顇人。平生容色不曾似。宿昔蛾眉迷自身。春女怨。吁嗟薄命良可憐。庭前隱暎茂靑草。階上班々點碧錢。林暮歸禽入簷嘐。園曛遊蝶抱花眠。幽園獨寢危魂

魘。單枕夢啼粉顏穿。君若欲老腸斷處。高樓明月曉孤懸。

奉和江亭曉興詩應製。

傳舍前長枕江側。滔々流水日夜深。本期旅客千里到。不慮鑾輿九天臨。棹唱全聞邊俗語。漂歌半雜上都音。曉猿莫作斷腸叫。四海爲家帝者心。

奉和春日暮宿江頭亭子御製。

君王獵罷日云暮。江上郵亭駐綵輿。鑽石山流汲御井。□郡客館作重闈。雞潮曉落波瀾急。蜃氣朝涵瀉鹵微。室之草澤今在否。應知天子同載歸。

奉和傷右衛大將軍故宿禰御製。

蠢爾蝦夷不息亂。羽書力斗(刁歟)月夜傳。此時承命鼙凶出。千里戰勝厭捷旋。授武當居貳師右。論勳須初衛青前。豈圖丹壑潜相代。知與不知共潜然。廐馬長吟從戀主。良弓久橐不復弦。柳條還生百中碎。伏石猶留一發穿。馬鬣新封未及燥。鵲泥舊感欲覺先。滋蔓唯泣早朝露。古木空浮薄暮煙。天子哀傷下神筆。悠々功德日月懸。魂貴償君無所昧。應載殊寵照重泉。

賀賜新集兼謝。

貿々庸人識多躓。舉言不顧累相隨。偏恩哀讃神筆麗。謬失樞機昧所宜。愼口三緘知先毀。悔過駟馬性空馳。俯焦寒戰未喩極。履薄春氷遂謝危。誰謂鴻私典肆々(肆々イ)。免千國典被虛吹。天門中使賜臨辱。秘府新詩許獨披。花徑還開欲落唉。柳園尙看鬱茂垂。一生非分恩涯久。萬死何階報不訾。

砂土印佛應製。

檀印一點玉沙上。尊容倏忽手下生。四八靈相省工巧。八十妙好廢丹靑。風來吹拂終塡滅。誠見應不久停。唯有如々理法體。坦然無壞亦無成。

遠使邊城。

王事古來稱靡監。長途馬上歲云闌。黃昏極嶂哀猿叫。明發渡頭孤月團。旅客期時邊愁斷。誰能坐識行路難。唯餘勅賜裘與帽。雪犯風牽不加寒。

別故人之任贈琴。

素琴申舊意。塵穢不嫌君。單父思良宰。武城望雅聞。重財非子好。輕贈是吾分。每對他鄉月。須彈慰離群。

從五位上行式部少輔菅原朝臣淸公四首。

九月九日侍宴神泉苑各賦一物得秋山。

三山漂眇滄瀛外。五嶽嵯峨赤縣中。防霞古松千載翠。待風花葉九秋紅。落泉曝布懸飛鵠。晴雨收絲鬧薄紅。仁者樂之何所寄。國家襟帶在西東。

秋夜途中聞笙。

皇城陌上槐風素。天漢波間桂月明。不知誰家郎第幾。寫鸞摸鳳以吹笙。金商繞曲秋聲亮。玉管成文夜響淸。王子偶仙何處在。落濱遺態使人驚。

冬日汴州上漂驛逢雪。

雲霞未辭舊。梅柳忽逢春。不分瓊瑤屑。來沾旅客巾。

越州別勅使王國父還京。

我是東番客。懷恩入聖唐。欲歸情未盡。別淚濕衣裳。

征夷副將軍從五位下行陸奥介小野朝臣永見二首。

田家。

結菴居三徑。灌園養一生。糟糠寧滿腹。泉石但歡情。水裏松低影。風前竹動聲。聊輸太平祝。獨守小山亭。

遊寺。

久倦樊籠苦。來尋解脫津。息心歸六度。改跡

仰三輪。水月非眞曉。空花是僞春。今朝昇覺路。何處犯迷塵。

從五位下行日向權守淡海眞人福長滿三首。

早春田園。

寒牖五出花。空厨一罇酒。已迷帝王力。安辨天地久。四分一頃田。門外五株柳。差（差イ）堪助貧與。何（更イ）事貪富有。

言志。

孤樹輪囷久。三秋零落期。風霜日夜積。榮曜待何時。

被別豐後藤太守。

故鄕何處在。天際白雲浮。歸鴈遙將沒。漂查（杳歟）去不留。邊聲四面起。悲涙數行流。今日生死別。何年問白頭。

散位從五位下仲科宿禰善雄一首。

秋夜臥病。

臥來頻改歲。年去復逢秋。照月三更靜。無人四壁幽。養形方已省。知命遂非優。唯有風前樹。搖落使人然。

外從五位上行山城介高丘宿禰第越二首。

三月三日侍宴神泉苑應詔。

我皇微樂事。元巳宴華林。壽爵山府久。恩波□謝深。看花前後落。聽鳥短長吟。既醉仍餘舞。何（開イ）關樹石音。

雜言。於神泉苑侍宴賦落花篇應製。

落花飛々。去落丹墀。本謂隨風落。方知彼化歸。乍往乍還浮御蓋。一連一斷點仙衣。無心草木猶餘戀。況復微臣醉恩危（厄歟）。

左大史正六位上兼行伊勢權大掾坂上忌寸今繼二首。

涉信濃坂。

積石千里峻。危途九折分。人迷邊地雪。馬躡半天雲。岩冷花難笑。溪深景易曛。鄕關何處在。客思轉紛々。

詠史。

陶潜不狎世。州里倦塵埃。始覺幽栖好。長歌歸去來。琴中唯得趣。物外已忘懷。柳掩先生宅。花薫處士杯。遙尋南岳徑。高嘯北窓隈。嗟爾千年後。遺聲一美哉。

從六位下守大内記大伴宿禰氏上一首。

渤海入朝。

自從明皇御寶曆。悠々渤海再三朝。乃知玄德已深遠。歸化純情是最昭。片席聊懸南北吹。一般長冷去來潮。占星水上非無感。就日遙思眷我堯。

從七位上守少内記滋野宿禰貞主二首。

夏日陪幸左大將藤原冬嗣閑居院應製。

寂然閑院當馳道。祇候仙輿灑一路。酌茗藥室經行入。横琴玳席倚岸居。松陰絶冷午時後。花氣猶薫風罷餘。水上靑蘋莫赴浪。君王少選愛遊魚。

王昭君。

朔雪翩々（翻イ）沙漠暗。邊霜慘烈隴頭寒。行々常望長安日。曙色東方不忍看。

從八位上守播磨權少掾多治比眞人貞清二首。

奉和御製春朝雨晴應製。

雨晴宸眺遠。雲罷彼蒼披。朝露懸餘滴。殘虹卷半規。梅香深淺度。柳色短長垂。氛（氣）靄從斯沒。翅心就堯曦。

和菅祭酒賦朱雀衰柳作。

皇城陌上楊將柳。兩々三々夾道斜。疇昔榮卒（暮歟）都不見。今時顦顇一應嗟。□寒着樹非眞葉。霏雪封枝是僞花。既就堯衢待恩煦。阿誰吏（眞歟）憶陶潜家。

陸奧少目從八位下桑原公宮作一首。

伏枕吟。

勞伏枕伏枕不勝思。沈痾送歲。力盡魂危。鬢謝蟬兮垂白。衣懸鶉兮化緇。悽然感物。物是

人非。撫□□以耿耿。陟屺岵而依々。悵雲花於遽落。嗟風樹於俄衰。池臺漸毀。僮僕先離。客斷柳門群雀噪。書品蓬室晩螢輝。月鑑帷兮影冷。風拂牖兮聲悲。聽離鴻之曉咽。覩別鶴之孤飛。倒絶兮悽今日。涙潺湲兮想昔時。榮枯但理矣。倚伏同須期。特皇天之祐善。折靈藥以何爲。

文章生相摸權博士大初位下桑原公腹赤二首。

春日過丈人山莊探得飛字。

入春今幾日。聞道數鶯飛。煙沒主人柳。花薰客子衣。野童驅犢去。山叟負薪歸。何獨漢陰老。此間可絶機。

秋日於丈人山莊與飲探得鶱字。

聞有幽栖地。捫蘿試一瞻。白雲杯下起。黃菊掌中黏。野近獸馴坐。林隣鳥望簷。登臨不外俗。吏隱兩相兼。

蔭孫無位巨勢朝臣志貴人一首。

和進士貞主初春過菅祭酒舊宅悵然傷懷之作。

間庭宿草無復掃。虛院孤松自依聲。但見平生風月處。春朝花鳥慘人情。

右以弘文院本及太田覃本挍正了

文筆部三

文華秀麗集序

從五位下守大舍人頭兼信濃守臣仲雄王上

臣仲雄言。淩雲集者。陸奧守臣小野岑守等之所撰也。起於延暦元年。逮于弘仁五載。凡所綴緝九十二篇。自厥以來。文章間出。未逾四祀。卷盈百餘。豈非□□儲聽。製文之無虛月。朝英國俊。摛藻之靡絕時哉。或氣骨彌高。諧風騷於聲律。或輕清漸長。映綺靡於艷流。可謂轄變椎而增華。氷生水以加厲。英聲因而掩後。逸價藉而冠先。至瓊環與木李齊暉。蕭艾將蘭芬雜彩。寔由細縟未異。篠簜仍同者矣。正三位大納言兼行左近衛大將陸奧出羽按察使臣藤原朝臣冬嗣。奉勅命臣等□焉。臣謹與從五位上行式部少輔兼阿波守臣菅原朝臣清公。從五位下行大學助紀傳博士臣勇山連文繼。從六位下守大內記臣滋野宿禰貞主。從七位下守少內記兼行播磨少目臣桑原公腹赤等。各相平論甄定。取舍若有難審。上稟睿摹。先漏淩雲者。今議而錄之。並皆以類題敘。取其易閱。凡作者廿六人。詩一百四十八首。分爲三卷。名曰文華秀麗集。鳳掖宸章。龍闈令製。別降綸旨。俯同縹帙。而天尊地卑。君唱臣和。故略作者之數。編採摭之中。臣謬以散材。忝侍詮簡。重承天渙。虔制玆序。臣仲雄上。

文華秀麗集卷上

遊覽

江頭春曉一首。　嵯峨御製

江頭亭子人事睽。攲枕唯聞古戍雞。雲氣濕衣知近岫。泉聲驚寢覺隣溪。天邊孤月乘流疾。山裏飢猿到曉啼。物候雖言陽和未。汀洲春草欲萋々。

春日嵯峨山院探得遲字一首。　同

氣序如今春欲老。嵯峨山院暖光遲。峯雲不覺侵梁棟。溪水尋常對簾帷。莓苔踏破經年髮。楊柳未懸伸月眉。此地幽閑人事少。唯餘風動暮猿悲。

春日侍嵯峨山院探得迴字應製一首。　淳和令製

嵯峨之院埃塵外。乍到幽情興偏催。鳥囀遙聞緣堦砌。花香近得抱窓梅。攢松嶺上風爲雨。絕澗流中石作雷。地勢幽深光易暮。鑾輿且待莫東迴。

春日大弟雅院一首。　御製

詩家有興來雅院。雅院由來絕世閑。陽鳥雖看新柳色。陰堦常點舊苔斑。就暖晴花開簾外。欲巢時鳥啄庭間。此地端居翫風景。寂寥人事暫無關。

奉和春日江亭閑望一首。　仲雄王

凝流派上思。降蹕對紅花。野甸宸哀遠。川皐容望賒。猿深雲樹峽。鶴立浪痕沙。古椽松蘿院。春窓楊柳家。水鄉漁浦近。山館鳳庭遐。老圃鋤遲日。高帆艤早霞。岸陰生液乳。洲暖長蘆芽。絢服侍臣馬。垂鬟公主車。驛門臨迴陌。亭子隱高花。幸頼陪天覽。還同星渚査。

奉和春日江亭閑望一首。

巨識人

浩蕩三仲□。春晴万里天。園林半灼々。原野盡芊々。日煖鴛鴦水。風和楊柳煙。山光霽後綠。江氣晚來鮮。遠樹繞湖小。長波接海連。潮生孤嶼沒。霧卷巨帆懸。草色洲中短。花香宮外傳。歸聲聞去鴈。春響送鳴鵑。流靜看遊艇。溪幽聽落泉。興餘日已暮。江月照仙眠。

江樓春望應製一首。　野岑守

春雨濛々江樓黒。悠々雲樹盡微茫。橋頭孤立一竿柱。湖口競入千許檣。麦壠新色荒村綠。楓林初葉釣家香。滔々流水何所似。四海朝宗歸聖王。

夏日臨泛大湖一首。　御製

水國追涼到。乘舟泛大湖。風前翻浪起。雲裡落帆孤。浦香濃盧橘。洲色暗蒼芦。邑女採蓮伴。村翁釣魚徒。畏景西山沒。淸猿北嶼呼。沿洄興不已。弭棹轉歸艫。

夏日左大將軍藤原朝臣閑院納涼探得閑字應製一首。　御製

此院由來人事少。況乎水竹每成閑。送春薔薇珊瑚色。迎夏巖苔玳瑁斑。避景追風長松下。提琴搗茗老梧間。知貪鸞駕忘囂處。日落西山不解還。

嵯峨院納涼探得歸字應製。　巨識人

君王倦熱來茲地。茲地淸閑人事稀。池際追涼依竹影。巖間避暑隱松帷。千年駮蘚覆堦密。一片晴雲亘嶺歸。山院幽深無所有。唯餘朝暮泉聲飛。

秋日冷然院新林池探得池字應製一首。　御製

君王本自耽幽趣。泉石初看此地奇。積水全含湖裏色。重巖不謝峽中危。徑栽晚竹春餘粉。歲

淺新林末。拱枝。景物仍堪遊。聖目。何勞整駕向瑤池。

秋夕南池亭子臨眺一首。　令製

池亭氣冷秋風度。吹入波心亂水文。明月東山看漸出。莫愁白日巖頭曛。

秋山作。探得泉字應製一首。

朝鹿取

八月秋山涼吹傳。千峯萬嶺寒葉翩。羽客裳斑蜺氣度。隱人帶綠女蘿懸。谿生濃霧織薄縠。水寫輕雷引飛泉。入谷猶知玄牝道。登巒何近白雲天。

尋良將軍華山庄將軍失期不在一首。

仲王雄

君家白雲東嶺下。昨對宮內暮相期。平明騎歷山中路。蹋石溪行駘自遲。一徑南斜門樹入。孤亭松色女蘿颸。塘頭佇立不看至。落日寒蟲鳴草時。

宴集。

春日左將軍臨況一首。　勇文繼

灑掃荊扉望風久。尊卑禮融未成歡。微誠有感降恩顧。欲酌春醪心自寬。檐下閑花光艶婾。籬前修竹影檀欒。何圖一損台門貴。今日高車過下官。

奉勅陪內宴詩一首。　王孝廉

海國來朝自遠方。百年一醉謁天裳。日宮座外何攸見。五色雲飛万歲光。

七日禁中陪宴詩一首。　釋仁貞

入朝貴國慙下客。七日承恩作上賓。更見凰聲無妓態。風流變動一國春。

春日對雨探得情字一首。

王孝廉

主人開宴在邊廳。客醉如泥等上京。疑是雨師知聖意。甘滋芳潤灑羈情。

餞別。

和金吾將軍良安世春齊別筑前王大守還任一首。　御製

星使去年入王畿。今年事畢万里歸。山隨客路春光送。人至他鄕交結稀。離心積日風煙遠。回首前程指落暉。獨在羈亭傷別意。聞猿夜々轉依々。

左兵衞佐藤是雄見授爵之備州謁親因以賜詩一首。　御製

別時節修春云暮。爲謁慈親辭帝京。邑裏兒童歡相待。村中耆耋拜邀迎。馬踏雲山鄕念切。猿啼海嶠助羈行。雖言客路多芳草。莫學王孫不歸情。

餞美州掾藤吉野得花字一首。　令製

今霄儵忽言離別。不慮分飛似落花。莫怨白雲千里遠。男兒何處是非家。

留別文友一首。　野岑守

一朝從吏十年許。文友存亡半是新。固爲同道無新舊。但悲我作万里人。

敬和左神策大將軍春日閑院餞美州藤大守甲州藤判官之作一首。　巨識人

杜鵑啼序春將闌。閑院花亭餞兩官。飛鳥始乘鳥翼去。離絃頻送鶴聲彈。鄕心遙樹孤雲跡。客路邊山片月寒。一別情期勿暫忘。音書屢寄往來看。

春日餞野柱史奉使存問渤海客一首。　巨識人

使乎遠欲事皇々。芳惜睽離但有觴。遲日未銷邊路雪。暖煙遍着主人楊。天涯馬踏浮雲影。山裡猿啼朗月光。策騎翩々何處至。春風千里海西鄕。

春日別原掾赴任一首。　巨識人

良儔本自非易得。之子爲別寂情深。水國天邊

千里遠。暮山江上一猿吟。白鷗狎人隨去舳。青草連湖傍客心。此日交顧無可贈。相思空有淚沾襟。

秋日別友人一首。　巨識人

林葉翩々秋日曛。行人獨向邊山雲。唯餘天際孤懸月。万里流光遠送君。

月夜言離一首。　桑腹赤

地勢風牛雖異域。天文月兎尙同光。思君一似雲間影。夜々相隨到遠鄉。

早春別阿州伴掾赴任一首。　紀末守

一朝銜命遠離別。上月春初風尙寒。欲識我魂隨子去。羈亭夜々夢中看。

贈答。

臥中簡毛學士一首。　令製

今年有閏春猶冷。不解韶光着砌梅。風夜忽聞窓外馥。臥中想得滿枝開。

蒙謫外居聊以述懷敬簡金吾將軍一首。

仲雄王

儒家偏隨樽俎趣。帝宅朝例不生知。當年忝奉端闈禮。詰旦淹除伏奏時。厚壞焦情無踏處。高穹負譴更何祈。終離節會簪纓列。獨滿寰瀛雲雨施。閤外空聞歌管響。階前隔見舞臺姬。昏歸耻對閨中妾。夜臥强談床上兒。過重功輕心自解。恩深責淺幾銘肌。君門出入雖無制。外候仍言天聽卑。

書懷呈王中書一首。　仲雄王

邊旅十年老時明。海行千里入帝城。君門九重未通籍。閑臥窓樹晚鶯聲。

臥病謝故人相問一首。　仲雄王

臥來旬向歷。門客問初通。爲君思倒屣。衰身不勝風。

在邊贈友一首。離合。　野岑守

班秩邊城久。夕來夢帝畿。衿霑異縣淚。衣緩故

鄕園。弦望年頻改。弓鞍力稍非。綿々千累路。吊素寄雙飛。

奉拜掖庭簡橘尙書一首。　野岑守

朔平門衞不敢入。別有殊恩拜掖庭。美女花簪傳芳命。一言猶是紛眥情。

秋朝聽鴈寄渤海入朝高判官釋錄事一首。　坂今雄

大海途難涉。孤舟未得迴。不如關隴雁。春去復秋來。

和渤海大使見寄之作一首。　坂今繼

賓亭寂莫對青□。處々登臨旅念悽。万里雲邊辭國遠。三春煙裡望鄕迷。長天去鴈催歸思。幽谷來鶯助客啼。一面相逢如舊識。交情自與古人齊。

春夜宿鴻臚簡渤海入朝王大使一首。　滋貞主

枕上宮鐘傳曉漏。雲間賓雁送春聲。辭家里許不勝感。況復他鄕客子情。

和渤海入覲副使公賜對龍顏之作一首。　桑腹赤

渤海望無極。蒼波路幾千。占雲遙躁水。就日遠朝天。慶自紫霄降。恩將丹化宣。以君吳札耳。應悅聽薰絃。

在邊亭賦得山花戲寄兩箇領客使幷滋三一首。　王孝廉

芳樹春色色甚明。初開似咲聽無聲。主人每日專攀盡。殘片何時贈客情。

和坂領客對月思鄕見贈之作。　王孝廉

寂々朱明夜。團々白月輪。幾山明影徹。万象水天新。弃妾看生悵。羈情對動神。誰言千里隔。能□兩鄕人。

從出雲州書情寄兩箇勅使一首。　王孝廉

南風海路連歸思。北雁長天引旅情。賴有鏘々雙鳳伴。莫愁多月住邊亭。

文華秀麗集卷中

詠史。

史記講竟賦得張子房一首。　御製

受命師漢祖。英風万古傳。沙中義初發。山中感彌玄。形容類處女。計畫撓强權。封敵反謀散。招翁儲貳全。定都是劉說。違宰勸蕭賢。追從赤松子。避世獨超然。

賦得季札一首。　良安世

所謂吳季札。芳命冠古今。交賢情若舊。當讓義逾深。晏子終納色。孫文不聽琴。還將一寶劒。空報徐君心。

賦得漢高祖一首。　仲雄王

漢祖承堯緒。龍顏應晦冥。豁如有大度。生事未曾營。住在中陽里。微班泗上亭。呂公驚貴相。王媼感奇靈。望氣秦皇厭。尋雲呂后停。徑闢創漢統。軍旅入咸京。撥亂資三傑。膺天聚五星。烏江窮楚項。軹道降秦嬰。命革登乾極。時平戢甲兵。絳侯重厚者。劉氏遂安寧。

賦得司馬遷一首。　菅淸公

漢史惟司馬。高才爲代生。龍門初降化。禹穴漸研精。績孔春秋發。基軒得失明。三千猶存眼。五百但嫌情。實錄傳無墜。洪漪遊不停。終令萬祀下。長作百王禎。

述懷。

奉和重陽節書懷一首。　仲雄王

寰中農時澇旱事。帝念黔首不登年。强乘客樆文雄罷。却□伶人侍樂懸。菊浦早花霜下發。荷

潭寒葉水陰穿。灾不勝德古來在。況乎神哀輔自天。

奉和宿蕉居之什一首。　野岑守

君王一去池館廢。四海爲家感舊來。昔從滕駕曳裾出。今配龍輿鏘佩廻。簷前枯柳看後樹。岸曲長松聽初栽。漢筑□□□□盡。況乎沛唱復相催。

奉和秋夜書懷之作一首。

仲善雄

今茲聖主無疆算。始及安仁秋興年。感發良霄不寐久。況乎聞鴈白雲天。淸風吹起上林樹。曉月光流禁掖前。當慶貞松不彫葉。誰論蒲柳望秋遷。

奉和臥病重陽節之作一首。

野岑守

聖躬違和日數廻。令節重陽儵忽來。時菊不知高宴罷。黃花一兩殿前開。

晚秋述懷一首。　姬大伴氏

節候蕭條歲將闌。閨門靜閑秋日寒。雲天遠雁聲宜聽。擔樹晚蟬引欲殫。菊潭帶露餘花冷。荷浦含霜舊蓋殘。寂々獨傷四運促。紛々落葉不勝看。

艷情。

奉和春閨怨一首。　菅淸公

怨婦含情不能寐。早朝褰幌出欄楯。自言楚國名倡族。家是宮東宋玉隣。獨賴耶孃偏愛重。何圖見者以爲神。庭前見舞鸞常顧。樓上吹簫鳳未臻。四五芳期當順禮。出從君子正爲嬪。男兒好事方有□。□□從□□□年。蕩子別來多歲月。那堪夜々掩空扉。要身屢驗眞知瘦。眼臉常啼謾似肥。合歡寂院寧燭忿。萱草閑堂反召悲。可妬桃花徒映靨。生憎柳葉尙舒眉。心如煎。眼不眠。良人不意思歸引。賤妾常吟薄命篇。胸上積愁應滿百。眼中行淚且成千。

君不見閨怨□□顔華直。爲思君。塞路遐。奈何征人大無意。一別十年音信賒。桑下受金君豈各〔訛歟〕。機中織錦詎能嘉。羅帳空。角枕凍。角枕羅帳恨無窮。春苑看花泣長安。霄閨理線憶桑乾。顦思嬾聽門前鵲。衰面慙當鏡裡鸞。願君莫學班定遠。慊々徒老白雲端。

奉和春閨怨一首。　朝鹿取

妾本長安恣驕奢。衣香面色一似花。十五能歌公主第。二十工舞季倫家。使君南來愛風聲。春日東嫁洛陽城。洛陽城東桃與李。一紅一白蹊自成。錦褥玳筵親惠密。南鵬東鯨還是輕。賤妾中心歡未盡。良人上馬遠從征。出門唯見揚鞭去。行路不知幾日程。尙懷報國恩義重。誰念春閨愁怨情。紗窓閇。別鶴唳。似登隴首腸已絕。非入楚宮腰忽細。水上浮萍豈有根。風前飛絮本無蔕。如萍如絮往來返。秋去春還積年歲。守空閨妾獨啼虛。座塵暗空階草萋。池前悵看鴛比翼。梁上慙對鷰雙栖。淚如玉箸流無斷。髮似飛蓬亂復低。丈夫何時凱歌歸。不堪獨見落花飛。落花飛盡顔欲老。早返應看片時好。

奉和春閨愁一首。　巨識人

妾年妖艷二八時。灼々容華桃李姿。幸得良夫憐玉貞。鬱金帳裡寫蛾眉。綺筵朝共琅玕食。錦褥夜同翡翠帷。誰慮遣君向戎路。恩情婉孌忽相遺。皇城一去關山遠。閨閤連年音信稀。自恨相別不相見。使妾長歎復長思。長思長歎紅顔老。客子何心還不早。君不見妾離別。晝夜吁嗟涕如雪。雙蛾眉上柳葉嚬。千念咲中桃花歇。空床春夜無人伴。單寢寒衾誰共暖。金繡羅衣盡啼濕。銀莊縷帶日瘦緩。又不見守空閨。閨中怨坐意常迷。昔時送別秋蘆白。此日愁思春草萋。階前花積妾不掃。窓外鶯啼妾復啼。柳寒廻鴻引群度。杏梁來鷰比翼栖。閑庭點々莓苔駮。暗

牖依々綠柳低。晚來嬾織機中錦。愁向高樓明月孤。片時枕上夢中意。幾度往還塞外途。

奉和春情一首。　巨識人

孤閨已遇芳菲月。頓使春情幾許紛。玉戶愁褰蘇合帳。花蹊嬾曳石榴裙。鶯啼庭樹不堪妾。雁向邊山難寄君。絕恨龍城征客□。年々遠隔万重雲。

和伴姬秋夜閨情一首。　巨識人

比來朔雁度千番。一箇封書未曾看。遙想燕山涼氣早。誰堪砧杵擣衣難。眞珠暗箔秋風閇。楊柳踈窓夜月寒。不計別怨經歲序。唯知曉鏡玉顏殘。

長門怨一首。　御製

日暮深宮裡。重門閇不開。秋風驚桂殿。曉月照蘭臺。對鏡容華改。調琴怨曲催。君恩難再望。買得長卿才。

奉和長門怨一首。　巨識人

日夕君門閇。孤思不暫安。塵生秋帳滿。月向夜床寒。星怨翳難霽。雲愁鬢欲殘。唯餘舊時當。猶入夢中看。

婕妤怨一首。　御製

昭陽辭恩寵。長信獨離居。團扇含愁詠。秋風怨有餘。閑階人跡絕。冷帳月光虛。久罷後庭望。形將歲時除。

奉和婕妤怨一首。　巨識人

昔時同輦愛。翻怨裂紈情。孤帳秋風冷。空簾曉月明。啼顏拭尙濕。愁黛畫難成。絕妒昭陽近。聞來歌吹聲。

奉和婕妤怨一首。　桑腹赤

年色誠難保。妾人獨自尤。昭陽歌舞盛。長信綺羅愁。月向空帷落。風經暗葉流。銀環終不賜。嫡愛永成秋。

奉和聽擣衣一首。　桑腹赤

雙々秋鴈數般翔。閨妾當驚邊已霜。何處擣衣

霄達旦。空樓月下万家擣。暗中不辨杵低擧。枕上唯聞聲抑揚。守夜宮鐘乍相和。應通長信復昭陽。

樂府。

王昭君一首。　御製

弱歲辭漢闕。含愁入胡關。天涯千万里。一去更無還。沙漠壞蟬鬢。風霜殘玉顏。唯餘長安月。照送幾重山。

奉和王昭君一首。　良安世

虜地何遼遠。關山不忍行。魂情還漢闕。形影向胡塲。怨逐邊風起。愁因塞路長。願爲孤飛雁。歲々一南翔。

奉和王昭君一首。　菅清公

御狄寧無計。微軀鎭一方。泣隨重塞盡。愁向遠天長。隴月分行鏡。胡氷凍旅裝。誰堪氈帳所。永代綺羅房。

奉和王昭君一首。　朝鹿取

遠嫁匈奴域。羅衣淚不干。畫眉逢雪壞。裁鬢爲風殘。塞樹春無葉。胡雲秋早寒。閼氏非所願。異類誰能安。

奉和王昭君一首。　藤是雄

含悲向胡塞。辭寵別長安。馬上關山遠。愁中行路難。脂粉侵霜減。花簪冒雪殘。琵琶多哀怨。何意更爲彈。

梅花落一首。　御製

鷓鳴梅院暖。花落舞春風。歷亂飄鋪地。徘徊颺滿空。狂香燻枕席。散影度房櫳。欲騷傷離苦。應聞羌笛中。

奉和梅花落一首。　菅清公

春風吹物暖。朝夕蕩庭梅。花點紅蘿帳。香縈玉鏡臺。楡關消息斷。蘭戸歲年催。未度征人意。空勞錦字廻。

折楊柳一首。　御製

楊柳正亂絲。春深攀折宜。花寒邊地雪。葉暖妓

樓吹。久戍歸期遠。空閨別怨悲。短簫無異曲。惣是長相思。

奉和折楊柳一首。　巨識人

楊柳東風序。千條搖颺時。邊山花映□。虛牖葉嚬眉。樓上春簫怨。城頭曉角悲。君行音信斷。攀折欲寄誰。

梵門。

答澄公奉獻詩一首。　御製

遠傳南岳敎。夏久老天台。杖錫凌溟海。躡虛歷蓬萊。朝家無英俊。法侶隱賢才。形體風塵隔。威儀律範開。袒肩臨江上。洗足踏巖隈。梵語翻經閣。鐘聲聽香臺。經行人事少。宴坐歲華催。羽客親講席。山精供茶杯。深房春不暖。花雨自然來。賴有護持力。定知絕輪廻。

和光法師遊東山之作一首　御製

幽栖東岳上。禪坐對林巒。法宇傳經久。深山乞食難。溪流猿共漱。野飯鬼相飡。擊磬雲峯裡。暮春不退寒。

過梵釋寺一首。　御製

雲嶺禪扃人蹤絕。昔將今日再攀登。幽奇巖嶂吐泉水。老大杉松離舊藤。梵宇本無塵滓事。法筵唯有薜蘿僧。忽鎖煩想夏還冷。欲去淹留暫不能。

扈從梵釋寺應製一首。　令製

君王機暇倦炎熱。午後尋眞幸日宮。四五老僧迎鳳輦。久除有結意恒守。飛棧樹杪空雲過。危磴巖頭拂霧通。瞻仰尊容纏網盡。還疑自入鷲峯中。

扈從梵釋寺應製一首。　藤冬嗣

一人問道登梵釋。梵釋蕭然太幽閑。入定老僧不出戶。隨緣童子未下山。法堂寂々煙霞外。禪室寥々松竹間。永劫津梁今自得。囂塵何處更相關。

和二澄公臥レ病述レ懐之作一。　御製

聞公雲峯裡。臥レ病欲レ契レ眞。對レ境知二皆幻一。觀レ空厭二此身一。栢暗禪庭寂。花明梵宇春。莫レ嫌應化久。爲レ濟二夢中人一。

同。　仲雄王

古寺北林下。高僧毛骨淸。天台蘿月思。佛隴白雲情。院靜芭蕉色。廊虛鐘梵聲。臥レ痾如レ入レ定。山鳥獨來鳴。

同。　巨識人

吾師山上寺。託レ疾臥二雲煙一。猿鳥狎二梵宇一。鬼神護二法筵一。澗花當レ佛咲。峯月向レ僧懸。已覺非二眞有一。觀レ身自得レ痊。

遊二北山寺一。　多淸貞

香刹靑品頂。登攀指二世情一。高簷松上出。危路竹間行。梵語聞無レ厭。塵心伏不レ驚。寥々雲樹裡。定水晩來聲。

題二光上人山院一一首。　錦彥公

梵宇深峯裡。高僧住不レ還。經行金策振。安坐草衣閑。寒竹留二殘雪一。春蔬採二舊山一。相談酌二綠茗一。煙火暮雲間。

哀傷。

和二尙書右丞良安世銅雀臺一一首。　御製

昔時魏武帝。臺榭起二城阿一。遺令奏二絃管一。空帷舞二綺羅一。每レ對二平□月一。追思怨恨多。西陵揮レ淚望。松檟復如何。

仰同二尙書良右丞銅雀臺一一首。　桑腹赤

憶昔妓堂好。君情應レ未レ闌。一朝雄志滅。千載爵□寒。北上臨レ風詠。西陵向レ月看。漳河與二姿涕一。日夜流無レ乾。

奉レ和レ傷二野女侍中一一首。　藤冬嗣

艷年從レ官陪二層秘一。華髮辭レ榮返二故鄕一。川月不レ留殘魄影。風燈何□寸烟光。宮娥口實推二貞素一。

列女傳文載儉良。聖主非常動哀感。魂而有識應慰亡。

同。　桑腹赤

思媚一人容髮老。崦嵫暮晷不留年。孤墳對月貞女硤。閲水咽雲孝子泉。柳絮父詞身後在。蘭紛婦德世間傳。古來蒿里爲誰邑。今日松門閇鬼埏。野暗驂嘶通白霧。山空挽響入黃煙。何崇盜藥求仙臺。不朽哀榮降聖篇。

哭賓和尙一首。　御製

大士古來無住著。名山晦跡老風霜。隨緣化體厭塵久。歸正眞機忽滅亡。松掩舊□猶欝茂。草暗新塔漸荒涼。生前蘿席空留月。沒後金爐誰添香。禪林時見摧枝幹。梵宇長懷失棟梁。緇素共愁爾禮能。遙々仰拜向西方。

和菅淸公傷忠法師一首。　御製

朧老煙□裡。歸眞攝化形。不知何世界。出現救蒼生。

侍中翁主挽歌詞二首。　御製

生涯如逝川。不慮忽昇仙。哀挽辭京路。客車向暮田。聲傳女侍簡。別怨艷陽年。唯有孤墳外。悲風吹松煙。

戚里繁華歇。皇家淑德收。悲傷盈旦暮。悽感積春秋。月色姮娥慘。星光織女愁。一聞簫管曲。日夜淚同流。

奉和侍中翁主挽歌詞二首。　菅淸公

百年嗟易辭。過隙幾何時。晨晷叙無駐。春花落有期。桃蹊長掩迹。蒿里忽迎輴。雖覺生涯理。人情尙可悲。

鳳掖榮華盡。爲書卜兆通。向朝傷薤露。欲暮泣楊風。漢浦星光缺。秦樓月影空。定知雲雨良長絕□臺中。

同二首。　巨識人

夜谿生涯盡。佳城艶□淪。婺星藏遠漢。仙桂落虛輪。淑門遺仍在。恩榮歿更新。冥途無節候。何處復知春。

曉月銘旌出。春山轜馬通。繁笳悲薤露。盡翣送松風。洛雪迴光罷。巫雲行影空。可嗟桃李貞。長掩重泉中。

同内史滋貞主追和武藏錄事平五月訪幽人遺跡之作一首。　御製

悽然□幽客。隟骨曬風霜。歳月經書古。煙蘿仙竈亡。巖扃松作盖。虛室石爲牀。契道乘空復。泥中獨自傷。

和武藏平錄事五月訪幽人遺跡之作一首。　藤冬嗣

幽遁長無返。捐身万事睽。玄書明月照。白骨老猿啼。風度松門寂。泉飛石室凄。白雲不可見。懷古獨凄々。

訪幽人遺跡一首。　平五月

借問幽栖客。悠々去幾年。玄經空秘卷。丹竈早収煙。影歇青松下。聲留白骨前。因今訪古跡。不覺涙潺湲。

文華秀麗集卷下

雜詠。

河陽十詠四首。以三字爲題。以終字爲韻。

河陽花。　御製

三春二月河陽縣。□□從來富於花。花落能紅復能白。山嵐頻下万條斜。

江上船。

一道長江通千里。漫々流水漾行船。風帆遠沒虛無裡。疑是仙查欲上天。

江邊草。

春日江邊何所好。青々唯見王孫草。風光就暖芳氣新。如此年々觀者老。

山寺鐘。

晩到江村高枕臥。夢中遙聽半夜鐘。山寺不知何處在。旅館之東第一峯。

奉和河陽十詠二首。　藤冬嗣

河陽花。

河陽風土饒春色。一縣千家無不花。吹入江中如濯錦。亂飛機上奪文沙。

故關柳。

故關折罷人煙稀。古堞荒涼餘楊柳。春到尙開舊時色。看過行客幾回久。

奉和河陽十詠二首。　良安世

五夜月。

客子無眠投五夜。正逢山頂孤明月。一看圓鏡羈情斷。定識閨中憶不歇。

奉和河陽十詠四首。　仲雄王

河上船。

晴初駐蹕馳玄覽。一點孤浮江上船。爲虛物情不相怨。乘吹遙度浪中天。

水上鷗。

行客近起淸江北。御覽煙鳴水刷鷗。鷗性必馴無取意。況乎玄化及飛浮。

山寺鐘。

古寺舘東山翠下。日暮嗷哢響疎鐘。天籟相和幽洞谷。餘音過盡白雲峯。

河陽橋。

別舘雲林相映出。門南脩路有河橋。上承紫宸長栱宿。下送蒼海永朝潮。

奉和河陽十詠二首。　朝鹿取

江上船。

江潮漫々流幾年。日夜送迎往還船。已似飛龍遊雲裏。還看翔風入天邊。

水上鷗。

河陽別宮對江流。不勞行往見群鷗。能知人意狎不去。或泝或沿與波遊。

奉レ和二河陽十詠一一首。

山寺鐘。　滋貞主

行蚍屢寫江樓靜。一道聞來初夜鐘。諳識山僧巖水嗽。焚香合掌拜二尊容一。

和二巨識人春日四詠一二首。

舞蝶。　御製

數羣胡蝶飛亂レ空。雜色紛々花樹中。本自不レ因二絃管響一。無心處々舞二春風一。

飛鶯。

望裡遙聞鶯語聲。双飛來往羽儀輕。本期借レ屋初乳レ子。還恥空爲二漢后名一。

和二巨內記春日四詠一一首。

飛燕。　朝鹿取

衣玄裳素入二蘭閨一。双去双來不二獨棲一。梁上登レ巢居是逸。簾前向レ戶飛暫低。

同。　滋貞主

故年剪レ瓜今春歸。棟宇改修猜未レ依。稟性將凡鳥□□。再三飛到狎二簾帷一。

奉レ和レ觀二新燕一一首。　佐長繼

海燕新來度二春天一。差池羽翼如二往年一。既能忘二却蒼波遠一。朝夕欲レ巢二畫梁邊一。

同。　野年永

早燕双飛入二曙晴一。遙經二聖眼一奏二新聲一。還嗟レ未レ狎二鴛鴦帳一。先負二漢家妖艷名一。

奉レ和レ聽二新鶯一一首。　野岑守

聽二新鶯一。鶯聲新兮人惟舊。御柳初暖仰狎々。常梧猶寒未レ易レ就。謚音近レ恩先雜沓。弱羽承レ煦早差池。小臣授レ命戎麾遠。万里沙塲欲レ傷レ離。邊亭節物花鳥異。料得唯門笛中吹。

故關聽レ鷄一首。　御製

烽火不レ傳罷二關城一。唯餘長短曉鷄聲。孟甞沒後年代久。誰客今鳴令二人驚一。

奉レ和二故關聽一レ鷄一首。　桑腹赤

覇道寢來是舊城。人鷄獨送レ司二晨聲一。自分二陽精一

應覺曉。如今不爲孟嘗驚。

奉和過古關一首。　宮村繼

皇猷遠被車書同。關路長開古鎭空。白馬時來無吏問。東西行客日夜通。

代神泉古松傷衰歌一首。

御製

昔從凡木殖上林。過却風霜年幾深。帝者愛貞賜恩顧。水亭忽攆頻近臨。本森沈。今傾頹。長條縮折乏蒼翠。不是辭榮好寂寞。還愁稟質抱幽情。

奉和代神泉古松傷衰歌一首。　仲雄王

孤松盤屈薜蘿枝。貞節苦寒霜雪知。御□琴臺廻仙蹕。風入颸飀添淸曲。森翠宜看軒月陰。還羞不材近天臨。自然色衰無他故。不敢幽懷負恩顧。

奉和代美人殿前夜合詠之什一首。

毛頴人

久厭幽溪何處託。朝家假貸御樓傍。卽今自入仙園裡。已後春恩任聖皇。

冷然院各賦一物得澗底松一首。

御製

鬱茂青松生幽澗。經年老大未知霜。薜蘿常掛千條重。雲霧時籠一蓋長。高聲寂々寒炎節。古色蒼々暗夕陽。本自不堪登嶺上。唯餘風入韻宮商。

冷然院各賦一物得瀑布水應製一首。　桑腹赤

兼山傑出院中險。一道長泉曳布開。鷲鶴偏隨飛勢至。連珠全逐逆流頹。巖頭照日猶零雨。石上無雲鎭聽雷。疇昔耳聞今眼見。何勞絕粒訪天台。

冷然院各賦一物得水中影應製一首。　桑廣田

万象無須匠。能圖緑水中。看花疑有馥。聽葉不鳴風。一鳥還添鳥。孤叢更向叢。天文遙降耀。應爲潭心空。

奉和翫春雪一首。　藤冬嗣

翫春雪。春雪紛々降九天。玉貞氛氳珊瑚殿。銀華繚繞玳瑁筵。後庭粉壁三更曉。上苑□□一夜然。絶愧敢和陽春曲。還娛影儷南風絃。

同。　滋貞主

翫春雪。雪影翩々暗四隣。姑射遙聞一處子。王門時見五車輪。凝黏翠箔懸珠滴。競入粧樓作玉塵。欲伴仙園梅李樹。從風灑落艶陽春。

春日侍神泉苑賦得春月應製一首。　巨識人

春天霽靜無纖翳。皎潔孤明挂月來。窓外曲鈎卷疑箔。空中懸鏡不關臺。漸圓光隨漢東蜂。半缺影逐淮南灰。堯帝當時何計曆。須看蓂葉夾階開。

觀鬪百草簡明執一首。　滋貞主

三陽仲月風光暖。美少繁華春意奢。曉鏡照顔粧黛畢。相將戲逐(逐欺)覓紅花。紅花緑樹煙霞處。弱體行疲園逕遐。芍藥花。蘼蕪葉。隨攀迸落受輕紗。薔薇緑刺障羅衣。柳陌靑絲遮畫眉。環坐各相猜。他妓亦尋來。試傾双袖口。先出一枝梅。千(以下十八字恐衍)葉不同樣。百花是異香。樓中皆艶灼。院裡悉千葉不同樣百花是異香樓中皆艶灼院裡悉芬芳。菲散(動欺)□蓄慮競風流。巧咲便娟矜數籌。鬪罷不求動績顯。華筵但使前人羞。

和野柱史觀鬪百草簡明執之作一首。　巨識人

聞道春色遍園中。閨裡春情不可窮。結伴共言鬪百草。競來先就一枝藂。尋花万貴攀桃李。摘葉千廻繞薔薇。或取倒葩或尖蕚。人々相隱不相知。彼心猜我我猜彼。竊遣小兒行密窺。

團欒七八者。重樓粉窓下。百香懷裡薫。數樣掌中把。擁裙集綺筵。此首雜華鈿。相催猶未出。相讓不肯先。鬪百草。鬪千花。矜有嗤無意遞奢。初出紅茎敵紫葉。後將一藥爭兩葩。證者一判籌初負。奇名未盡日又斜。勝人不聽後朝報。脫贈羅衣耻向家。

和野内史留後看殿前梅之作一首。　桑腹赤

夙分爲官樹。開榮不畏寒。向南仙仗從。臨北綵花殘。待蝶香猶富。藏鶯影未寬。雖知先衆木。尙恨後天看。

夏日賦雨裡梅一首。　御製

庭梅入夏惟初晴。夕雨時霑葉復低。不辭實重枝將折。預恨無人追七分。

奉和觀落葉一首。　滋貞主

寒聲落葉簾前雨。點着閑筵不濕衣。聞道琁璣秋月暮。聖年宮樹待黃飛。

賦得隴頭秋月明一首。　御製

關城秋夜淨。孤月隴頭團。水咽人腸絶。蓬飛砂塞寒。離笳驚山上。旅雁聽雲端。征戎鄕思切。聞猿愁不寬。

奉和先韻。　野岑守

反覆天驕性。元戎馭未安。我行都護道。經陟隴頭難。水添鞞鼓咽。月濕鐵衣寒。獨提勅賜劒。怒髮屢衝冠。

賦得絡緯無機應製一首。　菅清公

歲暮倡樓冷。征夫消息希。思雖寧有憶。誰爲織寒衣。細緯元無杼。疎經不待機。疋成如可借。遠送寄金微。

和内史貞主秋月歌一首。　御製

天秋夜靜月光來。半捲珠簾滿輪開。擧手欲攀誰能得。披襟抱影豈重懷。雲暗空中淸輝少。風

來吹拂看更皎。形如秦鏡出山頭。色似楚練疑天曉。群陰共盈三五時。四海同朋一月輝。皎潔秋悲斑女扇。玲瓏夜鑒阮公帷。洞庭葉落秋已晩。虜塞征夫久忘歸。賤妾此時高樓上。銜情一對不勝悲。三更露重絡緯鳴。五夜風吹砧杵聲。明月年々不改色。看人歳々白髮生。寒聲淅瀝竹窓虛。晩影蕭條柳門疎。不從姮娥竊藥遁。空閨對月恨離居。

同和前韻。　桑腹赤

鐘鳴漏盡夜行息。月照無私幽顯明。歷々衆星皆掩輝。悠々万象不逃形。亭々光自嶺頭來。漸入高樓正徘徊。葉映洞庭波裡水。珠盈合浦蚌心胎。蓂莢滿自晤曆。仙桂花開誰所栽。點彩蕭踈楊柳堤。凝華遙褭白雲倪。吳江影下寒烏宿。巫峽光中曉猿啼。長信深宮圓似扇。昭陽秘殿淨如練。西園公讌本忘倦。北地胡人應好戰。占募狂夫久從征。料知照劔獨橫行。漢邊一雁負書叫。外城千家擣衣聲。月落月昇秋欲晩。妾人何耐守閨情。

神泉苑九日落葉篇一首。　御製

寥廓秋天露爲霜。山林晩葉併芸黃。自然灑落任朔風。搖颺徘徊滿雲空。朝來暮往無常時。北度南飛寧有期。歳月差馳徒逼迫。川皐變化遞盛衰。凞々春心未傷盡。黯忽復逢秋氣悲。商飈掩亂吹洞庭。墜葉翩翻動寒聲。寒聲起□洞庭波。隨波泛々流不已。虛條縮槭楓江上。舊盖穿逎荷潭裡。塞外征夫戍遼西。閨中孤婦怨睽携。容華鎖歇爲秋暮。心事相違多慘悽。觀落葉斷人腸。淮南木葉新雁翔。對此長年悲。含情多所思。吁嗟潘岳興。感歎淚空垂。秋云晩。無物不蕭條。坐見寒林落葉飄。

神泉苑九日落葉篇應製。　巨識人

晩節商天朔氣侵。嚴霜夜雨變秋林。高巒一獵欲吹盡。灑落寒聲万葉吟。來往本無何處定。東

西偏任自然心。颸空無著千餘滿。積地不掃尺許深。觀落葉兮落林塘。半分紅兮半分黃。洞庭隨波色泛映。合浦恩風影飄揚。繞藂菀似莊周蝶。度浦遙疑郭泰舟。四時寒暑來且往。一歲榮枯春與秋。劉安獨傷長年歎。屈平多增遲暮憂。紫塞寒風苦鐵衣。紅樓夜月怨羅帷。已見淮南木葉落。還逢天北雁書歸。觀落葉落林中。林中葉盡秋云窮。衰影遙知楚山桂。餘香猶想吳江楓。誰使變化能若此。一時万物不相同。唯餘上林凌霜葉。歲寒之後獨青葱。

和滋内史奉使遠行觀野燒之作一首。　巨識人

皇華辭宅遠有期。行踏雲山臘月時。疋馬駈馳忽逢夜。瞑曚暗色迷所之。誰村野火客行邊。不待月暉見朗天。初着孤褎微燎發。須臾逆散萬山然。炎燗紛飛無暫斷。冬時不寒還生暖。狀似天河曉星落。色如仙竈暮煙滿。寒氷鎔盡百谷中。熱雲蒸落九天空。山鳥愁傷搆巢樹。野人畏着編宇蓬。忽起邊風吹焦聲。雄光列々看更明。長途今夜不知暗。屢策輕蹄獨照行。

山亭聽琴一首。　良安世

山客琴聲何處奏。松蘿院裡月明時。一聞燒尾手下響。三峽流泉坐上知。

琴興一首。　巨識人

獨居想像嵇生興。靜室一弄五絃琴。形如龍鳳性閑寂。聲韻山水響幽深。極金徽一曲。萬柏無倦時。伯牙彈盡天下曲。知音者或但子期。子期伯牙歿來久。鳴琴千載□□□。

群書類從卷第百二十五

文筆部四

經國集序

東宮學士從五位下臣滋野朝臣貞主上

臣聞。天肇書契。奎主文章。古有採詩之官。王者以知得失。故文章者所以宣上下之象。明人倫之叙。窮理盡性。以究萬物之宜者也。且文質彬々。然後君子。譬猶衣裳之有綺縠。翔鳥之有羽儀。楚漢以來。詞人踵武。洛汭江左。其流尤隆。楊雄法言之愚。破道而有罪。魂文典論之智。經國而無窮。是知文之時義大矣哉。雖齊梁之詩風骨已喪。周隋之日規矩不存。而沿濁更清。襲故還新。必所擬之不異。乃暗合乎曩篇。夫貧賤則懾於飢寒。富貴則流於逸樂。遂營目□之務。而遺千載之功。是以古之作者。寄身於翰墨。見意於篇々。不託飛馳之勢。而聲名自傳於後。在君上則天文之壯觀也。在臣下則王佐之良媒也。才何世而不奇。世何才而不用。方今梁園臨安之操。贍筆精英。縉紳俊民之才。諷託驚拔。或強識稽古。或射策絕倫。或苞蓄神奇。或潛摸舊製。伏惟皇帝陛下。教化簡樸。文明鬱興。以為傳聞不如親見。論古未若徵今。爰詔正三位行中納言兼右近衛大將春宮大夫良岑朝臣安世。令臣等鳩訪斯文也。詞有精麁。濫吹須辨。文非一骨。備善維雜。若無琳瑯盈光。琬琰圓色。則取虬龍片甲。麒麟一毛。既

而太上聖皇。推玉璽而蹤寂。皇帝叡主。受昭華而德隆。共勉積學之添明。同要博文之助道。慧性竝懋。天才倶聰。雅操飛文。似兩龍之分燭。興寄摛藻。疑雙曦之齊暉。緊健之詞。體物殊聳。清拔之氣。緣情增高。實尉染毫。無勝負於八體。翡翠開匣。不優劣於六書。堯之克讓文思。舜之濬哲好問。先聖後聖。其揆一焉。又先歲昇霞之駕。叡藻猶遺當代。重輪之光。精華彌盛。臣閲史籍之卷。未有如此之時。但至如製令不敢評論。特降綸言。尙俾商確。尺表測景。日月不以缺其輝。寸管候時。陰陽無以錯其節。遂使龍蛇同穴。龜魚共淵。屈荊山之光。和碔砆之質。斷自慶雲四年迄于天長四載。作者百七十八人。賦十七首。詩九百十七首。序五十一首。對策三十八首。分爲兩帙。編成廿卷。名曰經國集。冀映日月而長懸。爭鬼神而將奧。先入秀麗者。卽不刊之書也。彼所漏脱。今用兼收。人以爵分。文以類聚。然年代遠近。人文存亡。搜而未盡。闕而俟後。謹與參議從四位上行式部大輔臣南淵朝臣弘貞。從四位上行大學頭兼文章博士播磨權守臣菅原淸公。從四位下行東宮學士臣安野宿禰文繼。正五位下守中務大輔臣安部朝臣吉人等。詳擧甄收。無所隱秘。臣等學非飽蹠。智異聚沙。朱愚出上。逼以嚴命。辭而不獲。敢以參議。爵次姓名列之如左。謹上。

天長四年五月十四日

經國集卷第一目錄　賦一

經國集卷第一

春宮學士從五位下臣滋野朝臣貞主奉
勅撰

賦類

春江賦。　太上天皇

仲月春氣滿江鄉。新年物色變河陽。江霞照出辭寒彩。海氣晴來就暖光。柳懸岸而烟中綻。桃夾堤以風後香。望春江兮騁目。觀淸流之洋洋。或漫兮似不流。或渺兮逝不留。長之難可識。濬之誰能測。玆可謂春氣動而著於江色也。是以羽族翺翔。鱗群頡頏。繽紛雜沓。載來載行。咀嚼初藻。呑茹新荇。各々吟叫。處々相望。涉人廻檝。與淵客而爲倫。漁童擧宇。接鮫室而同隣。隨波瀾之渺邈。轉舳艫而尋津。菱

歌於是頻沿沂。客子於是不勝春。茲可謂江村春而感於情人也。于時花飛江岸。草長河畔。蝶態紛紜。鶯聲撩亂。遊覽未已日落涘。夜在江亭。高枕臥矣。江上月。浪中明。靜如練而雲間發光。與水而共淸々。山風入於戶牖兮。聽颸飁乎松聲。歸雁欲辭汀洲去。飢猿曉動羈旅情。歸旅乘春心轉幽。江南江北事遨遊。惣爲春深多感歎。年々江望得銷憂。

重陽節菊花賦。　太上天皇

白藏氣季。玄月天高。霜零漂々。商風騷々。觀物理於盛衰兮。知造化之異時。林何樹而不搖落。原何艸而不具腓。豈若芳菊神奇。在枯獨滋。蔓延靃靡。緣岸被坻。花實星羅。莖葉雲布。香飄朝風。色照夕露。於是日當重陽。高宴華堂。正開玳席。傍引賢良。陽隨桓景而訪古。就陶潛以命觴。摛賞心於翰墨。聽絲竹之淸商。于時衆芳彫寒菊唉。殊蓊鬱獨照曜。或素或黃。滿庭芬馥。淑媛望兮移步。妖姬歡兮屬目。攘溺腕而採嫺。擢纖手以摘花。珠顏俄爾益艶。雲髻忽焉重釵。期採摘於盈把兮。爰逍遙乎日斜。亦有鍾生稱其五美。屈子飡其落英。徵神仙之靈藥。忘塵俗之世情。感雁序於薄晩兮。傷落葉乎秋聲。時屬長年之多歎。還欣斯花之延齡。

小山賦。　石宅嗣

夫四序之交代。經萬古以無私。草逢春而花錦。樹入夏而葉帷。秋氣悲兮落實。冬風急兮空枝。觀節物之如此。覺世人之盛衰。聞瀛岳方靡覿。望帝鄕兮難期。顧爲山之在進。想覆簣之不移。事孰有貴。會心無卑。搆微岫於庭際。引細流於堂垂。天下有山。地中生木。小人以遠。君子所育。雖乏習坎之勢。豈謝設險之德。坐酌損之澤西。臨制節之水北。爾乃參差簣土。日度不障。皎潔坳地。風動而奚漲。松欹岸

兮傾レ盖。石澄レ流兮泛レ鏡。雲片覆兮嶺陰。月半出兮谿映。鳥乍レ鳴兮遷レ木。我若レ遺兮委レ命。嗟大造之珠品。誠卑細而同レ慶。於レ是攝ニ深思於一指。跨ニ鯤海一而無レ居。騁ニ幽情於萬物一。據ニ蟻垤一而有レ餘。信夫不レ出ニ戶牖一而知矣。何必歷ニ覽山水一而尙レ諸。聊託ニ文之在レ茲。式寫ニ心之所レ如。亂曰。四節遞謝兮萬物榮枯。視レ昔異レ代兮知ニ後同途一。高尙在レ心兮坳地足只。淸淨委レ命兮崑岳蔑爾。禽獸不レ羣兮何必避レ世。簞瓢爲レ樂兮聊以卒レ歲。爲而不レ恃兮孰知ニ其德一。燕處超然兮唯道是則。

和ニ石上卿小山賦一。　陽豐年

惟岐極之降神。據命世之偉人。擇ニ仁里一而獨放。追ニ義跡一而自珍。旣自レ公而暢レ俗。亦退レ私而尋レ眞。高ニ臥吏隱之際一。幽ニ居道德之隣一。豈ニ東海之肥遁一。恨ニ北山之隱淪一。於レ是榮ニ阿闕一兮臨ニ一邊一。建ニ菴室一兮奏ニ五絃一。巖搆ニ礪齒之石一。池涌ニ洗耳之泉一。魚喁レ水而相戲。鳥擇レ木而爭遷。植ニ貞松於情岳一。挺ニ幽蘭於心田一。冐ニ霜霰一兮增レ勁。引ニ風烟一兮翻レ姸。時招ニ拔茅之客一。乍對ニ竊藥之仙一。一岳一壑。三益三樂。優ニ遊仁智之藪一。晧ニ蕩經史之閣一。沖ニ玄其志一。高ニ素其致一。瑩ニ神兮泉石一。息ニ肩兮人事一。或擧レ目而高吟。或負レ手而長嘯。視ニ徙溟之垂天一。翫ニ槍榆之控地一。惟ニ逍遙之在レ我。何夸ニ仙之足レ冀。嗟夫寵辱若レ驚。貴賤混レ情。旣無レ謀ニ於異レ道。唯有レ應ニ於同レ聲。樂ニ大玄於尙白一。悲ニ化緇於拾靑一。且得ニ丘園之趣一。焉知ニ實賓之名一。亂曰。玄之又玄兮暢ニ我情性一。材與ニ不材一兮處ニ我運命一。纒牽之長兮累ニ彼千里一。池館之寂兮縱ニ茲一己一。吾生有レ疑兮世事無レ當。忘レ蹄得レ兎兮臨レ岐亡レ羊。大鵬小鷃兮相去幾許。左レ琴右レ書兮稅ニ駕此處一。

棗賦。　藤宇合

一天之下。八極之中。園池綿邈。林麓斗茸。奇木殊レ名而萬品。神菓分レ區以千藁。持ニ西母之玉棗一。

麗成王之圭桐。何則卜深居而榮紫禁。移盤根以茂形庭。飡地養之淳渥。禀天生之異靈。依金闕而播彩。隨玉管而流形。固本枝於百卉。植聲譽於千齡。爾其秋實抱丹心而泛色。春花含素質而飛馨。朝承周雨漢露。夕犯許月陳星。當晚節而愈美。帶涼風以莫零。石虎瞻而類角。李老翫而比瓶。投海傳繆公之遠慮。在篋開方朔之幽襟。雞心釣名洛浦。牛頭味稱華林。斯誠皇恩廣被草木。聖化實及豚魚。何必秦松授乎封賞。周桑載乎經書。

和和少輔鵜鴒賦。　仲雄王

何陶冶之多端。包萬類兮流形。惟雍渠之微鳥。居一物兮含靈。禀玉衡之散彩。銜金水之淳精。常棲渚而任性。或在原而勞生。若乃韶風澹蕩。景色淑美。惟雄惟雌。爰孳爰尾。就河畔之青草。託孤栖於茂裏。外則蒙蘢兮亭童。內則渤朗兮芳通。視鷹鸇兮不能□。窮烏鳶兮安得知。已異幕燕之易覆。寧同園鵲之極危。爾乃化素卵於翼下。破白玉而出雛。思飲啄之未習。勞哺育而忘軀。既而吉日良辰。天晴雲低。振尾翹翮。將雛離栖。出蘋蘩兮亂飛。集水濱兮羣啼。或居南居北。或向東向西。振斑翼而對母。開黃吻而乞哺。咨衆雛之已幼。專仰恃於一母。故不擇處兮苦求。寘寧居兮匪息。顧毛翮之既短。憫翩翾之無方。故得虫兮不獨食。得粒兮不獨食。伊茲鳥之無智。何茲愛之無極。於是嶺含斜影。庭生半陰。素嶺窺梁。丹鶯宿林。獨念衆雛之晚食。乘反照而悲吟。至如求多得少哺繁食稀。貪生之養母。見之增悲。寡婦之提孩。對之酸鼻。至如且行且搖則飛□鳴。兄之友弟。弟之事兄。聞之忽欲咸之動。彼天情之自然。非是自習之所成。誰其謂之異類。誠知契於生靈。

同。　菅清人

觀羽族之羣類。偉原上之連錢。挺參差之毛翮。施背腹之素玄。受含養於造化。任亭毒於自然。從運命兮擧動。與時節兮推遷。却斑彩于翡翠。謝貪穢于鵰鳶。望羊角以無及。竝鹿鳴以成篇。旣薄雙翔之入藻。詎異孤鶱之廻絃。及至星纒靑陸。氣變蒼天。見飛幕之難恃。思草芥之不全。逮峻嶺之極危。就翳薈之安禪。生雛兩箇。共哺同翩。下集金門之內。頡頏玉階之前。蔭息所得。進退靡捐。伊烏之微陋。何處身之篤虔。鶡武慧以見羈。鷹隼猛以被攣。非鶴脛之當斷。豈鳧足之可延。勤恩愛乎一己。盛孝敬乎維賢。於是歡文之會友。美德之有隣。同狂簡之小識。異斐然之爲賦。攀桃李以報蘭桂。唱下里以和陽春。

嘯賦。幷序。　　菅清公

淸公少好音樂。長而尙耽。雖云造次。心未暫捨。然而性與好背。事與意違。未曾手撫一絃口吹一管。至乎池亭景落物色將涼。吟咏乍疲。繼之以嘯。洪纖在口。俯短任心。無曲不寫。無歌不習。乃知音聲之妙。莫過於嘯。援笔賦之。聊以寫想。

伊八音之雅倫。共五聲而變會。導神祇之滯鬱。發陰陽之冥昧。諧奇調於律呂。馳妙響於竿籟。或金石之鏗鎗。或鞞鼓之琅瑲。爾其製器凌重巖而過松庭。涉危澗而入篁町。首岐袞專慮。班倕蓋程。鑠鑄矯揉。鏤鎸經營。皆因人以成事。猶假物以振聲。惟此嘯之作音。在脣吻而浮沈。意在竹而寫笙笛。想歸絲以像琵琴。發春林之鶯囀。亮曉巖之猿吟。分一氣於角羽。取衆響於凌深。暢山水之曲弄。流吳越之謳吟。爾乃韻無常調。無出不妙。歘無定時。有與是要。非拘栖雞之曙鳴。不守皐鶴之夜叫。避龍聲之陳階。謝鳳翼之入廟。至如蘇門之巔聽。鼓吹之喈然。印山之上驚。林谿之動焉。擅美前哲。

見述往篇。復有昔將城邊胡賊感乘月之妍。趙子江上船人見呼風之玄。是乃非止從容之散適。抑亦濟厄之奇權。故雖非感神之妙器。猶識徵藝之可宣。

重陽節神泉苑賦秋可哀。

太上天皇在祚。

秋可哀兮哀年序之早寒。天高爽兮雲渺々。氣蕭颯兮露團々。庭潦收而水既淨。林蟬跦以引欲殫。燕先社日蟄巖嶺。雁雜涼風叫江洲。荷潭帶冷無全葉。柳岸銜霜枝不柔。寒服時授。熟稼雜收。秋可哀兮哀草木之搖落。對晚林於變衰兮聽秋聲乎蕭索。望芳菊之丘阜。省幽蘭之皐澤。年華荏苒行將闌。物候蹉跎已廻薄。梵客悲哉之詞。晉郎感興之作。秋可哀兮哀秋夜之長遙。風凜々月照々。臥對風月正蕭條。窓前墜葉那堪聽。枕上未眠欲終宵。到曉城邊誰擣衣。冷々夜響去來飛。不是愁人猶多感。深閨何況怨別離。□嗟四運易行邁。惆悵三秋絕可悲。

重陽節神泉苑賦秋可哀應制。

皇帝在東宮。

秋可哀兮哀秋景之短暉。天廓落而氣肅。日淒清以光微。潦收流潔兮霜降林稀。蟬飲露而聲切。雁冒霧以行遲。屏除熱之輕扇。授御衆之寒衣。秋可哀兮哀百卉之漸死。葉思吳江之楓。波憶洞庭之水。草變貞以搖蔕。樹□容而懸子。秋可哀兮哀榮枯之有時。送春光之可樂。逢秋序之可悲。嗟搖落之多感。良無傷而不滋。悽承弁於岳輿。想拊衾於湛詞。粤採萸房之辟惡。復摘菊蘂之延期。小臣常有蒲柳性。恩煦不畏嚴霜飛。

同前　良安世

秋可哀兮哀初月之微涼。火度天而西流。金應律以爲玉。蟋蟀吟兮壁幽寂。蟬蜩鳴兮野蒼茫。

覩桐林之早彫。感節物而增傷。白日兮爰短。玄夜兮自長。秋可哀兮哀。仲月之收成。天高兮氣靜。池冷兮水淸。燕背巢而北去。鴻含蘆以南征。家々畏兮朔方氣。戶々起兮擣衣聲。秋可哀兮哀。季月之薄寒。寒眉嚬於陌柳。晩佩落於庭蘭。窈窕挿萸兮鴛鴦席。簪纓飮菊兮翡翠樓。痛風景之蕭索。悲搖落之暮秋。

同前。　仲雄王

秋可哀兮哀。淸商之初涼。高旻凄兮林藹變。厚壤肅兮山髮黃。聽征鴻之遵渚。瞕素領之辭梁。秋可哀兮哀。具物之具腓。送悠陽之暮曜。承曈曨之初輝。潭鳥鳴兮音冷。岸螢落兮火微。秋可哀兮哀。水木之淸幽。屬君王之景祚。陪帝者之佳遊。獻千秋之壽爵。荷萬代之天休。

同前。　菅淸公

秋可哀兮哀。三秋之爽節。潦行收而水淨。雲旣廓以天潔。望朝露之團々。聽夕風之烈々。秋可哀兮哀。秋物之變衰。草辭翠以委薄。葉帶紅而去枝。寒園柳落蟬聲斷。晩蒲蘆枯雁響悲。秋可哀兮感。秋情之易驚。蘭幸佩以擢秀。菊憶杯而含馨。皇歡爰發。叡輿自生。賁神泉之閑敞。降恩席以延英。鈞天奏樂。磬地壽禎。俱醉重々心未盡。羲和冀駐向西晶。

同前。　和眞綱

秋可哀兮哀。歲時之如流。季白鷹節。百工具休。秋何處而不興。興何秋而不愁。却暑絺於匣裡。禦寒飈於輕裘。傷曹子之惻怛。歎淮王之感憂。秋可哀兮哀。物候之凄淸。野改色以草槭。林代狀以枝輕。轉花心於風上。驚葉影於秋聲。霜凝菊兮蕭々。露留荷兮冷々。望離鴻之高翥。聽簷虫之潛鳴。秋可哀兮哀。短景之微陽。火遷行而增分。日廻晷而收光。晩蟬吟於踈柳。夜兎臨於戶堂。君王發言以形惆悵。挨摛叡作以挺天章。雖悲零落之序。欣奉名辰之昌。

同前。　　科善雄

秋可哀兮哀。秋氣之依々。望景宇而高爽。瞻林沼以澄稀。樹在庭前而併槭。草非塞外以具衰。菊方新而欲暮。蘭雖敗而猶芳。物色直置如此。自然堪斷人腸。秋可哀兮哀。歲序之遞過。觀搖落以起感。履代謝而自嗟。惜百年之過半。愴一生之蹉跎。陪重陽之慶席。知品彙之同頹。雖對秋天之淒景。何異冬日之可愛。

同前。　　和仲世

秋可哀兮哀。光陰之不駐。歎涼氣之奪熱。痛盲風之落樹。一葉增長年之思。獨杵悲征夫之戍。秋可哀兮哀。羣物之彫殘。柳斂眉於天苑。菊映貞於故欄。綵燕去而林巢閴。文魚聚以苔水寒。思虫苦於晚織。旅雁倦於路難。何四運之有信。寔大塊之多端。

同前。　　滋貞主

秋可哀兮哀。秋候之蕭然。潘郎可哀之歎。楚客悲哉之篇。虫慘悽而聲冷。露咄咤而泣懸。班姬酷怨同輕扇。青女微霜自旻天。却細絺於雲匣。授寒服於香筵。秋可哀兮哀。卉木之灑落。其物縮悴。爽氣遼廓。烟斷崇嶺。雲愁幽谿。淮南木葉聲虛散。上苑楓林陰未薄。幕下巢空燕早辭。湖中洲暄雁始歸。節灰尙如此。情人誰不悲。秋可哀兮哀。秋暉之易斜。巖筵掃葉。藤杯挹霞。朗吟聽竹樹。夕照倒水砂。脆柳暮兮觀疎星。叢蘭蔚兮聞濃馨。物色暫雖使人感。潭花但喜益仙齡。

經國集卷第一

經國集卷第十目錄　　詩九

樂府

太上天皇塞下曲一首

近江少掾從八位上惟良宿禰春道送伴秀才入道一首

皇帝扈從梵釋寺應制一首

中納言從三位兼行左近衛大將民部卿清原眞人夏野扈從梵釋寺應制一首

從四位下行彈正弼兼下總守三原朝臣春上一首

安養尼和氏禪居詩一首

正五位下春宮亮藤原朝臣三成春日山寺探得春字一首

太上天皇和良將軍題瀑布下蘭若簡清大夫之作一首

源弘一首

惟春道一首

太上天皇和惟山人春道晚聽山磬一首

良安世和藤判事題石窟僧之作一首

良安世別男子出家入山一首

良安世登延暦寺拜澄和尙像一首

小野岑守歸休獨臥寄高雄山寺空海上人一首

大僧都傳燈大法師位空海南山中新羅道者見過一首

釋空海過金心寺一首

釋空海留別靑龍寺義操阿闍梨一首

釋空海入山興一首

釋空海在唐觀昶法和尙小山一首

大學頭從五位上兼行東宮學士文章博士大外記朝原宿禰道永盂蘭盆會悲感歸心一首

正六位上加賀介弘道宿禰眞貞一首

大納言贈從二位石上朝臣宅嗣三月三日於西大寺侍宴應詔一首

從四位下守刑部卿兼因幡守守勳三等淡海眞人三船於內道場觀虛空藏菩薩會一

首
淡三船扈㆓從聖德宮寺㆒一首
淡三船聽㆓維摩經㆒一首
淡三船和㆓藤六郎出家之作㆒一首
淡三船贈㆓南山智上人㆒一首
從五位上行式部少輔藤原朝臣常嗣秋日登㆓
叡山㆒謁㆓澄上人㆒一首
左衞門權佐從五位上守左少弁笠朝臣仲守
冬日過㆓山門㆒一首
滋貞主和㆓光禪寺山房曉風㆒一首
滋貞主和㆓澄上人題㆓長宮寺二月十五日寂滅
會㆒一首
正五位下守中務大輔安部朝臣吉人忽聞㆓渤
海客禮㆑佛感而賦㆑之一首
大外記正六位上嶋田朝臣清田同㆘安領客感㆓
客等禮㆑佛之作㆖一首
大舍人助正六位上小野朝臣年永夏日同㆓美

三郎遇㆑雨過㆓菩提寺㆒一首
惟春道賦㆘得深山寺㆒應㆓太上天皇制㆒一首

經國集卷第十　詩九

勅撰

東宮學士從五位下滋野朝臣貞主奉

樂府。

七言。塞下曲一首。　太上天皇在祚。

百戰功多苦㆓邊塵㆒。沙上萬里不㆑見㆑春。漢家天子
恩難㆑報。未㆑盡㆓凶奴㆒豈顧㆑身。

七言。奉㆑和㆓塞下曲㆒一首。　菅清公

天山秋早雲花開。征客心消上苑梅。萬里他鄉
無㆓與晤㆒。遙瞻漢月自㆑南來。

同前。　巨識人

胡兒塞月曉吹㆑笳。梅柳雖㆑春未㆑見㆑花。爲㆑報㆓國
恩㆒不㆓敢死㆒。邊亭萬里老㆓風沙㆒。

七言。奉㆑和㆓塞上曲㆒。太上天皇在祚。

菅清公

虜塞草枯膠已寒。將軍浴鐵向桑乾。龍沙日夜風霜烈。壯士爲恩未識難。

五言。奉和巫山高一首。太上天皇在祚。　公主

巫山高且峻。瞻望幾岧々。積翠臨蒼海。飛泉落紫霄。陰雲朝晻曖。宿雨夕飄飆。別有曉猿叫。寒聲古木條。

同前。　巨識人

巫嶺巴東峙。雲崖貌削成。危巖干鳥路。虛谷寫雷鳴。雲臨朝館起。雨向夕臺行。秋月狐猿囀。腸斷旅遊情。

五言。奉和關山月一首。太上天皇在祚。　公主

皎潔關山月。流光萬里明。懸珠露葉浮。臨扇霜華淸。寒雁晴空斷。狐猿曉峽鳴。那堪空閨妾。未慰相思情。

同前。　菅清公

關山秋宿月。夜冷月彌淸。影共征輪滿。光含旅鏡明。龍城照雲陣。雁塞□星營。還入高樓裡。空令思婦情。

同前。　滋貞主

戍上孤明月。恒將太白看。弓彎漢卒臂。□挂拂兒鞍。□陣鼓聲死。伍營兵氣寒。嫦娥如有意。應照妾汎瀾。

七言。梅花引二首。　野岑守

水精窓外一株梅。擬納芬芳壓砌栽。地近恩煦花早發。君王帳裡香風來。

百卉寒無色。梅花獨有春。欲添新粧美。灑着妓樓人。

梵門。

五言。讃佛。　高野天皇

慧日照千界。慈雲覆萬生。億緣成化德。感心演法聲。

七言。見老僧歸山一首。　太上天皇
道性本來塵事遐。獨將衣鉢向煙霞。定知行盡秋山路。白雲深處是僧家。

七言。見老僧歸山應太上天皇制一首。
藤冬嗣
老僧落葉往玄虛。策杖伸腰四尅餘。自語一還不更出。乞城無若臥雲居。

七言。和藤是雄舊宮美人入道詞一首。
太上天皇
遁世明皇出帝畿。移居舊邑遣歲時。忽從此地昇雲後。唯有空居戀寵姬。訪道初停羅綺艶。剃頭新□比丘尼。嬌心欲識乖□縛。弱體那堪着草衣。山殿風聲秋梵冷。漢窓月色曉禪悲。焚香持誦寒林寂。坐向蒼天怨別離。

和藤是雄春日過安禪師舊院一首。
太上天皇
釋子歸眞炎涼變。空山獨閉應禪扃。草堂空駐松蘿月。石室罷翻了義經。護法鬼神何日會。隨緣猿鳥竟誰聽。道心拭淚禮遺跡。何恨化身不久停。

七言。與海公飲茶送歸山一首。
太上天皇
道俗相分經數年。今秋晤語亦良緣。香茶酌罷日云暮。稽首傷離望雲烟。

和惟逸人春道秋日臥疾華嚴山寺精舍之作一首。
太上天皇
絕頂華嚴寺。雲深溪路遙。道心登靜境。眞性隔塵囂。閱觴禪庭柏。觀空法界蕉。天花流澀澗。香氣度烟霄。風竹時明合。聲鐘曉動搖。轉經山月下。羸病轉寥々。

同。　滋善永
病中秋欲暮。策杖到雲居。古徑人來遠。霜林鳥道踈。飛雲心不定。身世是浮虛。月色孤猿絕。

岑聲一夜初。吹螺山寺曉。鳴磬谷風餘。蘭若遲廻久。寥々臥草廬。

七言。春日過山寺觀菩薩舊壇一首。　太上天皇

禪扃閉雲春山寒。林下苔封萬古壇。菩薩化身滅後事。空餘歲月白雲殘。

七言。問淨上人疾一首。　太上天皇

聞公蹔病臥山房。空報鐘聲不上堂。道性如思幽客問。須療身是眞藥王。

七言。奉和太上天皇訪淨上人病一首。　源弘年十六。

高僧幾歲養淸閑。病裡天花映暮山。野客時來通幽問。疎鐘獨通白雲間。

同前。　源常年十六。

支公臥病遺居諸。古寺莓苔人訪疎。山客尋來若相問。自言身世浮雲虛。

七言。寄淨公山房一首。　太上天皇

古寺從來絕人蹤。吾師坐夏老雲峯。幽情獨臥秋山裏。覺後恭聞五夜鐘。

七言。聞右軍曹貞忠入道因簡大將軍良公一首。　皇帝

久厭輪廻多苦事。遙思聽法鷲峯中。昨朝剃鬢陪丹闕。今夕僧衣向花宮。苔蘚密間乏塵垢。松杉攢處有淸風。芭蕉疎衲新慣著。貝葉眞經誦未工。山霧始開無明氣。溪泉欲洗夢心聾。夜來坐念因緣理。了得皆空々亦空。

七言。和御製聞右軍曹入道簡大將軍良公一首。　太上天皇

伊昔邊頭俠少年。今爲未將禁庭前。歸心厭俗兵戈能。仰拜彤闈謝皇天。塵衣已替薜蘿衲。道惟初寒楊柳綿。古寺莓苔新跡破。草堂磬梵舊聲傳。對鏡持齋宜野果。觀空爐氣和山烟。雖逢聖代多雨露。別是素懷奉金仙。

七言。奉和聖製聞右軍曹貞忠入道見

賜一首。　良安世

功忠非獨兵欄士。護國之誠法門人。丹闕上書已罷職。緇壇落髮不關塵。九重城裡回頭望。一乘車前專意臻。服色就眞道體改。冠痕未滅半額分。秋嵐晚偈對黃葉。曉月踈鐘在白雲。行道偏雖深蘿處。懸心猶是爲明君。

七言。送伴秀才入道一首。　惟春道

厭見風塵上下情。欲雲栖去學無生。妻孥弃在人間□。錫鉢遙尋象外行。盥漱應隨溪水暮。觀身靜坐進鐘聲。不知別後相思伴。何處烟霞訪姓名。

七言。扈從梵釋寺應制一首。太上天皇在祚。皇帝在東宮。

君王機暇倦夏日。午後尋眞幸龍宮。四五老僧迎鳳輦。形如槁木心恒空。飛棧樹杪踏雲過。石磴岩頭拂烟通。不待緣終象法盡。而今此處仰世雄。

扈從梵釋寺應制一首。　淸夏野

同前。　三春上

鑾輿近出王畿外。仙蓋高飛天闕中。合掌凝眸尋鷲嶺。焚香散蓋拜龍宮。老僧護法心彌寂。童子虛飡體旣窮。徐出庄梯知俗遠。閑遊石落覺塵空。禪場薜色無冬夏。幽谷松聲有隔通。宍眼今看眞如理。是着□□□□□。

五言。禪居一首。　尼和氏

棲隱多歸趣。從來重練耶。鴛言尋此處。此處幾經過。煙泛暗山樹。霞昭瑩野花。禪居無異物。微月入巖阿。

七言。春日山寺探得春字一首。　藤三成

法堂寂寞凡幾辰。雲樹朦朧欲暮春。遙聽風中誦經處。定知時有安禪人。

七言。和良將軍題瀑布下蘭若簡清大夫之作一首。　太上天皇

瀑布一邊一山寺。高車訪道遠追尋。空堂望崖銀河發。古殿看溪白虹臨。霧雨灑來雲爐氣。雷風噴怒亂鐘音。澹肢僧蒻流懸水。盥漱獨行禪定心。

同前。　源弘年十五（六イ）。

傳聞蘭若無人到。瀑布高流過半天。涌珠飛釜分萬壑。連波灑落成一川。四時每聽奔雷響。遠近同看白鵠懸。此地幽閑禪誦客。煩塵洗滌幾千年。

同前。　惟春道

知君策馬到雲居。古岸懸流數里餘。鏡色每將空性徹。氷華長馨道心虛。羅浮擊磬含風遠。于闐鳴鐘帶雨疎。終日洗塵看不足。銅瓶汲取夜禪初。

七言。和惟山人春道晚聽山磬一首。　太上天皇

黃昏磬發烟霄中。點々悠揚帶山風。林下暗堂臥聽磬。禪心觀念法皆空。

五言。別男子出家入山一首。　良安世

我有一兒子。塵煩不可侵。天縱成道器。童齒拔禪心。新負心經帙。初諳梵字音。野縫靑葛衲。□□綠蘿襟。杖錫岩苔上。提瓶澗水潯。苦行何處所。雪嶺白雲深。

五言。登延曆寺拜澄和尙像一首。　良安世

溟海占杯路。天台轉法輪。芳蹤踞冠國。應化不留身。道與乾坤遠。基將日月均。鑪煙猶似昔。形像正疑眞。定室苔封砌。禪房雲是隣。登攀春黛裡。拜頂暮鍾辰。

五言。歸休獨臥寄高雄寺空海上人一首。

野岑守

三千千法界。一十三生死。空色將有無。俄頃復忽矣。影花假艶嬌。風火期滅已。寵辱驚難息。是非紛易似。聖人獨出鑒。獨臥白雲裡。忍鎧詎爲穿。慧刀豈因砥。五明探眞密。七覺泊神理。護戒鵝得性。依慈鴿知時。垂蘿宜綴衲。盤木便馮几。野院醉茗茶。溪香飽蘭茝。昔余深結義。自爾十餘紀。眞諦憐俗物。緇衣交素履。彌天許道安。四海慙鑿齒。幸遇滄浪淸。濯纓欣貴仕。榮華尙貪進。盈滿未能止。恩貸雖曲私。□庸虛忝揆。勵鈆求一割。策駘思千里。日往月還來。愼終願如始。歸休樂閑寂。在蹟忘囂滓。披帙遊玄妙。彈琴翫山水。寄言陵藪客。大隱隱朝市。偏將瓊琚報。投之以桃李。

七言。南山中新羅道者見過一首。

釋空海

吾住此山不記春。空觀雲日不見人。新羅道者幽尋意。持錫飛來怡如神。

七言。過金心寺一首。

釋空海

古貌滿堂塵暗色。新華落地鳥繁聲。經行觀禮自心感。一兩僧人不審名。

七言。留別青龍寺義操阿闍梨一首。

釋空海

同法同門喜遇深。遊空白霧忽歸岑。一生一別難再見。非夢思中數々尋。

七言。在唐觀昶法和尙小山一首。

釋空海

看竹看花本國春。人聲鳥弄漢家新。見君庭際小山色。還識君情不染塵。

雜言。入山興一首。

釋空海

問師何意入深寒。深嶽崎嶇太不安。上也苦。下時難。山神木魅是爲瘴。君不見。君不見。京城御苑桃李紅。灼々紛々顏色同。一開雨。一散風。

飄上飄下落園中。春女群來一手折。春鶯翔集喙飛空。君不見。君不見。王城城裏神泉水。一沸一流速相似。前沸後流幾許千。流之流之入深淵。不入深淵轉々去。何日何時更竭矣。君不見。君不見。九州八嶋無量人。自古今來無常身。堯舜禹湯與桀紂。八元十亂將五臣。西嬙嫫母支離體。誰能保得萬年春。貴人賤人總死去。死去死去作灰塵。歌堂舞閣野狐里。如夢如泡電影賓。君知否。君知否。人如此。汝何長。朝夕思堪斷腸。汝日西山半死士。汝年過半若尸起。住也住也一無益。行矣行矣不須止。去來去來大空師。莫住莫住乳海子。南山松石看不厭。南嶽清流憐不已。莫慢浮華名利毒。莫燒三界火宅裏。斗藪早入法身里。

五言。盂蘭盆會悲感歸心一首。

朝道永

皈依三界主。景慕六通賢。拔苦覃窮地。酬恩達昊天。花飄開法宇。香泛發飢脣。既請如來教。還休餓鬼神。善哉爲子道。拔苦逐安親。

七言。三月三日於西大寺侍宴應詔一首。高野天皇在祚。

石宅嗣

三昇三月啓三辰。三日三陽應三春。鳳蓋凌空臨覺苑。鸞輿□日對禪津。青絲柳陌鶯歌足。紅蘂桃溪蝶舞新。幸屬無爲梵城賞。還知有截不離眞。

五言。於内道場觀虛空藏菩薩會一首。高野天皇在祚。

淡三船

鳳闕留仙影。龍墀演法音。是空神尙寂。卽色理逾深。夕梵聞雲霧。朝鐘徹霧林。幸從無漏界。長絕有爲心。

五言。扈從聖德宮寺一首。高野天皇在祚。

淡三船

南嶽留禪影。東州現應身。經生名不成。歷世道彌新。尋智開明智。求仁得至仁。垂文傳正

法。照武掃凶臣。茂實流千載。英聲暢九垠。我皇欽佛果。廻駕問芳因。寶地香花積。鈞天梵樂陳。方知聖與聖。玄德永相隣。

五言。聽維摩經一首。　淡三船

演化方丈室。談玄不二門。已觀心有種。旋覺理無言。地似毗耶域。人疑妙德尊。誰知從此會。頓入總持園。

五言。和藤六郎出家之作一首。　淡三船

戚里辭榮親。玄門問覺津。法雲爰疊彩。惠日更重輪。樂道心逾逸。安空理轉眞。高風如可望。從子避囂塵。

五言。贈南山智上人一首。　淡三船

獨居窺巷側。知己在幽山。得意千年桂。同香四海蘭。野人披薜衲。朝隱忘衣冠。副思何處所。遠在白雲端。

五言。秋日登叡山謁澄上人一首。　藤常嗣

城東一岑聳。獨負叡山名。貝葉上方界。焚香鷲嶺城。甑飡藜藿熟。臼飵練沙成。輕梵窓中曙。疎鐘枕上淸。桐蕉秋露色。雞犬冷雲聲。高陽丹丘地。方知南嶽晴。

冬日過山門一首。　笠仲守

香刹靑雲外。虛廊絕岸傾。水淸塵躅斷。風靜梵音明。古石苔爲席。新房菴作名。森然蘿樹下。獨聽暮鐘聲。

七言。和光禪師山房曉風一首。　滋貞主

孤峯仰與白雲同。到曉深寒滿院風。雁影吹來古搭上。泉聲繞定近溪中。侵窓老樹雖鳴葉。閉戶妙燈猶護蟲。百籟相和山更靜。禪心彌觀世間空。

和澄上人題長宮寺二月十五日寂滅會

一首。韻不レ改。

滋貞主

種好六年備。昏衢仰映臨。涅槃非二實道一。尊象是夢金。名字自希絶。經王亦甚深。化流崛山嶺。霍留菩提林。一字悲難レ竭。三車感不レ任。聞レ經帝釋下。捧レ穀虛堂尋。繞レ塔看二歸雁一。思レ龍託二樹陰一。不常猶不住。非曩亦非今。法座楞伽說。禪房仙掌琴。貝葉傳レ梵啓。鐘聲入レ谷沈。德水洗二塵意一。天花落二俗襟一。如來不二生滅一。照薰修□心。

七言。忽聞二渤海客禮一レ佛感而賦レ之一首。

安吉人

聞君今日化城遊。眞趣寥々禪跡幽。方丈竹庭維摩室。圓明松盖寶積球。玄門非レ無又非レ有。頂禮消レ罪更消レ憂。六念鳥鳴蕭然處。三歸人思幾淹留。

七言。同下安領客感二客等禮一レ佛之作上一首。

嶋渚田

禪堂寂々架二海濱一。遠客時來訪二道心一。合掌焚香忘二有漏一。廻心頒偈覺二迷津一。法風冷々疑レ迎レ曉。天蕚輝々似レ入レ春。隨喜君之微妙意。猶是同見崛山人。

七言。夏日同下美三郎遇レ雨過二菩提寺一作上一首。

野年永

晚景雲蒸雨初下。遊人半濕青山側。垂レ鞭撫レ轡無レ所レ往。便寄二玄爐一且棲息。古殿燈薰栴檀香。山僧法服薜花色。深窓欲レ曙憑レ松暗。絕巘初明銜レ雲蘿。誰識心田先種レ因。希夷覺レ路仰二餘德一。

七言。賦二得深山寺一應二太上天皇制一一首。

惟春道

上方來往路難レ尋。塔廟青山祇樹林。片石觀レ空何刧盡。孤雲對レ境幾年深。紗燈點々千峯夕。月磬寥々五夜心。到レ此能令二身世忘一。塵機不レ得二更相侵一。

經國集卷第十

經國集卷第十一目錄　詩十

雜詠一

平城天皇詠殿前梅花一首
從四位下行東宮學士兼文章博士高村宿禰田使詠庭前梅花應制一首
平城天皇落梅花一首
參議從四位上小野朝臣岑守奉和落梅花一首
正五位下行但馬守和氣朝臣廣世一首
平城天皇詠庭梅一首
播磨守贈正四位下賀陽朝臣豐年奉和庭梅一首
太上天皇早春一首
東宮學士從五位下滋野朝臣貞主奉和早春一首
太上天皇早春觀打毬一首
太上天皇春日作一首
三品有智公主奉和春日作一首
野岑守一首
從四位上行大學頭兼文章博士播磨權守菅原朝臣清公一首
滋貞主一首
從五位上行民部少輔藤原朝臣衞一首
太上天皇見滋貞主春日病起一首
太上天皇和藤朝臣春日過（遇イ）前尚書秋公歸病之作一首
野岑守一首
從四位下行民部大輔兼東宮學士上毛野朝臣穎人一首
太上天皇閑庭早槑一首
太上天皇和菅原清公春雨之作一首
滋貞主一首

從五位下守右近衛少將兼行下總權介紀朝臣長江賦賜看紅梅探得爭字應令一首

文章生從八位下藤原朝臣令緖早春途中一首

經國集卷第十一　詩十

東宮學士從五位下臣滋野朝臣貞主奉勅撰

雜詠一。

五言。詠殿前梅花一首。　平城天皇在東宮。

仲春雖少暖。梅樹向鶯時。發艶將桃亂。傳芳與桂欺。可攀猶可折。堪寄亦堪貽。儻有臨羹和。能無致味滋。

五言。奉和殿前梅花。　高田使

忽見三春木。芳花一種催。素葩承日唉。黃蘂對風開。舞蝶飛更聚。歌鶯去且來。和羹如可適。以此作鹽梅。

五言。落梅花。　平城天皇在東宮。

二月云過半。梅花始正飛。飃颻投暮牖。散亂拂晨扉。蕚盡陰初薄。英疎馥稍微。再陽猶未聽。誰爲惜芳菲。

五言。奉和落梅花一首。　野岑守

晩樹梅花落。輕飛競滿空。窓前將歛素。簾下未銷紅。著面催粧婦。黏衣助女工。華篇終寡和。何獨郢之中。

同。　和廣世

凌空朱早發。競暖素初飛。送吹香投牖。迎光影拂扉。棟蘂實漸見。葉細蔭猶微。願遇重陽日。承暉擅芳菲。

五言。詠庭梅一首。　平城天皇在東宮。

庭梅競(開イ)艶色。朝暮正芳菲。可惜(憐イ)春風下。苑花一亂飛。

五言。奉和庭梅一首。　陽豐年

宮裡一梅樹。寒花尙入春。風涼徒苦節。日暖獨

當仁。封雪猶餘影。拾霞未斂新。竟逢攀折與。輕散舞儲茵。

五言。早春一首。　太上天皇在祚。

玉律三陽始。年芳萬里生。山晴銷片雪。地暖動群萠。色微沙嶼草。哢涉柳園鶯。唯有歸飛雁。連連回北聲。

五言。奉和一首。太上天皇在祚。　滋貞主

淑穆年華早。圭陰漸欲長。舒榮仙禦柳。仰煦古疇楊。北雁非寒候。南鶯是暖陽。春人釋舊服。何處不新粧。

七言。早春觀打毬一首。使渤海客奏此樂。　太上天皇

芳春烟景早朝晴。使客乘時出前庭。廻杖飛空疑初月。奔毬轉地似流星。左擬右承當門競。分行群踏虬雷聲。大呼伐鼓催籌急。觀者猶嫌都易成。

七言。奉和觀打毬一首。　滋貞主

蕃臣入覲逢初暖。初暖芳時戲打毬。綉戶爭開鵁鶄館。紗窓不閉鳳皇樓。如鈎月度蓂階側。似點星晴綵騎頭。武事從斯弱見輸。輸家妬死數千籌。

五言。春日作一首。　太上天皇在祚。

聞是新正後。陽和二月時。庭蘭萠稚葉。窓柳亂輕絲。花色風初暖。鶯聲日漸遲。春來傷節候。幽興復熙々。

五言。奉和春日作一首。　公主

近來風日麗。萬物奢春光。烟輕新艸綠。林暖早花芳。餘雪落梅院。遊絲垂柳塘。鴻雁初遵渚。歸飛向朔方。

同前。　野岑守

苦寒經暮節。服暖仰初陽。龍鳳長樓影。鴛鴦簿瓦霜。窓開青柳色。院閉紫梅芳。一聽虞韶美。能令三月忘。

同前。　菅清公

歲去纔移月。年光處々賒。和風催柳絮。殘雪伴梅花。樹暖鶯能語。蘂芳蝶自奢。一馳千里目。春思忽紛拏。

同前。　滋貞主

聖眼閲奔竊。芳情從此頻。便娟韶吹暖。旖施歲腴新。紫擇須抽節。青蘂欲勝茵。金堤輕凍罷。初使詠潜鱗。

同前。　藤衞

時去時來秋復春。一榮一醉偏感人。容顏忽逐年序變。花鳥恒將歲月新。

五言。見滋貞主春日病起一首。　太上天皇在祚。

辭闕沈痾久。別來秋復春。賴逢陽氣煦。喜見更生人。

五言和藤朝臣春日過前尚書秋公歸病作一首。　太上天皇在祚。

闕下新辭祿。都門舊一疎。幽情吟招隱。孤興賦閑居。烟景春深色。群萠雪尺餘。夜來琴酒意。松月曉窓虛。

同前。　野岑守

伊人登仕久。閑養臥芳春。知足愼玄誠。辭盈謝鬼神。貞松百尺節。寒竹四時筠。應識千年後。獨將疎氏倫。

同前。　毛穎人

未及懸車乞骸骨。明皇恩寵帶平章。近江太有鱸魚膾。定識休閑壽命長。

七言。閑庭早梅一首。　太上天皇

庭前獨有早花梅。上月風和滿樹開。純素不嫌幽院寂。濃香偏是犯窓來。纖々枯幹知初暖。片片寒葩委舊苔。自恨無因佳麗折。徒然老夫野人栽。

五言。和菅清公春雨之作一首。　太上天皇在祚。

崇朝雲氣晴。密雨泛春空。京洛囂塵歛。章臺夕影曚。懸珠新古樹。含潤短脩蘂。芳澤被群物。鶯華二月中。

同前。　滋貞主

有渰公私遍。初令東作霑。杏花新色淺。菖葉早莖纖。暮影頻來舘。春聲不斷簷。群芳從此出。何處見寒潛。

七言。老翁吟一首。　太上天皇

世有不羈一老翁。生來無意羨王公。入門忘却貧與賤。醉臥芳林花柳風。

雜言。鞦韆篇一首。　太上天皇在祚。

幽閨人。粧梳早。正是寒食節。共憐鞦韆好。長繩高懸芳枝。窈窕翩々仙客姿。玉手爭來互相推。纖腰結束如鳥飛。初疑巫嶺行雲度。漸似洛川廻雪皎。春風吹休體自輕。飄々空裡無厭情。佳麗鞦韆爲造作。古來唯惜春光過。清明蹋雲雙履透樹差。曳地長裾掃花却。數擧不知香氣盡。頻低寧顧金釵落。嬋娟嬌態今欲休。攀繩未下好風流。敎人把着忽飛去。空使伴儔暫淹留。西日斜。未還家。此節猶傳禁火。遂無燈。月爲燈。鞦韆樹下心難歇。欲去踟躕竟不能。

雜言。奉和鞦韆篇一首。　滋貞主

寒食節。周舊制。禁火餘風猶未廢。麗景雖多雄勝壤。光華未若帝鄕霽。相將容豫自何憐。昨日烟林採擷人。借問遊蹤攸向處。鞦韆好樹一園春。自凌旦。欲暮時。後輩趍來滿路陣。或步或車塵影合。半休半戲語聲微。初惟淺暗楡槐柳。酷氣深濃桃李梨。斧幹高橫來似落。長繩倒着去如飛。常人熟得新者畏。往歲遄停今年進。弱腕經營不識罷。輕躬憐愛無意歸。花與飾。飾與花。一香發。雙色奢。鬟鬟迎枝蟬翼薄。釵鈿礙葉燕陰斜。非唯瑋態鞦韆工。婦容婦德亦婦功。明日更期鬪百草。君王花樹芳菲中。

七言。看源童子書跡一首。

皇帝在二東宮一

花間垂レ露緑毫滿。峯際崩雲逐點安。上代神童吾所レ聽。誰言今日眼前看。

七言。賦二新年雪裡梅花一一首。

公主

春光初動寒猶緊。一株梅花雪裡開。想二像宮中嬋娟處一。暗知二黄鳥稍相催一。

五言。暇日閑居一首。　良安世

暇日除二煩想一。春風讀二楚詞一。鶯閑啼鳥換。門掩世人稀。初笋籬邊出。遊絲柳外飛。寥々高レ枕臥。庭樹落レ花時。

五言。竹樹新栽流水遠引即事有レ興把レ筆直疏得二寒字一應レ制一首。太上天皇在祚。

野岑守

竹樹新成レ蔭。春光始欲レ闌。雜花壓レ欄暖。瀑水擊レ梁寒。侍女開レ扉聽。親臣卷レ箔看。非レ經二山河遠一。即坐得二考盤一。

七言。現果詩一首　釋空海

青陽一照二御苑中一。梅蘤先レ衆發二春風一。春風一起馨香遠。花蕚相暉照二天宮一。

七言。過因詩一首。　釋空海

莫レ道此花今年發。應レ知往歲下二種因一。因緣相感枝幹聳。何況近日遇二早春一。

七言。賦レ桃應レ令一首。平城天皇在祚。(東宮イ)　陽豐年

武陵仙蕚本紛々。南國容花未レ足レ云。幽徑無レ掃維隱士。成蹊有レ詫彼將軍。風翻二麗影一遙揚レ馥。露點二鮮光一更起レ文。如値二上林移植會一。垂二蔭萬畝一插二青雲一。

同。　林娑婆

千歲一花聞二舊史一。三春坐移照二今年一。紅華媚レ日紅逾煥。錦色須レ霞錦更鮮。秦客迷レ源長不レ返。漢兒延レ壽幾要レ仙。欲レ知二此樹成蹊德一。眞是芬芳自可レ憐。

五言。詠レ櫻。　陽豐年

早花春梢杪。櫻樹乃舒レ榮。獨抱二後肘歎一。還開二仲節英一。風前香自遠。日下色逾明。試賦二臨年蘷一。仙齡幾箇迎。

五言。春庭友人見レ過一首。　毛穎人

春氣不レ嫌レ人。席門花自新。雖レ異二陳平德一。欣驚長者塵。

雜言。奉レ和二太上天皇春堂五詠一四首。　南永河

御二春堂一。春堂六扇屏。淡墨圖形尙可レ辨。朝雲歸處巫山晴。　右屏。

御二春堂一。春堂苔蘚牀。幽棲自從嫌二玳瑁一。尋常石上又水傍。　右牀。

御二春堂一。春堂灼々瑋。蘭人高情天下小。偃息依レ之代二負扆一。　右几。

御二春堂一。春堂灼々燈。蘭膏更加夜過レ半。隱映雙花連レ影登。　右燈。

同一首。　淨夏嗣

侍二春堂一。春堂雲母屏。屈伸隨レ用無二定意一。唯期日夜對二龍扆一。　右屏

同三首。　惟春道

臥二春堂一。春堂疎竹簾。幽眺不レ眠復不レ卷。閑窓向レ曉月鉤纖。　右簾。

臥二春堂一。春堂南郭几。更有二千年靈壽杖一。相攜與レ爾扶レ坐起。　右几。

臥二春堂一。春堂獨夜燈。清影未二嘗欺一二暗室一。挑時更使二聖明增一。　右燈。

五言。同二春太詠レ鬼之什一一首。　石廣主

鬼神惟不レ測。冥運入二希微一。論二有形無形一。言二無道有奇一。齊襄未レ免レ譴。晉景亦殃隨。隱顯雖レ難レ定。福淫在レ可レ知。

雜言。臨二春風一效二沈約體一應レ制。太上天皇在祚。

滋貞主

臨㆓春風㆒。春風澹蕩起。初從㆓青蘋末㆒過。拂㆓琁閨裏㆒。香奩拭却飛栖塵。粧粉眼銷懊恨人。舞袖欲㆑縫絲履亂。音書未㆑寄怨愈頻。綠動㆓龍蟠葉㆒。紅驚㆓鳳腦花㆒。柳絮非㆓同處㆒。梅芬是滿㆑家。黃鶯雜沓誰求㆑媒。素蝶翩翻不㆑倦廻。一道風情如㆑有㆑感。吹㆑簾似㆑令㆓蕩夫開㆒。

七言。春日奉㆑使入㆓渤海客館㆒一首。

滋貞主

蒼茫渤海幾千里。五兩舟中送㆓一年㆒。鯷壑難辛孤帆度。鯨濤致怕遠情傳。春鴻愛㆑暖南江水。旅㆑客看㆑雲北海天。曉來莫㆑驚單宿夢。他鄉覺後不㆑勝㆑憐。

七言。聽㆓早鶯㆒示㆓惟山人春道㆒一首。

太上天皇

春皈物色早鶯飛。曉哢初皈人不㆑歸。寂々空房無㆓與聽㆒。春寒獨恨薜蘿帷。

七言。和㆘滋貞主城外聽㆑鶯簡㆓前藤中納言㆒之作㆖一首。

太上天皇

邃谷黃鶯無㆓儔侶㆒。冬天不㆑語在㆓荒林㆒。年來更遇㆓陽春候㆒。澁啼一喚㆓舊知音㆒。

七言。文友見㆑過賦㆓鶯勸㆒情晴字㆒一首。

滋貞主

春鶯出㆑自㆓環林裏㆒。雜㆓吹新聲㆒舊歲情。不㆑弄㆓疎籬花樹色㆒。群飛入㆓我晚風晴㆒。

五言和㆓藤神策大將閑㆑門好㆑靜花鳥馴㆑人不㆑勝㆑感什㆒一首。

滋貞主

陰吏兩相得。嫌㆑喧暫斷㆑賓。松蘿宜㆑避㆑暑。苔蘚不㆑看㆑塵。葉暗寸餘綠。花殘數片春。豪牽風月好。非㆓是道栖人㆒。

五言。詠㆓禁苑鷹生㆑雛一首。

陽豐年

峻嶺增㆓巢鳥㆒。生㆑雛禁苑中。依㆑昴留㆓皇矚㆒。神俊狙禪風。理翮情方盛。廻㆑眸氣不㆑窮。願栖㆓仙閣

下。將助魯臣忠。

同。　科善雄

茲禽群鳥俊。禁苑數雛生。日々雄姿美。朝々猛氣驚。青骹羈絲胖。素質狎丹庭。願以凌雲翼。長輸逐雀誠。

五言。月下聽孤雁一首。　淡福良

邊亭夜已闌。一雁曉聲寒。隻影霜中沒。孤音月下聞。單飛倦繳網。獨唳怨離群。欲傳羈客涙。若箇故鄉雲。

五言。詠燕。　枝直臣

表瑞集齊郡。呈靈入玉筐。龍潜避爽節。鳳擧逐春光。栖宇傳新語。銜泥尋舊梁。去來不失候。可謂識行藏。

七言。賜看紅梅探得爭字應令一首。　紀長江

二月寒除春欲暖。搖山花樹梅先驚。卽今紅蘂滿枝發。仙蕚褰簾感興情。香雜羅衣猶可誤。光添粧臉遂應爭。儻因委質瑤堦側。朝夕徒仰少陽明。

七言。早春途中一首　藤介緒

平旦揮鞭城外出。林村雨霽早春生。傍峯近聽樵客唱。入澗深聞斷猿聲。關北寒梅花未發。江南暖柳絮先驚。愁中路遠行不盡。爲有羈人故鄉情。

經國集卷第十一

經國集卷第十三　詩十二

雜詠三。

雜言。九日翫菊花篇。　太上天皇

沈寥兮晏穹。蕭索兮涼風。潦行收兮池沼潔。籜稍殞兮林莽空。菊之爲草兮。寒花露更芳。自分獨遲遇重陽。弱幹扶疎被曲丘。柔條婀娜影淸

流。綠葉雲布朔風辭。紫蒼星羅南鴈翔。逸趣此時開野宴。登高遠望坐花院。翫菊花。菊花韡黃。紛葩寂々無人見。獨携菊酒攄情素。各□幽栖少與晤。花開花落秋將暮。秋去秋來人復故。人物蹉跎皆變衰。如何仙菊笑東籬。看花縱賞機事外。閑與攀花令節宜。盈把陶令。稱美鍾生。吾與二人愛晚榮。古今人共味。能除癘亦延齡。

雜言。九日翫菊花篇應製一首。

源明（時年十三。）

翫芳菊。幾芬々。延壽時浮王弘酒。空嗟盈把夕陽曛。

同。　滋善永

萋々菊芳繞清潭。始有寒花一鴈南。岸芭早滋。（恐有脫歟）朝夜露餘香。盈把□隨陶元亮。登高欲訪費長房。飡英閑作湘南客。飲水延年酈北卿。翫黃花。黃花無厭日將斜。影入三秋□宛浦。人傳往事舊龍沙。葉如雲花似星。紛々幾處滿山亭。自有心中彭祖術。霜潭五美奉遐齡。

七言。山夜一首。　太上天皇

移居今夜薜蘿眠。夢裡山鷄報曉天。不覺雲來衣暗濕。卽知家近深溪邊。

七言。山居驟筆一首。　太上天皇

孤雲秋色暮蕭條。魚鳥淸機復寥々。欹枕山風空肅殺。橫琴溪月自逍遙。僻居人老文章拙。幽谷年深鬢髮凋。蘿戶閑來無一事。莫言吾侶隱須招。

五言。良納言秋山飲一首。

遁世雲山裏。秋深掩弊廬。溪厨作（昨歟）酌濁。野院旦焚枯。詠與逍遙事。琴聲語笑餘。欣將軒冕客俱醉晚林虛。

五言。途中九日一首。　良安世

客裏三秋暮。途中九日來。相留問行旅。如何菊花開。

五言。病中九日飲一首。　良安世

聞說重陽至。秋中菊酒情。卷簾傷暮節。把盞歎頽齡。彭澤黃花味。齊諧赤實馨。非無登望憶。惟力不堪行。

雜言。九日林亭賦得山亭明月秋應製。太上天皇製一首。　巨識人

秋天如水高且虛。上有明月無根株。流光洞澈空山裏。林下孤亭靜者居。往來一餌不死藥。已得一生長爲樂。山寂々。月團々。仙悵無眠山夜寒。千山一霜物衰朽。運謝時代空有々。雲鶴晴飛紫霄上。野猿清叫清溪口。月正午轉明。古蘿松下照幽情。今夕卽重陽。月樽唯是更生香。

五言。小池七夕。一首。　瑠〔飛イ〕高庭

星夕臥池邊。遙瞻〔望イ〕肆遠天。不知烏鵲意。何似達神仙。

七言。重陽節得秋虹應製一首。太上天皇在祚。　橘常主

君王出豫重陽序。試望秋虹遠近光。首尾分形浮殿閣。雌雄半體跨池塘。晴天色爽弦文艳。碧水陰生橋勢長。別有夢中華渚度。千年一聖誕明王。

七言。秋山望雲雨以憶此心一首。　釋空海

白雲輕重起山谷。蒼嶺高低本入空。或灑或飛南北雨。乍飄乍扇東西風。唯有一虛湛不變。千年方〔万〕歲顏色同。欲言[　]傍烟色。天水合暉秋月通。

七言。夜亭晚秋探得廻字應太上天皇製一首。　安文繼

無能白首侍池臺。不厭閑亭俯巖隈。陽面指天森松栢。陰崖滿地點莓苔。朝烟有色看深淺。夕鳥無心鬧往來。老病交侵秋已暮。恩和〔私イ〕假借暫徘徊。

雜言。奉和搗衣引一首。太上天皇在祚。

巨識人

婦家禮。生來十年不出門。四教傳受慈母言。始修法度何嚴重。婦功之營無與論。春天蠶作匴收絲。秋景織紝(縱イ)霜授衣。從此卽今勞所務。招携婭姹幾家姬。衣初擣。擣衣之難若寒早。女須鳴石秋聲擊。叔虞封枝月影抱。判是歌舞無勞曲。通霄砧杵未爲足。音韻塤箎不相讓。響添珮暗連續。万杵千砧意豈齊。殊令怨者就中悽。鴈度相思蘇子女(妻イ)。鴛機獨泣竇生妻。擣衣能華裁初織。四阿向曉風蕭𨄔。剪刀欲倦玉手冷。刺針還嫌線脚麤。不知肥瘦異於今。寛窄仍准別時襟。君不見。隴頭水。是妾悽切擣衣音。

同前。　惟氏

秋欲闌。閶門寒。風瑟々。露團々。遙憶仍傷邊戎事。征人應苦客衣單。匣中掩鏡休容飾。機上停梭裂殘織。借問擣衣何處好。南樓窓下多月色。芙蓉杵。錦石砧。出自華陰與鳳林。擣齊紈擣楚練。星漢西迴心氣倦。隨風搖颺羅袖香。嘆月高低素手涼。踈節往還繞長信。淸音悽斷入昭陽。就燈影。來玉房。力尺量短長。穿針泣結連枝縷。含怨縫爲万里裳。莫怪腰圍疇昔異。昨來入夢君容悴。

七言。夜聽擣衣一首。　楊泰師

霜天月照夜河明。客子思飯別有情。厭坐長宵愁欲死。忽聞隣女擣衣聲。聲來斷續因風至。夜久星低無暫止。自從別國不相聞。今在他鄉聽相似。不知綵杵重將輕。不悉靑砧平不平。遙憐體弱多香汗。預□更深勞(雖イ)玉腕。爲當欲救客衣單。爲復先愁閨閣寒。雖忘容儀難可問。不知遙意怨無端。寄異土兮無新識。想同心兮長歎息。此時獨自閨中聞。此夜誰知明眸縮。千尋海水尺地停。晨昏不霽煙霞霧。晝夜無環日月星。霍嶺仙炊雜樹葉。蘇門客嘯向巖扃。花林鳥入羽常引。薜荔(蘿イ)人歸逕不盡。錦里將粧

拾二翠具一。仙家欲レ葺二採黃菌一。武陵縣裏疑レ迷レ源。
明月峽中似レ聽レ猿。春秋暖冷同二千嶺一。草木榮枯
共二一園一。古年奇好盡二毫端一。坐臥之間未レ厭レ看。
潁川水曲巖陵〔嚴陵〕瀨。不レ知濕叟釣レ潭竿。

雜言。青山歌一首。　太上天皇

青山峻極兮摩二蒼穹一。造化神功兮勢轉雄。飛壁
嵚崟兮帖屛峙。層巒廻立兮□氣融。朝噴レ雲兮
暮吐レ月。風蕭々兮雨濛々。乍暗乍晴一旦變。凝
烟積翠四時□。神仙結レ閣仁智棲。暝或冥レ道而
窅。晚或晦レ跡以寂寞。林壑花飛春色科。登臨逸
興意亦賒。甚幽至險多二詭獸一。離俗遠□絕二囂譁一。
此地遨遊身自老。老來煢獨宿二懷抱一。夜深苔席
松月眠。出レ洞孤雲到二枕邊一。

雜言。奉レ和二太上天皇青山歌一一首。

良安世

屹嶹青山亘二千里一。嵚巇碧嶂幾千尋。千穹蒼而
獨秀出。凝二積翠一以常幽深。崔嵬不三是關二一匱一。

嵡鬱猶因二容衆林一。孔雀鳳凰翔二其頂一。熊羆犀象
棲二其陰一。遊仙所レ樂些。逸士所レ說些。三休古路。
雲格橫危。一道飛泉澗石鑿。風聽二仙僧淸梵處一。
煙逢二溪子釣漁泊一。山蕭條些。心寂寥些。塵滓之
鄉去迢々些。城中聖些。空二黛色一。有二勝地一兮不
レ識。人不レ識兮物外趣。而我到レ之。何由得二闍上一。
色映劉王汾水流。籠山暗濕長年葉。帶レ日高韜
短晷暉。紫府欲レ迎二仙駕一。養二青天曾助鵬翼一飛。
朝爲二巫嶺神姬氣一。夜作二銀河織女衣一。富貴人間
如二不義一。華封勸レ我帝鄉意。

七言。奉レ試賦二得秋一一首。每句用二十二律名字一。

紀長江

涼天蕭素太堪レ悲。況復寒鴻南度時。宦渡柳營
計レ應レ碎。扶風松蓋想レ無レ衰。擣二衣夾室一月光冷。
織二錦中閨一思緖滋。白露凝レ蘭洗レ佩淨。玄霜殺
レ草驚レ鐘飛。晴空雲埃收二遙嶺一。古木蟬蕤咽二晚
颸一。黃葉飄零秋欲レ暮。則知潘鬢颩如レ絲。

五言。奉試賦秋興一首。以建除等十二字居句頭。

治文雄

建酉星初轉。除濕金正王。滿江鴻翼疋。平陸菊蘂香。定識幽閨女。執梭織錦章。破簾蟲網薄。危牖月光涼。成雨葉聲亂。収芳草色黃。開書周覽後。閉戶歎潘郎。

五言。奉試賦得隴頭秋月明一首。題中取韻限六十字。

豐前王

桂氣三秋晚。萱陰一點輕。傍弓形始望。圓鏡暈今傾。漏盡姮娥落。更深顧兎驚。薄光波裏碎。寒色隴頭明。皎潔低胡域。玲瓏照漢營。誓將天子鈇。奴髮獨橫行。

同前。

野篁

反覆單于性。邊城未解兵。戍夫朝蓐食。戎馬曉寒鳴。帶水城門冷。添風角韻淸。隴頭一孤月。万物影云生。色滿都護道。光流佽飛營。邊機候侵寇。應驚此夜明。

同前。

藤令緒

簫關天氣冷。隴上月輪明。皎々含氷白。輝々入鏡澄。凌霜弓影靜。裛露扇陰淸。彩比齊紈洽。光同趙璧生。珠華浮鴈塞。練色照龍城。忝預昭君曲。長隨晉帝行。

同前。

治潁長

霜氣冷關樹。秋月色更明。定識懷恩客。揮戈從遠征。影寒交河道。輝度万里程。水底沈鉤碎。葉中尋落星。胡騎氣逾勇。漢營陣雜生。但忻重光暈。獨（發イ）照隴頭城。

五言。奉試賦秋雨一首。宮殿名限天韻。

山古嗣

秋雨正滂沛。旬朝灑玉堂。花濃蘂發越。鸞度石飛翔。已濯蘭林佩。更霑蕙草香。迎風散斜影。淸暑送浮涼。似露飄長樂。如塵拂建章。長年無破塊。崇德詠時康。

七言。看落葉應令（制イ）一首。

滋善永

秋天鶴唳露光團。万葉紛々歲欲闌。金井梧桐雖搖落。庭前孤竹不知寒。

五言。舊邑對雪一首。　平城天皇

始靄穹隆閣。紛々寂寞庭。如花梅下亂。似絮柳前縈。潔白因逢立。汚玄以染成。驟歌猶寡和。何處暢幽聲。

五言。奉和舊邑對雪一首。　太上天皇

舊邑同雲起。春天雪猶颺。含輝臨素扇。呈瑞滿冥霄。陰階飛更積。陽砌結還銷。郢曲能安和。羞歌下里調。

七言。除夜一首。　太上天皇

欲眠不眠坐除夜。（故イ）雲天此夜秀芳春。啓祥孤獨迎獻節。遁世詩情放隱淪。山雪暮光寒氣盡。庭梅曉色暖煙新。生涯已見流年促。形影相隨一老身。

七言。奉和除夜一首。　公主

幽人無事任時運。不覺蹉跎歲月除。曉燭半殘星色盡。寒花獨笑雪光餘。陽林煙暖鳥聲出。陰澗氷消泉響虛。（踈イ）故匣春衣終夜試。朝來可見柳條初。

同前。　滋貞主

新年欲到故年去。新故相連四氣和。預喜仙齡難老歇。還悲人事易蹉跎。春聲北向鴈將少。曉聽南驚鷺末多。雖値暄寒猶不變。閑菴砌後古松蘿。

同前。　惟氏

自從習靜出風塵。北斗□廻歲□巡。俗事□隨□夜盡。幽心獨對上陽新。煙嵐向暖迎年色。山燭閑燃避世人。泉石不知老將至。悠然徒任去來春。

五言。東宮歲除應令一首。（平城天皇在東宮。）　陽豐年

急景方彫節。窮陰復殺年。雪停羣嶺皎。風緊

衆林穿。壯齒隨霄變。衰客逐曉悛。搖山今日賞。錫命百憂蠲。

七言。守歲一首。　常光守

日月其除歲欲遷。風雲乍改尙冬天。不看明鏡暗知老。況復慈親七十年。

五言。閑庭雨雪。　皇太子春秋十七。

玄雲聚万嶺。素雪飈宮中。帶濕還凝砌。無聲自落空。奪失將作白。矯異實爲同。閑坐獨經覽。紛々道不窮。

五言。閑庭雨雪探得迷字應令一首。　滋貞王

欲儷淸彈曲。紫（榮イ）臺獨奈兮。封條樹裹重。潤翼鳥飛低。珠綴簾彌映。銀生牓不迷。庭隅無穢濁。愚操此思齊。

五言。山齊賦初雪一首。　公主

朔氣三冬緊。寒花千里飛。班姬亡扇色。孫子得書輝。凋曉猿無嘯。林春鳥不依。野途失薪者。還識薄蘿衣。

五言。夕次（宿イ）播州高砂一首。　淡福良

夕次高砂浦。時風暴且寒。凄々抱霜雪。夜々宿波瀾。釣火遙南岸。漁歌怨北灣。悲腸寸々斷。何日下生還。

五言。詠雪應詔一首。桓武天皇在祚。　朝道永

自天零者雪。撲地照而開。春絮榮冬柳。新花發舊梅。王家銀作屋。帝里玉爲臺。欲載千箱詠。東西一色來。

五言。詠雪一首。　金雄津

如玉如銀雪。自東自北來。園無無絮柳。庭有有花梅。瓊室非殷室。瑤臺異夏臺。九區千萬里。一種色皚々。

同前。　枝永野

散絮因風起。凝鹽任氣來。榭（臺イ）樓皆白玉。草樹總

花梅。國有豐年瑞。家無閉戸哀。但傷東隣屐。隨步跡猶開。

雜言。冬日途中値雪簡在督。　巧諸勝

晩路逢寒雪。紛々落醉顏。披裘從捷經。策馬越關山。鶴髮彌添白。烏頭漸欲斑。高人有意如垂訪。可答非因興盡還。

五言。奉和紀朝臣公詠雪詩一首。　楊秦師

昨夜龍雲上。今朝鶴雪新。怪看花發樹。不聽鳥驚春。廻影疑神女。高歌似郢人。幽蘭難可繼。更欲效而嚬。

五言。冬日友人田家被酒。　伊永氏

一宅長堤古。良田在西東。閑門經柳入。客舍度溝通。氷結波文斷。霜飛葉帷空。唯餘琴酒事。併是竹林風。

經國集卷第十三終

經國集卷第十四　詩十三

雜詠四。

五言。奉試詠天一首。　野岑守

列位三光轉。因時萬物通。窮陰終謝北。陽煦早驚東。就日望唐帝。披雲覩樂公。慙乏談天術。來班與奮雄。

五言。奉試詠梁得塵字一首。　南弘貞

鳳閣將成歲。龍樓結搆辰。杏翻華日影。梅起妙歌塵。帶紫朝光斷。含丹晩色新。願爲廊廟幹。長奉聖君宸。

七言。不堪奉試一首。　路永名

纖鱗迸浪慙力微。弱羽逢風倦退飛。別有邯鄲

學步者。中途匍匐不知歸。

五言。奉試得治荊璞。以天爲韻限六十字。

紀虎繼

荊山稱奧府。經史不空傳。中有連城璧。世無覓彼姸。潛光深谷內。韜彩峻巖邊。價逐千金重。形將滿月圓。氷霜還謝潔。金石豈齊堅。未過卞和獻。無由奉皇天。

五言。奉試得東平樹一首。

伴成益

東平靈感木。傾影志非空。地隔連枝異。神幽合意同。葉衰寧待雪。條靡自因風。迥望相思處。悲哉古墓中。

五言。奉試詠三一首。以帷爲韻。

文眞室

靑鳥居山日。丹鳥表瑞時。般湯數讓位。管仲終固辭。韻曲流泉急。入湖江水遲。寧知損益友。長下董生帷。

同前。

石越知人

曼倩文才長。相如作賦遲。尋朋云有益。交意此成師。鳥影日中掛。猿聲峽裏悲。坤天患久御。久下仲舒帷。

七言。奉試賦得王昭君一首。六韻爲限。

野末嗣

一朝辭寵長沙陌。萬里愁聞行路難。漢地悠々隨去盡。燕山迢々猶未殫。靑虫鬢影風吹破。黃月顏粧雪點殘。出塞笛聲腸闇絕。鎖紅羅袖淚無乾。高巖猿叫重壇苦。遙嶺鴻飛隴水寒。料識腰圍損昔日。何勞每向鏡中看。

五言。奉試得寶鷄祠一首。六韻爲限。

鳥高名

秦政初基代。文公致霸時。分形雉全似。流彩星相疑。綠野朝聲散。靑郊夕影飛。陳倉北坂下。千歲幾崇祠。

五言。奉和詠塵一首。六韻爲限。

藤關雄

紫陌暮風發。紅塵靄々生。牀中隨電影。梁上洗歌聲。老氏和光訓。莊生守儉情。拂林疑霧薄。飄沼似雨輕。戰路從柴曳。粧樓含鏡冥。未期禅峻岳。飛颺徒自驚。

同前。　菅善主

大噫籠群物。惟塵在細微。遇霖時聚歛。承吹乍零霏。洛浦生神襪。都城染客衣。朝隨行蓋起。暮追去軒歸。動息常無定。徘徊何處非。冀持老聃旨。長守世間機。

同前。　中良舟

桂宮飛細質。柳陌泛輕光。影逐龍媒亂。形隨鳳轄揚。鏡沈疑霧月。衣染似□粧。帶曲生珠履。臨歌繞畫梁。雨來収不發。風至聚還張。峻岳如無讓。微巧遮莫亡。

同前。　中良棳

康莊颷氣起。搏擊細塵飛。晨影帶軒出。暮光將蓋歸。隨時獨不競。與物是無違。動息如推理。逍遙似知幾。形生范甯甑。色化士衡衣。欲助高山極。還差冥質微。

同前。　菅清岡

微塵浮大道。靄々隱垂楊。聲暗龍媒埒。形飛鳳輦場。徘徊寧有定。動息固無常。逐舞生羅襪。驚歌起畫梁。因風流細影。似雪散輕光。無由逢漢主。空此轉康莊。

七言。奉試賦得照膽鏡一首。各以名字為韻。八韻為限。

野春卿

良冶練銅初鑄日。大雲烈々風焔頻。背文巧畫盤龍體。面彩能銜滿月輪。玉匣池深朝氣徹。金臺水冷夜陰申。空虛萬象見明處。野魅山精不隱身。西入秦城獻霸主。君王殿上燭佳人。衣裳整下綺羅色。容貌粧前桃李春。欲言情素卽因此。發昧誰勝奇寶眞。如今可用妍媸鑒。長願猶為照瞻珍。

七言。奉試賦挑燈杖一首。七言十韻。仍以挑燈杖爲韻。

猪善緇

斯杖任朴猶用勝。豈假良工加斲雕。白日黃昏燈始續。匪貧茲具未能調。若非蓁杖老全緊。或是莠莖炎亦焦。謬汚爲印盤外落。眼分精銳悵中挑。後有招携宴友朋。華堂四照列羊燈。時因永夜熖垂滅。每効微功明更增。廉吏嫌然火再不賞。神翁有備躬吹杖。宣神正使蘇公屬。致用亦令蜀婦紡。一客環堵曉夕勤。十年翫之自爲非。唯喜陋質助光力。弗敢効貪膏澤養。

五言。奉試得爨燒桐一首。限六韻。

枝礒麿

擢幹嶧陽岑。森々秀衆林。春花含日笑。秋葉帶霜吟。鳳影飄枝上。風聲散麗音。忽遇涼飆激。幾香動柱陰。匠石方無顧。何思爲爨侵。幸逢邕子識。長作五絃琴。

七言。看宮人翫扇一首。　錦彥公

妖姬二八御樓東。華扇添粧翳顏紅。遙似恒娥憑漢月。還疑班子恐秋風。掩鬢影暗寶劍上。隨手泣生羅袖中。寄語陽臺爲雨者。朝々應入楚王夢。

五言。和菅大夫曉頭聞鴈卒爾成篇一首。

惟春道

霜鴈猶翩々。隨陽南楚天。先羣飛稍遠。後舞來復前。弱羽資風力。危聲任月弦。稻粱恩欲報。猶繞舊池邊。

雜言。毓肩一首。　仲雄王

毓肩肉。赤凝脂。白登俎。更待庖丁手。鸞刀磨石及如霜。坐客看之相嚼久。鹽梅初和人爭喫。口飽情閑何欲有。君不見漢家一莊士。按劒寧辭一杯酒。

五言。石決明詞一首。　瑠高庭

七孔本無對。能令人決明。胎珠光未顯。誰識重連城。

雜言。清涼殿畫壁山水歌一首。

太山天皇在祚。

良畫師。能圖山水之幽奇。目前海起萬里濶。筆下山生千仞危。陰雲朦々長不雨。輕煙霏々無散時。蓬萊方丈望悠哉。五湖三江情沿洄。淼漫濤如隨風忽。行船何事往復來。飛壁嶮巇垂蘿薜。會巖盤屈衣苔莓。嶺上流泉聽無響。潺湲觸石落溪隈。空堂寂寞人言少。雜樹朦朧暗昏曉。松下群居都仙。與不語意猶眇。度歲橫琴誰奏曲。經年垂釣未得魚。馳眼看知丹青妙。對此人情與有餘。畫勝眞花笑冬春。四時常悅世間人。

雜言。奉和清涼殿畫壁山水歌一首。

菅清公

丹與青。壁上裁成山水形。巃嵸危峯將蔽日。崢嶸險澗鴈字連。三江淼々尋間近。五岳迢々大裏生。雜花冬不殫。積雪夏猶殘。靈禽百貌從心曲。異木千名起筆端。飛流落前看鵠桂。重淵廻處識蛟盤。蔭松恰似八公仙。蹲石俄疑四皓賢。兒飲連猨常接臂。加滄擔客長息肩。漁人鼓枻滄浪裏。田父牽犂綠巖趾。繞棟輕雲未曾出。窺窻猶鳥經年止。遊心自足幽閑趣。屬目元饒智仁理。丹青工。有妙功。能令寡興發神衷。

同前。

都腹赤

仙宮粉壁畫師情。輸綵偏能逐手生。万像雖賁造化力。丹青之妙更加精。名山大水宛然是。咫尺能分千萬里。眇々蓬萊指掌間。綿々員嶠寸眸裏。巨靈贔屓踊峯出。神鼇卽藏背鳥起。江漢朝宗入海寬。長流風拂不動瀾。玄鶴雲中飛不去。白鷗水上浴猶乾。空青淡著春楊暖。石黛濃施古栢寒。蜂蝶紛飛寧換蘂。煙霞澹蕩不復空。秋花荻浦經年白。春色桃源度歲紅。羽客吹笙無韻調。幽人傾爵未曾酬。群鸎黑林裏春不停。積雪巖間夏仍照。朝望山。夕望川。山川朝夕右

座邊。人間氣序幾廻轉。壁上風光無明年。不學周王勞轍遍。取於戶牖知普天。

同前。　滋貞主

掖垣壁。每淸冷。万事餘閑養聖齡。眼下思瞻造化體。令聽畫匠飾丹靑。村鄕縣邑十州記。詭色環名山海經。万里江山。寸々發々。憶々兮心已懸。重閉兮不可穿。卽將因夢尋聲去。只爲愁多不得眠。

五言。奉和太上天皇秋日作一首。

滋貞主

玉琯商氛起。琁閨砧杵勞。寒聲初落樹。秋色欲齊毫。露鶴警新滴。籬鷹換舊絢。悲哉爲氣也。叡興與天高。

七言。秋月夜一首。　滋貞主

輕簾朗卷夜窓靜。孤月閑來泛南端。白兎因蓂雲葉霽。恒娥竊藥仙居寒。渡河未見候輸濕。寫鏡徒憐秋扇團。承袖攬之不盈手。爲無懺翳通霄看。圓規滿耀寰區飛。陰魄生來二八時。長樂鐘聲傳漏久。衡陽鴈影下水遲。孤飛夜鵲簷枝怨。暗織昆虫機杼悲。賤妾單居不肯寐。風吹砧杵入雙扉。年來歲去容華空。古往今來月影同。上郡良家戎津遠。邊庭蕩子塞途窮。貞筠不變窓色。暮柳先踈官路風。明月如非照妾意。那堪秋夜暗閨中。

七言。和海和尚秋日觀神泉苑之作一首。

滋貞主

閣梨下自南山幽。勅許令看上苑秋。御路蕭踈柳楊影。遵行直到白沙洲。廻瞻肅殺無紛濁。眼沸淸泉一細流。小嶺登攀頻見鷺。暗林沸入欲驚鳩。三明濕照龍池閣。二道薰迎秋蘙樓。法侶相隨嘉樹下。不殊昔與大比丘。

雜言。秋雲篇示同舍郞一首。

野篁

氣慘慄。具品秋。客在西。歲欲遒。登山臨水耶

楚望。移レ日寒雲遠近愁。初觸拳石一片起。旨風吹獵九圍浮。陰連潘岳晉下欠

同前。　滋貞主

涉二崇山之嵬峩一。攀二石磴之嵔磊一。避レ嵺初深兮谷巽。追レ閑稍遠兮嶺改。東西引望無二行人一。前後迴看絕二世隣一。野話何關京邑語。雲衣不レ染俗家塵。居諸怳惚易二蹉跎一。叙慮優遊每經過。花笑兮如二喜見一。猿驚兮似二誰何一。山文俄書レ葉。仙園欲レ爛レ柯。疋馬玄黃策不レ倦。爲レ隨二高蹈之煙蘿一。

同前。　惟春道

青山兮閴寂。懸岸兮絕壁。下臨二不測之峥嶸一。上仰二窮高之空碧一。雲雷兮吼怒。日月兮朝夕。覔二寰宇一兮地隈隩。空鳥兮稀二人跡一。我來散髮兮秋復春。林壑森々惟一身。朝炊レ黍。暮烹レ鷄。白雲・主(賓イ)臥二青溪一。溪流兮浩々。芳草兮萋々。在二山中一兮物無レ役。讀二詩書一兮身多レ癖。洞之口。巖之阿。有レ時獨坐二青山一歌。坐且歌。行且歌。青山寂々奈二樂何一。

同前。　滋善永

山寂歷兮春欲レ嘆。澗幽深兮此閑雲。雲中靜兮逸人居。棟裏雲兮時卷舒。春遙花聲兮鷄犬。一林心事兮琴書。追訪赤松兮遺跡。長年隱几閑餘。山寂歷意幽淸。幽上喜二春晴一。石蘿踈兮春月色。溪扉暗兮夜泉聲。避レ喧兮遂無レ問。衣レ薜兮足レ了レ生。人間遊兮絕不レ夢。曉猿深兮落月洞。春光寂々暮山家。獨藜杖煙霞。

五言。和二野評事旅行吟一一首。　太上天皇

久戍君爲レ客。幽居我作レ翁。旅愁如可レ話(不イ)。相待北山中。

五言。旅行吟一首。　野岑守

十年戍二西東一。客裏白頭翁。東臥無二安寢一。鄕心夜夜夢。

雜言。漁歌五首。每歌用二帶字一。　太上天皇在祚。

江水渡頭柳亂絲。漁翁上船煙景遲。乘春興無厭時。求魚不得帶風吹。

漁人不記歲時流。淹泊沿洄老棹舟。心自放常狎鷗。桃花春水帶浪遊。

靑春林下度江橋。湖水翩翻入雲霄。煙波客釣舟遙。往來無定帶落潮。

溪邊垂釣奈樂何。世上無家水宿多。閑酌醉獨棹歌。浩蕩飄颻帶滄波。

寒江春曉片雲晴。兩岸花飛夜更明。鱸魚膾蓴菜羮。飡罷酣歌帶月行。

雜言。奉和漁家二首。每歌用逆字。　公主

白頭不覺何老人。明時不仕釣江濱。飯香稻苞紫鱗。不欲榮華送吾眞。

春水洋々滄浪淸。漁翁從此獨濯纓。何鄉里何姓名。潭裏閑歌送太平。

同。　滋貞主

漁夫（父イ）本自愛春灣。鬢髮皎然骨性閑。水澤畔蘆葉間。挐音遠去入江還。

微茫一點釣翁舟。不倦遊漁（漢イ）自曉流。濤似馬湍如牛。芳菲霽後入花洲。

潺湲綠水與年深。棹歌波聲不厭心。砂巷嘯蛟浦吟。山嵐吹送入單衿。

長江萬里接雲倪。水事心在浦不迷。昔山住今水栖。孤竿釣影入春溪。

水泛經年逢一浦。舟中暗識聖人生。無思慮任時明。不罷長歌入曉聲。

七言。漁歌一首。　藤三成

春々雨後雲天晴。夾岸紅花射水明。獨酌濁醴味魚羮。蘆中飲了向江行。

雜言。和出雲巨太守茶歌一首。　惟氏

山中茗早春枝。萠芽採擷爲茶時。山傍老。愛爲寶。獨對金鑪炙令燥。空林下。淸流水。沙中漉

仍銀鎗子。獸炭須臾炎氣盛。盆浮沸浪花。起輩縣坑商(閭イ)家盤。呉鹽和レ味味更美。物性由來是幽潔。深巖石髓不レ勝レ此。煎罷餘香處々薫。飲レ之無レ事臥二白雲一。應レ知仙氣日氛氳。

五言。遙和下播州長史丹治中得二絮柳一請レ植二左大將軍閑院一之作上。　滋貞主

柳條八許尺。截取寄二情人一。根斷葉憔養。紛空絮落貧。星躔移二夕建一。龍路送二朝鱗一。委レ地日猶淺。須レ看後歳春。

經國集卷第十四終

經國集卷第二十目錄

經國集卷第二十

策下。

對策。

問。三韓朝宗。爲レ日久矣。占レ風輸レ貢。歳時靡レ絕。

頃蘩爾新羅。漸闕蕃禮。蔑先祖之要誓。從後主之迷圖。思欲。多發樓船。遠揚威武。斮奔鯨於鯷壑。戮封豕於鷄林。但良將伐謀。神兵不戰。欲到斯道。何施而獲。

● 文章生大初位上紀朝臣眞象上

臣聞。六位時成。大易煥師貞之義。五兵爰設。玄女開武定之符。人禀剛柔。共陰陽而同節。情分喜怒。與乾坤以通靈。實知。天生五材。民竝用之。廢一不可。誰能去兵。若其欲知水者先達其源。欲知政者先達其本。不然何以驗人事之終始。究德教之汚隆。故追光避影而影逾興。抽薪止沸而沸乃息。何則。極末者功虧。統源者効顯。觀夫。夷狄難化由來尚矣。禮儀隔於人靈。侵伐由於天性。鴈門警狁火。獫猾於周民。馬邑驚鹿驕。子梗放漢地。自彼迄今。歷代不免。其有協柔荒之本圖。悟懷狄之遠筭者。是蓋千歲舞階之主。江漢被化之君也。故不血一及而密須歸仁。不勞一戎而有苗向德。然則兕甲千重。虎賁百万。蹴蹋戎冠之地。叱咤鋒及之間。徒見師旅之勞。遂無綏寧之實。我國家。子愛海內。君臨寓中。四三皇以垂風。一六合而光宅。靑雲中呂。異域多問化之人。白露凝秋。將軍無耀威之所。兵器鎖而無用。戎旗卷而不舒。別有西北一隅鷄林小域。人迷禮法。俗尙頑兇。傲天侮神。逆我皇化。爰警居安之懼。仍想柔邊之方。秘略奇謀俯訪淺智。夫以。勢成而要功。非善者也。戰勝而矜名。非良將也。故擧秋毫者不謂多力。聽雷電者不爲聰耳。古之善戰者無智力無勇功。謀於未萠之前。立於不敗之地。是以權或不失。市人可驅而使。謀或不差。敵國可得而制。發號施令。使人皆樂聞。接及交鋒。使人安死。以我順而乘其逆。以我和而取其離。孫吳再生。不知爲敵人計矣。是百勝之術。神兵之道也。

於臣之所見。當今之署者。多發船航遠跨邊岸。耕耘既撫甿之術。役之勞紛織無脩。室盈怨曠之歎。殆撫甿之術。恐貽害仁之刺。誠宜擇陸賈出境之才。用文翁牧人之宰。陳之以德義。示之以利害。然後啗以玉帛之利。敦以和親之辭。絕其股肱之佐。呑其要害之地。則同於檻獸。自有求食之心。類於井魚。詎有觸綸之意。謹對。

問。上古淳朴。唯有結繩。中葉澆醨。始造書契。是知三五六經由文垂教。未審七十二君何字刻石。貫穿墳典。該博古今。既辨三豕之疑。亦探百氏之奧。憖陳精辨。俟祛茲惑。

臣聞。珠聯璧合。鏡圓蓋以垂文。翠岳玄流。灑方輿以錯理。黼藻法之而潤色。含章因之以成工。文之時義其大矣哉。上古道存。不宰德光而孚。鷇飲鶉棲。恬然大化。迨于聲績可紀孝慈着聞。始制書契。遂改繩政。龜浮龍出。虙犧創之於前。類物寫迹。蒼頡廣之于後。指事寫形之制始闢其規。轉注假借之流爰揮其法。皇墳所以大照。帝典由其聿脩。若其豈綿載。以肝衡。儀玄風而繹恩。万八千歲。盤古之際難詳。七十二君。皇極之猷可驗。刻石紀號。禪云亭以騰英。展采觀風。登嵩岳而傳迹。仲父博物。其言匪妄。司遷良史。其書有實。然則施於王猷用起六羽之後。微於濫觴。理存九翼之前。矧夫威禽呈象。河圖負書。文字之興。殆均造化。但經典散亡。羣言繁亂。萬下之下。難以意推。臣學非稽古。業謝專門。以閭閻之小才。叨明時之貢薦。高問難報。范然闕對揚之敏。下春易斜。逡巡無厝言之地。謹對。

天平寶字元年十一月十日

對策二首。

天地始終。

大學少允從六位下兼越前大目菅原朝臣淸公

問。混元肇判。方圓自形。或陽或陰。日高日厚。縟七耀而左旋。載万靈而右闢。斯則千品之源。三才之本者也。然而遞成遞壞。釋氏之敎斯存。有始有終。儒家之風不落。今欲法之釋敎。彼始自空。尋之儒風。其終焉在。雖默語別道。辭有頗異。而聖哲同致。何可錯。子才爲世出。識作物表。優劣異同。佇聞芳話。

文章生正八位上中臣栗原連年足上

對。竊以。陽淸上動。懸二紀五緯而左旋。陰濁下凝。錯丘陵江海以右闢。考形測數。可寓遊心之端。推變研神。何得施慮之表。自皇雄畫卦取象於天。高密膺圖求步於地。雖陳數度。莫辨區條。故四術紛綸。異端之論蜂起。三家舛雜。臆斷之辭抑揚。言多米鹽。事爲楚越。累代因襲。指掌未詳。豈不以古今措刊錯之煩。夷夏致傳譯之謬矣。夫以。周星殞夕。漢夢發霄。象譯之編爰傳。龍緘之敎遂闡。於是辨虛空之不極。說世界之無窮。接比十萬。積累三千。日月等渤海之輪廻。百億閻浮。同塵沙之數。是知章玄宛騤豈盡其邊。隷首忽微何知其筭。至若天地終始。國界壞成。始以復終。終以復始。乍空乍住。俱壞俱成。滅則極於十年。增則留於八萬。何則住劫云謝。災難已多。烈火災々。洪波淼々。聚爲山岳。散爲江河。事隱於玄名。理絕於深賾。然則區々庸陋不能達其淵源。蠢々凡愚不能詳其旨趣。但混家之法畧而可言。天圜而寬。地方而小。形如鳥卵。運似車輪。載水而浮。乘氣而立。日月之度。星辰之行。洞地而晦明。麗天而旋運。考之實狀。不失其宜。施之治方。尤得其理。又其上天下地。有始無終。不易之義攸詮。長存之說斯着。是則經典所緯。旣有前聞。耳目所安。互無後異。管局之見。獨滯儒宗。豈曰談天。還同測海。謹對。

宗廟禘祫。

問。龍鳳別紀。五帝不相沿樂。金水遞旋。三王不相襲禮。斯知。質文之變。隨時之義大哉。損益之事。追世之理深矣。 聖朝務在勤恤。未建廟祠。德馨通神。頌聲愜物。今欲尋芳訓於姬孔。訪舊章於馬鄭。設七廟而豐潔粢。則千古以啓殷祭。然則明堂祖廟之異說可據詎人。三五禘祫之盛禮蔚在何世。詳論義理。復陳可否。

對。竊以。遐觀曩冊。想太易之初。歷討綿書。尋混元之始。太昊少昊以往。既樸略而未聞。高陽高辛而還。漸昭彰而可見。雖復揖讓膺圖之主。干戈受命之君。沿革殊途。汙隆異等。莫不建七廟而嚴祖考。放五教而治邦家者矣。夫孝者發於深衷。本於至性。行之在己。外無因物之勞。體之由心。內有徇情之逸。万德雖舛以道爲宗。百行雖殊以孝爲大。施之於國則主泰。用之於家則親安。既可以施於一人。又可以移於四海。舒之則盈宇內。卷之則懷中。聖人之德無加于孝。人子之德無加于孝。人子之道可不欽哉。是以千帝百王。愼終追遠。前賢往哲。事死如生。春雨既濡。方切怵傷之思。秋霜爰降。轉增悽愴之心。然則事豈今哉。其來尚矣。洎馬鄭更進。三雍之論不同。義在可疑。兩存之宜所貴。祭祀之典雖興於曠時。禘祫之儀尤盛於周日。伏惟 聖朝仁超四日。道冠九頭。莫遠不霑。雨露慙於渥澤。無幽不燭。日月謝於光輝。今欲資往聖之舊章。窮先賢之貴制。創立寢廟。新啓烝嘗。斯誠尊祖之芳猷。昭孝之茂範也。夫以。明王定制與世推移。哲后裁規隨時變改。非從地出。非自天生。必在逐宜。安可滯執。誠須建茲千歲之運。置廟立尸。候彼五年之間。先祫後禘。合其照穆。序其尊卑。來百璧於助祭。受萬壽與繁祉。流靈德於歌詠。感聖神於管絃。何獨遊考室而賦

斯于。向沛宮而舞文始而已哉。年足 學非今古。識謝方圓。璧雍綴文。同和遒之返側。銅臺下筆。異曹植之立成。高問已來。庸才難報。謹對。

延曆廿年二月廿五日監試

對策二首。

調和五行。

大學少允從六位下兼越前大目菅原朝臣清公

問。二儀剖判。五行生成。揚四序而遞旋。望七政以無謬。若使聖哲居世。風霜順節。號令失時。金木變性。然則八眉握鏡。滔天之災未休。四肘臨圖。燋地之眚獨厲。豈爲天地之應。終可無徵。將謂殷唐之治。時有所缺。孫弘之對必可有源。班固之書何所祖述乎。呑鳥之藻無慙於羅生。吐鳳之辭不謝於楊氏。詳稽往古之義。今可行於當〔恐有脫字〕

文章生大初位下道守朝臣宮繼上

對。竊以。亹々圓象。懸日月以垂文。悠々方儀。列山川而分理。於是四時更謝。寒暑往來。五德遞遷。王相運轉。爾乃皇雄畫卦。天人之道爰明。高密錫疇。帝王之法既立。洎陳其性則帝有不皐。能實其眞則天有過叙。是以周王虛己訪奧秘於文師。漢帝與言窮精微於丞相。至唐堯受籙。洪水滔天。殷湯膺圖。亢旱燋土。運距陽九。時會百六。天地非無其徵。唐殷非缺其治。是知。乘運之譴。哲后不能除。膺期之災。聖居不能救。故以孫弘之對。方看其源。班固之書。遂述其旨。伏惟聖朝儀天演粹。道備於禮經。揚德韜英。義光於易象。猶能欲明四時之理。窮五行之要。實治國之通規。爲政之茂範。夫以木火虧政。風蝗所以興災。金水乖方。霜雹由其告譴。若乃三驅有制則曲直成其功。四佞離朝則炎上得其性。抗威禁暴。遂從革之能。發號柔神。申潤下之德。卑儉宮室。

稼穡所成。儀形寔妻。草木惟茂。禮敷義暢。龜驎可以獻祥。仁洽智周。龍鳳於焉効祉。既而弘之以德。長無一變之災。救之以道。安有五時之失。然則巍々之化。擧目應瞻。蕩々之風。企足可待。謹對。

治平民富。

問。民爲邦本。本固邦寧。吏爲民君。君良民足。是以漢帝宰極。委腹心於韓崇。齊侯務功。資羽翼於管仲。今欲揚澡幘褰帷之輩。引四知三異之人。習風教於孔氏。追昇平於周室。得賢之頌。何行興之。餘粮之隆。其術安在。證據經典。以發蒙滯。

對。竊以。明王撫俗。克念承天。所愛惟民。所寶惟穀。誠知。民爲國本。强國先於富民。下實上基。利上必於豐下。是以韓崇授職。久著腹心之功。管仲任官。長傳羽翼之歎。故上行下化。類水如泥。所以紫變齊風。纓遷鄭俗。但漢川照車之寶。寒不可衣。荊岫連城之珍。飢不可食。是故帝籍斯闢。仍懷九載之憂。璽觀不親。便盈七月之歎。方今政清宇宙。地廣紘埏。淳風洽乎無垠。大道光乎有截。誠可抑止。未作勸勉。農功勤體。授力田之官。遊手□□。行投裔之罰自然。浮僞戢於四海。彫文紀於百工。黃金息無用之求。翠羽弃非常之貨。則千箱可積。万庾將儲。室餘栖畝之粮。家餘如坻之粟。加以。位以德進。官以才昇。因賢致賢。由俊得俊。然則澡幘褰帷之輩。歛衽而風來。四知三異之儔。彈冠而雨集。庶績凝乎多士。羣寮整乎得人。朝無曠職之憂。野有擊壤之詠。既而富敎之術。方同宣尼。昇平之功。何異周室。御馬之方欝起。烹鮮之要可窮。巍々而治。可不樂哉。謹對。

延曆廿年二月廿六日監試

問。摸陽而立文道。寫陰而樹武畧。所以揖讓之君。干戈之帝。是依世革。寔用斯緒。康時庇

俗。庶聽捐指。

大日奉首名

對。竊以。陰陽之理。寔乃千端。變化之義。本非一揆。是以摸陽之道既顯之前策。寫陰之理又彰之昔典。斯實對問之休烈。損益之大旨。用之則上下和穆。捨之則貴賤崩離。就日望雲之帝。握裒履翼之王。以文爲道。以武爲功。取經邦之權衡。闢緯俗之規摸。所以芳猷雜沓若春蘭之亂園。鴻績繽紛似秋菊之蕩飈。乃知。康時之道其猶契合。庇俗之義又似符同。伏惟聖朝。名薫紫霄之上。道光丹闕之前。豐功不測高駈五岳之外。厚利無方廣被四瀛之間。混車書而欣無爲。垂衣裳而事息浪。思驗文教之所辨。武機之所由。諒救溺之津梁。濟流之舟棹。然則春之與秋。義等鹽梅。文之與武。理同喉舌。故能括（淳イ）囊文華。包綜武幹。七功之高跡皆行。九德之深致咸用。觀者莫測其源。聽者詎知其際。噴紙含筆之夫。風流徹夜。運日連蜺之士。精勤新日。由是使武不廢文。文不偃武。則揖讓之猷可談。干戈之理未遂。謹對。

問。信近於義。是有若被可之談。不信不立。是尼父應物之說。聖垂斯教。物惡不納。立身之道。謹對其要。

大日奉首名

對。臣聞。信以交人。載之前書。義而事君。編於曩志。故泣麟歎鳳之聖。釣魚非熊之賢。莫不以信爲本。以義爲法。用之則上下芳菲。與春花而流香。捨之則貴賤別離。共秋葉而鷲色。握建言之嘉謀。闢進德之高軌。所以聖賢深化滿溢乾坤之外。賢俊茂跡浮流宇宙之間。立身之道既顯之屑玉。對策之理又表之嬴金。是以臣之事君不妄。下之奉上不虛。斯實信義之深趣。仁智之大旨。猶風之靡草。蓋其斯矣。伏惟　聖朝。繼天化民。存道育物。頌聲聞於天

樞。歌詠響於地軸。高仁麗天安照側陋之幽。廣德鎮地不擇塵溜之聚。今欲議其綱紀辨其規摸。鴻烈不墮。義在於焉。竊以。斟露添海。義不易獲。烈燭助陽。理實難求。豈能筆分靑黃。若三冬之理達。略以文辨章句。知七步之談藻。雖人物不同。信義相分。揚名建身。其要一也。然在士便可爲信。於女仍須爲義。於彼□有優劣。於此豈無長短。結期倚橋。是微生之深信。應物斷義。復尼父之洪術。有前事不朽。足爲准的。隨世垂敎。復何疑也。謹對。

問。數步之內。空流蘭蕙之芳。十室之中。獨伏騏驎之櫪。而羽毛難辨。遂昧楚鷄。玉石易迷。浪珍燕砆。況復顓師愷悌。被輕於魯公。馬氏方圓。見重於魏主。帝難之旨。其斯謂歟。鑒識之方。宜陳指要。

百倭麻呂

對。竊以。赤帝文明。知人其病。素王天縱。取士其失。然則珍砆不可辨矣。蓬性不可量矣。鳳鷄別也。草情豈堪識也。但無求不得。負鼎朝殷。扣角入齊。擇必所汰。四凶剪虞。二叔除周。況今道泰隆。雄德盛導焉。歲星可談。占風雨而仰欵。竪亥雨步。盡入提封之垠。遂使少微一星應多士之位。大雲五彩覆周行之列。巍々蕩々合其時歟。不驅愚去。不召賢來。謹對。

問。伏閣之臣。精勤徹夜。還珠之宰。淸儉日新。瞻彼二途。兼之非易。如不得已。何者爲先。

百倭麻呂

對。臣聞。莅百寮而順二柄。宰九州而班六條。捐金抆玉。虞舜之淸儉矣。櫛風沐雨。夏禹之精勤矣。加以。楊震作守陳神知於枉道。馮豹爲郎侍天漁於閤前。飛譽目前。揚美身後。但淸者禀根自天。勤者勞株由己。又飮水留犢之聾。經踈史少。鴛星去虎之徒。古滿今多。臣器非宋寶。宇是燕石。豈堪決前後之源。唯竊

折梗概之枝。謹對。

慶雲四年九月八日

問。設官分職。須得其人。而行殊輕重。能有長短。委任成責。非當覆饋。授受之略。可得聞乎。

刀宣令

對。竊以。天垂七政。辨星紀於三百。地陳八座。條議式於三千。所以動異東西。調四時於玉燭。治兼刑德。齊萬機於金鏡者也。夫百臣分職。虞后致肅々之美。十亂當朝。周王有濟々之盛。士會還肆。衆盜去於晉郊。大叔爲政。羣奸聚於鄭蒲。輕重短長。略可言焉。伏惟　皇朝。化平日域。德及天涯。執禹麾而招能。坐堯衢而訪賢。逃周避漢之臣。鴈行於丹墀。遊潁隱箕之夫。鱗次於絳闕。無爲軼於觀象。有道籠於垂衣。是知釣潢同載。木運祚於七百。捐度成佐。金精滅於二世。得其人與畫一之歌。非其任有尸素之譏。案此而論粗當分別。但東遊天縱猶迷兩兒之對。西蜀含章莫辨一夫之問。至於授洪務。維帝難之。況乎末學淺志。豈能備述。謹對。

問。烈火炎兵。畏之者歸魂。柔水衰陵。坤之者遂往。是以東里遺猛烈之言。西門盡嚴明之事。然臧孫爲政。端木銜訕。廉范莅官。雲中起詠。寬猛之要。冀叙厥猷。

刀宣令

對。竊以。飛龍不息。健猛之用顯矣。行馬無疆。順寬之利亨焉。稟天地之氣者人也。含喜怒之諍者情也。稟同含異。理宜寬猛。猛能禁斷。子產有烈火之喩。寬是兼愛。廉范放夜作之令。沛公入洛。義帝許其寬容。仲由言志。素王樂於行行。既載於經。亦見於史。義有二途。其揆一也。但理髮解繩前史美論。以寬濟猛聖人格言。是以水避高而趍下。民去急而就緩。因水民之

趍就。明寛猛之梗概。欲使著弦之夫擁彎寛穹之庭。佩韋之臣束帶太平之運。謹對。

問。孝以事親。忠以奉國。既非賢聖。孰能兼此。必不獲已。何後何先。

主金蘭

臣金蘭言。臣稟性庸愚。操行狂悖。本無學問。素蹟翰墨。幸逢分明之運。濫從于祿之後。蹇驚輒就招駿之肆。燕砆輕參求珠之庭。雖似孔父思齊之教。而違周任量力之義。三五所遺。鑽仰難窮。八九所傳。廣遠易迷。況復加之以玄旨。點之以七步。詎能尺綆汲淵井。寸管窺峻坵者乎。伏惟　聖朝。懸金鏡而導俗。持玉燭而敷化。振[illegible]雅於膠庠。進賢能於帷扆。是以秀才進士竝爭穎脫之說。蓬草沈淪。但恥負擔之賤。故躍纖鱗於滄波。勵短翮於雲路。敢因各言之義。不揆庸淺之才。實乖雅藻。猶冀君子之遺跡。非所尅當。尙仰誘人之鴻教。蓋鳥鳴似語。虫葉成字。故麁寫古迹。薄陳今旨。臣聞。夫人之生也。必須忠孝。故摩頂問道。負笈從師。然後出則致命。表忠所天之朝。入則竭力。脩孝所育之閫。是以參損偏弘孝子之風。政軻猶濫忠臣之操。蓋是事親之道。莫尙於孝。奉國之義。孰貴於忠。資孝以事君。前史之所載。求忠於孝門。舊典之所編。故雖公私不等。忠孝相懸。揚名立身。其揆一也。別有或背親以殉國。或捨私以濟公。故孔丞割妻子之私。申侯推愛敬之重。即是能孝於親。移忠於君。引古方今。實足爲鑒。在父便孝爲本。於君仍忠爲先。探今日之旨。宜先忠後孝。謹對。

問。彫華絢藻。便貽殉末之愆。破觚焚符。終涉守株之譏。彬々之義。勿隱指南。

主金蘭

對。臣聞。九野圓蓋。懸日月以高覆。八極方輿。列山川以廣載。於是牛首曰君。蚰身稱帝。然

後文質之迹義敦。華實之軌彌闡。若乃專崇朴質。便涉守株之識。偏行文華。仍貽殉末之愆。然則斌々雜半。得之稱君子。郁々兩兼。可爲圭治。文之與質。義等皮毛。朴之與彫。理同脣齒。二途遞代。以照万祀。義杲兼兩。理難廢一。欲使非古非今以操折中之理。行文行質以平野史之義。五福長保。無爲繼於百王。六極永絕。有道傳于千帝。相變之禮。跡隱難辨。彬々之義。指微易迷。臣實尋求不殫其本。乘流未達其源。然豈逢供慶而韜辭。仰芳。猷而輟翰。謹對。

問。既號天龍。無足而走。還稱地馬。無翼而飛。雖逐時文異。如泉利同。豈可起詐之子擅放西蜀之僞。乾沒之夫專行東吳之私。斯濫群小。因冒公司。屢煩丹筆。徒閲黃沙。謂爾進士。應識公方。懲茲不軌。用何能爾。

下毛虫麻呂

對。竊聞。沙石化爲珠玉。良難可以療飢。貪困實其坧京。唯易迷以濟命。是知寫圖而前。猶事血飲。調律而後。誰不食穀。自太公開九府之制。管父通万鍾之式。龍文錯於郭裏。龜開入於幣間。白金馳其姧情。朱仄競其濫制。西蜀銅岳。徒擅佞倖之門。東晉金溝。遂滿誇奢之室。姬景舍輕。單穆陳擁子之譏。劉文放鑄。賈生致轉禍之談。寔由弃耕桑之務。爭錐刀之末。伏惟　聖朝。握天鏡。紐地錊。德音被於有截。至敎翔於無垠。銜禾之獸屢臻。見穫之鱗荐集。今欲既停起詐之功。終析冶鎔之途。誠使三農叶節。千箱盈庾。淮陽高枕。追長孺之芳趣。邪谷送歸。發祖榮之清轍。則銖文曷惑。鏹貫無訛。頓屏磨屑之風。永絕炭挾之俗。謹對。

問。周孔名敎。興邦化俗之規。釋老格言。致福消殃之術。爲當內外相乖。爲復精麁一揆。定其同不。覆此眞訛。

下毛虫麻呂

對。竊以。眇觀列辟。繞電履翼之皇。逖聽風聲。洞八連三之帝。雖歷代千古而源仍畫一。但隨時之便不齊。救弊之術亦異。原夫公涉淸虛。契歸於獨善。儒抱旋折。理資於兼濟。是以泣麟降跡。刻魯册之秘典。狼跋垂敎。闡周編之雅籙。至如白毫東輝演打剎之道。紫氣西泛望凝玄之□。斯誠事隱探頤之際。理昧鉤深之間。然詳搜化俗之源。曲尋消殃之術。既淺淄澠之疑。亦有涇渭之泒。但學謝贏金。徒迷同不之義。詞慙屑玉。寧述眞訛之旨。謹對。

問。仁智信直。必須學習。以屏其弊。乃顯精暉。學爲何物。其理既然。遲爾吐實。以正指南。

葛諸會

對。臣聞。人生天地。以學爲先。所以本德之后畫龜圖以學。星精之帝摸鳥跡以習。然則學是脩德之端。習亦立身之要。至若七十之達。會洙泗而鑽洪敎。五六之童遊舞雩而仰芳風。莫不慕道之志雲合振名四海。受業之人霧集揚譽一代。迺識。仁智學枝不剪根。則愚蔽之蔽立至。信直習派不堰源。則賊絞之綱必纒。謹對。

問。殺無道以就有道。仲尼之所輕。制刑辟以節放恣。帝舜之所重。大聖同致。所立殊途。垂敎之旨貞而言之。

葛諸會

對。竊以。誅惡之義。先聖垂典。戮逆之旨。後哲宣軌。所以無爲軒帝動三戰之跡。有道周王示二叔之放。則知凶必殛。邪必正者也。但宣父鳥殺之試欲行。偃草之德是既權敎。重華節恣之制乃敬。丕天之法此亦將謨。兩聖所立。殊途以同歸。二訓攸述。異言而混志。謹對。

和同四年三月五日

問。禮主於敬以成五別。樂本於和亦抱八音。

節身陶性之用。寔由斯道。御世治民之義。既盡於焉。雖因世損益而百王相倚。利用禮樂已有前聞。未決勝負。庶詳其別。

白廣成

對。臣聞。三才始闢。禮旨爰興。六情漸萠。樂趣亦動。固知陰禮之作。基綿代而自遠。陽樂之開肇邃古而實遐。但結繩以往。杳然難述。書契而還。炳焉可談。尋夫禮是肥國之脂粉。樂卽易俗之鹽梅。莫不揖讓堯舜牽斯道以安上。干戈履發抱玆緒以化下。美善則丹蛇赤龍之瑞自臻。和諧則黃竹白雲之曲彌韻。所以高暨天涯。共日月而俱懸。遠遍地角。與山川而齊峙。辟水火之利物。方梨橘之味口。縱無姜生之制地。有夏氏之應天。則敬異之旨悉卷。親同之跡偏舒。誠乃俎豆之業。鐘鼓之節。於理終須行兩。在義寧容廢一。謹對。

問。李耳嘉道以示虛玄之理。宣尼危難而修仁義之教。或以爲精。或以爲麁。其理云爲。仰聽所以。

白廣成

對。竊聞。眷山林以被黃緇。道德之玄教也。是則柱下之風。入皇朝以施靑紫。仁義之敦儒也。彼亦司寇之訓。故淸虛之理。煥二篇而同春日。折施之蹤。明五經而類秋月。誠能拯蒼生之沈溺。繼皇風之絕廢。伏惟　聖朝。德光万寓。化高五岳。動植苞其亭育。翔走荷其陶鑄。烈風五日曾不鳴條。祟雨一旬徒無破塊。復乃南蠻稞壤。占靑雲以航海。北狄章身。蹈雲以梯山。巍兮蕩兮其化如此。猶懼。聃丘之教未備汚隆。玄儒之旨有舒雄雌。欲思分其條目辨其精麁。竊以。玄以獨善爲宗。無愛敬之心。棄父背君。儒以兼濟爲本。別尊卑之序。致身盡命。因玆而尋。鹽酸可斷。謹對。

問。帝王御世。必須賞罰。用賞罰之道。雖褒貶

善惡。或有辜而可賞者。或有功可辜也。理可分疏。庶詳其要。

船沙彌麻呂

臣聞。聖帝臨民。明王御俗。莫不隨才授爵。簡德分司。責其成功。罸其有辜。是以虞舜微用擧元。古而實遐。但結繩以往。杳然雖(雖然)述。書契而還。炳焉可談。尋夫。禮是肥國之脂粉。樂即易俗之鹽梅。莫不揖讓堯舜率斯道以安上。干戈屢發。抱玆緒以化下。美善則丹蚰赤龍之瑞自臻。和諧則黃竹白雲之曲彌韻。所以高暨天崖。共日月而俱懸。遠遍地角。與山川而齊峙。辟水火之利物。方梨橘之味口。縱無姜生之制地。有夏氏之應天。則敬異之旨悉卷。親同之跡偏舒。誠乃俎豆之業。鐘鼓之節。於理終須行兩。在義寧容廢一。謹對。

問。李耳嘉遁。以示虛玄之理。宣尼危難。而脩仁義之教。或以爲精。或以爲麁。其理云爲。仰聽所以。

白廣成

對。竊聞。眷山林以披黃緇。道德之玄教也。是則柱下之風。入皇朝以拖青紫。仁義之敦儒也。彼凱而寘四凶。姬旦攝機。封皇邵而討二叔。因知。國之二柄。德之與刑。爲政之基。莫甚於此。方今化高龍首。道洽鶉居。行禮措刑。揚清激濁。但連城之寶猶稱有瑕。況既非聖人。詎能無過。誠須賞疑從重。罸疑從輕。不可以愆。淺罪輕。便以有功見弃。勳績重。終以小過掩功。必須考其眞僞。察其虛實。則法禁行而不犯。賞罸明而不欺。謹對。

問。郊祀之禮。責簡尙存。孟春上辛。(曆)有司行事。由是正月上辛。應拜南郊。歷有盈縮。節氣遲晚。立春在辛後。郊祀在春前。因以爲疑。不知進退適用之理。何從而可。

船沙彌麻呂

臣聞。登大寶而垂衣。履高居而宰極。莫不仵二儀之化育。法四氣之環周。服蒼玉於早春。建朱旗於孟夏。今聖撫運。暉光日新。明德內香。仁風外扇。由是禾秀瑞穎。時表歲精之名。龜啓靈圖。慶紀天平之號。猶思節有遲速。曆亦盈虛。立春上辛。或遞先後。斯乃奉遵穹昊。敬授民時。竊以啓蟄而郊。明之魯策。立春迎氣。著在周篇。然則拜帝南郊。是存啓蟄之後。迎氣東北。非在立春之前。因此而言上。事在後。謹對。

天平三年五月八日

問。郊祀之禮。責簡尙存。孟春上辛。有司行事。由是正月上事〔辛歟〕。應拜南郊。曆有盈縮。節氣遲晚。立春在辛後。郊祀在春前。因以爲疑。不知進退適用之理。何從而可。

藏伎美麻呂

對。臣聞。哲王御宇。郊祀爲先。明后臨時。禘望爲務。故知。拜天之禮。乃往帝之良規。報地之儀。寔前王之茂範。雖復馳騁云異。沿革不同。莫不就遠郊而焚柴。因厚地而埋玉。遂使莫聲遠著。茂實遐流。踰千祀而永存。經百代而不朽。郊祀之設。無屬上辛。事不得已。因爲常會。然而日月廻薄。盈縮時改其行。節氣推移。遲速或變其序。立春後辛。祀日先春。不可以一致尋。寧須以同塗量。且夫進退殊揆。聞諸鄒衍之談。推步定辰。勤在容成之說。唯愚謂。適用之理。宜合時便。事備司存。何煩更議。謹對。

問〔恐脫〕。帝王御世。必須賞罰。用賞罰之道。雖褒貶善要。或有辜而可賞者。或有功可辜也。理可分疏。庶詳其要。

藏伎美麻呂

對。臣聞。經邦導俗。貴在愼刑。調風御民。先務明賞。由是憚惡勸善。黜幽陟明。淸彼姧

凶之源。改斯彫弊[illegible]季。方今遐邇寧輯。內外元氂。化被八荒。德流四[illegible]。開三面以敷惠。慮一物之有傷。爰及芻蕘。廣垂下聽。竊以。賞疑從重。哲后之格言。眚災肆赦。明王之篤論。至如管仲有隙。齊桓擧而厚任。韓信有過。漢高捨而不驗。若專棄有功。掛彼重科。旣忽良才。不加褒賞。何以獎勵來者。勸勤後人者哉。雖然不有典刑。稍長犯綱。此而可捨。積習生常。若使寬布惠和。明愼賞罰。道忠信而齊俗。班禮敎而訓民。兼復選于公之儔。悉之庶獄。召黃霸之疇。寧以群州。然則上下克諧。褒貶得衰。淸靖之風斯在。邕熙之化可期。謹對。

天平三年五月九日

問。明主立法。殺人者處死。先王制禮。父讎不同天。因禮復讎。旣違國憲。守法忍怨。爰失子道。失子道者不孝。違國憲者不臣。惟法惟禮。何用何捨。臣子之道。兩濟得無。

神虫麻呂

對。竊聞。孝子不遺。已著六義之典。幹父之蠱。或綸八象之文。是知興國隆家必由孝道。故使烝々虞帝。終受肥華之珪。翹々漢臣。乃標萬石之號。自阿劉淳孝。乃殞身而全親。桓溫篤誠。終振刀而殺敵。魏陽斬首。存薦祭之心。趙娥刺仇。致就刑之請。我國家登樞踐曆。握鏡臨圖。仁超栖鳳之君。道出馴龍之帝。取破觚於漢律。弃繁荼於秦刑。兩璧決疑。從陶公之雅說。百鍰遺訓。協夏典之明科。囚人不祭。皐繇之靈。獄氣旣銷。長平之醑。蒲鞭澄惡行。葦興謠惡行。猶恐屈志同天。則彌睽孝弟。推才報怨。則多挂綱羅。廣迨芻蕘。傍詢政略。夫以贅父事主。著在格言。移敎爲忠。聞諸甲令。由是丁蘭雪恥。漢主留赦事之恩。維氏及讎。梁配有滅死之論。若使酌恤刑之義。驗純情而存哀。討議獄之規。矜至孝而輕罰。高柴出宰。良績

遠聞。高卿臨官。芳猷尚在。則可能孝于室必忠於邦。當守孝之時。不憚損生之罪。臨盡忠之日。詎領膝下之恩。謹對。

問。虞舜無爲。垂拱巖廊之山。周文日昃。廣延英俊之人。夫常王之道。條貫豈異。何勞逸之不同。而黔黎之懷輯。欲使變斯俗於彼俗化姧吏於良吏。人民富庶。囹圄虛空。其術如何。悉心以對。

神虫麻呂

對。竊以。逖覽玄風。遐觀列辟。結繩以往。鴻荒之世難知。刻石而還。步驟之蹤可迷。至於根英易代金石變聲。咸以事藹芸緗。義彰華篆。煥焉在眼。若秋旻之披密雲。粲然可觀。似春日之望花苑。當今握褒御俗。履翼司辰。風淸執象之君。聲軼繞樞之后。設禹虞而待士。坐堯衢以求賢。鼓腹擊壤之民。舞於紫陌。負鼎釣璜之佐。接武平丹墀。方欲窮姬文日昃之勞。明虞舜垂拱之逸。驅風帝王之代。篤俗仁壽之鄕。博採芻詞。側訪幽介。夫以時異浮沈。運分否泰。文質之統玆別。張弛之宜不同。然則四乳登皇運。經三徵之虐政。重華踐帝世。近二皇之淳風。淳風之時必須垂拱。虐政之世何不經營。是知聖王與世以汚隆。黎庶從君而低仰。若能追有虞无爲之化。則隆周勤己之治。表廉平。宣禮讓。賁帛旌其英俊。懸捧絕其姧回。〔曲獻〕勸之以耕桑。勗之以德義。則可金科不濫。沙圄恒淸。九歲有儲。千斯積庾。水魚不犯。共喜南風之薰。門鵲莫喧。盛懷東后之化。謹對。

天平五年七月廿九日

右經國集以奈佐勝皋藏本挍合了

群書類從卷第百二十六

文筆部五

扶桑集 殘欠

處士　山居

贈答部

贈答　蕃客贈答

懷舊部

懷舊　話舊

哀傷部

悼亡。

傷藤進士呈東閣諸執事。　菅丞相

我等曾爲白首期。何因一夕苦相思。披書未卷同居處。捻藥空歸已葬時。不拔秋聲喪父哭。猶勝曉淚夢兒悲。余先皆所有。今面喩之。此生永斷俱言笑。且泣將吟事母詩。東閣孝經竟宴。進士事母之詩。故云。

奉□寄諸文友之。　江相公

自□濕葛巾。惜使□露易晞身。螢習□字。鸞遠烟巢戀主人。他日哭君應淚盡。況當秋月照心辰。

到河陽驛有感而泣。　菅丞相

去歲故人王府君。驛樓執手泣相分。我今到此問亭吏。爲報向事一點墳。

哭兒。

天元四年夏和小童傷亡之詩。　中書王

無花無柳又稀鶯。慵睡慵興任日傾。池藕四廻舒葉色。林鴉幾許引雛聲。撫桐未慰孫枝思。養筍難堪母竹情。懐舊心肝何復苦。被催詞客數篇成。

哭兒通朗。　都良香

鴛駘晚路夢熊羆。三十年來一鼻兒。初咲謝家謗詠雪。擬從張迹亞臨池。促齡稟分皇天定。遠別難期父母知。園梨子熟憐無引。籬竹陰疎恨不騎。涙添暮水流哀逝。聲□□章無繼者□□晚□□歸。

洛解纜之次□□適寄一章廻棹停舟立次來韻。　善相公（清行）

馬鬣孤墳在古原。村翁傳道昔埋尊。經霜荒徑飛蓬轉。欲暮悲風落葉飜。秋棘刺繁人絕跡。寒松枝老樹生孫。今朝寂寞空歸去。更哭趨庭誨不存。

病。

病中上尊師。　善宗

被囊藥筒古書案。坐臥依々獨自憐。病殆困羸將數日。齒踰成立已三年。從令名在諸生後。但恐身徂老母前。若可伯牛廻孔問。縱雖命也賴恩全。

病累。　善宗

世途千險勞生久。身病彌留失趣初。七十老親當枕泣。二三兒息哭傍屋。環垣不是終生地。（寄居故云。）□篋唯餘借債書。廻首無人應附託。不知身後欲何如。

病中上左親衛藤亞相。（将イ）　善宗

自輟趨陪擲月旬。閉扉獨弔病精神。十年驪穴頻空手。今日蝸廬已露身。朋友問來無問餓。名醫治盡不治貧。將軍惠澤應周至。蟄戶猶望一段春。

秋夜臥病。　都良香

臥病獨悽々。寂然人事睽。階前無屐跡。門外斷賓蹊。忽歎浮生苦。寧知與物齊。形容信非實。魂魄恍如迷。夜久風威冷。窓深月影低。憂愁不能寐。長短聽鳴鷄。

歎。

五嘆吟幷序。　源順

余有五歎。欲罷不能。所謂心動於中。形於言。言不足故嗟歎之者也。（醍醐）（朱雀）延長八年之夏。失父於長安城之西。其歎一矣。承平五年之秋。別母於廣隆寺之北。其歎二矣。余又有兄。或存或亡。亡者先人之長子也。少登台嶺。永爲比丘。慧進之名滿山。白雲不埋其名於身後。禮誦之聲留澗。青松猶傳其聲於耳邊。衆皆痛惜。況於余乎。其歎三矣。存者先人之中子也。宅江州之湖上。漁戶雙開。所望者烟波渺々。鴈書一贈。所陳者華洛迢々。何以得立身揚名。顯父母於後世乎。其歎四矣。余先人之少子也。恩愛過於諸兄。不敎其和一曲之陽春。只戒守三餘於寒夜。若學師之道。逐拙。恐聞父之志空抛。其歎五矣。于時秋風向我而悲。双墳樹老。曉露伴我而泣。三逕草衰。歎而喟然。吟之牽爾而已。詞曰。

一隔嚴容十有年。又無親戚可哀憐。單貧久被蓬門閉。宗誠多敎竹簡編。聲是不傳歌白雪。德猶難報仰青天。立名終孝深聞得。成業爭爲拜墓邊。

不可斯須母不存。悲哉早別老衡門。寧尋八里江聲遠。只望孤墳草色繁。年少昔思懷橘志。痛深今戀折葼恩。堂中縱有秋風冷。更爲誰人使席温。

天台山上身遄沒。落淚唯聞雅譽殘。午後松花隨日曝。三衣薜葉與風寒。寫瓶辨智獨知易。破衣方便□不難。豈計香烟相伴去。結愁長混片雲端。

阿兄抛我不相俱。分在江州東北隅。淪落忘歸寧孝道。浮遊得所幾平湖。携將曉浪孤舟子。染着秋風一箸鱸。自去年來書信絕。連枝何日問榮枯。

葉物蕭々虫唧々。始知悲感與秋深。偷光未倦穿東壁。移晷何嫌接子襟。枕上双行霜夜涙。窓前一道水寒□（心歟）。々々酸鼻誰應覺。獨自吟斯五歎吟。

隱逸。付樵隱。

秋日諸文友會飲野亭同賦尋山路隱倫。

紀納言

一日閑遊忘俗機。更尋幽隱到山扉。交談暮雨依松蓋。于時遇雨。故云。虐抱秋風納薜衣。泉逐古痕床下繞。雲隨恒□棟間歸。徘徊欲別還爲歎。不用明時遁自肥。

舊隱詠懷敬上所天閣下。

都良香

不才多愧業猶難。好是山莊一挂冠。夜鶴眠驚松月苦。曉鶡飛落峽烟寒。雲埋澗戶幽情積。水隔寰中野性闌。學路蹉跎年暗擲。更栽籬竹養漁竿。

陶彭澤。

善相公

心是盤桓身隱倫。自忘名字醉鄉人。歸來舟過三江月。出入門穿五柳春。園菊開時豐產業。林禽狎處得交親。野亭客到醅初熟。莫怪忩々脫葛巾。

樵隱。

樵隱俱在山。

清仲山

本自幽栖與俗離。樵夫野客有相知。遠尋曲澗柯應爛。高臥清流枕轉欹。谷口負薪孤月送。洞中劚藥片雲隨。家山縱有不材耻。在世何人□禮移。

無隱。

山無隱詩。七言八韻。每句用逸人名。

藤博文

滿山潜隱感風聲。脱却荷衣咸結纓。先擲草庵閑景域。共排蘭殿曉光城。周墻辟立猿空叫。連洞□苔徑沒。登臨記得藥苗生。暗驅秋桂馳弘化。且織春蘿染泰平。濤鷺飛流琴韵古。長松無主蓋陰傾。何能猥耤貪幽獨。此是相隨謁聖明。遂罷栖遅禽獸處。應趁鳳闕爭先鳴。

山無隱。　紀納言

幽人歸德遂難遁。抽却蒿簪別艸廬。虛澗有聲寒溜咽。故山無主晚雲孤。青郊不顧烟花富。絳闕初生羽翼扶。巢許若能逢此日。何因終作潁陽夫。

黄門署尚書竟宴各詠句得野無遺賢。

江相公

遍問千巖萬壑□。幽人咸出誰（証イ）逃名。初趁槐路隨鵷列。更顧松門愧鶴情。蘿帳遠抛殘月色。雲扉遙別暮□聲。莫歎秋桂偏嘲我。不屑移文□□成。

處士。

題南山亡名處士壁。　菅丞相

秘密鄉村與姓名。年顏朽邁意分明。無妻澗戸松偕老。不税山畦黍猥生。泡影身浮修道念。烟嵐耳冷讀經聲。比量心地安間理。一室應勝我百城。

山居。

訪鄭處士山居。　江相公

暮高趍到碧峯頭。便謁清顏述事由。心地早銷方寸火。鬢霜鎮帶數莖秋。馬迷紅葉□難去。人礙青蘿醉更留。身隱深山名不隱。相尋所以暫同遊。

山中自述。　江相公

碧山遁跡臥松楹。謝遺喧々世上榮。龍尾舊行應斷夢。鶴頭新召不驚情。商山月落秋鬚白。潁水波揚左耳淸。唯有池魚呼後至。各隨次第

自知レ名。

山中感懷。　　江相公

□無二朋友一室無レ妻。不レ奈生涯與レ世睽。曉峽蘿深猿一叫。暮林花落鳥先啼。五湖賣レ藥隨レ雲去。三徑横レ琴待レ月携。枕上心閑歸夢斷。如何白首老二青溪一。

奉レ同下羽林藤校尉侍中稽二于山居一之什上。

藤諸蔭

幽岦卜築白雲間。爽籟清涼景象閑。數曲管絃侵レ砌水。一張屏障遶レ窓山。依レ行栽レ樹庭蕪暗。隨レ步穿レ苔石徑斑。勝境更嫌遊覽遍。恐貪二寂靜一不レ能レ還。

北堂文選竟宴各詠レ句探レ得披レ雲臥二石門一。

江澄明

傍山披得暮雲屯。好是貪レ幽臥二石門一。罷レ夢松聲當レ枕散。洗レ心泉響繞レ床喧。柴扃日落歸二溪鳥一。澗戶煙消□□猿。勝地古時摛二麗藻一。染レ毫還媿謝家魂。

三日山居同賦二青溪卽是家一。勒二春塵鄰賓親綸一。

高五常

野夫高二意趣一。雪臥幾廻春。獨飮二南山水一。寧踏二北闕塵一。青溪唯作レ宅。翠洞□爲レ隣。漢曲猶稱レ老。唐朝不レ要レ賓。俗人尋訪隔。禽鳥狎來親。自業何爲□。嚴陵瀨上綸。

贈答部。

贈答。

與二野十一一唱和往復之後餘思未レ洩更勒二二章一以代レ懷。

良春道

塹登二清貫一免二饑寒一。鶯有二喬枝一鷄有レ冠。交友欲レ抛閑境薄。世情到レ老□頭看。蝸牛有レ舍客身穩。檻虎佤レ顏作レ氣難。儻有下與二君詩一唱和上。未レ能レ鎖二盡舊心肝一。

無能白首遇二休明一。只合二騰々過一一生。心事結レ風功不レ就。浮榮盡レ水字難レ成。年荒不レ食明時俸。

藝薄空塵別駕名。眼下飽看榮辱盡。贈君吟動鞠歌行。

近曾與橘才子相遇山寺。清談間發。或言詩章。或論釋教。兩道兼通。一不可及。予不堪欣感。同載歸家。喜天爵之有餘。歎人位之未備。聊題長句叙其所由。　源英明

□行才名獨有君。清談一接我非群。陶元亮出能詩句。無垢稱生長法文。貞節寒含松立雪。高情孤聳鶴棲雲。青衿未改携黄卷。大器晩成是舊聞。

右親衞源亞將軍忝見賜新詩。不勝再拜敢獻鄙懐。本韻。　橘在列

松柞晩陰一遇君。誰言鵠燕不同群。感吟池上白蘋句。泣染箱中綠竹文。近曾將軍有河原院池亭之詩。詩中有青艸湖圖波寫得。白蘋洲樣岸相傳之句。余奉拜之次。一聞此句感懷交至。涕泣漣如。故云。豹變暫藏南嶺霧。鵬摶空失北溟雲。爲君更詠栢舟什。莫使凡流俗客聞。

橘才子見酬拙詩以本韻答謝。　源英明

恨我多年未遇君。山頭一旦適成群。知音如舊初傾蓋。會友無期只以文。膠漆交情斟淡水。瓊瑤麗句過青雲。相携欲結林泉計。塵網諠譁不足聞。

繼奉和右親衞源亞將見酬之詩。本韻。　橘在列

儒書將鉞共傳君。況是篇章別絶群。毎見天然詞自妙。便知地未墜斯文。林中木秀先摧吹。嶺上月明更遇雲。若占山居相從去。泉聲松響飽應聞。

橘才子重見寄。初二篇歎余之沉滯。後一章褒余之詩章。褒嘆之間五綴本韵。　源英明

日尋筆硯甚慙君。殊玉頻連瓦礫群。兵略素無

猶拙武。儒書曾學適飛文。應驚謝氏生安石。自識楊家有子雲。比挍才名程百里。褒詞還恐外人聞。

源亞將軍頻投瓊章。絕妙奇珍。無比於世。余不顧庸虛。敢獻拙和。而餘興未盡。感吟更催。氷霜在口。黼黻照目。不堪情感。重綴蕪詞。本韻。

橘在列

應是以才天縱君。二班二陸豈同群。還將揚土兼金價。欲買崑山片玉文。陳孔章詞空愈病。馬相如賦只凌雲。誰知亞將詩奇絕。鬼感神怜鳥獸聞。

源亞將軍或躍在淵。唱和之間。余常歎之。而亞將獨秉謙虛之志。動陳止足之詞。因綴本韻。敢獻鄙懷。

橘在列

滿朝有識盡悲君。無識人言自備群。莫謝放聲歌鳳德。猶怜累足履龜文。身留細柳孤營月。淚洒蒼梧一片雲。不耐廻頭思往事。先皇綸旨耳中聞。

橘才子以予爲失時。贈答之中屢有此句。余乃不然。故述來由。復次本韻。

源英明

抽身也昔侍堯君。便是當初鸞鶴群。晨入紫微傳鳳詔。曉趨靑瑣戴星文。竹悲湘浦空留淚。龍怨鼎湖遂隔雲。時去時來非不識。吾教知己一言聞。

重奉和。

橘在列

墻東避世似王君。欲逐浮圖羅什群。素業三千人外學。玄談八万藏中文。王充因命還論凍。摩詰將身更喩雲。不二法門皆話盡。應超獨覺與聲聞。

重次群字。

源英明

賦玄吟興不如君。賈馬後身元白群。過自毛公三百首。貴於老氏五千文。空門何必師羅漢。證地終知至法雲。少有書生通法教。疑逢十六

會中聞。

重押聞字。　橘在列

□殊桂父與茅君。伊洛逍遙自出群。□後蓮花先展偈。輿來竹簡更排文。西方欲蹈瑠璃地。上界應看碼碯雲。空有道中中道理。不憂夕死爲朝聞。

重賦文字。　源英明

園葵有信向東君。鮑叔知吾不棄群。金甲空懸依偃武。槐林獨茂爲修文。閑人多暇宜吟月。才子何年欲蹋雲。苦學寧如奢不學。冬冰莫使夏虫聞。于時學者沈滯。淺智昇進。故云。

復賦文字。　橘在列

一自漢宮辭聖君。晦蹤欲逐隱倫群。伯鸞久抱山中志。高鳳猶看雨裏文。披艸飲來顏巷水。採薇搜盡首陽雲。寄言巖戶寒蟬響。應異槐林昔日聞。

復賦雲字。　源英明

鍊藥有臣又有君。君臣和合扳獮群。蓬壺未得求仙棹。紫府難窺種玉文。心只辭塵行樂水。身何辭臼上飛雲。吟詩便是長生計。不信應尋元白聞。

復賦羣字。　橘在列

□與凡庸共事君。但怜野鶴在鷄群。閑來時酌樽中酒。衙退暫抛案上文。報枕曉聲伊水浪。入簾晴色華山雲。雖懷塵土和光意。韶樂應慵處々聞。

復賦聞字。　源英明

忠臣在下仰明君。何必追從遁世群。南嶺梳霜煩角綺。北山攞月見移文。彈冠有別孤巖水。抛杖無留古洞雲。爭勵愚駑朝右立。表祥奏瑞耳根聞。

重賦雲字。　橘在列

晩歲堯朝未識君。尙將元凱久俱群。已殊呂望匡周武。應似賈生遇漢文。座右舊銘猶暗

字。窓中遠岫半連雲。失時欲逐閑居志。世上浮榮如不聞。

重寄。　源英明

君知我意我知君。宿業因緣遇好群。念々歸依觀自在。生々親近釋迦文。榮名皆是波中沫。富貴寧非霽後雲。此事誰人能憶得。橘卿多見又多聞。

又。　橘在列

昭君古恨出於君。應惜遙交左衽群。蟬鬢不收風櫛色。雁書欲寄淚添文。行々相送漢宮月。去々猶深沙漠雲。馬上琵琶無限曲。胡兒掩泣不堪聞。

又。　橘在列

昔時魏有信陵君。令[]長連四子群。欲救平原獸穴厄。分偷晉鄙虎符文。三秦敗將歸關月。六國縱軍結陣雲。漢帝慕名今守冢。賢能應是古今聞。

又賦。　源英明

栽竹多年對此君。含情想像七賢群。劉伶常有紅顏色。阮籍應無白眼文。心是方圓隨器水。身唯來去觸巖雲。非趨名利宜多取。名是實賓稽古聞。

又。　橘在列

水石烟霞一屬君。家貧疎薄業殊群。停盃暫讀思玄賦。欹枕長吟招隱文。風後松篁聽似雨。塵中冠蓋望如雲。雖留朝市同林麓。深巷車聲漸不聞。

余昨日奉和安才子書懷之詩。餘興未盡。重贈拙詞。才子高和。拂曉入手。不堪感。吟以和之。次韻。　橘在列

須臾不可寸心還。懷到林泉養浩然。高鳳讀書逢雨日。梁鴻晦跡入雲年。溪風吹木搖秋思。山月穿窗訪夜禪。早晚共尋商嶺去。去時宜詠採薇篇。

近以拙詩寄王十二。適見惟十四和之之什。因以解答。　野相公

勝負人間爭奈何。淬將心劍戰肝魔。虛名日脚飜陽焔。妄累風頭亂雪波。賤得交情探底盡。老看時事到頭多。見君行李平如砥。誰向羊腸取路過。

重酬。　野相公

野人閑散立身何。自課功夫文字魔。蹇步更教吹退鷁。醜嚬還被敵橫波。水中投物浮沈異。手裡藏鉤得失多。折軸孟門難進路。可怜騏驥坦途過。

代渤海客上右親衞源中郎將。　都良香

紫微親衞寵榮身。奉詔南行對此賓。出自華樓光照地。來從雲路迹無塵。虵驚劍影便逃死。馬惡(去聲)衣香擬嚙人。渤海朝宗歸聖澤。願君先道入天津。

劉大夫才之命世者也。修國史之次乞予詩卷。因勒四韻題于卷後。　良春道

空勞畫餠合供饑。幼學孜々老未知。拭我古銅光不霽。涉君溟海水難爲。應修有國簪纓傳。那乞休官別駕詩。莫怪卷中多白眼。人生不得志多時。

野副使卓世之工文者也。常誦予詩句。枉見褒奬云々。予每見子之文辭。盡怯我風塵。此絕世之大才也。夫以孔門論詩。野已入室。良未升堂。決其勝負。豈惟伯仲之門(間戰)哉。郎知此華予之言。故題六韻以寄謝之。　良春道

看他詔黷苦相交。毀譽隨心變羽毛。野調又玄遭世忌。良詩尙白被人嘲。倶遊虎窟君餘力。竝覓驪珠我未遭。酌蠡判迷量海器。麾鉛嘗含剸犀刀。朝宗海口川流細。却過雷門布

鼓勢。如入大宮無不有。宮墻數仞仰彌高。

和從弟內史見寄兼示二弟。

野相公

世時應未肯尋常。昨日青林今帶黃。不得灰身隨舊主。唯當剔髮事□王。承聞堂上增羸病。見說家中絕米粮。眼血和流腸絞斷。期聲音盡叫蒼々。

和沈卅感故鄉應得同時見寄之作。次來。

野相公

杳客來如昨。寒蟾再遇圓。三冬難曉夜。萬里不陰天。漫遣刀環滿。空經破鏡懸。計應鄉國處。愁見一時然。

蕃客贈答。

遼東丹裴大使公。去春述懷見寄於余。勘問之間遂無和之。此夏綴言志之詩。披與得意之人。不耐握玩。偷押本韻。

藤雅量

烟浪淼茫雲樹微。廻□使節見依々。隨風艸靡殊方狎。就日葵傾遠俗歸。遼水鵬聲重北去。滄溟鵬翼去聲南飛。若長有與心期在。万里分襟更共衣。前紀鴻臚館。夜舍預彼席。遙以指別。今任此州。更拜清塵。不堪懷舊。脫衣贈之。故云。

重賦東丹裴大使公々館言志之詩。本韻。

藤雅量

凌雲逸韻義精微。一詠難任萬感依。不奈東丹新使到。唯怜渤海舊臣歸。江亭日落孤烟薄。山館人稀暮雨飛。見說妻兒皆散去。何鄉猶曳買臣衣。

初逢渤海裴大使有感吟。

菅淳茂

思古感今友道親。鴻臚館裏□餘塵。裴文籍後聞君久。菅禮部孤見我新。年齒再推同甲子。風情三賞舊佳辰。徃年賢父裴公以文籍少監奉使入朝。予先君時爲禮部侍郎。迎接慇懃。非唯先父之會友。兼有同年之好。紀裴公重朝。自說我家有千里駒。蓋謂大爲。今予與使公春秋偶合。賓館相逢。又般禮同在仲夏。故云。兩家交態皆人賀。自愧才名甚不倫。

渤海裴大使到越州後。見寄長句。欣感之至。押以本韻。　江相公

王道如今喜一平。教君再入鳳皇城。朝天歸路秋雲遠。望闕高詞夜月明。江郡浪晴沈藻思。會稽山好稱風情。恩波化作滄溟水。莫怕孤帆萬里程。

酬裴大使再賦程字遠被相視之什。　江相公

別後含毫意不平。滿篇總是憶皇城。廻頭遠拜堯雲影。戴眼遙瞻聖□明。詞苑花鮮抽旅思。詩流浪潔□深情。戀君欲趁夢中路。請問悠悠海驛程。

奉和裴使主到松原後。讀予鴻臚南門臨別口號。追見答和之什。次韻。　江相公

一從分手指遼陽。妒使來賓斷雁行。得志何愁雲水隔。江湖深契在相忘。

奉酬裴大使重依本韻和臨別口號之作。　江相公

曉鼓聲中出洛陽。還悲鵬鷁遠分行。思傾別酒俱和淚。未死應無一日忘。

書懷呈渤海裴大使。　江相公

烟浪雲山路幾重。十三年裡再相逢。虛聲我類羊公鶴。遠操君同馬岌龍。雖喜交情堅似石。更怜使節古於松。兩廻入覲裴家事。饒趁芳塵步舊蹤。

和裴大使見酬之什。次韻。　江相公

想彼烟霞閉數重。停盃還喜與君逢。夢中艶藻雖吞鳥。筆下彤雲不讓龍。底徹交斟秋岸水。蓋傾心指暮山松。江家昔有忘年契。莫怪鴻臚暫比蹤。

重依蹤字和裴大使見酬之什。　江相公

冥溟淼々樹重々。鰲抃應誇促膝逢。華表聲高

先聽ㇾ鶴。葛陂鱗化再看ㇾ龍。遠排㆓波母青山霧㆒。近對㆓東王紫(赤イ)爵松㆒。使範頻傳詩獨步。飛ㇾ觴還祝後來蹤。

裴大使重押㆓蹤字㆒見ㇾ賜㆓瓊章㆒。不ㇾ任㆓諷詠(味イ)㆒。敢以酬答。　江相公

忽望仙樓十二重。馬頭連ㇾ袂又遭逢。今日使主並ㇾ馬詣ㇾ闕。故云。占雲難ㇾ伴荀鳴鶴。摛藻多慙茫彥龍。詞雲瑩ㇾ珠先點ㇾ草。筆鋒淬ㇾ劒本藏ㇾ松。憐君累代遙輸ㇾ信。竹帛應ㇾ垂㆓不朽蹤㆒。

懷舊部。

懷舊。

冬日於㆓文章院㆒懷ㇾ舊招飲。　江相公

幹林懷ㇾ古遇㆓樽盈㆒。銀艾紛々珮響清。緩引㆓索郎㆒心自動。閑携㆓歡伯㆒感先成。鶴歸㆓舊里㆒歌三曲。馬至㆓新豐㆒嘶一聲。想得今霄盃裡趣。依然難ㇾ耐[　]。

冬夜閑居話ㇾ舊。以ㇾ霜爲ㇾ韻。　江丞相

懷ㇾ舊猶勝ㇾ到㆓老忘㆒。多言且恐損㆓中腸㆒。交遊少日心如ㇾ水。閑話今霄鬢有ㇾ霜。不ㇾ恨寒更三五去。無ㇾ堪落淚百千行。相㆓論前事㆒故人在。只是當時我獨傷。

扶桑集卷第七

扶桑集卷第九首缺

心酌㆓清流於娅水㆒。誾々如。侃々如。所㆘以悅㆓耳目㆒娛㆗心意㆖者也。于時宴闌日晚。歡洽醉酣。聊抽㆓後學之未聞㆒。敢尋㆓前脩之遺跡㆒。廼命㆓侍坐㆒各以賦ㇾ詩云ㇾ爾。

成林何必木叢生。聖世先敎々化明。枝葉豈因㆓風雨㆒密。本根猶自㆓典墳㆒萠。曉花半綻唯詩草。春鳥高歌是頌聲。更有㆓儒門餘孽在㆒。還慙暫忝㆓茂

材名。

毛詩。

仲春釋奠毛詩講後。賦詩者志之所之。

并序。　菅三品

釋奠者。蓋先王所以奉聖欽賢。崇師重道之大典也。是以仲月之春。初丁之日。散蕊芬於和風之砌。明德惟馨。奏鏗鏘於媚景之庭。聲樂以正。於是禮畢講經。□罷開宴。盈耳者四百年之風雅。洋々猶遺。解頤者三千人之生徒。濟々未散。夫詩之爲言志也。藏於心。牽於物。尋其所本。偏是爲志。名其所之。乃是曰詩。觸緒而動。待感而形。始則躑躅於胸臆之間。漸以流離於脣吻之外。王澤之及四海也。性水澄兮幽咽絕。德輝之滯一隅也。情竇暗兮怨曠生。至若彼鳥獸魚蟲栖於美刺之思。雪月花艸助其哀樂之音。則莫不言者聞者兩盡襟懷。乃君乃臣共取炯誡。爰知雖發自丹府之地。遂歸乎玄化之基者矣。國家德被瀛表。仁治寰中。苑柳隰桑之風。寂寞于歲月。汝墳漢廣之詠。衍溢乎康衢。至矣盛矣。太平之化不可得而稱計者。請歌治世之言。將貽採詩之職云爾。

聞說篇三百。蓋皆志所之。孕音凝在意。牽物散如期。動入風雲色。抽爲草木詞。當初庭訓絕。唯詠蓼莪詩。

同前。　菅雅規

在心爲志發爲詩。詩句何非志所之。意緒亂來誰解□。毫端書出不相欺。飄風吹送酬恩日。湛露流傳頌德時。玄化悠々淸慮樂。詠聲自作治安詞。

孝經。

仲秋釋奠聽講古文孝經。　菅三品

一千八百有餘文。名是孝經忠不分。聽盡爲臣爲子道。秋風吹拂意中雲。

仲春釋奠聽講孝經同賦資父事君。

菅丞相

仲春月之初丁大昕。有事于孔廟。蓋釋奠也。籩豆之事則有司存之。苾芬之儀則鬼神享之。禮云云。可名目以言矣。於是圓冠蹐節。博帶搵衣。命夫君子之儒。稽其古文之典。立言在簡。憲章于魯堂之中。敷說如流。擬議于洙水之上。故能志道據於德。擁經猶有三千。芸其艸。修其書。去聖曾未咫尺。夫孝事親之名。經爲書之號。謂之義者。旁觀地理。謂之行者。俯察人文。是以膺籙受圖之貴。非孝無以約左龍。啜菽飲水之卑。非孝無以據懸象。至如子諒之心。孫謀之詠。求之於百行。□如此一經者也。觀其一艸一木。不代勾甲於和風之前。乃父乃兄。無虧燕毛於觀學之後。濟々焉。鏘々焉。孝治之世。其猶鏡谷乎。况亦資於慈父以事聖君。君父之敬可同。孝子之門必有忠臣。臣子之道何異。然則揚名之義。可請益於北闕之臣。形國之儀。豈失問於南垓之子。願錄三綱之無爽。將叙五教之在寬云爾。謹序。

懐忠偏得意。至孝自成人。換白何輕死。含丹在顯親。王生猶有母。曾子豈非臣。若向公庭論。應知兩取身。

陪相國東閤聽諸小侯聚學孝經一首。

紀納言

夫孝者百行之本也。莫不資父事君因嚴敎敬。出於家庭而及於天下。盛於揚名而終於顯親。孝之爲道不其然乎。相國天然之性孝根其心。將寫先聖之襟懐以聽後生之耳目。遂命於碩學授此小侯。大化滂流。遙源勘在。諸小侯或居齠齔之年。或在綺紈之服。指以竹騎。更發叩鐘之情。聚彼艸螢。始歯函丈之列。期其陶染知幾曾參于時下欠

洗月落尼山時。好是三千夢後投。

仲春釋奠聽講論語有如明珠。并序。

善相公

貞觀十九年仲春上丁。流苻之禮卽畢。函丈之儀初開。卽會鴻生講述論語。所以傳儒風敎冑子也。說曰。前代學者。多以此書喩之明珠。取圓通也。嘗試論之曰。珠之爲器。寶之至重。或刻赤蚌之腹。或探驪龍之頷。內質虛融。外輝潔朗。徑纔過寸。照乘之光相分。圓不盈拳。燭堂之明自遠。故聖敎之不可測。强名而比此物。其理該通。其旨奇妙。出自海口之談。傳於洙流之側。卷舒則照璨於掌上。執持則玲瓏於懷中。探楚澤而難得。沒商丘而未逢。學之者智明。如洞穴之無暗。藏之者心潤。類河岸之不枯。立□喩義。良有以哉。若乃五經廣大。同巨鏡之溢匣。諸子雜碎。比屑玉之盈車。所鑒最微。爲寶甚賤。未足與之論其光明平其價直者也。于時王公以下。會聚德經者。便屬篇章。嗟詠此理云爾。

聖敎融通義入幽。更將光耀比隨侯。瑩來不是鯨精變。學得還如象罔求。誰覓漢濱尋潤岸。唯[illegible]壁水記圓流。手中愛翫心中喚。豈類神驚眄暗投。

夏日陪右親衞源將軍初讀論語各分一字。探得迷字。爲句韻。

源順

康保三年夏。右親衞源將軍招翰林藤學士。初讀魯論語。時人以爲。不恥下問。能守文宣王之遺訓焉。何則俗人未必賢知。以爲論語者幼學之書也。不足於晩學。不知其先聖微言圓通如明珠之義矣。將軍閣下。職列虎牙。雖拉武勇於漢四七將。學抽麟角。遂味文章於魯二十篇。所謂汎愛衆而親仁。行有餘力則以學文。蓋將軍之謂乎。爰有總州員外順者。昔是南曹聚雪之生。今則東海指雲之吏。業拙官冷。愁獻

蕪詞云爾。
將軍始讀宣尼訓。劔是左提書右攜。幸遇君兼文武道。慙臨員外吏途迷。

史記。

春日侍前鎭西都督大王讀史記應敎。并序。　江相公

古人有言。曰。荊山之璞雖美。不琢不成其寶。顏閔之才雖茂。非學非弘其量。是故鎭西都督大王。受史記於吏部江侍郎。蓋尋聖訓也。大王仁義有餘。百行無失。雖習馬遷之史。不忘車胤之勤。復在爲善。若非東平王之後身。業只好文。則是曹子建之再誕。于時綠觴頻傾。絃管緩調。春花面々。闘入酣暢之筵。晚鶯聲々。與參講誦之座。朝綱賀謝氷光。文慙雕虎。猥奉大王之敎。獻小子詞。謹序。
天孫思道幾疇咨。累葉儒林任在誰。欲問三千年鑒戒。迎來五百歲賢師。珠明成寶鑽堅處。青出於藍染學時。幸遇馳心尋馬史。執鞭還喜決狐疑。

蒙求。

八月廿五日第四皇子於披香舍從吏部郞橘侍郞廣相始受蒙求。便引文人命宴賦詩。并序。　都良香

禮記入學之歲。過之者非進道之勤。義有從師之方。違之者非漸訓之故。研乎其志。所以披沙鍊金也。礪乎其心。所以琢玉成器也。學之爲益不其然乎。皇子聰明在懷。日遠之對不敏。岐嶷居質。月初之談兆奇。然猶以老成之量。致童蒙之求。誰其擊之者。橘廣相是也。保此元吉。故讀李參軍之書。就彼明賢。故稟橘侍郞之誨。譬氷之解。碧水之心頓淸。若霧之開。青天之顏可視。於是宴命綠觴。恩喚墨客。濫賜御管。歌吹驚於仙眠。舍在禁宮。講誦近於天耳。脫發跡於今日。當傳事於後人。不有詩章

者上乎。何爲不レ作焉。不レ有二筆硯一者上乎。何爲不レ記焉。其辭曰。

天生二俊哲一號二天人一。自就二賢師一問二道眞一。今日童蒙皆擊蠹。心臺一鏡遂無レ塵。

詠レ史。

北堂漢書竟宴詠レ史得二高祖一。

菅淳茂

高皇本是布衣人。大度終爲黼扆身。聖體被レ知求レ飲客。龍顏應レ受入レ夢神。竹冠時着飛レ天日。雲蓋暗隨避レ地辰。初自レ斬レ蛇符已顯。漫言レ逐レ鹿說寧眞。讖呈二氏族一金刀舊。盟指二河山一鐵契新。八難從レ流謀二楚國一。三章解レ網撫二秦民一。關中約背功雖レ廢。垓下圍成業遂陳。十二□窮人倘憶。末孫九代繼二餘塵一。

漢書竟宴。詠レ史得二楊雄一。

江相公

遠揖淸風滿二緗編一。尋二來遺跡一感何專。巫山舊宅孤雲細。蜀郡新門一子傳。賓客交遊耽二旨酒一。文章滋味□甘泉。階墀執レ戟秋霜重。天祿披レ書曉漏懸。生白室虛唯席レ月。艸玄庭靜漫舖レ煙。恰君三代官無レ徙。不レ用二才名一聒二八埏一。

北堂漢書竟宴各詠レ史得二淮南王劉安一。

橘在列

問レ道鍊二黃上一翠微。也曾懷レ帙弄二琴徽一。形骸乍飽朝霞氣。齒髮長留日月輝。犬繞二雲中紅桂一吠。鷄依二天上白楡一飛。步虛唱了君知否。故國秋風露濕レ衣。

北堂史記竟宴各詠レ史得二叔孫通一。

紀納言

懷レ明難レ照世多艱。直道如レ訣十主間。他日遂逃二秦虎口一。暮年初謁二漢龍顏一。光加二粉澤一洪基貴。道拂二風波一少海閑。一代儒宗君第一。于今吾輩仰二高山一。

詠レ史得二漢濱父老一。

都良香

此翁連逅遠(去聲)煩拏。南北浮雲不定家。處賤安知天子貴。出塵唯蹈漢濱沙。慮貞膽徹清流底。歲暮髮分曉浪華。遺跡悠々尋不得。如今空問舊烟霞。

八月十五日嚴閣尚書授後漢書畢各詠詩得黃憲。并序　菅丞相

若夫詘中挾一。天度之趣可知。記事籠群。日官之用爰立。故堯舜盛矣。尚書者隆平之典。周道衰焉。春秋者撥亂之法。司馬遷之修史記。君擧無遺。班孟堅之就漢書。國經終建。逮于洛陽帝里劉嬰暫據宮城。建武王春更始(靚イ)纔偷甲子。遂撫運於堯胤。乘德於火方。靜我風雲。安我社稷者。斯乃光武中興之主也。雖則顯宗祇承使後之言事者。爭先永平之政。然而孝安屬當。令天之厭德者。遂至王士之粃。嗟虖。四百之年。圖書絕筆於孝獻。桓靈之弊。禮樂墜文於山陽。諸葛亮所謂親小人遠賢士。是所以後漢傾頽者也。於是順陽范蔚宗修紀傳。而繫日月。巨唐太子賢通注解。(恐有脱字)以膏肓。南陽故事雖百代而可知。東觀群言成一時之茂典。易曰。觀乎人文以化成天下者。斯文之謂哉。嚴君知斯文之直筆。味斯文之良史。遂引諸生。按授芸閣。蓋仲尼閑居。曾子侍坐。思道之事。自古而存。觀其人之吐白鳳者。通引籍以先來。世之蹈青雲者。待撞鐘而競至。肩舁汗簡。手執韋編。或不覺暴雨之漂流。或不知坑岸之顚墜。豈唯士安高尚。時人號爲書淫。元凱多才。獨自稱有傳癖而已。屬至貞觀六年甲申歲八月十五日。訓說雲披。童蒙霧散。三冬以足。百遍功成。知籯金之假珍。感瑑玉之眞器。稽古之力不可較量。於是赤帝之史。倚席於白帝之秋。三千之徒。式宴于三五之日。嚴涼景氣。方醉上界之烟霞。滿月光暉。盛陳中庭之玉帛。數盃快飲。一曲高吟。不可必趁瑤池。不可必臨梓澤。遊宴之

盛只復如是。子墨客卿。翰林主人。各分史以詠風流云爾。

黄生未免在人間。千頃汪々一水閑。逆旅初知師表相。高才更見禮容顏。陳蕃印綬慙先佩。郭泰車鑾歎早還。儀就京師公府辟。徵君豈出白雲山。

後漢書竟宴各詠史得龐公。

紀納言

後漢書者。宋太子詹事范曄之所删定也。編世十二。錄年二百。名居良史之甲。文擅直筆之華。莫不彰善癉惡。激一代之清芬。昭德塞違。備百王之烱戒。貞觀十四年秋明時以此書天下之奇作。令翰林學士臣大夫講之。大夫抵掌而談。提耳無厭。發彼先儒之墨守。擊以後學之蒙求。元慶元年春。擢遷左少丞。職非其勤。講以俄止。功漸爲山。恨如弃井。菅師匠承祖業之後。爲儒林之宗。經籍爲心。得王何於逸契。風雲入思。叶張左於神交。三年冬。遂以其有史漢之癖。令續其講。嗟乎德之有隣。道遂無墜。聽誘進之風者。投斧負笈。染惇誨之化者。虛往實歸。疑關揵排。非復金湯之險。義淵底徹。終知揭濿之津。及五年夏。披授始畢。明年春。聊仍舊貫。以設竟宴。促膝者盡是王公之會。盈耳者莫非金石之音。于時和暖有候。風景不貧。老鶯舌饒。語入哥兒之曲。殘花蹈斷。影亂舞人之衣。景傾醉酣。各相語曰。歡會易失。詩酒難幷。豈只取樂於今。宜以詠史於古云爾。

襄陽高士獨推君。祿利諠々豈亂聞。淸慮遠雖生產忘。素虛遺擬子孫分。逃名始得身巢穴。晦跡遂辭世垢紛。應是幽栖家不定。暮歸唯宿峴山雲。

北堂漢書詠史得路温舒。

菅三品

文華政理被人聞。鉅鹿雄才路長君。露澤青蒲留鳥跡。烟村碧艸從羊群。漢朝舟泛心中水。山色官尋眼外雲。惆悵春風棠樹蔭。芳聲遠播子孫分。

北堂漢書詠史得李廣。　源訪

班史將軍誰最良。隴西李廣甚強梁。抱兒直過邊沙去。誤虎還教臥石傷。五十年來持漢節。三千里外老胡霜。終身好忝君王命。不耻朝家與朔方。

北堂漢書竟宴詠史得蘇武幷序。　紀在昌

若夫万八千年。聲塵堙滅於巢穴之居。七十二代。軌躅寂寥於繩木之化。自彼書契之道蒼精開其遙源。言事之官黃神垂其勝跡。或左或右。載筆之職不絕。乃竹乃帛。執簡之功可知。是以左丘明亞聖之匹也。爰遺百王之鑒。司馬遷命世之才也。廼成一家之言。史之為勤。其來尚矣。班孟堅之修斯書也。撫北闕之故事。正西都之前史。詞條強直。文操錦摛。高皇受命之主也。故起文於豐邑之日。平帝墜業之君也。故絕筆於康陵之年。則知勸德撥亂。彰善癉惡。十二世之撫運。絲綸載而不朽。二百年之傳曆。樞機編而無遺。謂之漢書。良有以也。我后之馭天下也。憲章六籍。搜獵百家。留玄覽於鳥策。傾清聽於蠹簡。延喜十九年仲冬十一月。以此書經國之常典。命翰林菅學士講之。學士鈌鴿之業累跡。雕龍之才陶性。垂訓無厭。已居魯儒之宗。敷說不躓。早得漢聖之號。故染提耳之教者擊其蒙。聽拭舌之談者去其惑。逕業之徒成都。相趁於函丈之間。歸化之士如市。競進於執卷之列。至夫昇堂禮成。叩鐘問發。尋疑關而排局。待雞聲之曉。渡義淵而徹底。飜牛跡之岑。廿一年春。以其有人望之德。兼拜尚書左少丞。管轄在職。僶勉從事。機密之

勤。戴星無暇。誘進之道。兼日有妨。然而朝家賞斯文之雅麗。重其人之通博。雖當劇務之任。不奪惇誨之功。嗟乎。道之不墜。在今視矣。廿二年冬。篇軸漸盡。披授始畢。明年暮春。聊展宴席。會而連榻者。金章紫綬之客。唱而整節者。鵾絃鳳管之聲。馬相如之撫琴也。尋遺調而間奏。王子淵之弄簫也。逐舊曲以爭吹。況乎姑洗應律。韶陽屬候。定交於綏歌之後。流鶯知音。叶契於妙舞之前。低柳授(投)分。既而玉爵飲酣。金烏影暮。豈只扇古風於今日。宜以寫舊史於新詩云爾。

欲言蘇武事君忠。奉命龍城不顧躬。抱節多滄邊土雪。霑襟獨對朔天風。三千里外隨行李。十九年間任轉蓬。賓雁繫書秋葉落。牡羊期乳歲華空。胡庭遂是丹心使。漢闕還爲白髮翁。非只英名垂竹帛。麒麟閣上記勳功。

勤學。

高鳳字文通。南陽鄴人也。少爲書生。家以農畝爲業。而專精誦讀。晝夜不息。妻嘗之田。曝麥於庭。令鳳護鷄。時天暴雨。而鳳持竿誦經。不覺潦水流麥。妻還怪問。鳳方悟之。其後遂得名儒。

嗜學從來聞鳳久。研精豈是護鷄難。持竿已忘持竿趣。意在書林不在竿。

及第。

澄明重光一度及第。不勝欣喜。書詩相賀。

江相公

幸遇明時恩不訾。併名拔萃兩家兒。人言窓雪將三葉。桂許門風各一枝。忽見撫駒嘶破櫪。更憐養笋透踈籬。老牛蹄□漏無用。舐犢歡餘涕似縻。

賀菅秀才獻策登科。不堪欣感。贈以長句。

待詔初趨金馬門。道開還喜古風存。孫謀維見

三年面。祖業應ㇾ驚四代魂。紅桂枝高分種久。青錢價躍買聲喧。求ㇾ賢重放先賢後。繼ㇾ絕寧非ニ聖主恩一。君以ニ累代儒胤一擢ニ補秀才一。今果登。故有ニ此興一。

余近賀ニ菅秀才登科一。不ㇾ勝ニ助喜一。敢綴ニ老爛一。酬和之詞。韻高調奇。情感難ㇾ抑。重以吟贈。　江相公

東西雖ㇾ異本同ㇾ門。予祖父相公。天長年中。受ニ業於君高祖京兆尹一。承知之初。東西別當。各自名ㇾ家。累代通家道尙存。八斗才多稱ニ器量一。九升情動ニ惱夢魂一。窓螢役了辭ㇾ應ㇾ退。梁燕惟新賀自喧。我已晚齡君始壯。忘ㇾ年共契ㇾ報ニ朝恩一。

對策及第後。伊州藏刺史以ニ新詩一見ㇾ賀。不ㇾ勝ニ恩賞一。兼述ニ鄙懷一。次韻。　菅淳茂

窮途泣ㇾ血幾兼ㇾ秋。今日歡娛說盡不。仙桂一枝攀ニ月裡一。儒風四葉壓ニ人頭一。我心似ㇾ脫ニ重犍苦一。君賞勝ㇾ封ニ万戶侯一。魂若有ㇾ靈應ㇾ結ㇾ草。遺孤繼ㇾ絕豈無ㇾ由。予昔蒙ニ先君遺戒一。中不ㇾ廢ニ家業一。今自入ㇾ都至ニ揚庭一。皆右相府之一。故叙ニ報恩之意一。以答ニ本詩卒章一。

暮春賀ニ藤才子寮試及第一。花下命ㇾ酌。　江相公

口畔懸ㇾ河涉ニ漢深一。春衫拭ㇾ盞就ニ花陰一。外人傾ㇾ耳猶添ㇾ愛。況是堂中父母心。

落第。

落第後簡ニ吏部藤郎中一。　善宗

被ㇾ病無ㇾ才頻落第。明時獨自滯ニ殷憂一。青山不ㇾ拒ㇾ爲ㇾ僧去。白社那妨ㇾ作ㇾ客遊。水菽難ㇾ供違ニ母色一。田園已責失ニ孫謀一。如今干ㇾ祿君知否。轍鮒何須ニ江漢流一。

筆。

贈ㇾ筆呈ニ裴大使一。　江相公

我家舊物任ニ英風一。分贈兼歡意欲ㇾ通。縱不ㇾ研ㇾ精多置ㇾ牖。猶勝ニ伸ㇾ指漫書一ㇾ空。毫含斐誕松烟綠。管染湘妃竹露紅。若訝下本從ニ何處一得上。江淹枕上曉夢中。

武部。

弓。

文選竟宴詠句賦卷帙奉盧弓。

清滋藤

忽自烟塵起遠戎。獨收黃卷奉盧弓。僻窓更通胡山月。抛簡猶隨越竹風。牓上揚名忘射鵠。蕃中擁旆罷揮虹。一文一武俱迷道。爲我邯鄲步漸窮。

扶桑集卷第九

右扶桑集以立原萬本挍合

群書類從巻第百二十七

文筆部六

本朝麗藻 巻首闕

三月三日侍宴同賦間柳發紅桃應製。以春為韻。　儀同三司伊周

三日花朝和暖辰。紅桃間柳發粧新。烟濃纔透綬山月。黛動半藏曲水春。碧玉簾中裁錦妓。青羅帳後舉燈人。震遊如舊群臣醉。醉意詠歌魏代塵。

暮春於右尚書菅中丞亭同賦閑庭花自落。以心為韻。　江以言

送春花下相尋。自落閑庭助醉吟。脆是天為人散地。飄非風意鳥馴林。遊塵紅定蹊初合。行履珠歸跡半深。徒見多年開復落。今年初識有芳心。

七言。暮春於白河同賦春色無邊畔詩一首。以情為韻。并序。　源孝道

白河院者。城東第一之山莊也。積九峯於華岳。十其峰而化成。鄙百木於銑溪。千其木而列樹。蓋風月勝賞之家。春秋耻醉之地也。是以左親衛藤次將。與同志者五六輩。命駕於此。誠有以哉。觀夫春滿乾坤。色無邊畔。煙霞幾程。秦城萬雉之固豈隔。光陰不限。周王八駿之蹄難追。遂使桃李之為封壃也。不言之化遠被。詩酒之作家鄉也。無何之境難辨者乎。次將職勤禁部。雖講武備於豺虎之群。志在詠詩。猶

伴二文章於龍鳳之客一。今日之會感二其義一也。孝道老年前吏。才薄詞疎。桒蕪塵深。雖レ類二史雲之舊跡一。草澤春吟。猶仰二聖日之恩光一。暫接二芳遊一。謬爲二唱首一云レ爾。

春色眇焉處々生。望無二邊畔一幾多情。天涯不レ定二煙霞外一。海角難レ分二景氣程一。四面紅花風豈限。寸眸綠草境難レ名。莫レ嘲レ乘レ醉沈吟苦。王澤盛中樂二太平一。

暮春陪二都督大王（敦道）一遊二覽法興院一同賦二庭花依レ舊開一應レ敎。以レ春爲レ韻。　源道濟

家移爲二寺謝一二囂塵一。依レ舊花開憶二主人一。芳意寧將二前日一異。濃粧或有二每年新一。容輝樹老雖レ非レ昔。雨露恩遺不レ忘レ春。宜矣大王臨望處。今朝思レ昔動二精神一。

林花落灑レ舟。以レ風爲レ韻。　左相府（道長）

花落林間枝漸空。多看漠々灑レ舟紅。夜維二桃浦一飄二紅雨一。春艤二柳堤一送二絮風一。范蠡泊迷二霞亂處一。子猷行過二雪飛中一。更耽二濃艶一暫停レ棹。與引鎮爲二吟詠翁一。

同前。　江以言

春暮林花枝漸空。紛々散落灑二舟中一。棹郎忽怪二黃頭雪一。畫鷁應レ迷二繡羽紅一。粧勝二郭家歸路日一。桒嘲二傅氏濟川風一。池亭頻侍二華筵末一。枯幹先歡二道欲レ通。

同前。　高積善

花滿二林梢一映二碧空一。落來片々灑レ舟紅。行裝被レ染經レ波處。遠色猶隨レ去岸中。漁父棹歌應二白雪一。商人錦纜任二青風一。此時獨有レ不レ花木。折理誰能問二化公一。

花鳥春資貯。　右金吾

花鳥何日闘二古今一。爲二春資貯一勝二千金一。積應能散二風前色一。貪欲レ相二傳露底音一。頹景餘粮三月語。後句生計一園心。從レ茲想得非二貧素一。每レ見二土宜一任二醉吟一。

● 同前。　左金吾

春多資貯足相尋。非啻花飛也鳥吟。裁錦惜將風底色。貫珠銜得月前音。林勝茅土三千戶。谷笑華山一萬金。軟語關々頻報處。拾葩還耻不廉心。

同前。　江通直

花鳥有時與味深。三春資貯一園心。生涯被養飄林色。行路不貧出谷音。落蘂封來應萬戶。清歌募得是千金。爲吾未有陽和德。鬢雪甚寒任陸沈。

七言。暮春侍宴左丞相東三條第同賦度水落花舞應製詩一首。以輕爲韻。幷序。

江匡衡

洛城有一形勝。世謂之東三條。本是大相國兼家之甲第。傳爲左丞相之花亭。聖上不忘舊里。再備天臨。始廻翠華。一日禮外祖於當時。今准紫禁。二年移朝議於此地。尖泉石增美。雲樂四陳。簾帷添華。庭實千品。整伶倫於龍舟。自調春波之妙曲。擇墨客於鳳筆。皆瑩夜月之明文矣。〔イ无〕蓋當曲水之翌日。翫艷陽之風光也。觀夫落花不閑。度水自舞。遮沙風而宛轉。〔旋イ〕廻雪之袖暗翻。〔空イ〕過巖泉而婆娑。落霞之琴遠和。至夫赴〔起イ〕節之度無定樣。應聲之體有嬌粧。問根源於岸口。若出自梨園。〔杏イ〕出自杏園。〔梨イ〕任進退於波心。亦不知趙女。不知漢女者歟。夫勝地傳名以雖交美。帝后未必生一家之光輝。賢相輔主以雖世榮。父子未必致萬乘之臨幸。於戲千載一遇。不光古乎。昔漢高祖之過沛中。賞父老以擊筑。唐太宗之宴池上。率貴臣而獻詩而已。臣謬當其仁。粗記盛事云爾。謹序。

君臣宴樂歡游好。落葉亂葩度水輕。霜葉冬題陪地下。風花春宴近皇明。醉歌得趁桃源路。蹈舞欲看李部榮。翰墨寄身頭已白。鶯兒未長動心情。詩原脫。今據家集補。

同前。　左相府

花落春風池面淸。舞來庭水伴㆓歌鶯㆒。趁㆑流粧似㆓玉簪亂㆒。逐㆑岸色疑㆓羅袖輕㆒。粉妓易㆑迷飄浦暮。伶人難㆑辨過波程。唯歡此地古今趣。再有㆓沛中臨幸情㆒。

同前。　儀同三司

仙家春暮落花程。度㆑水飄颻舞自輕。艶態應㆑歌㆓遮㆑岸色㆒。奇香待㆑拍㆓踏㆑波聲㆒。雪膚路濕霓裳重。風力橋高錦袖明。鳳輦宴酣方欲㆑幸。可㆑憐沛老狎㆓恩情㆒。

同前。　左金吾

洞中今望㆓落花明㆒。度㆑水舞時俗眼驚。應㆑下㆓粧樓㆒飄㆑岸處。似㆑飜㆓羅袖㆒映㆑波程。雙行蝶導流心動。送曲風來浮艶輕。爲倩㆓陽春新調奏㆒。宮商自有㆓治安聲㆒。

同前。　左金吾

韶樂非㆓唯麟鳳驚㆒。落花度㆑水舞方輕。玉簪初動飄㆑流處。羅袖斜飜過㆑浪程。飛笑㆓粧娃㆒縈㆑岸出。亂隨㆓伶客㆒棹㆑舟行。鶴遊蝶戲應㆓同意㆒。率舞皆知㆓治世聲㆒。

同前。　源明理

落花漫卜㆓洞中晴㆒。度㆑水舞來妙曲粧。飛過㆓沙風㆒紅袖舉。亂經㆓岸露㆒玉釵傾。應㆑歌粧脆逐㆑舟去。赴㆑節影飜趁㆑浪行。溫樹今迷廻雪色。梨園佳妓欲㆓相爭㆒。

同前。　紀爲基

度㆑水落花影又淸。舞來唯任㆓緩風聲㆒。玉粧過㆑浦簪先動。紅艶起㆑波袖自輕。兩岸臺遙移㆑節裏。長橋路遠應㆑歌程。林池勝趣春方暮。寒木欲㆑期㆓何日榮㆒。

同前。　源孝道

仙家春暮落花盈。度㆑水舞來變態輕。紅袖濃葩遮㆑浪處。羅裙彩艶過㆑流程。岸應㆓妓樹㆒砂風送。林是粧樓浦月迎。二十年前重侍㆑宴。淺緋未㆑改

白頭情。

同前。　橘爲義

洞裏落花令眼驚。紛々渡水舞猶輕。霞應羅袖經流處。鷺是鳳釵過浪程。赴節斜遮沙月色。廻臺被送岸風聲。何唯芳樹浴恩澤。二十年前花下情。

同前。　藤爲時

花前春暖鳳池清。落蘂舞來度水程。分岸粧奩風漸送。上橋簪動月相迎。飄超石瀨紅裙轉。散過波塘玉履輕。此地猶應眞勝地。宸遊再奏九韶聲。先年有臨此地。故獻此句。

同前。　藤廣業

洞中花落望相驚。度水紛飛舞自輕。亂似婆娑經浦後。散如宛轉過波程。葩飄紅袖砂風送。匂曳羅裙岸月迎。此地勝形人識否。鑾輿再幸有歡情。

花木被人知。以名爲韻。　具平中書王

年齡稍邁減詩情。被誘鄒枚一句成。應笑久抛風月賞。桃梨之外忘花名。

同前。　江以言

春天花木富芳榮。自被人知得擅名。何處未承霞養色。誰家不審鳥呼聲。匂同唐帝專房女。粧笑秦聲一里兄。莫恨翰林零落去。西園今日接群英。

花色照青松。以春爲韻。　江以言

花色重々德及隣。青松引照假濃春。露瑩不暗含烟暮。霞映猶明凝雨晨。翠竹簾前紅袖透。綠蘿山上月眉新。使君今有芳心屬。零落翰林榮望頻。

花落掩青苔。以閑爲韻。　高積善

院裏青苔藏往還。落花掩布望彌閑。雨初散亂春崖變。風處紛飛古道班。瓊粉誤加粧黛上。綵雲漫鎖碧溪間。踏紅踏雪徘徊久。不識烏輪入暮山。

暮春與ニ右金吾一眺ニ望施無畏寺上方一。

儀同三司

今日引レ君出ニ世塵一。施無畏寺許ニ交親一。情歡偶入ニ烟霞興一。官耻俱爲ニ獻納臣一。山雨鐘鳴荒巷暮。野風花落遠村晨。此時眺望忘ニ歸路一。暫作ニ騰々閑放人一。

花落春歸路。以レ深爲レ韻。

儀同三司

春歸不レ駐惜難レ禁。花落紛々雲路深。委レ地正應ニ隨レ景去一。任レ風便是趁レ蹤尋。枝空嶺徼霞消レ色。粧脆溪閑鳥入レ音。年月推遷齡漸老。餘生只有ニ憶レ恩心一。

同前。

藤輔

花落春歸共背レ心。更遮ニ行路一共相尋。風和過處多薰レ地。鳥老去程漫謝レ林。媚景臨レ岐殘雪亂。芳辰按レ轡晩霞深。光陰荏々當頭走。一日追歡勝ニ萬金一。

夏。

四月未レ全熱一。

左金吾

炎蒸未レ及レ惱ニ心胸一。便識有時節氣從。千畝麥風秋暗報。一旬萍日暑猶慵。試披ニ筠簟一還應レ卷。初製ニ蕉衣一半不レ縫。命レ飲言レ詩忘ニ俗境一。更嘲河朔昔劉松。

四月八日灌佛詩。

中書王

香湯灌レ佛喜還悲。沒後重看出世時。願以ニ今朝供一一絕。每レ逢ニ花月一解レ吟レ詩。

夏夜池亭即事。

儀同三司

圍レ棊掩レ韻及ニ鷄鳴一。向レ老慇懃朋友情。口詠ニ新調千首集一。于時於ニ座上一披ニ閲銀勝集一。故有ニ此興一。心歸ニ不斷一乘聲一。相府不斷經年月漸久。故云。水烟半濕綺羅冷。山月初昇樓閣明。逸樂君家時日事。風流常得レ到ニ蓬瀛一。

雨爲ニ水上絲一。以レ浮爲レ韻。

源伊賴

如レ絲雨脚水心幽。終日微々未レ得レ休。灑憶ニ冰蠶池上吐一。亂疑ニ烟柳岸前浮一。縿無ニ定處一唯風浪。充是何方任ニ石流一。豈只佳遊逢ニ此日一。花紅春與レ月

明秋。

同前。　藤爲時

暮雨濛々池岸頭。更爲水上亂絲浮。經從潭面雲難結。曳自波心脆不留。細灑應爭漁浦藕。斜飛欲貫釣磯鉤。誰知流下沈潜客。霜縷數莖夏裏秋。

同前。　菅宣義

蕤賓初日雨油々。細脚如絲水上浮。紅女機疑移浦口。青州貢誤課沙頭。織從蘋浪輕文案。縿任蘆風暗縷柔。應似王言多惠澤。波臣在藻樂中流。

池水繞橋流。以情爲韻。　源相公頼定

前池形趣本傳名。流水繞橋入夏清。旅雁一行秋漢潔。長虹千里暮雨晴。魚驚左右紅欄影。人踏東西白浪聲。此處風烟非俗境。宜哉久契勝遊情。

同前。　藤敦信

池上雨收景氣晴。溶々流水繞橋清。廻塘烟裏龍鱗暗。枯岸晴前雁齒明。潭泛紅欄南北影。浪隨玉履往還聲。每看形勝消塵慮。何必遠求蓬與瀛。

絃歌伴月來。　右金吾

具說絃歌伴月程。蕭々來觸脆且清。高調欲踏樓中雪。相唱方趍嶺上晴。雲掩秋風吹不至。霧披瀧水撫初行。沸天遍使尊卑樂。應笑子游昔武城。

敷簟待客來。便用來字。　江以言

夏天敷簟立徘徊。終日相期待客來。且掃門前當月展。預空座右任風開。一條露滑憑言約。六尺烟平誡酒盃。珍重相公招引德。不然爭到晚涼廻。

夏月勝秋月。　左金吾

月好雖稱秋夜好。豈如夏月惱心情。夜長閑見猶無足。况是晴天一瞬明。

清夜月光多。以レ澄爲レ韻。　一條御製

偶迎二清夜一引二良朋一。滿月光多空碧澄。入レ牖家々添二粉黛一。照レ軒處々混二華燈一。山川一色天涯雪。鄉國幾程地面氷。席上英才宜二露膽一。由來諷諭附二詩能一。

同前。　右金吾將軍

從レ迎二清夜一月方昇。遠近光多レ似二好朋一。四五更天皆粉壁。三千界地盡層氷。樓臺內外無二遺見一。渠水高低各處澄。照到於同皇德遍。家々爭望得二相仍一。

初蟬纔一聲。以レ心爲レ韻。　御製

五月云來感自侵。初蟬纔報一聲吟。韻慵誰有二重傾一耳。響止空催二再聽心一。岸柳綠前驚欲レ認。宮槐風底失何尋。此時莫レ道天功淺。三伏夏闌滿二禁林一。

高閣夜涼多。以レ風爲レ韻。　江以言

高閣斜排四望窮。涼多暑散夜登レ中。攀二臨靈檻一昏煩息。歷二上平臺一暗熱空。納レ月簟瑩迎二曉露一。連レ雲燈動先二秋風一。凄淸自遇爲二善樂一。宋景應レ慙レ待二楚宮一。

水樹多二佳趣一。　右金吾

水樹淸涼景氣深。自多二佳趣一助二登臨一。一千年鶴鑒レ流思。五大夫松傾レ蓋心。翡翠成レ行烟暗色。瑠璃繞レ地浪淸音。歡遊已隔二囂塵境一。莫レ語二此時漫醉吟一。

同前。　源道濟

幽奇水樹足二登臨一。佳趣太多興味深。沙石縱使何得レ汙。枝條方茂好レ成レ陰。流淸自備二聖人鑒一。松古唯諳二君子心一。無限風烟蓮府裏。不レ思象外遠相尋。

秋花先レ秋開。以レ芳爲レ韻。　中書王

一畝家園映二夕陽一。秋花驚見先レ秋芳。紅顏且笑雖レ侵レ熱。紛艶猶含欲レ待レ涼。子月齊レ名傳二早艶一。南風越レ職領二新粧一。多年相對還添レ恨。叢上露疑二

鬢上霜。

左右好風來。以涼爲韻。　左相府

好風來處慰心腸。左右飄衣夏日忘。橫釵腰間連竹響。續銘座下送荷香。簾帷高捲雙矜動。羅綺閑居兩鬢涼。唯樂前池無苦熱。月明白浪疊氷霜。

同前。　橘爲義

一從水閣避炎光。唯任好風左右涼。暮入西牕飄案牘。曉經東戶拂琴堂。先収短袖數行汗。忽動佩刀三尺霜。何必當初河朔飮。池頭今日勸殘膓。

秋。

早秋賦秋從簟上生。題中取上韻。　中書王

秋至微涼未足驚。初從簟上漸應生。一身暑氣施未去。八尺商風展得清。曉後彌知烟竹滑。日中更愛露花瑩。炎天與汝相親久。莫恨秋深月自輕。

七夕佳風爲使。以知爲韻。　御製

靈匹佳期素在斯。涼風爲使去來儀。感通鵲翅成橋路。韻訪龍蹄促駕崖。且託歡情飄至報。追傳別恨咽中知。一從蘋末迎秋起。念化自慙未得移。

牛女秋意。　儀同三司

何爲靈匹久相思。一歲唯成一會期。行佩應紐冷靈玉。雙蛾且畫遠山眉。未終秋夜難來意。已至朝雲欲別時。此恨綿々無說盡。蒼茫天水問阿誰。

七夕於秘書閣同賦織女雲爲衣應製。以秋爲韻。幷序。　江以言

金商七年之候。銀漢二星之期。綺節麗辰之標。名露布於四民之介。詞人才子之傳。頌風羅於萬代之文。聖上裝金殿排石渠。列星位召風人。香粉曉散遙笑秦城宮掖之雲。玉卷晴披長

嘲周王羽陵之露。蓋乃聖範好文。宸旒鑒古之至也。于時仙星增飾。綵雲爲衣。裝居霧帳。相待鵲翅之南北。襲備霓裳。只從龍蹄之去留。至〔以下闕文據文粹補〕如夫楡風吹兮易亂。桂月臨兮欲晴。〔哉無〕刀尺。經西母〔之路而彌縫。染有淺深。逐子高之駕而潤色者也。既而玉井影上。銅水聲移。醉天尉湛々之恩。乞星躔奕々之巧。以言聚丹螢而成功。雖歡屬堯日之南明。問青鳥而記事。猶恨暗漢雲之子細。遙隔羽服之化。忽列仙衣之衿云爾。謹序。〕

本朝麗藻卷上

本朝麗藻卷下

山水部。

遙山斂暮煙。以晴爲韻。　中書王

廻望四山向暮程。紅煙斂盡遠空晴。谿束唯任殘陽照。嶺上何妨滿月生。紈扇抛來青黛露。羅帷卷却翠屏明。秋深眼路無纖靄。其奈香爐舊日名。

同前。　江以言

眇々遙山幾許程。暮煙斂盡望中晴。遠松正色鳥歸見。新月浮陰嵐去明。深帷高褰青黛出。低巾更整醉顏驚。吾王本自久相樂。尼嶺光輝顧盼生。

過秋山。　中書王

淸晨連轡伴樵歌。漸上青山逸興多。松嶠煙深迷晚暮。石梁霜滑倦嵯峨。林間尋路踏紅葉。巖畔側身攀綠蘿。三叫寒猿傾耳聽。一行斜雁拂頭過。長安日近望難弁。碧落雲晴何可摩。莫道登臨疲跋涉。人間嶮岨甚山河。

海不辭水。以深爲韻。　江以言

巨海儀形聞古今。不辭積水遂成深。謂多夏

后奔流漸。論細秋王滴露使。呑閲渭波涇浪色。納傳一日再湖音。朝宗有信未知飽。涯岸無厭何處尋。坎位當仁宜自得。坤靈與化好相歆。三廻九折東西路。江月漢雲曉夕心。万國應歸南面德。衆星猶拱北辰陰。拙詩述叙滄溟趣。更執玄虚舊賦吟。

晴後山川清。（探得遊字。）　左金吾

山露川清景趣幽。近望雨脚對東流。嶺摸毛女唯青黛。浪伴漁翁自白頭。雲霧靄收松月曙。菰蒲煙卷水風秋。云仁云智足相樂。宜矣登臨促勝遊。

同前。（深得添字。）　善爲政

晴後遠尋勝地占。山清川潔色新添。潭心月映金波漲。嶺面雲開翠黛纎。松鶴熨翎高歌舞。藻魚掉尾入難潛。君多智仁長相樂。此處誰嫌久滯淹。

與諸文友泛船於宇治川聊以逍遙。　儀同三司

箋篷蘆廬宇治川。泛然相憶古神仙。清談綏發盃初匝。緩騎遲來棹未前。模嶺晩雲紅慘澹。落濤秋水白潺湲。林（村一本）南柳樹將軍宅。（深草西岸有一舊墟。臨河有楊柳兩三株。人傳天慶征東使終焉之地也。江相公詩云。只看小暗宅邊（前イ）柳。謂此乎。）橋北稲花帝王田。（宇治院臺榭已毀。只有點田。）波勢湯々巴峽路。風聲嫋々洞庭天。山河奇絶詩人記。土地苞茅里老傳。朝位共趁鸞鳳闕。野遊同宿釣魚船。壽夭否泰非吾意。唯誦莊周第一篇。

夏日陪於員外端尹（頼通）文亭同賦泉傳万歳聲詩一首。（以送爲韻。幷序。）　江以言

夫楚金風胡之利。豈非資砥礪之功。吳桐煙越之材。且猶待彫斵之力。人之好學。其義在斯。是以員外端尹。以左丞相之家督。定居東閣。引梓材於群英之中。學步北闕。相期槐路於累葉之下。於戲魯公者周公之嫡嗣也。崔禹者崔光之長男也。漢家襲封之後。慙蒼頭於黄山之雲。齊

國政之中。責北面於東海之月。積善餘慶獨冠古今者也。今屬泉聲之傳萬歲。始動風情之備六義云爾。

山呼万歲空無識。水號千秋未足要。唯有泉聲新引得。相傳万歲一家送。

同前。　藤爲時

人年万歲傳何處。一道飛泉遶石橋。漢主若知家主意。山聲定愧水聲遙。

佛事部。

見大宋國錢塘湖水心寺詩有感繼之。　源爲憲

錢塘尋寺幾廻頭。見說煙波四望幽。精舍新詩應日想。白家舊句欲心遊。湖中月落龍宮曙。岸上風高雁塔秋。法界道場雖佛說。恨於勝境自難求。

同諸知己餞錢塘水心寺之作。本韻。　左金吾

錢塘湖上白沙頭。四面茫々樓殿幽。魚聽法音應踊躍。鳥知僧意幾交遊。春風岸暖苔茵舊。暑月波寒水檻秋。已對詩章諳勝趣。何勞海外往相求。

酬和前遠州繼大宋國錢塘西湖水心寺詩之什。本韻。　源孝道

聞說錢塘對嶺頭。中占地勢寺亭幽。樓臺淨土新形趣。風月樂天昔宴遊。白浪傳聲湖面舊。紅林倒影水心秋。每看勝境在詩句。恨隔雲濤不得求。

晩秋遊清水寺上方。　左相府

清水寺深東嶺頭。暫辭塵境草堂幽。雲端鐘響逐嵐去。澗口泉聲穿石流。禮佛獨憐霜葉老。伴僧同入暮山秋。輪廻世々纏煩惱。今仰大悲豈有愁。

同前。　有國勘解相公

秋遊多被上方牽。清水寺中古洞前。路僻遙登

巖桂月。梯危斜度澗松煙。眞心偏得逢千佛。俗骨還如到半天。從此塵機長斷盡。生々世々結來緣。

冬日宿法音寺各言志。　江以言

近日相期此寺中。此霄相宿思方空。先言不信夏侯芥。雙鬢漸梳商老蓬。抱節還傷松竹雪。繫緣遙結悉檀風。有時候得好文日。姑識是吾運未通。

秋日遊東光寺各成四韻。　善爲政

樓臺竹樹目高卑。此寺由來地勢奇。籬下寒花紅錦繡。池中秋水碧瑠璃。茶煙纔出山厨寂。松月遙(遲イ)昇岫帙垂。今日相尋偷顧望。雲泉無厭我初知。

晩秋遊彌勒寺上方。　源孝道

秋尋蕭寺陟高崗。攀樹踞巖只眺望。塵境心悲虛澗水。禪門徑踏半天表。巫陽有月猿叫。商嶺無雲雁一行。日暮入堂偏念佛。生涯毀譽任家鄉。

禪林寺眺望。　源道濟

一尋古寺到城東。靜立上方四望通。紅樹重重寒雨後。煙村處々夕陽中。塵勞欲洗胷波水。毀譽不來耳界風。自是宜隨無漏結。永抛俗累出樊籠。

石山寺小池蓮。　源爲憲

寺鑿小池蓮正迸。與人間草不須論。經爲題目佛爲眼。知汝花中殖善根。

歲暮遊園城寺上方。勒。　江以言

歲暮偶尋山寺登。蕭々四望感相仍。鄕園迢遞介雲隔。林草彫殘被雪凌。風澗寒時掛綠桂。石橋滑處杖紅藤。松門親友昏看鶴。花路遠雞曉聽蠅。共引霜臺歡會客。初逢雲洞薜蘿僧。風情忽發吟猶苦。日脚漸斜去未能。泉戸草殘寒雪厭。山厨茶熟暮煙興。懺來累業眼前結。除却塵

勞言裏凝。學路虛名慙二夜月一。官途寸步蹈二春氷一。欲レ歸二延佇及一レ昏黒。遙指河西一點燈。

七言。冬日於二雲林院西洞一同賦二境靜少一レ人事詩一首。以レ賖爲レ韻。幷序。

源道濟

雲林院西洞。天下奇地也。本雖レ孕二地之異勢一。猶未レ加二人之潤色一。往年定閣梨初來爲レ主矣。彫レ雲以架二經藏一。籠レ月以裁二佛座一。疏二方流一而貯二泉脉一。江皐海鷗萃二止其間一。環二小山一而籠二煙嵐一。奇卉靈木黼二藻其下一。内以備二高深之事一。外以極二廣望之趣一。春風秋月好事之者無レ不レ遺レ賞焉。筝室煙絶。金河波枯以來。烏雀皆含二愁雲之影一。草樹盡帶二悲風之聲一。戀慕之至也。況復歳暮而多二情感一。境靜而少二人事一。寂々紙窓之中。禪侶誦兮只微音。漠々沙堤之上。仙禽眠兮不レ鼓レ翅。至二於松軒幽而塵客稀來。蘿洞深而香火纔點一。煙霞其興。則身遊二無何有之鄉一。水月其觀。只心入二空假中之道一者也。于時我黨之英都盧四人。雖レ偷二出洛城一遠尋二風流之幽趣一。而一入二古寺一。共動二舊故之悲端一。于嗟往二其所一思二其人一。不二出宜一乎。請記二今日之大概一。將レ爲二當主之小緣一云レ爾。

一辭二塵巷一入二烟霞一。乘レ興不レ知二往反賖一。境靜人稀無二俗事一。松風颯々日方斜。

七言。暮秋勸學會於二法興院一聽レ講二法花經一同賦二世尊大恩一詩一首。以レ深爲レ韻。幷序。

高積善

暮春暮秋十五日。緇衣白衣四十人。講二法華一唪二文藻一。名曰二勸學會一矣。近世以降。會衆之鐘不レ聞。赴期之客無レ音。月輪像前講筵。空倚二曝露之冷壁一。天台山下詩境。還爲二望雲之故鄉一。廢絕之趣自然而然。方今位二祖搆一者不レ幾。僧俗纔五六人。適過二洛陽中一。議以二復舊之計一。僉曰。本堂破以不レ繕。無レ處二相期一。行路遠而有レ煩。誰人必到。況乎九州之地。遞有二盛衰一。當二其衰一也。其事不レ建。安知此會之所レ廢不レ須レ復。其去之令レ然。沈吟而

日月漸久。終入二左相府之聽一。相府觸レ事重二舊風之欲レ墜。每レ道戒二〔跡イ〕先祖之可一レ傳。許二此院一以繼二我會一。依二鴻恩一以事二〔拋〕雁王一而已。遂使世尊之有二大恩一。我等之無二一報一。銜レ珠以有二何由一。已繫二內衣之間一。粉レ身以可レ不レ足。忽得二中道之理一。頂戴之志不レ可二測量一者也。既而淸景難レ遇。佳期可レ知。汝南備レ雞之家。范張唯二友。城東讃佛之席。風月是幾聲。積善競二宿露一。以誦二一乘之文一。屬二落日一以繫二九品之望一。歷二閑官一而多レ暇。朝暮之薰修漸積。顧二殘涯一而少レ歡。山林之素意屢驚云レ爾。

同前。　勘解相公

勸學會中聽二法音一。世尊未レ報大恩心。以二虛空一較空猶狹。斟二巨海一論海豈深。圓頂戴來難二思議一。兩肩荷負不レ堪レ任。春秋十有九年後。此會中興契二古今一。

探二得富樓那一。　源納言（俊賢）

出レ從二釋氏富樓那一。字是滿江意幾多。知惠風高詞卷レ霧。辨才浪涌口懸レ河。慈悲內契應レ由レ我。利益外情似レ忌レ他。第一名聞三世久。生々展轉在二娑婆一。

秋夜對レ月憶二入道尙書禪公一。　源爲憲

去年尋レ君談話夜。飛香樹東秋月明。今夜憶レ君端居夜。敎業坊中秋月淸。一酌一盃月相似。時去時來人不レ同。當二我衰鬢一難レ辨レ白。入二君觀念一應レ覺レ空。何事閑對得二相憶一。員外官冷無レ所レ營。定知山月咲二遲來一。行年比レ君二年兄。

贈二心公一古調詩。（慶保胤）　中書王

少日受二君業一。長年識二君恩一。不レ嫌二我才拙一。頻垂二師訓惇一。交情深二淡水一。操行染二蘭蓀一。秋同開二月戶一。春共入二花園一。看レ雪松下閣。避レ暑竹陰軒。結

契年幾改。十五變寒温。逐年心彌固。金石何足言。相見期終世。何似水上鴛。一面歡忘憂。不用堂北萱。君已爲儒士。對冊上龍門。丹穴招鳴鳳。滄溟驚臥鯤。風煙賞翫處。沈思琢璵璠。吟聲寒玉振。筆跡黑龍蹯。（公爲内書作自書。）氣擬相如賦。理過桓子論。韻古潘與謝。調新白將元。博達貫今古。識鑒洞乾坤。終觀身幻化。長避世囂喧。禪坐一巖戶。山深僻民村。君我相別後。漸以累晨昏。形皃猶在目。戀慕幾動魂。林中抛風景。袂上點淚痕。收淚倩思量。遠哉君心源。人皆營榮利。擾々復惛々。上求三公位。下欲五馬轅。夜使算財產。明也東西奔。入家憐妻妾。奉公爲子孫。晩歲方富貴。食飽而衣温。貪欲所積集。錢帛似雲屯。奴婢曳羅綺。歡宴列罍罇。庭院山水遙。林叢錦窠繁。秋露一朝殞。長入那落燔。籠中有飽雉。豢中有肥豚。少分生前樂。万刼後世煩。莫着夢花色。可畏邪棘蕃。雖道諸佛力。不結斷惡根。譬猶日月光。不能穿覆盆。君已割恩愛。解纓入丘樊。慈悲覆法界。戒行爲化勸。我幸出皇胤。襁褓列于藩。衣食涯分足。虛閑方寸存。生□持妙法。菩提欲攀援。（余有下生々誦持法華經教化衆生之願上。）常隨君前後。宛如弟與昆。願共生極樂。（公在俗之日常念佛。言談之隙合眼唱佛號。余同有往生之願云。）願共謁慈尊。（公與天台源公修値遇慈尊之業。予適預之。）相次入地獄。罪人盡平反。分身隨鬼畜。忽解楚痛寃。世々爲師弟。遊化生死原。處々蒙敎勅。施與法喜飡。縱盡未來際。此語誓不諼。

憐戶部出家。（應和右丞相之侍婢也。）　儀同三司

撫鬢昔戲紅樓上。對鏡今愁白屋中。盛者必衰新見取。剃除霜鬢出塵蒙。

近來播州書寫山中。有性空上人者。誦法華經爲事。寤寐不休。天台源公聞其高行。遠尋相見。緇素結緣者。寔繁而有徒。予傳見諸讃聖德詩。顧身恨障礙多緣。未

遂頂禮。分綴拙什。聊結緣。

中書王

寂寥山中坐禪師。一乘蓮華能憶持。掌底鐵針出胎日。上人出胎手拳。父母怪開之。有一鐵針云々。經中白米絶糧時。事見本詩序。妙文暗記眠猶誦。法力冥薰貞未衰。上人春秋六十九。而猶有光澤云々。虱去都應身淨潔。禽馴只爲意慈悲。雖歡同代聞來久。更恨終年面拜遲。縱使眼前無見我。猶勝耳外不知誰。豈非今世迹君美。便是當來讃佛詞。再拜西方遙寄語。慧光早照我愚癡。

神祇部。

竹生嶋詩。

高積善

靈嶋聞名遙寄懷。秋風尋到立徘徊。老松古栢相重插。恠石奇巖似欲頽。行雨終朝連水見。低雲薄暮抱山廻。有神此上歳年久。天下剋誠任浪來。

三月盡日陪吉祥院聖廟同賦古廟春方暮各分字詩一首。探得分字。幷序。

江以言

廟基祐兆。欲百年之間。家業繼塵。及七代之後。吏部大卿相公。當三月之閏餘。乘五日之休暇。懷故事於廊下。惜春輝於廟前。於是貫首弟子大長秋納言。其餘受資衍業之者。左圓右方之倫。灑中露從下風。濟々焉。煌々焉。以助聖廟之威儀。以賁聖廟之風月。盖有以矣。相公棠昇伊第。高步十六行之中。材劫辛君。永加三十徒之首。即以槐市之棟梁。遂爲棘路之翹楚。豈非先廟之餘慶延及一家之後胤哉。方今芳年已盡。花月將窮。百花亂落。叢祠之雪難留。一日已斜。栢城之雲漸暗。彼伍子江之波。徒揭五葉之聲。仙母山之花。空開九株之色。未如吾靈廟。金策頻加。樹人位於夜臺之後。素功遂立。忝靈望於日域之中。方配大祖之食。永傳胎孫之慶焉。既而春夜欲明。望牛漢之西轉。夏日告

朔。招象魏而北轅。以言性是愚魯。雖慙雁（鳥イ）雲之嘲。志猶思齊。未抛螢雪之業。一生只樂道腴。万事自任廟意。于時長保元年閏三月二十九日。聊記大概。繫廟籍之卷末云爾。

時置犧樽石鳳文。送春今宴廟門雲。一門自有千年會。遮莫花飛後鳥分。

七言。九月盡日侍北野廟各分一字詩一首。探得□字。并序。　高積善

夫形者百年之旅館也。名者万代之嘉賓也。西狩以後。弈世聲塵。猶揚魯門之風。東征已來。幾年德輝。高懸漢家之日。如我聖廟不其然乎。聖廟舊花可知。兼佩將相之印。末葉作鑒。忝顯詩書之功。況乎文學爭鋒之初。一家方享邦國之大名。雲雨裝駕之後。餘裔猶爲風月之著姓。今之吏部（補正）相公。是其四葉孫也。相公久樂祖宗之道。槐棘踏陰。多仕文武之朝。星霜在首。昔受任於海西之府。誠求拜其先靈之神。今設宴於城北之祠。豈非講其先靈之德。當其觴爵行而座方酣。絃歌進而曲將能。相公顧曰。景物之感窮於秋。古人以爲一歲終。愛賞之思迫此日。風俗以名九月盡。前輩之深於詩者。傷其方緖之時也。禮云。志之所至。詩且至焉。詩之所至。禮且至焉。今日賽於廟庭。宿昔之志而已。於戲黃公神之受筆硯。文章落自前軒之雲。劉君仙之歸煙霄。青松老於故溪之月。情感之源。古今通浪者也。積善出懷宗以慕義。顧殘涯以祈恩。榮路遙而雖期。青陽薄寒木頂。筆耕疲而未獲。秋風暴虛苗之畦云爾。

同前。寒字。　藤爲時

時隨冠盖認祠看。新樂鋒鏦古□寒。非啻玄孫成盛集。九重天子促金鑾。

同前。通字。　源孝道

管絃商曲將秋暮。詩酒新聲與古通。靈廟本爲風月主。宜哉明德滿蒼穹。

海濱神祠。住吉祠。　藤爲時

晴沙岸上暮江千。欝々林蘿陰社壇。應是神心嫌苦熱。浪聲松響夏中寒。

山莊部。

暮秋於左相府宇治別業即事一首。　左相府

別業號傳宇治名。暮雲路僻隔華京。柴門月靜眠霜色。旅店風寒宿浪聲。排戶遙看漢文去。卷簾斜望雁橋橫。勝遊此地猶難盡。秋興將移潘令情。

同前。　拾遺納言

一尋別業許相從。賞翫風流到下春。交淡偏宜廻砌水。契堅最好拂軒松。門前秋導三巴峽。窓裏暮迎五老峰。此地勝形聞相者。濟川舟檝繼先蹤。

同前。　源孝道

河水橫西山峙東。王程頗僻洛陽宮。煙霞奴僕尋常物。泉石資儲造化功。庾信園非山境月。陶潛家隔相門風。如何別業幽奇地。主客公卿會此中。

偷見左相府宇治作有感。　中書王

聞說山家素得名。風流超過漢西京。樵夫路近談王事。漁父歌閑慣雅聲。白浪頻飜秋雪亂。紅林半透暮雲橫。一吟佳句讚遊樂。初慰終年寂寞情。

白河山家眺望詩。　左金吾

郊外卜居塵事稀。迢々春望思依々。荒村日落煙猶細。遠岫雲幽鳥獨歸。來去旅人行眼路。淺深花錦織心機。蓬居雖恥仙郎到。愁命詩篇惜晩輝。

題玉井山庄。在和泉國云々。　藤爲時

玉井佳名被世稱。松楹半接碧巖稜。山雲繞舍應褰幔。澗月臨窓欲代燈。梅發寒花朝見雪。水收幽響夜知氷。池邊何物相尋到。雁作來賓鶴作朋。

閑居部。

閑居無外事。　源道濟

閑居謝遺繫簪纓。況亦更无外事營。得意詩朋懸榻待。趁權軒蓋過門行。性慵唯見籬花色。官冷不驚衙鼓聲。身適自由依卜靜。追嘲奔走買虛名。

門閑无謁客。　藤爲時

家舊門閑只長蓬。時无謁客事條空。翟公去尉塵長息。袁氏安貧雪不通。草合閾生秋露白。苔封扉帶夕陽紅。久忘倒履送迎禮。別作洛中泰適翁。

閑中日月長。　江以言

閑中氣味屬禪房。唯得自然日月長。幽室浮沈無短晷。陰居隣里有餘光。陶門跡絶春朝雨。燕寢色衰秋夜霜。我是柴扉樗散士。閑忙苦樂兩相忘。

帝德部。

瑤琴治世音。探得遙字。　御製

初識瑤琴佳趣饒。契唯治世思猶遙。無爲化出南風曲。有道心聞子野詞。撫似養民聲更理。張如布政操相邀。從他樂府淸絃上。至德深仁幾聖朝。

感減四分一之詔一首。　源憲爲

減服御常膳物。

明王濟世幾多功。遍代疲民事儉恭。御府奇文應減製。天廚異味不要重。堯年水溢多愁沴。湯日旱炎自弃農。聖代難逃天定數。何爲責己慕時邕。

減諸國今年調庸及租稅。

王澤旁流及八區。曩時擊壤豈相殊。紫泥文出

仁風動。黄紙詔傳惠露濡。宰吏無レ徵(貪賦)貪戶稅。官家不レ納廢田租。九重深處得知否。比屋黍元掩レ泣娛。

仲秋釋奠賦二万國咸寧一。　勘解相公

明王孝治好君臨。天下和平冠二德音一。草遍從レ風南面化。葵遙向レ日左言心。山抛二烽燧一秋雲暗。海罷二波濤一曉月深。請問來賓殊俗意。茫々天外遠相尋。近日大宋溫州洪州等人頻以歸化。故有二此興一。

仲秋釋奠聽レ講二古文孝經一同賦二天下和平一。

源爲憲

万國咸寧仰二聖君一。便知王德及二飛沈一。苞茅鎭入朝レ天貢。葵藿斜抽向レ日心。棧遠都無二雲鏁色一。航忙豈有二浪驚音一。中華彌遇堂々化。想像遐方各獻レ琛。

法令部。

七言。夏日於二左監門宗次將父(文イ)亭一聽レ講レ令詩一首。并序。　江以言

夫法令之興。其義遠矣。五祇合而裁成。万靈稟而鎔範。順レ之者安。逆レ之者危。秦皇帝之慘虐。繁文酷二秋荼之霜一。漢高祖之寬仁。三章垂二春竹之露一。誠乃政敎之門戶。理亂之樞機者也。我國家已自二推古之聖朝一。下迄二養老之寶曆一。上下三四代之間。增損屢悛。章條數十篇之裏。修撰甫就。以安二四海之波瀾一。以定二一天之防禦一。是以我聖主降レ勅。促二披講於宸位之前一。或賢臣專レ精。受二奧義於南面之下一。近世以降。編竹不レ開。童蒙之煙漸暗。帶草歎レ朽。師說之風無レ傳。次將累二一家之風葉一。宣二五代之雲英一。才德掩レ古。正二執躅於左車之塵一。敏思照レ今。馭二銜勒於右馬之水一。於レ是欲二令之必行一。傷二學之不一レ講。掃二幕下一而開二大座一。餝二席上一而競二分陰一。遂命二御史藤少丞一。講二誦斯文一焉。如二鐘鼓之在一レ懸叩而有レ音。似二刀劒之出レ鉶割而無レ滯。當二于斯時一。生徒發問之者。朱紫提耳之倫。飛軒高蓋風吹二于公之門一。義實文華水

淡君子之席。於戯不登泰山者不知天之高。不臨深谷者不知地之厚。若今日不預此座者。豈知今典之爲大矣。于時長保元年六月三日。禮部侍郎以言。披三尺而初學。推一寸而愁記云爾。

講席偶牽儒學中。數篇法令聽于公。撫民基趾開東閣。體國權輿出上宮。三尺竹踈隆漢露。万方草動有虞風。猶歡結契弟兄義。得使多年深意通。

書籍部。付勤學。

書中有往事。以情爲韻。　御製

閑就典墳送日程。其中往事染心情。百王勝躅開篇見。万代聖賢展卷明。學得遠追虞帝化。讀來更耻漢文名。多年稽古屬儒業。緣底此時不泰平。

偷見御製有感自以次本韻。　中書王

齡傾性嬾學荒程。偷見天章更徵情。編次三千憑馬史。宣傳二百屬丘明。便知上聖如交語。莫道前賢但聞名。漢帝文花唐帝筆。擬於陛下蟻封平。

重有。　御製

万機餘暇閱書程。自省還傷治世情。鑒古多慚無聖德。當時又歎不皇明。志深縱樂先賢道。性拙年同往哲名。神筆雄文何比我。彼臨學海浪猶平。

奉讀重押情字御製不堪抃舞敬押本韻。　中書王

天然未必得功程。詩帝兼容草聖情。直氣充朝星宿聚。德輝照世日居明。玉鸞寒響皆依禮。蒼鴂新煙不爲名。忽戴君恩還自耻。風聲猶減漢東平。

冬日陪於飛香舍聽第一皇子始讀御注孝經應教詩一首。幷序。　江以言

易曰。君子學以聚之。問以弁之。蓋乃所以雖有至德要道非學不宣。雖有生知幼敏非教不立之故也。夫崑陰之竹凌雪。待聖造而吹龜背之音。嶧陽之桐干〔拂イ〕雲。遇良工而張鶴翼之曲者歟。是以今皇帝第一皇子。初受御注孝經於吏部員外侍郎江大夫矣。皇子月中謝智。山下擊蒙。遂發此五更之問。將撫彼千載之運。漢代祖之有鼎副〔嗣イ〕。慙曩史於千歲之塵。唐高宗之得鍾愛。傳古文於七年之風。在今思古。知有以焉。既而講誦儀畢。觴詠禮成。卿士之侍温顏。宜承堯日之長照。絃管之奏妙韻。便添舜風之近薰。于時寛弘二年十一月十三日。翰林學士以言。蒙辭命叙事緒云爾。

人倫高行無先孝。皇子執經幼學問。從此已知吾道達。□出自尼山。

同前。　左相府

我王今日問微言。學得先知敬至尊。何忘兎園朝夕志。自蒙君命不殊孫。

同前。　儀同三司

經傳百家多異說。微言被世古今聞。老臣在座私相語。我后少年學此文。

同前。　左金吾

今日天孫初問道。欲廻聰悟就研鑽。聖明治跡何相改。貞觀遺風觸眼看。唐太宗使諸王皆就學。故云。

同前。　源納言

珠得琢磨金待錬。人情從教亦如斯。我王道問偏依禮。至孝自然生即知。

同前。　吏部侍郎（輔正）

頽齡八十有餘霜。未見神聰似我王。遺老愚言君記取。一經造次不應忘。

同前。　江匡衡

呂望授來文武學。桓榮獨遇漢明時。幸傳延喜祖風跡。天子儲皇皇子師。延喜聖代。祖父爲大師。爲東宮學士。兼復授第十一皇子。皇子卽天慶聖主也。訪之漢日本朝。未有此比。今日有情感。故獻此句。

同前。　菅宣義

天孫初折天經義。孔父舊章唐帝心。忽感神聰多孝行。定知四海悉曾參。

賢人部。

七言。早夏陪宴同賦所貴是賢才各分一字應製詩一首。探得藤字。并序。　江以言

臣謹按月令曰。是月也。天子帥三公九卿大夫以迎夏。還反行賞。封諸侯。無不欣說。又曰。乃命樂師習合禮樂。賛傑俊。遂賢良。夫然。天子之馭民。順四時而宣布。月令之垂世。分百行而旁羅。我后張〔聆イ〕此一日之樂懸。協彼四月禮法〔之イ〕。蘭陵竹園之鶯。貴命。嘲齊雲於二十餘之閑居。露槐風棘之備威儀。徧堯日於十六族之未仕。于時所貴賢才。所待登用。散卒降虜之士。貂蟬傳七葉之風。芻牧賈〔聆イ〕胡之家。出入步五華之月。至如夫衣服之須領袖。門戸之資樞鍵。齊桓公之得道左矣。便商頭〔謌イ〕牛口之疋夫。周文王之載車右焉。亦猶渭陽鶴髮之賤老者也。既而絃管曲罷詩酒興酣。唐太宗之思〔銜イ〕鶯語。金殿之月眉傾。魏深彥之應鳳銜。瓊戶之花粧舊。以言多年遇崇聖道之德。空雖吞漏聖化之愁。今日仰貴賢才之化。悔還無遺弃愚才之恨。遙望仙殿。長慕隗臺云爾。謹序。

聖代猷尤足稱。賢才是貴碩聲興。磻溪跡去雲空宿。傅野道開月獨昇。春岸釣拋忘綠草。朝端齡老杖紅藤。庸材幸接仙材末。但喜孜々道正弘。

同前。都字。　中書王

先貴賢才非一途。功成理定不須臾。張公蹔入終安漢。陸氏相傳久輔吳。至性過人宜作寶。餘輝照物重於珠。松喬莫哭風儀濫。今日新仙詣玉都。

讃德部。

和高禮部再夢唐故白太保之作。

中書王

古今詞客得レ名多。白氏拔群足ニ詠歌一。思任ニ天然一沈極レ底。心將ニ造化一動同レ波。中華變雅人相慣。季頽風體未レ訛。我朝詞人才子以ニ白氏文集一爲ニ規摹一。故承和以來。言レ詩者皆不レ失ニ體裁一矣。再入ニ君夢一應レ決レ理。當時風月必誰過。

同前。　藤爲時

兩地聞レ名追慕多。遺文何日不ニ謳歌一。繁レ情長望遐方月。入レ夢終踰万里波。露膽雖下隨ニ天曉一隔上。風姿未レ與ニ影圖一訛。我朝□慕ニ居易風跡一者多圖ニ屏風一。故云。仲尼昔夢ニ周公一久。聖智莫レ言時代過。

夢中同謁ニ白太保元相公一。　高積善

二公身化早爲レ塵。家集相傳屬ニ後人一。清句既看同是玉。高情不レ識又何神。白太保傳云。太保者是文曲星神。而相公未レ見ニ其所レ傳矣。風聞在昔紅顏日。余少年時。先人對レ余以常談ニ元白之故事一。鶴望如今白首辰。容鬢宛然俱入レ夢。漢都月下水煙濱。

客有下圖ニ嘗孟君像一以ニ詩讚ニ其德一者上矣。余昔讀ニ史記一知ニ四君之爲レ人。同成ニ四韻一加ニ篇末一。

儀同三司

相門有レ相事无レ空。田代常爲ニ六國雄一。名門諸侯傳ニ薛立一。謀談下客入ニ秦宮一。樓臺在レ昔綺羅月。同里至レ今任ニ俠風一。豪傑人々雖ニ景慕一。□憐冢上牧羊童。

詩部。

夏日同賦レ未レ飽ニ風月一思。以ニ深字一。　儀同三司

風月結レ交非ニ古今一。相思未レ飽每年心。感レ時无レ止吹ニ花色一。逢レ友應ニ永出ニ霧陰一。文路春行看不レ足。詞江秋望老彌深。美哉丞相優遊趣。詩酒與中聞ニ法音一。于時卅講間。故有ニ此興一。

同前。　左金吾

何事詞人未レ飽レ心。嘲レ風弄レ月思彌深。嗜殊ニ滋味一吹ニ花色一。滴似ニ詞飢一落ニ水陰一。翰墨難レ乾蘋未レ浪。襟懷常繫桂華岑。一時過境无ニ俗物一。莫レ道醺々漫醉吟。

同前。　　　　　　　　　　　源三品（則忠）
風月自通幾客心。相携未レ飽思尤深。文場猶嗜照レ窓影。詩境更耽過レ竹音。幽谷春遊誰作レ足。高樓夜宴久難レ吟。此時獨恨无ニ才用一。其奈ニ抽レ簪入ニ暮林一。

同前。　　　　　　　　　　　江以言
由來風月思沈々。遇レ境方知未レ飽心。到レ老恨遺朝不レ倦。逐レ時癖在弄彌深。起レ家望德清明影。嗜レ道猶求吹擧音。偶奉ニ翹材一東閣道。長誇ニ古跡一自傳吟。

同前。　　　　　　　　　　　藤爲時
未レ飽多年詩思侵。清風朗月久沈吟。志隨レ日動何爲レ足。興遇レ晴牽豈厭レ心。班扇長襟秋不レ盡。楚臺餘味老彌深。時人莫レ咲散樗吏。白髮緋衫獨尚淫。

春日同賦ニ閑居唯友一詩。以レ心爲レ韻。
閑居希有ニ故人尋一。益友以レ詩興味深。苦嗜獨題如合レ志。緩吟自聽便知レ音。思凝ニ草木一過ニ連璧一。義入ニ風雲一勝ニ斷金一。若不ニ形言一兼ニ杖醉一。何因安慰沈心。

酒部。

唯以レ酒爲レ家。情字。　　　　　中書王
以レ酒爲レ家无レ所レ營。時々吟詠助ニ歡情一。杜康昔搆容ニ人息一。陶令重來寄ニ我生一。戸牖梨花松葉裏。郷園藍水玉山程。榜題宜レ號忘憂觀。一入長休毀譽聲。

勸醉不レ如レ秋。心字。　　　　　高積善
酒客素雖レ被ニ感侵一。不レ如ニ自勸醉ニ秋陰一。他時常醒應レ懷レ吟。近日頻傾是興深。論レ戸春風還赧レ面。授レ郷臘月欲レ寒レ心。莫レ言一盞忘レ憂物。蓮府二恩及ニ陸沈一。

醉時心勝ニ醒時心一。得ニ酣字一。　　藤輔尹
醉心已勝最應レ甘。誰以ニ醒時一比ニ漸酣一。與上彼停レ盃思ニ往事一。豈如ニ添レ戸契一交談。漢高祖樂頻欣

識。楚屈原憂未酌語。百慮消中遺有恨。老來官散涙難堪。

寒近醉人消。題中。　江以言

凛々沍陰酒數巡。寒消難近醉中人。劉公席絕嚴霜及。王氏鄉占愛日隣。蘭殿宴闌花雪暖。竹林冬至玉山春。仰恩斟酌恩無算。便識堯樽百姓親。

贈答部。

閑中聞左親衛員外將軍兩度遊宇治河聊述中懷倫呈下風。　左金吾

行樂仙郎端坐客。寂寥相像勝遊程。華船有月波澄色。蓬戶無人雨滴聲。詩酒坐歌非吾事。林叢水石稱君情。相思未慰棄弔恨。空有多年合契名。

覲謁之後以詩贈太宋客羌世昌。　藤爲時

六十客徒意態同。獨推羌氏作才雄。來儀遠動煙村外。賓禮還慙水舘中。畫鼓雷奔天不雨。彩旗雲聳地生風。芳談日暮多殘緒。羨以詩篇子細通。

重寄。

言語雖殊藻思同。才名其奈昔楊雄。更催鄉涙秋夢後。暫慰羈情晚醉中。去國三年孤舘月。歸程万里片帆風。嬰兒生長母兄老。兩地何時意緒通。

感勘解藤相公賢郎茂才蒙課試之綸旨聊呈鄙懷。　源孝道

相公本是道英雄。材翰森然文亦工。棘路今歡名已列。李門昔恨業猶空。魚疲逆浪鱗雖泥。風拂重霄翅自冲。泗水慕龍情未忘。尼山舐犢志應同。宜誇仙桂連枝月。將扇儒林累葉風。七八廻間科第思。賢郎二人累應茂才之舉。舍弟侍中尙書右少丞長德四年登科令茂才。次蒙此宣旨云々。三千徒裏拔群躬。非唯明主用君器。定識素王酬文功。大項橐賢苗不秀。公孫弘智文初

通。豈如才子專天爵。漸近年丁撰帝聰。万里青雲雙脚下。一家榮耀孔懷中。獨慙詞苑爲奴僕。兼歎更途作老翁。驥櫪縱無駑蹇偶。若倶得遇誠馳忠。

美州前刺再三往復。訪以予病。不堪感懷。詩以答謝。

勘解相公

一句臥病絶交遊。唯有美州致悶愁。老眼昏朦如遇夜。衰容颯灑似過秋。山隨寸步蹤猶嶮。水逐殘齡涙暗流。世上君留應憶我。荒墳宜見暮松幽。

頃者侍中御史中丞到囚門前。近駐華轂。普見囚徒。與食療飢。好事之輩以詩歎美。予傳以聞之。繼其末。本韻。

源爲憲

詠家着德知君子。積善餘風慶豈無。今日上天應感激。霜臺來慰夏臺辜。

奉和藤原才子登天台山之什。本韻。

同

天台山嶮万円强。趁得經行古寺場。削跡囂塵尋上界。懸心發露契西方。鶴閑翅刷千年雪。僧老眉垂八字霜。珍重君辭名利境。空王門下立遑々。

戸部尚書重賦丹字見贈妙詞。吟咏反覆欲罷不能。愁課庸駑以盡餘意。

中書王

瓊篇尋我曉凌寒。暫耻報詞日已闌。韻句花開堪賞翫。貞堅松老不凋殘。鼎湖早灑千行涙。金闕難供九轉丹。憶古見今猶悵望。漢文往昔不邯鄲。來詩有天齊舊臣鮐背叟。戀恩幾許泣邯鄲之句。叙先朝之意也。

和戸部尚書同賦寒林暮鳥歸。本韻。

中書王

鏗鏘珠韻滿篇寒。六典沈吟及景闌。元白親情牋上出。楊班古意筆頭殘。唯應草聖妙飛墨。本自詩仙何用丹。奇字奇文看不足。還嘲彭澤輿

邯鄲。

餞送部。

七言。暮春陪員外藤納言書閣餞飛州刺史赴任應教詩一首。并序。

江以言

天德應和之間。天下士女之語才子者。多云高俊茂能。茂能則早遂儒業。永入佛道。高俊則今之所餞飛州刺史是也。刺史以才知世如此。以吏擇時如何。彼郭細侯之春竹。雖有[可イ]風聲之可傳。劉太守之秋蒲。猶非霜威之不用。於是納言尊閣。靜置離酌。聊祖行鑣。計後會於四年。恨遺黃門之風月。指前程於千里。眼極東山之煙霞。于時西烏漸落。離駒頻嘶。以言初[指イ]指一道之先跡[蹤イ]。今從同門之後塵。甲科偶登。未改青矜之在我。十年空過。豈圖白面而別君云爾。

十餘年往結交久。忽到飛州万里雲。雲色風音應恡我。無官今送有官君。

賦飛州高使君赴任詩。　儀同三司

把酒別筵日暮時。爲君更寄一篇詩。東都春月秋風夜。四五年來分付誰。

代迂陵嶋人感皇恩詩。　源爲憲

遠來殊俗感皇恩。彼不能言我代言。一葦先摧身殆沒。孤蓬暗轉命纔存。故鄉有母秋風淚。旅館無人暮雨魂。豈慮紫泥許歸去。望雲遙指舊家園。

高麗蕃徒之中有新羅國迂陵嶋人折兢悅[伉イ]之者。其文不優。頗知詩篇。臨別之日。予與一篇。　勘解相公

我尋京洛辭雲去。君赴高麗棹浪歸。後會難期何歲月。秋風宜使雁書飛。

懷舊部。

秋日會宣風坊亭。與翰林善學士。吏部橘侍郎。御史江中丞。能州前刺史。參州前員外源刺史。藤茂才連貢士。懷舊命飲。

勘解相公

自レ趁二榮利一別二文賓一。酌レ酒吟レ詩亦不レ親。聚雪窓中三益友。宣風坊北一尋辰。心如二少日一紅顏昔。齒及二殘秋一白髮新。嘉說交談俱在レ我。泣言運命各由レ人。藤尙書恨藏二山月一。慶內史（保胤）悲遁二俗塵一。（藤尙書。慶內史。共是舊日詩友。落飾入道。兩別二詩酒一。余以有レ恨。故云。）不レ若聊成二懷舊飮一。憂膓半忘養二精神一。

讀二諸故人舊遊詩一有レ感。　中書王

徃年歡與二當時怨一。世時皆如二風裏雲一。今日更披二舊詩一見。十中五六是遺文。

初冬感二李部橘侍郎見レ過懷レ舊命レ飮。并序。

勘解相公

予天元五載。石州秩罷。秋初歸レ洛。目レ秋暨レ冬。閑二居宣風坊宅一矣。橘李部過二于家門一。蓋舊懷之義也。時也宅荒主貧。交芳志切。眷戀留連。日將レ及レ昏。于嗟康保年中。文友廿有餘輩。或昇二青雲之上一。交談遠隔。或歸二黃壤之中一。存沒共離。其餘多執二臺省之繁務一。亦割二刺史遠符一。居止接近。日不レ暇レ給。所謂左少丞菅祭酒。兵部藤侍郎。太子學士藤尙書。肥州平刺史。美州源別駕。前藤總州。李部源夕郎。慶內史。高外史是也。如二彼前日州橘太守。柱下菅大夫。工部橘郎中。三著作。命先二朝露一。恨深二夜臺一矣。便知君我之相逢。誠是半生之樂事也。推得二忘年之友一。偶介二閑日之談一云レ爾。

閑居情感被二何催一。門巷蕭條稀二客來一。偶遇二芝蘭芳契友一。宣風坊裏一傾レ盃。

題二故工部橘郎中詩卷一。　中書王

君詩一帙淚盈レ巾。潘謝末流原憲身。黃卷鎭携踈牖月。青衫長帶古叢春。文華留作二荊山玉一。風骨消爲二嵩里塵一。未レ會茫々天道理。滿朝朱紫彼何人。

齋院相公忌日令レ修二諷誦一。　儀同三司

相公去後幾光陰。每憶才名淚不禁。自少年時世稱有識。翠羽簾前鸚鵡盞。徃年人々參會齋院之日。相公簾中出盞。忽作佳句。紅花帳下鳳凰琴。傳聞侍公主之帳下。受琴箏之妙曲。唯從神院蒸嘗禮。未習佛門寂滅心。向使當初行一善。冥々中有有相尋。

秋日到入宋寂照上人舊房。

儀同三司

五臺渺々幾由旬。想像遙爲逆旅身。異土縱無思我日。他生豈有忘君辰。山雲在昔去來物。魚鳥如今留守人。到此悵然歸未得。秋風暮處一霑巾。

余近曾有到寂上人舊房之作。左丞相尊閤忝賜高和。聊次本韻。敬以答謝。

儀同三司

秋景纔殘不及旬。蕭條相憶遠遊身。徘徊巖戶荒涼處。珍重瓊篇答晛辰。增價還慙吳市馬。吞聲遙謝郢歌人。適交懷舊詩篇末。抱筆沈吟整葛巾。

冬日往詣般若寺見故藏闍梨舊房。中心之感觸緒難禁。遂書所懷寄覺上人。

左金吾

僧籠去後幾光陰。赴到那堪泉下心。林學釋尊雙樹色。水傳憍梵一言音。慈悲已斷空留室。忍辱長薰獨濕襟。殊惱心腸君識否。娑婆舊契與年深。

秋日登天台過故康上人舊房。

勘解相公

天台山上故房頭。人去物存歲幾周。行道遺蹤苔色舊。坐禪昔意水聲秋。石門罷月無人到。巖空掩雲見鶴遊。此處徘徊思往事。不圖君去我孤留。

去年春。中書大王桃花閣命詩酒。左尙書。藤員外中丞惟成。右菅中丞資忠。內史慶大夫保胤。共侍席。內史在大王屬文之始。

以儒學侍。縱容倘矣。七八年來。洛陽才子之論詩人者。謂三人爲先鳴。當于其時或求道一乘。或告別九原。西園雪夜。東平花朝。莫不閣筆廢吟。眷戀惆悵。廼者硏精之餘。披覽去春之作。其文爛然存。其人忽然去矣。遂製懷舊之瓊篇。忝賜惟新之玉章。(蓋誤)善以爲朝墨之庸奴。藩邸之舊僕而已。因之爲時一讀腸斷。再詠涙落。偸抽短毫。敬押高韻。

藤爲時

梁園今日宴遊筵。豈慮三儒減一年。風月英聲揮薤露。幽閑遠思趁林泉。新詩切骨歌還濕。往事傷情覺似眠。繁木昔聞摧折早。不才無益性靈全。

述懷部。

向西京過孔門口號。　勘解相公

出入廟堂舊小生。空歸今日向西京。過門禮拜般勤祝。願許槐門作上卿。

除名之後初復三品。重陽之日得陪宴席。情感所催欲罷不能。聊述鄙懷呈諸知己。　同

我是柴荊貶謫人。豈圖徵召列文賓。除名二月花開日。待詔重陽菊綻辰。籬落不要陶隱醉。蘭叢應咲楚臣紐。忽抛野服染愁涙。更着朝衣賁老身。遥死空爲黄壤骨。悉生再踏紫宸塵。半焦桐尾雖殘燼。已朽松心免作薪。籠鶴放雲振泥翅。轍魚得水潤枯鱗。鬢斑蘇武初歸漢。舌在張儀遂入秦。運任秋蓬風處轉。榮同朝菌露中新。抽簪將學空門法。未報皇恩未解紳。

本朝麗藻卷下

田中敏治
和田正夫
校

（第八輯奥附）

昭和七年八月十五日印刷
昭利七年八月二十日發行
昭和十四年一月廿五日再版發行
昭和十七年四月五日三版發行

發行者　東京市豊島區池袋二丁目一〇〇八　續群書類従完成會代表者　太田藤四郎

印刷者　東京市淀橋區戸塚町一丁目一〇九　永島喜代次郎

印刷所　東京市淀橋區戸塚町一丁目一〇九　新英社印刷所

發行所　東京市豊島區池袋二丁目一〇〇八　續群書類從完成會太洋社
振替東京六二六〇七　電話大塚七一八

配給元　東京市神田區淡路町二ノ九　日本出版配給株式會社